

国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

川津六反地遺跡 川津昭和遺跡

2014. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

川津六反地遺跡 川津昭和遺跡

2014. 3

香 川 県 教 育 委 員 会



IV区 集中1・2全景北から



IV区 サヌカイト集積遺構南から



IV区 東壁土層断面



SD309 出土土器集合 (1)



SD309 出土土器集合 (2)



SD309 出土土器集合 (3)



656

SR202 出土土器



941

SP401 出土土器



I~Ⅲ区 出土石核



SD213 出土土器集合



SR101 出土土器集合



49

SR101 出土土器



246

SD210 出土土器



SD227・SD228 出土土器集合 (1)



SD227・SD228 出土土器集合 (2)

序文

川津六反地遺跡と川津昭和遺跡は坂出市川津町に所在する、縄文時代から近世までの遺跡です。

発掘調査は国道 438 号道路改良工事、県道富熊宇多津線道路改良工事、城山川河川改修事業に伴い、香川県教育委員会からの委託により、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成 9 年から、平成 12 年度までの期間で実施しました。

注目される調査成果としては、縄文時代の石器製作跡や、弥生時代の灌漑水路から出土した多量の弥生土器、中世後半の集落跡などの資料があげられます。特に縄文時代の石器製作跡は調査事例が少なく、当時の石器生産技術を明らかにするうえで貴重な調査成果になりました。

発掘調査の成果をまとめる整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成 24 年度から開始し、平成 25 年度には発掘調査報告書を刊行することになりました。

川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの長い期間、香川県土木部及び関係諸機、地元関係者方々に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月 19 日

香川県埋蔵文化財センター
所長 真鍋 昌宏

例言

1. 本報告書は、国道438号道路改良工事、県道富熊宇多津線道路改良工事、城山川改修事業に伴う埋蔵文化財調査事業で、発掘調査を行った、坂出市川津町に所在する川津六反地遺跡（かわつろくたんちいせき）と川津昭和遺跡（かわつしょうわいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県土木部から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成9～12年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当した。整理作業は平成24・25年度に香川県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成9年度	中西昇・多田佳弘・中村文枝
平成10年度	乗松真也・川井國博・中村文枝
平成11年度	池田道雄・川井國博・秋山亮
平成12年度	蔵本晋司・増井泰弘・豊岡多恵・秋山亮
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。
香川県土木部、香川県坂出土木事務所（現在 中讃土木事務所）、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業、執筆及び編集は西村尋文が担当した。
7. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第IV系（日本測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物跡 SA：柵列跡 SP：柱穴跡 SK：土坑 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川跡
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。
発掘調査時の遺構名は「調査区」単位で、遺構の種別ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に分析と写真撮影を委託した。
火山灰分析、放射性炭素、プラント・オパール分析……株）古環境研究所・株式会社パレオ・ラボ
花粉分析……パリーノ・サーヴェ株式会社
サヌカイト産地同定……有限公司 遺物材料研究所
遺物写真撮影……岡村印刷工業株式会社

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過

- 第1節 発掘調査に至る経緯・経過…………… 1
- 第2節 整理作業の経過…………… 3

第Ⅱ章 調査の方法

- 第1節 発掘調査の方法…………… 5
- 第2節 整理作業の方法…………… 5

第Ⅲ章 地理的・歴史的環境

- 第1節 地理的環境…………… 7
- 第2節 歴史的環境…………… 7

第Ⅳ章 川津六反地遺跡の調査

- 第1節 川津六反地遺跡の概要…………… 12
- 第2節 基本層位…………… 13
- 第3節 I区の調査…………… 14
- 第4節 II区の調査…………… 27
- 第5節 III区の調査…………… 108
- 第6節 IV区の調査…………… 131

第Ⅴ章 川津昭和遺跡の調査

- 第1節 川津昭和遺跡の概要…………… 174
- 第2節 基本層位…………… 174
- 第3節 遺構・遺物…………… 174

第Ⅵ章 自然化学分析

- 第1節 平成12年度自然科学分析…………… 191
- 第2節 平成24年度自然科学分析…………… 206

第Ⅶ章 まとめ

- 第1節 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史的変遷…………… 241
- 第2節 川津六反地遺跡の剥片生産技術…………… 247

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第58図	SD212断面、出土遺物	63
第2図	調査区割図及び調査区周辺旧地形、条里地割復元図	8	第59図	SD213平面図	65
第3図	周辺遺跡分布図	9	第60図	SD213～SD215・217・218・220断面図	65
第4図	基本層位柱状図	14	第61図	SD213出土遺物	66
第5図	I区遺構配置図	16	第62図	SD214・215・217・218出土遺物	67
第6図	SR101第1・第2トレンチ土層断面図	17	第63図	SD221・223・224・242断面、出土遺物	67
第7図	SR101第3・第4トレンチ土層断面図	18	第64図	SX203平・断面図	70
第8図	SR101第2トレンチ土器溜まり遺物出土状況図	18	第65図	SX213平・断面、出土遺物	70
第9図	SR101出土遺物(1)	19	第66図	SX218・SX219断面、出土遺物	71
第10図	SR101出土遺物(2)	20	第67図	SX218出土遺物	72
第11図	SR101出土遺物(3)	21	第68図	II-1区柱穴出土遺物(1)	74
第12図	SR101出土遺物(4)	22	第69図	II-1区柱穴出土遺物(2)	75
第13図	SR101出土遺物(5)	23	第70図	II-1区柱穴出土遺物(3)	76
第14図	SR101出土遺物(6)	24	第71図	II-1区包含層出土遺物(1)	77
第15図	II-1区遺構配置図	26	第72図	II-1区包含層出土遺物(2)	78
第16図	SB201平・断面、出土遺物	28	第73図	II-1区包含層出土遺物(3)	79
第17図	SB202平・断面図	29	第74図	II-2区遺構配置図	81
第18図	SB203平・断面、出土遺物	29	第75図	SB217・218・SA202平・断面、出土遺物	82
第19図	SB204・205平・断面、出土遺物	30	第76図	SB219平・断面、出土遺物	83
第20図	SB206平・断面、出土遺物	32	第77図	SK209平・断面、出土遺物	84
第21図	SB207平・断面、出土遺物	32	第78図	SK210・SX221平・断面、出土遺物	85
第22図	SB208平・断面図	33	第79図	SD225・226断面、出土遺物	86
第23図	SB209平・断面図	33	第80図	SD227・228平・断面図	87
第24図	SB209出土遺物	34	第81図	SD227出土遺物(1)	88
第25図	SB210平・断面図	35	第82図	SD227出土遺物(2)	89
第26図	SB211・SD219・SX214・215平・断面、出土遺物	36	第83図	SD227出土遺物(3)	90
第27図	SB212平・断面図	37	第84図	SD228出土遺物	90
第28図	SB213平・断面、出土遺物	38	第85図	SD229～235・SR201平・断面図	92
第29図	SB214平・断面、出土遺物	38	第86図	SD230出土遺物	94
第30図	SB215平・断面、出土遺物	39	第87図	SD231出土遺物(1)	95
第31図	SB216平・断面、出土遺物	40	第88図	SD231出土遺物(2)	96
第32図	SA201平・断面、出土遺物	40	第89図	SD231・233・235出土遺物	97
第33図	SK201平・断面、出土遺物	42	第90図	SD234出土遺物	99
第34図	SK202平・断面、出土遺物	43	第91図	SD236・237・239・241断面、出土遺物	100
第35図	SK203平・断面、出土遺物	43	第92図	SR201出土遺物(1)	103
第36図	SK204平・断面、出土遺物	44	第93図	SR201出土遺物(2)	104
第37図	SK205平・断面図	44	第94図	SR202・203土層断面図	105
第38図	SK206平・断面、出土遺物	45	第95図	SR202出土遺物	106
第39図	SK207平・断面、出土遺物	46	第96図	II-2区柱穴・包含層出土遺物	107
第40図	SK208平・断面図	46	第97図	III-1・2・3・4区遺構配置図	110
第41図	SD201断面、出土遺物	47	第98図	SD301・302・303断面、出土遺物	111
第42図	SD202断面、出土遺物	47	第99図	SD304・305断面、出土遺物	112
第43図	SD203断面、出土遺物	49	第100図	SD305断面、出土遺物(1)	113
第44図	SD204断面、出土遺物(1)	49	第101図	SD305出土遺物(2)	114
第45図	SD204出土遺物(2)	50	第102図	SD306～308断面、出土遺物	115
第46図	SD205断面、出土遺物(1)	51	第103図	SD309土器出土分布図	117
第47図	SD205出土遺物(2)	52	第104図	SD309断面、出土遺物(1)	118
第48図	SD205出土遺物(3)	53	第105図	SD309出土遺物(2)	119
第49図	SD206・208断面、出土遺物	53	第106図	SD309出土遺物(3)	120
第50図	SD209断面、出土遺物(1)	55	第107図	SD309出土遺物(4)	121
第51図	SD209出土遺物(2)	56	第108図	SD309出土遺物(5)	122
第52図	SD209出土遺物(3)	57	第109図	SD310～312断面図	122
第53図	SD209出土遺物(4)	58	第110図	南壁土層断面図	124
第54図	SD210・SX205～212平・断面、出土遺物(1)	59	第111図	東壁土層断面図	125
第55図	SD210出土遺物(2)	60	第112図	SK301・SD313平・断面、出土遺物	126
第56図	SD210出土遺物(3)	61	第113図	SD314～316断面、出土遺物	128
第57図	SD211断面、出土遺物	62	第114図	SD315出土遺物	129

第115図	SD317～319・SX301断面図	129	第142図	集中2出土遺物(10)	163
第116図	包含層出土遺物	130	第143図	集中3・4出土遺物	165
第117図	Ⅳ区遺構配置図	134	第144図	サヌカイト集積遺構平・断面図	166
第118図	Ⅳ区東壁・南壁土層断面図	136	第145図	サヌカイト集積遺構出土遺物(1)	167
第119図	SK401～406平・断面、出土遺物	137	第146図	サヌカイト集積遺構出土遺物(2)	168
第120図	SK407平・断面、出土遺物	138	第147図	サヌカイト集積遺構出土遺物(3)	169
第121図	SD401～403断面図	139	第148図	サヌカイト集積遺構出土遺物(4)	170
第122図	SD404～407断面、出土遺物	140	第149図	集中地区周辺出土遺物	171
第123図	SX401平・断面図	141	第150図	柱穴・包含層出土遺物	172
第124図	集中1～4・サヌカイト集積遺構、遺物分布図	144	第151図	川津昭和遺跡遺構配置図	176
第125図	集中1出土遺物分布図	146	第152図	東壁・南壁土層断面図	178
第126図	集中1接合関係分布図	146	第153図	SE501～503平・断面図	179
第127図	集中2出土遺物分布図	147	第154図	SE501～503出土遺物	180
第128図	集中2接合関係分布図	148	第155図	SK502・503平・断面、出土遺物	181
第129図	集中3出土遺物分布図	149	第156図	SK504～506平・断面、出土遺物	182
第130図	集中3接合関係分布図	149	第157図	SK507～509平・断面、出土遺物	183
第131図	集中4出土遺物分布図	150	第158図	SD501断面図	186
第132図	集中1出土遺物	152	第159図	SD501出土遺物(1)	187
第133図	集中2出土遺物(1)	154	第160図	SD501出土遺物(2)	188
第134図	集中2出土遺物(2)	155	第161図	SD501出土遺物(3)	189
第135図	集中2出土遺物(3)	156	第162図	SD502断面、出土遺物	189
第136図	集中2出土遺物(4)	157	第163図	川津六反地遺跡遺構変遷Ⅱ区	242
第137図	集中2出土遺物(5)	158	第164図	川津六反地遺跡遺構変遷Ⅲ・Ⅳ区	243
第138図	集中2出土遺物(6)	159	第165図	遺構別 出土剥片の長・幅値比較	249
第139図	集中2出土遺物(7)	160	第166図	サヌカイト集積遺構出土剥片の長・幅値	250
第140図	集中2出土遺物(8)	161	第167図	石器集中ブロック・サヌカイト集積出土石核	251
第141図	集中2出土遺物(9)	162			

表目次

第1表	年度別発掘調査担当一覧	2	第13表	川津六反地遺跡集中3剥片・碎片等石器 観察表(1)～(6)	
第2表	平成9・10年度組織表	2	第14表	川津六反地遺跡集中4剥片・碎片等石器観察表(1),(2)	
第3表	平成11・12年度組織表	3	第15表	川津六反地遺跡サヌカイト集積剥片・碎片等石器 観察表	
第4表	平成24・25年度組織表	4	第16表	川津六反地遺跡集中地区周辺剥片・碎片等石器 観察表(1),(2)	
第5表	サヌカイト産地同定分析結果一覧	150	第17表	川津六反地遺跡出土瓦観察表	
第6表	遺構・器種・石材別一覧	151	第18表	川津六反地遺跡出土金属器観察表	
第7表	遺構別 剥片の石材・打面等一覧	248	第19表	川津昭和遺跡出土土器観察表	
第8表	川津六反地遺跡出土土器観察表(1)～(13)		第20表	川津昭和遺跡出土石器観察表	
第9表	川津六反地遺跡出土石器観察表(1)～(3)		第21表	川津昭和遺跡出土瓦観察表	
第10表	川津六反地遺跡集中1～4等出土石器 観察表(1)～(9)		第22表	検出時・報告時遺構名 新旧対照表	
第11表	川津六反地遺跡集中1剥片・碎片等石器 観察表(1)～(9)				
第12表	川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器 観察表(1)～(15)				

付図目次

川津六反地遺跡全体図

図版目次

巻頭図版1	川津六反地遺跡	巻頭図版2	川津六反地遺跡
	Ⅳ区 集中1・2全景北から		SD309 出土土器集合(1)
	Ⅳ区 サヌカイト集積遺構南から		SD309 出土土器集合(2)
	Ⅳ区 東壁土層断面		

巻頭図版3 川津六反地遺跡

SD309 出土土器集合(3)
SR202 出土土器
SP401 出土土器
I～Ⅲ区 出土石核
SD213 出土土器集合

巻頭図版4 川津六反地遺跡

SR101 出土土器集合
SR101 出土土器
SD210 出土土器
SD227・SD228 出土土器集合(1)
SD227・SD228 出土土器集合(2)

図版1 川津六反地遺跡

I区調査区全景西から
Ⅱ-1区 西端部全景西から
Ⅱ-1区 西半部全景西から
Ⅱ-1区 西半部全景北・東から
Ⅱ-2区 西半部全景南から
Ⅱ-2区 北端部全景東から
Ⅱ-2区 北端部全景北から
Ⅲ-1区 全景南から

図版2 川津六反地遺跡

Ⅲ-2区 全景東から
Ⅲ-3区 南半部全景北から
Ⅲ-4区 南半部全景北西から
Ⅲ-4区 北半部全景北西から
Ⅳ区 南半部全景南東から
I区 第2トレンチ全景東から
I区 第2トレンチ土器溜まり検出状況西から
I区 第2トレンチ土器溜まり検出状況東から

図版3 川津六反地遺跡

Ⅱ-1区 SB203 全景南から
Ⅱ-1区 SB204・205 全景南から
Ⅱ-1区 SB211 全景北東から
Ⅱ-1区 SB215 全景北西から
Ⅱ-1区 SK201 全景西から
Ⅱ-1区 SK202 全景南東から
Ⅱ-1区 SK206 土層断面南東から
Ⅱ-1区 SD201 全景南から

図版4 川津六反地遺跡

Ⅱ-1区 SD202 全景南東から
Ⅱ-1区 SD203・204 全景
Ⅱ-1区 SD205 西半部全景東から
Ⅱ-1区 SD204・205 合流部北西から
Ⅱ-1区 SD204・SD205 合流部 東から
Ⅱ-1区 SD209 全景南東から
Ⅱ-1区 SD210 北半部全景南東から

図版5 川津六反地遺跡

Ⅱ-1区 SD210 土層断面北から
Ⅱ-1区 SD212・213 全景東から
Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景北西から
Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景南東から
Ⅱ-1区 SD213 全景南東から
Ⅱ-1区 SD213 土層断面南東から
Ⅱ-1区 SD215 土層断面南東から
Ⅱ-1区 SD217・221 全景北東から

図版6 川津六反地遺跡

Ⅱ-1区 SD223 全景南東から
Ⅱ-1区 SX218 土層断面北東から
Ⅱ-1区 SX219 土層断面北西から

Ⅱ-2区 SK210 遺物出土状況北から
Ⅱ-2区 SK210 遺物出土状況アップ北東から
Ⅱ-2区 SD237 全景西から
Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況北から
Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況南東から

図版7 川津六反地遺跡

Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(1)
Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(2)
Ⅱ-2区 SD230・232・234 全景北から
Ⅱ-2区 SD231 全景南東から
Ⅱ-2区 SD233・234 全景北から
Ⅲ-1区 SD301 全景北面から
Ⅲ-1区 SD301・302 土層断面南から

図版8 川津六反地遺跡

Ⅲ-3区 SD305 全景北から
Ⅲ-3区 SD305 土層断面北から
Ⅲ-3区 SD306 全景南から
Ⅲ-3区 SD306 土層断面南から
Ⅲ-3区 SD307・308 全景北から
Ⅲ-3区 SD309 全景南西から
Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況北から

図版9 川津六反地遺跡

Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から(1)
Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から(2)
Ⅲ-4区 東壁土層断面南から
Ⅲ-4区 SD313 全景南から
Ⅲ-4区 SD314・315・318 全景北から
Ⅲ-4区 SD315・316 全景北から
Ⅲ-4区 SD319・SX301 全景南から
Ⅳ区 SD401・403 全景北から

図版10 川津六反地遺跡

Ⅳ区 集中1～4 全景
Ⅳ区 集中1～4 全景南東から
Ⅳ区 集中1・2 全景北から
Ⅳ区 集中1 遺物出土状況北東から
Ⅳ区 集中2 遺物出土状況北西から
Ⅳ区 集中2 遺物出土状況
Ⅳ区 集中2 遺物出土状況

図版11 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡

Ⅳ区 サヌカイト集積遺構東から
Ⅳ区 サヌカイト集積遺構北西から
Ⅳ区 石鏃出土状況
Ⅳ区 ポイントフレイク出土状況
川津昭和遺跡 南半部全景北西から
川津昭和遺跡 北半部全景北西から

図版12 川津昭和遺跡

東壁土層断面南から
東壁土壌サンプル採集地点
SE501 検出状況南から
SE502 土層断面(1) 南東から
SE502 土層断面(2) 南東から
SK508 遺物出土状況南東から
SD505 全景北から
SD506 北端全景北から

図版13～図版23 川津六反地遺跡

出土遺物

図版24 川津昭和遺跡

出土遺物

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 発掘調査に至る経緯・経過

川津六反地遺跡及び川津昭和遺跡は、坂出市川津町に所在する。当地では香川県土木部河川砂防課により城山川河川改修工事及び、県土木部道路建設課により県道富熊宇多津線道路改良、国道 438 号拡幅等の複数の工事が計画されていた。これらの工事の照会を受けた県教育委員会文化行政課（現在の生涯学習・文化財課）は、遺跡の有無を確認するため、平成 8 年度から用地の条件が整った区域より適宜試掘調査を実施した。その結果、対象地の全てではないが、事前の発掘調査が必要な範囲が確定し、平成 9 年度から財団法人香川県埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施することになった。

平成 9 年度は遺跡の南端にあたる城山川河川改修工事及び県道富熊宇多津線道路改良工事に係わる調査を実施した。対象地は全面農地で、平成 9 年 10 月から平成 10 年 2 月までの 5 ヶ月間で実施した。対象地の内訳は河川改修部分で 668㎡、県道部分で 2,198㎡を測る。城山川の河川区域では微高地上の集落から廃棄された多量の中世後半～近世の土器や、旧石器を含むサヌカイト製の石器類が多数出土した。また、県道部分では弥生時代の溝状遺構や中世～近世の集落跡を確認した。

平成 10 年度は遺跡の中央部分にあたる国道 438 号の拡幅に伴う調査を実施した。対象地は宅地間の狭地で、対象面積は 1,034㎡を測る。調査は平成 11 年 2 月から 3 月までの 2 ヶ月間で実施した。この調査では、弥生時代後期後半頃の灌漑水路と考えられる溝状遺構から弥生土器が多量に出土し貴重な資料になった。また、中世の条里地割に伴う坪界溝等を検出した。

平成 11 年度は県道富熊宇多津線と国道 438 号の交差点区域と、国道 438 号拡幅部の一部を実施した。交差点区域は平成 9 年度調査区から続く中世の集落域にあたる。また、この地域は条里地割の東西方向



第 1 図 遺跡位置図

の坪界と南北方向坪界の地割が交差する地点にあたり、条里地割方向に合致した数条の中世の溝状遺構や、これらの溝に切られる状態で、弥生時代後期後半頃の溝状遺構や自然河川を検出した。なお、条里地割方向に合致した溝跡の中には、集落から廃棄された多量の土器が出土した溝跡もある。

平成12年度は国道438号に係わる調査で、川津六反地遺跡の北端の調査区と、川津昭和遺跡の調査を実施した。対象地は農協やガソリンスタンド等の用地で、それらの主な構造物を撤去した後の平成12年9月から平成13年1月までの5ヶ月間で調査を行なった。なお、平成12年度の調査を終えることにより、本事業に伴う川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の発掘調査は全て終了したことになる。

川津六反地遺跡では弥生時代以降の遺構面下から、当初予想されていなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したサヌカイト集積遺構を検出した。石器集中ブロックからは約1,600点のサヌカイト製の石器類が出土した。出土したのはサヌカイト製の碎片や剥片が主体を占めるが、石核・石鏃・削器等も少数含まれる。また、出土した石器間で接合資料が18点抽出することができた。縄文時代の石器集中ブロックの資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで貴重な資料になった。

川津昭和遺跡では、弥生時代中期～後期後半の幹線水路と考えられる溝状遺構や近世以降の井戸・土坑等を検出した。

第1表 年度別発掘調査担当一覧

年度	調査担当	調査区	面積 (㎡)	期間	事業
平成9年度	中西昇・多田佳弘・中村文枝	川津六反地遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区	2,866	H 9.10 - H 10.2 (5ヶ月)	県道富熊宇多津線、 城山川改修
平成10年度	乗松真也・川井國博・中村文枝	川津六反地遺跡Ⅲ-1・3区	1,034	H 11.2 - H 11.3 (2ヶ月)	国道438号
平成11年度	池田道雄・川井國博・秋山亮	川津六反地遺跡Ⅱ-2・Ⅲ-2区	1,450	H 11.12 - H 12.3 (4ヶ月)	県道富熊宇多津線、 国道438号
平成12年度	蔵本晋司・増井泰弘・豊岡多恵 ・秋山亮	川津六反地遺跡Ⅲ-4・Ⅳ区、 川津昭和遺跡	3,025	H 12.9 - H 13.1 (5ヶ月)	国道438号
計			8,375	16ヶ月	

第2表 平成9・10年度組織表

香川県教育委員会事務局文化行政課					
平成9年度調査体制			平成10年度調査体制		
総括	課長	菅原良弘	課長	小原克己	
	課長補佐	北原和利	課長補佐	北原和利	
総務	係長	山崎隆	副主幹兼係長	西村隆史	
	主査	星加宏明 (～5.31)	係長	中村禎信	
	主査	松村崇史 (6.1)	主査	三宅陽子	
	主事	打越和美	主査	松村崇史	
埋蔵文化財	副主幹	渡部明夫	副主幹	渡部明夫	
	文化財専門員	木下晴一	係長	西村尋文	
	技師	塩崎誠司	主任技師	塩崎誠司	
財団法人香川県埋蔵文化財センター					
総括	所長	大森忠彦	所長	菅原良弘	
	次長	小野善範	次長	小野善範	
総務	副主幹兼係長	田中秀文 (6.1～)	副主幹兼係長	田中秀文	
	係長	前田和也 (5.31)	主査	新一郎 (6.1～)	
	主任主事	西川大	主任主事	西川大 (～5.31)	
	主任文化財専門員	藤好史郎	主任文化財専門員	藤好史郎	
	主任文化財専門員	中西昇	文化財専門員	川井國博	
	文化財専門員	多田佳弘	技師	乗松真也	
調査	調査技術員	中村文枝	調査技術員	中村文枝	

第3表 平成11・12年度組織表

香川県教育委員会事務局文化行政課				
平成11年度調査体制			平成12年度調査体制	
総括	課長	小原克己	課長	小原克己
総務	課長補佐	小国史郎	課長補佐	小国史郎
	係長	中村禎信	係長	中村禎信
	主査	三宅陽子	主査	三宅陽子
	主査	松村崇史	主事	亀田幸一
埋蔵文化財	副主幹	廣瀬常雄	副主幹	廣瀬常雄
	係長	西村尋文	係長	西岡達哉
	文化財専門員	森格也	文化財専門員	森格也
	主任技師	塩崎誠司	文化財専門員	宮崎哲治
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター				
総括	所長	菅原良弘	所長	菅原良弘（～10.31）
総務	次長	川原裕章	文化行政課長兼務	小原克己（11.1～）
	副主幹	田中秀文	次長	川原裕章
	係長	新一郎	副主幹	大西誠治
	主査	長尾寿江子	係長	新一郎
	主査	山本和代	主査	長尾寿江子
	主任主事	細川信哉	主査	山本和代
調査	主任文化財専門員	藤好史郎	主任文化財専門員	高木康晴
	文化財専門員	西岡達哉	文化財専門員	藤好史郎
	文化財専門員	池田道雄	文化財専門員	西村尋文
	文化財専門員	川井國博	文化財専門員	蔵本晋司
	調査技術員	秋山亮	調査技術員	増井泰弘
			調査技術員	豊岡多恵
			調査技術員	秋山亮

第2節 整理作業の経過

本遺跡の整理作業は平成24年10月から、平成25年7月までの10ヶ月の期間で実施した。

平成24年度はまず、遺構から出土した土器の接合と実測遺物の抽出作業を先行し、その後、縄文時代の石器集中ブロックやサヌカイト集積遺構から出土した石器類の分類・計測・接合作業等を行なった。石器集中ブロック等から出土した資料は碎片や剥片までを含めると約1,600点を数え、整理作業初期の段階では比較的重要視された作業であった。これらの作業の結果、抽出された実測遺物は985点を数えることになった。実測作業は平成25年1月から開始した。まず、土器の実測から開始し年度末には土器実測を終えることができた。遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキニングを行ない、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。遺構の整理については、整理担当が発掘担当者と異なるため、個別の遺構の状況を把握する際には苦慮する場合もあった。

平成25年度は4月から石器の実測を開始し5月には概ね終了した。次に遺物トレース作業と遺物写真撮影を行ない、その後、遺構挿図と遺物図面を統合し報告書の編集作業に着手した。また、編集作業が進み、報告遺構名や遺物番号が決定した後に遺物の収納作業を行なった。

各種分析委託業務については、整理作業の開始時期が平成24年度の下半期で、平成24年度内に実施する必要があり、平成24年度末に成果物が納品できるように発注を急いだ。分析対象としては、縄文時代の石器製作跡を検出したこともあり、当時の環境や年代を測るため、土壌分析・C14分析や出土したサヌカイトの原産地を探るためにサヌカイトの原産地同定分析等を行なった。

なお、本整理作業の報告遺物は点数が多く、整理期間との関係で効率化を計る必要が出てきた。そのため、平成24年度の年度末には遺物トレースの一部を民間業者に委託することになった。また、出土

遺物の写真撮影に際しては、基本的には直営で実施したが、難易度の高い遺物については平成 25 年度に民間業者に委託した。

平成 24・25 年度の整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第 4 表 平成 24・25 年度組織表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化行政課				
平成 24 年度調査体制			平成 25 年度調査体制	
総括	課長	炭井宏秋	課長	増田宏
総務・生涯学習グループ	副課長（総括）	木虎淳	副課長	木虎淳
	副主幹	松下由美子	副主幹	松下由美子
	主任主事	白川弘二	主任主事	白川弘二
文化財グループ	課長補佐	西岡達哉	課長補佐	丸山千晶
	主任文化財専門員	森下英治	主任文化財専門員	片桐孝浩
	文化財専門員	松本和彦	文化財専門員	山下平重
香川県埋蔵文化財センター				
総括	所長	藤好史郎	所長	真鍋昌宏
総務課	次長兼総務課長	真鍋正彦	次長兼総務課長	前田和也
	副主幹	林文夫	主任	俣野英二
	主任	宮武ふみ代	主任	宮武ふみ代
	主任	中川美江	主任	中川美江
	主任	高木秀哉	主任	高木秀哉
	課長	森格也	課長	森格也
	主任文化財専門員	西村尋文	主任文化財専門員	西村尋文
	嘱託整理作業員	山地真理子	嘱託整理作業員	山地真理子
		猪木原美恵子		猪木原美恵子
		甲斐美智子		中野優美
		香西栄理		佐々木博子
		佐々木博子		西本智子
		竹内悦子		田中沙千子
	東潤愛		原節子	
	原節子		香川和子	

(参考文献)

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成 9 年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成 10 年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成 11 年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成 12 年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第Ⅱ章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

発掘調査に際しては、調査区内に残土の仮置き場を設ける必要があった。調査区内で仮置き場を確保するには、調査地区と仮置き場を交互に入れ替えて調査を進める必要があった。そのため、調査区は細分されることになった。

機械掘削は土木業者と契約して行なった。調査事務所や仮設電力及び主な調査用具はリース契約を結び調査に用いた。現場作業員はセンターが直接雇用し、人力掘削等の作業にあたった。

調査の基準点については測量業者に委託して設定した。遺構の全体測量は航空測量業者に委託し1/100と1/50の全体図を作成した。測量の方法としては、対象地は民家が隣接しており、ヘリコプターによる航空測量では地元から苦情がくる可能性が高かった。そのため、影響の少ない気球やラジコンヘリによる航空測量で実施することになった。なお、現場の個別写真撮影や遺物の出土状況・土層断面図等の個別の記録作業については、適宜担当職員が分担して実施した。

川津六反地遺跡のⅣ区で検出した縄文時代の石器集中ブロック等については、約1,600点の剥片や石器類の原位置を記録する必要があった。しかし、石器類の数が多く記録の誤差が生じる可能性が出てきた。そのため、調査区全体に1.0mのグリッドを設定し、そのグリッド単位で作業を進めることにし、出土状況の記録方法としては光波測量機を用いてその出土地点の記録を行なった。なお、Ⅳ区では先述した縄文時代の石器集中ブロックを検出したこともあり、当時の環境や年代を推定するため、花粉分析・火山灰分析・C14分析等を予定して土壌を採集し、その一部を平成12年度の下半期に分析委託を実施した。

第2節 整理作業の方法

1. 調査区名の変更

川津六反地遺跡の調査区は発掘調査が多年度に及び調査区が細分され、同じ調査区名が各年度に存在する。そのため、最南端の調査区より以下のように報告時の調査区名に変更した。

I区（報告時）→平成9年度I区（調査時）・Ⅱ-1区（報告時）→平成9年度Ⅱ・Ⅲ区（調査時）・Ⅱ-2区（報告時）→平成11年度Ⅱ区（調査時）・Ⅲ-1区（報告時）→平成10年度Ⅱ区（調査時）・Ⅲ-2区（報告時）→平成11年度I区（調査時）・Ⅲ-3区（報告時）→平成10年度I区（調査時）・Ⅲ-4区（報告時）→平成12年度I区（調査時）・Ⅳ区（報告時）→平成12年度Ⅱ区（調査時）

2. 遺構名の整理

川津六反地遺跡の発掘調査は多年度に及び調査区が細分され、遺構名は各年度で調査区単位に01番から付されていた為、報告の都合上再整理を必要とした。遺構名を付す方法としては調査区の名称を残した通し番号を付けるのが混乱を防ぐ得策と考え、番号の先頭に調査区番号を付した三桁の遺構名を付けることにした。

例) 検出遺構名：I区のSD01 →報告遺構名：SD101

3. 遺構図・写真の整理

遺構図面及び写真の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキャニングを行ない、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。また、掘立柱建物については、柱穴の組み合わせ等を含めて再整理を行ない、新たに建物跡を抽出したのものもある。

4. 遺物の整理

遺物実測については、出土遺物の中で図化可能な遺物については極力図化した。なお、本整理作業の報告遺物は点数が多く、整理期間との関係で効率化を計る必要があり、川津六反地遺跡の遺物トレース作業の一部を民間業者に委託した。

川津六反地遺跡の縄文時代の石器集中ブロックの整理に際しては、石器類の特徴を掴むため、石材の細分、計測値による統計処理等に耐えうるよう属性分析に努めた。石器集中ブロックの中で主体を占めるサヌカイト製の碎片・剥片の分類については、石材・長幅・重量・打面の状況等の項目で一点毎に観察を行ない、その資料の属性分析を行なった。また、ブロック出土の石器類については、比較的原位置を保っている事が想定されたため、製作技術の復元を図る事を目的とし接合関係の検討を行なった。その結果、18点の接合関係を掴むことができた。

遺物写真撮影については、極力担当者で実施したが、難易度の高い出土遺物については専門業者に撮影を委託した。

5. 自然科学分析

川津六反地遺跡では、縄文時代の石器集中ブロックやサヌカイト集積遺構等を検出したこともあり、当時の環境や年代を測るため、花粉分析・火山灰分析・C14分析等を予定して土壌を採集し、その一部を分析委託で外注した。また、ブロックから出土したサヌカイトは肉眼でみる限り、数種類に分類できる。分類されたサヌカイトは、微妙な材質の違いや、原産地の違いが表れているものと推定された。そのため、数点ではあるがサヌカイトの産地同定の分析を行なった。

(参考文献)

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第三章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

香川県の中央に広がる丸亀平野は、東西 13km・南北 10kmに広がる扇状地性の海岸平野である。この平野には東から大東川・土器川・弘田川などの中小河川が南北に流れ、瀬戸内海に流入している。川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、丸亀平野の北東隅、大東川の下流域の東岸部に位置し、北に角山、南に飯野山、西に大東川、東には城山山塊の西斜面から派生する低丘陵に挟まれた地域に位置する。遺跡周辺の地表面の標高は 8.5m 前後を測る。

大東川下流域の東西両岸には、流路方向に沿って比高差 1 m 前後の崖面が連続して認められ、河岸段丘地形を呈する。この段丘地形は瀬戸内海東部の平野部で指摘されている古代末頃に形成された「完新世段丘」に相当することが推定されており、川津六反地遺跡・川津昭和遺跡はこの段丘上に所在している。

大東川下流域の川津六反地遺跡周辺は大東川と、城山山塊から流下する城山川が合流する地域にあたり、大東川が西に大きく屈曲している。二つの河川が合流しているため、河川部周辺には氾濫源が広範囲に認められる。当地周辺の歴史地理の研究では木下氏の研究がある。木下氏は大東川東岸部で近年発掘調査が行なわれた、川津一ノ又遺跡・川津二代取遺跡・川津下樋遺跡等の調査成果を踏まえたうえで旧地形を復元した。その結果、先述した段丘と周辺地域で、蛇行する数条の埋没河川を復元した(註1)。

第2節 歴史的環境

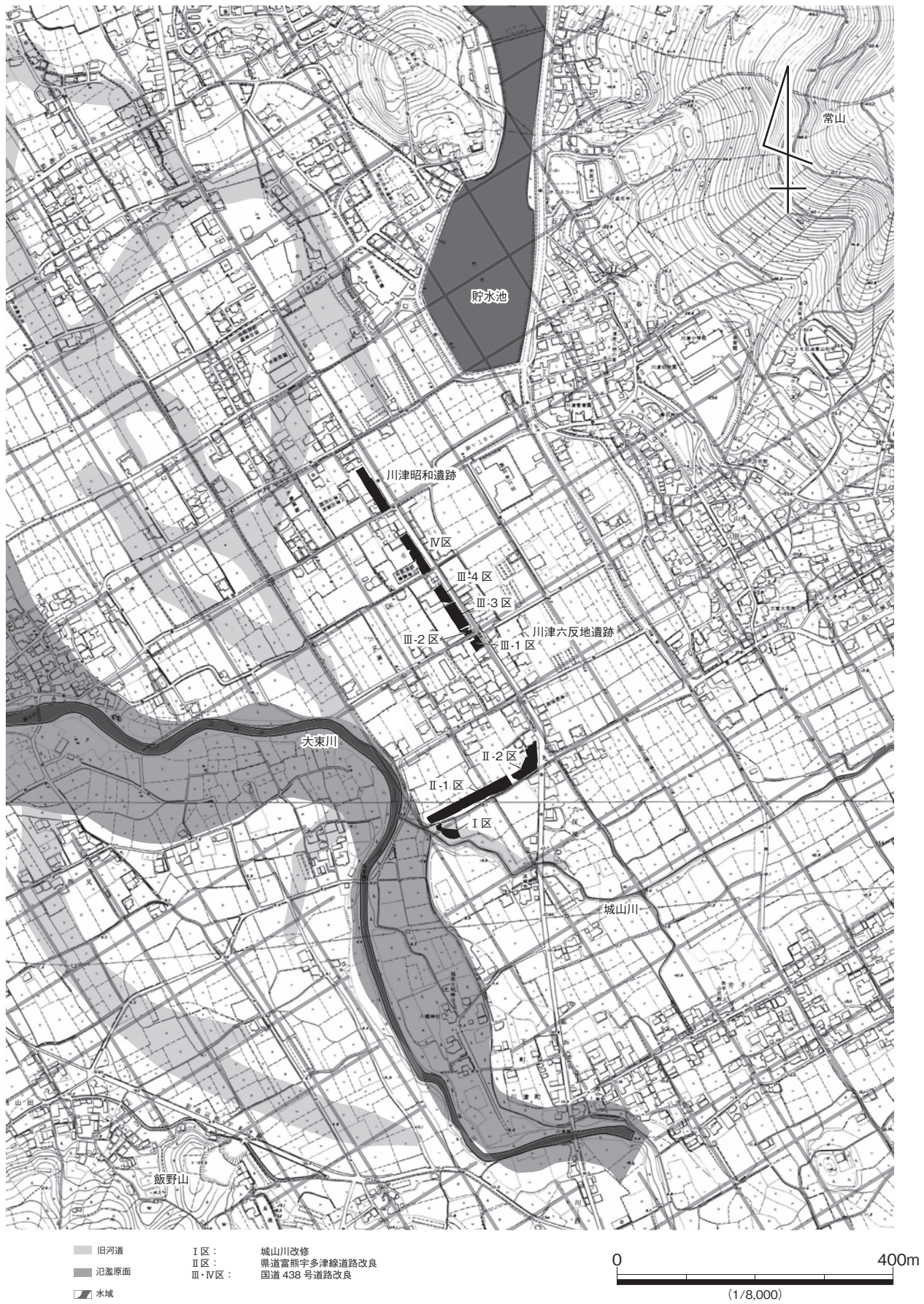
大東川下流域に広がる坂出市川津町は、近年、瀬戸大橋建設事業や四国横断道建設事業に伴う埋蔵文化財調査が数遺跡で実施されており、県下では比較的埋蔵文化財の調査が進んでいる地域である。

旧石器時代では、城山や飯野山の山麓の諸遺跡で資料が増加している。川津一ノ又遺跡の弥生時代の流路からはサヌカイト製の翼状剥片や縦長剥片石核等が出土している。また、飯野山北麓の川津東山田遺跡や東麓の東坂元三ノ池遺跡からは、ナイフ形石器・船底形石器・楔形石器・剥片・横長剥片石核・スポール等の旧石器が出土しているが、いずれも旧石器時代の遺構に伴うものではなく、今後の調査に期待される点が多い。

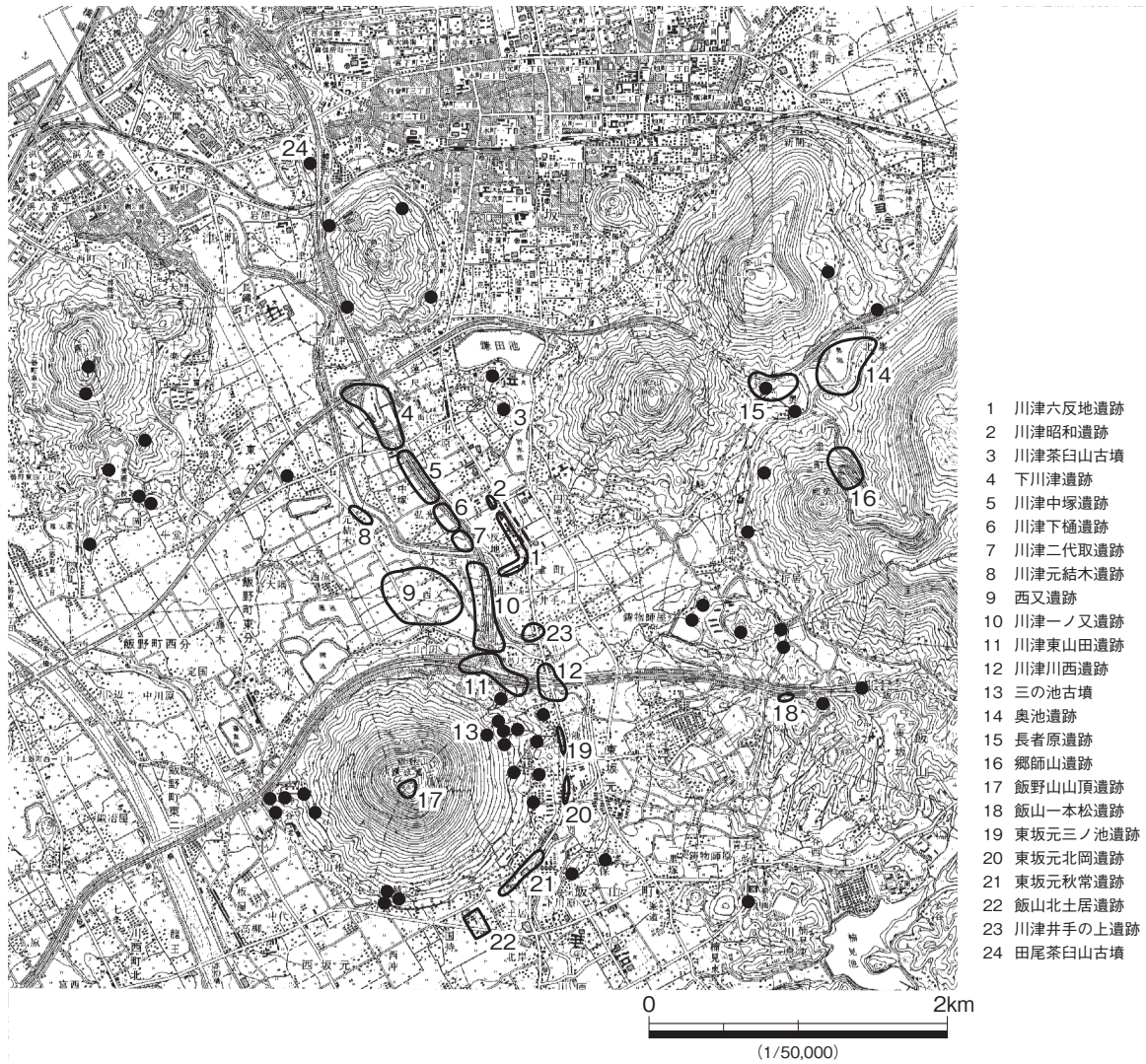
縄文時代では縄文時代後期・晩期の遺物が、下川津遺跡・川津下樋遺跡・川津一ノ又遺跡・川津川西遺跡等の諸遺跡の自然河川や包含層から少量出土しているが、旧石器時代同様、今後の調査に期待される点が多い。

弥生時代時代になると、低地部で遺跡数は増加する。下川津遺跡では、弥生時代前期前葉の住居跡を 1 棟確認し、隣接する自然河川からは多量の遺物が出土している。また、川津下樋遺跡では、前期の灌漑水路を伴う水田跡を確認した。中期になると低地部では一時集落は途絶えるが、後期後半～終末期になると遺跡数は倍増し、下川津遺跡や川津一ノ又遺跡に代表される拠点となる集落が現れる。

古墳時代前期前半頃までは、弥生時代終末期の集落が継続して営まれ、弥生時代と状況に変化は少ないが、その後集落は途絶える。集落が低地に再開されるのは古墳時代後期後半以降である。周辺に築造される古墳で代表的なものでは、全長 76.5m を測る前方後円墳の田尾茶臼山古墳がある。また、小規



第2図 調査区割図及び調査区周辺旧地形、条里地割復元図



第3図 周辺遺跡分布図

模前方後円墳では三の池古墳等があげられるが、発掘調査を実施している古墳は少なく今後の調査に期待される。

古墳時代前期前半に途絶えた集落は、古墳時代後期後半頃より再開される。代表的な集落としては、下川津遺跡・川津一ノ又遺跡等の集落があげられ、これらの集落は先の集落より大規模で、集落の空白期間を考えれば他地域より別集団が移住してきた可能性が高い。

遺跡を広範囲に発掘した下川津遺跡では、竪穴住居跡 57 棟、掘立柱建物跡 90 棟を検出した。注目できる点では、集落の中心と考えられる居館跡が数地点で確認できた点である。居館跡は一般の住居と異なり、大型の掘立柱建物数棟が企画的に配置された状態で検出した。また、周辺より有力豪族層の持物である、圭頭太刀が出土した居館跡も確認され、おそらく、この階層が中心となって川津地域の開発に直接関わったものと考えられる(註2)。

開発が及んでいない地域に、古墳時代後期～飛鳥時代頃、新たに集落が開始される事例は県下でも数多く確認できる現象で、これらの集落は在地の有力な豪族層の主導による、新たな農地開発を意図した集落の可能性が考えられており(註3)、川津地域もその一例である。

坂出市川津地域は古代の行政区画では鵜足郡川津郷にあたる。8世紀の下川津遺跡では、官衙とも考えられる建物群や物資を集積した大型の倉を確認した。先の建物群は方形の広い敷地内に数棟の大型建物を規格的に配置しており、他地域の官衙施設に類似する。出土遺物では畿内でみられる赤彩土師器が多量に出土しており、この遺跡や周辺でつくられた土器が畿内へ運ばれたことが考えられる。下川津遺跡はその立地や大型の倉、出土した赤彩土師器などから、他地域へ運ぶ物資を集積した遺跡と考えられ、隣接する大東川沿いに港が所在していた可能性が高い。また、官衙的な建物群は、港の運営に係わる公的施設の可能性もある。

文献によると8世紀中ごろの川津郷は、平城京にある東大寺の「封戸」に編入される。川津郷が東大寺の封戸に編入されたことは、畿内や国府との強いつながりを示し、下川津遺跡の官衙的な施設も、封戸から徴収した税の輸送に係っていた可能性が高い。

また、大東川下流域兩岸の段丘上には、丸亀平野のほぼ全域でみられる北から30°前後西に振る条里地割が広範囲に確認できる。本遺跡を含む周辺地域にも広範囲に認められ、この条里地割がいつ頃形成されたかは従来から問題視されていたが、丸亀平野を対象にした最近の研究では概ね7世紀末～8世紀初頭頃が上限と考えられている(註4)。

中世の坂出市川津地域は古代より更に遺跡数は増大し、大多数の遺跡で遺構・遺物が出土している。代表的な遺跡では、下川津遺跡・川津中塚遺跡・川津元結木遺跡・川津二代取遺跡・川津一ノ又遺跡・川津川西遺跡等があげられる。

集落がこの時期急速に発展する背景には二つの要因が考えられる。一つは大東川流域の自然堆積が進み、従来、川又は湿地状であった土地が中世頃には平坦な地形に変わり、その上面にまで集落や農地を広げることが可能になった地理的な要因である。事実、ほとんどの遺跡で河川や湿地状であった区域が埋まり、その上面に集落域が拡大している現象が各遺跡の発掘調査により明らかになっている。

二つめには、大東川の水運を利用した交易が盛んになり、そのルート上の集落が発展した経済的な要因である。大東川の河口に位置する宇多津は、室町時代になると讃岐の守護職である細川氏の守護所が置かれ、讃岐を代表する港湾都市として栄えた。当時の兵庫津(現在の神戸港)の通関記録である『兵庫北関入船納帳』によれば宇多津は県外まで含めた広範囲の積荷を集積したり、他の港と兵庫津を中継したりする貿易港で、かなり繁栄していた事が推定されている。その宇多津につながる大東川は、川の上流域と宇多津の港を結ぶ川舟の交通路として、重要な役割を果たしていたものと考えられる。

(註)

- (1) 木下 晴一 2012 「微地形分類の視点と方法—坂出市川津町西部を例に—」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅷ』香川県埋蔵文化財センター
- (2) 西村 尋文 「第4節 下川津遺跡における6～8世紀の集落構造と動向」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
- (3) 広瀬 和雄 1986 「中世の胎動」『岩波講座日本考古学6—変化と画期—』岩波書店
- (4) 森下 英治 1997 「丸亀平野条里地割の考古学的検討」『財団法人香川県埋蔵文化財センター紀要Ⅴ』財団法人香川県埋蔵文化財センター

(参考文献)

- 高橋 学 1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院
高橋 学 1995 「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第7集』
金田 章裕 1988 「第6章 第3節 讃岐の条里遺構」『香川県史1 原始・古代』香川県
大久保 徹也 1990 「下川津遺跡といわゆる条里地割について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ—下川津遺跡—』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅶ—下川津遺跡—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1994 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第14冊—川津中塚遺跡—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1995 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第16冊—川津二代取遺跡—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第21冊—川津下樋遺跡—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1997 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第26冊—川津一ノ又遺跡Ⅰ—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1998 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第30冊—川津一ノ又遺跡Ⅱ—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1999 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第33冊—川津川西遺跡・飯山一本松遺跡—』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 2001 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第38冊—川津東山田Ⅰ区—』
- 香川県教育委員会 2008 『国道438号道路改築事業(飯山工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊—東坂元三ノ池遺跡—』

第Ⅳ章 川津六反地遺跡の調査

第1節 川津六反地遺跡の概要

川津六反地遺跡は、大東川下流域の坂出市川津町に所在する、縄文時代・弥生時代・古代・中世以降の遺跡である。調査は平成9年度から12年度にかけて実施した。整理作業では南～北へ向けて整理作業を進め、調査区は南～北にかけて新たにⅠ区～Ⅳ区に再区分した。以下、南辺部のⅠ区から順に概要を報告する。(第2図)

Ⅰ区は調査区の南西端部に位置する平成9年度調査時のⅠ区にあたり、城山川改修事業に伴う調査区である。この調査区は大東川の東岸と城山川の合流部でも城山川の北岸部に隣接しており、同河川の旧流路及びその肩口が所在していることが推定されていた。そのため、河川の状況を把握することを意図し、対象地内に4本のトレンチを設定した。その結果、中世後半頃から近世頃に埋没した城山川の旧河川跡を確認した。注目される点では、河川がある程度埋没した中世後半段階で、微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる多量の土器を廃棄している土器溜まりを検出した事である。土器溜まりからは特に土師器の足釜が多数出土しており注目できる。また、本遺跡の東方には城山や金山といったサヌカイトの産地が近いいためか、旧石器時代から弥生時代頃までの石器類が多数出土した。

Ⅱ区はⅠ区の東側に位置する調査区で、平成9年度調査のⅡ・Ⅲ区及び平成11年度調査のⅡ区に相当する、国道438号から西へ分岐する県道富熊宇多津線の道路改良工事に伴う調査区である。

Ⅱ区は段丘上に設定した東西方向の延長約190mの調査区で、調査区西半部の平成9年度調査Ⅱ・Ⅲ区を「Ⅱ-1区」に、東半部の平成11年度調査Ⅱ区を「Ⅱ-2区」に区分した。Ⅱ-1区からは、弥生時代の溝状遺構や、中世～近世の集落域を検出した。中世～近世の集落では複数の掘立柱建物跡と多数の柱穴群、及び条里地割の方向に合致する溝状遺構等を検出した。Ⅱ-2区では、おそらく城山川の上流域から分岐したと考えられる小規模な流路を調査区東端部で検出した。河川の周辺は湿地状を呈しているが、河川埋没後には中世の複数の溝跡や建物跡と多数の柱穴跡等を検出した。確認した溝状遺構の一部は条里地割の方向に合致しており、埋土からは周囲の集落域から廃棄物として投棄された多量の中世土器が出土した溝跡もある。

Ⅲ区はⅡ区の東端から北へ約140m離れた地点に位置する、南北方向の延長約120mの調査区である。この調査区は国道438号道路改良工事に伴う事業で調査を実施した。調査は対象地内の宅地や事業地の移転の問題から、一度に短期間で調査を実施することが不可能であった。そのため、平成10年度から12年度までの3ヶ年間で、小区画単位で調査を実施することになり、調査区も細分されることになった。

Ⅲ区は平成10年度調査Ⅰ・Ⅱ区、平成11年度Ⅰ区、平成12年度調査Ⅰ区を含み、南から平成10年度Ⅱ区を「Ⅲ-1区」、平成11年度Ⅰ区を「Ⅲ-2区」、平成10年度Ⅰ区を「Ⅲ-3区」、平成12年度Ⅰ区を「Ⅲ-4区」に再区分し報告することにした。

Ⅲ区からは弥生時代後期後半頃の溝跡、古代前半の灌漑水路、条里地割に坪堺に概ね合致する中世の溝状遺構等を確認した。弥生時代後期後半頃の溝跡はⅢ-3・4区の北半部で検出した。Ⅲ-4区の溝跡は小規模な溝跡であるが、Ⅲ-3区の水路は大型の溝状遺構で、当時の灌漑水路と考えられる。この溝跡からは多量の弥生土器が出土しており、調査区外の隣接地に集落の居住域が展開することを示唆するものである。古代前半の溝跡はⅢ-3区の南半部で2条検出した。二つの溝跡は約1.5m隔てて、南

北方向に並走しており、方向や時期的な点で類似するため、関連する溝状遺構と考えられる。次に中世の条里地割の溝跡であるが、Ⅲ－1・3区の東辺で条里地割の坪堺の可能性が高い中世の溝跡を確認した。また、Ⅲ－2区は、南北方向と東西方向の条里地割の交点部分にあたる地点であり、東西方向の条里地割線に合致した灌漑水路と考えられる中世の大型水路を検出した。これらの溝跡は本遺跡周辺の条里地割の形成時期を考えるうえで重要な遺構になる。

Ⅳ区はⅢ区の北端から北へ約25m離れた地点に位置する、南北方向の延長約70mの調査区で、本遺跡の北端部に位置し、平成12年度調査のⅡ区にあたる調査区である。なお、この調査区は国道438号道路改良工事に伴う調査でもある。調査は対象地内の農協やガソリンスタンドの移転が完了した、平成12年度から調査を実施することになった。

Ⅳ区からは弥生時代以降の遺構面下からは、当初予想していなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所の石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したサヌカイト集積遺構を検出した。また、遺構面上からは、弥生時代前期のピットや中期後半の土坑や溝状遺構を検出した。

石器集中ブロック等からは約1,600点のサヌカイト製の石器類が出土した。主となるのはサヌカイト製の碎片や剥片であるが、少数の石鎌・削器・石核等も含まれる。また、接合資料も18点抽出することができた。これらの石器製作跡の資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで貴重な資料になった。

第2節 基本層位

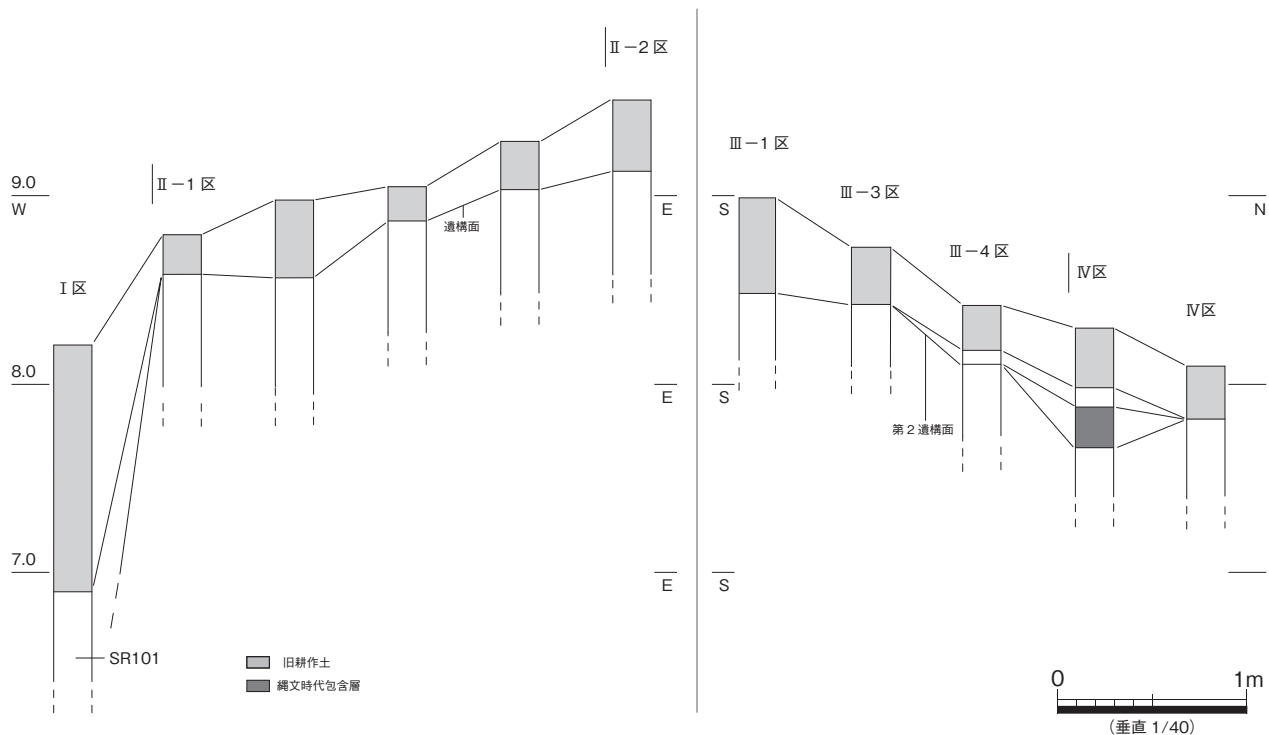
大東川下流域の段丘上に所在する、本遺跡の調査対象地の旧状は農地ないしは宅地や事業地であった。本遺跡の遺構面から上位には、現在の耕作土や中・近世頃の耕作に伴う土層が、平均0.4m程の層厚で存在し、上層の堆積層を除去すれば遺構面に至る。遺構面は丸亀平野で一般的な黄褐色の粘質土ないしシルト層をベースにして、その上面で弥生時代以降の遺構が検出されるのが一般的であるが、Ⅱ区東端部やⅣ区では小規模な流路や、縄文時代の包含層を検出した地域があり、部分的に異なる地点がある。また、Ⅲ－4区～Ⅳ区にかけての地域では比高差0.1mほどだが、2面の遺構面と、遺構面の下には縄文時代の石器集中ブロックやサヌカイトの集積遺構を含む包含層を確認した。

Ⅰ・Ⅱ区の基本層位(第4図)

Ⅰ区は城山川の氾濫源で、現地表は8.2mを測る。地表から約2.2m掘り下げたが、砂層が続き明瞭な河床面を確認することには至っていない。Ⅱ区は大東川東岸の段丘上に位置しており、Ⅰ区とは0.5mの比高差がある。地形は比較的安定しているが、Ⅱ区東端では小規模な流路を検出している。地表の標高は西端で約8.8m、東端で約9.5mを測る。遺構面は約0.3～0.7m下で検出した。遺構面上は西端で約8.6m、東端で約9.1mを測り、地表面同様に、大東川方向に向けて傾斜していることが解る。

Ⅲ・Ⅳ区の基本層位(第4図)

Ⅲ・Ⅳ区はⅡ区同様段丘上に位置しており比較的安定している。Ⅲ区南端は地表の標高約8.8m、北端は8.6mを測り、僅かに北に向けて傾斜している。地表面から約0.2～0.4m下で遺構面に至る。Ⅲ区南端の遺構面は約8.6mを測り、北端では約8.2mを測り、地表面同様北に向けて傾斜している。また、



第4図 基本層位柱状図

先述したようにⅢ-4区からⅣ区にかけての地域では比高差0.1m程だが、遺構面を2面確認した。Ⅳ区は地表の標高は約8.3m、地表面から0.4～0.5m下で遺構面に至る。遺構面は南端で約7.9m、北端で約7.8mを測り比較的平坦である。Ⅲ・Ⅳ区を概観すれば、概ね北方向に傾斜していることが解る。

Ⅳ区南半部の弥生時代以降の遺構面のベースとなる堆積層からは、縄文時代の石器製作跡と考えられる、4箇所石器集中ブロックとサヌカイト集積遺構を検出した。この包含層はⅢ-4区北部を最高所とする微高地北斜面に堆積した包含層で、標高7.5～7.9mにかけて堆積し、緩やかに北に傾斜する。包含層の下位には黄色粘土層が厚く堆積し、同層中には石器類は含まれないが、両層は酷似しており、近接した時期の堆積が推定される。なお、この黄色粘土層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層である。

第3節 I区の調査

1. はじめに

I区は大東川の東岸と城山川の合流部のなかでも城山川の北岸部に隣接しており、同河川の旧流路及びその肩口が所在していることが推定されたため、その構造と内容を把握することを意図し、対象となる範囲内に4本のトレンチを設定した。その結果、城山川の旧流路の一部を確認した。

2. 遺構・遺物

SR101(第6～8図)

4本のトレンチから城山川の旧流路と考えられる埋没河川を検出した。4本のトレンチのうち、第4トレンチでは旧城山川の北岸部と考えられる河川の肩部を確認したが、他の3本のトレンチでは、地表

下 2.0m 前後まで掘り下げたが、川床面までには至っていない。そのため、河川の概要については不明瞭な点が多い。

河川の堆積状況を大まかに分ければ、地表下 1.0m 前後のレベル (TP7.0m) で、上位層と下位層に大別できる。掘削最深部から地表下 1.0m 前後までの下位層では、シルト・細砂・粗砂等といった河川堆積層が確認できる。そのレベルから地表面までの上位層は、整地による整地層や旧耕作土が認められることから、中世以降の水田開発により地上されたものと考えられる。

先述したように第 4 トレンチの南半部では河川の北岸にあたる肩口を確認したが、小範囲で掘削深度も浅いため、河川方向などを結論づけるには決め手に欠くが、検出状況から推定して I 区の北端部から東西向きに流れていたものと考えられる。

第 1・2・4 トレンチの SR101 からは、II・III 区で確認した中世後半～近世を中心にした集落からの廃棄物として、同時期の多量の土器が出土した。また、混入遺物としてサヌカイト製の石器・剥片・石核等が多数出土した。

第 2 トレンチ北端部の地表下 1.2～1.3m に堆積する西壁 15 層付近からは 14 世紀前半の足釜を中心にした土器溜まりを検出した。土器溜まりは 1 群～10 群に分けて取り上げた。土器溜まりには少なくとも 6 個体以上の足釜、2 個体以上の鍋が含まれている。また、第 1 トレンチの地表下 1.2m の東壁 13 層のあたりからは、17 世紀後半～18 世紀前半の肥前系陶磁器片が出土しており、おそらく、この時期以降の土地開発により上位層の主要な部分は形成されたものと考えられる。

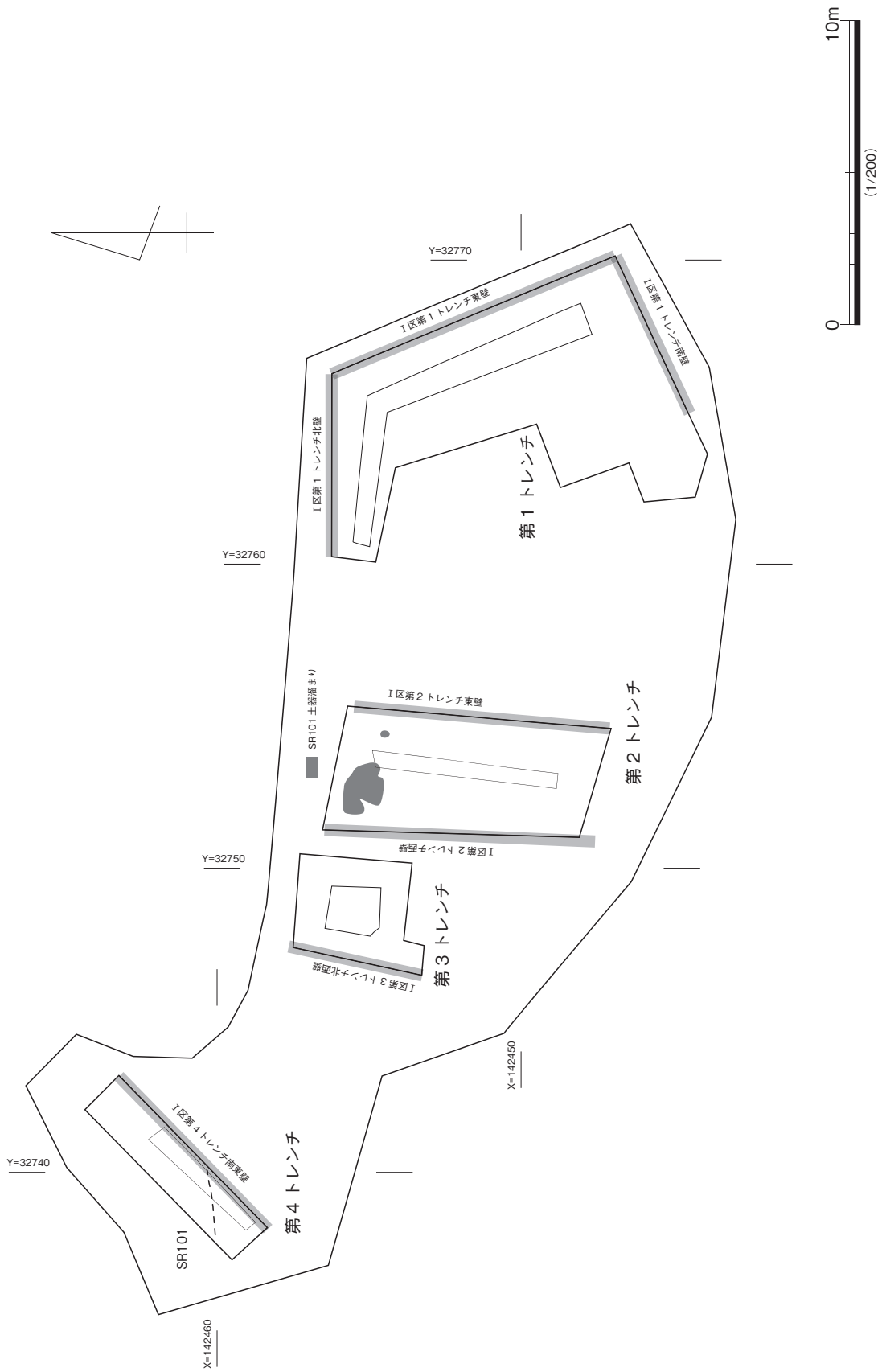
SR101 出土土器 (第 9～12 図)

先述したように SR101 からは中世後半～近世を中心にした多量の土器や、サヌカイト製の剥片・石核・石器類等が出土した。これらの遺物のうち、下位層出土のものに限り代表的なものを各トレンチ単位に報告する。

1～29 は第 1 トレンチから出土した土器等である。1・2・3・4 は土師器小皿及び杯、7・8 は陶器皿・椀、5・6 は青磁椀の口縁部片である。9・10・11 は染付皿・椀である。これらの染付片は SR101 の最終埋没時期を示す遺物になる。12～14 は土師器と須恵器の摺鉢である。15 は土師器鍋、16・17・18 は足釜の体部上半部、19・20・21 は足釜の脚部片である。22 は須恵器壺の口縁部、23 は陶器甕の口縁部、24 は須恵器甕の口縁部片である。25・26 は鍛冶炉の羽口片である。外面には溶解した金属が付着し、内面は被熱により赤色化している。27・28・29 は平瓦片である。27 は布目と格子タタキを残している。

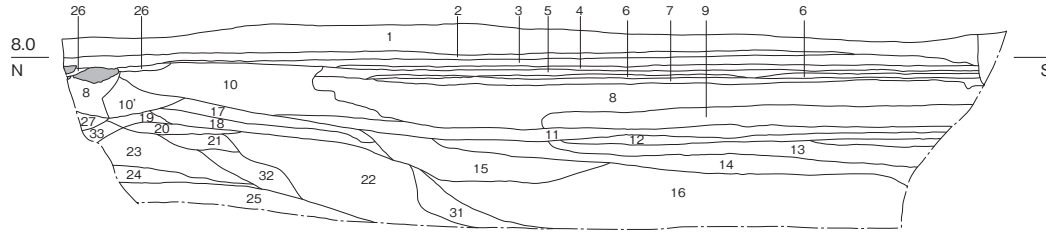
30～59 は第 2 トレンチから出土した土器等である。先述したように第 2 トレンチ北端部の西壁 15 層からは、足釜を中心にした 14 世紀前半頃の土器溜まりを検出している。30・31・39・40・41・44・45・47・48・49・50・53・54・55・59 等の小皿・杯・摺鉢・大型鍋や足釜・甕等の土器である。土器溜まりは先述したように 1 群～10 群に分けて取り上げた。個々のグループの内訳については、挿図中の一覧または観察表に記載しているので参照して頂きたい。

40～44 は大型の土師器鍋で、この中で 40・41・44 は先述した土器溜まりに含まれる鍋である。45～55 は土師器足釜で、この中で 45・47・48・49・50・53・54・55 は先述した土器溜まりに含まれる足釜である。これらの遺物は比較的残りが良く、河川堆積が概ね終了した段階で一括投棄された遺物と考えられる。56 は須恵器壺の口縁部片、57 は須恵器甕、58 は大型甕の底部片である。59 は布目と格子タタキを残している平瓦片である。

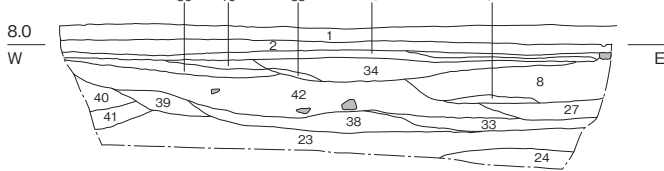


第5図 I区遺構配置図

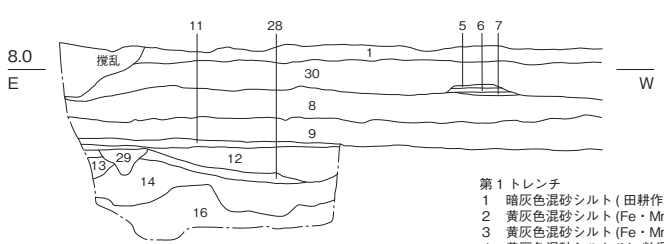
第1トレンチ東壁



第1トレンチ北壁



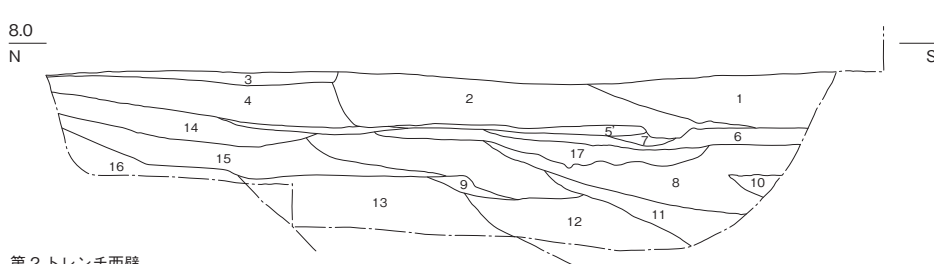
第1トレンチ南壁



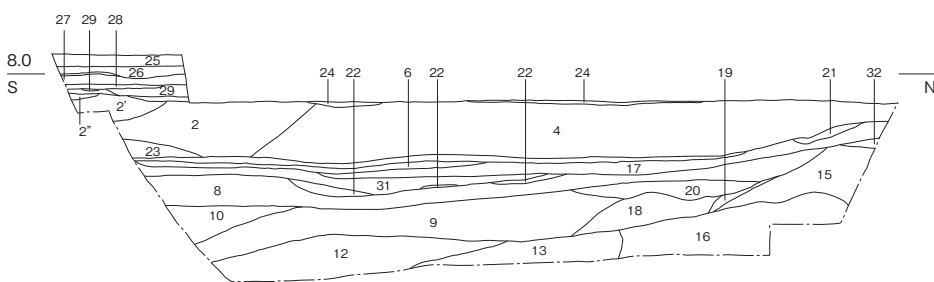
第1トレンチ

- 1 暗灰色混砂シルト (田耕作土)
- 2 黄灰色混砂シルト (Fe・Mn 沈着する)
- 3 黄灰色混砂シルト (Fe・Mn 沈着する)
- 4 黄灰色混砂シルト (Mn 粒混じる)
- 5 灰黄色混砂シルト
- 6 黄灰色混砂粘質土 (Fe・Mn 沈着する)
- 7 暗黄灰色混砂粘質土 (Mn 粒混じる)
- 8 黄灰色混砂粘質土
- 9 灰褐色礫混じり粗砂
- 10 暗褐色混砂シルト (8層のブロック混じる)
- 11 10層より Mn の粒が大きく砂がほとんど混じらない
- 12 暗灰色混砂粘質土 (Fe・Mn ややシルト気味)
- 13 暗灰色混砂粘質土 (Fe 含む)
- 14 暗黄褐色シルト混じり細砂質土 (Fe・Mn 混じる)
- 15 暗褐色シルト混じり細砂質土 (Fe・Mn 含む)
- 16 暗オリーブ灰色シルト混じり砂質土
- 17 暗褐色混砂粘質土
- 18 暗褐色細砂層 (粗砂・Fe・Mn 含む)
- 19 濁灰色粗砂層 (Mn 含む)
- 20 暗黄灰色粗砂混じり砂質土 (Fe・Mn 含む)
- 21 暗黄灰色シルト混じり砂質土 (Fe・Mn 含む)
- 22 暗灰色粗砂層 (小礫多く混じる)
- 23 濁灰色粗砂層 (小礫混じる)
- 24 黄灰色粗砂層 (Fe 含む)
- 25 暗褐色粘土
- 26 淡黄色混砂シルト (Mn 含む)
- 27 濁暗灰色混砂粘質土 (8層のブロック, Fe・Mn 混じる)
- 28 暗灰色混砂粘質土 (13層より暗い)
- 29 暗灰色粘質土
- 30 暗灰色混砂シルト (灰黄色混砂粘質土ブロック混じる) 攪乱
- 31 暗オリーブ灰色砂質土 (粗砂・粘質土ブロック・Fe 混じる)
- 32 暗灰色中砂層 (粗砂混じる)
- 33 暗灰色混砂粘質土
- 34 8層に10層のブロック混じる
- 35 暗褐色砂質土
- 36 暗褐色混砂シルト
- 37 暗黄褐色混砂粘質土 (Mn 含む)
- 38 濁暗灰色粗砂層 (Fe・Mn・小礫含む)
- 39 暗灰色礫混じり砂質土 (Fe 含む)
- 40 暗黄色粗砂 (礫多く混じる)
- 41 暗黄色中砂層
- 42 暗灰色混砂シルト (礫・粗砂・Fe・Mn 含む, 土器多く出土)

第2トレンチ東壁



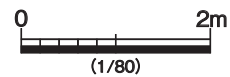
第2トレンチ西壁



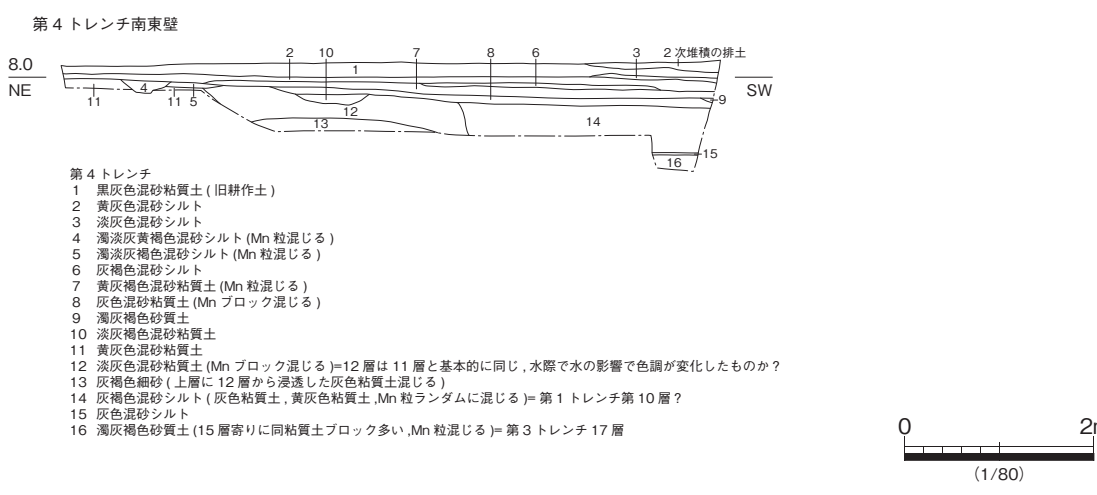
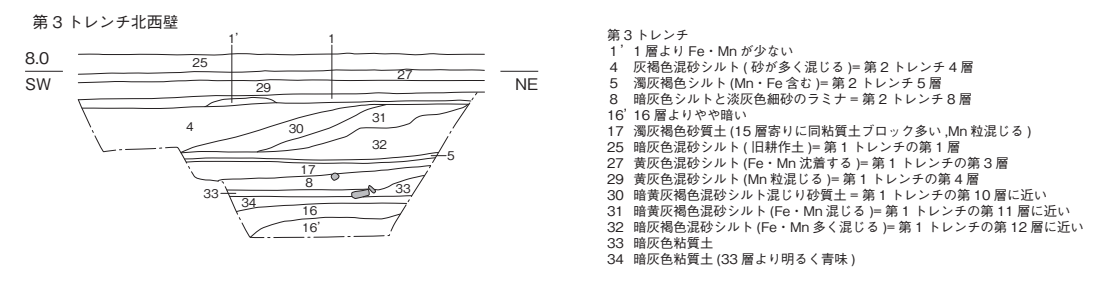
第2トレンチ

- 1 黄灰色混砂粘質土
- 2 暗褐色混砂シルト (黄褐色シルトブロック多く混じる)
- 2' 2層より砂質気味
- 2* 2層とほぼ同じ (黄褐色シルトブロックが少ない)
- 3 淡黄色混砂シルト (砂が多く混じる)
- 4 灰褐色混砂シルト (Mn・Fe 含む)
- 5 濁暗褐色混砂シルト (Mn・Fe 含む)
- 6 暗褐色混砂シルト (Mn・Fe 含む)
- 7 黄褐色混砂シルト
- 8 暗褐色シルトと淡灰色細砂のラミナ
- 9 灰褐色細砂層
- 10 淡灰色細砂層 (礫混じる)
- 11 暗灰色シルト (やや粘質気味)
- 12 暗灰色細砂 (植物の根・茎多く混じる)
- 13 濁暗褐色細砂層
- 14 暗灰色シルト (粘質気味, Mn・Fe 含む)
- 15 暗灰色シルト (砂質気味, Fe・Mn 少々含む)
- 16 暗灰色粘質土 (Fe・Mn 少々含む)
- 17 灰褐色シルト (淡褐色細砂のブロック入る)
- 18 暗灰色シルト (20層と16層の間の明るさ)
- 19 灰褐色砂質土
- 20 灰色シルト (Fe・Mn 含む)
- 21 灰色混砂粘質土
- 22 灰褐色中砂層 (Fe・Mn 含む)
- 23 暗灰色混砂粘質土 (Mn ブロック多い)
- 24 灰黄色混砂シルト
- 25 耕作土
- 26 花崗土
- 27 濁暗褐色混砂シルト
- 28 暗黄褐色混砂シルト (Mn 粒多い)
- 29 淡褐色混砂シルト
- 30 暗褐色混砂シルト
- 31 濁暗褐色混砂粘質土 (Mn 少々含む)
- 32 暗灰色シルト (やや粘性をもつ, Fe・Mn 含む)

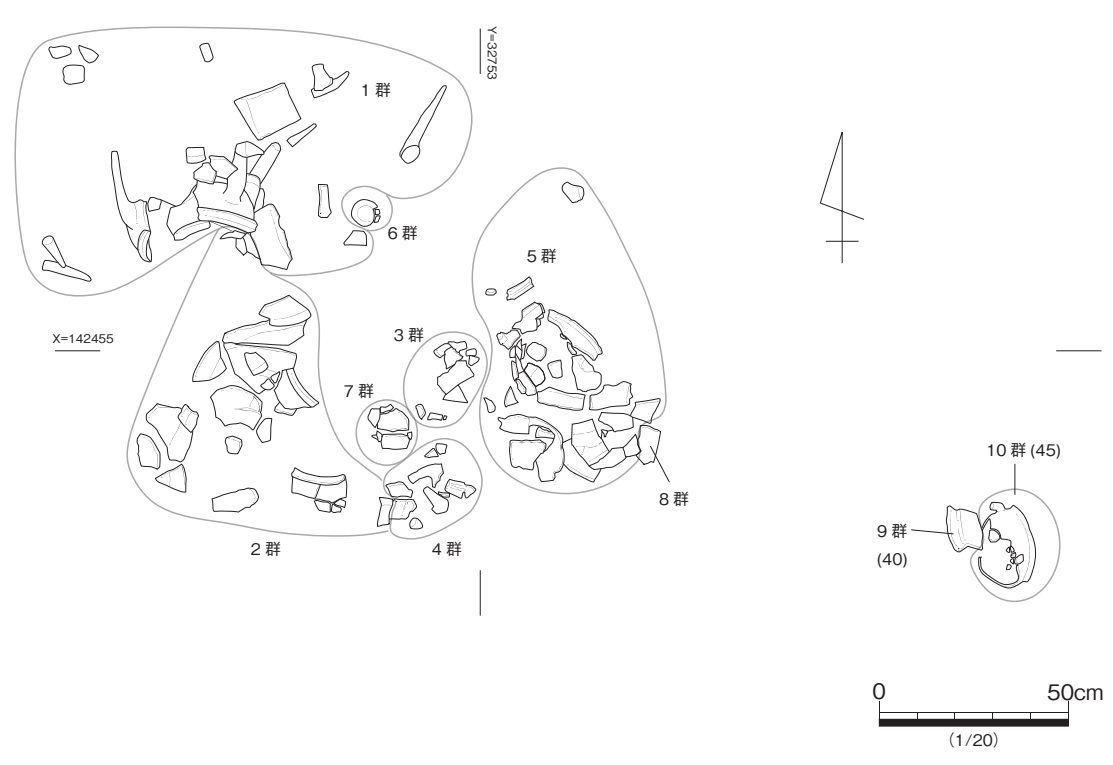
石



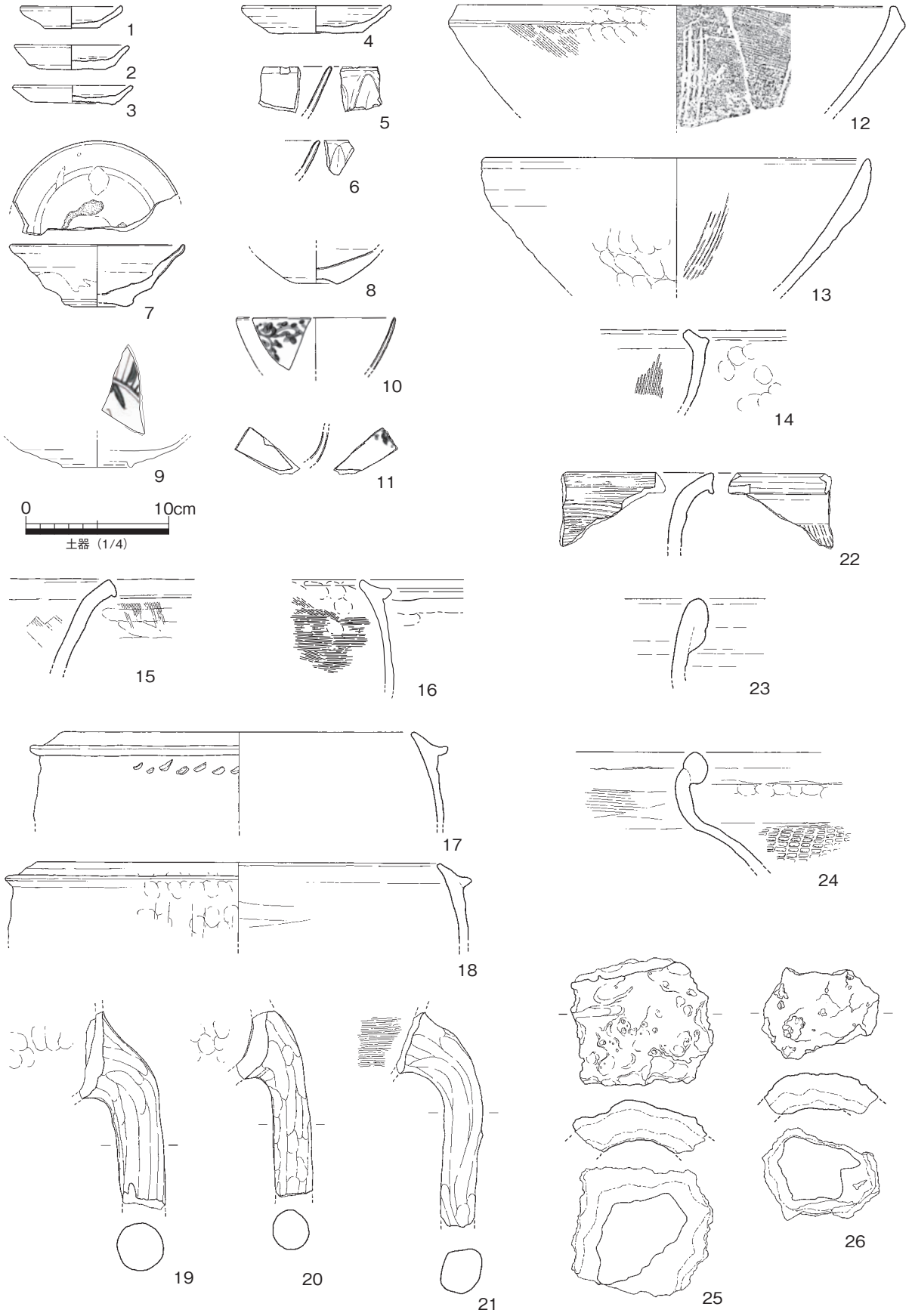
第6図 SR101 第1・第2トレンチ土層断面図



第7図 SR101 第3・第4トレンチ土層断面図

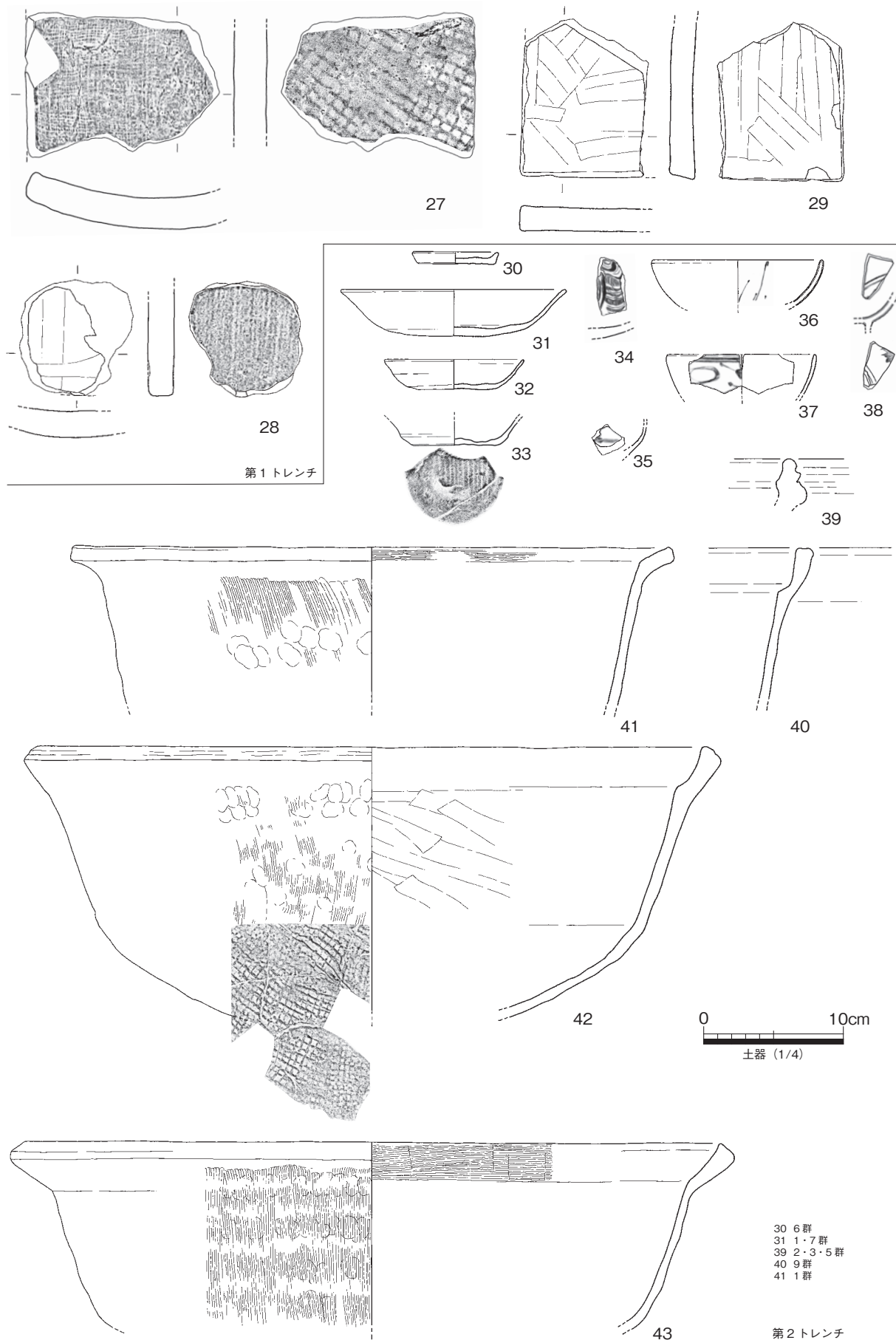


第8図 SR101 第2トレンチ土器溜まり遺物出土状況図

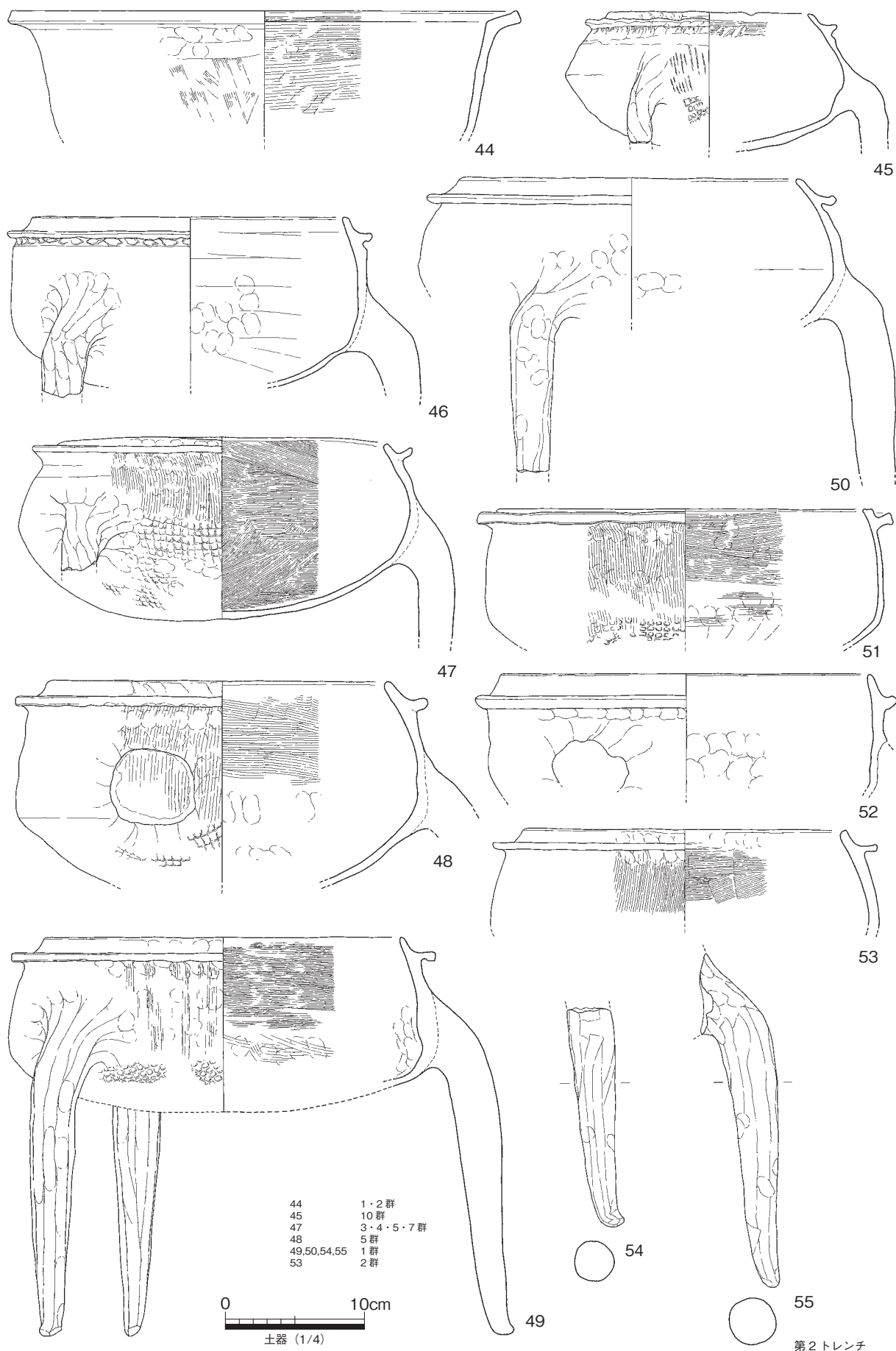


第1トレンチ

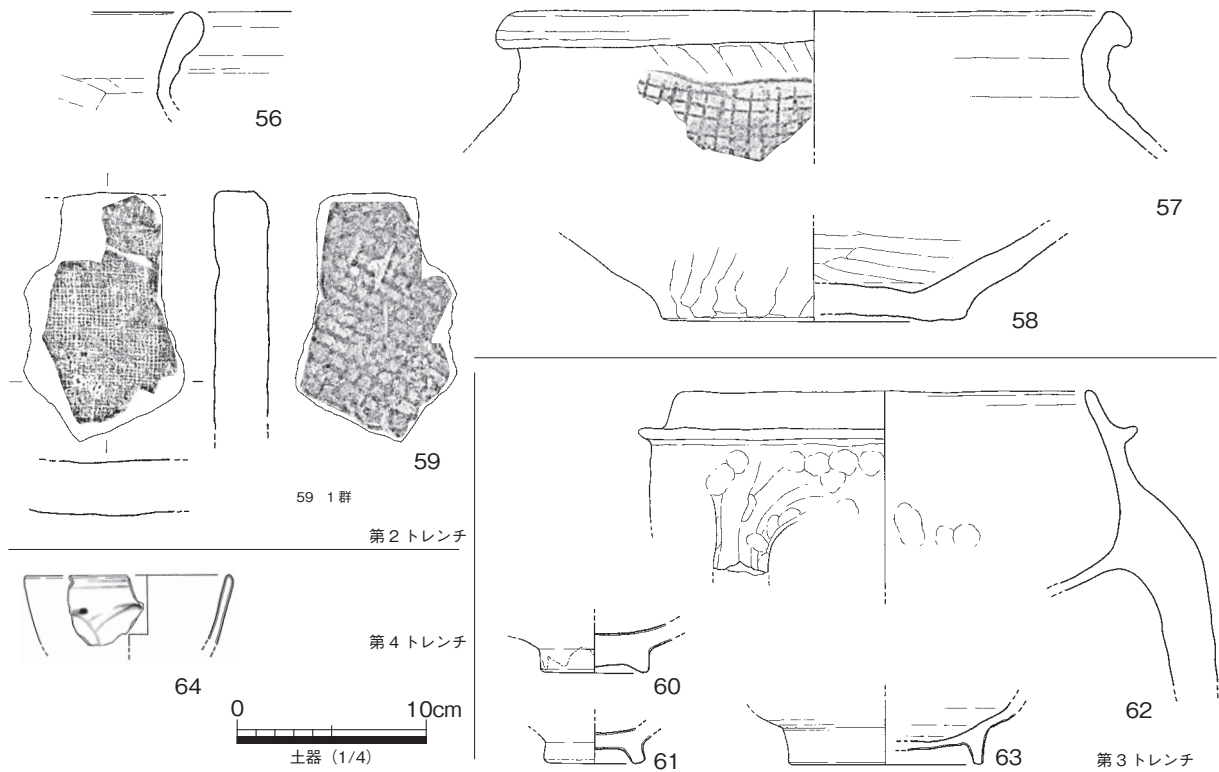
第9図 SR101 出土遺物 (1)



第10図 SR101 出土遺物(2)



第11図 SR101 出土遺物(3)



第12図 SR101 出土遺物(4)

60～63は第3トレンチから出土した土器である。60・61は磁器椀の底部で、63は磁器瓶の底部である。62は土師器足釜である。64は第4トレンチから出土した陶器椀である。

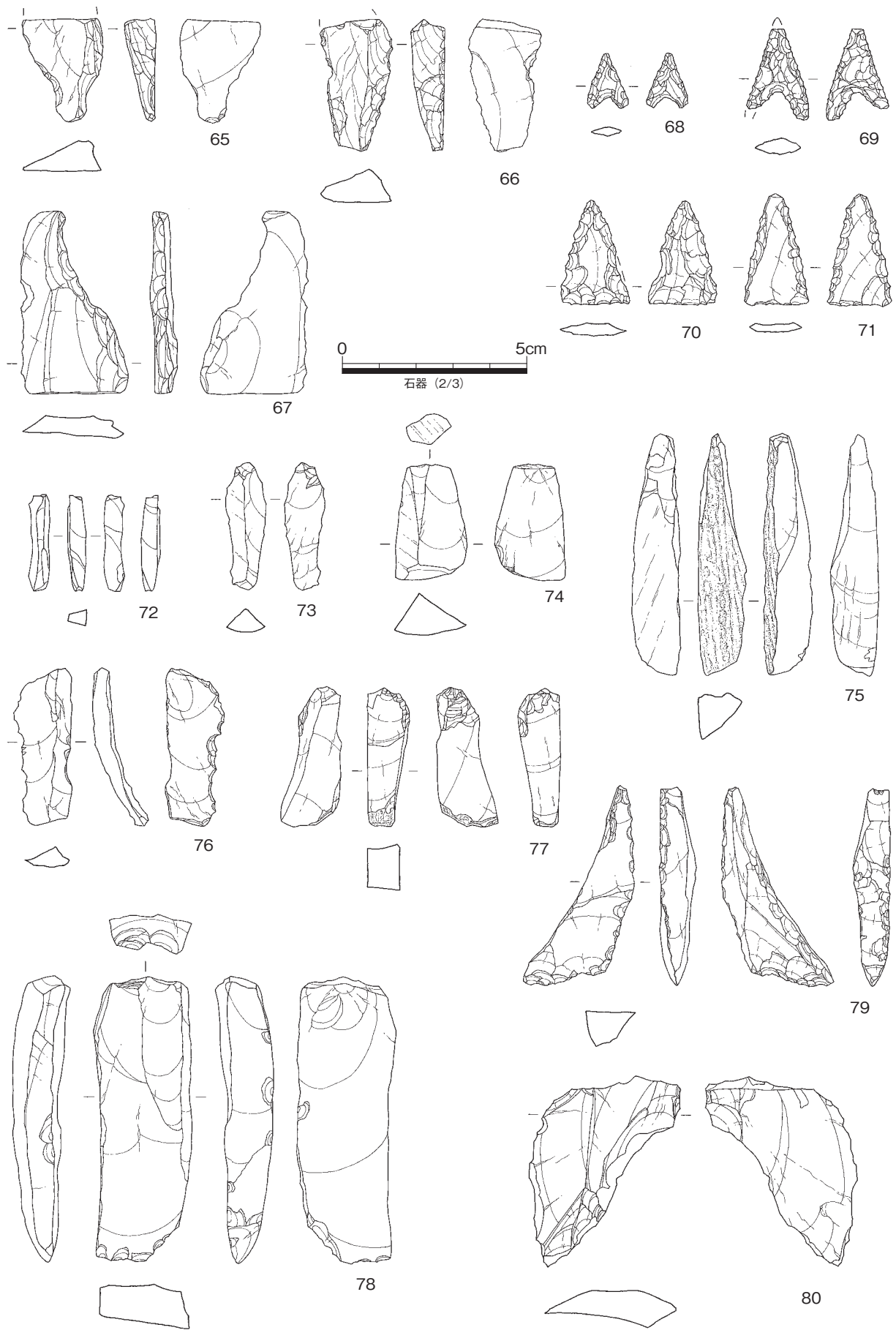
SR101 出土石器類(第13・14図)

65～82はSR101から出土したサヌカイト製の石器類である。65～67は先端部ないし基部を欠くナイフ形石器である。横長状の剥片を素材として、側面には腹面からブランディングを施している。67は背面にポジティブな底面を残しており、翼状剥片を素材としている可能性がある。68～71は石鏃で、68・69は凹基式、70・71は平基式の石鏃である。

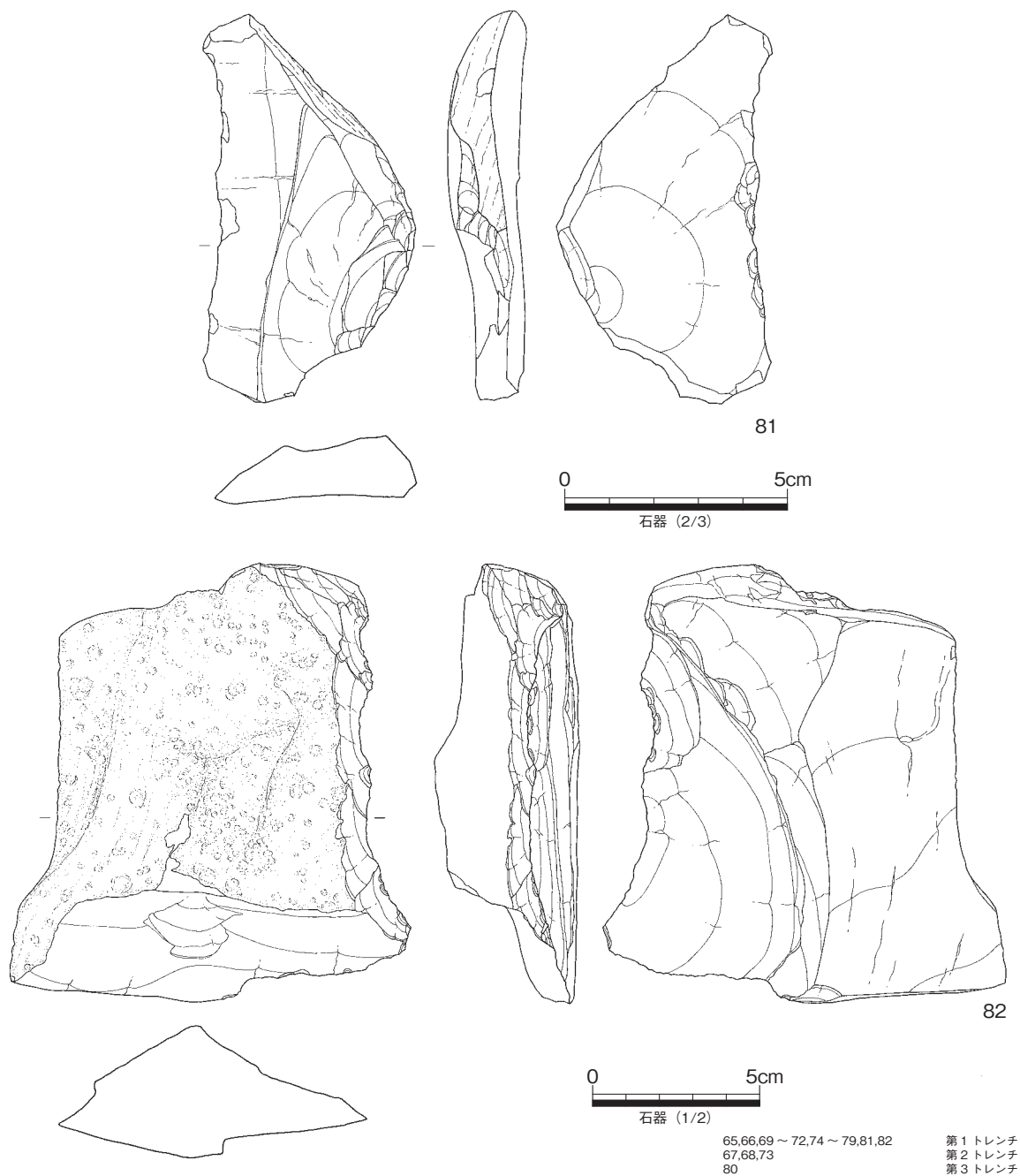
72～78は縦長剥片に係わる資料である。72・73・74・76は縦長状の剥片で、旧石器に含まれる可能性がある剥片類である。75・77・78は石核調整剥片である。75は側面に礫面を顕著に残すことから、もとの石核は幅広の板状の形状を呈し、小口面には礫面を残しており、その小口面を作業面としている石核であることが分かる。礫面を残すこの剥片は、石核から剥片を剥ぎ取る極初期の剥片にあたるため、作業面を形成する調整剥片と考えられる。77・78には石核側面を明瞭に残しており、石核調整剥片と考えられる。78には明瞭な打面調整を残している。これらの縦長剥片の資料から石核の形状を推定すれば、板状の縦長剥片石核が考えられる。79は石核調整剥片に二次加工を加えた剥片である。

80・81は横長剥片である。両者とも背面にはポジティブな底面と打面調整が認められることから、旧石器に近い要素を備えているのではあるが、風化の進行状況等から縄文時代以降の剥片の可能性が高い。

82は大型の横長剥片石核である。背面には礫面と側縁部には打面調整痕、腹面はポジティブな素材



第13図 SR101 出土遺物(5)



第14図 SR101 出土遺物(6)

の分割面と、ネガティブな剥片剥離痕が認められる。剥片剥離痕は一方向からの打撃によるもので、二面以上の剥離痕が認められる。かなり大型の剥片を剥離しており、最も大型のものでは、長さ6.0cm・幅11cmを測る剥片剥離痕が認められる。この石核も、旧石器に近い要素を備えているが、風化の進行状況等から縄文時代以降の可能性が高い。



第15図 II-1区遺構配置図

第4節 II区の調査

1. はじめに

II区はI区の東側に位置する段丘上に設定した東西方向の延長約190mの調査区である。整理の都合上、調査区西半部の平成9年度調査II・III区を「II-1区」に、東半部の平成11年度調査II区を「II-2区」に区分した。

II-1区からは、弥生時代の溝状遺構や、中世～近世の集落域を検出した。中世～近世の集落域では掘立柱建物跡と多数の柱穴群、及び条里地割の方向に合致する溝状遺構等を確認した。II-2区では、おそらく、城山川の上流域から分岐したと考えられる小規模な埋没河川を調査区の東端部で検出した。河川の周辺は湿地状を呈し河川埋没後には、中世後半の複数の溝状遺構や建物跡と多数の柱穴跡を検出した。検出した溝状遺構は条里方向に合致しており、埋土からは周囲の集落域から廃棄物として投棄された多量の中世土器が出土した。

2. II-1区

(1) 掘立柱建物跡・柵列

SB201(第16図)

II-1区西端部で検出した梁間1間、桁行3間の南北棟の掘立柱建物である。この建物はSD201・202・205等の遺構と重複し、SB201はこれらの遺構を切り込んでいる。前後関係としては、SB201はSD201・202・205より後出する。

1間(3.0m)×3間(6.7m)、面積20.1㎡、主軸方位N18.0°Wを測る。柱間は梁間3.0m、桁行2.2m～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.3m、深さ0.5～0.6mを測る。8基の柱穴中南西隅の1柱穴で柱痕と根石を確認した。

柱穴から土師器小皿・鉢、陶器皿片等が極少量出土した。83はSP07から出土した陶器の皿口縁部、84はSP05から出土した土師器の鉢口縁部である。細片のため判断できないが擂鉢ないし捏鉢であろう。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB201は近世の建物跡と考えられる。

SB202(第17図)

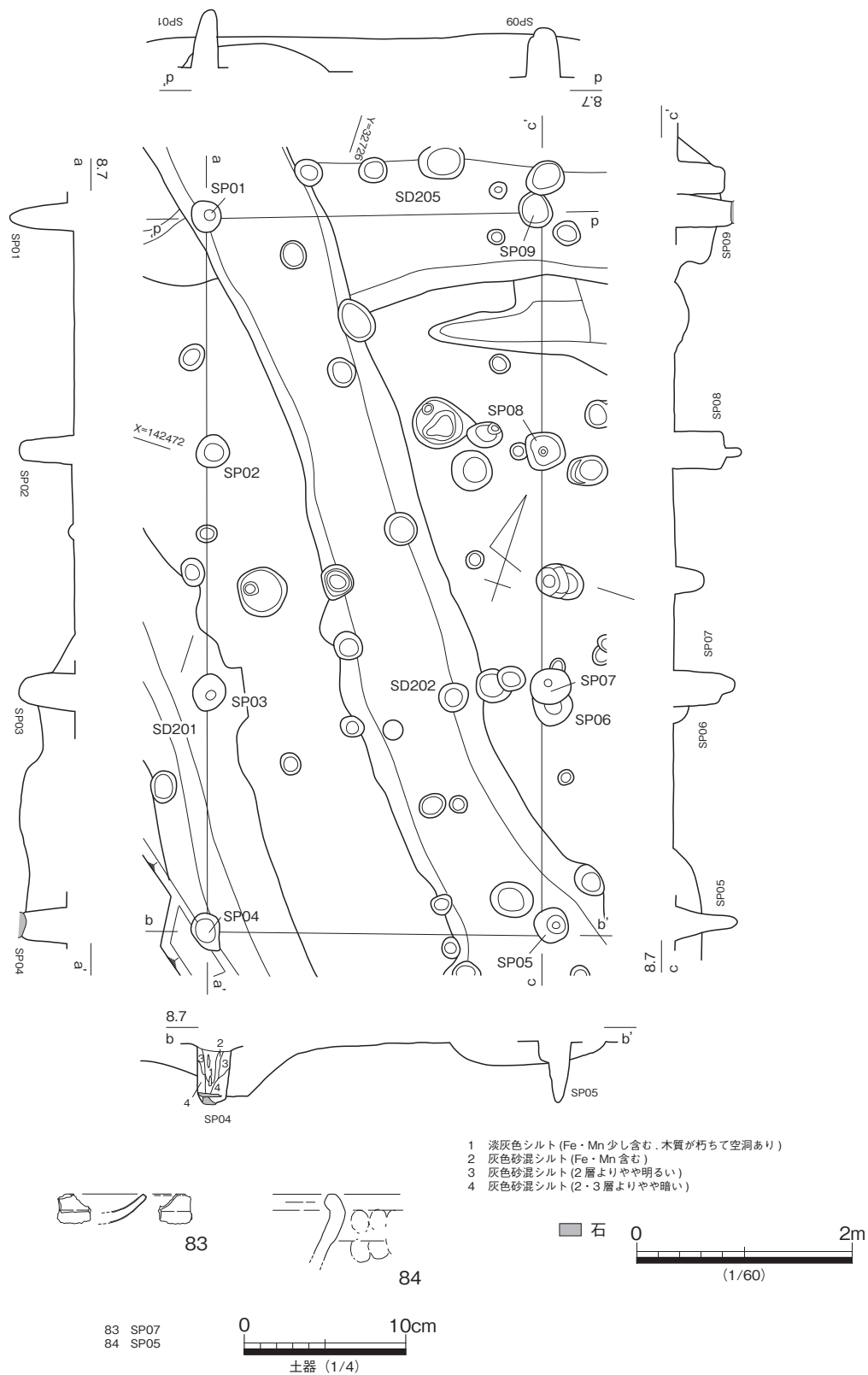
II-1区西端部の南壁際で検出した東西棟の掘立柱建物である。南半部は調査区から外れるため、北半部の約1/2を検出した。梁間1間以上、桁行3間の建物であるが、東梁間の中間の1柱穴を欠いている。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

1間(2.0m)以上×3間(4.2m)、面積8.4㎡以上、主軸方位N70.0°E(N20.0°W)を測る。柱間は梁間1.1m、桁行1.1～1.4mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径0.25～0.3m、深さ0.3～0.45mを測る。なお、図面中に記載されていないが、北側柱列の東端の隅柱から根石を検出した。

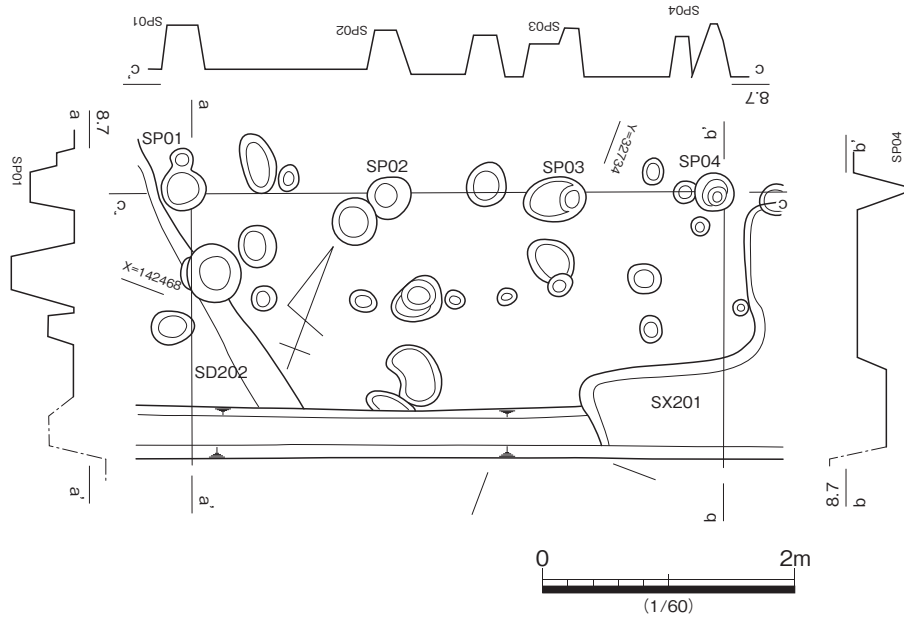
柱穴からは土師器小皿・足釜、焼土片等が少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB202は中世の建物跡と考えられる。

SB203(第18図)

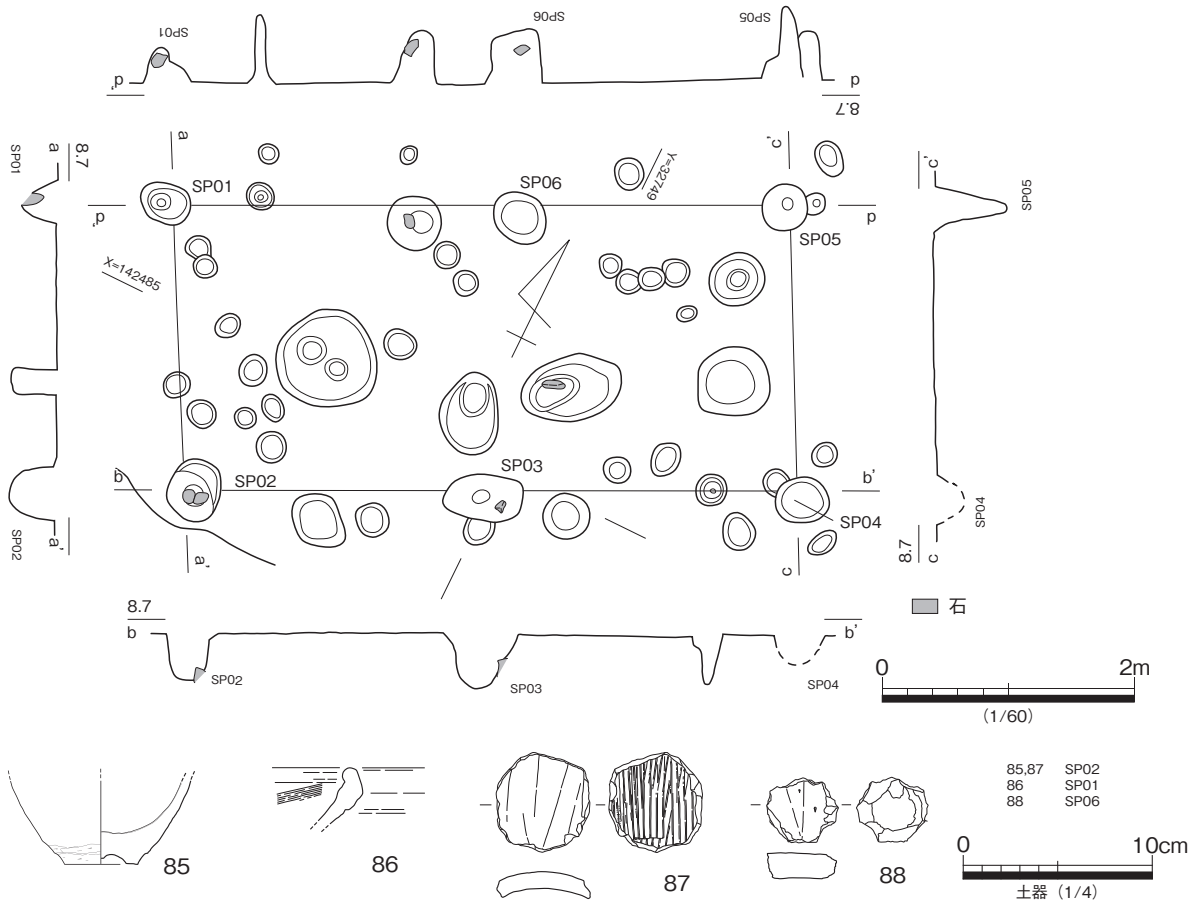
II-1区中央で検出した東西棟の掘立柱建物である。1間(2.3m)×2間(5.0m)、面積11.5㎡、主軸方



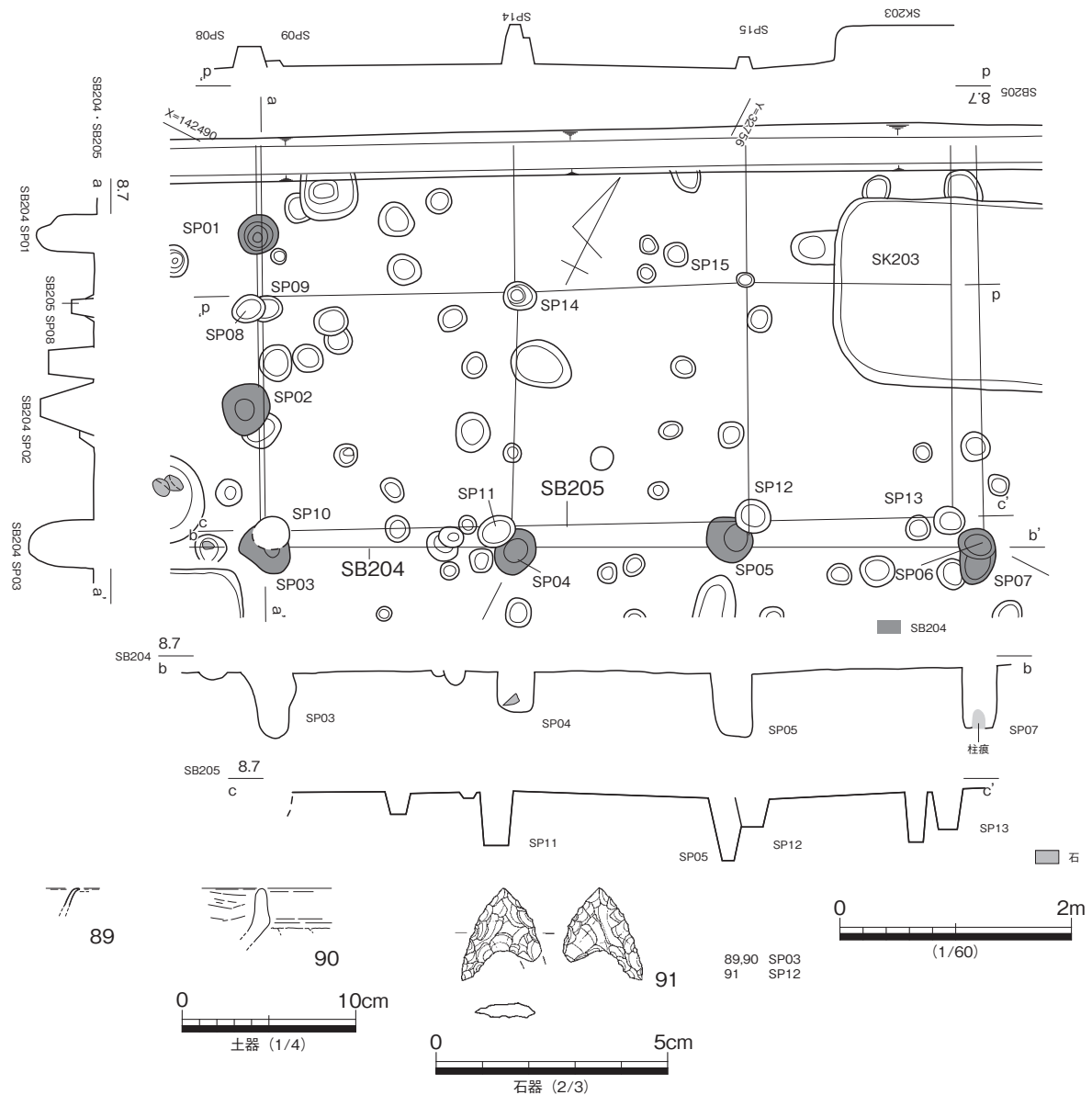
第16図 SB201 平・断面、出土遺物



第17図 SB202平・断面図



第18図 SB203平・断面、出土遺物



第19図 SB204・205平・断面、出土遺物

位 $N65^\circ E(N25^\circ W)$ を測る。柱間は梁間 2.3m、桁行 2.2m ~ 2.3m を測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径 0.4m ~ 0.5m、深さ 0.3m ~ 0.5m を測る。なお、全ての柱穴から根石を検出した。

柱穴からは陶器椀、土師器鉢、円盤状土製品等が少量出土した。85・87はSP02、86はSP01、88はSP06から出土した遺物である。85は口縁部を欠く陶器椀、86は土師器鉢の口縁部である。細片のため判断できないが挿鉢ないし捏鉢であろう。87・88は土師器と陶器を転用した円盤状土製品である。出土遺物や検出状況からSB203は近世の建物と考えられる。

SB204(第19図)

II-1区西半部の北壁際で検出した東西棟の掘立柱建物である。この建物はSB205と重複しており、前後関係としてはSB205が後出する。北半部は調査区から外れるため、南半部の約2/3を検出した。

梁間2間以上、桁行3間の建物であるが、東辺部がSK203により切り込まれているため、東辺の梁間の柱穴を欠いている。

2間(2.6m)以上×3間(6.1m)、面積15.9㎡以上、主軸方位N27.5°Wを測る。柱間は梁間1.2～1.5m、桁行1.9～2.0mを測る。

柱穴掘方は円形ないしは不整円形を呈し、径0.3～0.5m、深さ0.3～0.55mを測る。なお、図面中に記載していないが、南側柱列の4柱穴全から根石を検出した。

柱穴SP03からは磁器片、土師器片等が極少量出土している。89は磁器碗の口縁部片、90は土師器鉢の口縁部片である。SP03はSB205の柱穴と重複しており、89・90の遺物がいずれの建物に属するのかは問題を残すが、SB205がSB204より後出していることを考慮すれば、両者はSB205に属する可能性が高い。出土遺物や検出状況からSB204は近世の建物跡と考えられる。

SB205(第19図)

Ⅱ-1区西半部の北壁際で検出した東西棟の総柱建物と考えられる。この建物はSB204と重複しており、前後関係としてはSB204が先行しSB205が後出する。北半部は調査区から外れるため、南半部の約2/3を検出した。梁間1間以上、桁行3間の建物であるが、東辺部がSK203により切り込まれているため、東梁間の柱穴を欠く。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

1間(2.6m)以上×3間(6.1m)、面積15.9㎡以上、主軸方位N28.0°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.7～2.2mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径0.2～0.3m、深さ0.2～0.5mを測る。

柱穴SP03からは磁器・土師器片、SP14から染付片等が極少量出土している。89は磁器碗の口縁部片、90は土師器鉢の口縁部片である。91はSP12から出土したサヌカイト製の凹基式の石鏃で、混入品であろう。

SP03はSB205の柱穴と重複しており、89・90の遺物がいずれの建物に属するのかは問題を残すが、SB205がSB204より後出していることを考慮すれば、両者はSB205に属する可能性が高い。出土遺物や検出状況からSB205は近世の建物跡と考えられる。

SB206(第20図)

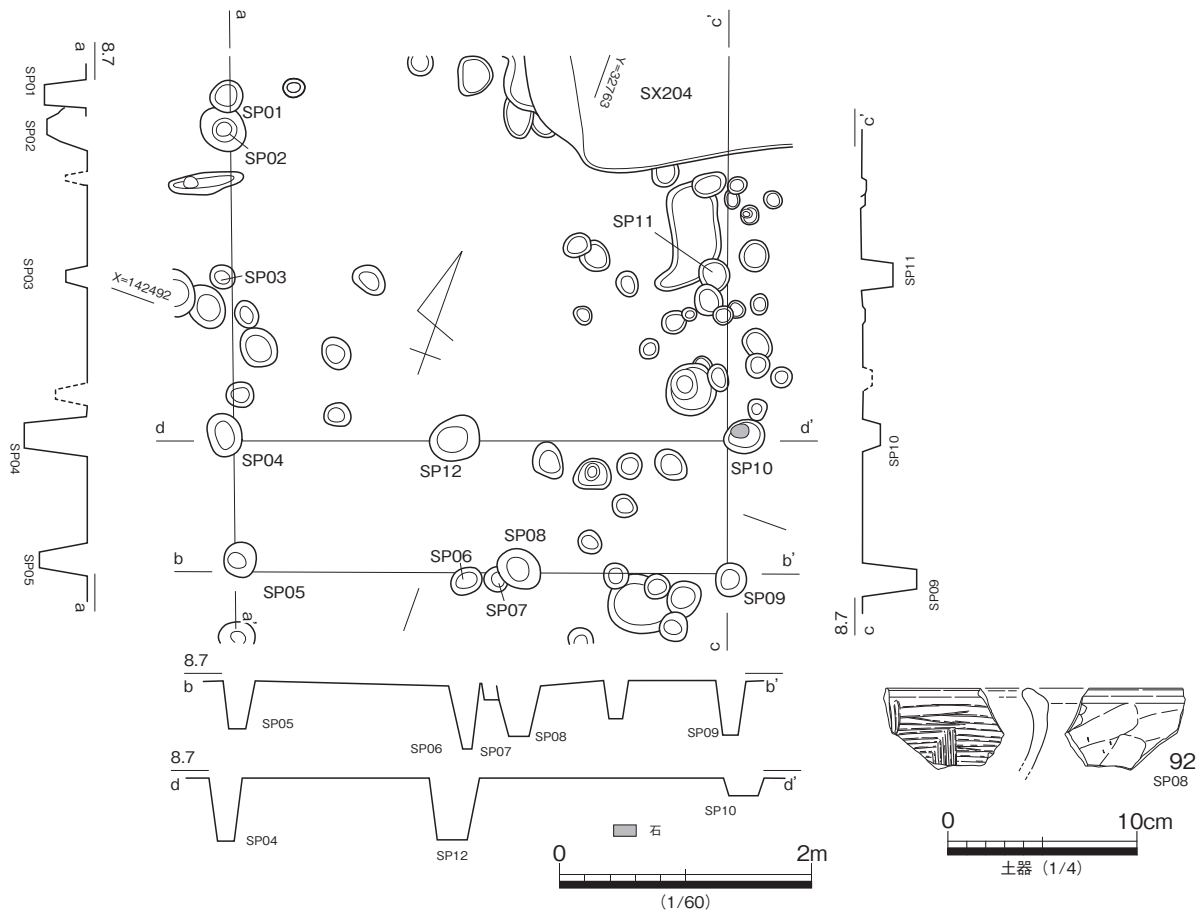
Ⅱ-1区中央部の北壁際で検出した南北棟の掘立柱建物である。身舎は梁間2間、桁行2間で南面に廂をもつ構造である。北側柱列の東端部はSX204により切り込まれており、北東端部の隅柱を欠く。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

2間(2.5m)×2間(3.9m)、面積9.75㎡、主軸方位N22.0°Wを測る。柱間は梁間1.2～1.3m、桁行1.6～2.0mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径0.25～0.35m、深さ0.15～0.4mを測る。なお、SP10からは根石を検出した。

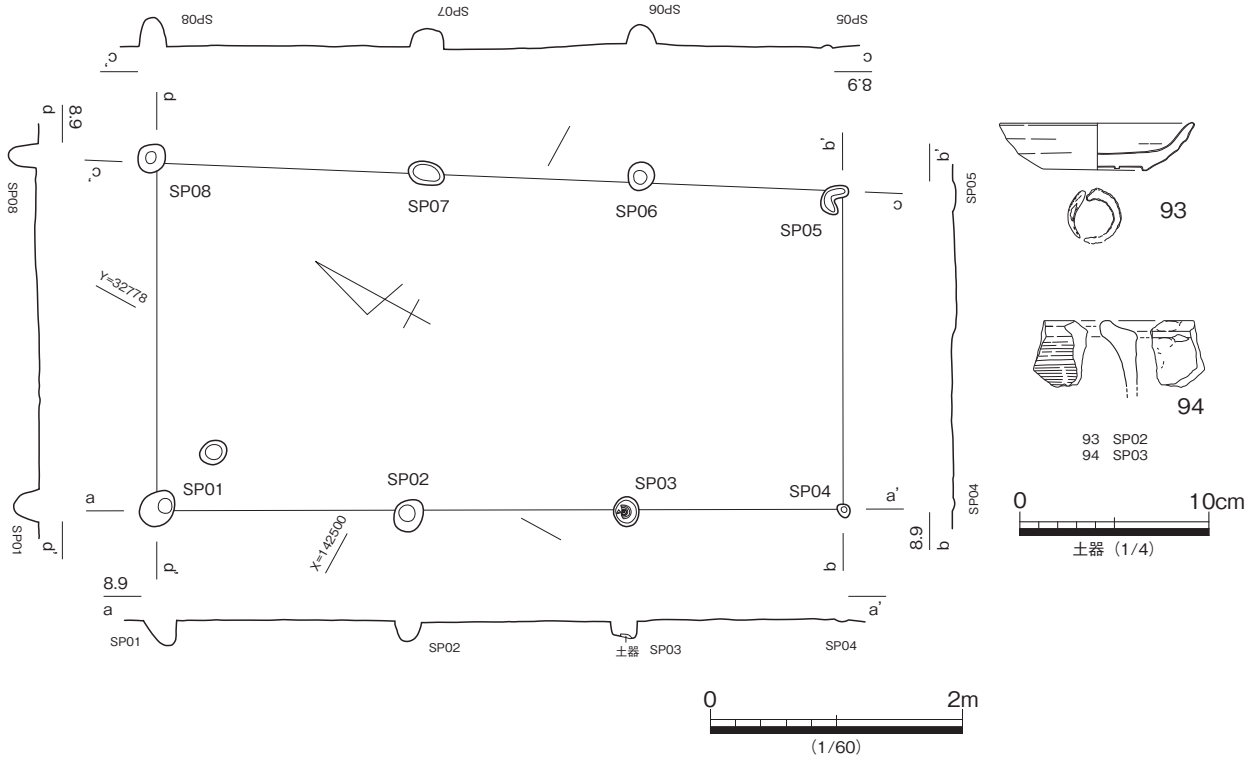
柱穴からは土師器細片が極少量出土した。92はSP08から出土した土師器摺鉢の口縁部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB206は中世後半の建物跡の可能性が高い。

SB207(第21図)

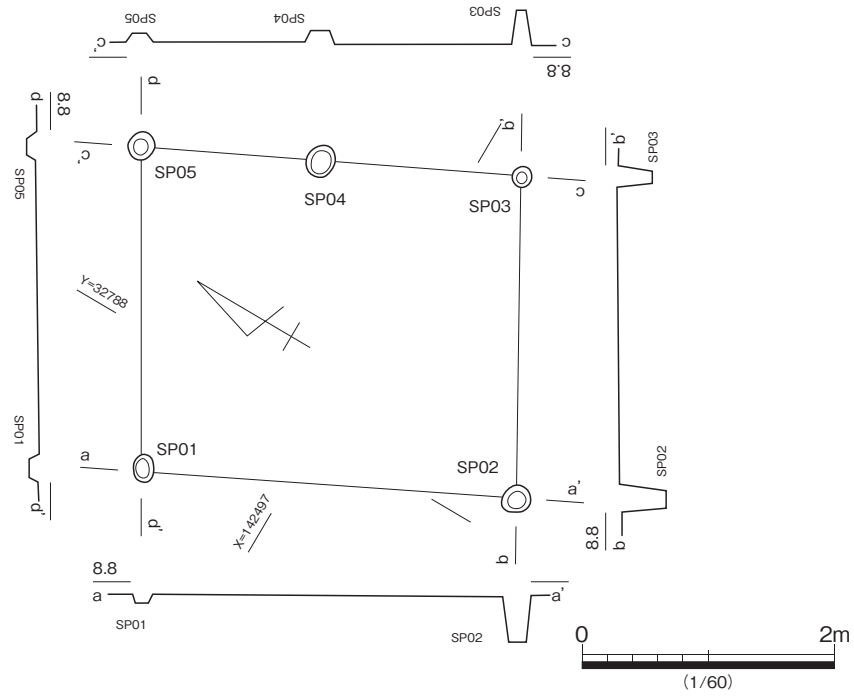
Ⅱ-1区中央で検出した南北棟の掘立柱建物で、削平を受け残りが悪い建物である。1間(2.5～2.8m)×3間(5.5m)、面積14.6㎡、主軸方位N26.0°Wを測る。柱間は梁間2.5m～2.8m、桁行1.7m～2.0m



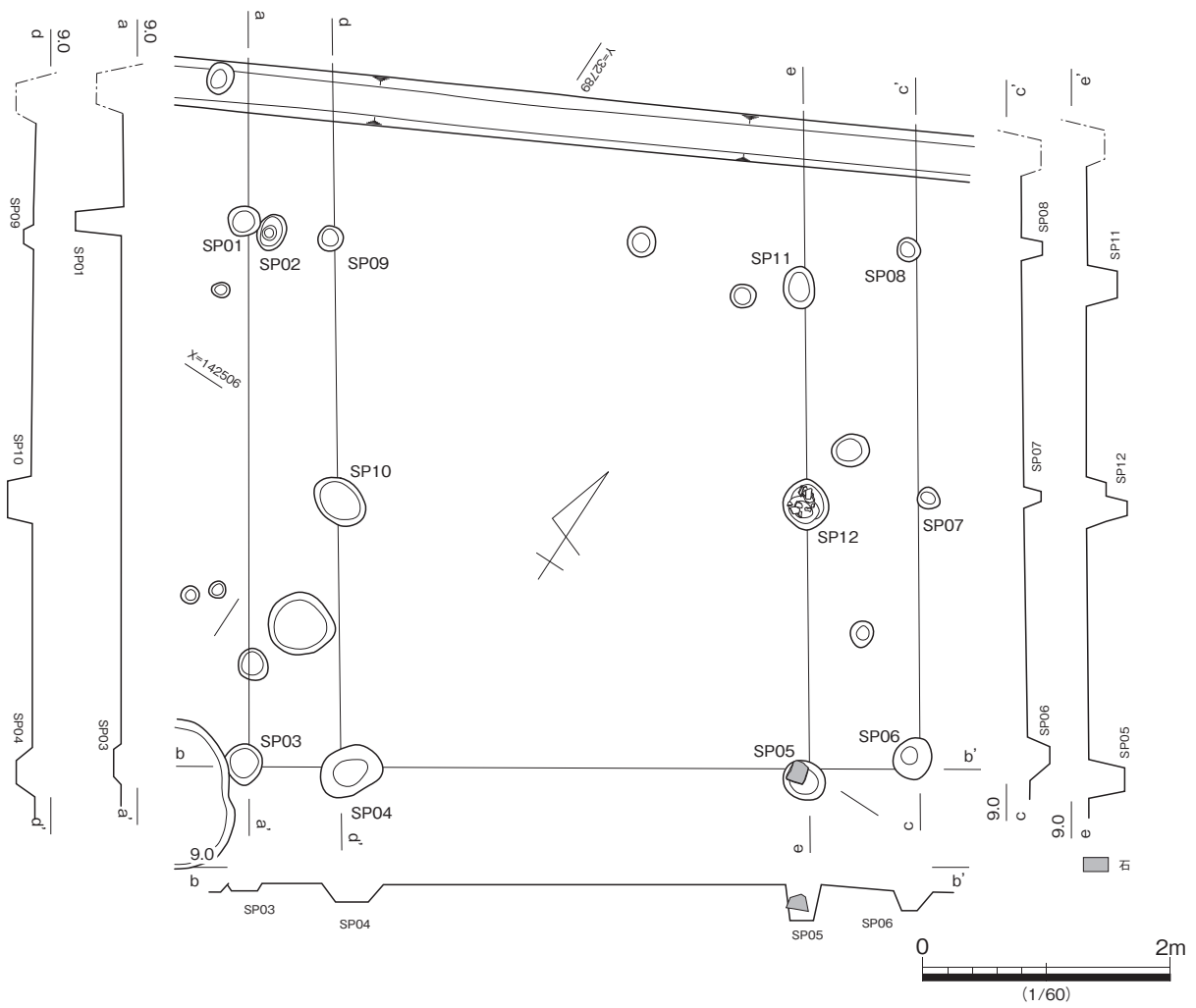
第20図 SB206 平・断面、出土遺物



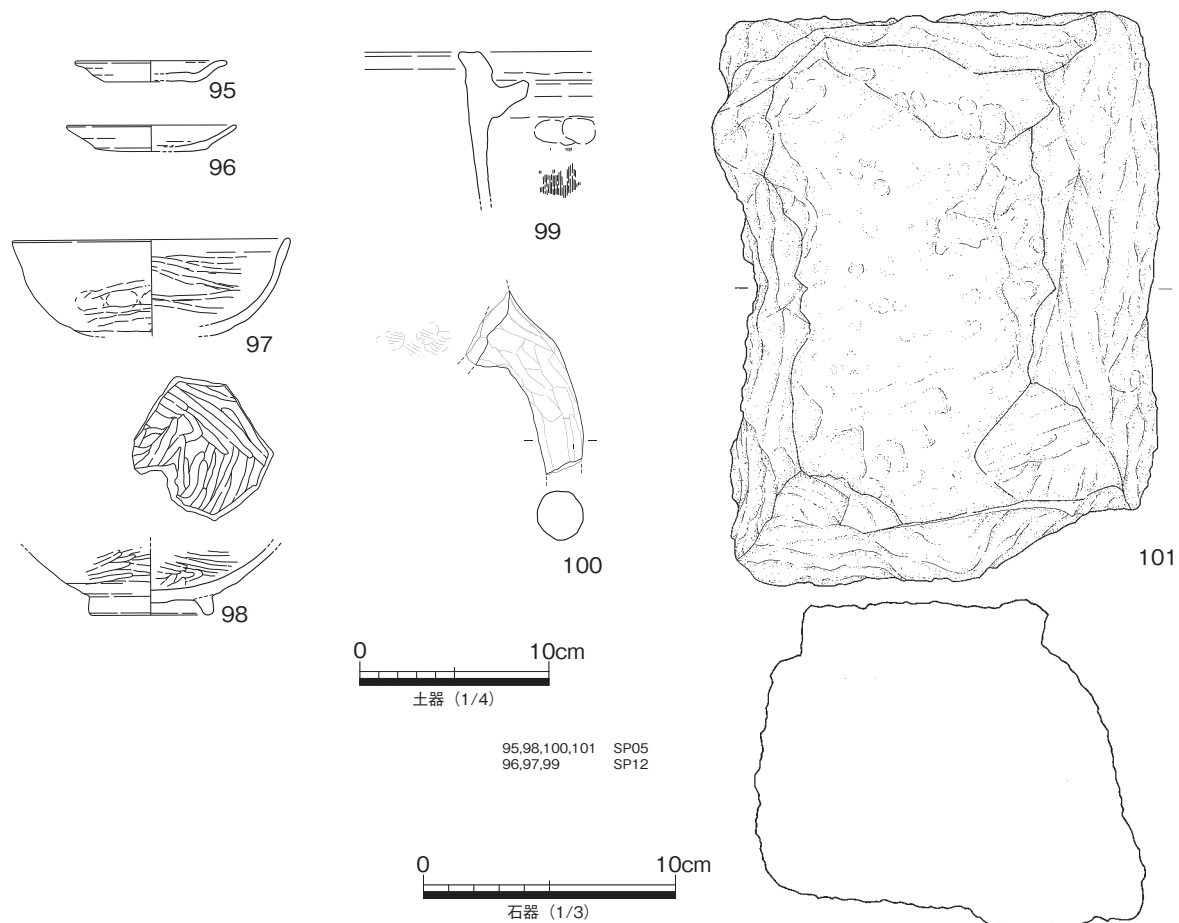
第21図 SB207 平・断面、出土遺物



第22図 SB208平・断面図



第23図 SB209平・断面図



第 24 図 SB209 出土遺物

を測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径 0.1m ~ 0.25m、深さ 0.05m ~ 0.25m を測る。

柱穴からは土師器足釜、陶器皿片等が極少量出土した。93 は SP02 から出土した陶器皿、94 は SP03 から出土した土師器足釜の口縁部片である。出土遺物や検出状況から SB207 は近世の建物と考えられる。

SB208(第 22 図)

Ⅱ - 1 区中央で検出した小型で南北棟の掘立柱建物である。梁間 1 間、桁行 2 間の建物であるが、西側柱列の中間の 1 柱穴を欠く。

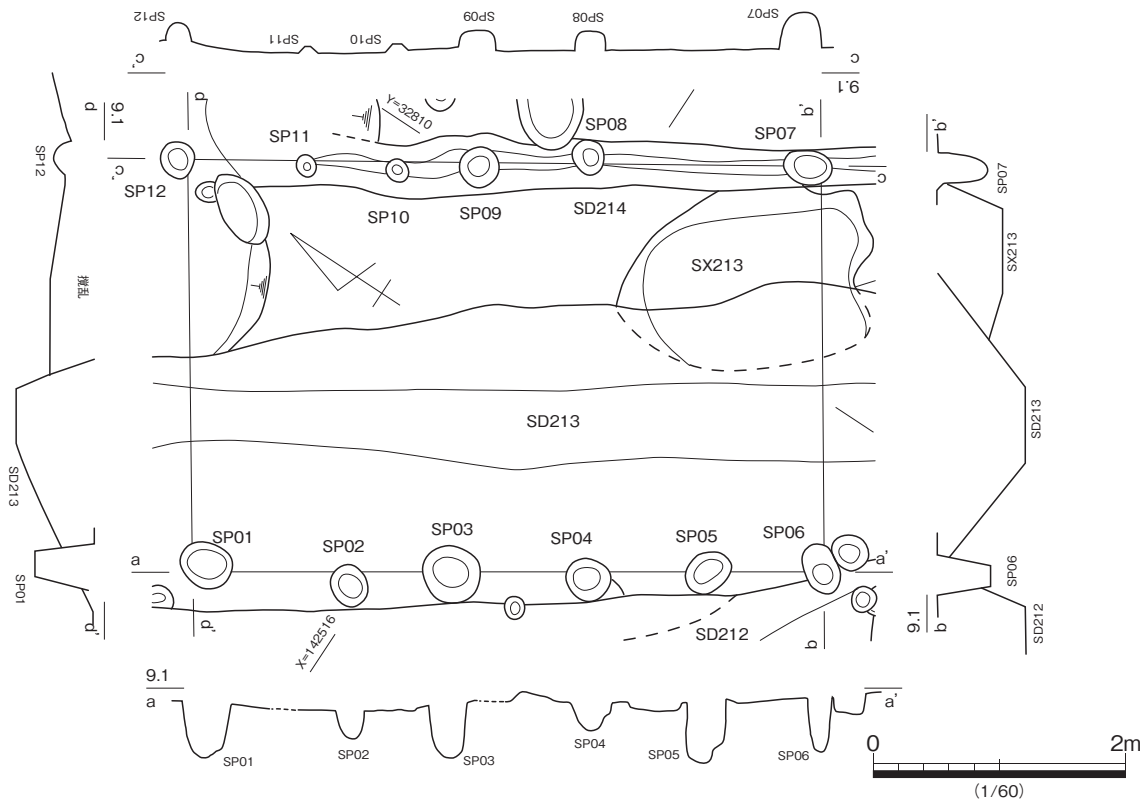
1 間 (2.5m) × 2 間 (3.1m)、面積 7.75㎡、主軸方位 N27.0° W を測る。柱間は梁間 2.5m、桁行 1.4 ~ 1.7m を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約 0.2m、深さ 0.1 ~ 0.3m を測る。

柱穴からは中世の土師器細片が極少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB208 は近世の建物跡の可能性が高い。

SB209(第 23 ・ 24 図)

Ⅱ - 1 区中央部の SD210 の西側に位置し、東西に廂をもつ南北棟の梁間 1 間、桁行 2 間以上の掘立柱建物である。北半部は調査区から外れるため、南半部の約 2/3 を検出した。

1 間 (3.8m) × 2 間 (4.4m) 以上、面積 16.7㎡、主軸方位 N34.0° W を測る。柱間は梁間 3.8m、桁行 1.8 ~ 2.2m



第25図 SB210 平・断面図

を測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径約0.2～0.45m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは12世紀前半頃の土師器小皿・鉢・足釜、黒色土器椀とサヌカイト剥片等が出土した。特に南東隅のSP12・05からは小皿・足釜、黒色土器椀片等がまとまって出土した。95・98・100はSP05から出土した土師器小皿、黒色土器椀、土師器足釜片で、96・97・99はSP12から出土した土師器小皿、黒色土器椀、土師器羽釜の口縁部片である。101はSP05の下位から出土した、直方体状に整形された根石である。出土遺物や検出状況からSB209は12世紀前半以降の建物跡と考えられる。

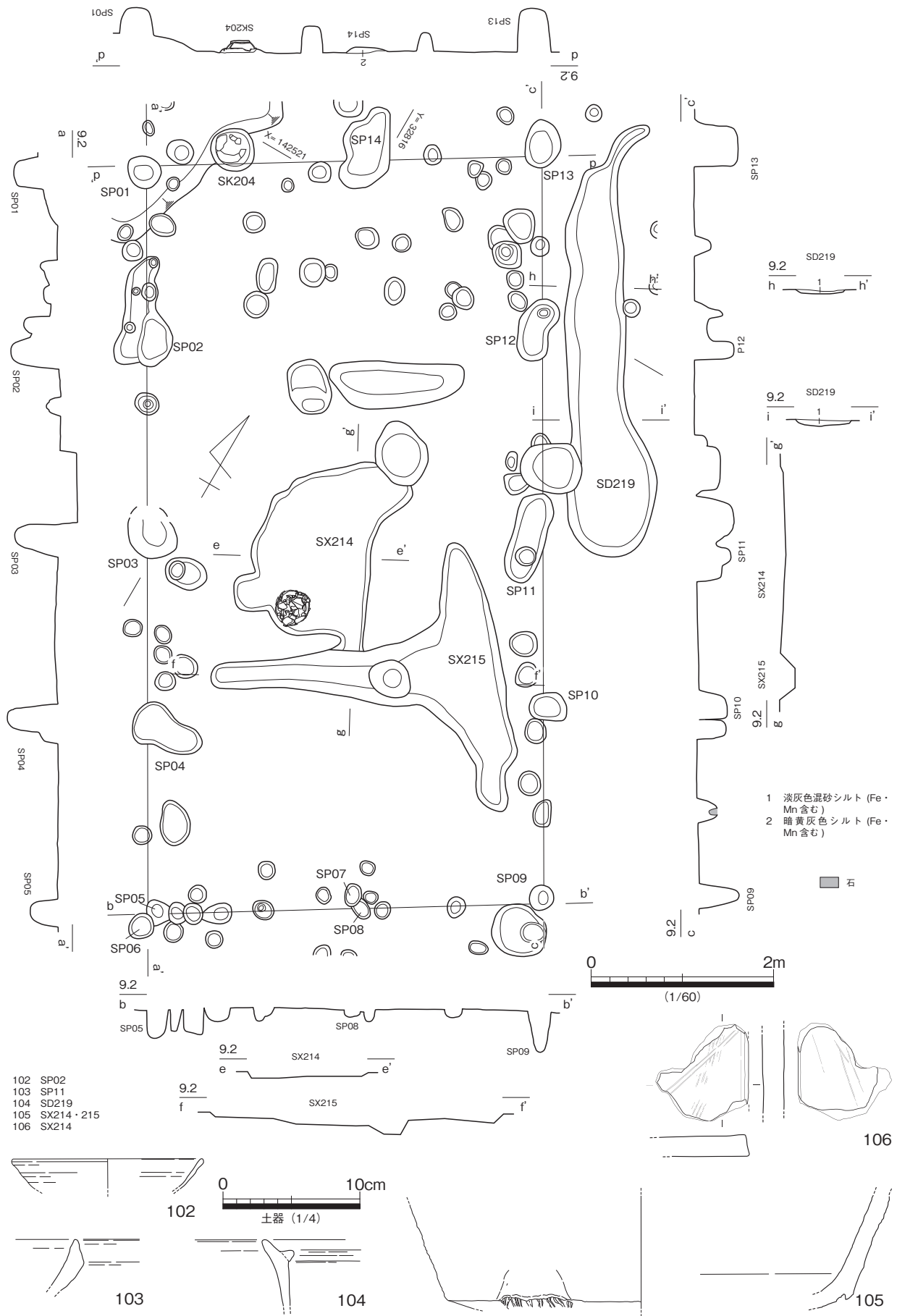
SB210(第25図)

Ⅱ-1区東半部に位置し、SD213・214と重複する南北棟の掘立柱建物である。西側柱列はSD213の上面、東側柱列はSD214の底面で検出していることから、SB210はSD213より後出し、SD214より先行する。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

梁間1間、桁行5間の建物であるが、梁間の間隔が開きすぎることから、調査時に梁間中間の柱穴を見逃している可能性が高い。また、東側柱列では南半部の柱穴を欠くこともあるが、柱間はかなり不揃いである。

1間(3.3m)×5間(5.2m)、面積17.2㎡、主軸方位N34.0°Wを測る。柱間は梁間3.3m、桁行0.7～1.7mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整円形を呈し、径0.15～0.45m、深さ0.05～0.45mを測る。

柱穴からは中世土師器片、サヌカイトの剥片や石核等が少量出土した。出土遺物や検出状況からSB210は12世紀後半以降の中世後半頃の建物跡と考えられる。



第26図 SB211・SD219・SX214・215平・断面、出土遺物

SB211・SD219・SX214・215(第26図)

Ⅱ-1区東半部に位置し、SD213・214の東側で検出した南北棟の梁間2間、桁行4間の建物である。床面内に中世の浅い落ち込み状の遺構であるSX214・215と重複しているが、切り合わないので新旧関係は掴めない。東側柱列の東側には柱筋に合わせてSD219が隣接し、位置関係や検出状況からSD219はSB211の雨落ち溝と考えられる。

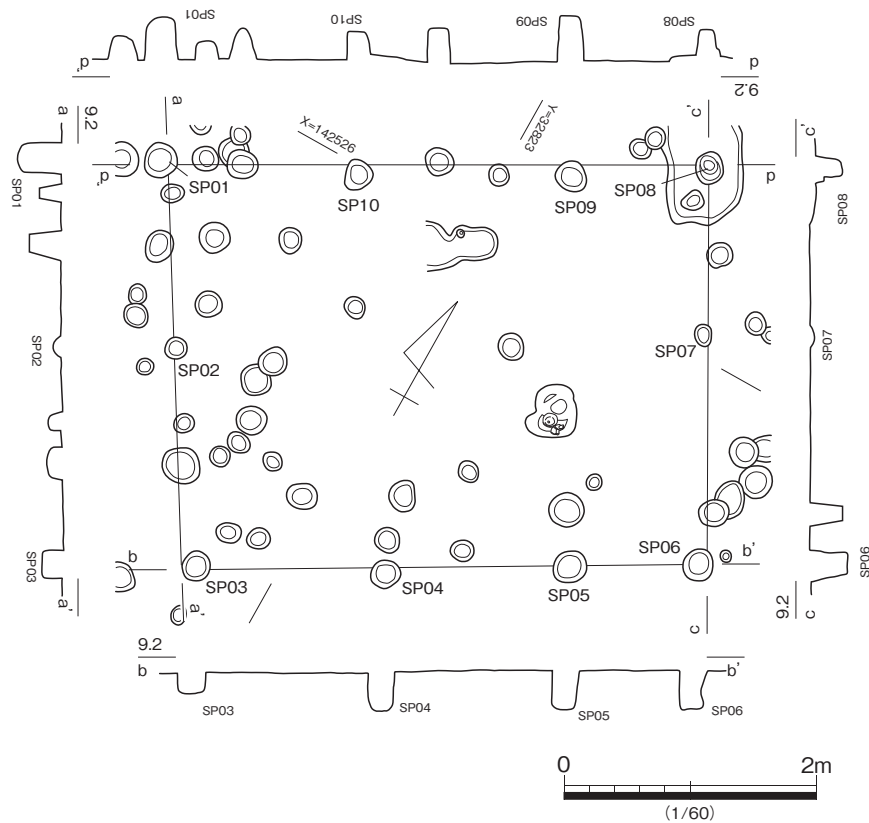
2間(4.4m)×4間(8.4m)、面積37.0㎡、主軸方位N29.5°Wを測る。柱間は梁間2.0m～2.3m、桁行1.6～2.2mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形楕円形を呈し、径0.2～0.9m、深さ0.1～0.45mを測る。柱穴の中でSP12・SP02・SP04等是不整形な楕円形状の柱穴であり、これらの柱穴は抜き取り穴と考えられる。

柱穴からは中世土師器杯・捏鉢、瓦片、サヌカイト片等が少量出土した。102は土師器杯、103は土師器鉢の口縁部片、104は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物や検出状況からSB211は12世紀後半以降の中世後半頃の建物の可能性が高い。

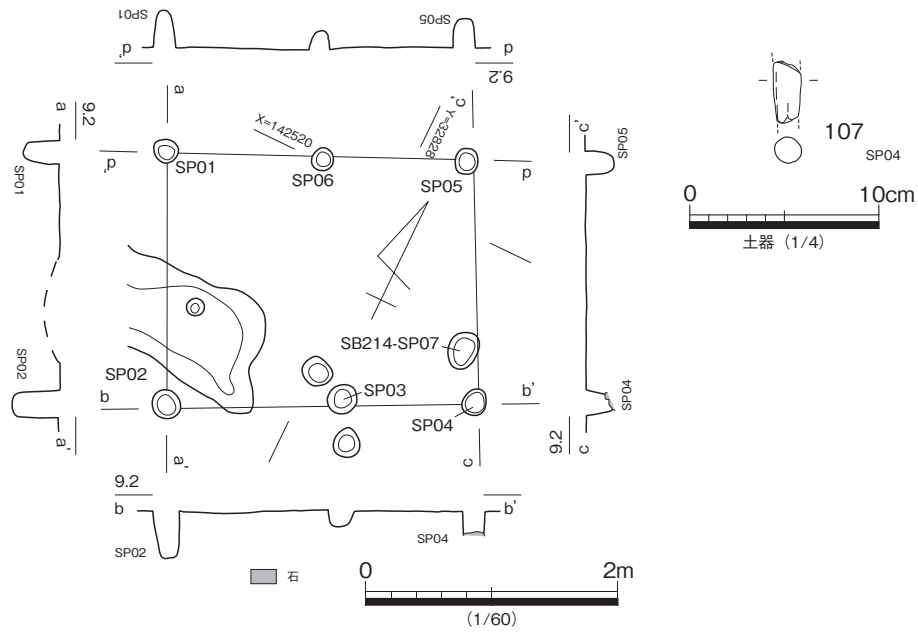
SD219はSB211の東側柱列の東側に隣接して検出した、SB211の雨落ち溝と考えられる不整形な小溝である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。

検出長約4.8m、幅約0.6～1.0m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で、埋土からは土師器甕・足釜、須恵器、備前甕等が少量出土した。

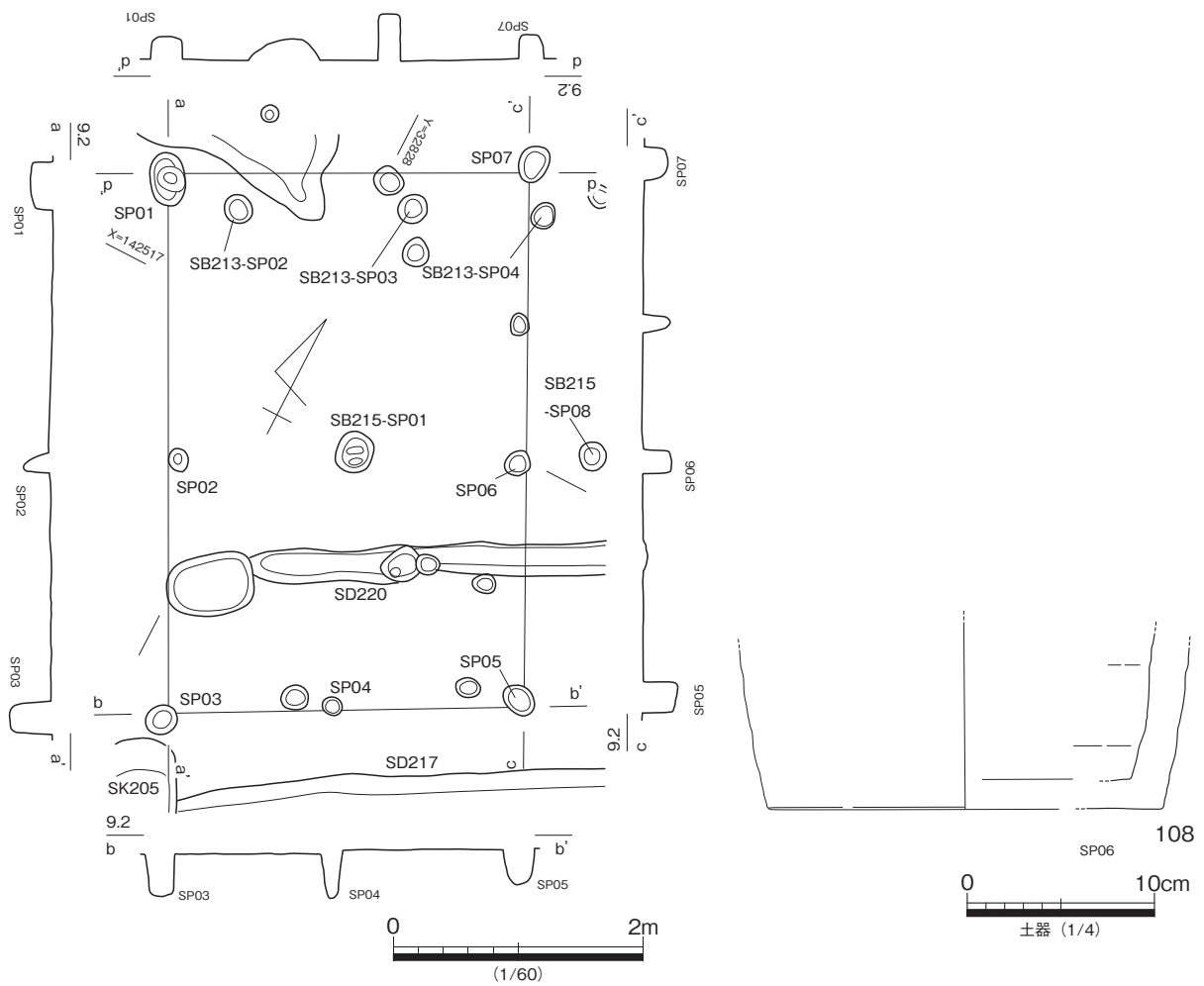
SX214・215はSB211の床面で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。削平を受けたものか残りが悪い。SX214の南半部には埋甕として用いられた、105の土師器火鉢の下半部が出土した。



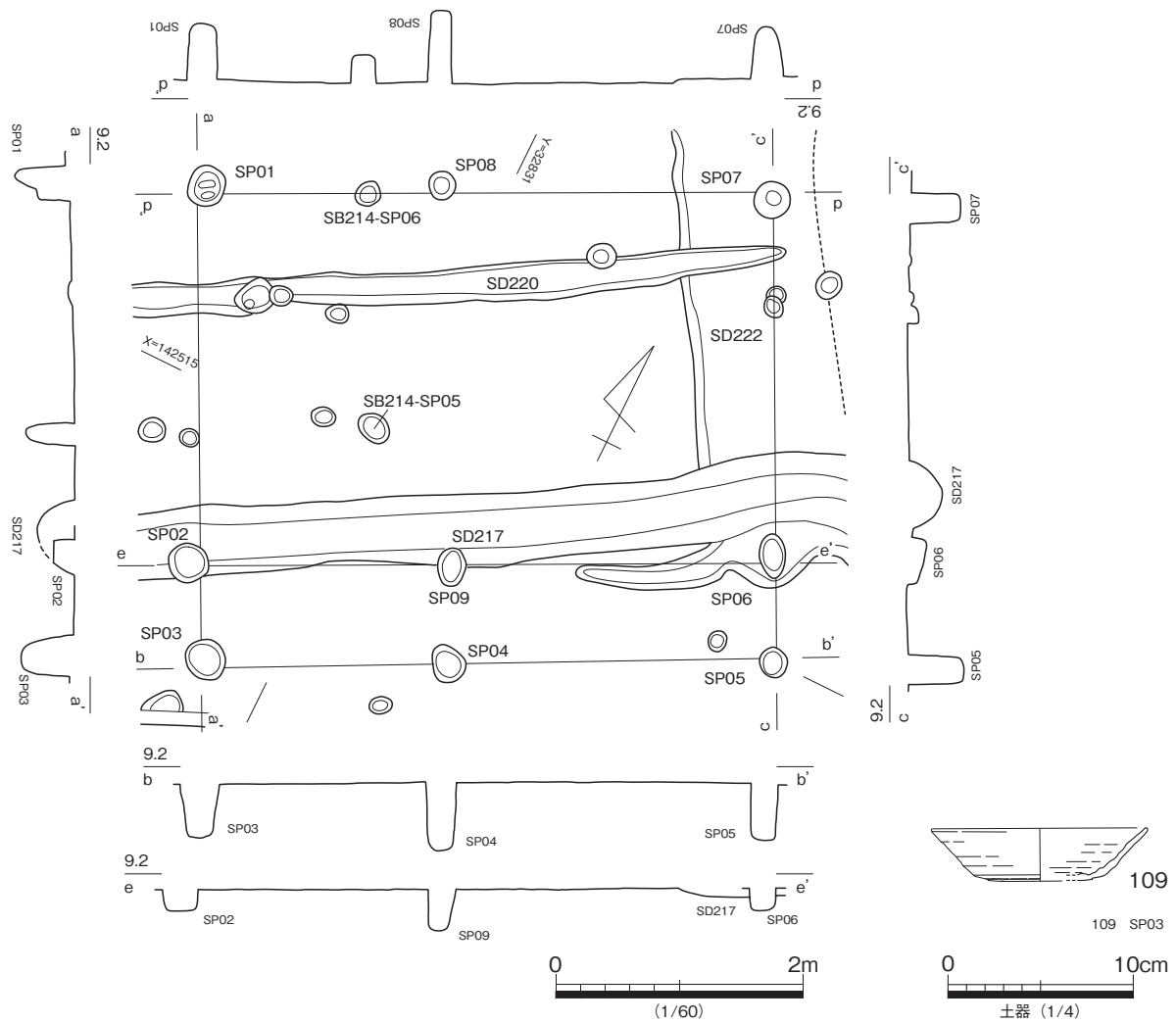
第27図 SB212平・断面図



第28図 SB213平・断面、出土遺物



第29図 SB214平・断面、出土遺物



第30図 SB215 平・断面、出土遺物

SB212(第27 図)

Ⅱ - 1 区東半部の北壁近くに位置し、SB211 の東側で検出した小型で東西棟の梁間 2 間、桁行 3 間の掘立柱建物である。

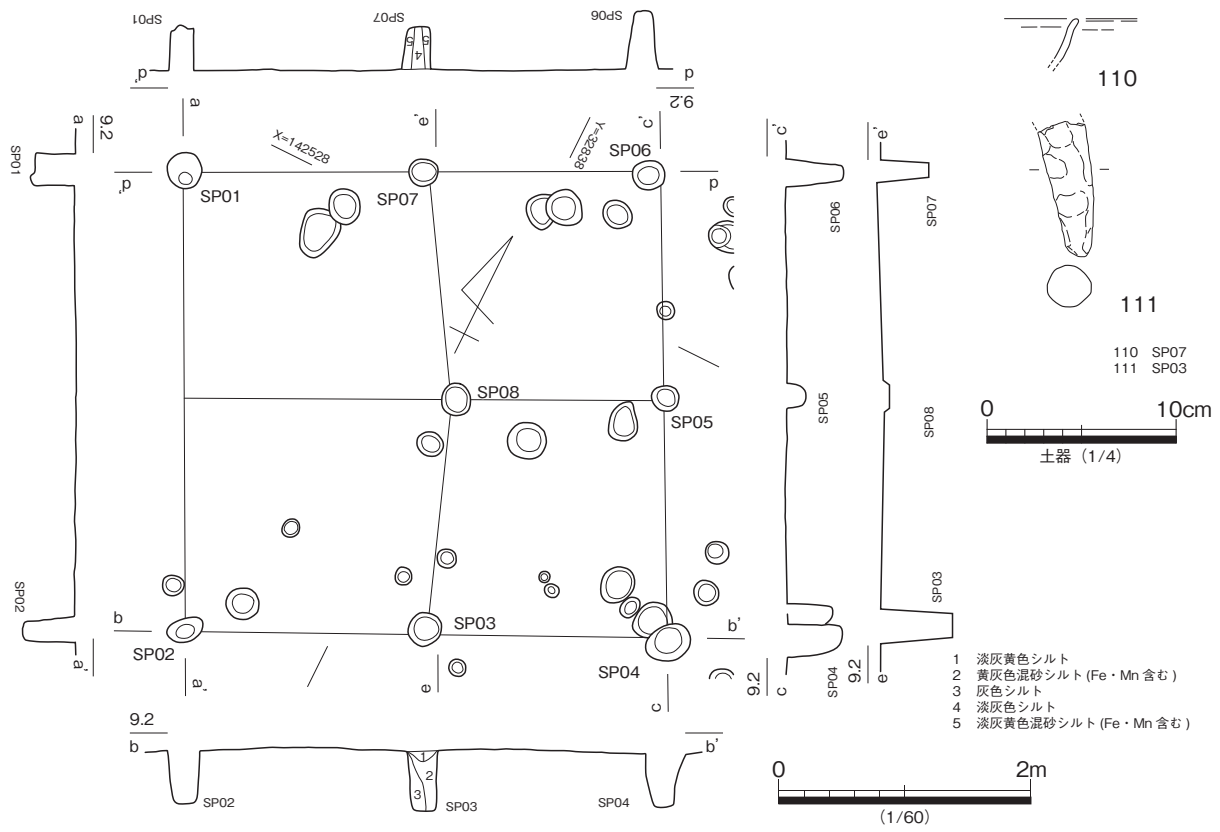
2 間 (3.2m) × 3 間 (4.2m)、面積 7.0㎡、主軸方位 N60.0° E(N30.0° W) を測る。柱間は梁間 1.3 ~ 1.9m、桁行 1.0 ~ 1.5m を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約 0.2m、深さ 0.15 ~ 0.35m を測る。

柱穴からは中世土師器の小皿・鍋片等が少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB212 は中世の建物の可能性が高い。

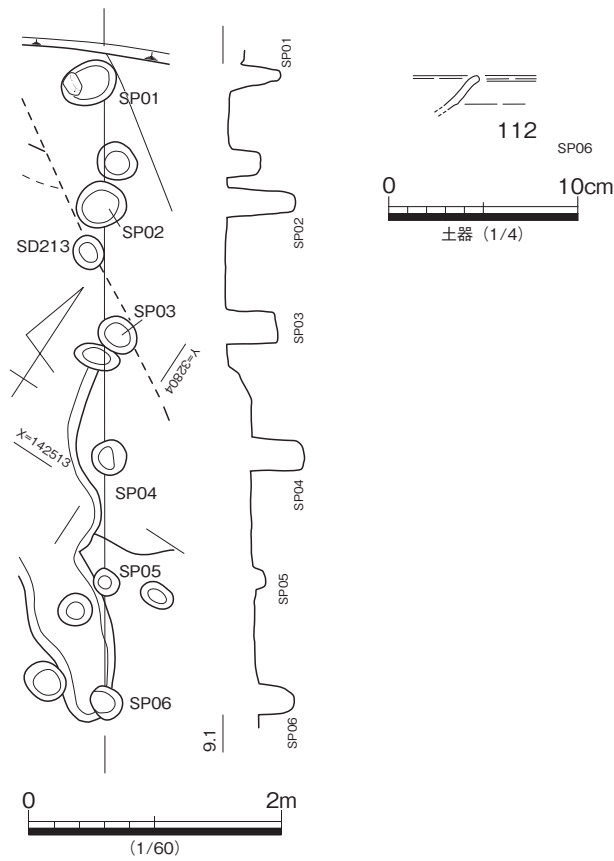
SB213(第28 図)

Ⅱ - 1 区東半部中央付近に位置する小型で東西棟の梁間 1 間、桁行 2 間の掘立柱建物である。この建物は SB214 の北辺と重複するが、柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

1 間 (2.0m) × 2 間 (2.45m)、面積 4.9㎡、主軸方位 N67.0° E(N23.0° W) を測る。柱間は梁間 1.9 ~ 2.0m、桁行 1.2 ~ 1.4m を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約 0.2m、深さ 0.15 ~ 0.35m を測る。なお、SP04 の底部には根石を検出した。



第31図 SB216 平・断面、出土遺物



第32図 SA201 平・断面、出土遺物

柱穴からは中世土師器足釜片等が極少量出土した。107はSP04から出土した土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB213は中世の建物であろう。

SB214(第29図)

Ⅱ-1区東半部南寄りに位置する南北棟の梁間2間、桁行2間の掘立柱建物である。北辺梁間の中間の柱穴を欠く。この建物はSB213の南辺と重複するが、柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

2間(2.9m)×2間(4.3m)、面積12.5㎡、主軸方位N27.0°Wを測る。柱間は梁間1.3m～1.5m、桁行2.0～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.2～0.4m、深さ0.2～0.3mを測る。

柱穴からは中世土師器の細片や陶器壺片等が少量出土した。108はSP06から出土した備前焼壺の底部である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB214は中世の建物であろう。

SB215(第30図)

Ⅱ-1区東半部南壁際に位置する東西棟で南面廂をもつ梁間1間、桁行2間の掘立柱建物である。この建物はSB214やSD217と重複している。SB214とは柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

1間(3.0m)×2間(4.7m)、面積14.1㎡、主軸方位N63.0°E(N27.0°W)を測る。柱間は梁間3.0m、桁行2.0～2.6mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.25～0.3m、深さ0.2～0.55mを測る。

柱穴からは土師器小皿・杯、サヌカイトの剥片等が出土した。109はSP03から出土した土師器杯である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB215は中世前半以降の建物跡であろう。

SB216(第31図)

Ⅱ-1区東半部のSD223の東側で検出した東西棟の総柱建物である。梁間2間、桁行2間の建物であるが、西梁間の1柱穴を欠く。

2間(3.7m)×2間(3.8m)、面積14.0㎡、主軸方位N64.0°E(N26.0°W)を測る。柱間は梁間3.7m、桁行1.6～2.0mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.15～0.25m、深さ0.1～0.6mを測る。

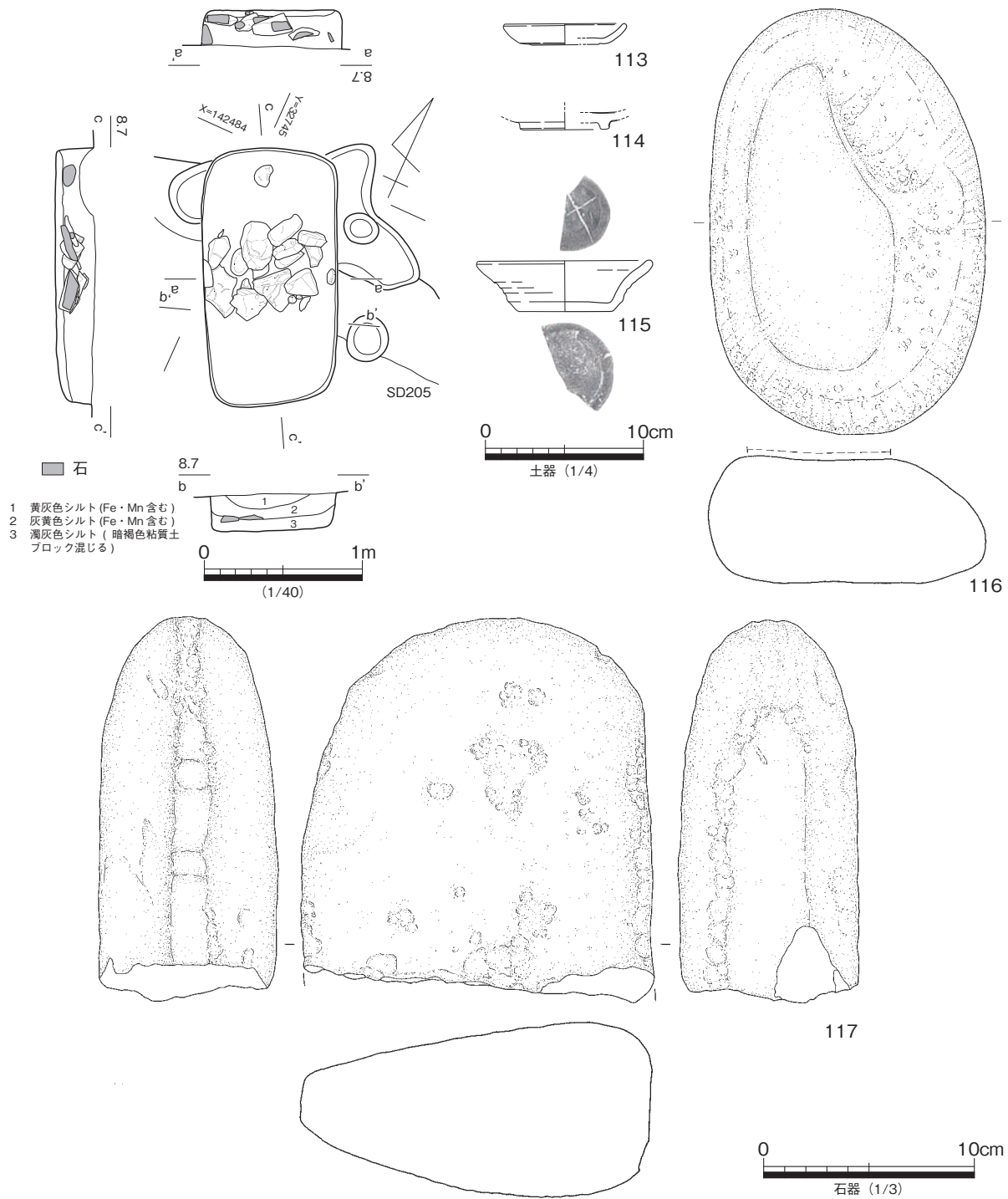
柱穴からは土師器杯・足釜、青磁片等が少量出土した。110は柱穴SP07から出土した土師器杯口縁部片である。111は土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB216は中世の建物跡であろう。

SA201(第32図)

Ⅱ-1区東半部に位置しSD212と重複する、南北方向の5間の柵列である。北壁際に検出したため、北端部の様相は不確かであり、柵列が北に延長する可能性もある。SD212との新旧関係は、遺構の切り合いから、SD212が先行しSA201が後出する。

延長5.0m以上、柱間は約1.0m、主軸方位N34.0°Wを測る。柱穴掘方は円形ないしは不整形円形を呈し、径0.15～0.35m、深さ0.1～0.5mを測る。

柱穴からは土師器杯片、サヌカイトの剥片等が少量出土した。112はSP06から出土した土師器杯片である。



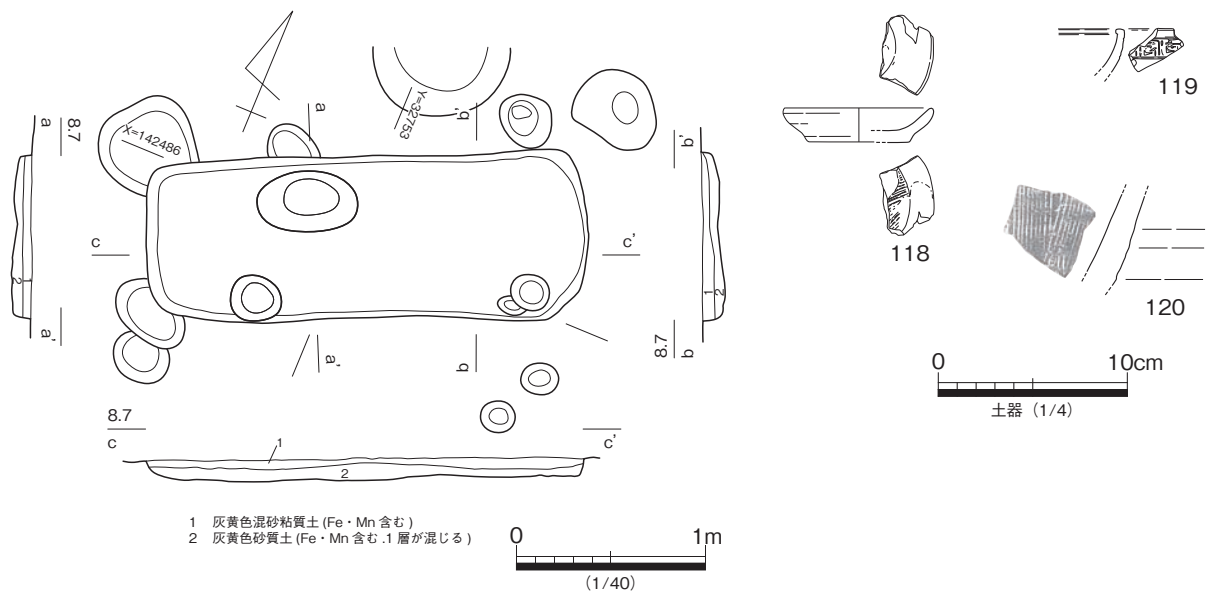
第33図 SK201 平・断面、出土遺物

(2) 土坑跡

SK201(第33図)

Ⅱ-1区西半部の北壁よりで、SD205を切り込んでいる土坑である。東にはSB203が隣接している。平面は南北方向に向いた隅丸長方形を呈し、底面は平坦で断面は側面が垂直気味の逆台形状を呈している。

長径約1.6m、短径約0.9m、深さ約0.25mを測る。埋土は上層が黄灰色・灰色のシルト、下層が濁灰



第 34 図 SK202 平・断面、出土遺物

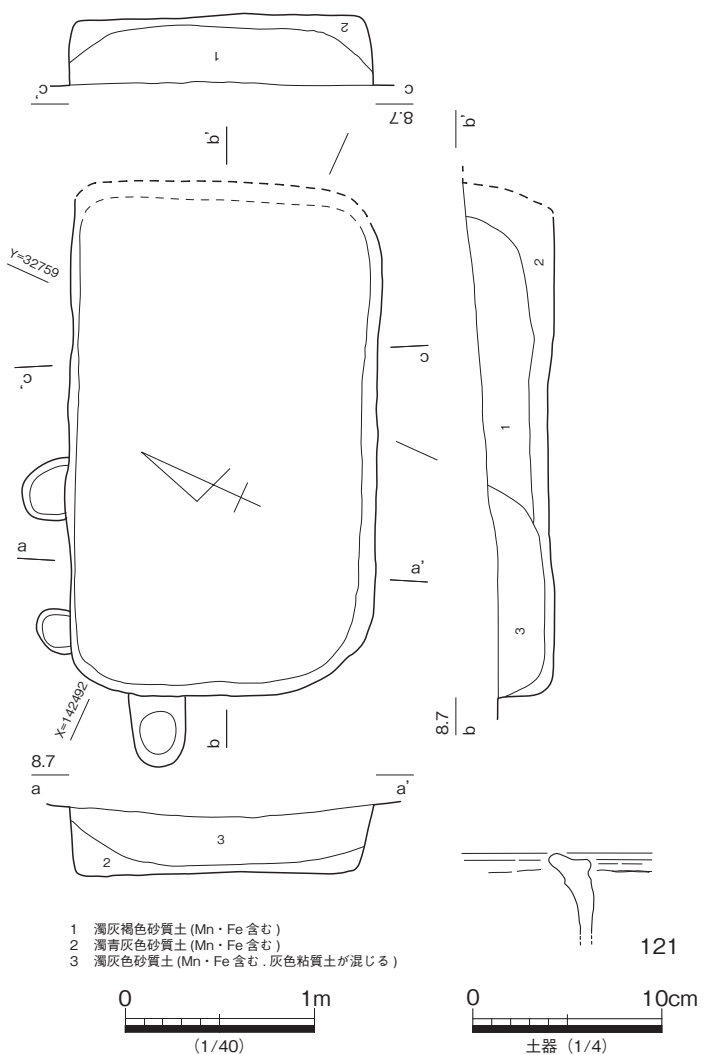
色のシルトからなる。中央部では埋土の中位から下位にかけて 20～30cm 大の礫を集積した状態で検出したが、意図的な石組みとは考えられない。集積の石材は花崗岩・安山岩・砂岩・サヌカイト等で、円礫・角礫が混在している。

埋土からは土師器・陶器・磁器等が少量出土した。113 は土師器小皿で、114 は白磁椀、115 は陶器鉢である。116・117 は集積の中に含まれる砂岩製の石皿と磨石である。出土遺物や検出状況からこの土坑は近世中頃の時期が考えられる。

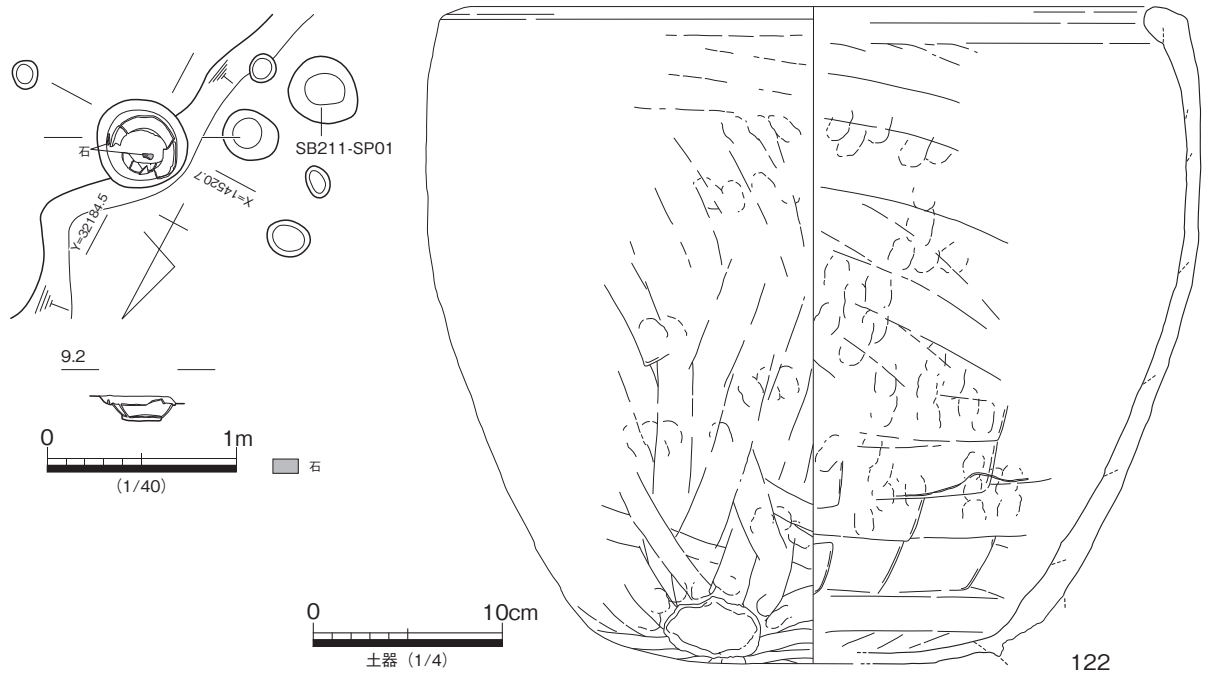
SK202(第 34 図)

Ⅱ - 1 区西半部、北壁よりで検出した土坑である。北には SB203・204・205、南には SD205 が隣接する。平面は東西方向に向いた不整形な長方形状、断面は浅い隅丸逆台形状を呈する。

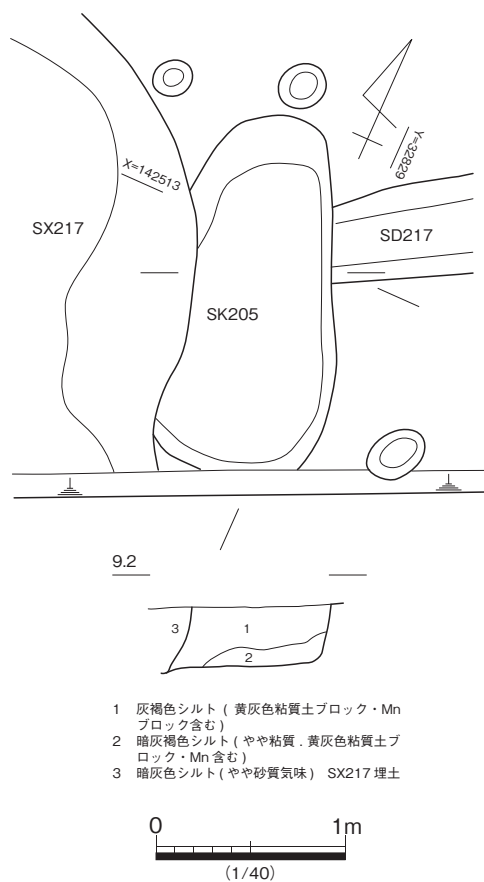
長径約 2.35m、短径約 0.9m、深さ約 0.1m を測る。埋土は灰黄色の粘質土と砂質土を呈する。



第 35 図 SK203 平・断面、出土遺物



第36図 SK204 平・断面、出土遺物



第37図 SK205 平・断面図

埋土からは土師器・瓦質土器・陶器等が少量出土した。118は土師器小皿である。119は瓦質土器鉢の口縁部片で、外面には雷紋を施している。120は陶器播鉢の体部下半部片である。出土遺物や検出状況からこの土坑は近世の遺構であろう。

SK203(第35図)

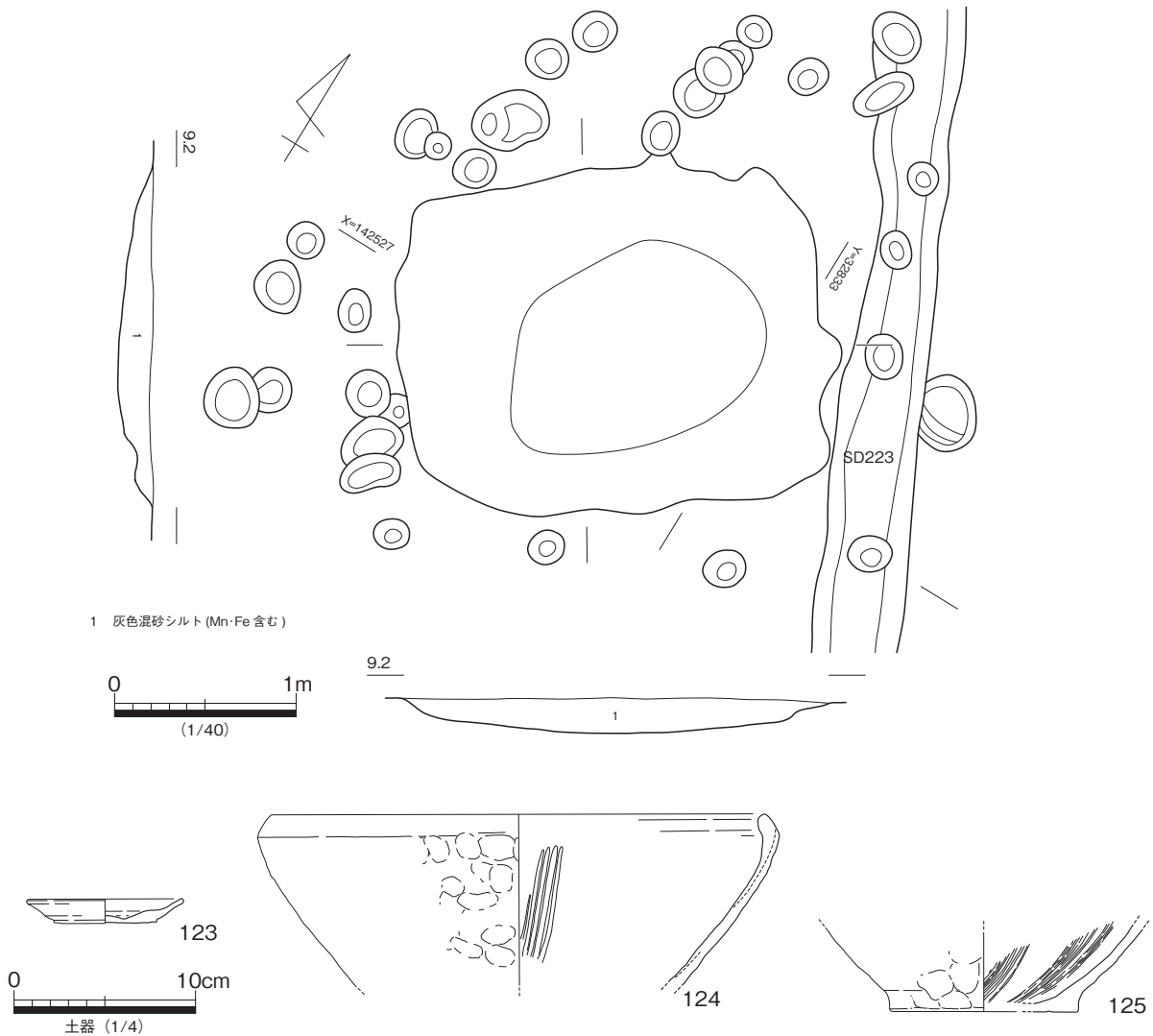
Ⅱ-1区中央部、北壁よりで検出した土坑である。平面は東西方向に向いた不整形な長方形状、底面は平坦で、断面は掘方側面が垂直気味の逆台形状を呈する。

長径約2.55m、短径約1.6m、深さ約0.4mを測る。埋土は3層に分かれ、土師器・備前焼等が少量出土した。121は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SK203は中世頃の土坑であろう。

SK204(第36図)

Ⅱ-1区中央の北よりで検出した、SB211の柱列に隣接する土坑である。掘方からは大型の土師質火鉢のほぼ一固体分が出土した。出土状況から大型火鉢を埋納している埋甕状の土坑である。

平面は円形状、断面は浅い逆台形状を呈する。径約



第38図 SK206 平・断面、出土遺物

0.55m、深さ約0.15mを測る。埋土からは大型の土師質の火鉢、焼土塊等が出土した。122は土師質の大型火鉢である。ほぼ完形に近いが、底部の支脚を欠く。出土遺物からSK204は中世後半頃の土坑であろう。

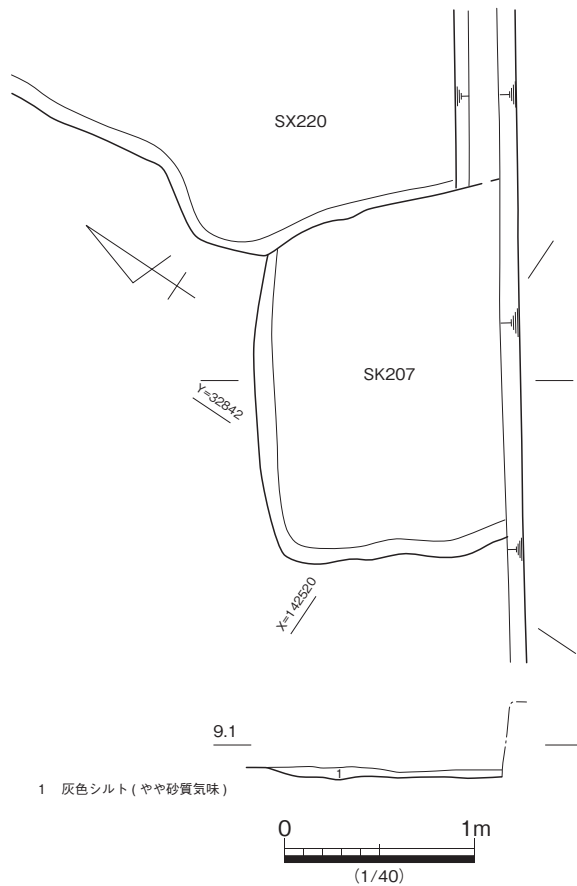
SK205(第37図)

Ⅱ-1区東半部で検出した土坑である。西辺部はSX217により切り込まれている。平面は不整形な楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。

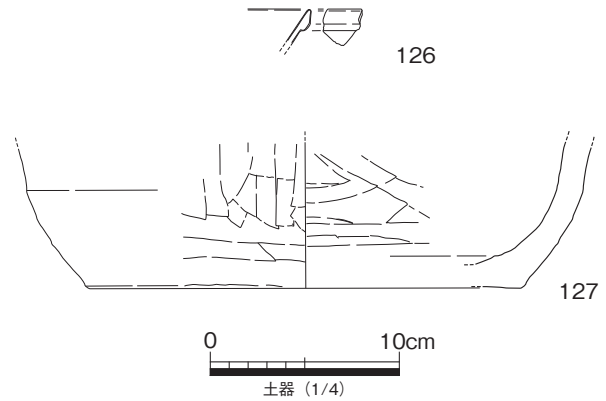
長径約1.9m、短径0.75m以上、深さ約0.3mを測る。埋土は2層に分かれ上層は灰褐色シルト、下層は暗灰褐色のシルトである。埋土からは弥生土器、中世土師器、須恵器等が少量出土した。

SK206(第38図)

Ⅱ-1区東半部、北壁よりで検出した比較的大型の土坑である。平面は凹凸のある不整形な長方形を、断面は幅広な皿状を呈している。



第 39 図 SK207 平・断面、出土遺物



第 40 図 SK208 平・断面図

長径約 2.3m、短径約 1.8m、深さ約 0.2m を測る。埋土は灰色系のシルトで、土師器小皿・播鉢・足釜、備前焼片や焼土塊等が出土した。123 は土師器小皿である。124・125 は土師器播鉢の上半部と底部で、同一固体の可能性がある。出土遺物から SK206 は 14～15 世紀頃の土坑と考えられる。

SK207(第 39 図)

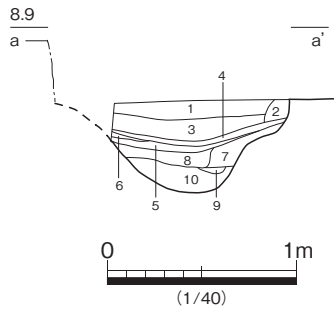
Ⅱ-1 区南東端部で検出した土坑である。南半部は対象地から外れるため、北半部の約 1/2 を検出した。なお、東半部は SX220 に切り込まれているため残りが悪い。平面は不整形な方形状、断面は浅い皿状を呈している。

長径 1.9m 以上、短径 1.4m 以上深さ約 0.05m を測る。埋土は単層で灰色シルトを呈する。埋土からは白磁椀、備前焼壺等が少量出土した。126 は白磁椀の口縁部片である。127 は備前焼甕の底部である。

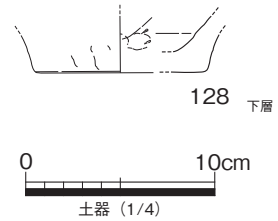
SK208(第 40 図)

Ⅱ-1 区東端部で検出した土坑である。平面は円形状、断面は浅い皿状を呈している。

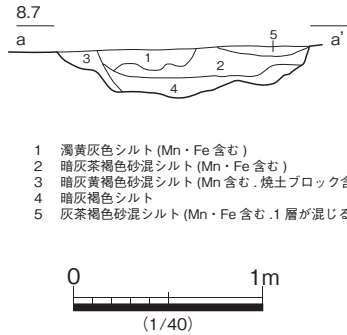
径約 0.9m、深さ約 0.07m を測る。埋土は単層である。埋土からは土師器小皿等が少量出土した。



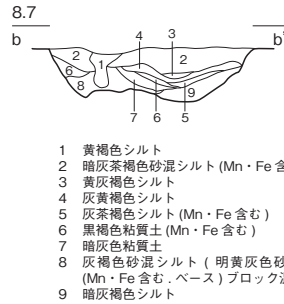
- 1 灰茶褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む)
- 2 濁黄灰褐色砂混シルト (暗黄灰色砂混シルト (ベース ,Mn・Fe 多く混じる) のブロック多く混じる)
- 3 灰褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む)
- 4 暗灰色粘質土
- 5 灰褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む ,3層より砂が少ない)
- 6 灰褐色粘質土
- 7 灰褐色砂混シルト (暗黄灰色砂混シルト (ベース ,Mn・Fe 多く混じる) のブロック多く混じる)
- 8 灰褐色砂混シルト
- 9 灰褐色シルト
- 10 暗灰褐色砂混シルト (暗黄灰色砂混シルト (ベース ,Mn・Fe 多く混じる) のブロック ,暗灰色粘質土ブロック多く混じる)



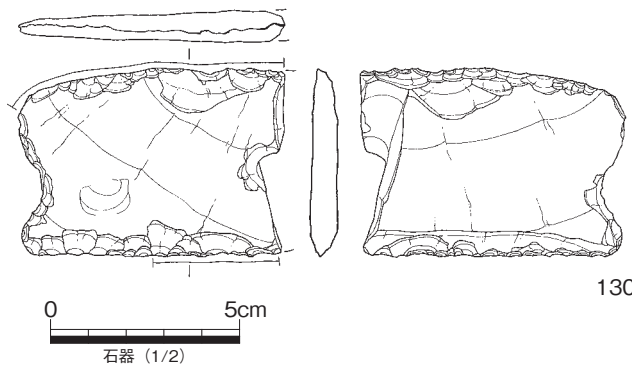
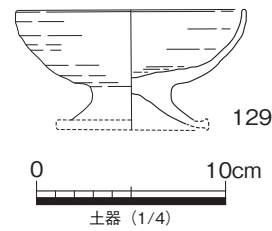
第 41 図 SD201 断面、出土遺物



- 1 濁黄灰色シルト (Mn・Fe 含む)
- 2 暗灰茶褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む)
- 3 暗灰黄褐色砂混シルト (Mn 含む ,焼土ブロック含む)
- 4 暗灰褐色シルト
- 5 灰茶褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む ,1層が混じる)



- 1 黄褐色シルト
- 2 暗灰茶褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む)
- 3 黄灰褐色シルト
- 4 灰黄褐色シルト
- 5 灰茶褐色シルト (Mn・Fe 含む)
- 6 黒褐色粘質土 (Mn・Fe 含む)
- 7 暗灰色粘質土
- 8 灰褐色砂混シルト (明黄灰色砂混シルト (Mn・Fe 含む ,ベース) ブロック混じる)
- 9 暗灰褐色シルト



第 42 図 SD202 断面、出土遺物

(3) 溝状遺構

SD201(第 41 図)

II - 1 区西端部で検出した、北西方向へ直線状に延びる溝状遺構である。南北両端部は対象地の外へ延びる。東には約 1.0m 離れて、SD202 が同方向に配されている。なお、この溝跡は SB201 に切り込まれており、前後関係としては SD201 は SB201 より先行する。

検出長 11.0m、幅 0.8 ~ 1.2m、深さ約 0.5m、方位は N40.5° W を測る。断面の形状は不整形で幅広い U 字状を呈する。埋土は 10 数層に細分できる。堆積状況から少なくとも 1 回以上の改修作業がなされたものと考えられる。

埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。128 は弥生時代中期頃の壺の底部で、この土器が SD201 の時期を示す可能性もあるが、資料が少なく判断は難しい。

SD202(第 42 図)

Ⅱ - 1 区西端部で検出した、北西方向へ直線状に延びる溝状遺構である。南北両端部は対象地外へ延びる。西には約 1.0m 離れて、SD201 が同方向に延びる。また、北端部では SD205 を切り込んでいる。

検出長 11.0m、幅 1.1 ~ 1.4m、深さ約 0.3m、方位は N40.0° W を測る。断面の形状は改修によるものか底面に凹凸が認められ場所によって形状が異なる。埋土は約 9 層に細分できるが、概ね灰色系のシルトが主体を占め、堆積状況や断面の形状から少なくとも 3 回程度の改修がなされたものと考えられる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、サヌカイト製の石庖丁・削器等が少数出土した。129 は 7 世紀前半の須恵器高杯でこの高杯が SD202 の埋没時期を示しているものと考えられる。130・131 はサヌカイト製の石器で、混入品であろう。131 は横長剥片を素材にした削器である。外周の稜線のツブレ痕が顕著に認められることなどから、おそらく打製石庖丁を転用したものでであろう。130 は打製石庖丁片である。表裏両面伴に素材面を大きく残し、素材が横長状の剥片であることが解る。

SD203(第 43 図)

Ⅱ - 1 区西端部で検出した、北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。西には、主軸の向きは幾分異なるが、SD201・202 が同方向に配されている。南北両端部は対象地の外へ延びており、北半部では SD205、南半部では SD204 に切り込まれていることから、前後関係としては SD203 は、SD205・SD204 より先行する。

検出長 11.0m、幅 0.8 ~ 1.3m、深さ約 0.3m、方位は N61.0° W(N29.0° E) を測る。断面はハの字状に開いた U 字状を呈している。埋土は灰色系シルトを呈し、弥生土器・須恵器、サヌカイト製の石鏃等が少数出土したが、出土した須恵器の数は少なく混入の可能性が高い。

133 は弥生時代前期末～中期初頭頃の甕である。132 は 7 世紀前半の須恵器杯片で混入品の可能性がある。134 はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。出土遺物が少ないので問題もあるが、SD203 は弥生時代前期末～中期初頭頃の可能性がある。

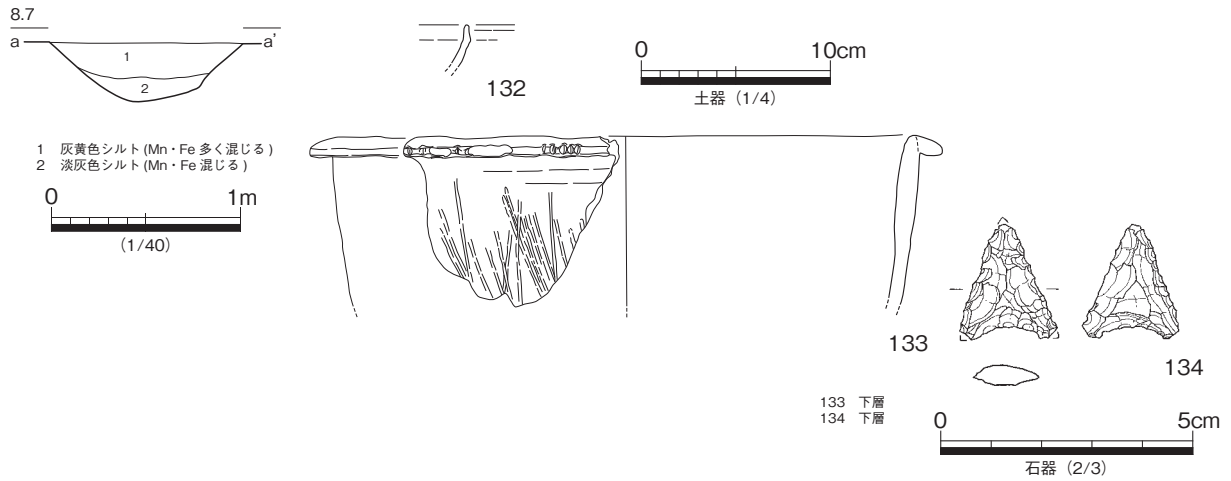
SD204(第 44・45 図)

Ⅱ - 1 区西端部で検出した、西へ湾曲気味に延びる南北方向の不整形な溝状遺構である。南北両端部は対象地外へ延び、SD203・205、SX201 と重複している。SD204 と周囲の遺構との関係を整理すれば、SD204 は SD203 より後出し、SX201 より先行する。なお、SD205 との関係については、検出状況からは不明瞭である。

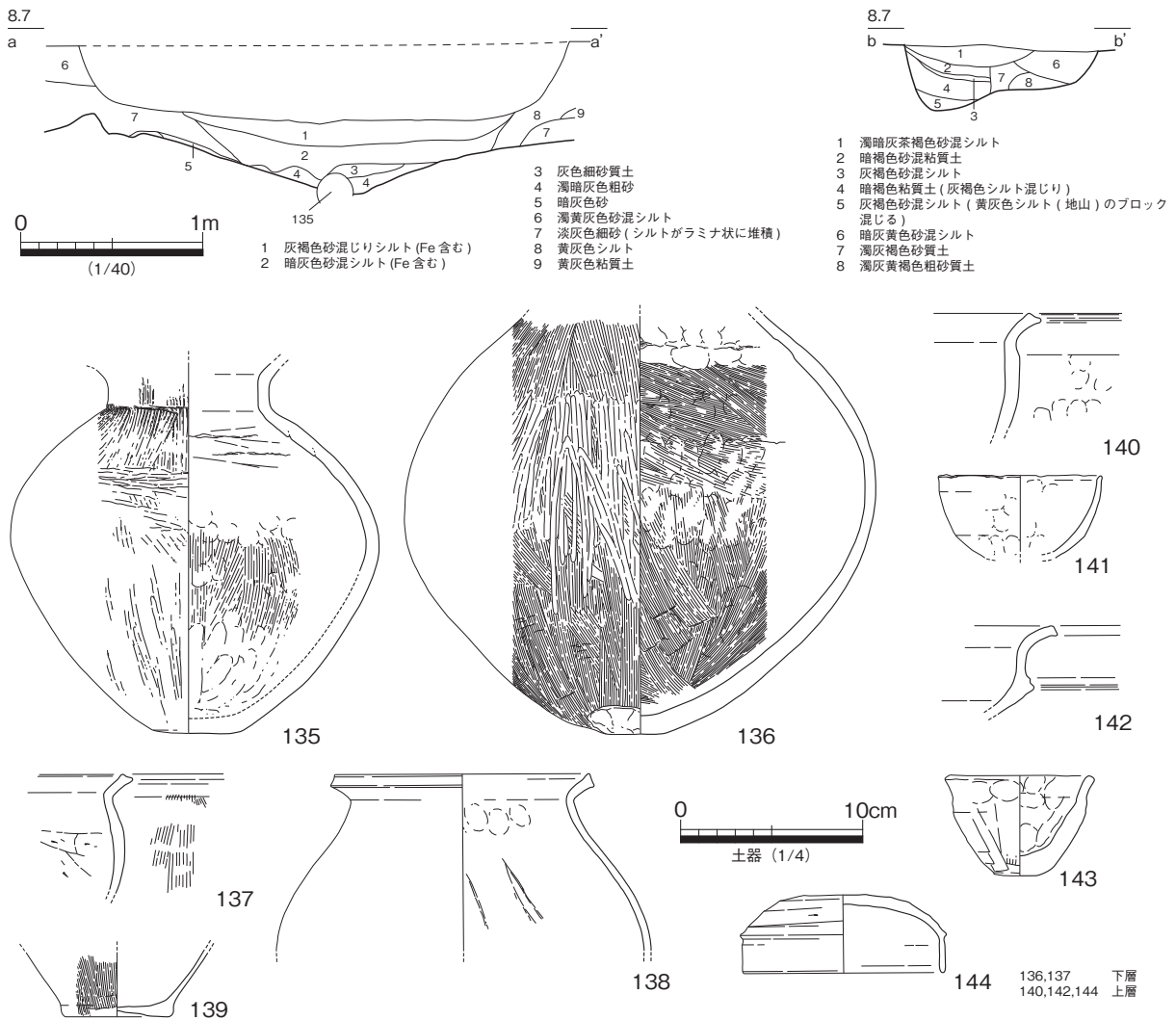
SD204 と SD205 の合流部は、平面の形状は幅広で、底面は他の箇所 비해約 0.3m 程下がっている。SD205 との関係は、調査時において明瞭な切合い関係を掴めてはいないが、検出状況や出土遺物から SD204 は SD205 を切り込んでいる可能性がある。

検出長 12.0m、幅 1.0 ~ 2.5m、深さ 0.4 ~ 0.8m を測る。断面の形状は改修によるものか底面に凹凸が認められるが、概ね幅広な U 字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、堆積状況から 3 度以上の改修が認められる。

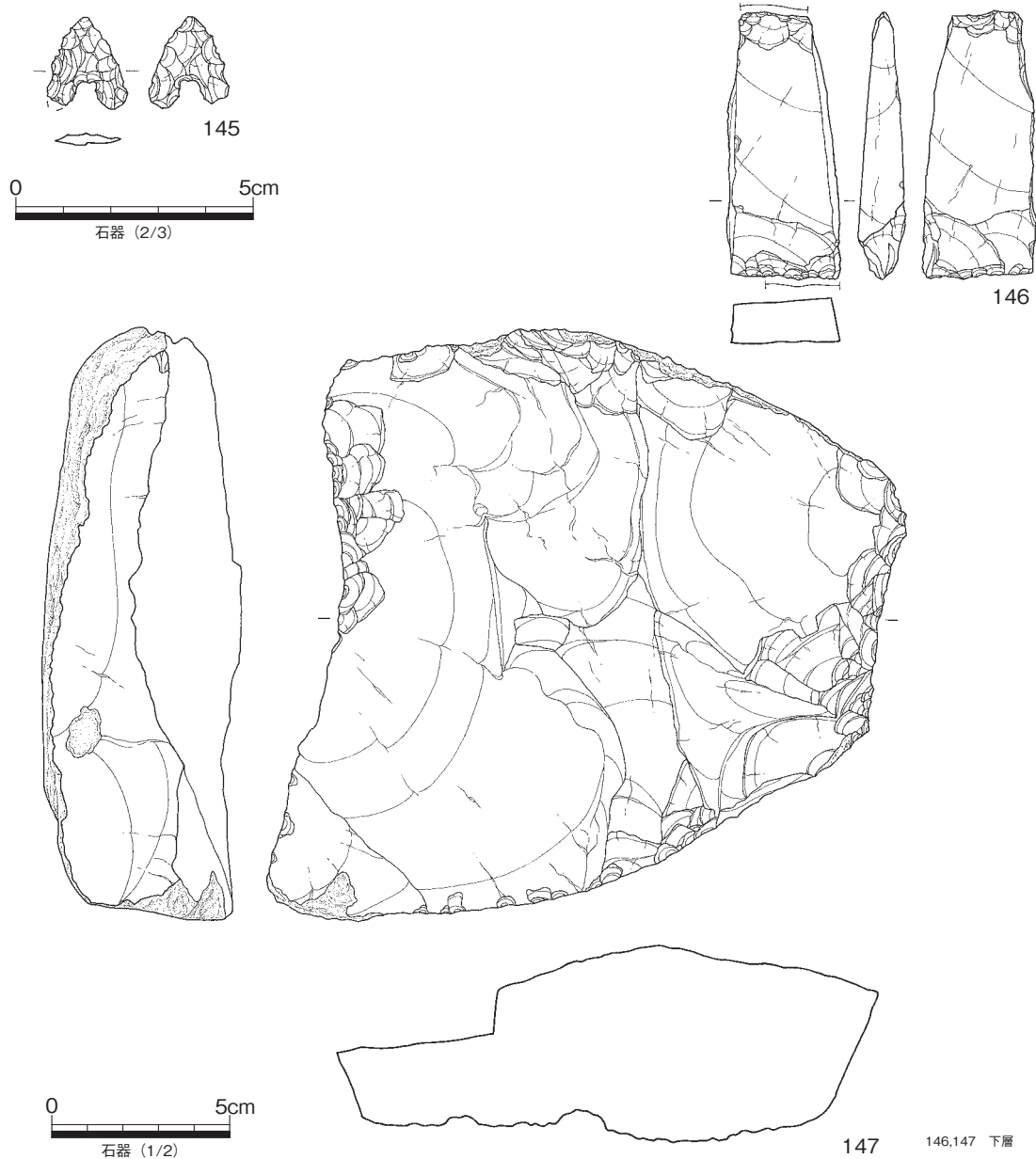
埋土からは弥生土器・須恵器、サヌカイト製石器等が出土した。135 ~ 143 は弥生時代中期後半・後期後半頃の土器である。135・136 は口縁部を欠く、後期後半新相頃の壺である。137・138 は後期後半頃の甕上半部である。139 は中期後半の甕底部である。140・141 は鉢、142 は高杯、143 はミニチュア



第43図 SD203 断面、出土遺物



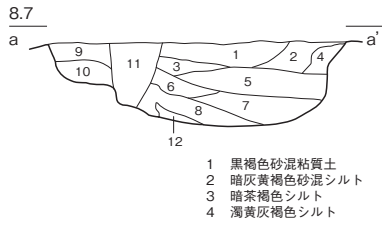
第44図 SD204 断面、出土遺物 (1)



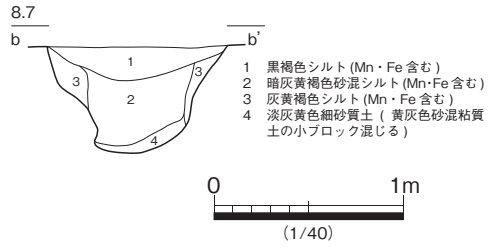
第45図 SD204 出土遺物(2)

土器である。144はTK47併行の須恵器杯蓋である。須恵器の資料は少なく混入品であろう。

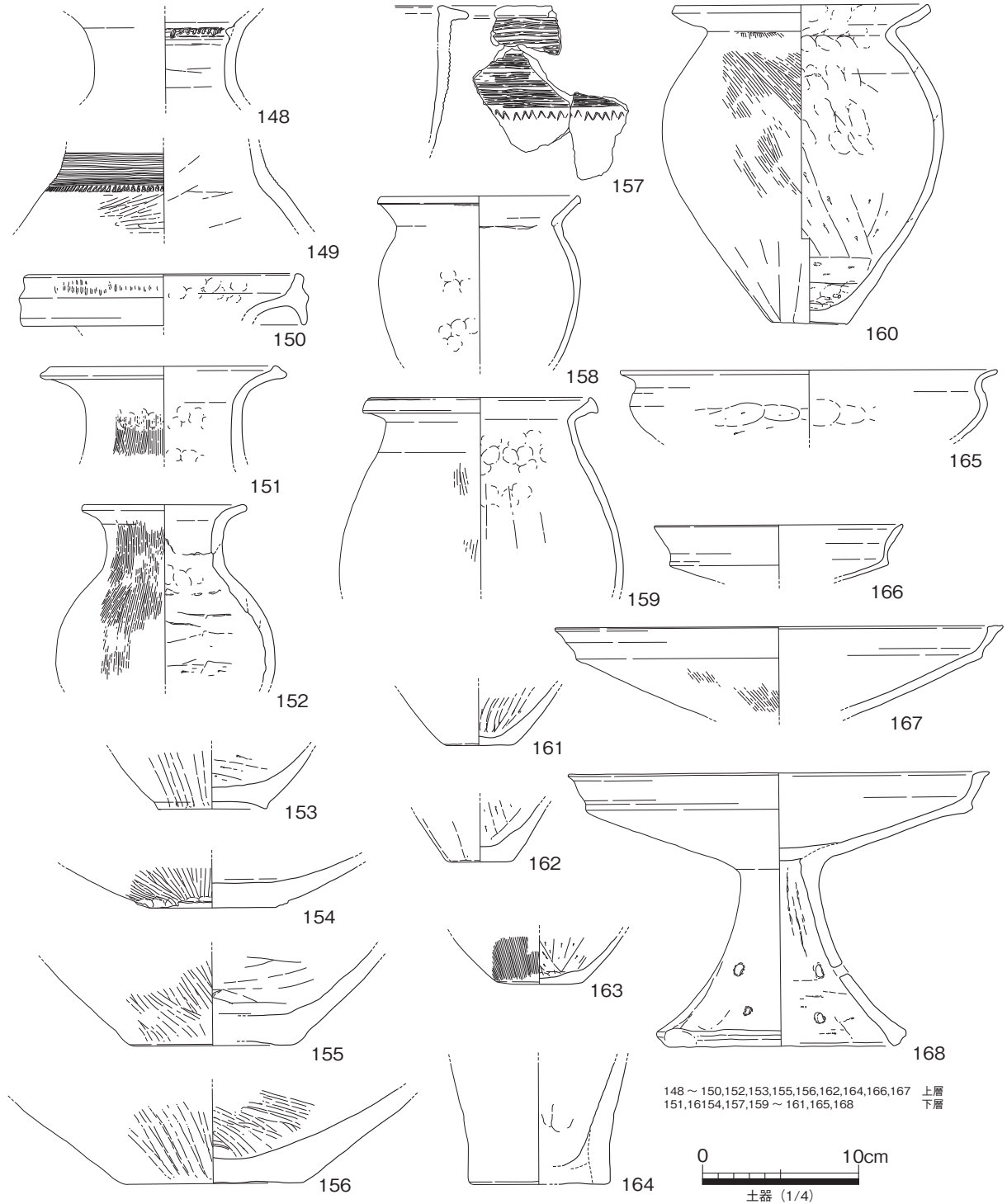
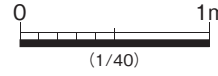
145～147は出土した石器類である。145は凹基式の石鏃である。146は裁断面をもつ楔形石器で、おそらく、石斧ないし石庖丁の転用品であろう。147は大型の石核である。形状や剥取られた剥片の大きさから推定して、石核素材を剥取ることを目的とした石核と考えられる。背面は素材の礫面を顕著に残し、腹面を作業面としている。側面には背面側からの打撃により平坦打面を形成し、最終段階の剥片剥離はこの打面からなされているが、他方向からの剥片剥離痕も顕著に認められる。作業面に残る剥片剥離痕は複数認められるが、最大のものでは、長さ8.5cm・幅15.0cmを測り、かなり大型の目的剥片を剥離したことが推定される。以上の諸点から147は、時代は異なるが、瀬戸内技法の盤状剥片石核のような石核と考えられる。出土遺物からSD204は弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。



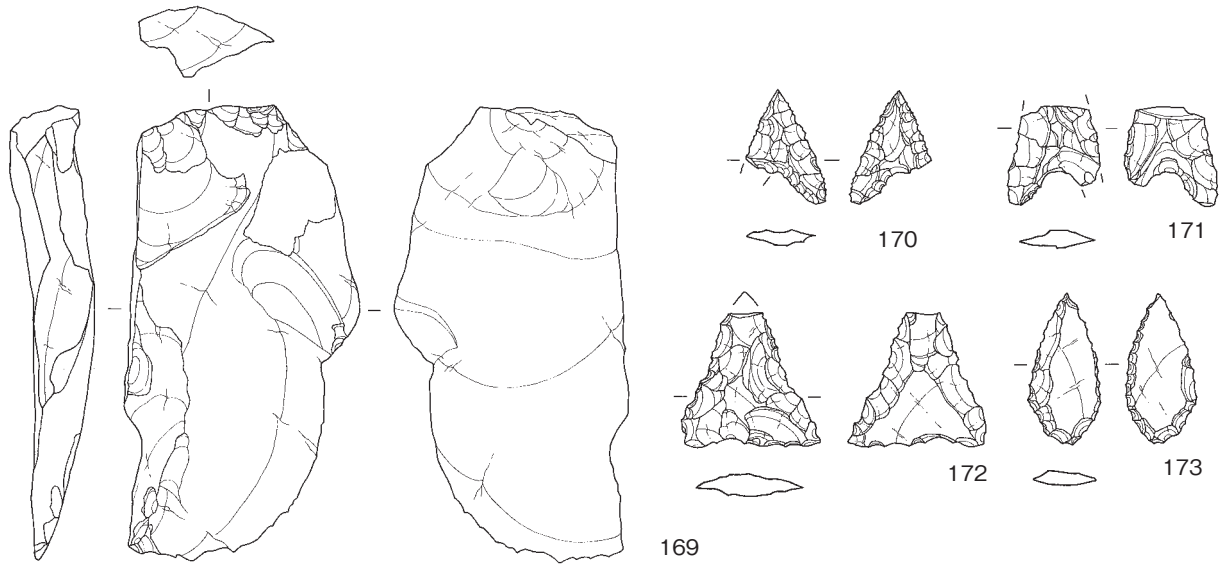
- 5 暗灰褐色シルト
 - 6 暗灰褐色砂質シルト
 - 7 暗灰色細砂
 - 8 暗灰色粗砂
 - 9 灰黄褐色砂混シルト
 - 10 灰茶色砂質土
 - 11 暗灰色シルト (1層のブロック・焼土混じる。底の方は砂質気味) ピット
 - 12 黄灰色砂混粘質土 (Mn 含む)
- 1 黒褐色砂混粘質土
 - 2 暗灰黄褐色砂混シルト
 - 3 暗茶褐色シルト
 - 4 濁黄灰褐色シルト



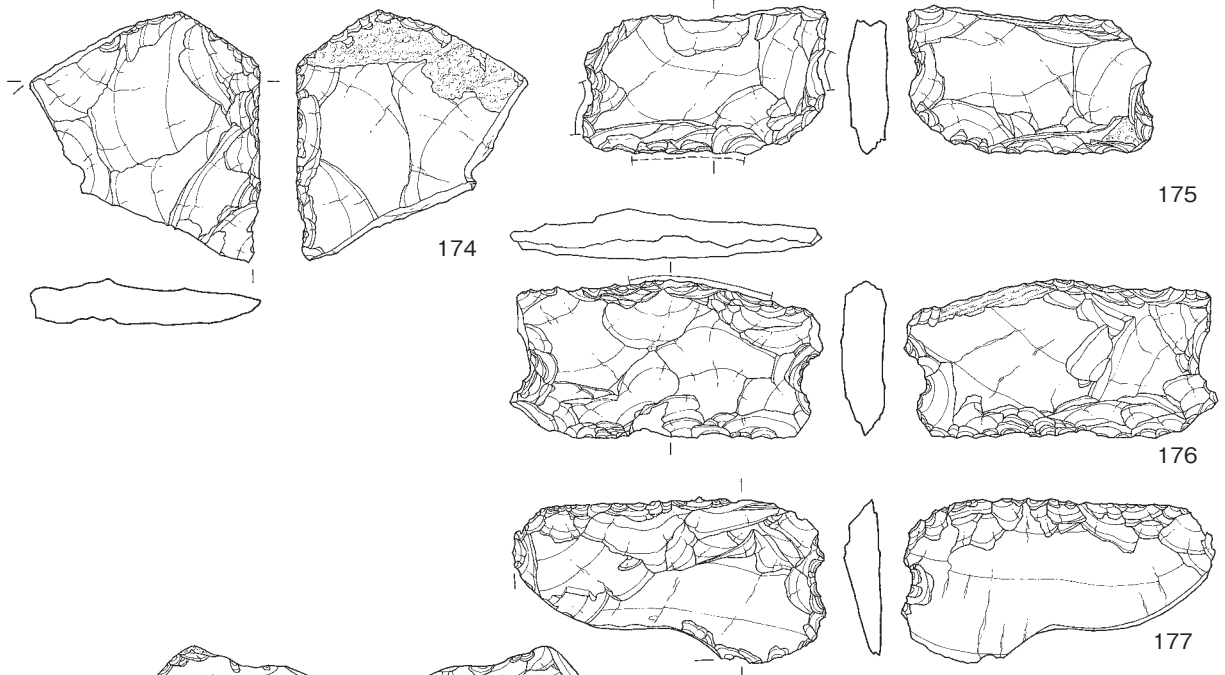
- 1 黒褐色シルト (Mn・Fe 含む)
- 2 暗灰黄褐色砂混シルト (Mn・Fe 含む)
- 3 灰黄褐色シルト (Mn・Fe 含む)
- 4 淡灰黄色細砂質土 (黄灰色砂混粘質土の小ブロック混じる)



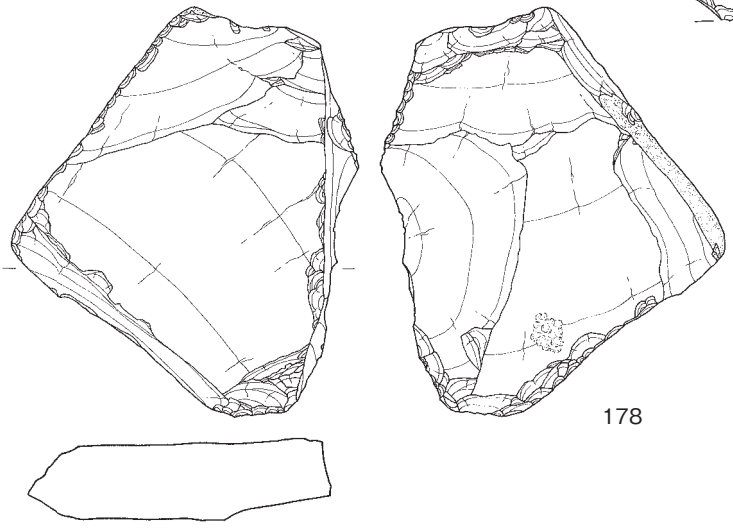
第46図 SD205断面、出土遺物(1)



0 5cm
石器 (2/3)



0 5cm
石器 (1/2)

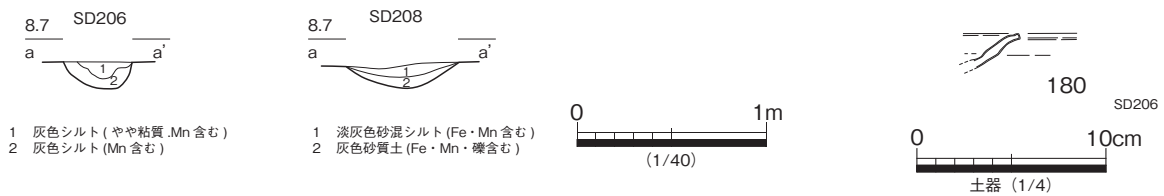


169,172,173,176,178 上層
174,175 下層

第47図 SD205 出土遺物(2)



第 48 図 SD205 出土遺物 (3)



第 49 図 SD206・208 断面、出土遺物

SD205(第 45 ～ 48 図)

Ⅱ - 1 区西半部で検出した、調査区の対角線状に東西方向へ縦断して流れる溝状遺構である。東西両端部は対象地外へ延びる。西端部では SD201・202・203・204 と重複している。検出状況や出土遺物から、SD201・202・203・204 との前後関係を整理すれば、SD205 は SD201・202 より先行し、SD203 より後出する。なお、SD204 との関係については、検出状況からは不明瞭である。

検出長 65.0m、幅 0.6 ～ 1.5m、深さ約 0.4 ～ 0.8m、方位は N77.0° E(N13.0° W) を測る。断面は地点により異なり、幅広や、幅狭の U 字状を呈するところに分かれる。埋土は十数層に細分できる。

埋土からは弥生土器やサヌカイト製の石器が比較的多量に出土した。出土した弥生土器は、弥生時代前期・中期・後期を含むが主体となるのは後期前半新相頃の土器である。

148 は中期前半、149・153 は弥生前期後半頃の壺、150・151 は後期後半古相頃の壺の口頸部である。150 は複合口縁の壺で、外面には擬凹線文を明瞭に残している。154・155・156 は壺の底部である。

169 ～ 179 はサヌカイト製の石器類である。169 は風化がかなり進んでいる不整形な縦長状の剥片である。この剥片は風化の進行状況や形状から縦長剥片石核調整剥片と考えられ、旧石器に属する可能性が高い。打面は平坦打面を呈し、側面には平坦な石核面を残している。170・171・172・173 は石鏃である。凹基・凸基・平基等の種類に分かれる。174 は比較的大型の削器片である。175・176・177 は小型の打製石庖丁である。177 は刃部を大きく欠いて残りが悪いが、表裏両面伴に素材面を大きく残し、素材が横長状の剥片であることが解る。178・179 は表裏面には平坦な分割面と剥片剥離痕、側面は折面ない

しは礫面を呈し、全体の形状は比較的幅のある板状の素材で、石核の範疇で捉えられる。出土遺物からSD205は弥生時代中期頃に開削された可能性があるが、埋没したのは弥生時代後期前半頃の溝跡と考えられる。

SD206(第 49 図)

Ⅱ-1区西半部で検出した、条里方向に類似する南北方向の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びており、北半部では東西方向へ分岐する小溝を検出している。東には、SD207・208が同方向に延びる。この溝跡は北半部でSD205を切り込んでおり、前後関係としてはSD205より後出する。

検出長12.8m、幅約0.3m、深さ約0.15m、方位はN19.0°Wを測る。断面は浅いU字状を呈している。埋土は灰色シルトを呈する。埋土からは土師器、近世の陶器等が少量出土した。180は唐津焼の皿片である。出土遺物からSD206は近世の溝跡であろう。

SD208(第 49 図)

Ⅱ-1区西半部で検出した、条里方向に類似する南北方向の直線溝である。南両端部は対象地外へ延びており、北半部は調査区中央で途切れている。西には同方向に延びるSD206が、約12.0m隔てて位置する。

検出長7.0m、幅約0.55m、深さ約0.1m、方位はN20.0°Wを測る。断面は浅いU字状を呈している。埋土は灰色系のシルトないし砂質土からなる。埋土から遺物は出土していないが、検出状況からSD206等の条里方向に向く近世の溝跡と類似した時期が考えられる。

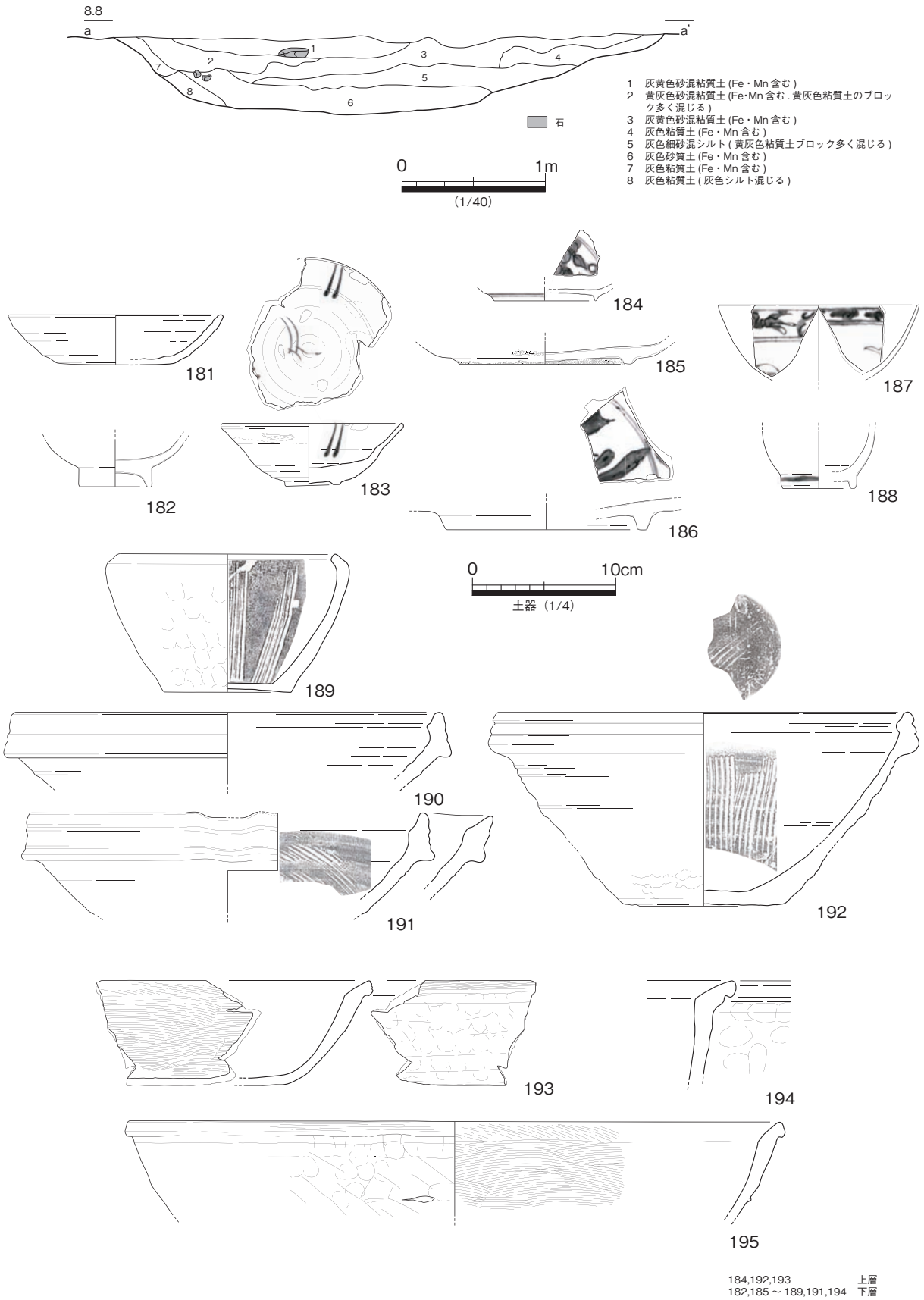
SD209(第 50 ~ 53 図)

Ⅱ-1区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部ではSD205を切り込んでいる。なお、この溝跡の西にはSD206・208、東にはSD210・213等の溝跡が、ほぼ同一方向に延びている。

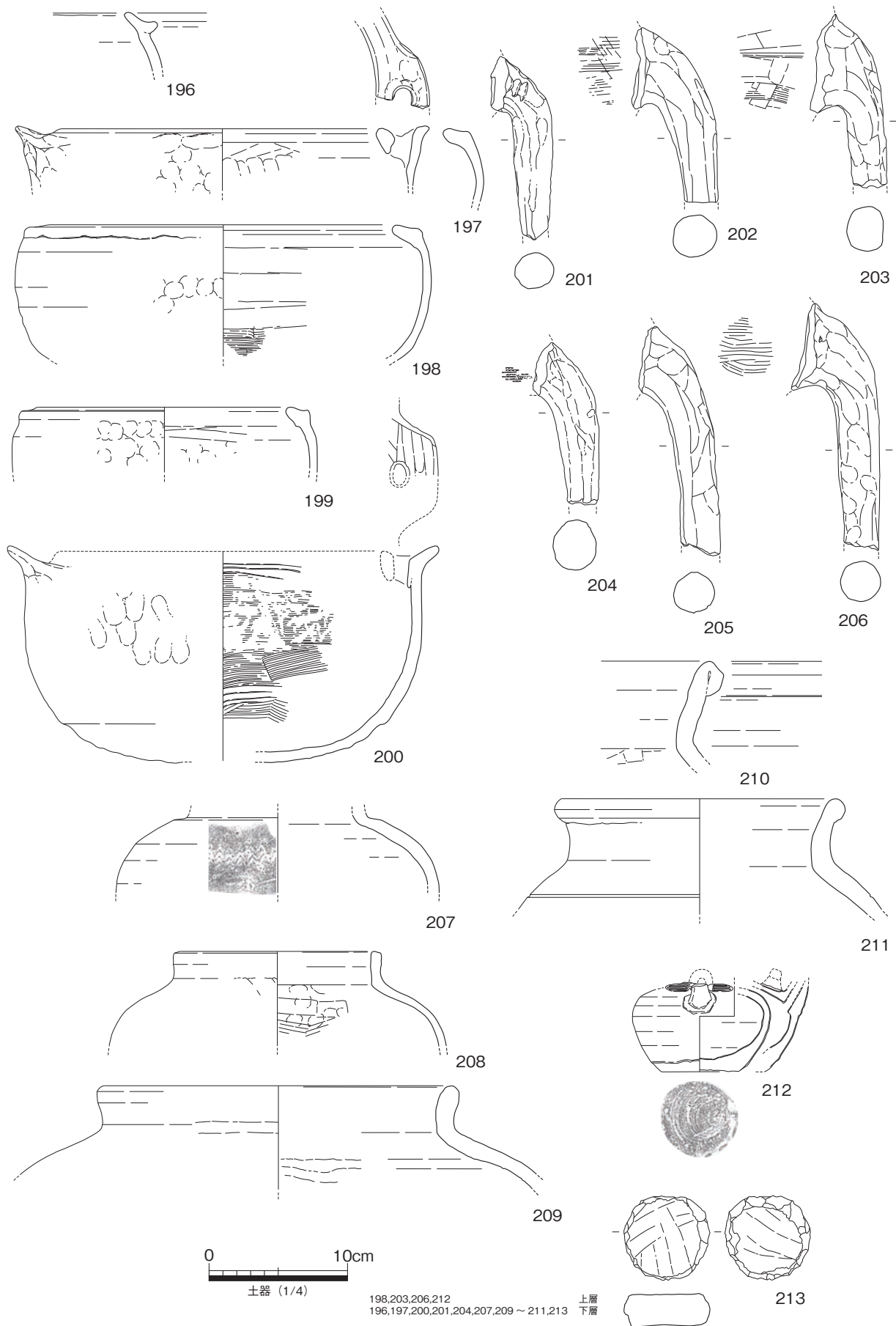
検出長13.8m、幅約3.8m、深さ約0.55m、方位はN25.0°Wを測る。断面は幅広で浅いU字状を呈している。埋土は数層に分かれるが、主になるのは灰黄色粘質土及び灰色砂質土である。埋土からは土師器杯・摺鉢・足釜・鍋・壺・染付椀・皿、円盤状土製品、平瓦等が多量に出土した。

184・185・186は伊万里系の染付皿底部で、この溝跡の最終埋没時期を示す遺物になる。181は土師器杯、182・183は陶器椀と皿で、183は所謂絵唐津の皿である。187は染付椀である。185・186・187・188は下層から出土しており、SD209の埋没時期を示す遺物になる。189・190・191・192は摺鉢で、189は土師器の摺鉢、190・191・192は陶器の摺鉢である。214は土師器の脚付大型火鉢の底部片である。193・194・195は土師器鍋である。196・197・198・199・200は土師器の足釜体部、201・202・203・204・205・206は足釜脚部である。209は短頸が付く土師器釜の上半部である。212は陶器の土瓶、210・211は須恵器と陶器の甕口縁部、213は須恵質の円盤状土製品である。216は軒丸瓦、217・218丸瓦、219・220・221・222・223・224・225・226・227・228は平瓦で布目や縄目タタキを残すものもある。

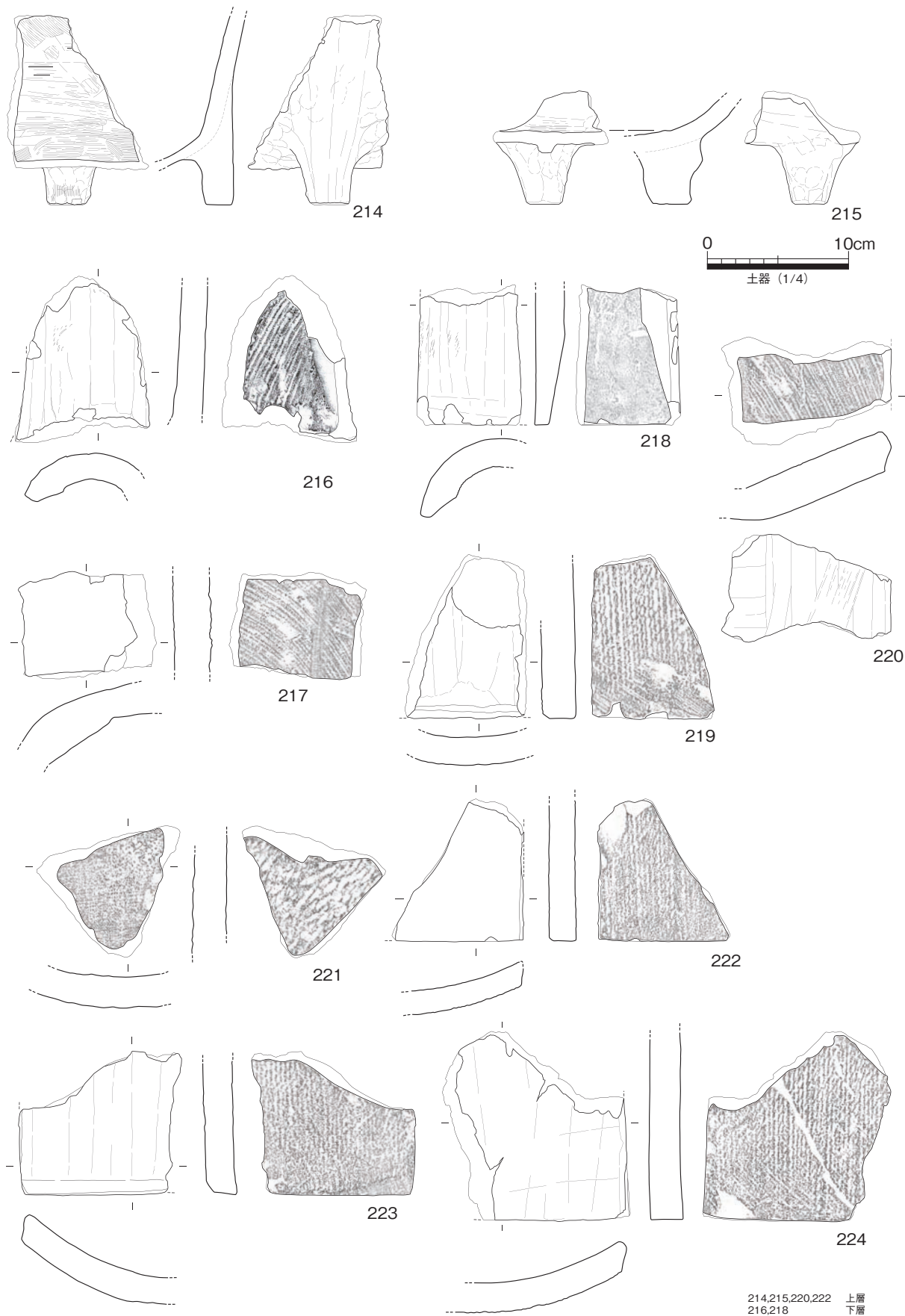
229～231はサヌカイト製の石器類で、周辺のSD205等から混入したものであろう。229は石庖丁片である。230は肉厚な剥片を素材にした石核である。231は形状から推定して石核転用の敲石と考えられる。楕円形状の形状を呈し、多方向からの加撃による剥離痕がほぼ全面に及んでいる。出土遺物から



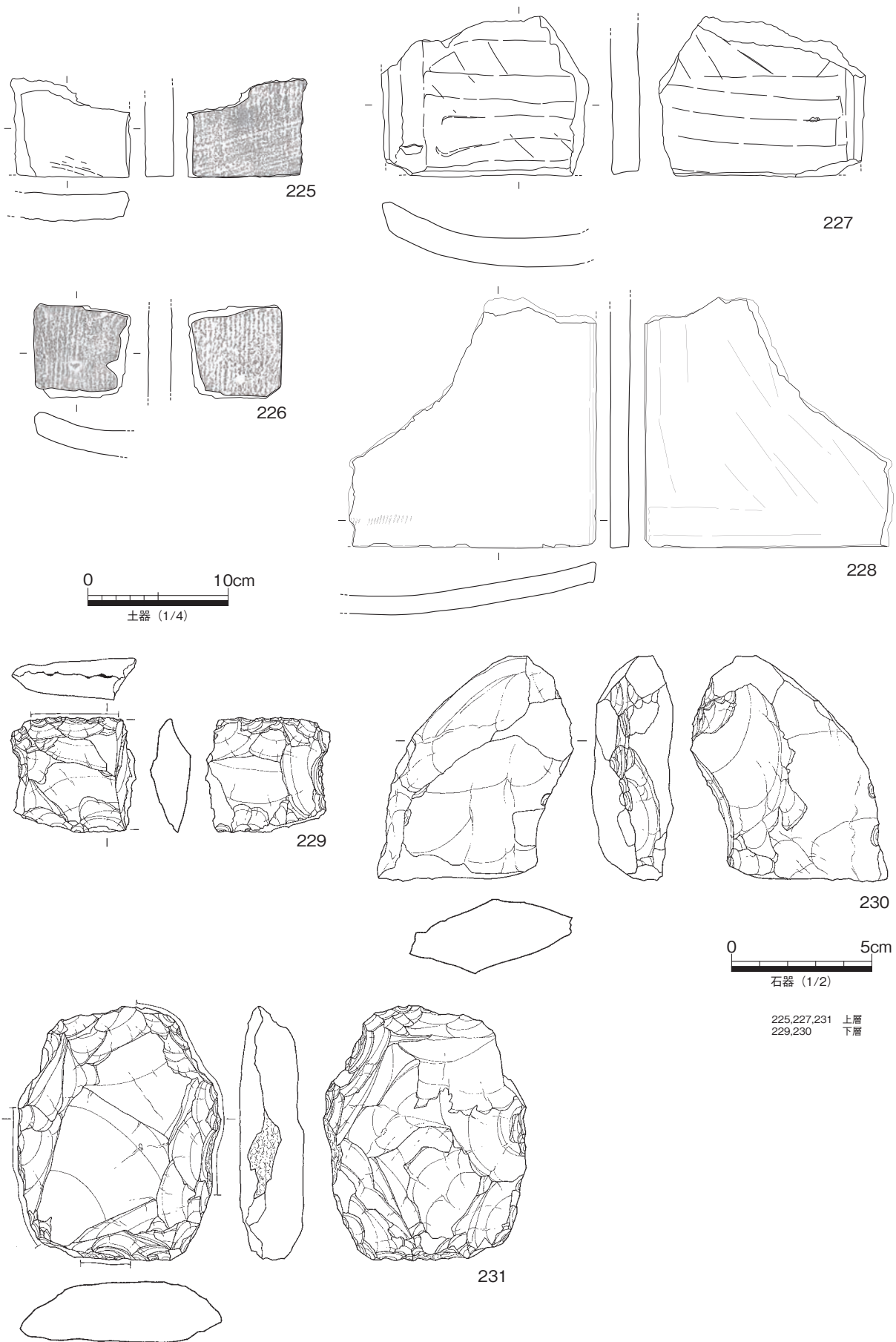
第 50 図 SD209 断面、出土遺物 (1)



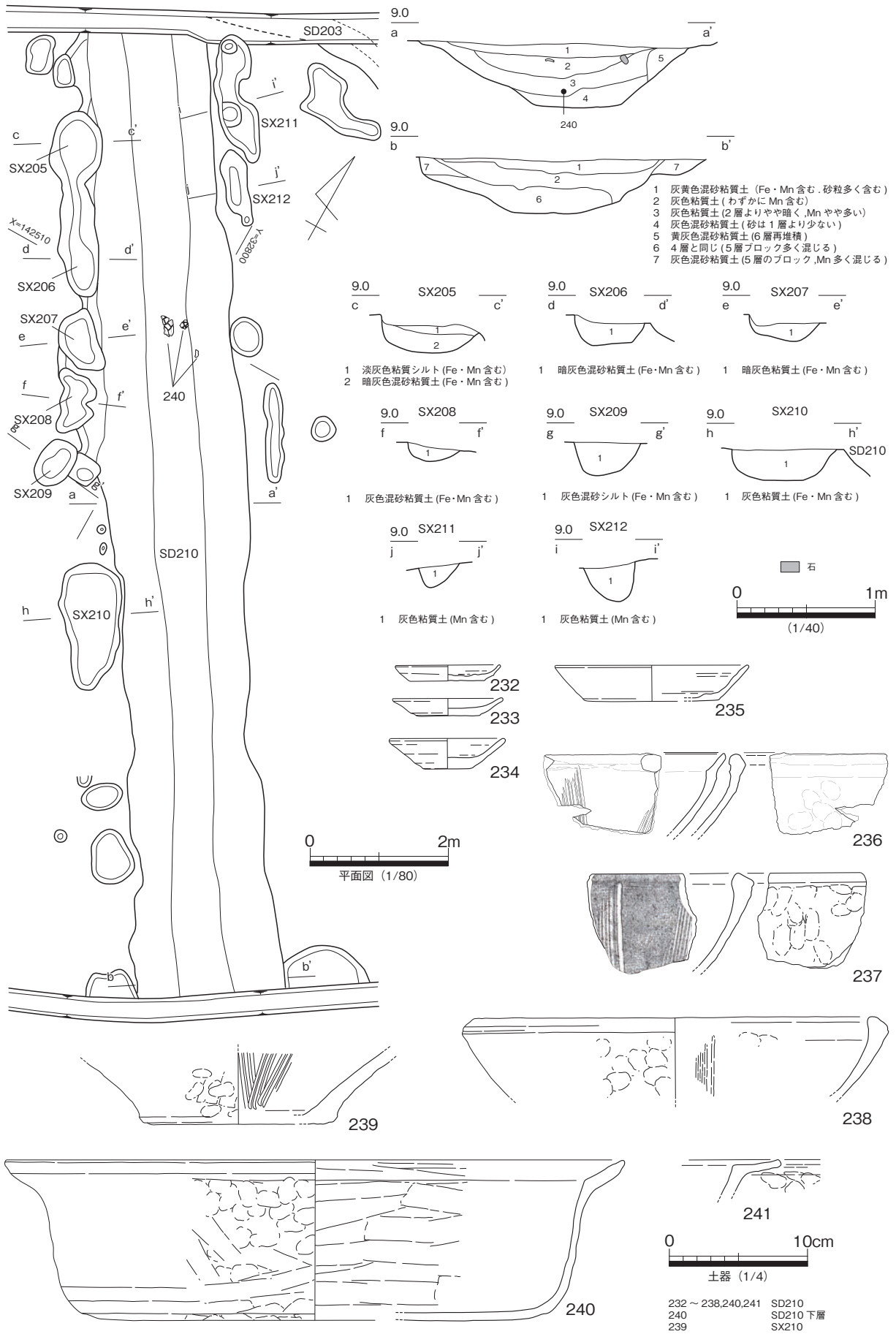
第51図 SD209 出土遺物(2)



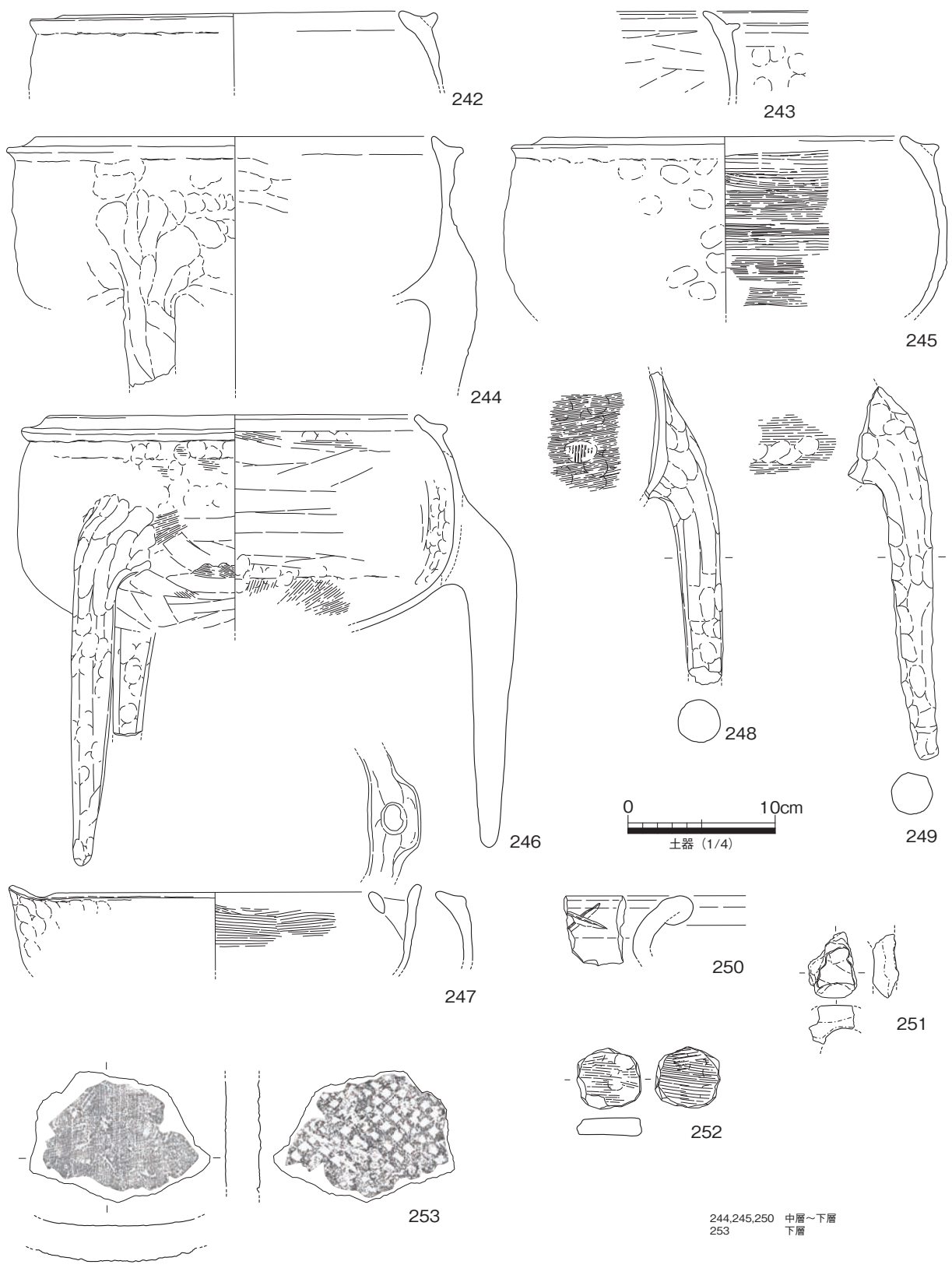
第 52 図 SD209 出土遺物 (3)



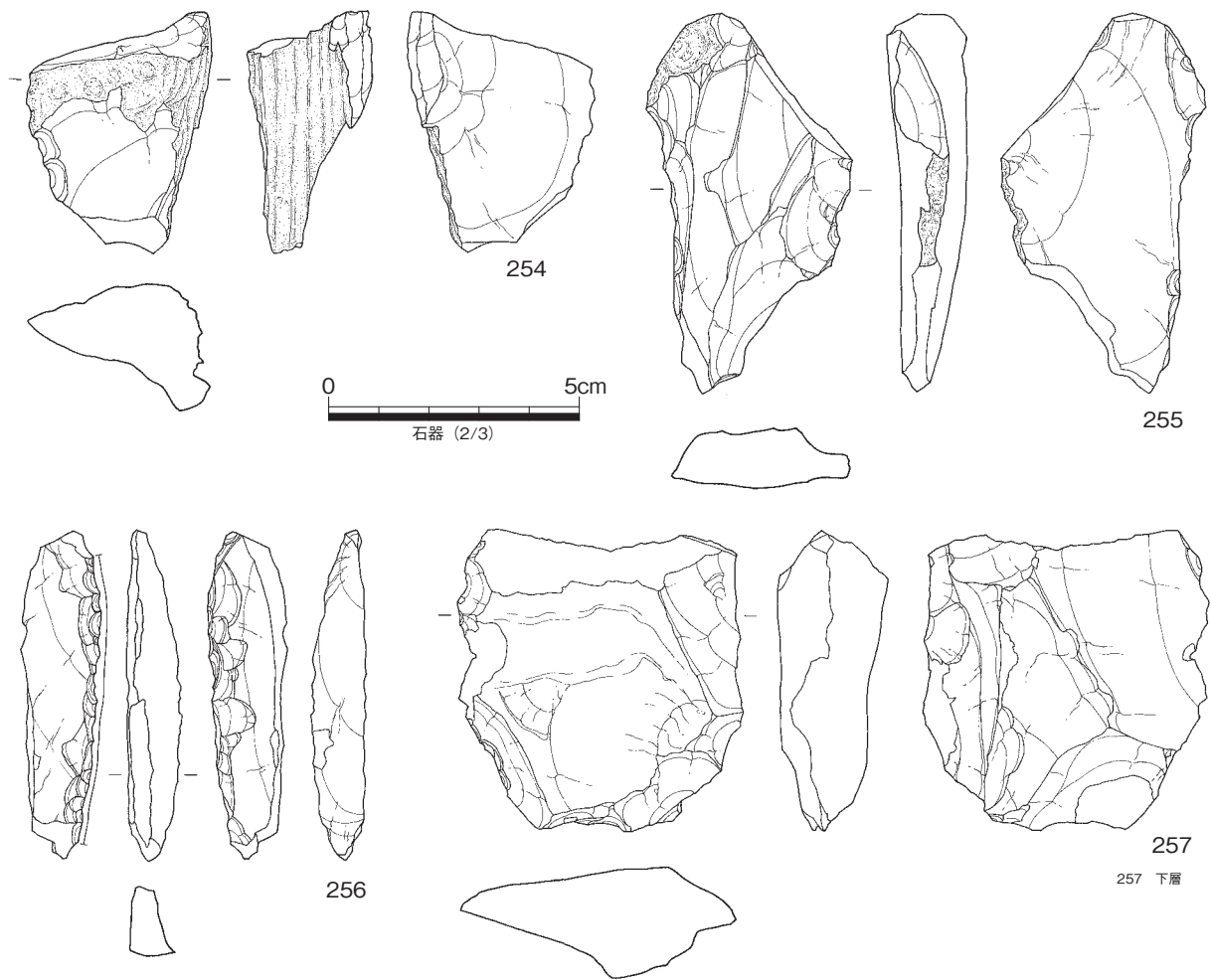
第 53 図 SD209 出土遺物 (4)



第54図 SD210・SX205～212平・断面、出土遺物(1)



第 55 図 SD210 出土遺物 (2)



第 56 図 SD210 出土遺物 (3)

この溝跡は近世前半に埋没したものと考えられる。

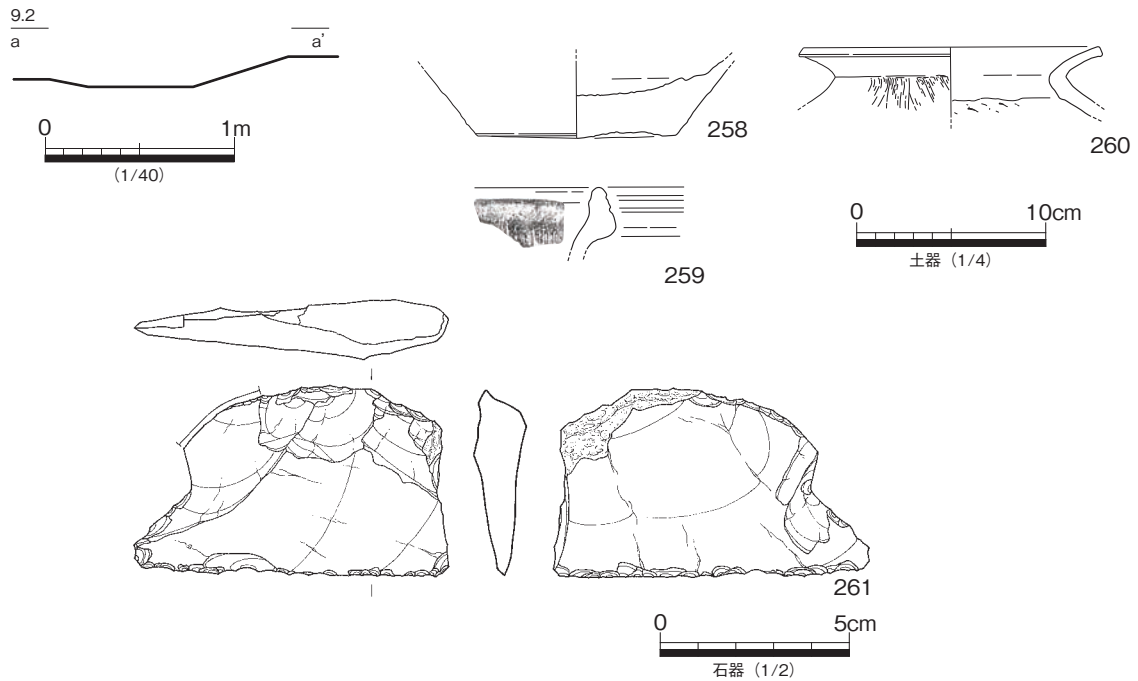
SD210(第 54 ~ 56 図)

Ⅱ - 1 区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。この溝跡の西にはSD209、東にはSD213が同方向に延びる。

検出長 14.4m、幅約 2.0m、深さ約 0.4m、方位は N34.0° W を測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿・杯・摺鉢・足釜・鍋、亀山焼甕、備前焼甕、平瓦、円盤状土製品等が多量に出土した。232・233 は土師器小皿である。234・235 は土師器杯で 13 世紀後半頃の土器であろう。236・237・238 は土師器摺鉢の上半部で、236 は片口の摺鉢である。240・241 は土師器鍋、242・243・244・245・246・247・248・249 は土師器足釜の資料で、244・246 等は比較的残りが良い稀な土器である。252 は円盤状土製品である。250 は備前焼壺の口縁部片である。内面には窯印か「×」印の線刻を施している。251 は羽口の細片である。253 は布目と格子タタキを残す平瓦片である。

254 ~ 257 はサヌカイト製の石器類で、周辺の遺構から混入したものであろう。254 は板状素材から



第 57 図 SD211 断面、出土遺物

剥出した剥片である。背面には礫面を多く残し、打面は平坦打面を呈する。255 は横長状の剥片である。256 は楔形石器の削片である。257 は交互剥離の横長剥片石核である。この石核は比較的風化が進んでいることから、旧石器に属する可能性がある。出土遺物から SD210 は中世後半の 13 世紀後半以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD211(第 57 図)

Ⅱ - 1 区中央部の SD210 東約 3.0m に位置し、SD210 と並走する南北方向の溝である。削平を受け残りが悪い。検出長約 3.0m、幅約 1.2m、深さ約 0.2m を測る。断面は幅広で浅い皿状を呈している。

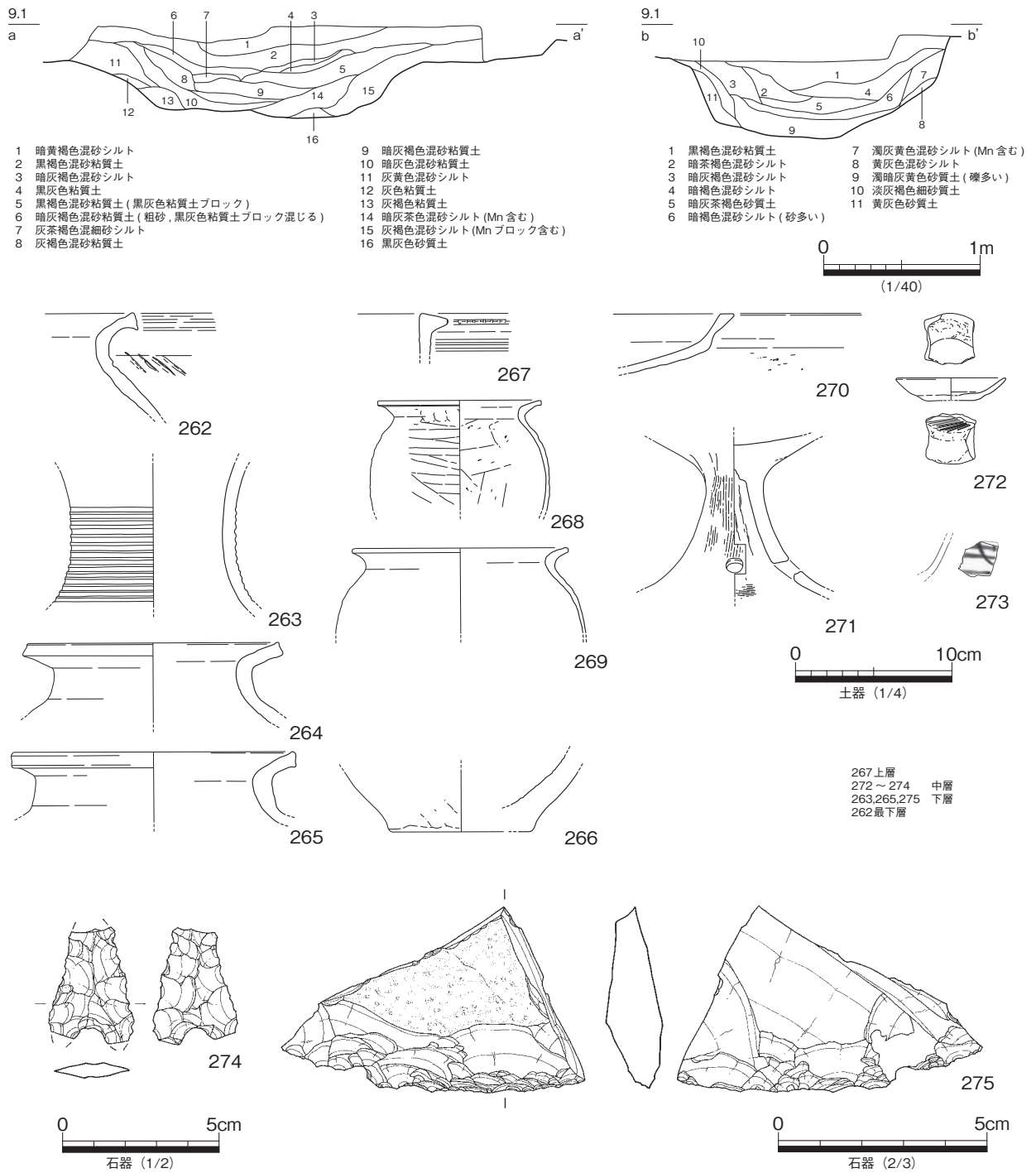
埋土からは弥生土器壺・甕、備前焼播鉢、サヌカイト製石器等が出土した。258・260 は弥生後期前半頃の壺の底部と甕の口縁部片で混入品である。259 は備前焼の摺鉢口縁部片で、SD211 の時期を示す遺物である。261 は横長剥片を素材にした打製石庖丁である。出土遺物から SD211 は中世に埋没した溝跡と考えられる。

SD212(第 58 図)

Ⅱ - 1 区中央部で検出した、北西方向へ延びる大型の直線溝である。北端部は対象地外へ延びており、南半部は SD213 により切り込まれている。平面は凹凸が著しく不整形である。

検出長約 16.0m、幅約 2.0 ~ 3.0m、深さ約 0.7m、方位は N54.0° W を測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は黒褐色系の粘質土や暗灰色系のシルトからなる。堆積状況から 2 回以上の改修がなされた可能性が高い。

埋土からは、弥生時代前期末・中期後半・後期前半等の弥生土器とサヌカイト製の石器類及び数点の土師器小皿、染付碗等が出土した。主体を占めるのは、弥生時代後期後半古相の遺物で、中世後半～近



第 58 図 SD212 断面、出土遺物

世の遺物は混入であろう。

262～271は弥生土器である。262・263は中期後半～後期初頭頃の壺である。267は弥生時代前期末～中期初頭頃の甕口縁部片である。264・265・266・268・269・270・271は弥生時代後期前半の資料である。264・265は壺上半部、268・269は下半部を欠く甕、270・271は高杯である。272・273は土師器小皿と染付椀で混入したものであろう。274は先端部を欠く凹基式の石鏃である。275は肉厚な横長状の剥片を素材にした削器に分類したが、形状から何らかの未製品の可能性もある。出土遺物からSD212

は弥生後期前半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD213(第 59 ～ 61 図)

Ⅱ - 1 区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型直線溝である。西約 9.0m の位置には同規模で同方向の SD212 が所在する。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部では SD212・215 と重複し、前後関係としては SD213 は SD212・215 より後出する。

検出長 14.0m、幅 1.5 ～ 2.5m、深さ約 0.6m、方位は N37.0° W を測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は数層に分かれ堆積状況から 2 回以上の改修が考えられる。なお、溝底直上からは和泉型瓦器椀が 5 個体以上出土した。

埋土からは弥生土器壺・高杯、土師器小皿・杯、瓦器椀、白磁椀、亀山焼甕等が出土した。主体を占めるのは中世前半の遺物で、弥生時代後期前半の遺物が少量出土しているが、SD213 と重複している SD212 からの混入遺物であろう。

276・277 は弥生後期前半の甕と高杯脚部で、重複している SD212 からの混入品であろう。278・279・280・281・282・283・284 は土師器小皿、285・286・287・288・289・290・291 は土師器杯、292 は須恵器椀である。293・294・295・296・297 は 12 世紀後半頃の和泉型の瓦器椀で、SD213 の大まかな埋没時期を示す遺物になる。298 は近世の磁器椀であり、混入の可能性が高い。299 は須恵器甕の口頸部、300 は平坦で厚みのある軟質の土製品で、胎土内に植物繊維痕を明瞭に残している。形状から推定して建物の壁材片と考えられる。

301 ～ 303 はサヌカイト製の石器で、重複している SD212 からの混入品であろう。301・302 は凹基式の石鏃である。303 は敲石である。円盤状を呈し剥離痕が全面におよび、全周するエッジにはツブレ痕が顕著に認められる。出土遺物から SD213 は、12 世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD214(第 60 ・ 62 図)

Ⅱ - 1 区中央部の SD213 東約 1.0m に位置し、SD213 と並行して延びる南北方向の小溝で、SD213 と類似する時期の溝跡と考えられる。

検出長約 10.5m、幅約 0.3m、深さ約 0.1m、方位は N36.0° W を測る。断面は浅い U 字状を呈している。埋土から弥生土器甕、土師器杯、須恵器甕等が少量出土したが、弥生土器は混入品と考えられる。304 は土師器杯、305 は須恵器甕の体部片である。出土遺物から SD214 は、12 世紀後半以降に埋没した溝跡と考えられる。

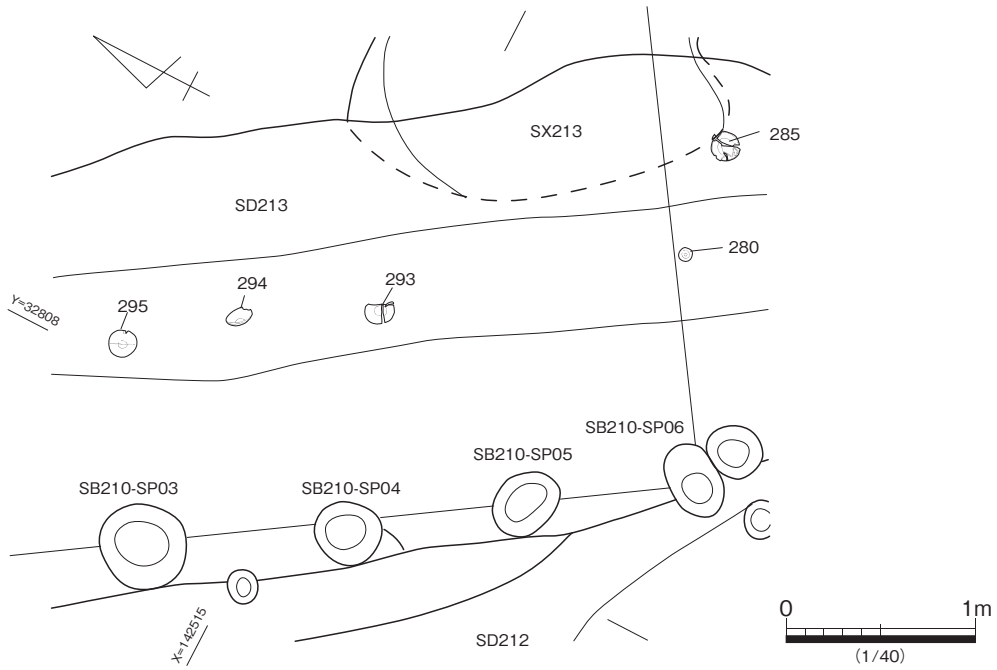
SD215(第 60 ・ 62 図)

Ⅱ - 1 区中央部で検出した、北西方向へ延びる直線溝である。西にはほぼ同時期で同方向に延びる SD212 が位置する。南端部は対象地外へ延びており、北半部は SD213 により切り込まれている。

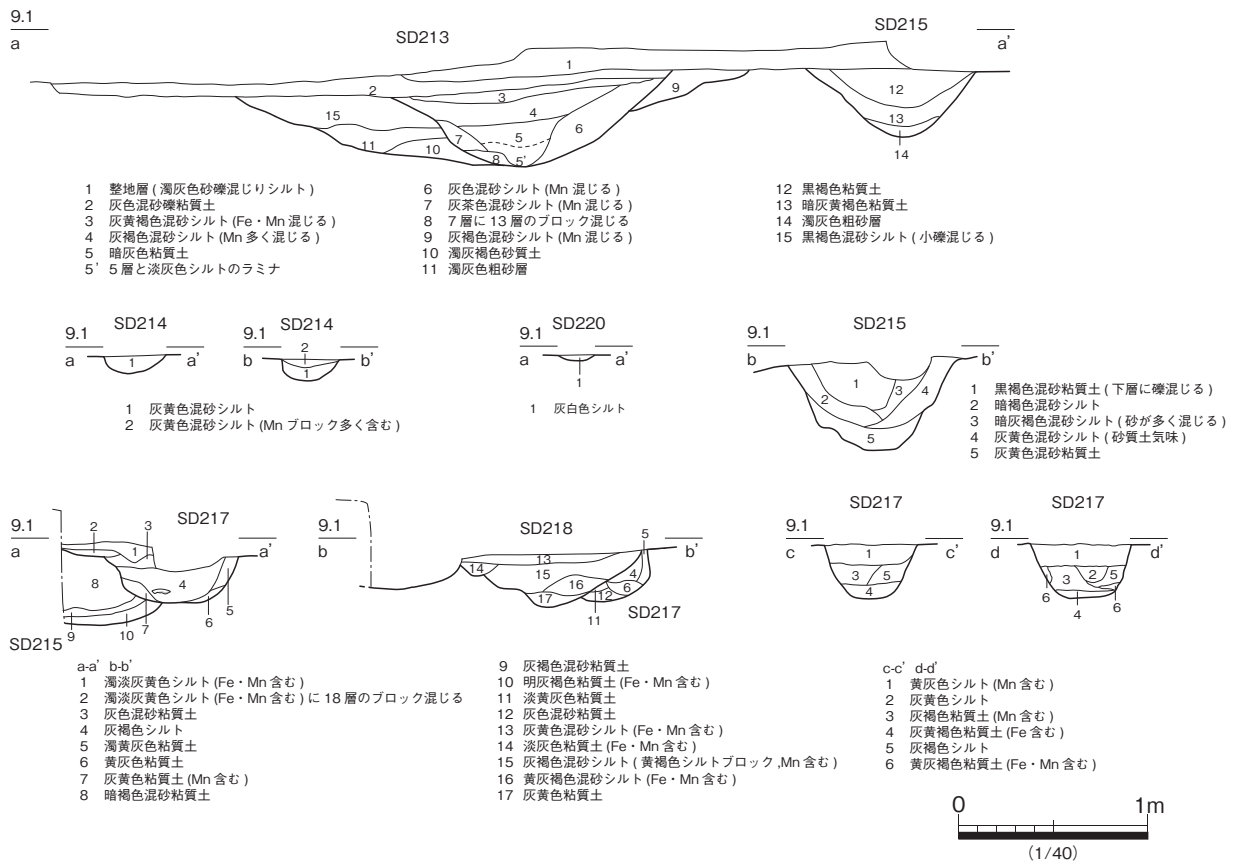
検出長約 10.0m、幅 0.7 ～ 1.3m、深さ約 0.4m、方位は N50.0° W を測る。断面は上部が開いた U 字状を呈している。埋土は黒褐色系の粘質土や灰色系のシルトからなる。

埋土からは弥生時代後期後半の弥生土器や、サヌカイト製石器が出土した。306・307 は弥生時代後期後半の甕上半部、308・309 は甕底部片である。310 は弥生時代後期後半の壺または大型鉢の底部である。

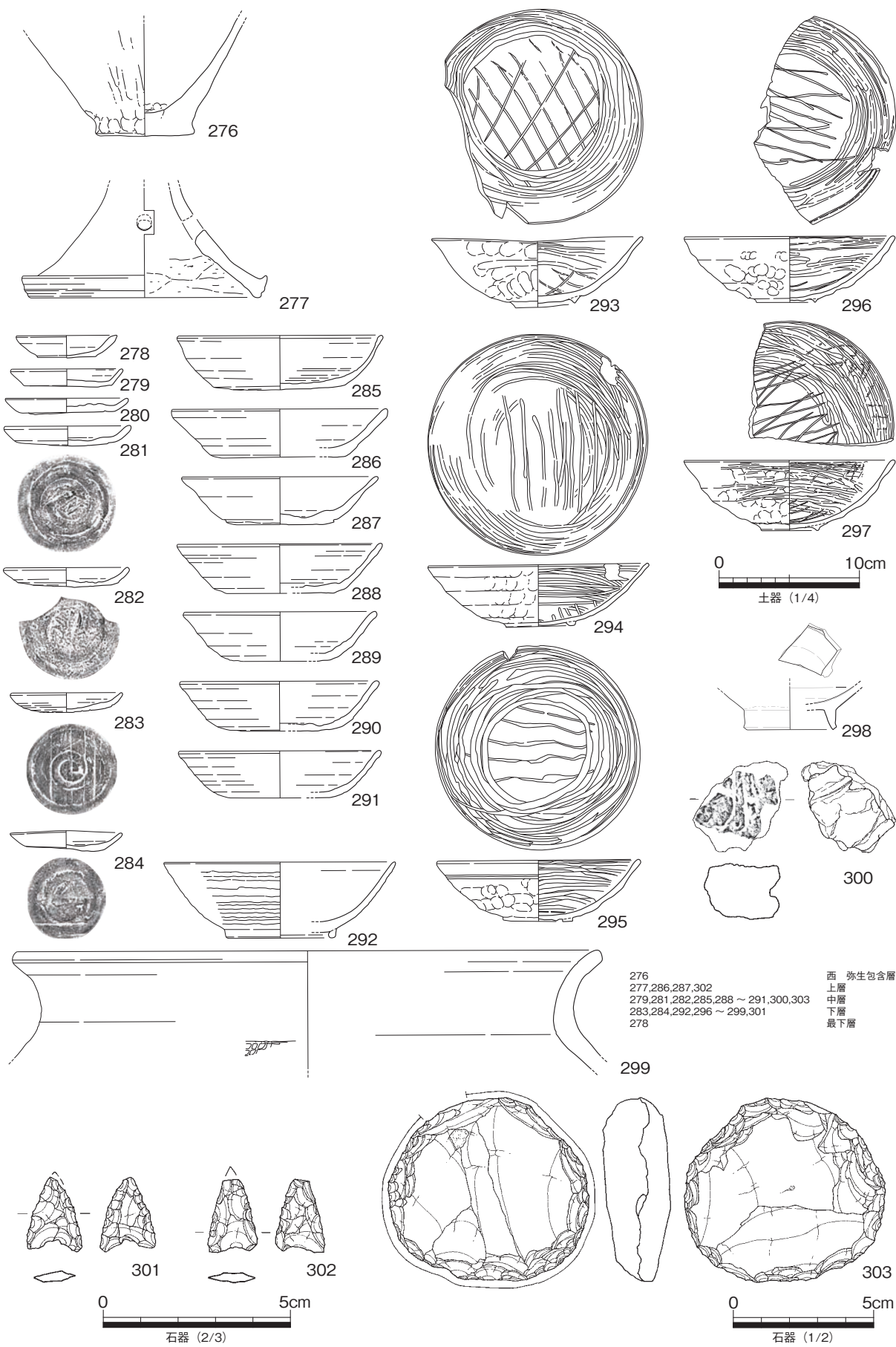
311 はサヌカイト製の削器である。素材には比較的大型の剥片を用い、そのエッジに直線状の刃部を



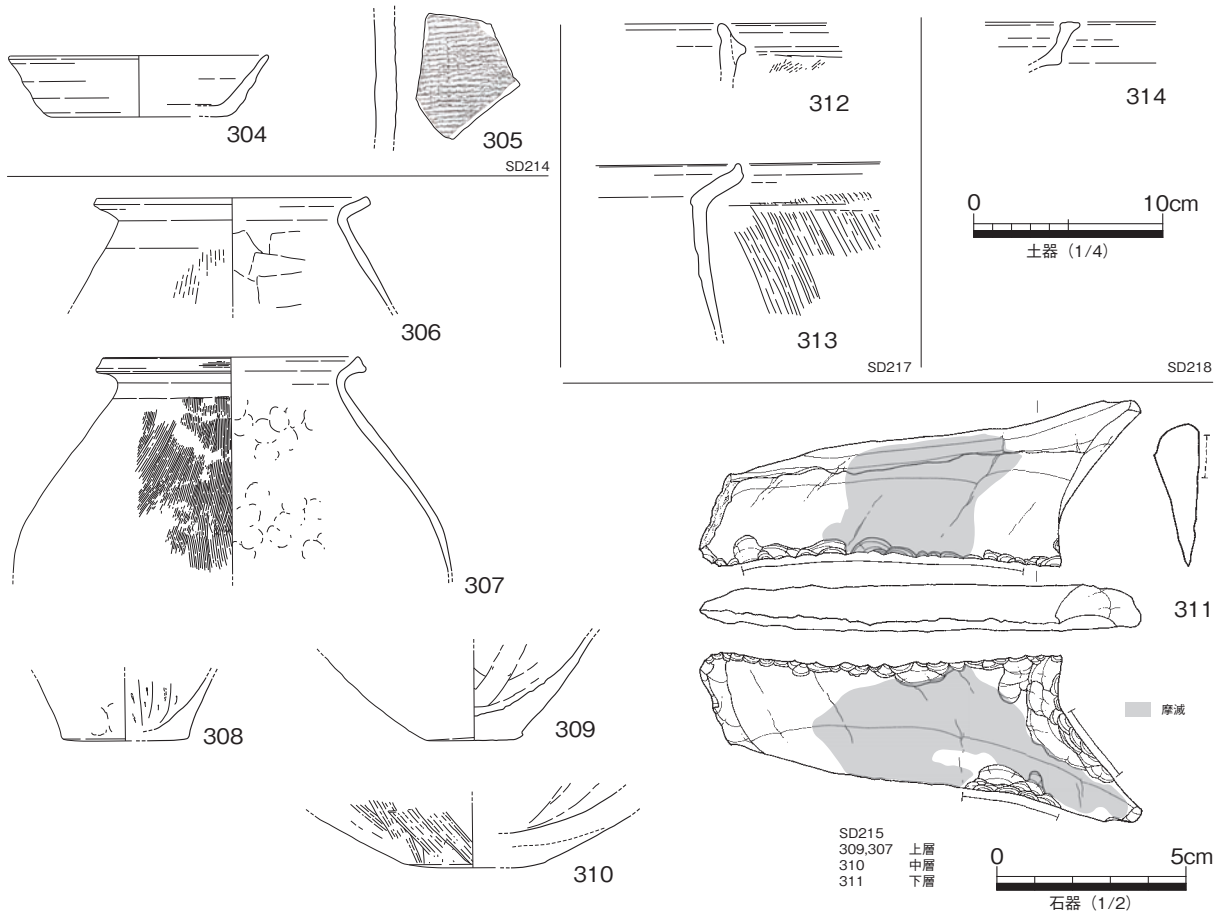
第 59 図 SD213 平面図



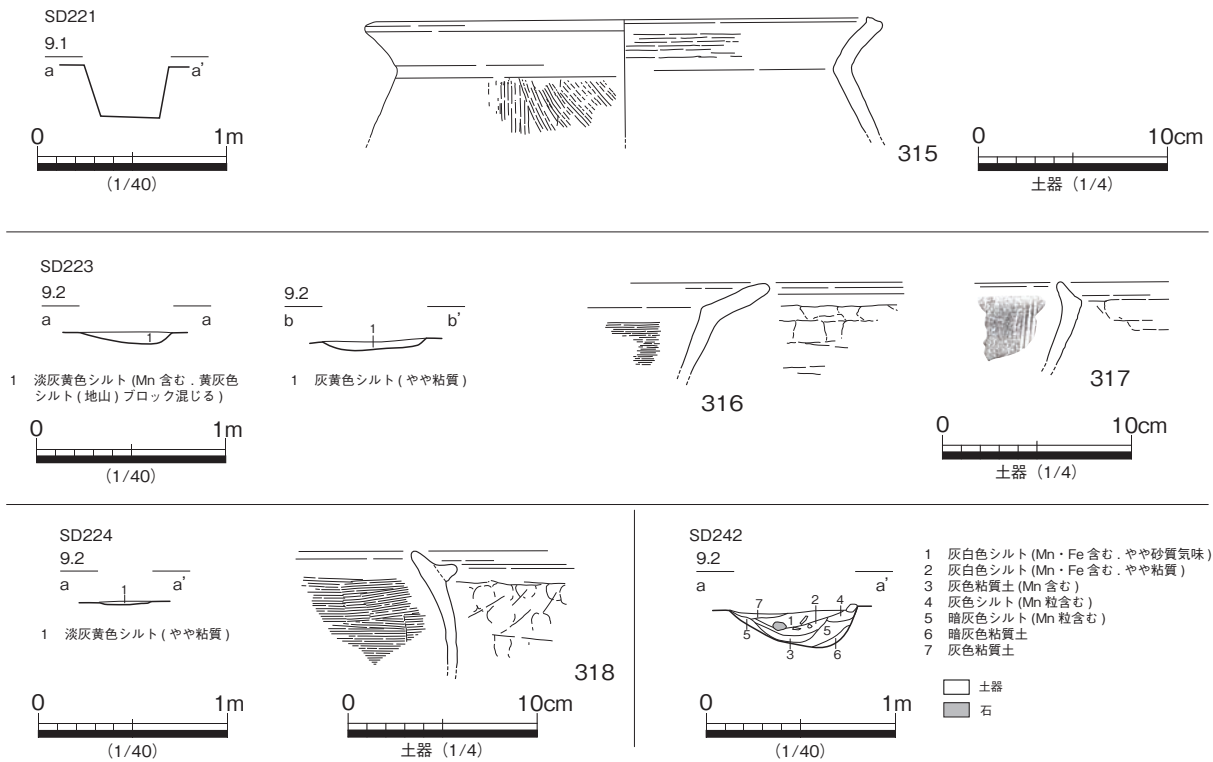
第 60 図 SD213 ~ SD215・217・218・220 断面図



第 61 図 SD213 出土遺物



第 62 図 SD214・215・217・218 出土遺物



第 63 図 SD221・223・224・242 断面、出土遺物

形成している。なお、表・裏面には摩滅痕が顕著に認められる。出土遺物から SD215 は、弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD217(第 60・62 図)

Ⅱ - 1 区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。東西方向へ直線的に延びているが、東端部は南東へ曲がる。中央部では SD218、SK215、SX216・217 等に切り込まれているが、東端部では SX218 を切り込んでいる。なお、この溝跡から北へ約 1.8m 隔てた箇所には SD216・220 が SD217 と並行し東西に配されており、両者は関連する溝跡の可能性が高い。

検出長約 21.0m、幅約 0.6m、深さ約 0.3m、方位は N59.0° E(N31.0° W) を測る。断面は上半部が開く U 字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、灰黄色系のシルトが主体を占める。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・陶器片等が少量出土したが、検出状況から弥生土器は混入品と考えられる。312 は土師器足釜の口縁部片、313 は土師器甕である。出土遺物から SD217 は中世後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD218(第 60・62 図)

Ⅱ - 1 区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。北に向かって円弧状に配されている。北辺部では SD217 と重複しているが、その前後関係については SD218 が後出する。

検出長約 5.0m、幅約 0.9m、深さ約 0.3m を測る。断面は浅い V 字状を呈している。埋土は複数層に分かれるが、灰褐色系シルトが主体を占める。埋土からは弥生土器が数点出土したが、おそらく混入品であろう。314 は弥生時代後期前半の高杯口縁部片である。

SD219(第 26 図)

Ⅱ - 1 区東半部の SB211 の東側柱列に隣接して検出した不整形な小溝である。検出状況から SB211 の雨落ち溝と考えられる。

検出長約 4.8m、幅約 0.6 ~ 1.0m、深さ約 0.05m を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で淡灰色砂混シルトを呈する。埋土からは土師器甕・足釜、須恵器、備前焼甕片等が少量出土した。

SD220(第 60 図)

Ⅱ - 1 区東半部の SD217 から北へ約 1.8m 隔てた地点に、SD217 と並行し東西方向に配された溝状遺構である。削平を受け残りがかなり悪い。検出状況から SD217 と同時期で同性格の溝状遺構と考えられる。

検出長約 5.5m、幅約 0.3m、深さ約 0.05m、方位は N59.0° E(N31.0° W) を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で灰白色シルトを呈する。

SD221(第 63 図)

Ⅱ - 1 区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。東西方向へ直線的に延びているが、東端部は僅かに南東方向へ曲がる。

検出長約 5.5m、幅約 0.5m、深さ約 0.3m、方位は N60.0° E(N30.0° W) を測る。埋土からは古代の土師

器細片が極少数出土した。315 は土師器甕の上半部である。

SD223(第 63 図)

Ⅱ - 1 区東端部の水溜状遺構の SX218 から北へ派生して延びる小溝である。県下の集落跡の事例や検出状況から推定して、SD223 と SX218 は中世後半の屋敷地の外周を画する溝跡と、区画溝に付属する水溜状の遺構の可能性が考えられる。なお、SD223 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約 11.0m、幅約 0.5～1.0m、深さ約 0.05m、方位は N24.0° W を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で灰黄色系のシルトからなる。

埋土からは土師器播鉢・鍋、備前焼片等が少量出土した。316 は土師器鍋の口縁部片で、317 は土師器摺鉢口縁部片である。出土遺物から SD223 は中世後半に埋没した溝跡と考えられる。

SD224(第 63 図)

Ⅱ - 1 区東端部の SX218 から北へ派生して延びる小溝である。削平を受け残りが悪い。検出状況から SD223 同様、SX218 の排水路と考えられる。

検出長約 2.5m、幅約 0.4m、深さ約 0.05m を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で、灰黄色シルトからなる。埋土からは中世土師器が数点出土した。318 は土師器足釜の口縁部片である。

SD242(第 63 図)

Ⅱ - 1 区東半部で検出した北西方向へ直線的に延びている小溝跡である。SD224 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約 16.5m、幅約 0.5m、深さ約 0.2m、方位は N24.0° W を測る。遺物が出土していないため、詳細な時期判断は不可能であるが、周辺遺構の状況や主軸方位等から、SD242 は概ね中世以降の溝跡と考えられる。

(4) 不整形遺構

SX203(第 64 図)

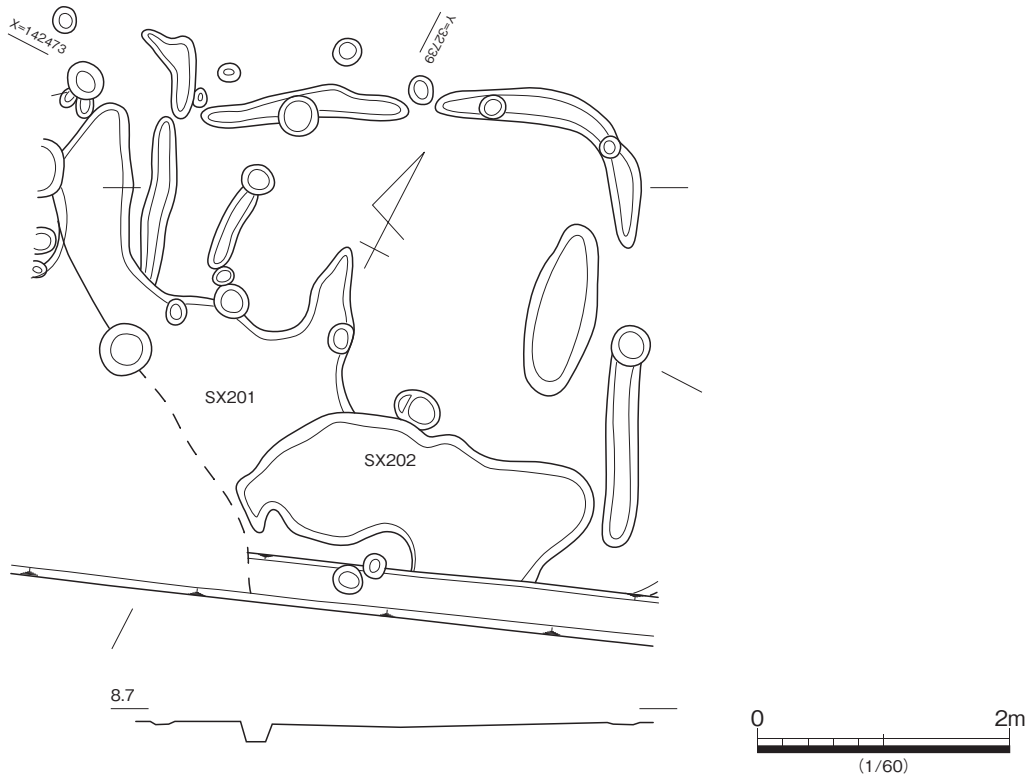
Ⅱ - 1 区西端部の南壁際に位置する。東には SD206、西には SD204 が隣接する。削平を受けたのか残りが悪く、幅 0.2～0.3m 程の小溝が途切れ気味ながらも、南にコの字状に開く様な状態で検出した。南半部は SX201・202 等により切り込まれているため不明である。

北辺の溝跡は検出長 4.0m、幅約 0.2m、深さ 0.05m、東辺の溝跡は検出長 3.6m、幅約 0.25m、西辺の溝跡は検出長 1.3m、幅約 0.2m、深さ 0.05 を測る。また、方位は N25.0° W を測る。

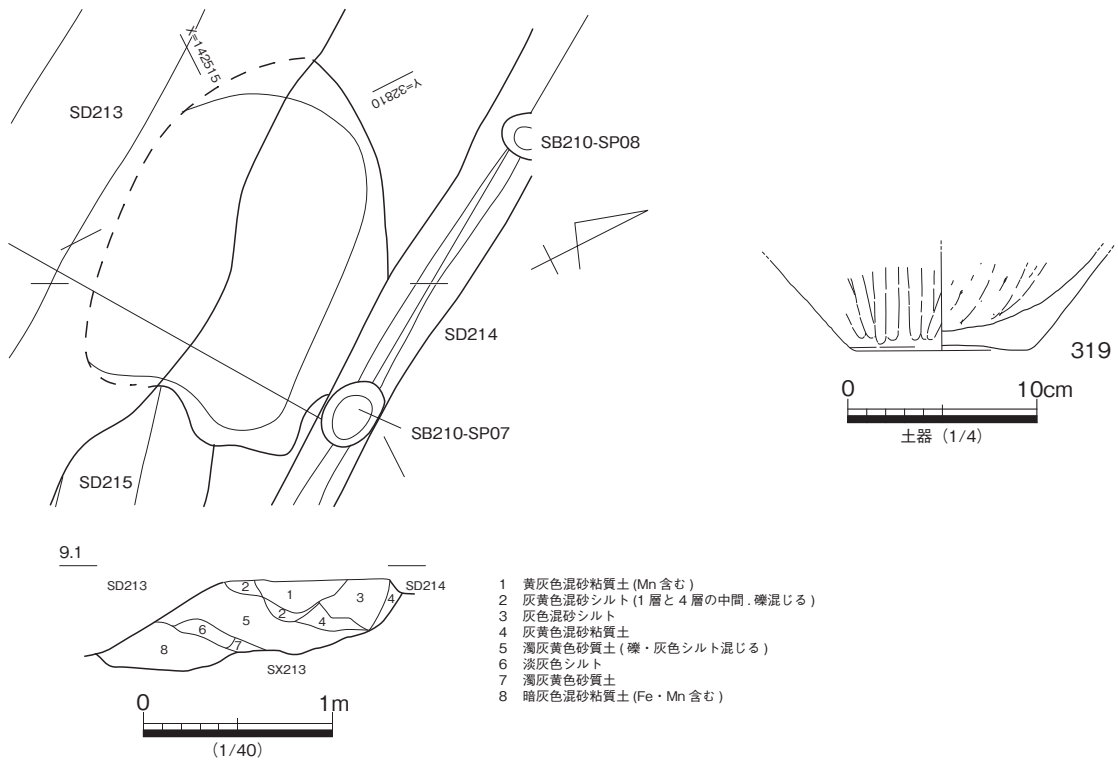
形状から方形竪穴住居跡の壁溝とも考えられるが、証明するのは難しい。ただ、この付近には 6～7 世紀の須恵器を含む、SD202・203・204 等の遺構が確認できるため、可能性は否定できない。

SX210(第 54 図)

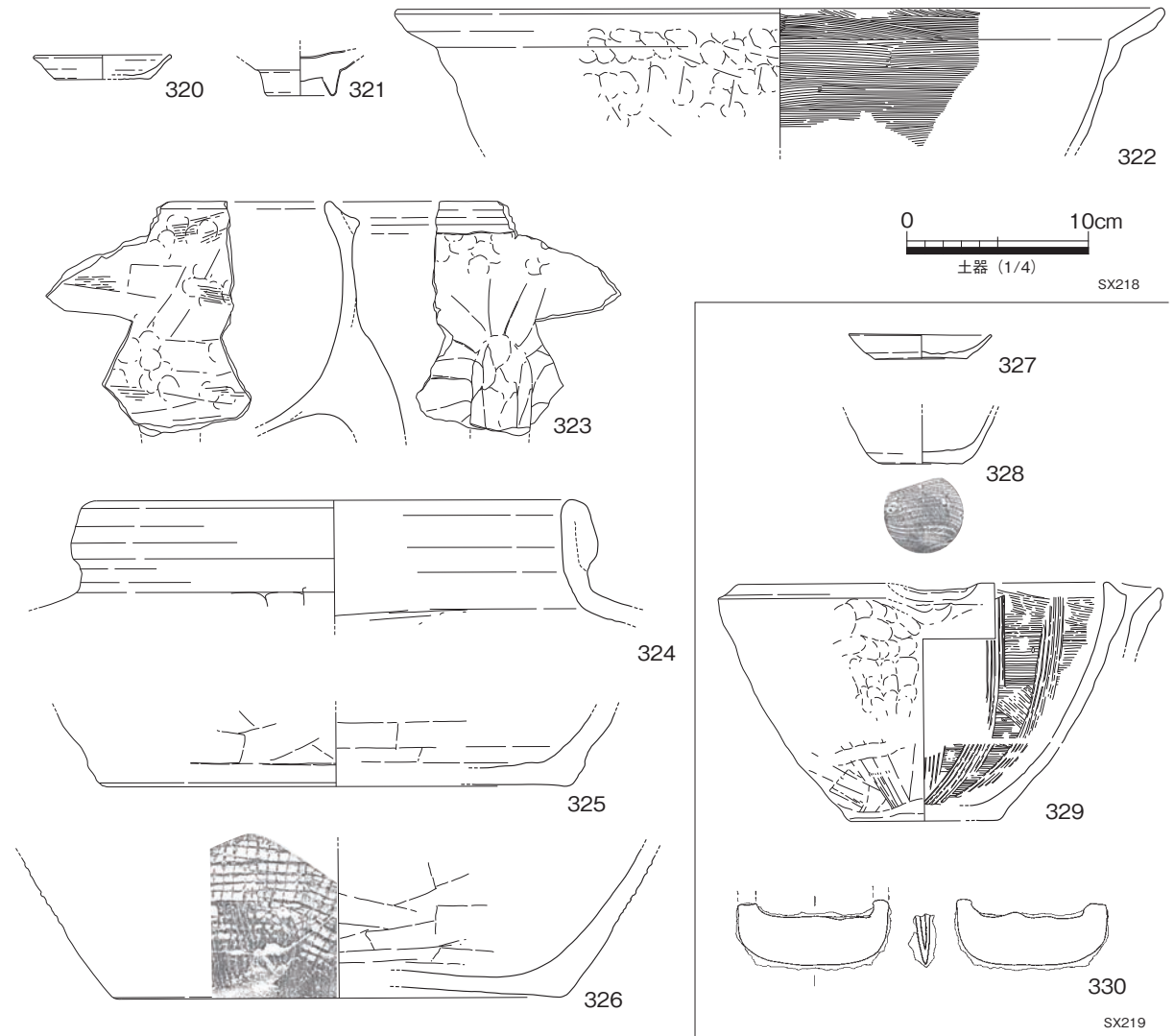
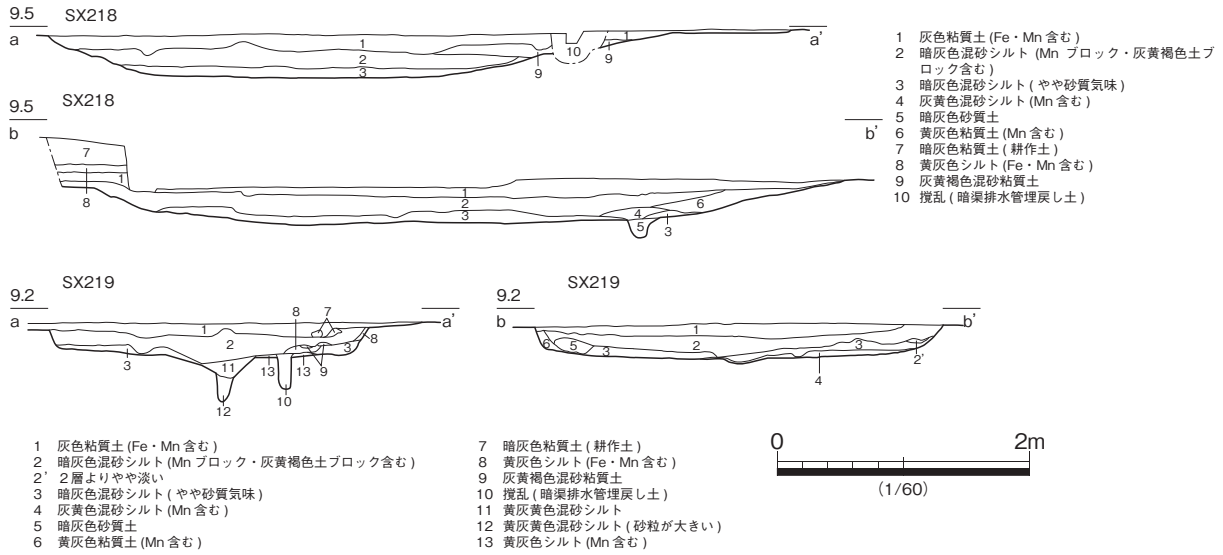
Ⅱ - 1 区中央部 SD210 の西岸部で検出した不整形な落ち込みである。SD210 の両岸には、SX210 をはじめとして、SX205～209・211・212 等の不整形な落ち込みが多数確認できる。性格については問



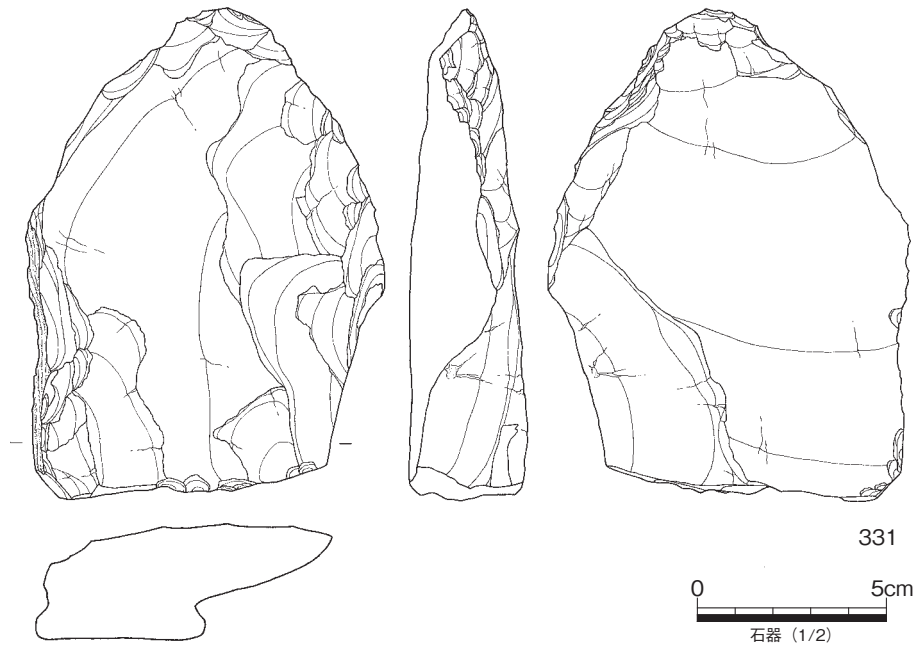
第 64 図 SX203 平・断面図



第 65 図 SX213 平・断面、出土遺物



第 66 図 SX218・SX219 断面、出土遺物



第 67 図 SX218 出土遺物

題を残すが、おそらく SD210 に係わる遺構群と考えられる。

平面形は南北方向に向く不整形な長楕円形状を呈し、長径約 1.85m、短径約 0.8m、深さ約 0.2m を測る。断面は幅広の U 字状を呈し、埋土は灰色粘質土の単層である。埋土からは土師器の杯・椀・播鉢等が少量出土した。239 は土師器播鉢の底部片である。

SX213(第 65 図)

Ⅱ - 1 区中央部の SD213 の東岸で検出した不整形な落ち込みである。西半部は SD213 に切り込まれており、南端部では弥生時代後期の SD215 を切り込んでいる。

平面形は不整形な楕円状を呈し、長径 2.0m、短径 1.4m 以上、深さ約 0.5m を測る。断面凹凸のある不整形な形状を呈する。埋土からは弥生土器壺、土師器小皿片等が出土している。なお、弥生土器は SD215 からの混入の可能性が高い。

319 は弥生時代後期後半頃の壺の底部で、先述したように SD215 からの混入土器であろう。出土遺物から SX213 は中世の遺構と考えられる。

SX214・215(第 26 図)

Ⅱ - 1 区東半部の SB211 の床面の範囲内で検出した不整形な落ち込みである。両遺構とも平面はかなり不整形で浅いため、地山の凹凸を平坦化した整地の痕跡の可能性もある。

SX214 の長径 2.1m 以上、短径 1.3m、深さ 0.05m、SX215 の長径約 3.2m、短径 0.3 ~ 3.0m、深さ 0.05m を測る。SX214・215 の埋土からは、土師器・瓦質土器・瓦片等が少量出土した。

SX218(第 66・67 図)

Ⅱ - 1 区東端部で検出した、不整形な方形状の水溜状の遺構である。東側縁の延長に直線溝の

SD223、西辺には幅広な溝状遺構 SD222 等が付設されている。これらの遺構は南北方向 (N24° W) に主軸を揃え企画的に配されていることと、周辺に所在する建物や柱穴群の密度などから推定して、屋敷地内を区画する遺構の可能性が高く、SX218 は区画溝 SD223 の南端部に形成された水溜状の遺構と考えられる。

検出長約 6.1m、幅約 5.0m、深さ約 0.4m を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は灰色系のシルトないし粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿・鍋・足釜・摺鉢・甕、青磁椀、陶器甕等と焼土片の塊が多数出土した。320 は土師器小皿、321 は青磁椀の底部、322 は土師器鍋上半部、323 は土師器足釜、326 は土師器甕底部、324・325 は陶器大甕の口縁部と底部片である。

331 は混入したサヌカイト製の交互剥離の横長剥片石核で旧石器の可能性が高い。肉厚な板状の剥片を素材にして片側縁に作業面を形成している。出土遺物から SX218 は、中世後半の 14 世紀前半頃に埋没した遺構と考えられる。

SX219(第 66 図)

II - 1 区東端部で検出した、SX218 の北約 2.0m に位置する不整形な方形の遺構である。形状から SX218 と同様の水溜状の遺構と考えられる。SX219 と SX218 とは、幅広で浅い SD222 をかいして繋がっており、SX218 とは一連の遺構と考えられる。

長径約 3.5m、短径約 3.0m、深さ約 0.25m を測る。埋土は複数層に分かれるが、灰色系シルトが主体を占める。埋土からは土師器小皿・杯・摺鉢、鋤先等が出土した。

327 は土師器小皿、328 は土師器杯で底部には糸切り痕を残す。329 は土師器の片口摺鉢、330 は鉄製で U 字状の鋤先である。出土遺物から SX219 は、中世後半の 14 世紀前半頃に埋没した遺構と考えられる。

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第 68 ~ 73 図)

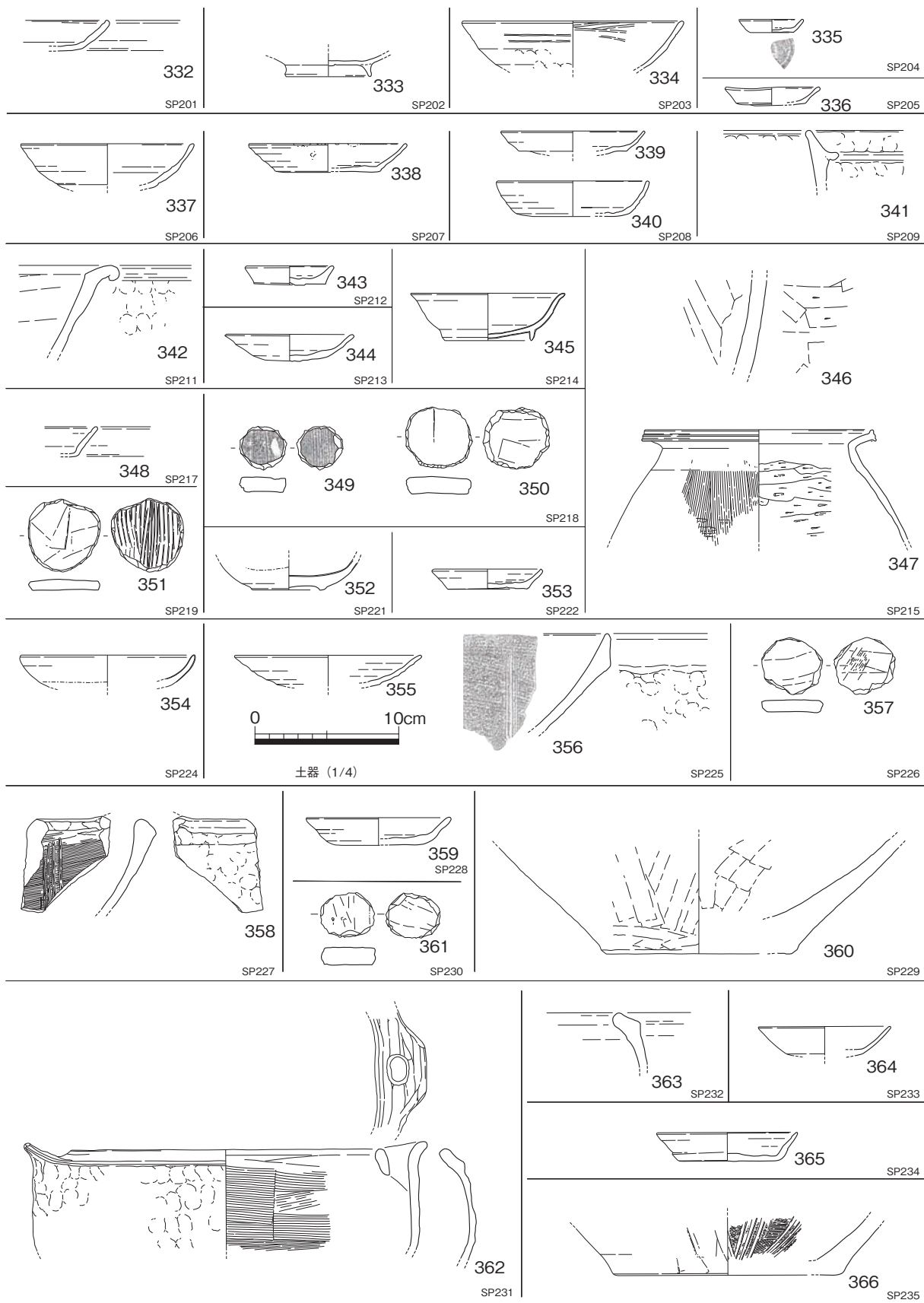
II - 1 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

332 ~ 404 はその他の柱穴から出土した遺物である。出土した土器の大多数は中世後半の土器であるが、少数の弥生土器や土製品及び石器類が出土している。347 は SP215 から出土した、弥生時代後期初頭の甕の上半部である。口縁端部は上下に肥厚させ、凹線文を施す。内面はヘラケズリが顕著に認められる。360 は SP229 から出土した、弥生時代後期前半の大型壺の底部である。

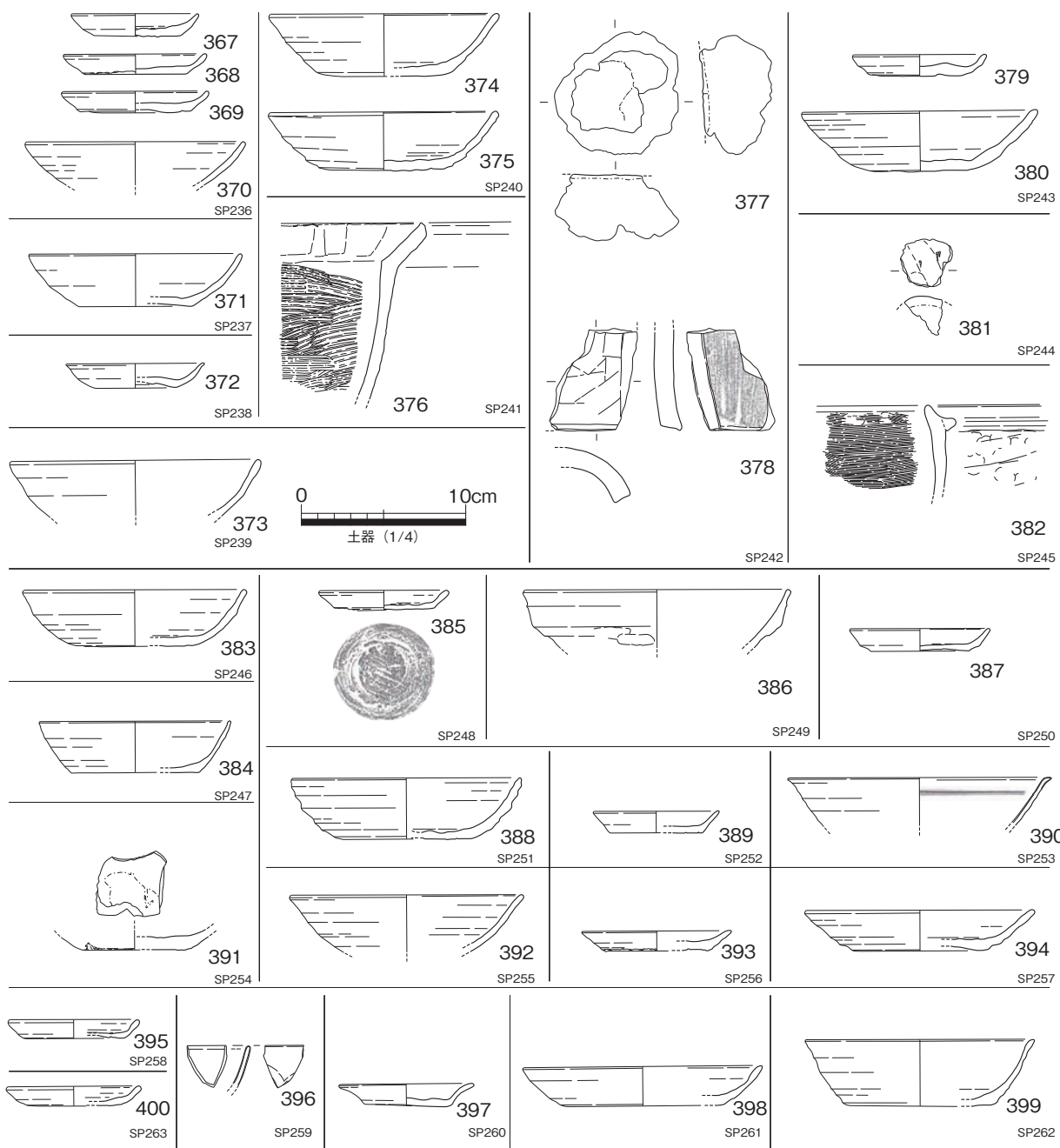
381 は SP244 から出土した鍛冶炉に伴う羽口片である。

401 は SP216 から出土したサヌカイト製の石鏃である。この石鏃は器面調整が進んでいないため未製品の可能性がある。402 は SP210 から出土したサヌカイト製の石錐である。錐部が紡錘状を呈する稀な形状をしている。403 は SP220 から出土したサヌカイト製の槍先形石器の未製品に分類したが、石核の範疇で捉えるものかもしれない。大型の剥片を素材とし周囲から調整剥離を加えているが、礫面を残すなど素材の形状を良く残している。404 は大型で円筒状の砥石転用の敲石である。この敲石の上下両端部には焼成痕が認められる。

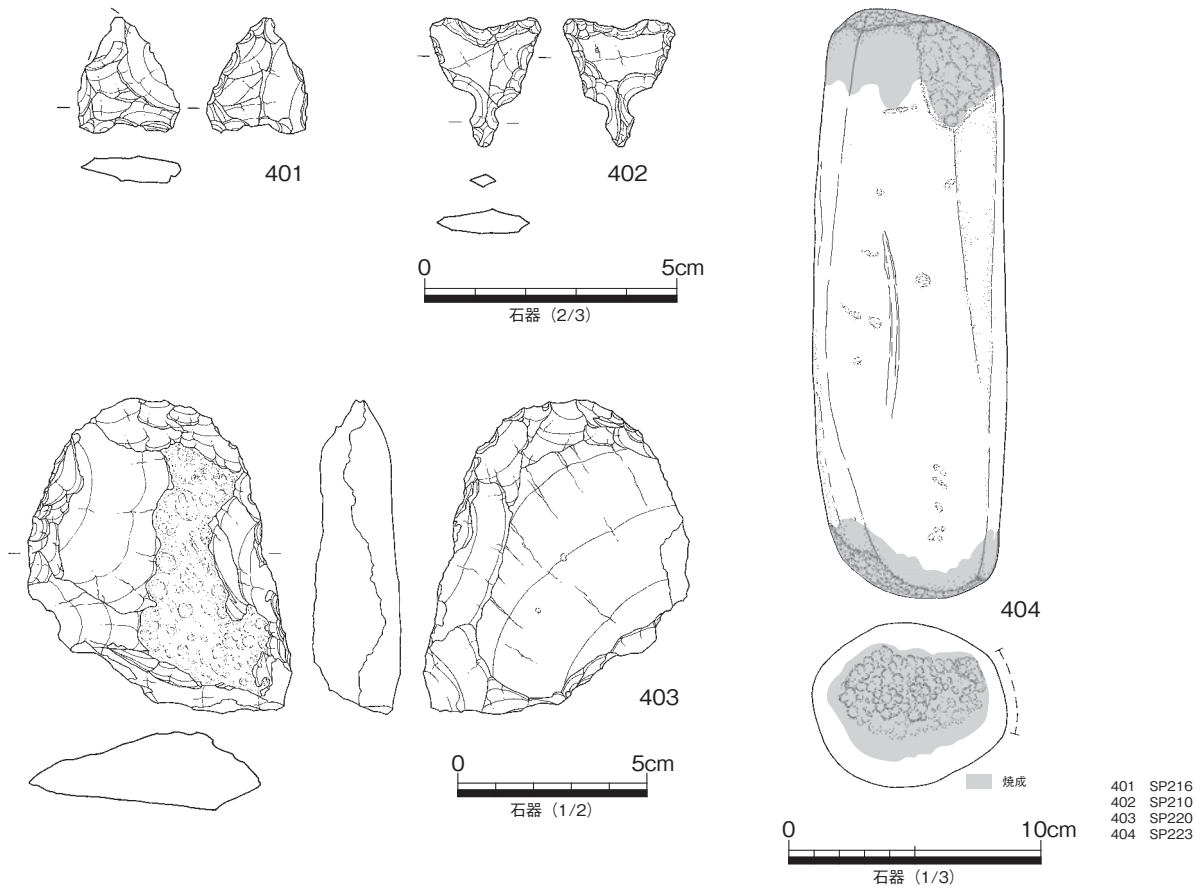
405 ~ 439 は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。包含層に含めた出土遺物は、弥生土器、



第 68 图 II - 1 区柱穴出土遗物 (1)



第 69 図 II - 1 区柱穴出土遺物 (2)

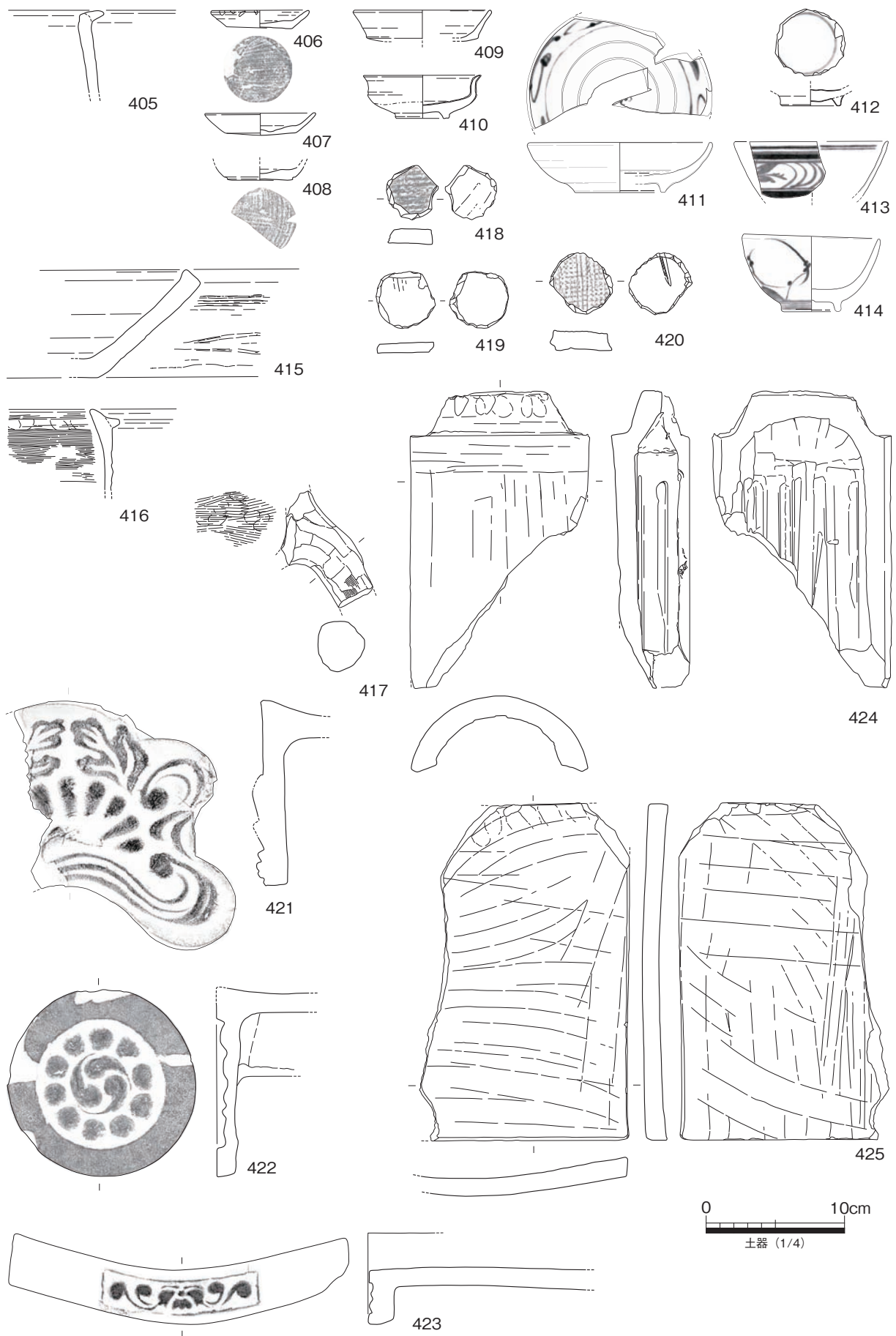


第70図 II-1区柱穴出土遺物(3)

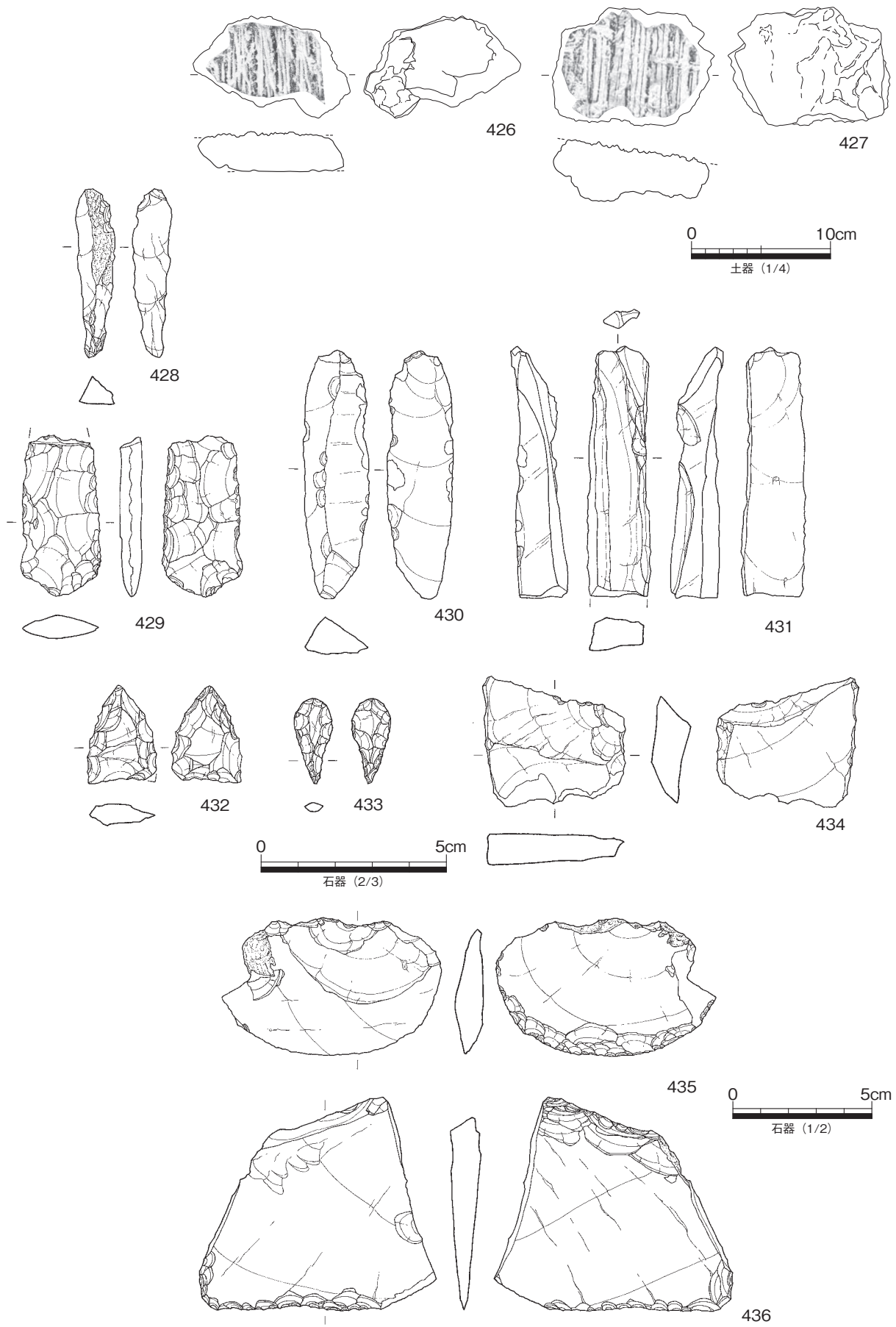
土師器、陶磁器やサヌカイト製の石器類等の遺物がある。

405は弥生前期前半頃の甕上半部片である。406～417は中世後半～近世の土器類である。418～420は円盤状土製品である。421～425は近世の燻焼きの軒丸・軒平等の瓦である。426・427は建物の壁材である。

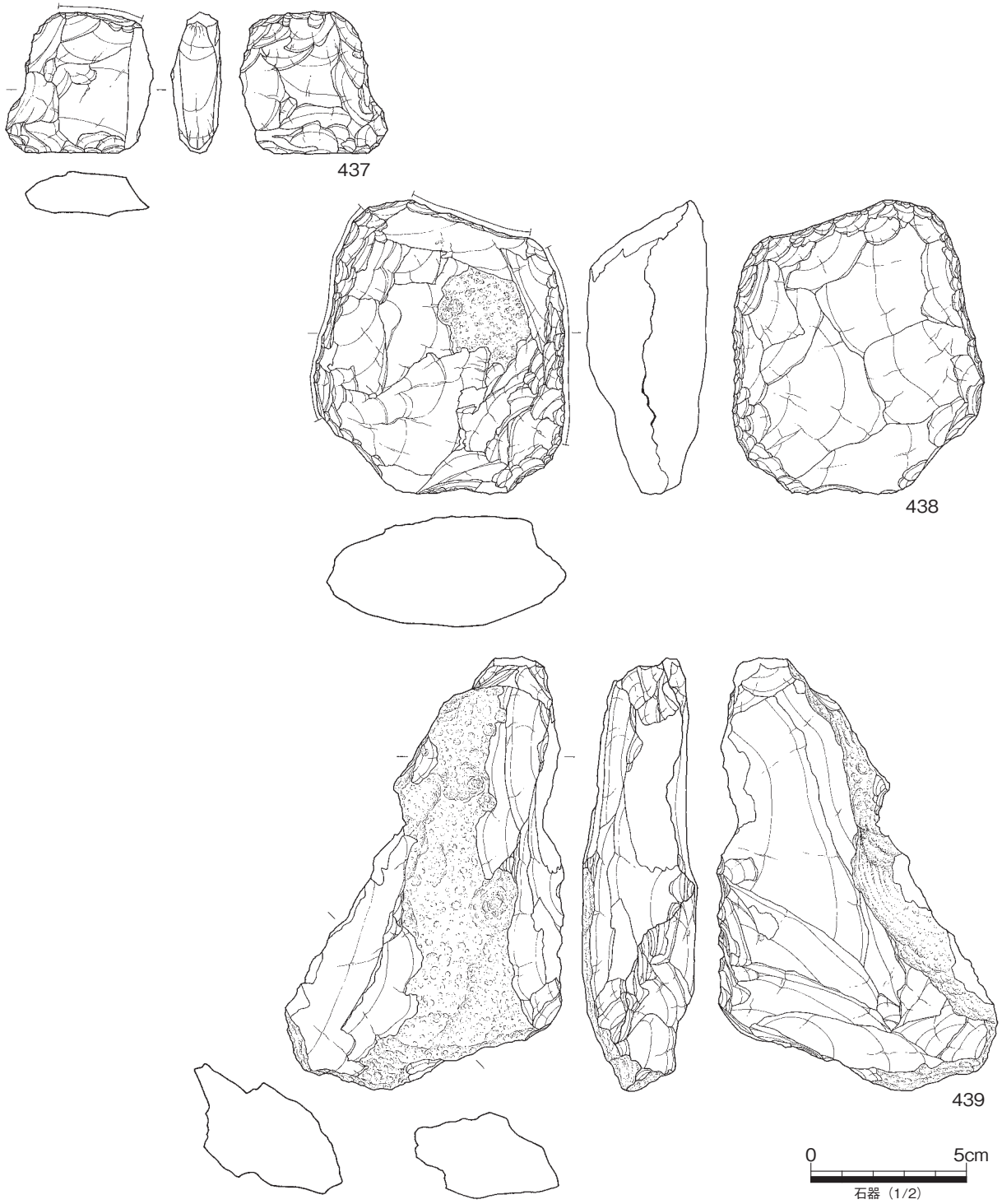
428～439はサヌカイト製の石器類である。428・430は縦長剥片である。428の背面には礫面を残し、腹面はポジティブな剥離面からなる。429は上半部を欠く有舌尖頭器である。この石器の石材は比較的良質なサヌカイトを使用している。有舌尖頭器は県下でも出土例が少ない貴重な遺物である。431は形状から縦長剥片石核の調整剥片と考えられる。432は石鎌、433は石錐、435・436は削器である。437は裁断面をもつ楔形石器である。438は手斧状の敲石である。形状から石核を転用したものと考えられる。439は交互剥離の横長剥片石核に分類したが、風化があまり進んでいないため、旧石器に含めるかどうかは問題である。



第 71 图 II-1 区包含层出土遗物 (1)



第72図 II-1区包含層出土遺物(2)



第 73 图 II - 1 区包含层出土遗物 (3)

3. II - 2 区

(1) 掘立柱建物跡

SB217(第 75 図)

II - 2 区北半部に位置し、北には SB219、北西には SB218 が隣接する。SB217 は SR202 の上面で検出しており、SR202 が埋没した後に形成された建物である。数基柱穴を欠くが東柱と考えられる柱穴を確認できることから、東西棟の梁間 2 間、桁行 3 間の総柱構造の建物と考えられる。

2 間 (3.3m) × 3 間 (4.6m)、面積 15.2㎡、主軸方位 N62.0° E(N28.0° W) を測る。柱間は梁間 1.6m、桁行 1.5 ~ 1.6m を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約 0.15 ~ 0.3m、深さ 0.1 ~ 0.4m を測る。北西隅の SP01 では根石を検出した。

柱穴からは土師器と須恵器の細片やサヌカイトの剥片が数点出土した。SB217 からは図化できる遺物は出土していないが、周辺の建物との関係から中世前半頃の建物と考えられる。

SB218(第 75 図)

II - 2 区北西端部に位置し、東には SB217 が隣接する。この建物は SD239・240・241 等と重複しており、前後関係については不明瞭な点があるが、おそらく SB218 が後出するものと考えられる。

東西棟の梁間 1 間、桁行 2 間以上の建物で、西半部は調査区から外れるため、東半部の約 2/3 を検出した。

1 間 (3.2m) × 2 間 (5.0m) 以上、面積 16.0㎡以上、主軸方位 N60.0° E(N30.0° W) を測る。柱間は梁間 3.2m、桁行 2.0 ~ 2.8m を測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径約 0.3 ~ 0.8m、深さ 0.2 ~ 0.4m を測る。南東隅の SP03 は、他の柱穴と比べ一回り大きな楕円形状を呈し深い。形状から推定して抜き取り穴の可能性はある。

柱穴からは土師器小皿・杯等が出土した。440・441 は SP03 から出土した土師器小皿及び杯である。出土遺物から SB218 は、13 世紀後半頃の建物跡と考えられる。

SB219(第 76 図)

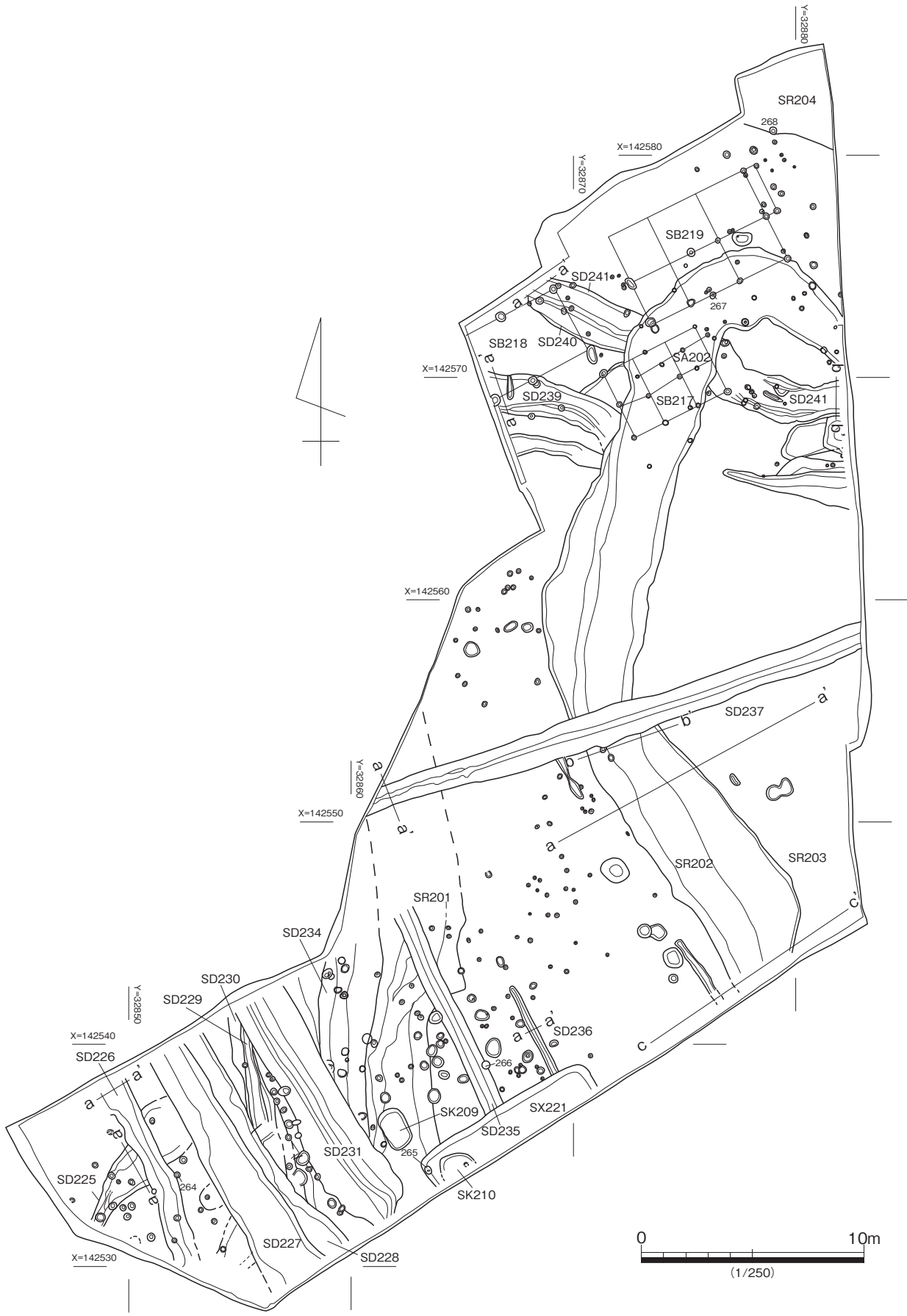
II - 2 区北端部に位置し、西には SB218 が隣接する。東辺に小さな廂をもつ南北棟の梁間 2 間、桁行 3 間の総柱建物である。SB219 は SR202 の上面で検出しており、SR202 が埋没した後に形成された建物である。なお、北側柱列の西半部は攪乱により欠く。

2 間 (4.4m) × 3 間 (6.8m)、面積 29.9㎡、主軸方位 N63.0° E(N27.0° W) を測る。柱間は梁間 2.1 ~ 2.3m、桁行 1.9 ~ 2.5m を測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径約 0.25 ~ 0.45m、深さ 0.1 ~ 0.4m を測る。

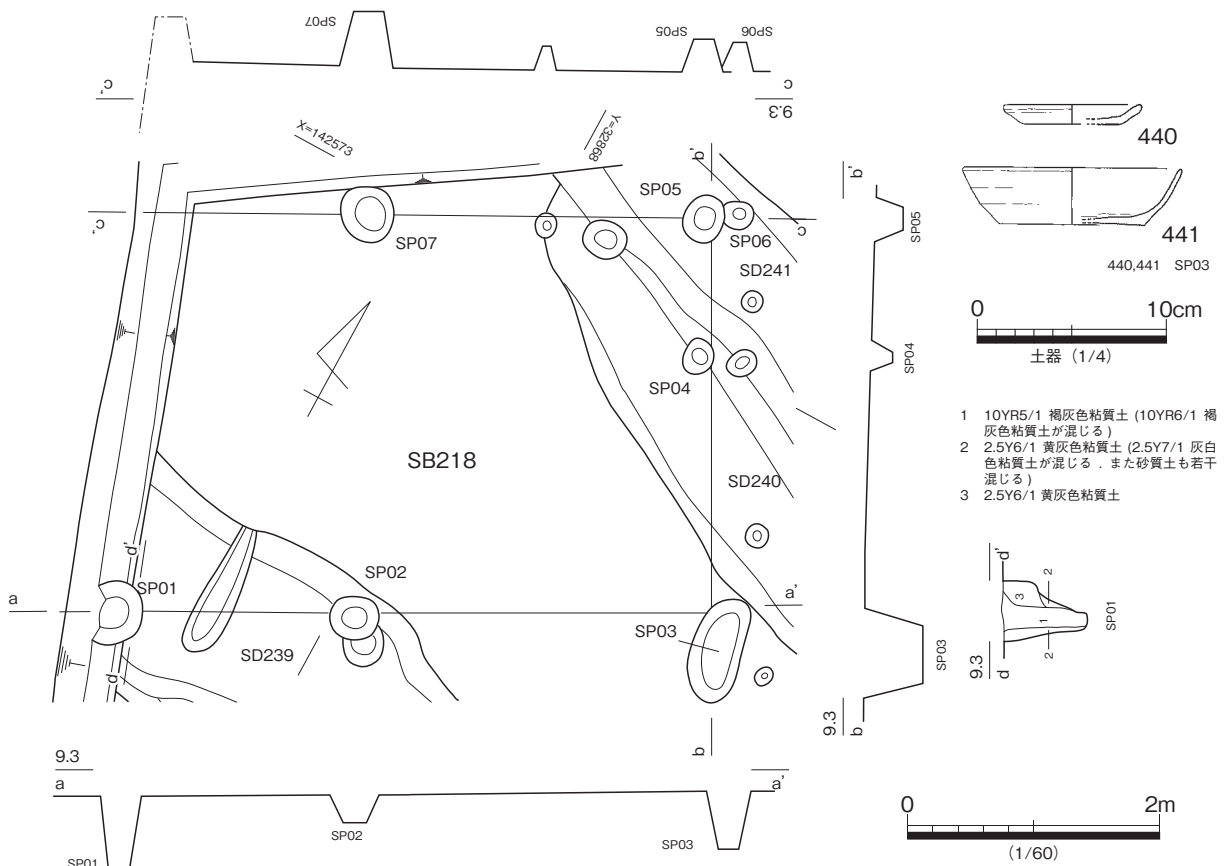
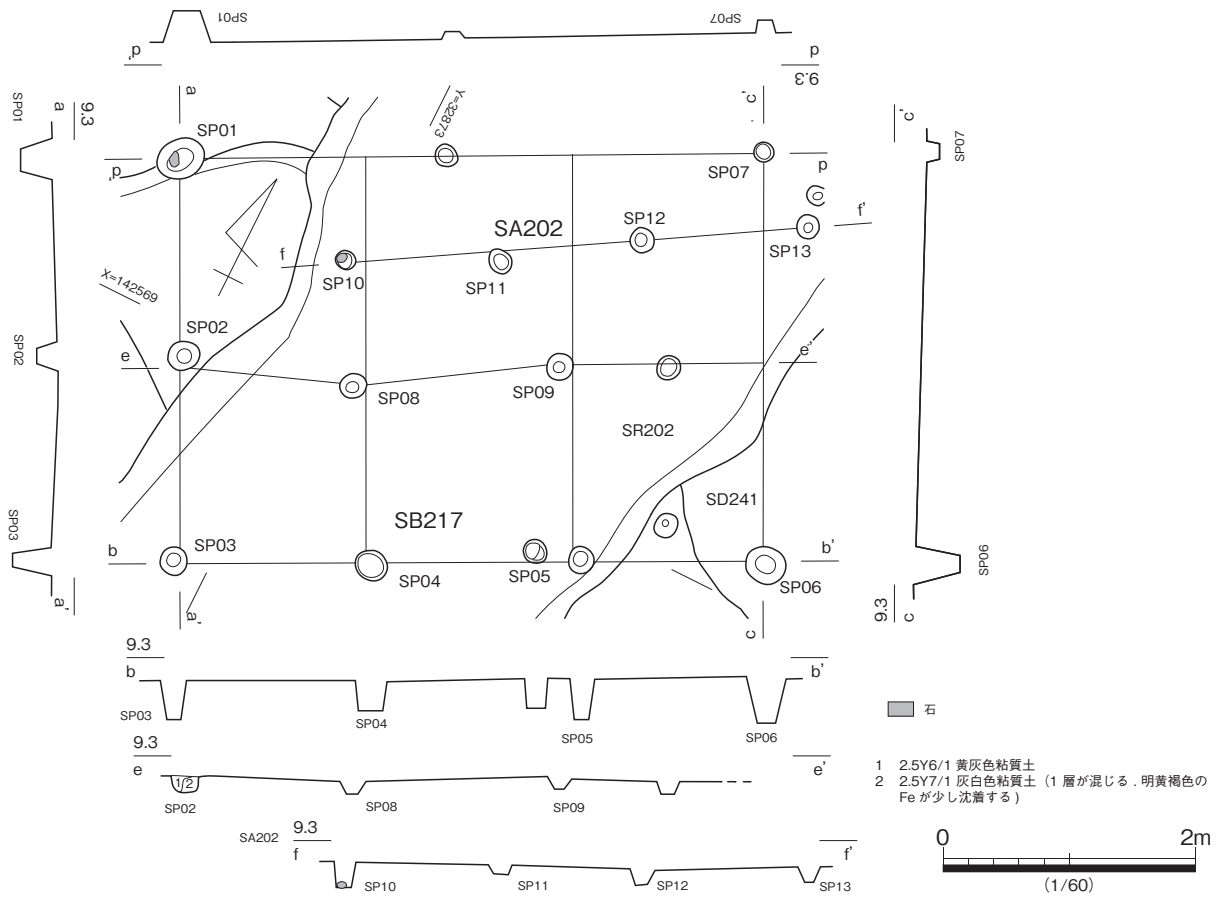
柱穴からは土師器小皿・杯、青磁椀片等が出土した。442・444・448 は SP01 から出土した土師器小皿と青磁椀口縁部片である。443 は SP08、447 は SP06 から出土した土師器小皿・杯である。445・446 は SP05 から出土した土師器小皿である。出土遺物から SB219 は、13 世紀後半頃の建物跡と考えられる。

SA202(第 75 図)

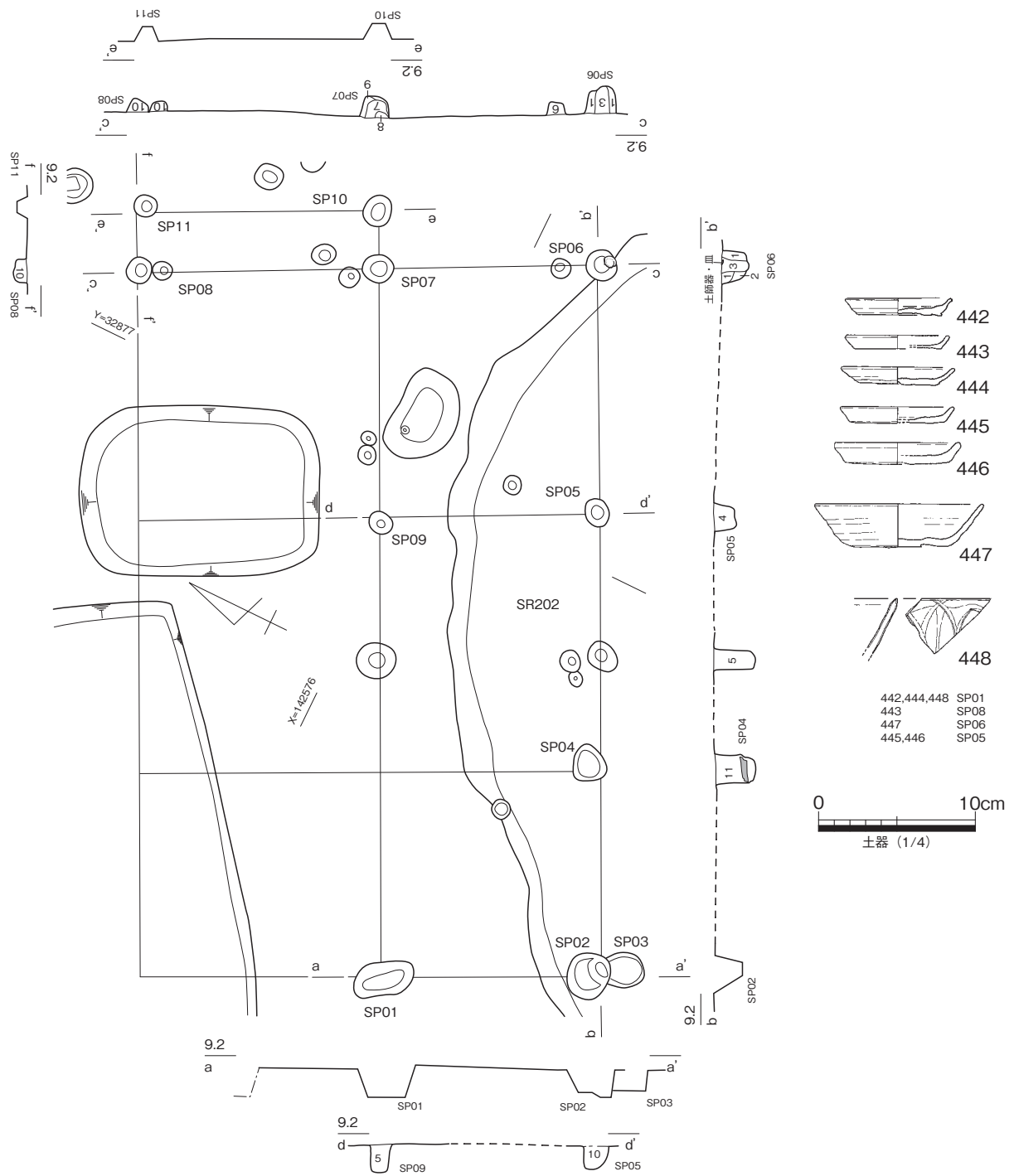
II - 2 区東半部に位置し SB217 と重複する、東西方向にある 3 間の柵列である。SA202 は SR202 の上面で検出しており、SR202 が埋没した後に形成された柵列である。SB217 との前後関係については柱



第 74 図 II - 2 区遺構配置図

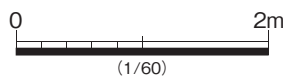
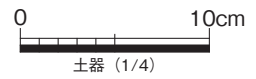


第75図 SB217・218・SA202 平・断面、出土遺物



- 1 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 2 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (1層と2層が混じる)
- 3 2.5Y6/1 黄灰色粘質土
- 4 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (2.5Y7/1 灰白色粘質土がブロック状に混じる. 明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 5 3層に同じ (砂質土がやや多い)
- 6 2.5Y7/1 灰白色粘質土 (明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 7 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1 黄灰色粘質土が混じる. 明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 8 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (7より明るい. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土が若干混じる. 明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 9 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (2.5Y7/1 灰白色粘質土が混じる. 明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 10 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (2.5Y7/1 灰白色粘質土が混じる. 明黄褐色の Fe が少し沈着する)
- 11 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (砂質土が少し混じる)

- 442,444,448 SP01
- 443 SP08
- 447 SP06
- 445,446 SP05



第 76 図 SB2919 平・断面、出土遺物

穴が切り合わないため不明である。

延長 3.6m 以上、柱間は約 1.1 ~ 1.3m、主軸方位は N60.0° E(N30.0° W) を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径 0.15 ~ 0.2m、深さ 0.1 ~ 0.2m を測る。西端部の SP10 からは根石を検出した。柱穴からは中世の土師器の細片が数点出土した。

(2) 土坑跡

SK209(第 77 図)

Ⅱ - 2 区南西部、SD201 の上面で検出した土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は南北方向に向く隅丸長形状、底面は概ね平坦で、断面は幅広な逆台形状を呈する。

長径約 1.90m、短径約 1.10m、深さ約 0.10m、方位は N28.5° W を測る。埋土は単層で黄灰色粘質土を呈する。

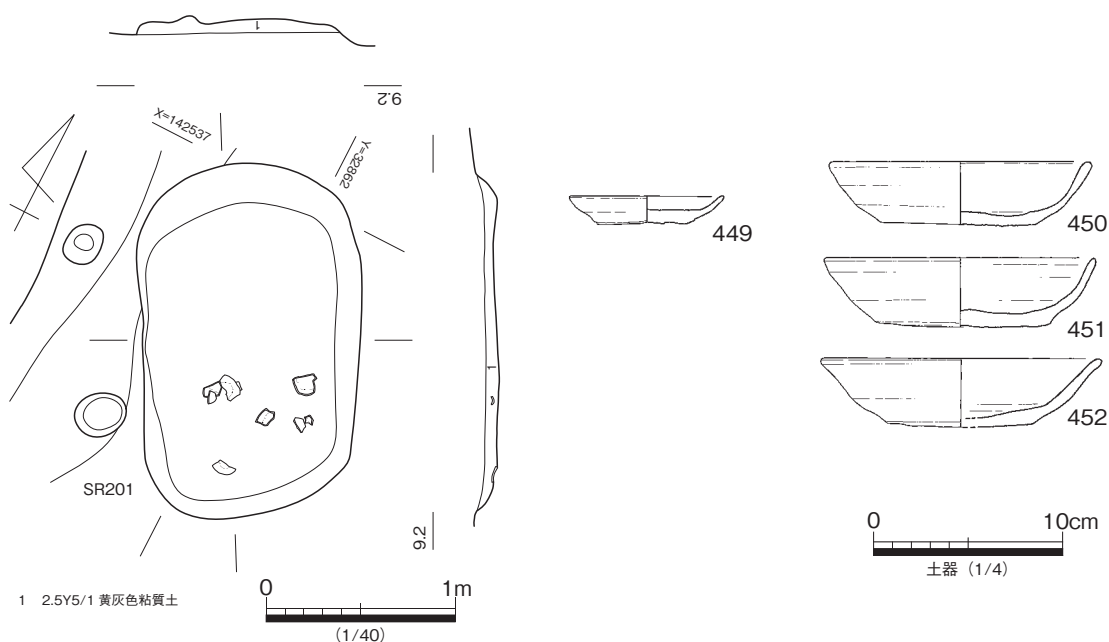
埋土からは中世の土師器小皿・杯が出土した。449 は土師器小皿、450・451・452 は土師器杯である。出土遺物から SK209 は 12 世紀後半頃の土坑と考えられる。

SK210(第 78 図)

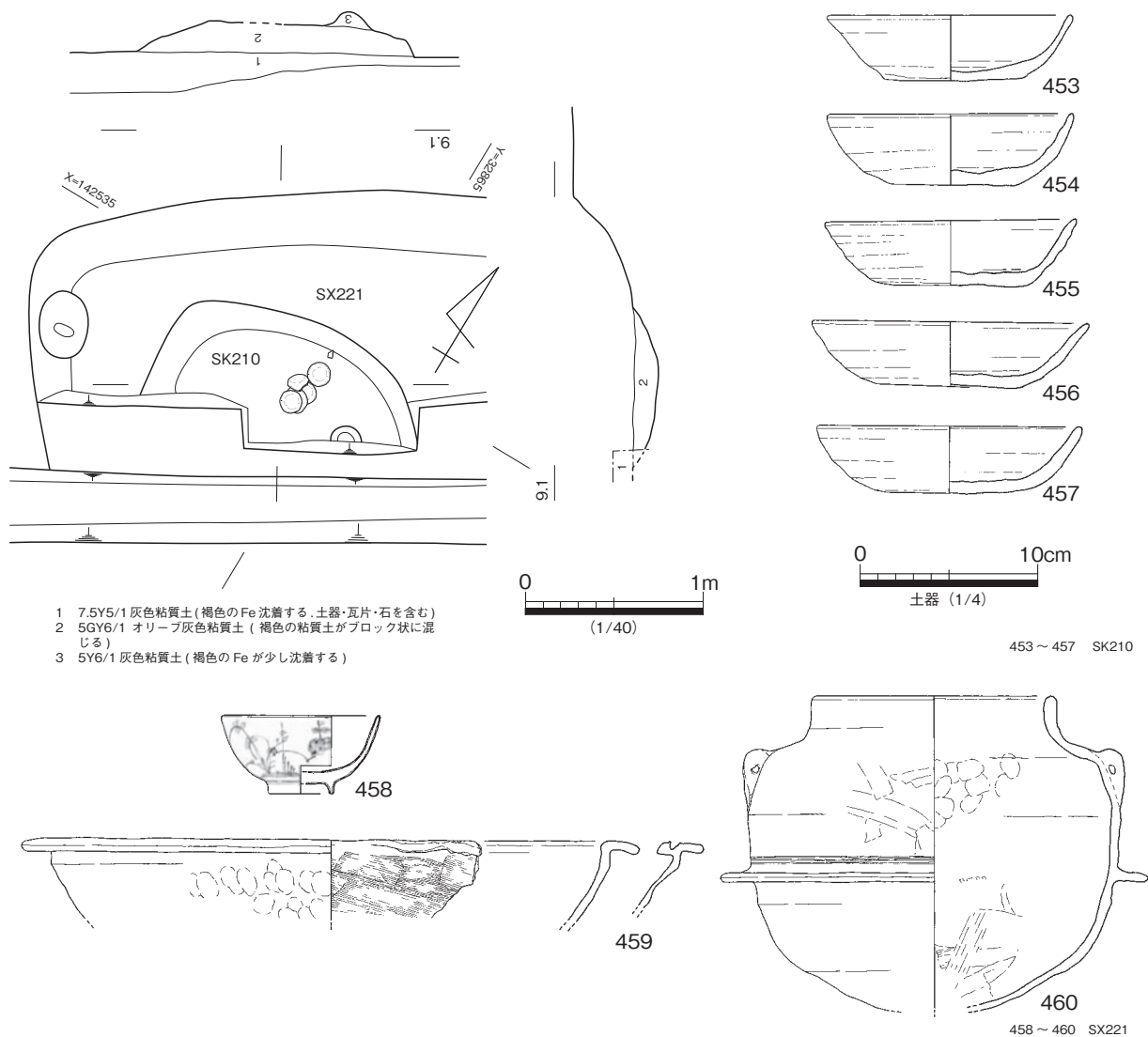
Ⅱ - 2 区南西部南壁際で検出した土坑である。南半部は対象地外へ延びており、上半部は SX221 により切り込まれているため残りが悪いが、失われた掘方の上位部分を推定すれば、比較的深みのある土坑と推定される。

平面は不整円形状、断面は幅広な皿状を呈する。長径約 1.6m 以上、短径約 0.8m 以上、深さ 0.15m 以上を測る。遺構面の高さをもとに失われた掘方の上位部分を推定すれば、おそらく、0.45m 程の深さになる。

埋土は単層で、オリーブ灰色粘質土を呈する。埋土からは土師器杯がまとめて出土した。453 ~ 457 は土師器杯である。出土遺物から SK210 は 12 世紀後半頃の土坑と考えられる。



第 77 図 SK209 平・断面、出土遺物



第 78 図 SK210・SX221 平・断面、出土遺物

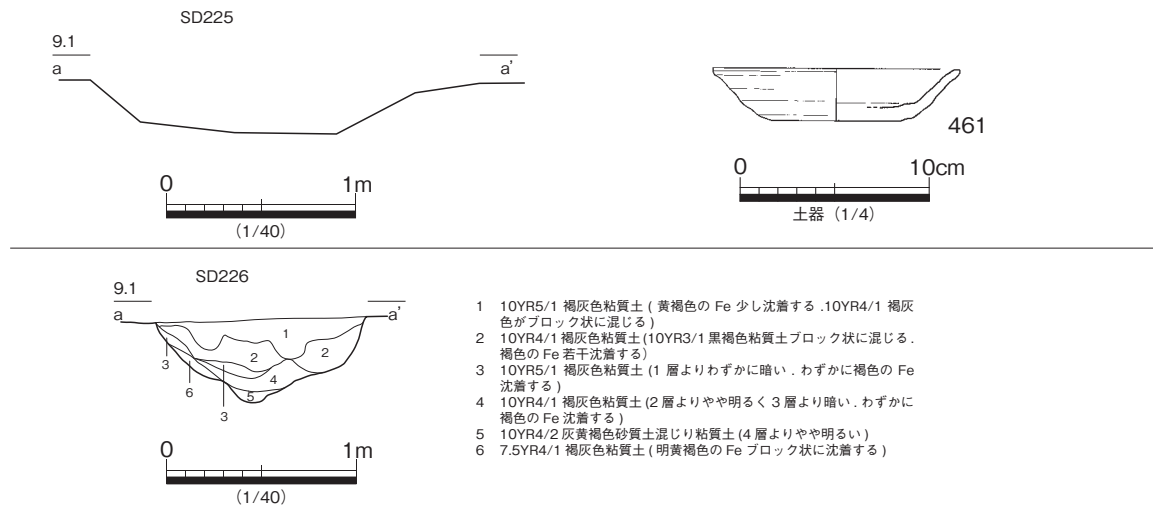
458 ~ 460 は、SK210 の上面を切り込んでいる、18 世紀頃の SX221 から出土した資料で、参考資料として報告しておく。458 は染付椀、459 は土師器の焙烙、460 は土師器の羽釜である。

(3) 溝状遺構

SD225(第 79 図)

Ⅱ - 2 区南西端部の SD227・228 の西側に位置する、北東方向へ延びる不整形な溝状遺構である。北端部は SD227・228 に切られ、南端部は調査区外に延びる。また、中央部では SD226 に切り込まれている。全体の形状は南端では幅が狭く北へ行くほど幅広なハの字状の形状をしており、人為的な溝跡と捉えるより自然によるものと考えた方がよい遺構である。

検出長約 6.5m、幅 0.7 ~ 2.7m、深さ約 0.2m を測る。埋土からは土師器・須恵器・瓦器の細片が数点出土した。461 は土師器杯である。出土遺物からこの溝跡は中世に属するものと考えられる。



第 79 図 SD225・226 断面、出土遺物

SD226(第 79 図)

Ⅱ - 2 区南西端部の SD227・228 の西側に位置する、条里方向に近い北西方向の溝である。北半部は北西方向へ直線気味に延びる。南半部は南東方向へ屈曲し SD227・228 と重複するが、その前後関係は不明瞭である。

検出長約 12.5m 以上、幅約 1.2m、深さ約 0.4m、方位は N21.5° W を測る。断面の形状は幅広の U 字状を呈し複数層に分かれる。

埋土からは土師器の細片が数点出土した。SD226 は出土遺物が少なく不明瞭であるが、概ね中世頃の溝跡と考えられる。

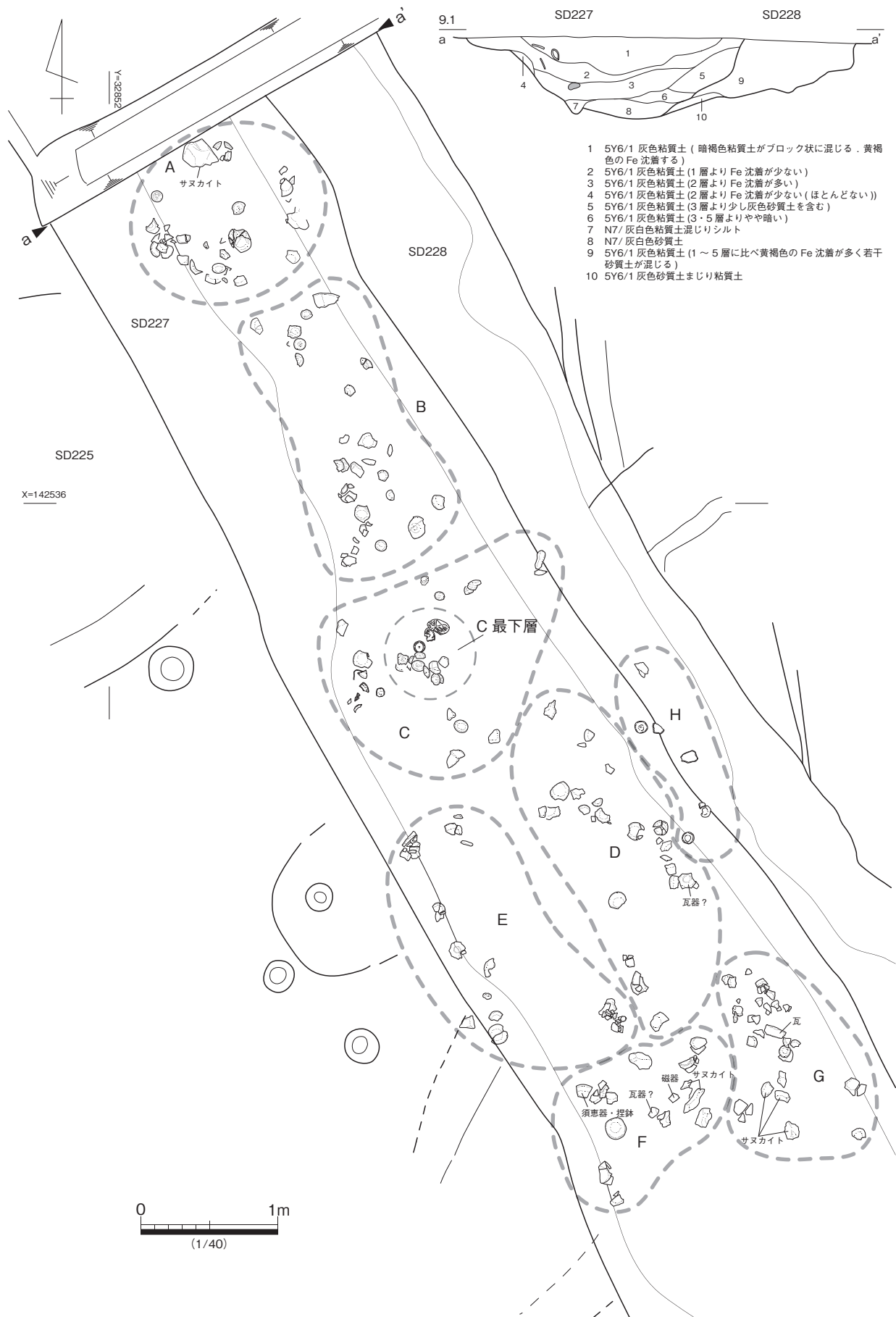
SD227(第 80 ~ 83 図)

Ⅱ - 2 区南西端部で検出した、SD228 を切り込んで北西方向へ延びる直線溝である。SD228 とは埋土、時期ともにさほど差が認められない点から、SD228 が埋没した後に改修した溝跡が SD227 にあたるものと考えられる。なお、SD227 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

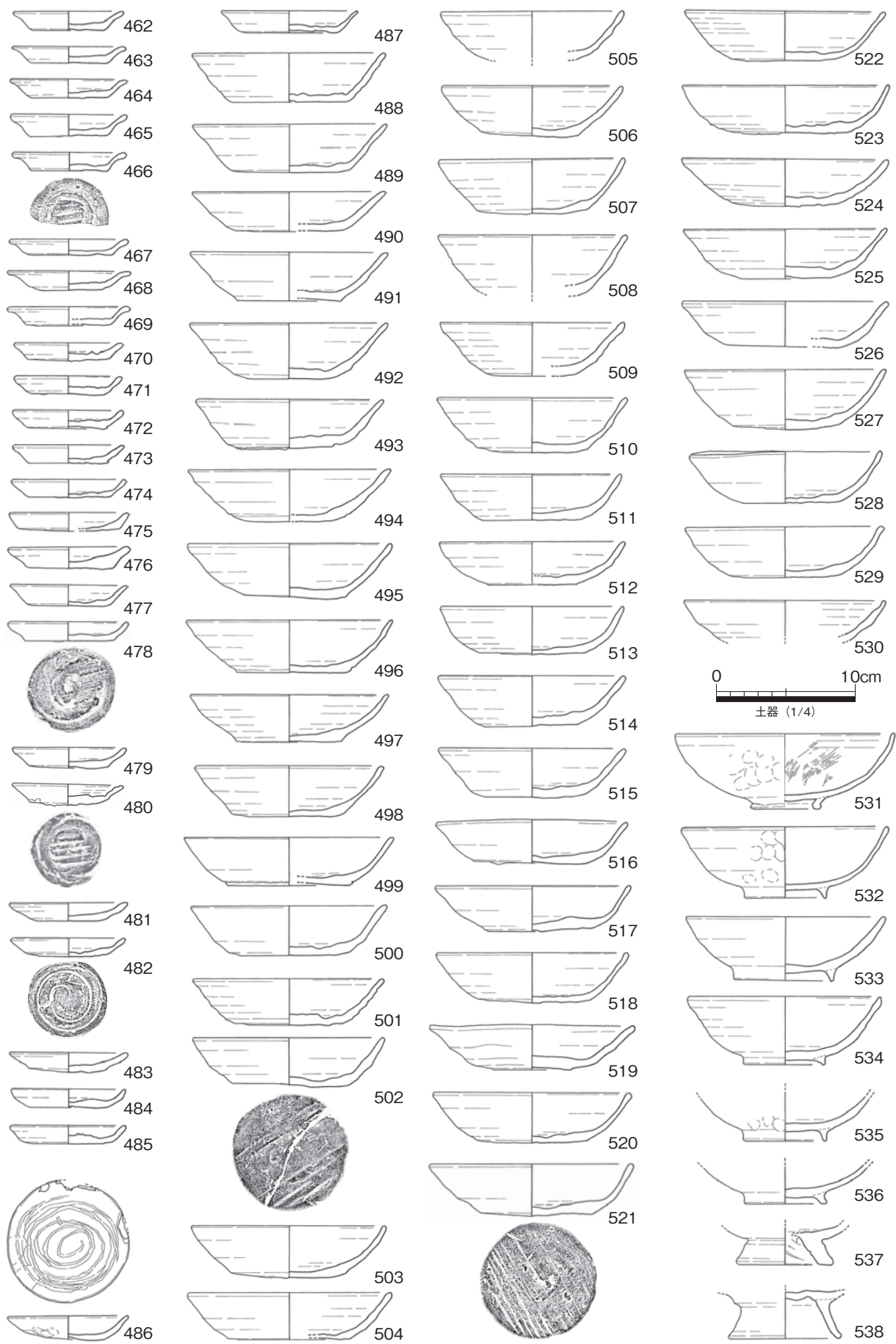
検出長約 11.0m、幅約 2.0m、深さ約 0.6m、方位は N29.0° W を測る。断面の形状は上方に開いた U 字状を呈する。埋土は数層に分かれるが主体を占めるのは灰色粘質土である。

埋土からは周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる、12 世紀後半～13 世紀頃の土器が多量に出土した。主要なものでは土師器小皿・杯・椀・足釜・鍋・鉢・搦鉢、瓦器椀・小皿、須恵器椀・鉢・壺・甕、青磁椀、瓦等があげられる。

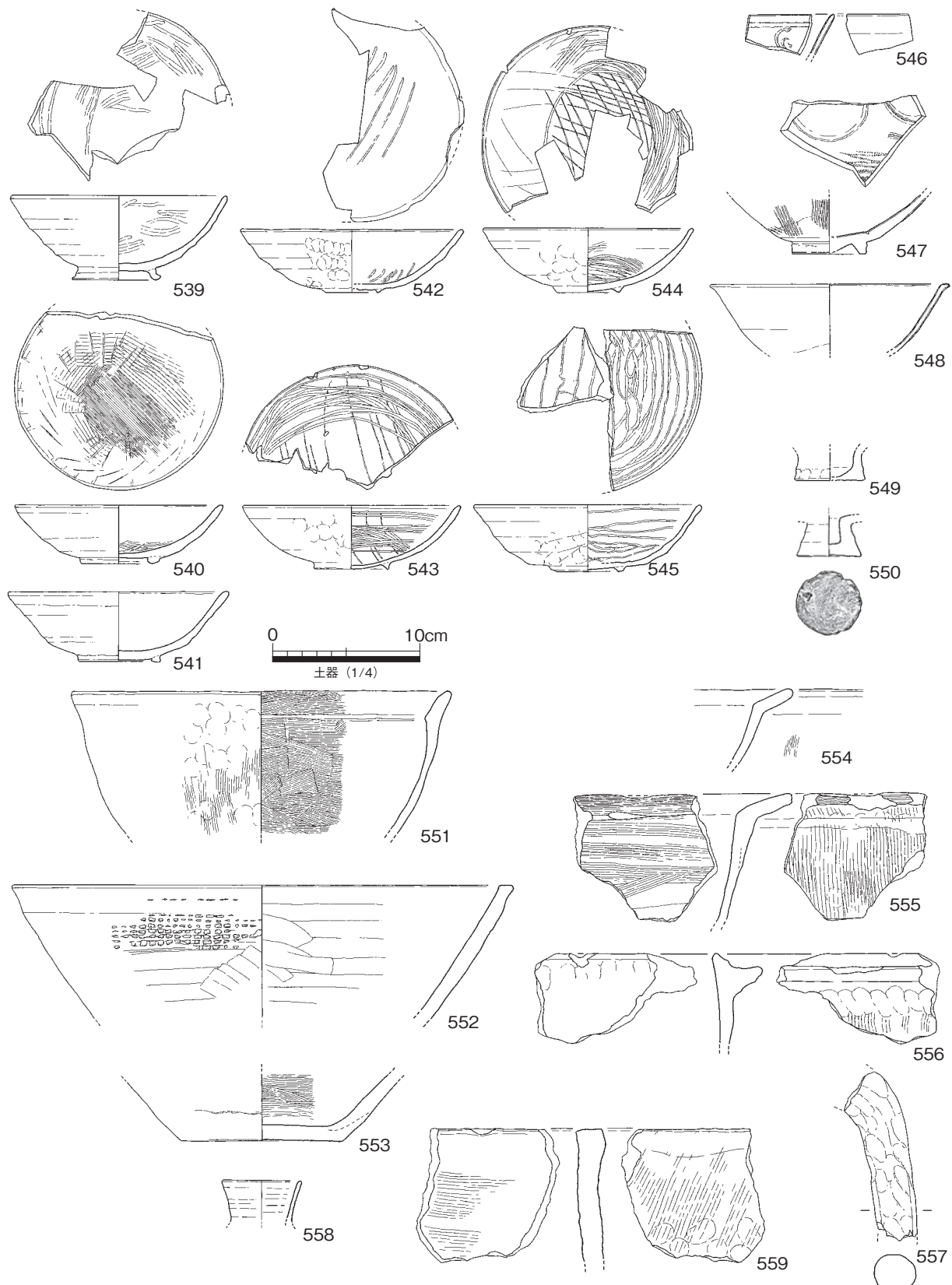
462～485 は土師器小皿である。底面の調整は回転ヘラ切りで施されており、糸切りのものは確認できなかった。口縁部の形状で外反するものと内湾気味に開くタイプ等、数タイプに分けることができる。486 は瓦器小皿である。瓦器の小皿は出土数が少なく希少な遺物である。487～530 は土師器杯である。形状から 2 タイプ以上に分かれる。底部は回転ヘラ切りを施しナデ消している。また、半数以上に板状圧痕を確認できる。531～536 は土師器椀、539～541 は須恵器椀である。542～545 は 12 世紀後半頃の和泉型の瓦器椀で、これらの土器が SD227 の埋没時期を示す資料になる。546～548 は 12 世紀後



第 80 図 SD227・228 平・断面図

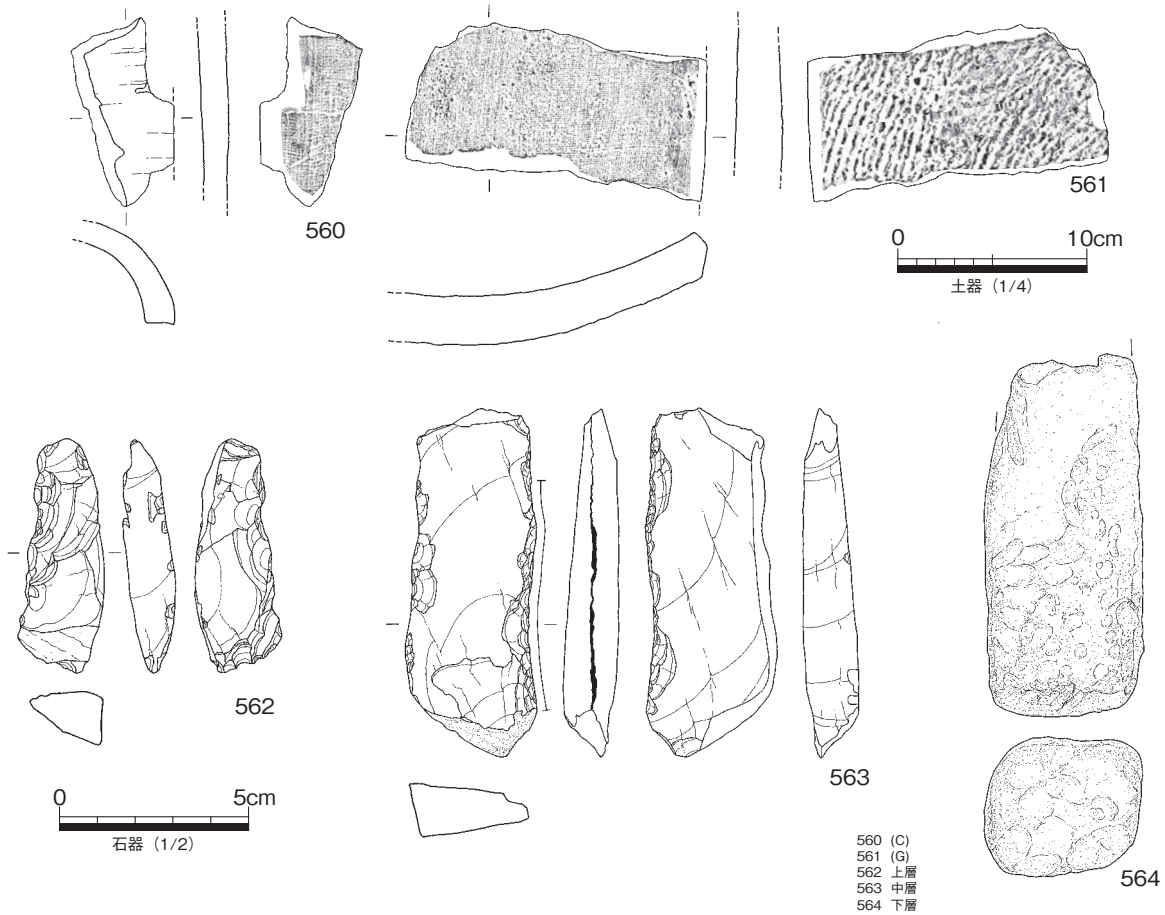


第 81 図 SD227 出土遺物 (1)

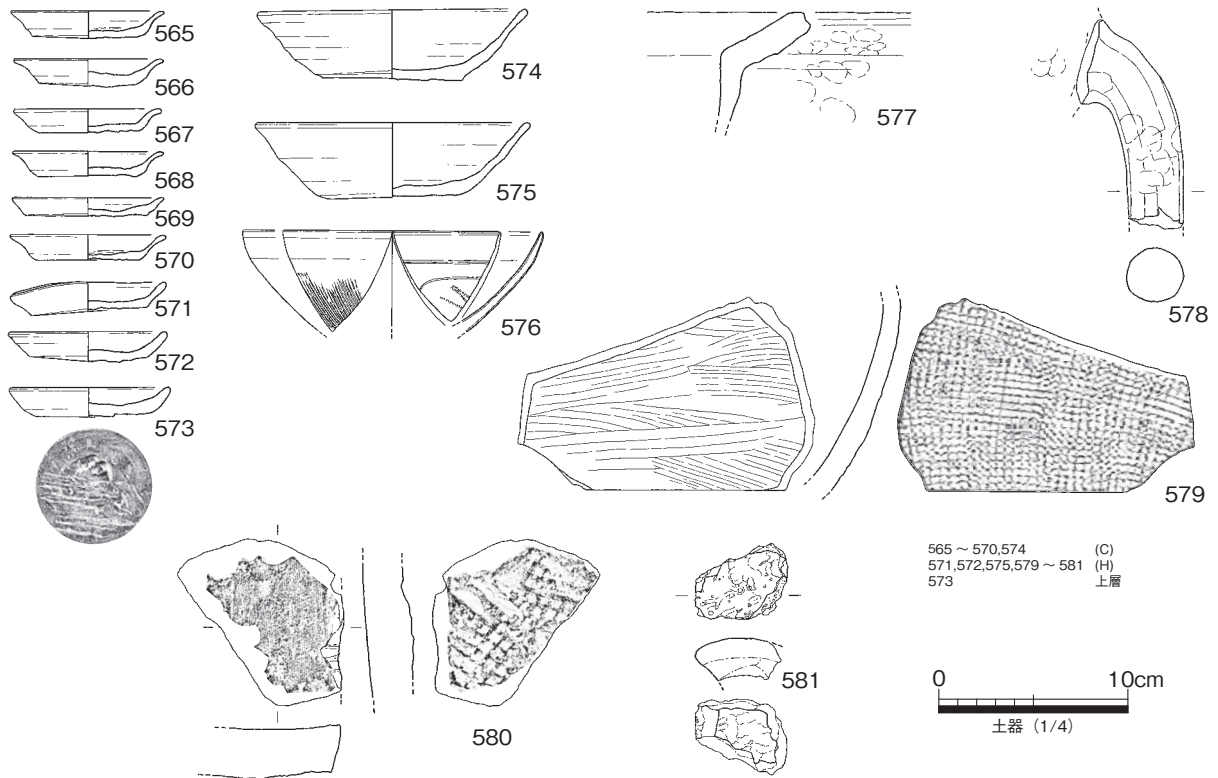


- | | | | |
|---------------------------------|------------|---|---------|
| 472,482,492,511,514,524,531,554 | (A) | 473,496,516,519,521,550 | (D) |
| 503 | (A) 中層 | 491 | (D) 中層 |
| 495 | (A)(B) | 512 | (D) 最下層 |
| 471,484,489,493,551 | (B) | 502,506,526,540 | (E) |
| 544 | (B) 最下層 | 532,533,548,552,559 | (F) |
| 539 | (B)(C) 最下層 | 483,510,513,515 | (G) |
| 527,542 | (B) 中層 | 463,464,466 ~ 468,477,478,480,485,487,497,499,500,505,525,535,537,541,546,553,555 ~ 557 | 上層 |
| 486,522,538 | (C) | 470,475,476,479,488,498,501,504,520,530,543,558 | 中層 |
| 494 | (C) 下層 | 469,481,490,508,509,518,528,529,536,545,549 | 下層 |
| 462,547 | (C) 最下層 | 474,517,523 | 最下層 |

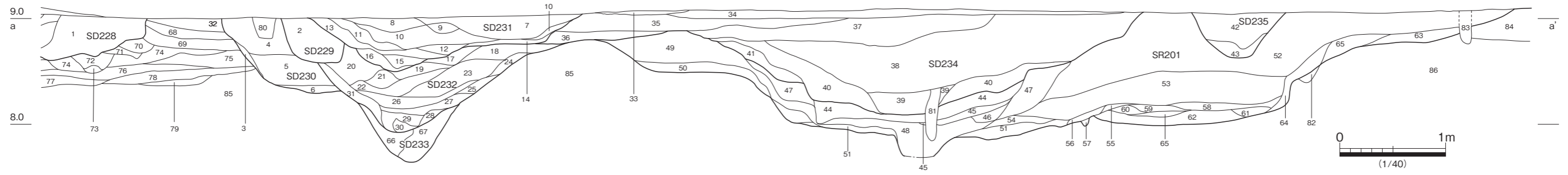
第 82 図 SD227 出土遺物 (2)



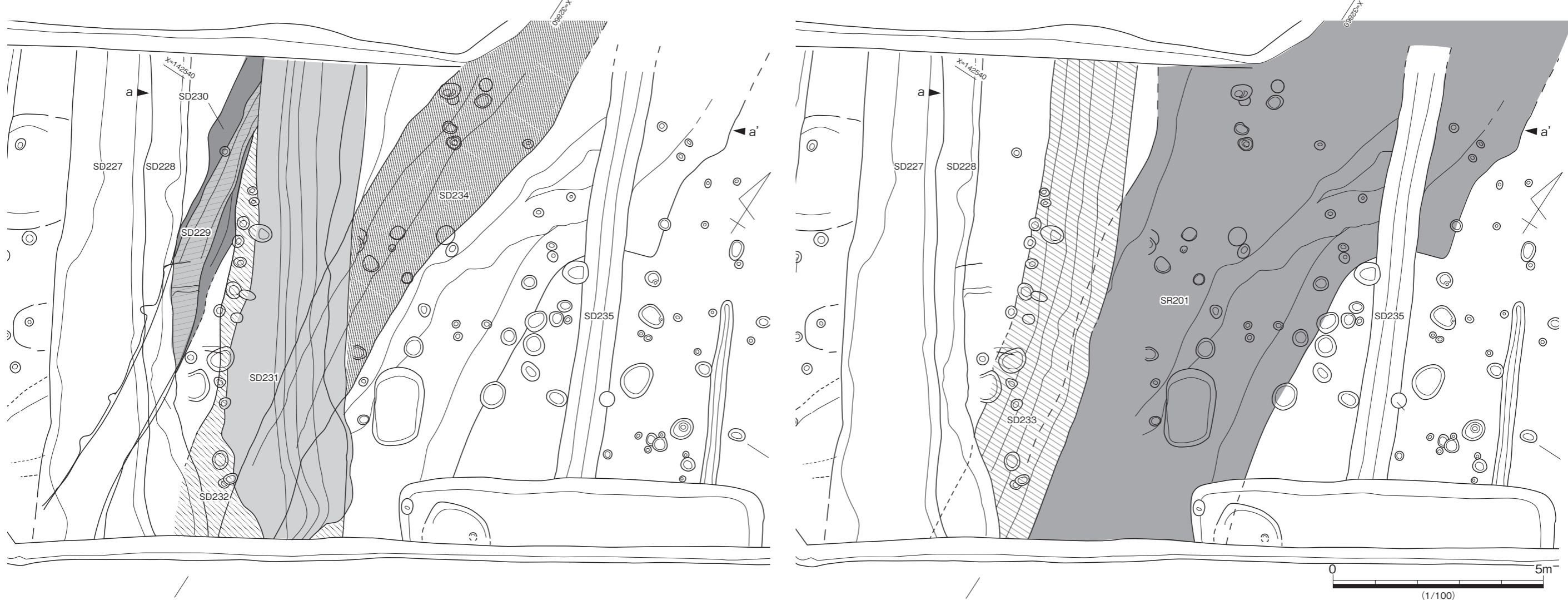
第 83 図 SD227 出土遺物 (3)



第 84 図 SD228 出土遺物



- | | | | |
|--|--|---|---|
| <p>SD228 1 中世
1 5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 沈着が多く若干砂質土が混じる)
SD229 2 中世
2 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
SD230 3~6 中世
3 10YR5/1 褐灰色粘質土 (4 と 69 が混じる . 褐色の Fe 沈着する)
4 10YR5/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
5 10YR5/1 褐灰色粘質土
6 10YR5/1 褐灰色粘質土 (かたくしまっている)
SD231 7~15 中世
7 7.5Y6/1 灰粘質土混じり粘質土 (明黄褐色の Fe 若干沈着する)
8 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (10 層よりやや暗い)
9 7.5Y6/1 灰粘質土 (明黄褐色の Fe 若干沈着する . しまりよし)
10 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 (小石を少し含みしまり悪し)
11 2.5Y6/1 灰粘質土 (褐色の Fe 沈着する)
12 2.5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 沈着が少なく)
13 5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 多く沈着する)
14 10YR4/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe はげしく沈着する)
15 5Y6/1 灰粘質土 (底部に褐色の Fe 沈着する)
16 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
SD232 16~31 中世
17
18 10YR6/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 沈着する)
19 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり砂質土</p> | <p>20 10YR6/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
21 7.5YR4/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
22 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe がはげしく沈着する)
23 7.5YR4/1 褐灰色粘質土
24 7.5YR3/4 暗褐色粘質土 (暗褐色の Fe がはげしく沈着する)
25 10YR7/1 灰白色粘質土 (明黄褐色の Fe がはげしく沈着する)
26 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
27 10YR7/1 灰白色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する . 明黄褐色の Fe がブロック状に沈着する)
28 10YR7/1 灰白色粘質土 (10YR6/1 褐灰色粘質土がブロック状に交じる . Fe がブロック状に沈着する)
29 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 (27 層がブロック状に混じる . 明黄褐色の Fe 多く沈着する)
30 7.5YR2/1 黒色粘質土
31 5YR2/1 黒色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
SD234 32~41 中世
32 5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 沈着する . 1 よりやや明るい)
33 5Y6/1 灰粘質土 (褐色の Fe 沈着はすくない . 34 層より明るい)
34 5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 沈着が少なく)
35 5Y6/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 多く沈着する)
36 5Y6/1 灰粘質土粘質土 (32 と同一層?)
37 5Y4/1 灰粘質土 (黄褐色の Fe 沈着する)
38 5YR6/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
39 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する . 7.5YR7/1 明褐灰に近い)
40 5YR5/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
41 10YR6/1 灰白色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)</p> | <p>SD235 42~43 中世
42 10YR5/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe が沈着する . N4 / 灰粘質土がブロック状に混じる)
43 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 (42 層よりやや暗い)
SR201 44~65 弥生時代
44 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
45 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (小石を含む . 暗褐色の Fe 多く沈着する)
46 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 (暗褐色の Fe 多く含む)
47 10YR5/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
48 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
49 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
50 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (褐色の Fe 多く沈着する)
51 7.5Y5/1 灰粘質土 (小石を含む . 弥生土器片を含む)
52 7.5YR2/1 黒色粘質土
53 10YR4/1 褐灰色粘質土 (52 層より明るい . 黒色粘質土がブロック状に混じる . 暗褐色の Fe 多く沈着する)
54 10YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土
55 10YR7/1 灰白色粘質土
56 7.5YR5/1 褐灰色粘質土
57 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土
58 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (褐色の Fe 沈着する)
59 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (褐色の Fe 沈着する)
60 10YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土
61 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (58 層より明るくシルトの割合も多い)
62 10YR6/1 褐灰色粘質土 (明黄褐色の Fe 少く沈着する)
63 7.5YR6/1 褐灰色粘質土混じり砂質土</p> | <p>64 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 (52 層より明るい . 暗褐色の Fe 少く沈着する)
65 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土
SD233 66・67 弥生時代
66 5Y5/1 灰粘質土 (明黄褐色の Fe 多く沈着する . 5Y7/2 灰白色シルトと縞模様状に堆積する . 67 層までつづく)
67 2.5Y8/8 灰粘質土 (5Y6/2 灰粘質土が縞模様状に堆積する)
68 5Y5/1 灰粘質土 (暗褐色の Fe 沈着する . 32 層よりやや暗い)
69 10YR6/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe 沈着する)
70 5Y5/1 灰粘質土 (褐色の Fe 沈着する . 1・69 層よりやや明るい)
71 10YR6/1 褐灰色粘質土 (褐色の Fe 沈着する)
72 5Y5/1 灰粘質土混じり粘質土
73 7.5YR6/1 褐灰色粘質土
74 5Y5/1 灰粘質土混じり粘質土混じり粘質土 (74 層より明るい . 褐色の Fe 少く沈着する)
75 10YR5/3 に近い黄褐色粘質土混じり砂質土 (褐色の Fe 少く沈着する)
76 7.5Y5/1 灰粘質土 (かたくしまっており褐色の Fe 沈着する)
77 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (褐色 Fe 多く沈着する)
78 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (76 層より暗い)
79 7.5YR5/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (褐色 Fe 多く沈着する)
80 5Y6/1 灰粘質土 (黒褐色の Fe 著しく沈着する)
81 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 (暗褐色の Fe 多く沈着する)
82 7.5YR4/1 褐灰色粘質土混じり粘質土 (64 層より明るい . 86 層が混じる)
83 7.5YR4/1 褐灰色粘質土混じり粘質土
84 10YR5/1 褐灰色粘質土 (86 層よりやや暗く粘り有り)
85 10YR6/1 褐灰色粘質土 (明黄褐色の Fe 著しく沈着する)
86 10YR5/1 褐灰色粘質土 (明黄褐色の Fe 激しく沈着する)</p> |
|--|--|---|---|



第 85 図 SD229 ~ 235 · SR201 平 · 断面図

半頃の貿易陶磁器で、546・547は青磁椀、548は白磁椀である。551～553は鉢の資料で、551は土師器、552は須恵器、553は瓦質の鉢である。554・555は土師器鍋、557は土師器足釜、556は土師器羽釜、549・550は土師器托、560・561は丸瓦と平瓦片である。560には布目痕、561には布目痕と縄目タタキ痕を明瞭に残している。559は土師質の土製品である。器壁は厚みがあり直立気味に立ち上がる。上端部は円形に内湾する。内外面伴に被熱を受け変色しており、状況から鍛冶炉の炉壁材と考えられる。出土遺物からSD227は、12世紀後半頃に開削され13世紀頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD228(第80・84図)

Ⅱ-2区南西端部で検出した、SD227と切り合い北西方向へ延びる直線溝である。西岸部はSD227により切り込まれており、東岸部だけを残す。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部はSD229と重複し、同溝を切り込んでいる。東には約1.5m程隔ててSD231が同方向に延びている。なお、SD228の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約11.0m、幅1.2m以上、深さ約0.4m以上、方位はN29.0°Wを測る。断面の形状は北壁面を観察する限り凹凸のある不整形な形状を呈している。埋土は灰色粘質土が主体をしめる。

埋土からは12世紀頃の遺物が出土した。565～573は土師器小皿である。574・575は土師器杯、576は青磁椀、577は土師器鍋、578は土師器足釜、581は鍛冶炉の羽口片である。内外面伴に被熱を受けて変色している。580は布目と格子タタキを残す平瓦片である。

SD229(第85図)

Ⅱ-2区南西半部のSD231・232の西側に位置する、南北方向の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。北端部はSD231・232と南半部はSD227・228と重複している。

SD229はSD231・228に切り込まれ、SD230・232を掘り込んでいる。前後関係を整理すれば、SD230→SD232→SD229→SD231の順になる。

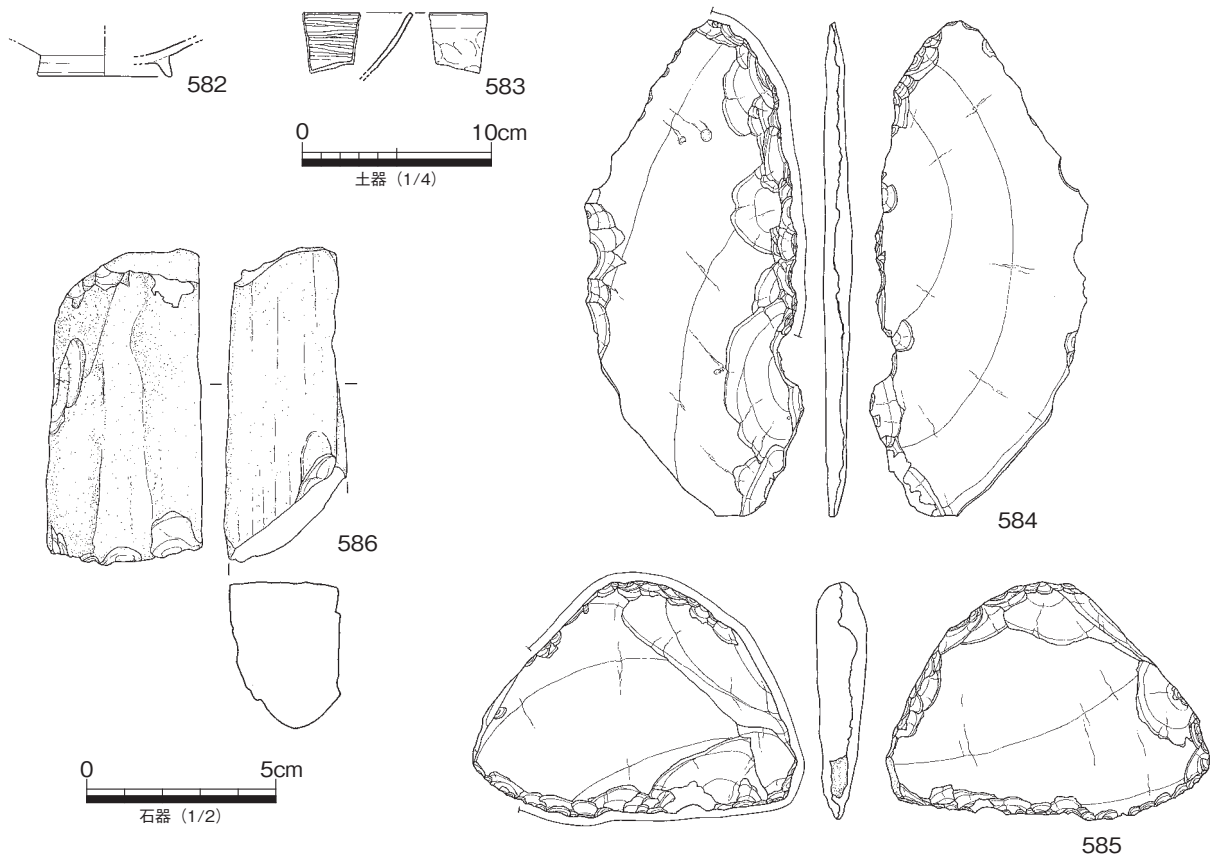
検出長約8.0m以上、幅0.3～0.7m、深さ約0.4m、方位はN9.0°Wを測る。断面の形状は幅広のU字状を呈し黒褐色粘土の単層である。埋土からは弥生土器、土師器、須恵器片等が少量出土した。図化できる遺物がないので、詳細な時期判断の問題を残している。

SD230(第85・86図)

Ⅱ-2区南西半部のSD229とはほぼ同方向に配された直線溝である。SD229と重複しSD229に切られている。また、SD229と同様に北端部はSD231・232と南半部はSD227・228と重複しており、SD230はSD232・229に掘り込まれている。前後関係の順番を整理すれば、SD230→SD232→SD229→SD228の順になる。

検出長約8.0m以上、幅1.1～1.5m、深さ約0.7m、方位はN9.0°Wを測る。断面の形状は上に開いた隅丸台形状を呈し、埋土は褐灰色粘土である。

埋土からは土師器椀、瓦器椀片やサヌカイト製石器等が少量出土した。582は土師器椀底部、583は和泉型の瓦器椀体部片である。584・585はサヌカイト製石器で、混入遺物と考えられる。584は削器とも考えられるが、大型横長剥片を素材にした槍先形石器の未製品に分類した。主に素材剥片の片側縁か



第 86 図 SD230 出土遺物

ら調整を開始しているが、対辺にも部分的に調整を開始しており、小型の槍先形石器を意図した未製品と考えられる。585 は横長状の剥片を素材にした削器である。

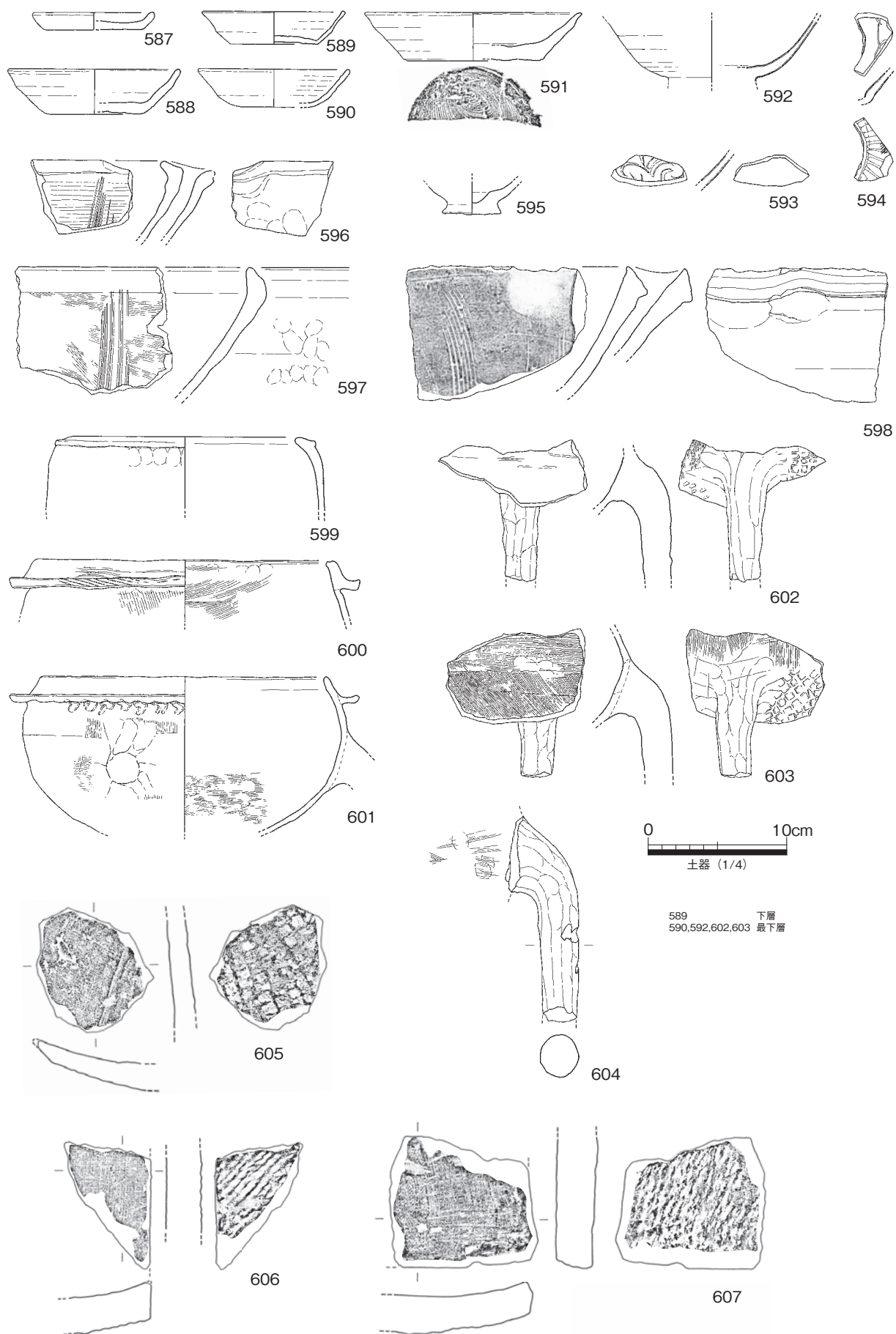
SD231(第 85・87～89 図)

Ⅱ - 2 区南西半部の SD227・228 の東側で検出した、北西方向へ延びる直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。SD232 の上位に位置し、同溝跡を掘り込んでいる。北端部は SD229・230 と、南端部では SR201・SD233 と重複しており、SD231 はこれらの溝状遺構を切り込んでいる。なお、SD231 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

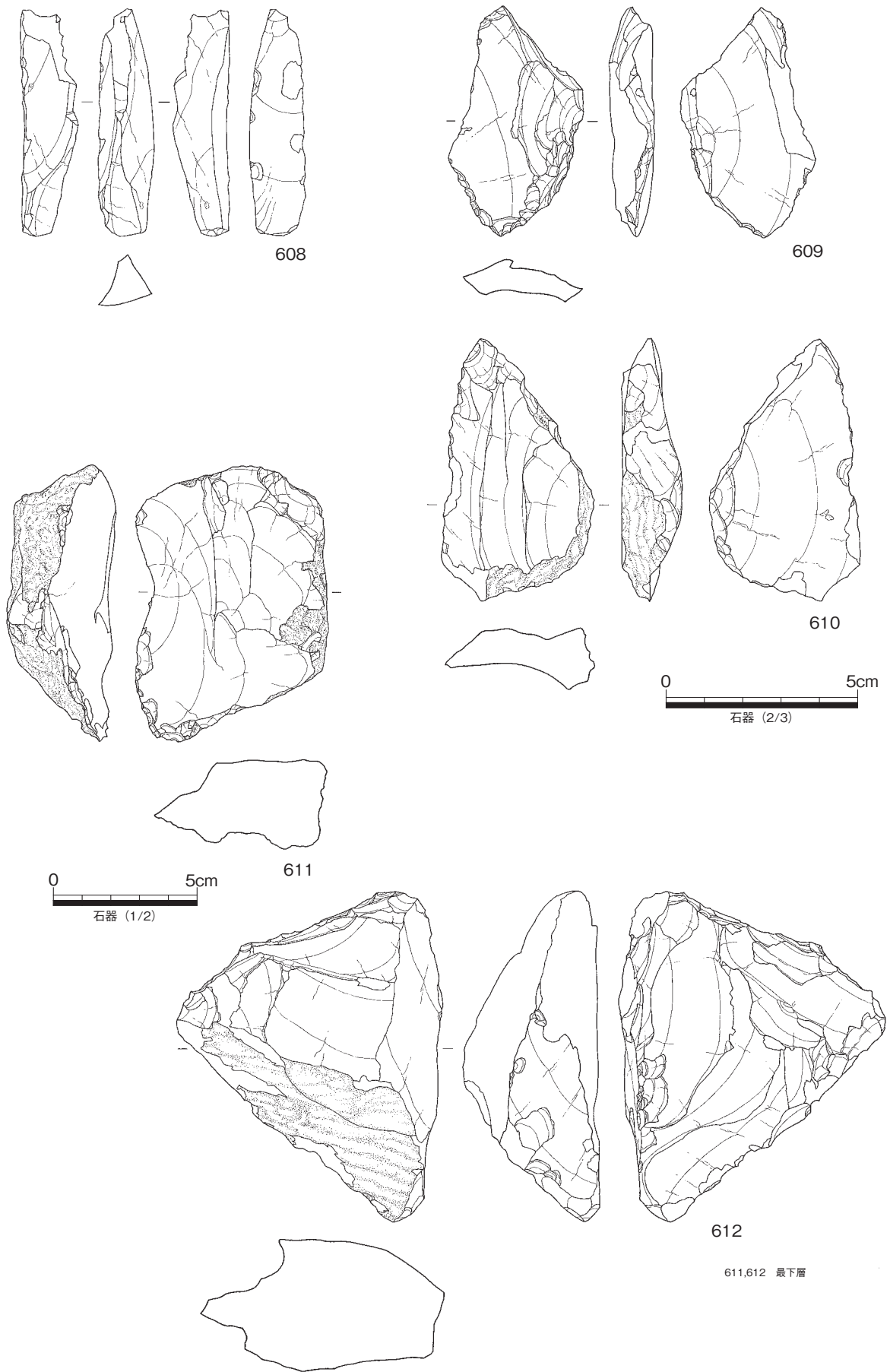
調査時には複数の溝が切り合うものと考え、数条に分けられていたのであるが、整理の段階で遺構の検出状況や切り合い関係、また出土遺物等の再検討を行なった溝跡である。

検出長約 11.0m、幅約 3.0m、深さ約 0.5m、方位は N32.0° W を測る。断面の形状は幅広の V 字状を呈し複数層に細かく分かれる。

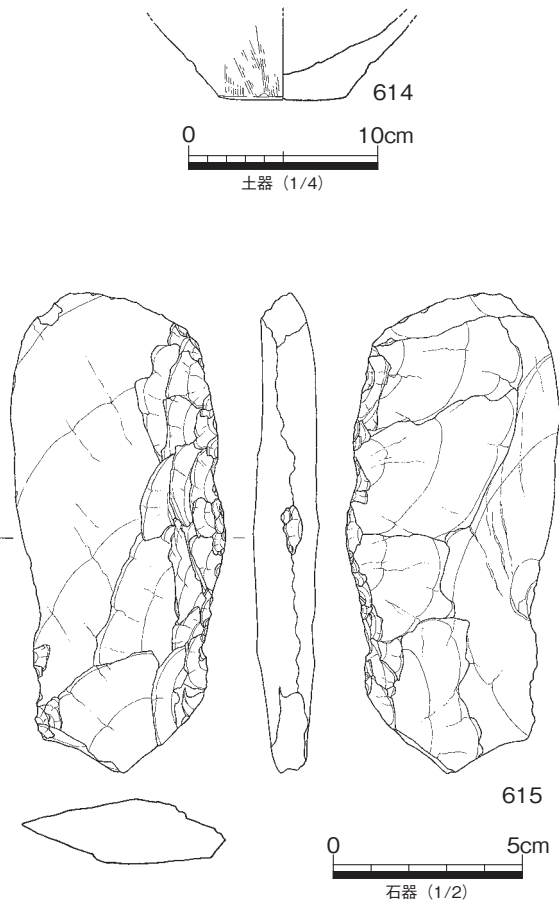
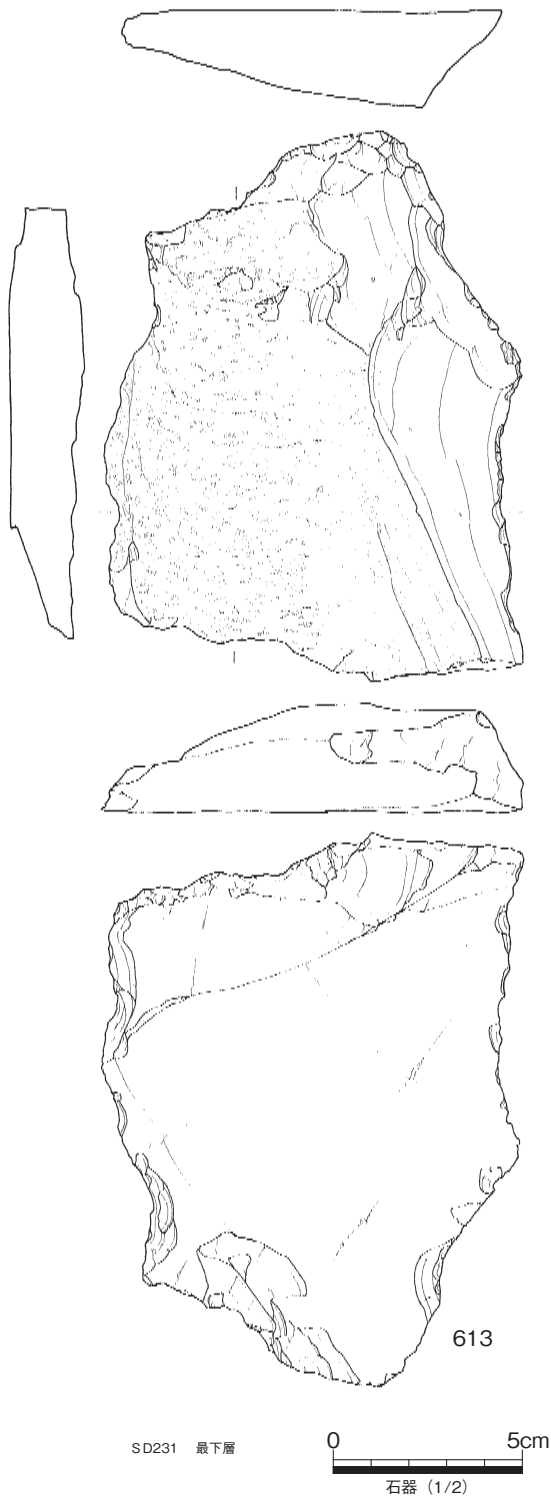
埋土からは周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる 12～13 世紀頃の土器と、サヌカイト製石器類が出土した。587 は土師器小皿、588～591 は土師器杯で 13 世紀中頃の時期が考えられる。588～590 の底部はヘラ切りであるが、591 の底部には糸切痕を残す。592 は磁器椀、596・597 は土師器摺鉢、598 は陶器の片口摺鉢である。593・594 は青磁椀、599～604 は土師器足釜の体部と脚部片である。605～607 は布目と格子タタキを残す平瓦片である。



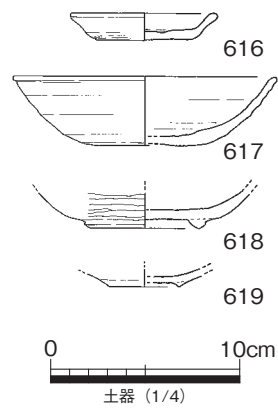
第 87 図 SD231 出土遺物 (1)



第 88 図 SD231 出土遺物 (2)



SD233



SD235

第 89 図 SD231・233・235 出土遺物

608は縦長剥片石核の調整剥片である。609・610は横長剥片である。いずれも背面には底面とネガティブな剥離痕が認められ、打面は調整打面を呈しており、連続する剥片剥離の過程で発生した剥片と考えられる。611・612・613石核である。611は原石素材の一端に打面調整を施し、横長剥片を剥取っている。612は板状の素材をもとにした石核で、板の広口面にあたる素材の分割面を作業面とし、多方向からの剥片剥離痕が認められる。613は大型の横長剥片石核である。大型の盤状剥片を素材とし、その一端から剥片剥離を行なっている。出土遺物からSD231は、13世紀後半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD232(第 85 図)

Ⅱ-2区南西半部のSD227・228の東側で検出した、SD231の下位に存在し、同溝跡と重複している。この溝跡はSD231と規模・方向等で類似しており、SD231の下層相当とも考えられるが、同溝跡とは掘り込み面が異なる点より、別の溝と判断した。なお、SD232の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

北端部はSD229・230と、南端部ではSR201・SD233と重複しており、SD232はSD230・233・SR201を切り込み、SD229・231・234に切り込まれている。

検出長約11.0m、幅約2.5m、深さ約0.8m、方位はN32.0°Wを測る。断面の形状は幅広のV字状を呈し複数層に細かく分かれる。埋土からは中世後半の土器が少量出土した。

SD233(第 85 ・ 89 図)

Ⅱ-2区南西半部のSD227・228の東側で検出した。SD233はSD232の下位に存在し同溝跡と重複しているが、先の溝跡と方向等で類似しており、SD232の下層相当とも考えられるが、埋土や出土遺物の違いから別の溝跡と判断した。また、南端部ではSR201と重複し、検出状況からSR201より後出するものと考えられる。

検出長約11.0m、幅2.0m以上、深さ0.5m以上、方位はN18.5°Wを測る。断面の形状は幅広のV字状を呈し、埋土は灰色・黄色系のシルト等からなる。

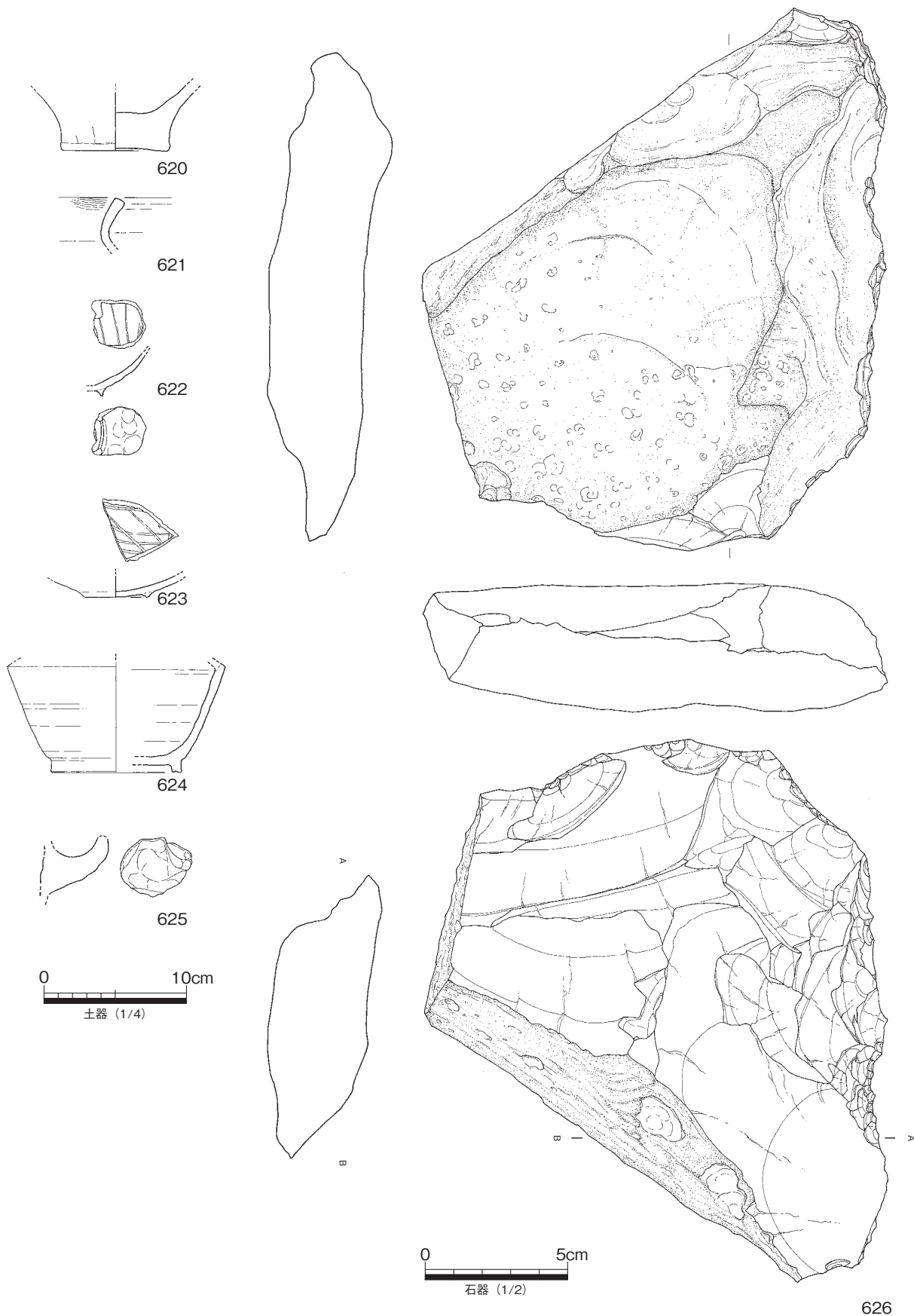
埋土からは弥生土器や石器類が少量出土した。614は弥生時代後期中葉頃の壺底部である。615はサヌカイト製の二次加工ある剥片である。肉厚な剥片の打面側から交互剥離の手法で調整を加えており、形状から槍先形石器を目的とした未製品の可能性がある。弥生土器が数点出土しているが、数が少なく時期判断には課題を残している。

SD234(第 85 ・ 90 図)

Ⅱ-2区南西半部のSD229・230から東へ約2.5m離れた地点に位置し、SD229・230とほぼ同方向に配された直線状の溝跡である。SD231と重複し、同溝跡に切られている。また、SD234の東側にはSR201が所在するが、この溝跡はSR201を切り込んでいる。

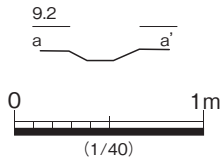
検出長約14.5m、幅1.3～2.6m、深さ約1.0m、方位はN5.0°Wを測る。断面の形状は上に開いた不整形な逆台形状を呈する。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・瓦器等とサヌカイト製の石器類が少量出土した。620は弥生土器の壺の底部、621は弥生土器甕の口縁部片、624は須恵器長頸壺の体部、625は土師器甕の取っ手部である。622・623は瓦器椀の底部で、おそらく、混入品であろう。626は長径19.1cm×短径16.3cmを

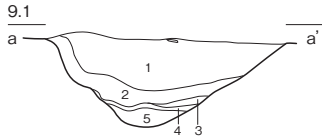


第90図 SD234 出土遺物

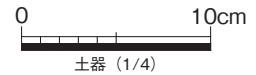
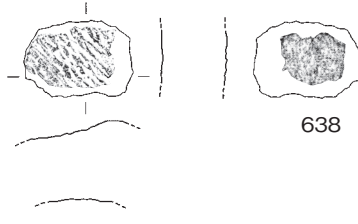
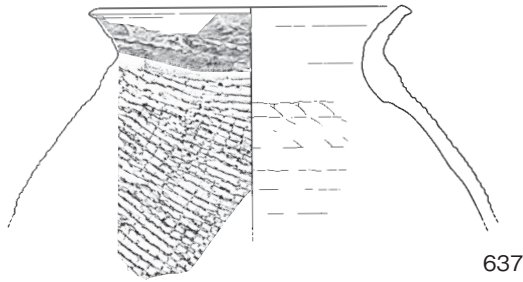
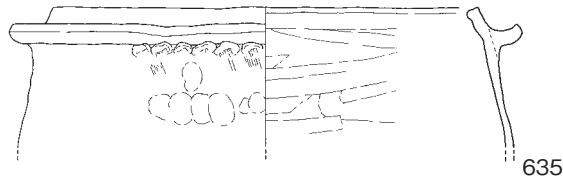
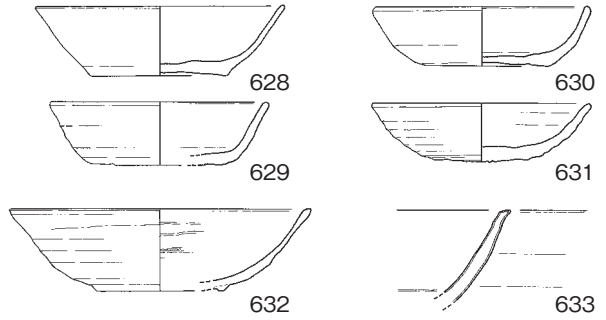
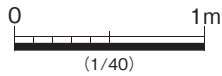
SD236



SD237



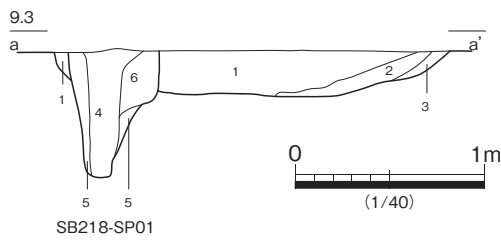
- 1 10YR5/1 褐灰色粘質土 (10YR5/2 灰黄褐色粘質土がブロック状に混じる。褐色のFeが沈着)
- 2 10YR6/1 褐灰色砂質土混じり粘質土 (1層よりやや明るい)
- 3 1層と同じ (1層よりやや明るく、灰黄褐色粘質土が混じらない。褐色のFeが少し沈着)
- 4 10YR6/1 褐灰色砂質土 (上部にFeが著しく沈着)
- 5 10YR6/1 褐灰色粘質土



628,632 下層 (砂質土)

土器 (1/4)

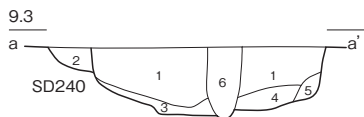
SD239



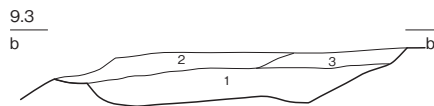
- 1 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (褐色のFeが多く沈着する)
- 2 2.5Y6/2 灰黄色砂質土混じり粘質土 (褐色のFeが多く沈着する)
- 3 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (褐色のFeが多く沈着する。1層に比べやや暗い)
- 4 10YR5/1 褐灰色粘質土 (10YR6/1 褐灰色粘質土が混じる)
- 5 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (2.5Y7/1 灰白色粘質土が混じる。また砂質土も若干混じる)
- 6 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (5層よりやや暗い)

SB218-SP01

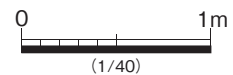
SD241



- 1 5Y6/1 灰粘質土 (褐色のFeが沈着する)
- 2 5Y6/1 灰粘質土 (褐色のFeが沈着する。1層よりやや暗い)
- 3 10YR5/2 灰黄褐色粘質土混じり砂質土
- 4 10YR5/1 褐灰色粘質土 (1層よりやや暗い)
- 5 10YR5/1 褐灰色粘質土 (4層よりやや暗い)
- 6 10YR5/1 褐灰色粘質土 (黒褐色のFeが沈着する)



- 1 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (明黄褐色のFeが多く沈着する)
- 2 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 (明黄褐色のFeが多く沈着する)
- 3 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (2層に砂質土が少し混じる)



第 91 図 SD236・237・239・241 断面、出土遺物

測る大型の石核である。外皮の残る大型で肉厚な剥片を素材とし、さほど打面調整を行わず、分割面を作業面として多方向からの打撃により剥片剥離を行なっている。形状から石核素材を得るための石核とも考えられる。

SD235(第 85・89 図)

Ⅱ - 2 区南半部中央の SD231 の東側に位置する。SR201 と重複し上面を切り込む北西方向の直線溝である。北端部は対象地外へ延びており、南端部は SX221 に切り込まれている。なお、SD235 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約 9.5m 以上、幅約 0.9m、深さ約 0.4m、方位は N24.0° W を測る。断面の形状は上部が開いた U 字状を呈し、埋土は褐灰色粘質土からなる。

埋土からは弥生土器、土師器小皿・杯、須恵器椀、瓦器椀等が少量出土した。616 は土師器小皿、617 は土師器杯である。618 は須恵器椀の底部、619 は瓦器椀の底部で、高台がかなり退化しており、13 世紀後半頃の土器と考えられ、SD235 の埋没時期を示す遺物になる。

SD236(第 91 図)

Ⅱ - 2 区南半部中央の SD235 の東側に位置する。SD235 と同方向の小規模な直線溝である。削平により北端部は調査区中央部で途絶え、南端部は SX221 に切り込まれている。なお、SD235 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約 4.4m、幅約 0.4m、深さ約 0.05m、方位は N24.0° W を測る。断面は皿状を呈し、埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。627 は土師器の杯片である。出土遺物より SD236 は中世の溝跡と考えられる。

SD237(第 91 図)

ク の字形に屈曲する調査区の屈曲部に位置し、東西方向へ延びる直線溝である。SD234 の東側に位置し、SD234 に切り込まれている。西辺部では SD233 と重複しているが、その切り合いについては不明瞭な点があるが、おそらく SR201 が先行しているのであろう。

検出長約 23.5m、幅約 1.2m、深さ約 0.5m、方位は N72° E(N18° W) を測る。断面の形状は不整形な V 字状を呈し、埋土は褐灰色系の粘質土である。

埋土からは土師器・須恵器・瓦等が出土している。628 ~ 631 は土師器杯である。632 は須恵器椀、633 は青磁椀片、634 は土師器鍋の口縁部片、635・636 は土師器足釜、637 は十瓶産の甕の上半部、638 は布目と格子タタキを残す平瓦片である。出土遺物から SD237 は、13 世紀後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD239(第 91 図)

Ⅱ - 2 区北端部で検出した北西方向へ延びる溝である。SD241 の南に位置し、東端部は SR202 に切り込まれている。形状は不整形ながら、SD241 と類似しており方向もほぼ同方向であるため、SD239 は SD241 と性格や時期等で類似するものと考えられる。

検出長約 6.0m、幅 0.7～1.4m、深さ約 0.2m を測る。遺物が出土してないため、詳細な時期等については問題を残す。

SD241(第 91 図)

Ⅱ - 2 区北端部で検出した北西方向へ延びる溝である。中央は SR202 により切り込まれており、上面は SB218 が切り込んでいる。形状はほぼ直線気味であるが、南東端部では僅かに西へ蛇行する。溝跡の両端部は調査区外へ延びる。

検出長約 15.0m、幅約 2.0m、深さ約 0.3～0.4m を測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈し、埋土は灰色系の粘質土や黄灰色系の粘質土からなる。埋土からは遺物が出土してないため、詳細な時期等については問題を残す。

(4) 自然河川

SR201(第 85・92・93 図)

Ⅱ - 2 区南半部中央に位置し、南北方向へ延びる不整形で幅広な流路である。規模的な点から、溝状遺構とみるより小規模な流路と考えられる。北半部については未調査のため、どこまで延びているのか不明瞭であるが、検出状況の写真を見る限り、東半部に所在する SR202 のあたりまで延びている様である。SR201 は SD234 の東側に位置し、SD234 に切り込まれている。また、西辺部では SD233 と重複しているが、その切り合いについては不明瞭であるが、おそらく SR201 が先行しているものと考えられる。

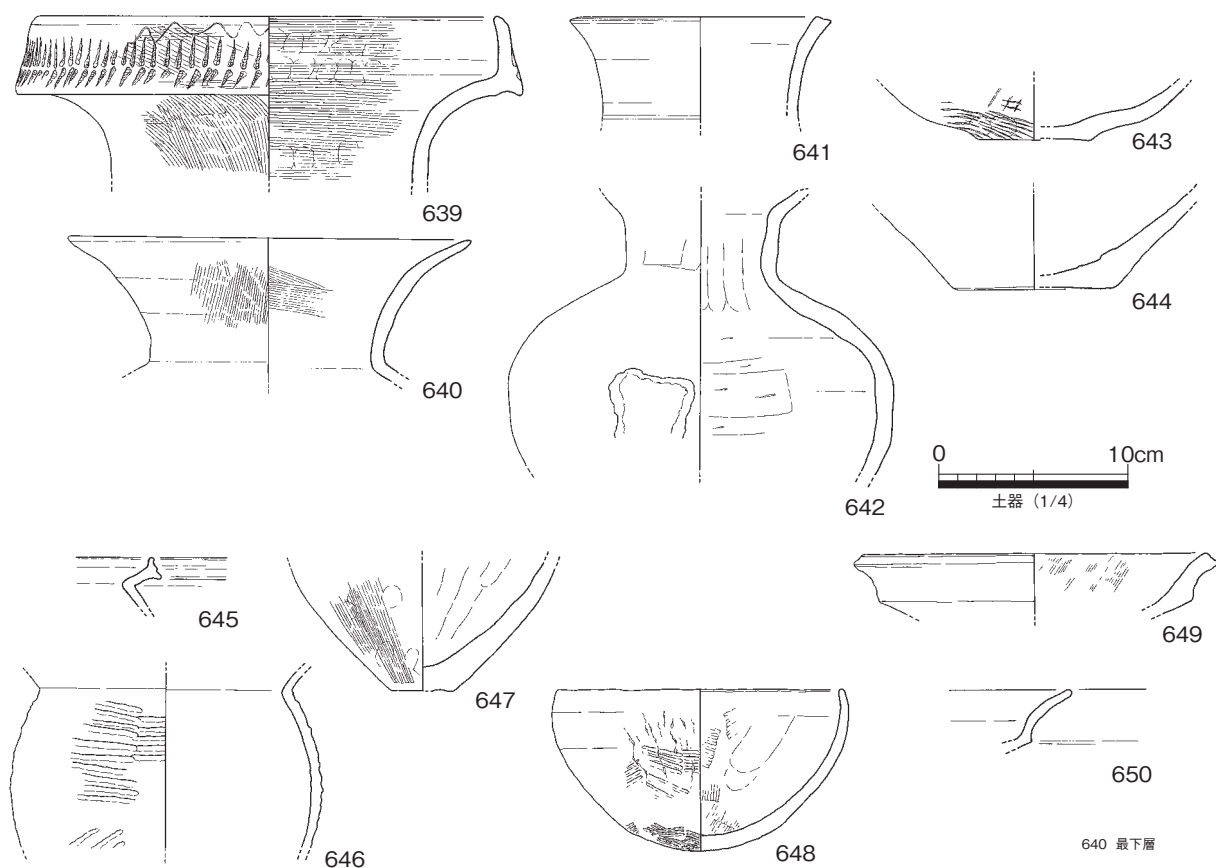
検出長約 11.0m、幅 5.0～7.5m、深さ約 1.3m、方位は N5.0° W を測る。断面の形状は上に開いた不整形な二段掘方の逆台形状を呈する。埋土は数層に分かれるが、概ね上層は黒色粘土、下層は褐色粘質土や砂質土からなる。

埋土からは弥生時代後期前葉～中葉頃の弥生土器とサヌカイト製石器類等が出土している。639～644 は壺の資料である。639 は複合口縁の壺口頸部で、口縁部外面には刺突文と波状文を施している。642 は口縁部と底部を欠く広口壺で、体部外面には焼成破裂痕を残している。645～647 は甕の資料である。645 は口縁部に凹線文を施した後期前半の甕、646 は体部外面にタタキを施した甕である。649・650 は高杯の杯部である。

651 は凹基式の石鏃である。652 は縦長状の剥片の側縁にリタッチが認められる、調整ある剥片である。653 は翼状剥片石核である。瀬戸内技法に係わる資料としては唯一貴重な資料である。654 は肉厚で大型の剥片をもちいた石核である。素材剥片の側縁部を交互剥離の手法で剥片剥離を行なっている。655 は砂岩製で棒状の敲石である。出土遺物より SR201 は弥生時代後期中葉頃に埋没した自然河川と考えられる。

SR202(第 94・95 図)

Ⅱ - 2 区南東半部の東西に蛇行しながら、概ね南北方向の小規模な流路である。調査時には溝状遺構として捉えられていたが、検出状況から溝跡とみるより小規模な流路と判断した。調査区南半部では僅かに西へ湾曲し北へ延びるが、北端部では南東方向へ屈曲している。北半部では SD238・239・241 等の溝跡を切り込んでいる。また、調査区中央では SD237 が切り込んでいる。



第 92 図 SR201 出土遺物 (1)

検出長約 43.0m、幅 2.5 ～ 4.5m、深さ約 0.6m を測る。断面の形状は上に開いた不整形で幅広の U 字状を呈する。埋土は上層が灰色粘質土、中層が褐灰色の砂質土、下層が灰黄褐色の砂質土である。

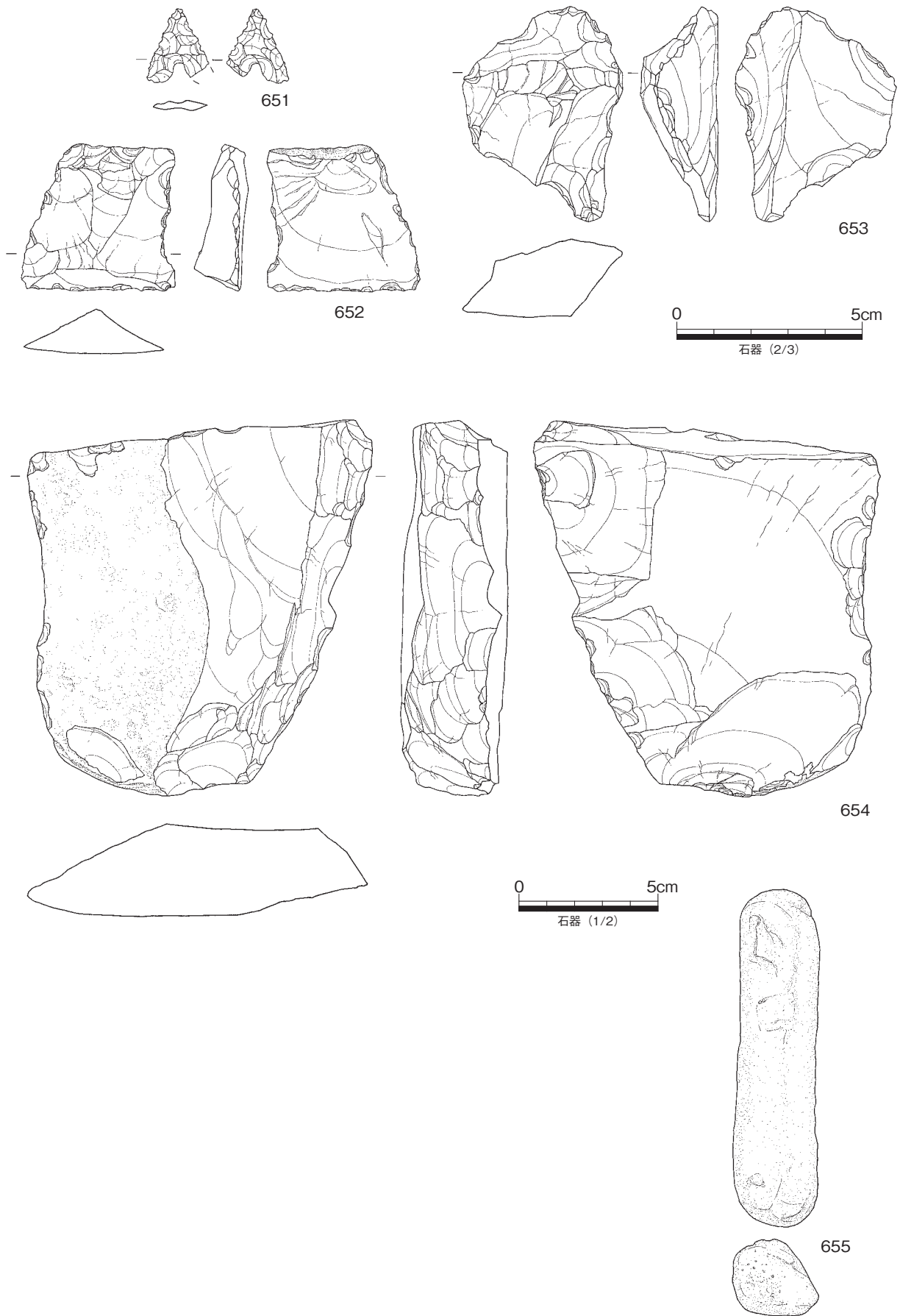
埋土からは縄文土器浅鉢、土師器・須恵器・黒色土器等が少量出土しているが、遺物が少なく時期判断には問題を残す。また、出土した縄文土器は後述する SR202 の東側に位置する自然河川 SR203 から混入した可能性もある。

SR202 の堆積層からは、縄文土器・須恵器、サヌカイト製石器類等が出土した。656 は縄文時代後期後半の浅鉢である。この土器は本遺跡で唯一の縄文土器である。口縁部と底部の一部を欠くが、残存状態も良好な優品である。体部正面はボール状の形態を呈しているが、口縁上面は楕円形状に歪んでいる。体部外面下位には条痕、上位には磨消縄文、体部内面には条痕を施している。657 は須恵器椀の底部、658 は須恵器甕の下半部である。

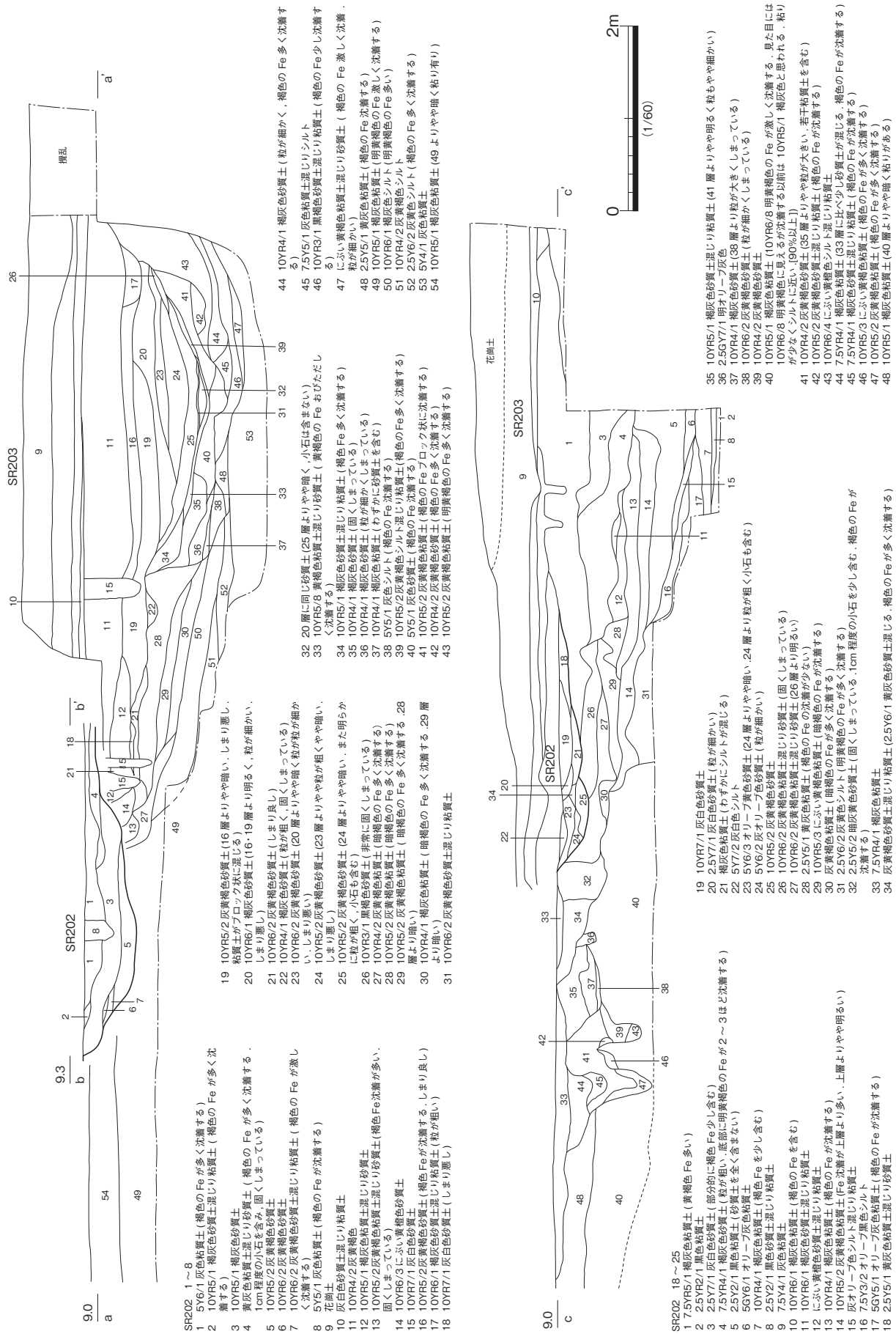
659・660 は形状から縦長剥片石核の調整剥片に分類した。661 ～ 663 は凹基式石鏃である。664 は不整形ではあるが、基部調整等から小型の槍先形石器に分類した。

SR203(第 94 図)

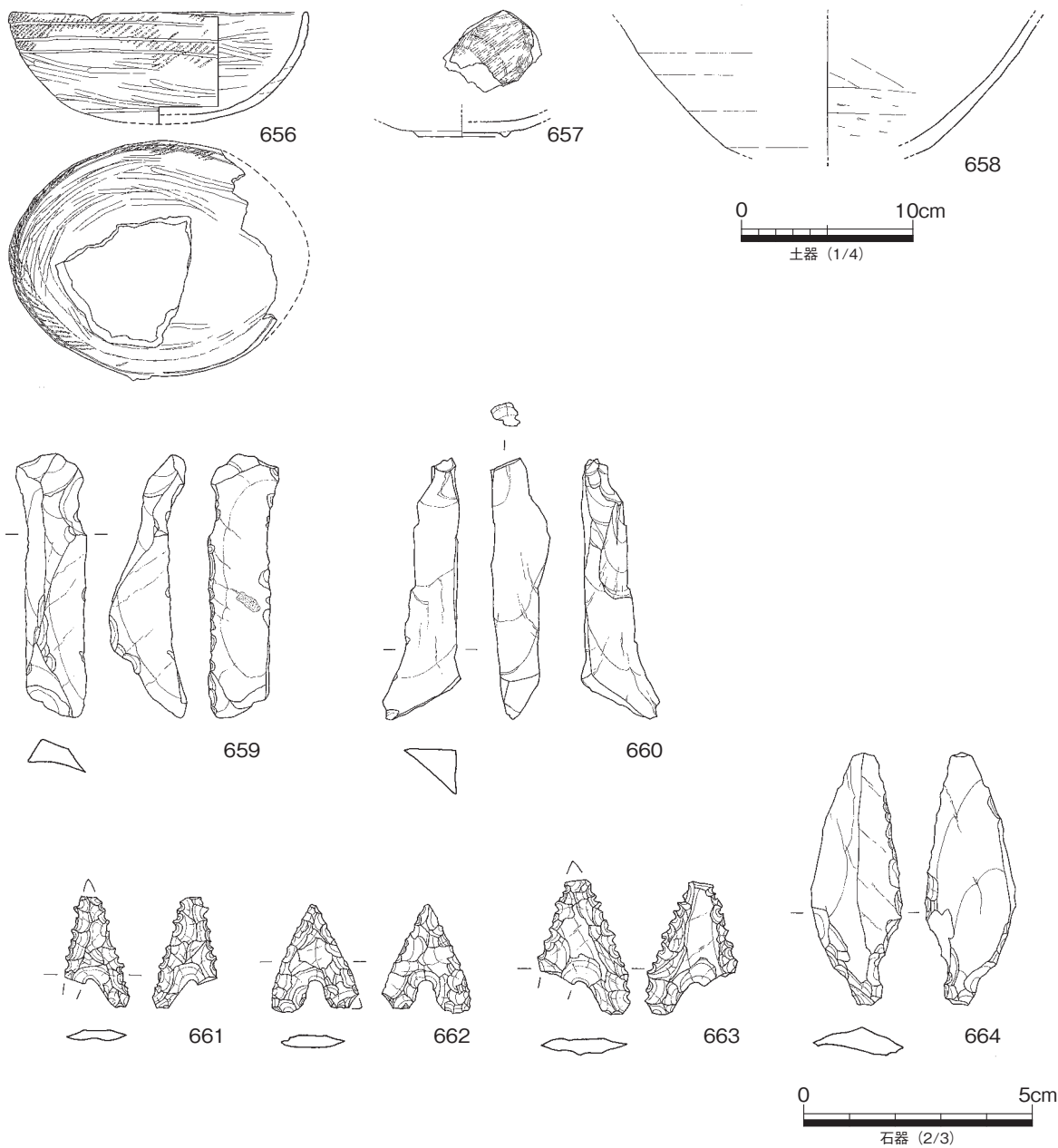
SR202 の遺構掘削終了後、遺構面下の堆積状況を掴むため、東西方向の確認トレンチを数条設定した。その結果、SR202 の東側に自然河川 SR203 の西岸を確認した。この河川の西側には弥生時代後期後半古相頃の SR201 が北流しており、この調査区で今回検出した SR201・SR202 とトレンチで確認した



第 93 図 SR201 出土遺物 (2)



第 94 図 SR202・203 土層断面図



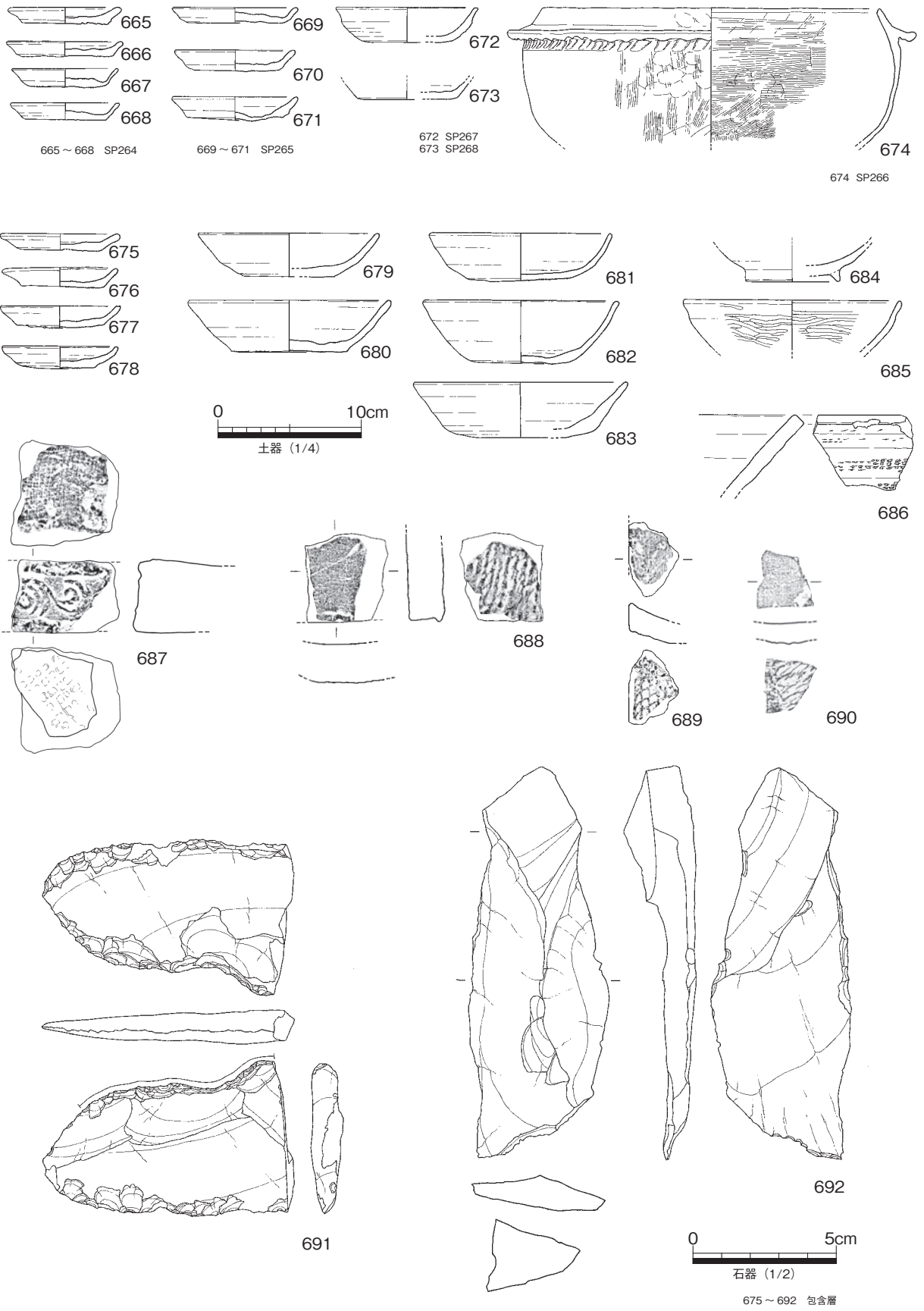
第95図 SR202 出土遺物

SR203 は、広い視野でみて本来一つの流路であり、時代を経るに従い微妙に位置が変化したものが、3つの流路として表れているもの考えられる。

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第96図)

Ⅱ-2区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

665～674はその他の柱穴から出土した遺物である。出土した土器の大多数は中世後半の土器である。665～668はSP264、669～671はSP265から出土した小皿である。672・673はSP267とSP268から出土した土師器と須恵器の杯である。674はSP266から出土した底部を欠く土師器足釜である。



第96図 II-2区柱穴・包含層出土遺物

675～692は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。包含層に含めた出土遺物は、土師器・須恵器やサヌカイト製の石器類等の遺物がある。675～678は土師器小皿、679～683は土師器杯、684は土師器椀、685は底部を欠く瓦器椀である。686は須恵器鉢の口縁部片である。688～690は瓦の資料である。687は瓦頭に唐草文を施した軒平瓦片で、器面には布目・縄目痕が認められる。687～690は平瓦片で、器面には布目・縄目痕が認められる。691は裁断面が認められることから、削器を転用した楔形石器に分類した。692は形状から、板状の石核から剥出した剥片と考えられる。

第5節 III区の調査

1. はじめに

III区はII区の東端から北へ約140m離れた地点に位置する、南北方向の延長約120mの調査区である。この調査区は平成10年度調査I・II区、平成11年度I区、平成12年度調査I区に相当し、南から平成10年度II区を「III-1区」、平成11年度I区を「III-2区」、平成10年度I区を「III-3区」、平成12年度I区を「III-4区」に区分し報告することにした。

III区からは弥生時代後期・古代前半・中世の大型溝状遺構を確認した。弥生時代後期の溝跡はIII-3・4区の北半部で検出した。III-4区の溝跡は小規模な溝跡であるが、III-3区の水路は大型の溝状遺構で、当時の灌漑水路と考えられる。溝跡からは弥生土器が多量に出土しており、隣接地に集落の居住域が展開している可能性を示唆するものである。

古代前半の溝跡はIII-3区の南半部で2条検出した。二つの溝跡は約1.5m隔てて、南北方向に並走しており、形状や時期的な点で類似するため、同じ性格の幹線水路と考えられる。

中世の溝跡はIII-1・3区の東辺で、条里地割の坪堺の可能性が高い中世の溝跡を確認した。また、III-2区は、南北方向と東西方向の条里地割の交点部分にあたる地点である。調査では東西方向の条里地割線に合致した灌漑水路と考えられる中世の大型水路を検出した。これらの溝跡は本遺跡周辺の条里地割の形成時期を考えるうえで重要である。

2. III-1区

SD301・302(第98図)

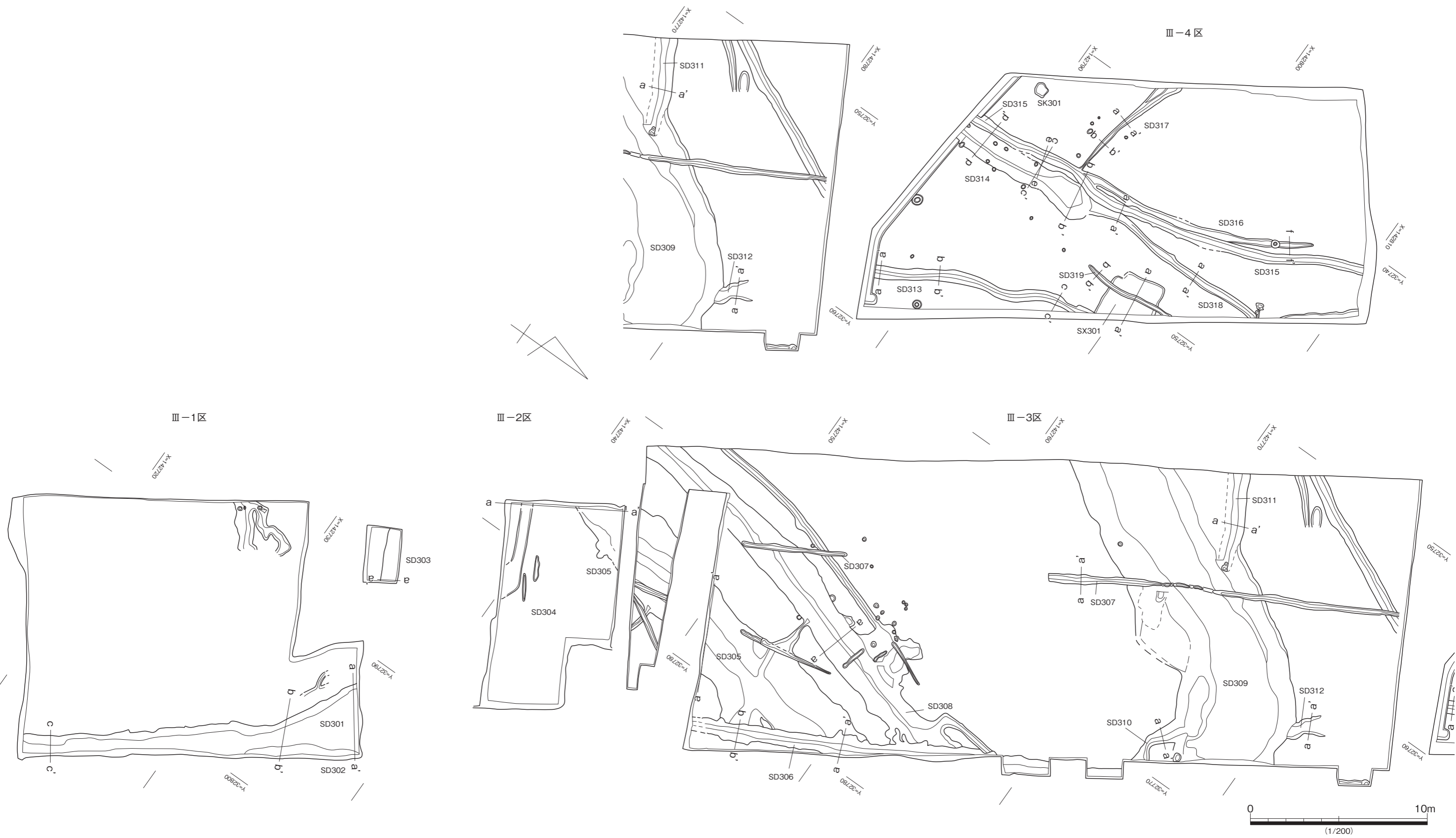
III-1区の東壁際で検出した北西方向に延びる2条の溝跡である。二つの溝跡は同方向に延びて、切り合っている。二つの溝跡の前後関係はSD302が先行しSD301が後出する。なお、この二つの溝跡は南北方向の条里地割の坪堺線に隣接しており、条里地割の坪堺溝の可能性が高い。

平面は凹凸のある不整形な形状を呈し、北半部は僅かに西へ振り南半部に比べ幅広である。この調査区の北にはIII-2区で確認したSD304が所在しており、幅広な北半部の状況はSD304との合流部の状況が表れているものと考えられる。

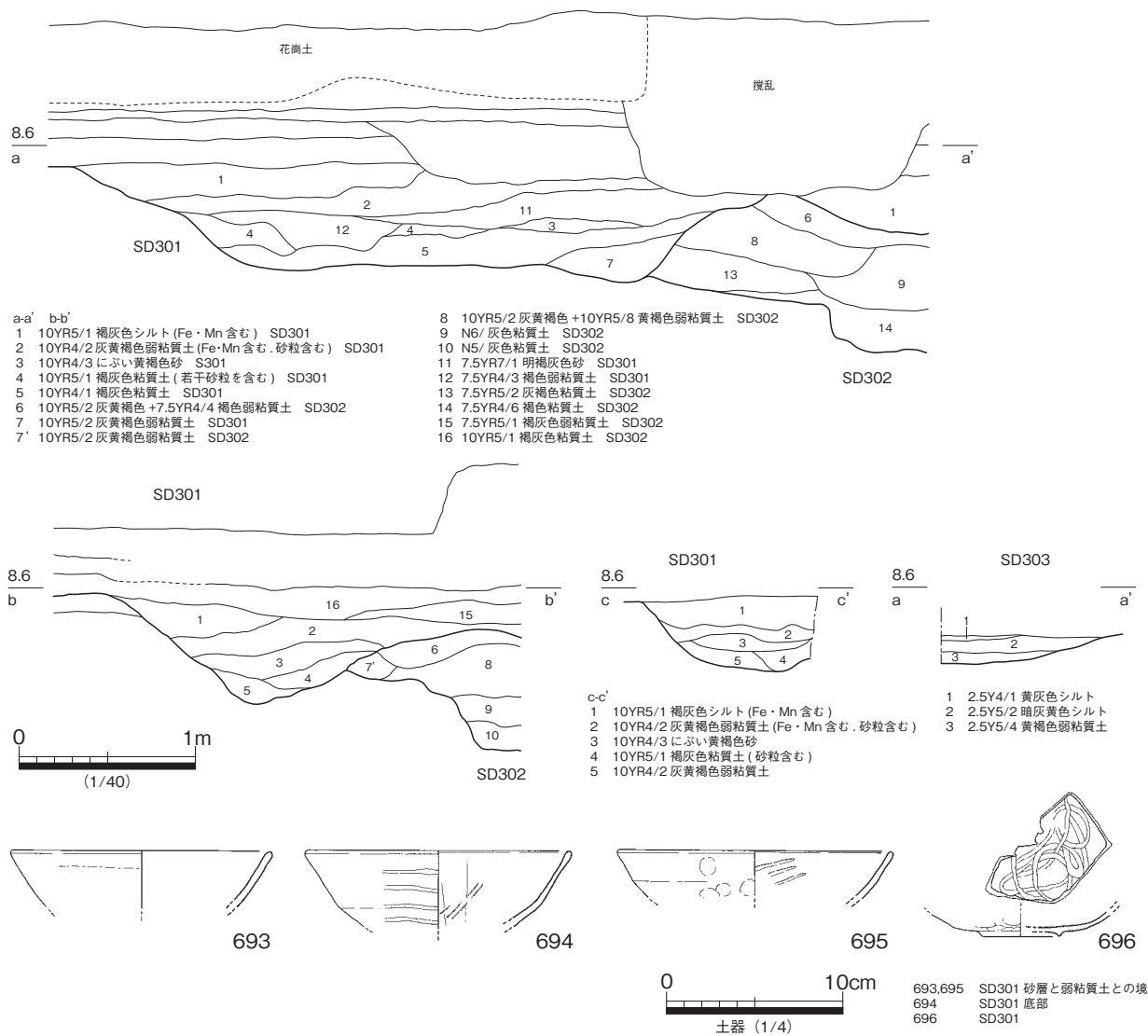
検出長約19.0m、幅は北端部で3.9m以上、南半部で約2.1m、深さ約0.5mを測る。南半部の直線気味な箇所の方位はN36.0°Wを測る。

断面は地点により形状が異なり、北半部は幅広は逆台形状を、南半部は上部が開いた浅いU字状ないしV字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、主に褐灰色系の粘土ないしシルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器等が極少量出土した。693は底部を欠く須恵器椀、694は底部を欠



第97図 III-1・2・3・4区遺構配置図



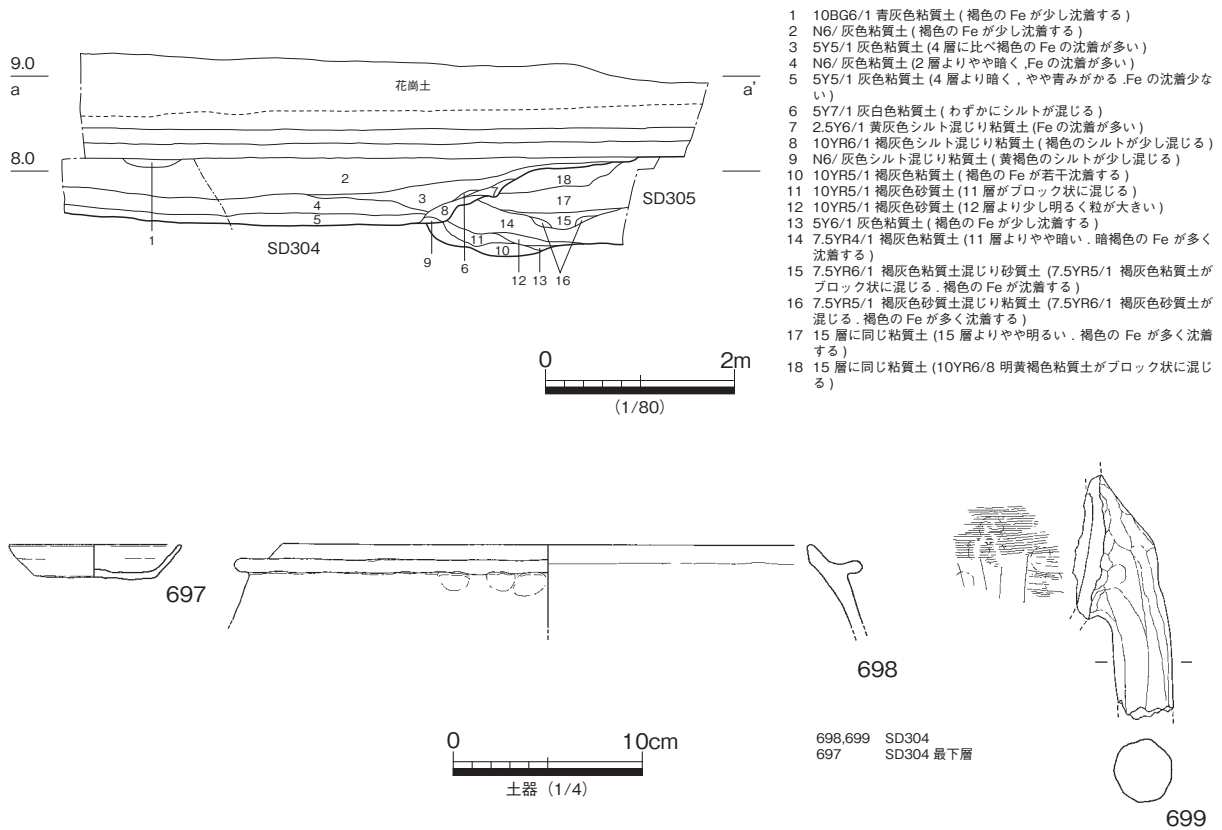
第 98 図 SD301・302・303 断面、出土遺物

く須恵器碗である。695・696 は和泉型の瓦器碗である。出土遺物から 12 世紀後半以降の溝状遺構と考えられる。

SD302 は整理作業の段階で確認した溝跡のため不明瞭な点が多い。この溝跡は調査区の北東隅で部分的に検出した。東半分は調査区から外れ未確認である。また、西半部の大部分は SD301 に切り込まれているため不明瞭な点が多いが、状況から推定して SD301 の前身の溝跡の可能性が高い。なお、この溝跡の幅は北端部で 1.6m 以上、深さは約 0.7m を測る。

SD303(第 98 図)

平成 10 年の II 区の北端部で飛地状に設定した、小範囲の調査区で確認した東西方向に延びる溝跡である。調査区が小範囲のため、東西溝の南岸の一部を確認した。周辺の調査区の状況から推定して、III - 1 区で確認した、大型東西溝の SD304 の南岸部分にあたる可能性もあるが、SD303 は SD304 と並走する単独の溝状遺構と考えた方が妥当であろう。



第 99 図 SD304・305 断面、出土遺物

検出長約 3.0m、幅約 2.0m 以上、深さ約 0.15m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は複数層に分かれ、上層は暗灰黄色シルト、下層は黄褐色粘質土からなる。埋土からは土師器片が極少量出土した。

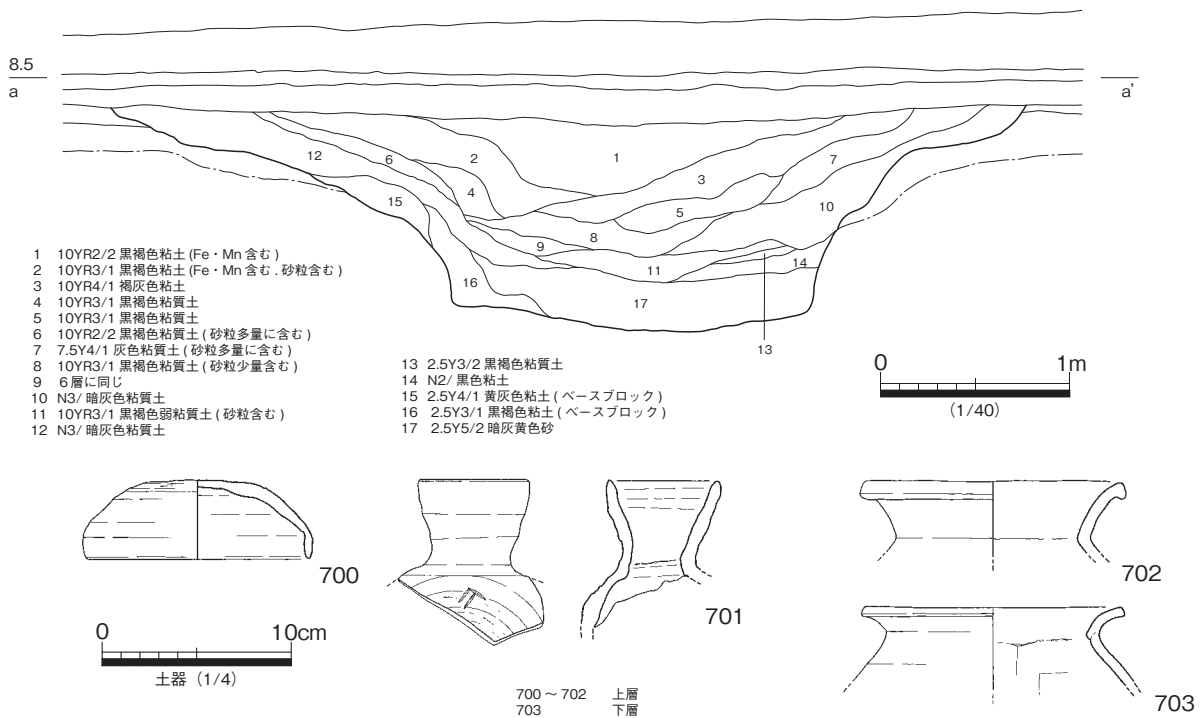
3. III - 2 区

SD304(第 99 図)

III - 2 区のほぼ全域で確認した、幅広な大型の溝状遺構である。調査区が小規模なため、明瞭な岸の部分を探っていないが、堆積状況や周辺の調査区の状態をみる限りほぼ東西方向に向く灌漑水路と考えられる。堆積状況から北岸は調査区北西隅の SD305 の上位を切り込んでおり、このあたりに北岸が位置するものと考えられる。南岸については途中未掘区域を挟むが、先述した SD303 が南岸の可能性もある。しかし、その地点まで含めると SD304 は幅約 12.0m を超えることになり、SD303 は単独の溝状遺構と考えた方が妥当であろう。そのため、溝幅については調査概報で指摘している様に約 8.0m 程度の規模が考えられる。なお、SD304 の周辺には条里地割の東西方向の坪塚が推定され、SD304 は条里地割の坪塚の溝にあたる可能性が高い。

検出長約 11.0m、幅約 6.0m 以上、深さ約 0.7m を測る。断面の形状は上に開いた不整形で幅広で隅丸逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰色系の粘質土を主に数層に分かれ、比較的水平に堆積している。そのため、この溝跡は長期間湿地状を呈し、時間をかけてゆっくりと埋没したものと考えられる。

埋土からは土師器・須恵器・青磁片等が少量出土した。697 は土師器杯である。698・699 は足釜の



第 100 図 SD305 断面、出土遺物 (1)

口縁部と脚部である。これらの遺物から SD304 の開削時期を判断するには無理があるが、少なくとも SD304 は 13 世紀後半頃に埋没したものと考えられる。

4. III - 3 区

(1) 溝状遺構

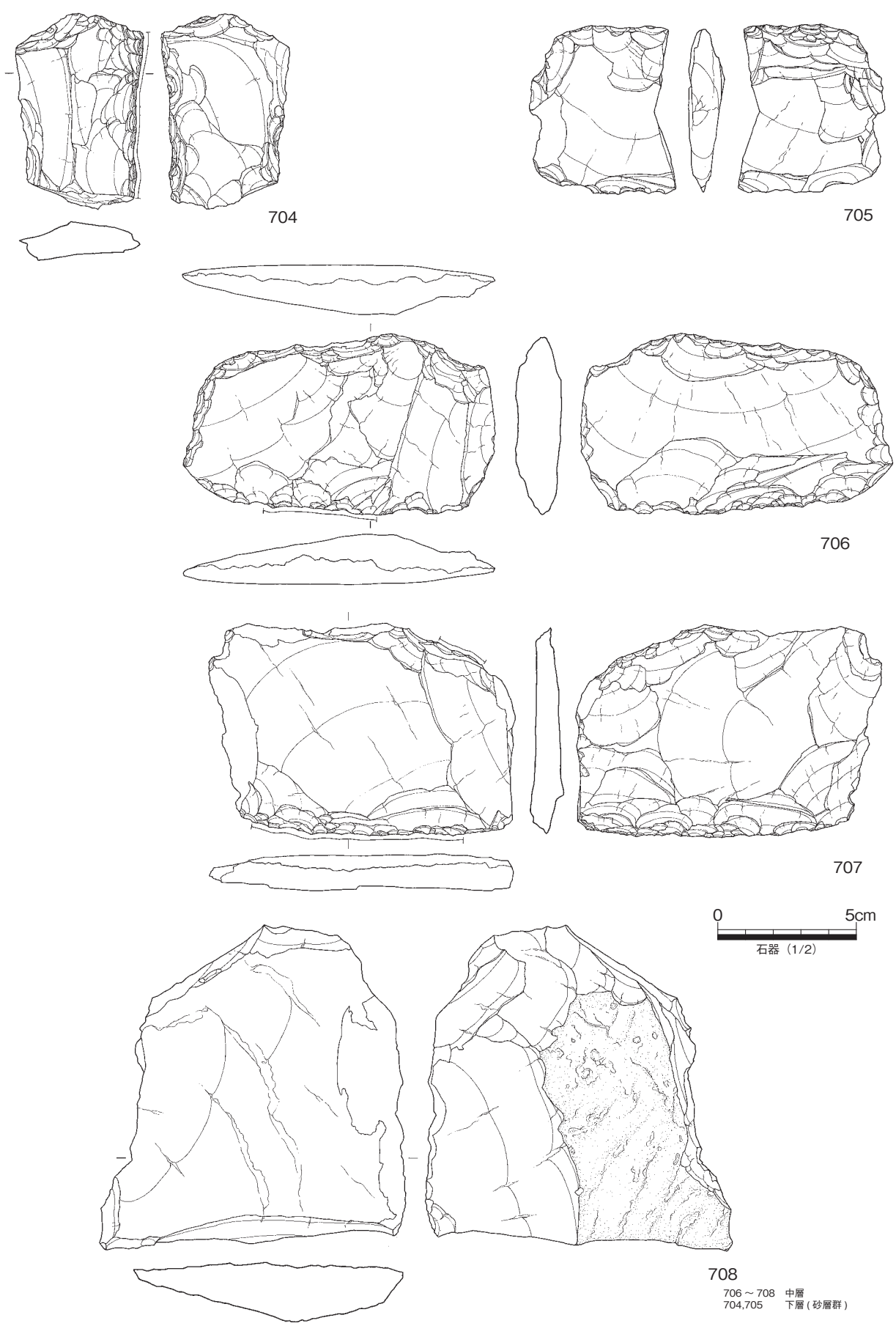
SD305(第 99 ~ 101 図)

III - 3 区南半部の SD308 の東側で検出した、SD308 と並行して北東方向へ直線気味に延びる比較的大型の溝跡である。南北両端部は対象地外へ延びておりこの溝の延長は III - 2 区においても東岸の一部が確認されている。III - 2 区では SD305 は SD304 と重複しており、断面でみる限り、SD305 は SD304 に切られている。

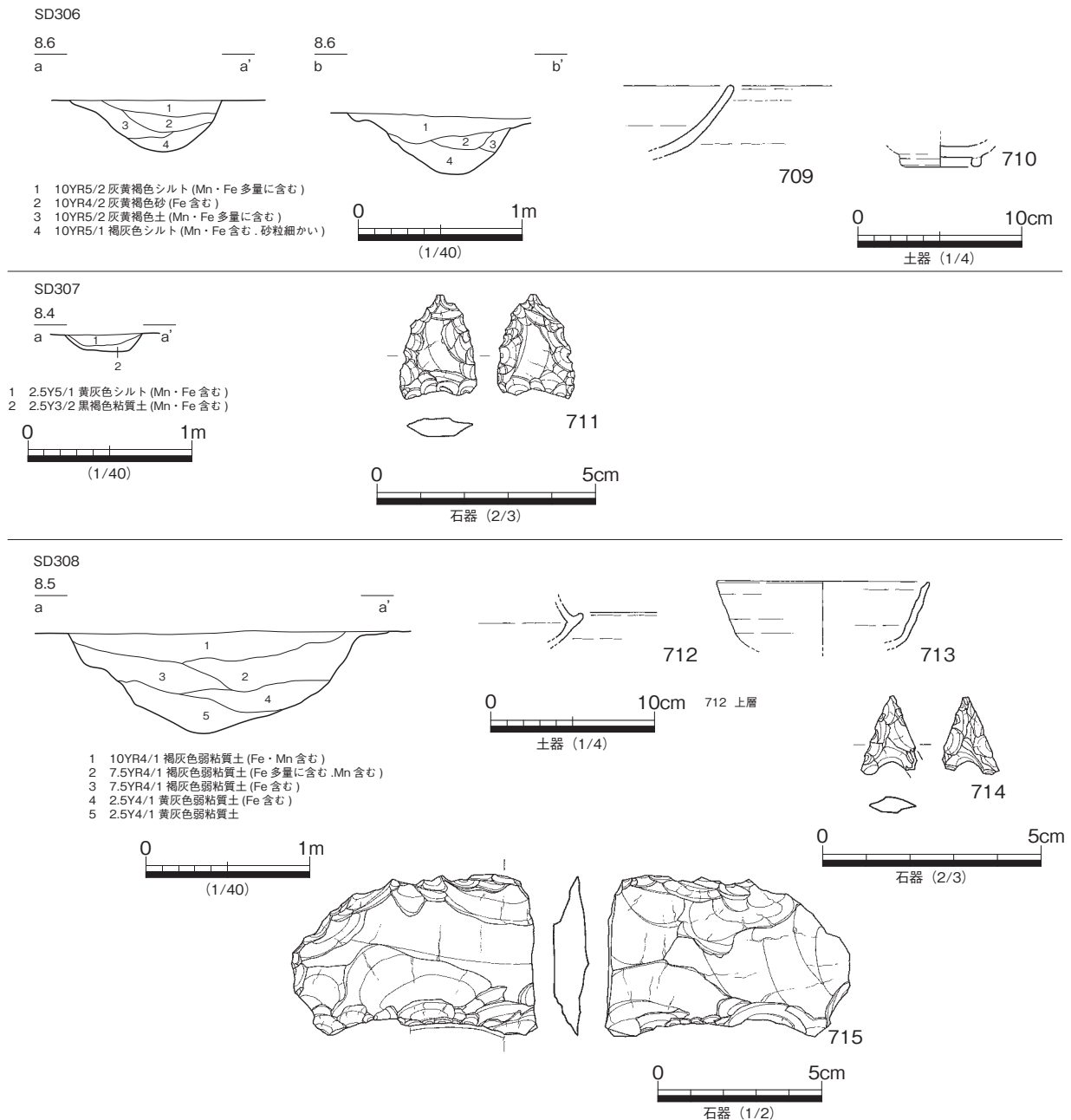
検出長約 15.0m、幅約 3.5m、深さ約 1.05m、方位は N9.5° E を測る。平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は上部が開いた幅広な逆台形状を呈している。埋土は黒褐色系ないし褐灰色系の粘土・粘質土を主にして、複数層に分かれている。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、サヌカイト製石器等が少量出土した。700・701 は 7 世紀前半の須恵器蓋と須恵器提瓶である。702・703 は弥生時代後期後半の壺と甕の上半部で、おそらく混入資料であろう。700・701 等の資料は、SD305 の埋没時期を示唆する遺物であるが、SD305 は併走する SD308 との関係で判断する必要もある。

704～708 は出土したサヌカイト製石器類で混入品であろう。704 は槍先形石器の未製品に分類したが、楔形石器の素材とも考えられる。705 は打製石庖丁の未製品、706・707 は打製石庖丁、708 は肉厚な剥片を素材にした石核である。出土遺物より SD305 は、7 世紀前半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。



第 101 図 SD305 出土遺物 (2)



第 102 図 SD306～308 断面、出土遺物

SD306(第 102 図)

Ⅲ - 3 区南半部の東壁際で検出した北西方向に延びる直線溝である。隣接する SD305・308 を切り込んだ状態で検出した。南北両端部は対象地外へ延びている。

検出長約 25.0m、幅約 0.95m、深さ約 0.35m、方位は N28.0° W を測る。

平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は上部が開いた浅い U 字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、上層は灰黄色系のシルトないし砂、下層は褐灰色系のシルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等が少量出土した。709 は底部を欠く須恵器椀で、710 は瓦器椀の底部片である。出土遺物から SD306 は中世前半の溝跡であろう。

SD307(第 102 図)

Ⅲ - 3 区中央で検出した北西方向に延びる幅の狭い直線溝である。残りが悪く部分的に検出した。

検出長 26.0m、幅約 0.45m、深さ約 0.1m、方位は N29.0° W を測る。断面は上部が開いた浅い U 字状を呈している。埋土は上下 2 層に分かれ、土師器・須恵器とサヌカイト製石器が極少量出土した。711 はサヌカイト製の石鏃である。

SD308(第 102 図)

Ⅲ - 3 区南半部の SD305 の西側で検出した、SD305 と並行して北東方向へ直線気味に延びる溝跡である。南北両端部は対象地外へ延びている。形状・規模等から、古代の灌漑用の溝状遺構と考えられる。

検出長約 23.5m、幅 1.5 ~ 2.3m、深さ約 0.6m、方位は N14.0° E を測る。断面の形状は浅い U 字状を呈している。埋土は複数層に分かれ上層は褐灰色系の粘質土、下層は黄灰色系の粘質土を呈する。

埋土からは土師器・須恵器やサヌカイト製石器等が少量出土した。712 は須恵器杯片、713 は 7 世紀後半頃の底部を欠く須恵器杯で、SD308 の埋没時期を示唆する遺物になる。714 はサヌカイト製の石鏃、715 は形状から楔形石器に分類した。出土遺物から SD308 は 7 世紀後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD309(第 103 ~ 108 図)

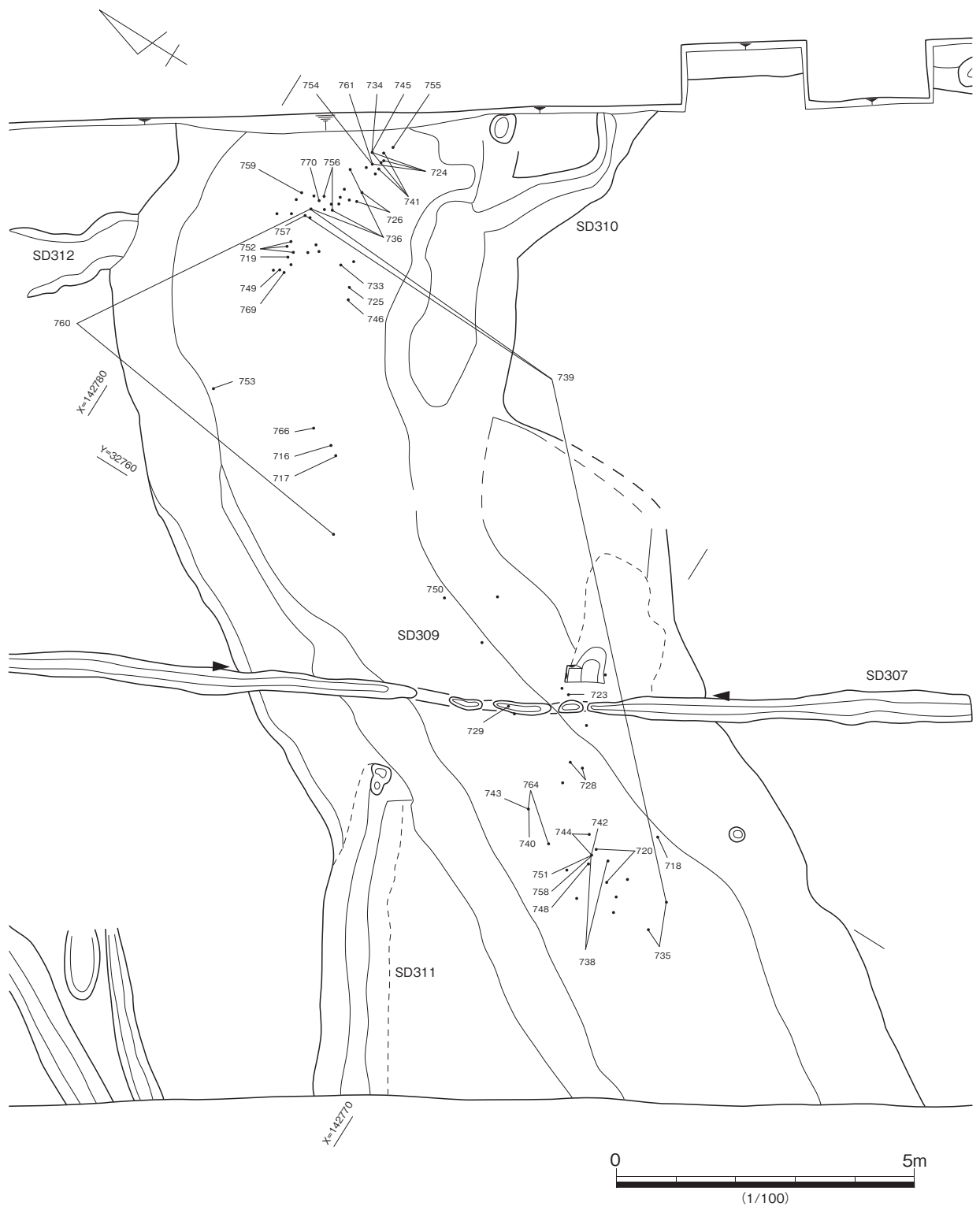
Ⅲ - 3 区北半部で検出した、北方へ湾曲気味に延びる比較的大型の溝跡で、農耕に伴う灌漑水路と考えられる。東西両端部は対象地外へ延びている。また、西半部では SD311、東端部では SD310 の小溝が分岐している。

検出長約 17.5m、幅約 6.5m、深さ約 0.9m を測る。平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は二段掘方の幅広な逆台形状を呈している。埋土は複数層に分かれ、上層・中層は黒褐色系の粘土・粘質土、下層は暗灰色系の粘質土・シルト等からなる。

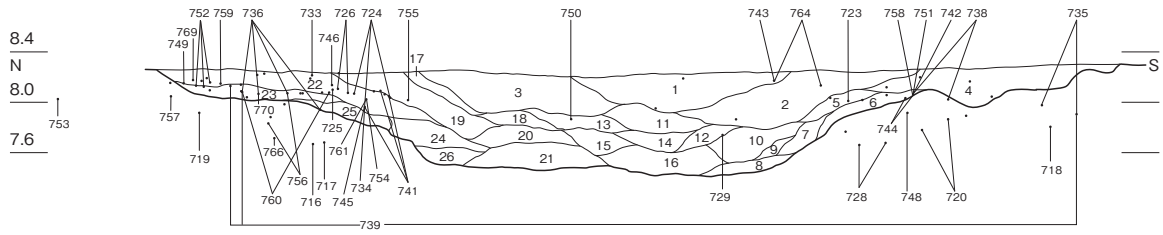
埋土からは弥生時代後期前半～終末期頃の弥生土器、サヌカイト製石器類等が多量に出土した。周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる遺物であるが、調査区内には同時代の住居等の遺構がないため、隣接地に集落域が広がっているものと考えられる。

716 ~ 732 は壺である。これらの土器は形状から、後期前半の土器と後期後半の新相前後の土器とに区分できるため、ある程度の時期幅が推定できる。また、資料中の 716・717・720・725・728・729 には焼成破裂痕を残す所謂焼成破裂土器で、周辺に所在するであろう集落の居住域で、土器を生産していたことを証明する土器である。716 ~ 719・725 は広口壺である。716・717 は完形に近い良資料である。720 は長頸壺の口頸部である。頸部は直線状に延び上半部で外反し口縁部に至る。頸部には数条の沈線を巡らせている。口縁部は平坦に肥厚させ、二条の凹線文が巡る。なお、この土器は焼成破裂の土器であるが、破裂後の燃焼によるためか、接合する破片によってススの付着状態が極端に異なる。721 は複合口縁壺の口頸部で、727 は細頸壺の頸部である。730 ~ 732 は大型壺の底部である。球体気味の体部下半に小さな突出した平底が付く。

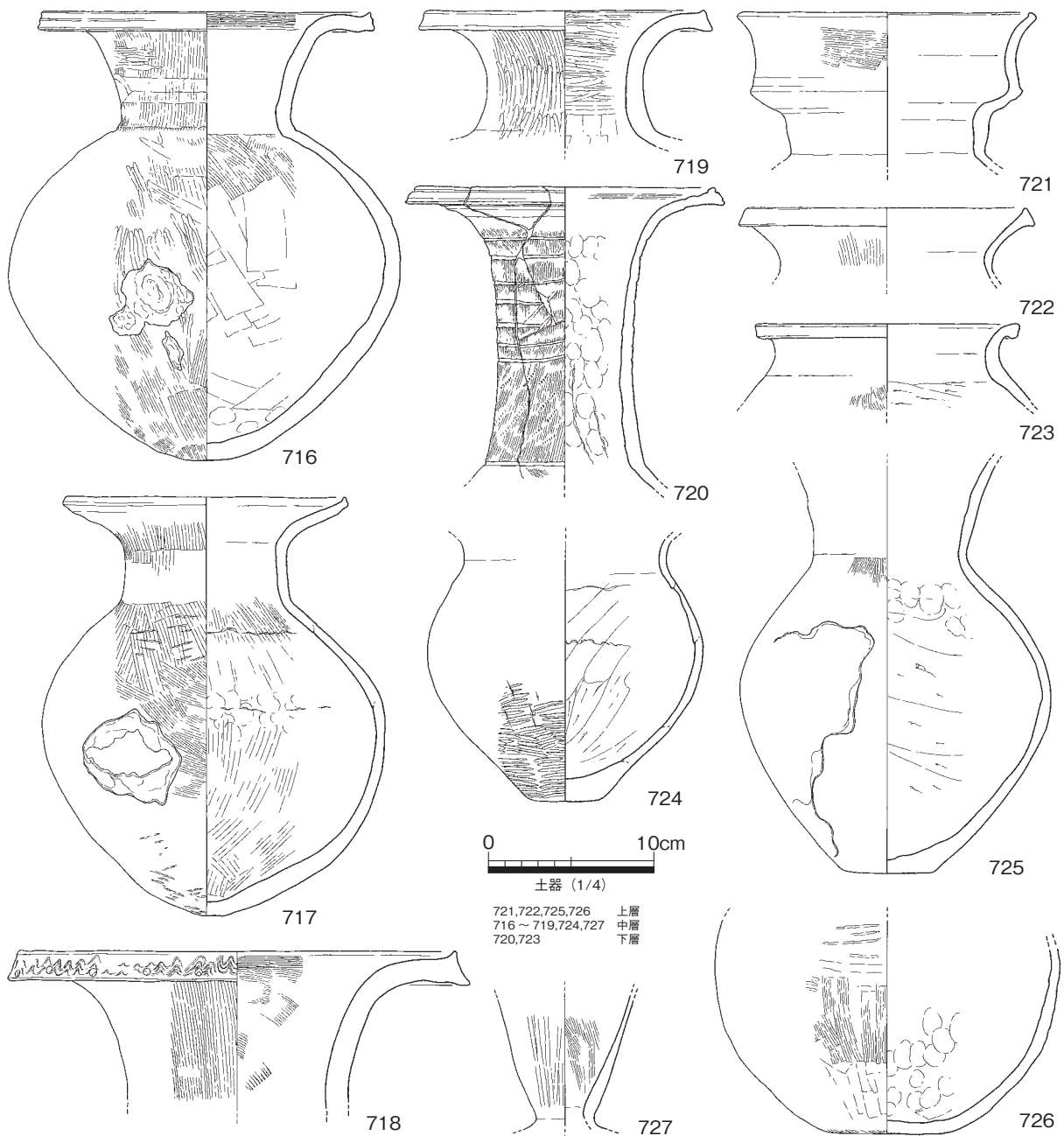
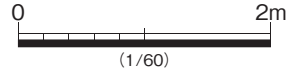
733 ~ 747 は甕の資料である。体部外面にはタタキ、内面下半部にはヘラ削りを施すものが主である。口縁部の作りでは端部を平坦に仕上げるものと、丸味をもって仕上げる土器に分けることができる。733・734 は長胴形の甕である。733 は外面ミガキ、内面ヘラ削りを施しており弥生中期後半～後期前半頃の可能性がある。



第 103 图 SD309 土器出土分布图

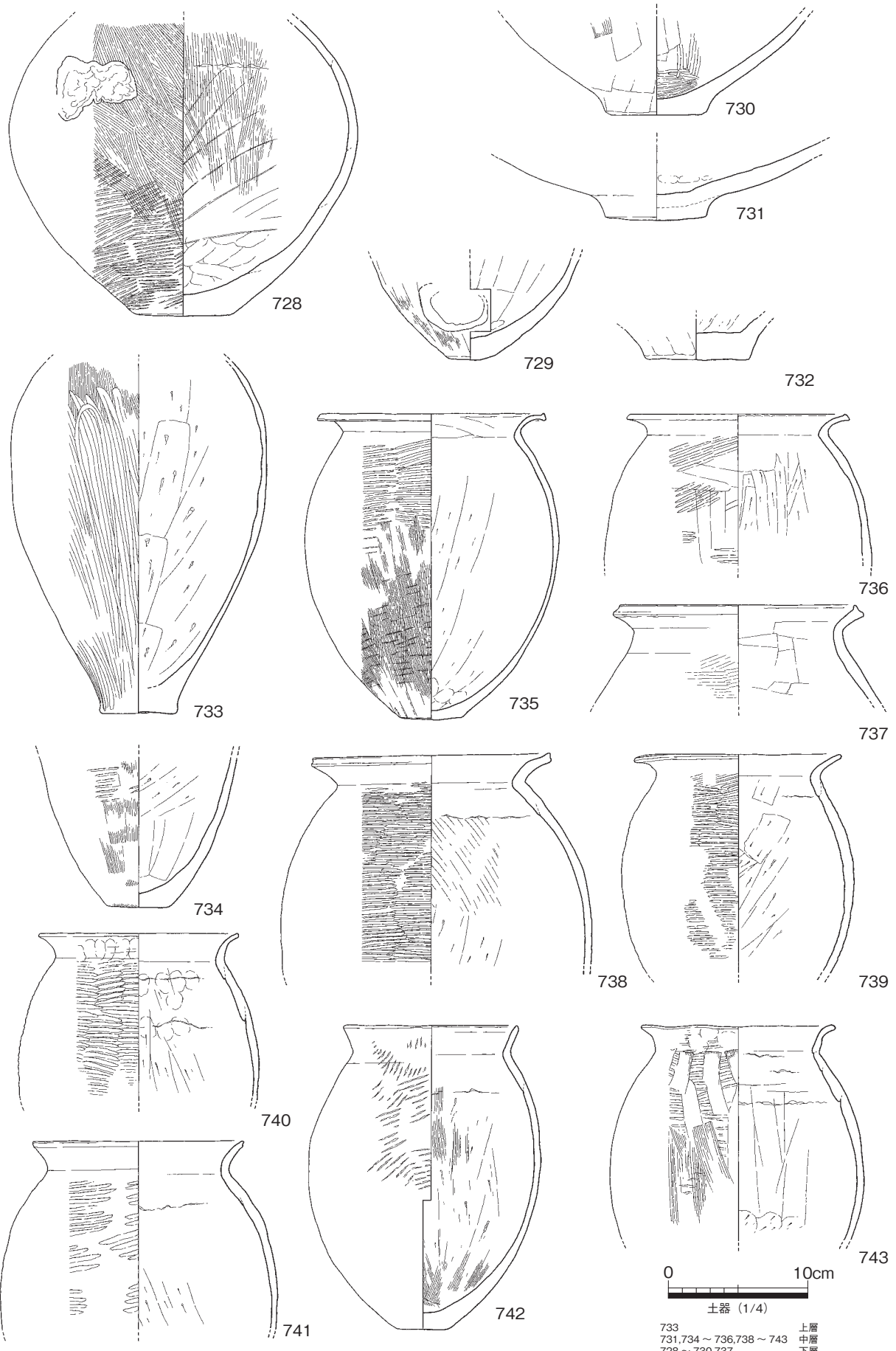


- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒色粘土層 上層 | 10 10YR4/1 褐色シルト (若干砂粒含む) 下層 | 19 10YR3/1 黒褐色粘質土 (砂粒・小礫多量に含む) 中層 |
| 2 10YR3/1 黒褐色 (砂粒多量に含む) 中層 | 11 10YR4/1 褐色粘質土 中層 | 20 10YR4/2 灰黄褐色シルト 下層 |
| 3 10YR3/1 黒褐色粘質土 上層 | 12 N4/ 灰色シルト (若干砂粒含む) 下層 | 21 2.5Y5/2 暗灰黄色砂 最下層 |
| 4 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (Mn・Fe 含む) 中層 | 13 10YR3/2 黒褐色シルト (砂粒含む) 中層 | 22 10YR3/1 黒褐色粘質土 (Mn・Fe 含む) 中層 |
| 5 2.5Y3/1 黒褐色シルト 下層 | 14 10YR4/2 灰黄褐色シルト 下層 | 23 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (Mn・Fe 含む) 下層 |
| 6 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 下層 | 15 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 下層 | 24 10YR4/1 褐色シルト (Mn 含む) 下層 |
| 7 10YR4/1 褐色シルト 下層 | 16 N3/ 暗灰色粘質土 下層 | 25 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (Mn・Fe 含む) 下層 |
| 8 2.5Y6/2 灰黄色砂 最下層 | 17 10YR3/1 黒褐色粘質土 (砂粒多量に含む) 中層 | 26 N4/ 灰色粘質土 下層 |
| 9 N5/ 灰色砂 下層 | 18 10YR4/1 褐色シルト (砂粒を含む) 中層 | |

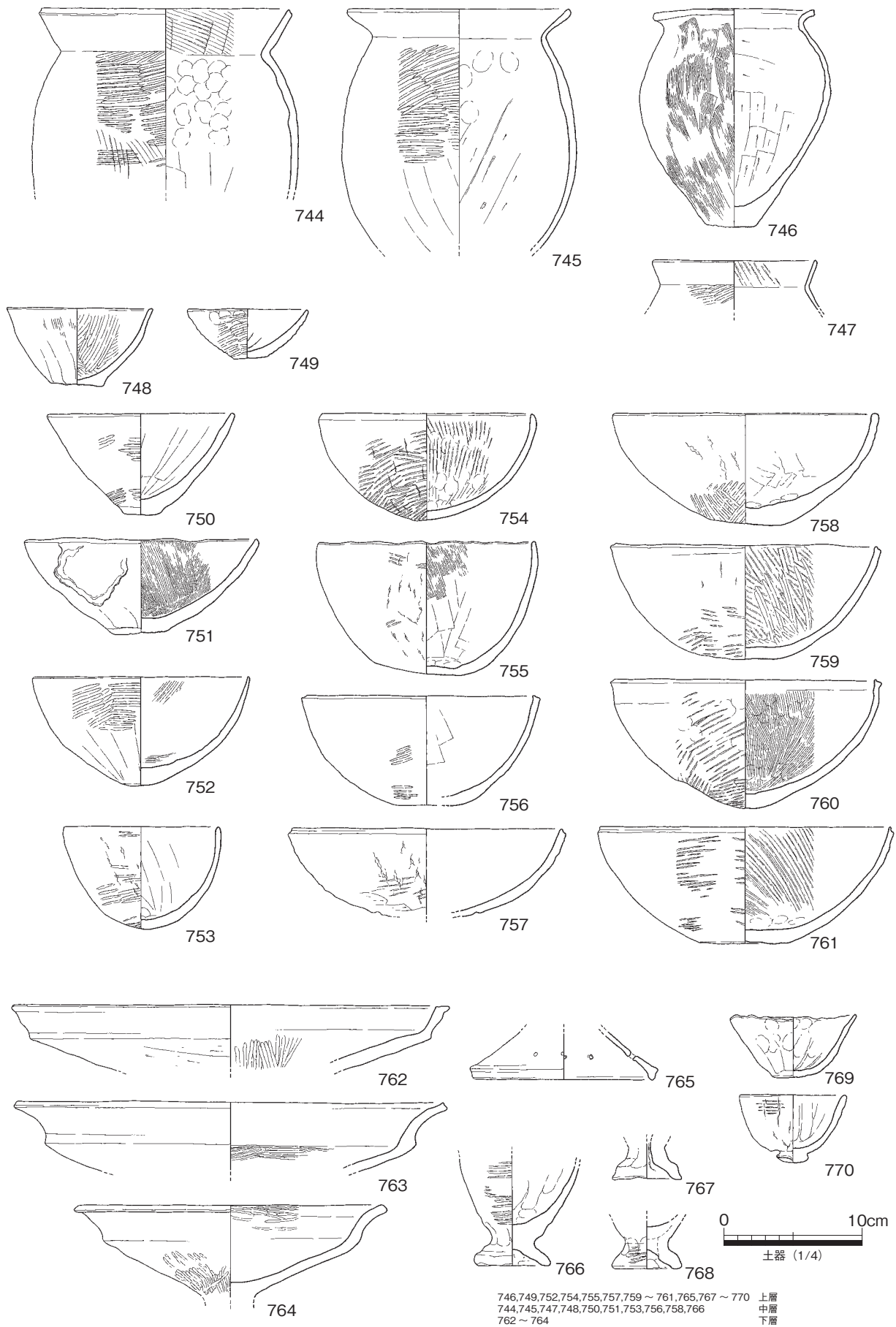


土器 (1/4)
 721,722,725,726 上層
 716~719,724,727 中層
 720,723 下層

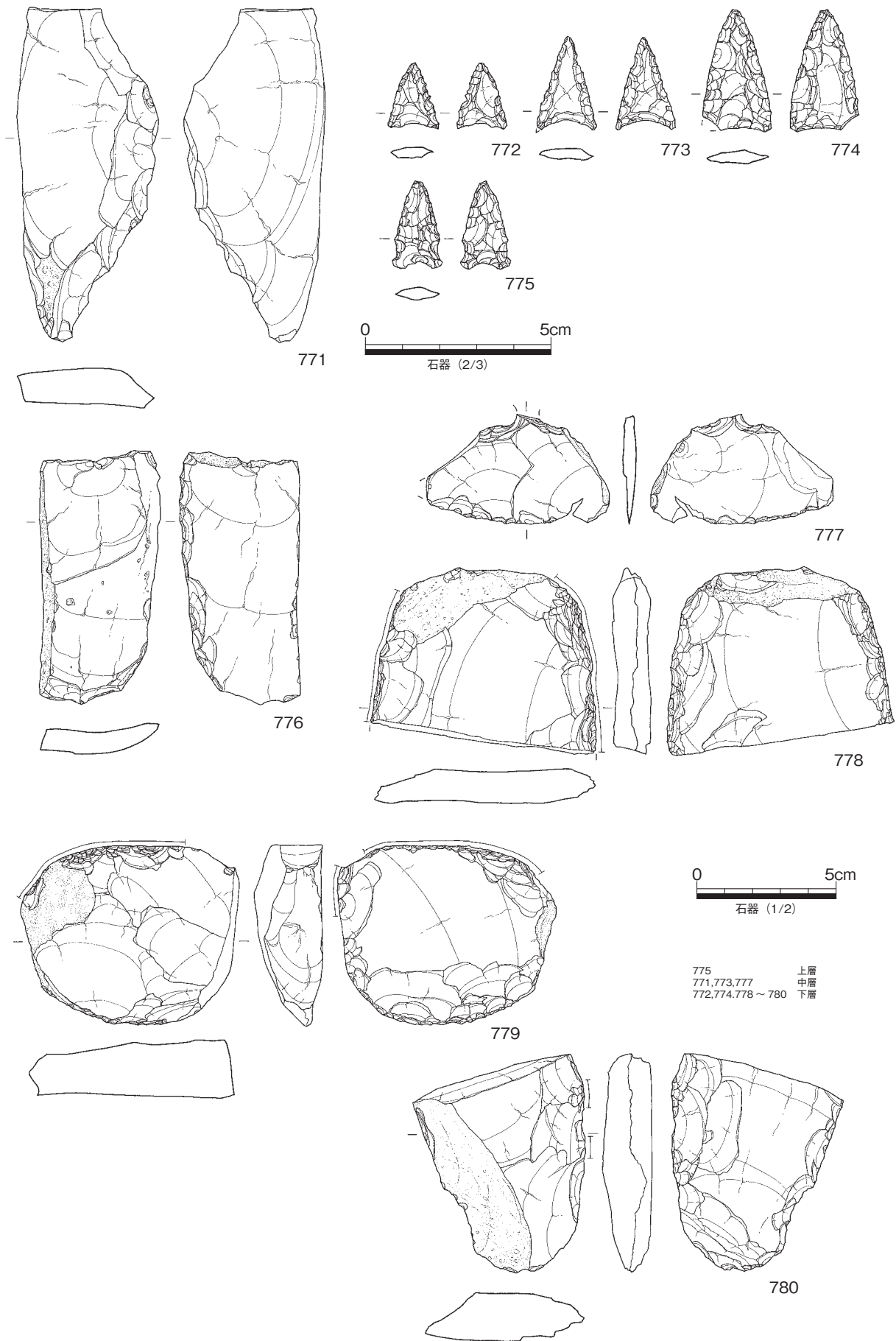
第 104 図 SD309 断面、出土遺物 (1)



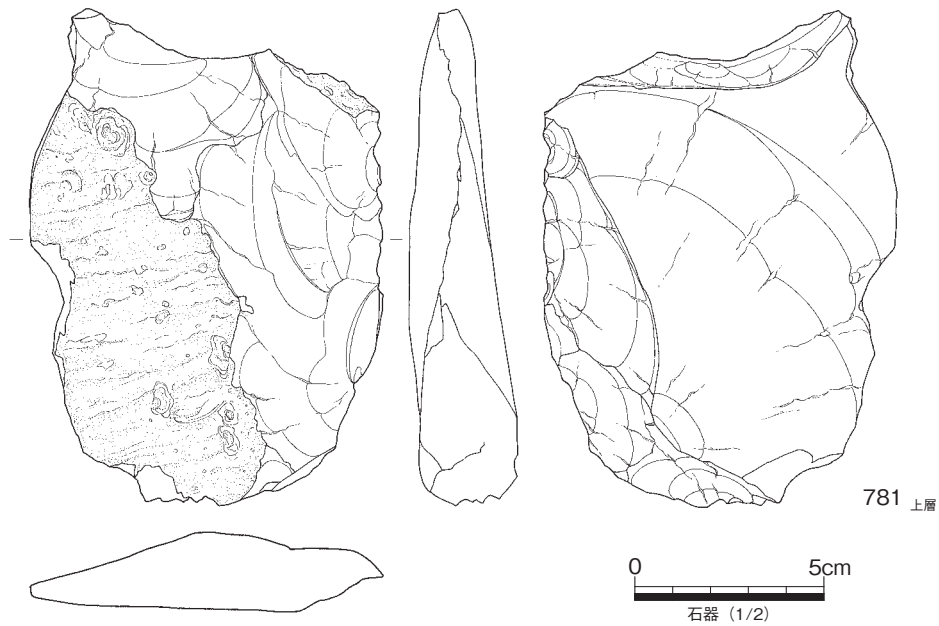
第 105 図 SD309 出土遺物 (2)



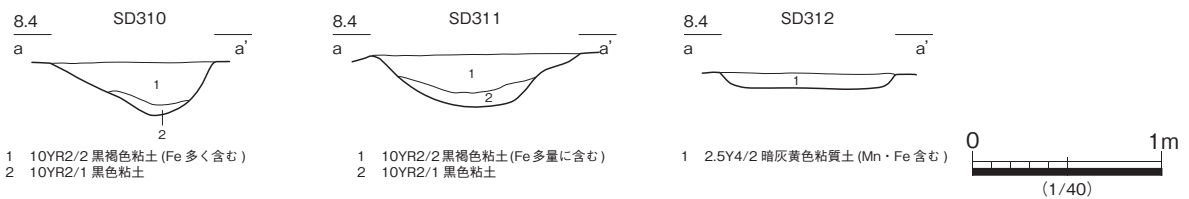
第 106 図 SD309 出土遺物 (3)



第 107 図 SD309 出土遺物 (4)



第 108 図 SD309 出土遺物 (5)



第 109 図 SD310～312 断面図

748～761は鉢の資料である。鉢を大きさで分ければ、概ね大・中・小の三種類に分けられる。また正面の形状ではV字状や、ボール状のものに分けられる。

762～765は高杯の資料である。762～764は高杯の杯部で、765は高杯脚部である。762は後期前半の高杯で、出土した土器の中では比較的古い部類に入る。

766～768は脚台付製塩土器の下半部である。体部や脚部外面にタタキを残すものがある。形状や調整から、これらの製塩土器は弥生時代後期後半新相頃の土器と考えられる。

771～781はサヌカイト製石器類である。771は横長剥片である。772～775は石鏃、776は縦長状の剥片の側縁に刃部を形成した削器である。777は基部を欠く石匙である。779は楔形石器で、他の石器の転用品であろう。780は石核に分類したが、何らかの未製品の可能性もある。781は肉厚な剥片を素材にした交互剥離の横長剥片石核である。

出土遺物からSD309は、弥生時代後期前半頃に掘削され、最終的に埋没が終わるのは弥生時代終末期頃であろう。

SD310(第 109 図)

Ⅲ-3区北半部で検出したSD309の南岸から東へ分岐する小溝である。東壁近くで確認したため、

極一部を検出した。

検出長 3.5m、幅約 0.85m、深さ約 0.25m を測る。断面は上部が開いた浅い V 字状を呈している。埋土は上下 2 層に分かれ、出土遺物は確認できなかった。

SD311(第 109 図)

Ⅲ - 3 区北半部で検出した SD309 の北岸から西へ分岐する小溝である。

検出長 5.5m、幅約 1.1m、深さ約 0.3m を測る。断面は上部が開いた不整形な皿状を呈している。埋土は上下 2 層に分かれ、埋土からは弥生土器の細片が 2 点出土したのみで、時期を判断するには無理があるが、SD309 に類似する時期の可能性はある。

SD312(第 109 図)

Ⅲ - 3 区北半部で検出した SD309 の北岸から北へ分岐する浅い小溝である。

検出長 2.3m、幅約 0.95m、深さ約 0.1m を測る。断面は皿状を呈している。埋土は単層で暗灰黄色粘質土を呈する。埋土からは遺物は確認できなかった。

5. Ⅲ - 4 区

(1) 基本層位

Ⅲ - 4 区は、Ⅲ区の北端に位置する。調査前の旧状は事業地であった。現地表面の標高は 9.4m 前後、地表下 0.7 ~ 0.8m は盛土層であった。盛土層下位で、層厚 0.1 ~ 0.2m の旧耕作土に至る。旧耕作土下には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば第 1 遺構面に至る。

第 1 遺構面の標高は調査区南端で 8.4m 前後、北端で 8.1m 前後を測り、緩やかに北へ傾斜する。第 1 遺構面のベースとなるのは褐灰色粘土層は層厚数cmの薄い層で、調査区の西にやや厚く堆積する。褐灰色粘土層の下面が第 2 遺構面になる。

第 2 遺構面の標高は 8.1m 前後を測り、緩やかに北へ傾斜する。第 2 遺構面のベースになるのは黄色系粘土で、同層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つである。なお、調査区北半部では浅黄色粘質土(包含層)が褐灰色粘土層(第 1 遺構面ベース層)と黄色系粘土(地山)間に薄く堆積しており、部分的遺構面が 3 面になるところがある。

(2) 土坑

SK301(第 112 図)

Ⅲ - 4 区南西部で検出した土坑である。平面は不整円形状を、断面は浅く不整形な形状を呈する。

径約 0.7m、深さ約 0.05m を測る。埋土は単層で黒色粘土を呈する。埋土から遺物は確認できなかった。

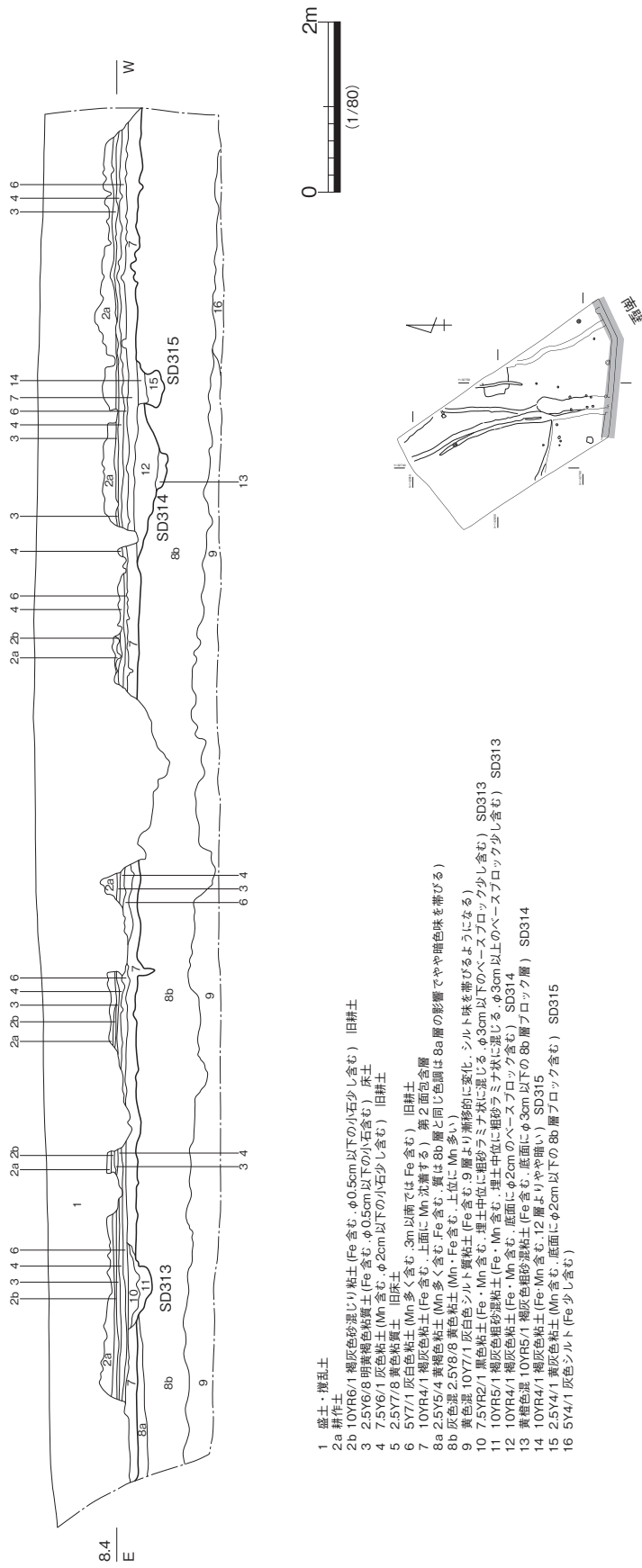
(3) 溝状遺構

SD313(第 112 図)

Ⅲ - 4 区南半部の第 1 遺構面で検出した。東壁際を、僅かに蛇行気味に北西方向へ延びる溝状遺構である。

検出長約 13.0m、幅 0.5 ~ 0.7m、深さ約 0.2m を測る。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は上下 2 層に

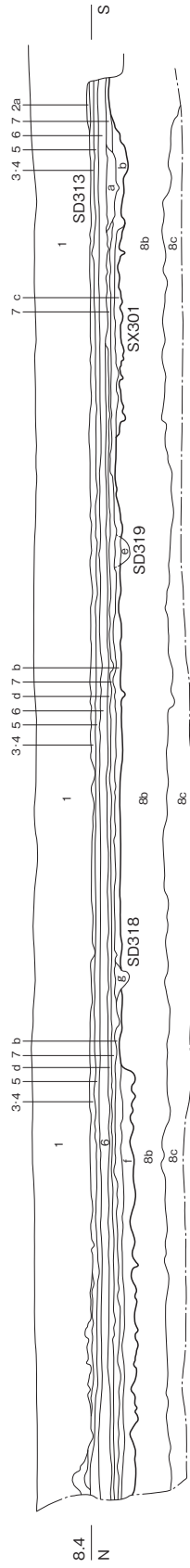
III-4 区南壁



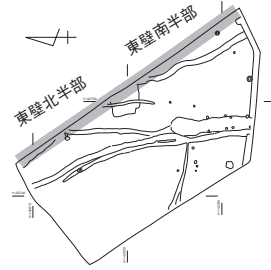
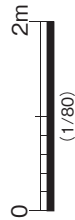
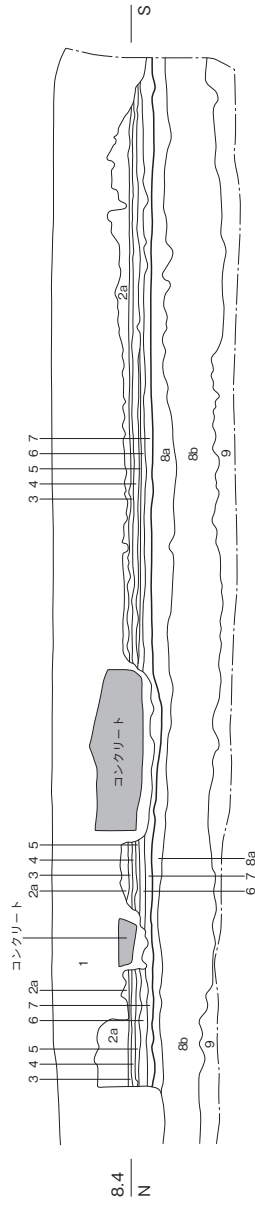
- 1 盛土・埋戻土
- 2a 耕作土
- 2b 10YR6/1 褐灰色砂混じり粘土 (Fe 含む、 ϕ 0.5cm 以下の小石少し含む) 旧耕土
- 3 2.5Y6/8 明黄褐色粘質土 (Fe 含む、 ϕ 0.5cm 以下の小石含む) 底土
- 4 7.5Y6/1 灰黄色粘土 (Mn 含む、 ϕ 0.5cm 以下の小石含む) 旧耕土
- 5 2.5Y7/8 黄褐色粘質土 旧耕土
- 6 5Y7/1 灰白色粘土 (Mn 多く含む、3m 以下では Fe 含む) 旧耕土
- 7 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe 含む、上面に Mn 沈着する) 第 2 面包含層
- 8a 2.5Y5/4 黄褐色粘土 (Mn 多く含む、Fe 含む、質は 8b 層と同じ色調は 8a 層の影響でやや暗色味を帯びる)
- 8b 灰色混 2.5Y8/8 黄褐色粘土 (Mn・Fe 含む、上位に Mn 多い)
- 9 黄色混 10Y7/1 灰白色シルト質粘土 (Fe 含む、9 層より漸移的に変化、シルト味を帯びるようになる)
- 10 7.5YR2/1 黒色粘土 (Fe・Mn 含む、埋土中に粗砂ラミナ状に混じる、 ϕ 30cm 以下のベースブロック少し含む) SD313
- 11 10YR5/1 褐灰色粗砂混粘土 (Fe・Mn 含む、埋土中に粗砂ラミナ状に混じる、 ϕ 30cm 以下のベースブロック少し含む) SD313
- 12 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含む、底面に ϕ 20cm のベースブロック含む) SD314
- 13 黄褐色混 10YR5/1 褐灰色粗砂混粘土 (Fe 含む、底面に ϕ 30cm 以下のベースブロック層) SD314
- 14 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含む、12 層よりやや暗い) SD315
- 15 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Mn 含む、底面に ϕ 2cm 以下の 8b 層ブロック含む) SD315
- 16 5Y4/1 灰白色シルト (Fe 少し含む)

第 110 図 南壁土層断面図

Ⅲ-4区東壁北半部

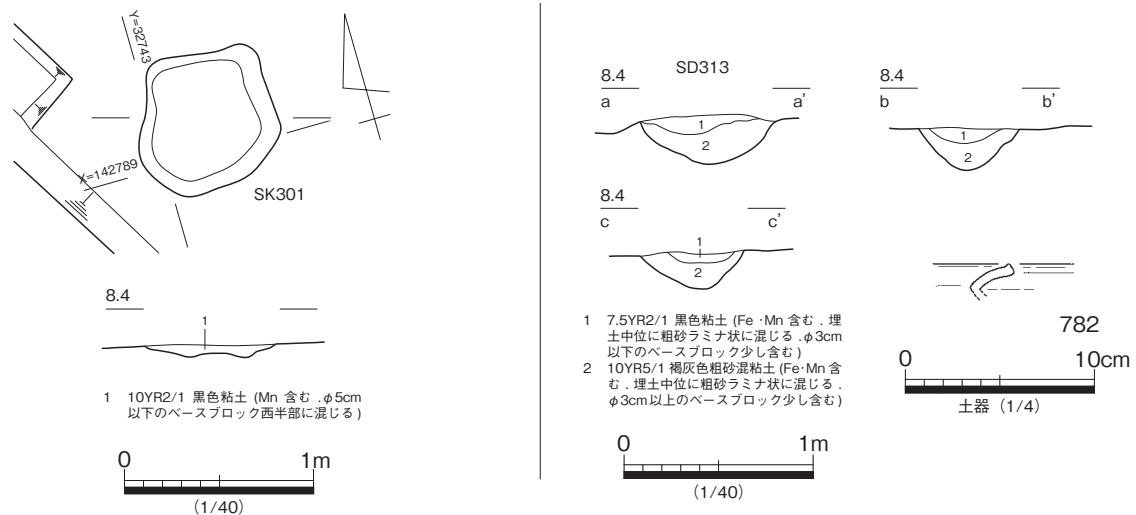


Ⅲ-4区東壁南半部



- 1 腐土・攪乱土
- 2a 耕作土
- 3 2.5Y6/8明黄褐色粘質土 (Fe含む、φ0.5cm以下の小石含む) 床土
- 4 7.5Y6/1灰色粘土 (Mn含む、φ2cm以下の小石少し含む) 旧耕土
- 5 2.5Y7/8黄褐色腐土 旧床土
- 6 5Y7/1灰白色粘土 (Mn多く含む、3m以層ではFe含む) 旧耕土
- 7 10YR4/1褐灰色粘土 (Fe含む、上面にMn沈着する) 第2面包含層
- 8a 2.5Y5/4黄褐色粘土 (Mn・Fe含む、Mn多く含む、Fe含む、層は9層と同じ色調は8a層の影響でやや暗色味を帯びる)
- 8b 灰色泥 2.5Y8/8黄褐色粘土 (Mn・Fe含む、測定15.3m以北では砂の含有が多くなり、φ3cm以下の小石若干混じる)
- 8c 黄色泥 10Y7/1灰白色シルト質粘土 (Fe含む、8b層より漸移的に変化、シルト味を帯びるようになる)
- 9 黄色泥 10Y7/1灰白色シルト質粘土 (Fe含む、8b層より漸移的に変化、シルト味を帯びるようになる)
- a 5YR2/1黄褐色粘土 (Mn・Fe含む) SD313埋土
- b 黄斑泥 2.5Y7/4淡黄褐色粘質土 (Fe含む) 第2連横面b包含層
- c 5YR3/1黄褐色粘土 (Fe・Mn含む、φ5cm前後の8b層ブロック含む) SX301埋土
- d 2.5Y7/6明黄褐色粘質土 (Fe・Mn含む) 旧床土
- e 2.5Y6/1黄灰色粘土 (Fe・Mn含む) SD319埋土
- f 5YR3/1黄褐色粘土 (Mn含む、φ7cm以下の8b層ブロック含む)
- g 5YR4/1褐灰色粘土 (Mn含む、φ10cm以下の8b層ブロック多く含む) SD318埋土

第111図 東壁土層断面図



第 112 図 SK301・SD313 平・断面、出土遺物

分かれ、上層が黒色粘土、下層が褐灰色粘土を呈する。埋土からは弥生時代後期頃の土器片が数点出土した。782 は弥生時代後期後半頃の甕口縁部片である。出土遺物からこの溝跡は弥生時代後期後半頃の時期が考えられる。

SD314(第 113 図)

Ⅲ - 4 区南半部の第 2 遺構面で検出した。南壁から南北方向へ延びる溝状遺構で、西辺は SD315 と重複し SD314 は SD315 に切り込まれており、この溝跡は SD315 より先行することが分かる。また、SD314 は北端部で SD318 と重複する。

検出長約 8.5m、幅 1.3 ~ 2.0m、深さ約 0.2 ~ 0.4m、主軸方位は N6.2° W を測る。断面は浅い皿状ないし丸味をもった V 字状を呈し、埋土は上層が灰黄褐色粘土、下層が褐灰色系の堆積層からなる。

埋土からは弥生時代後期後半頃の土器とサヌカイト製の石器が出土した。783・784 は甕の上半部である。784 の体部外面にはタタキを顕著に残す。785・786 は高杯の杯部と脚部片である。出土遺物より SD314 は、弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD315(第 113・114 図)

Ⅲ - 4 区南半部の第 2 遺構面で検出した。南壁から北壁に至る区間で僅かに西に傾き気味に南北方向へ延びる溝状遺構である。SD315 は SD314・316 と重複し、この溝状遺構は両溝跡を切り込んでいる。そのため、SD314 は先述した二つの溝跡より後出することが分かる。

検出長約 23.7m、幅約 0.7m、深さ約 0.3m を測る。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は約 3 層に分かれるが、主体を占めるのは黒色粘土である。また、南半部を中心に改修の痕跡が認められる。

埋土からは弥生時代後期前半、終末期頃の土器とサヌカイト製の石器が出土した。788 ~ 792 は甕の資料である。789・790 の甕は口縁部を平坦に拡張し、端部に退化した凹線文を施している。793・794 は高杯の資料である。793 は杯部片で、794 は脚部である。795 は終末期頃の製塩土器脚台部である。787 は後期前半の高杯の杯部である。この高杯は SD314 と SD315 の破片同士が接合しており、どちら

に属するか判断しにくい、他の出土遺物と遺構の切り合いからSD315に含まれるものと考えられ、SD314出土の破片は、SD314が埋没する過程で混入したものであろう。なお、同様に796・797の甕・鉢は、SD315とSD316の破片同士が接合する資料で、いずれの溝跡に属するか判断しにくい資料である。

807・808は打製の石庖丁である。807は横長状の剥片を素材にし、側縁部に僅かに調整を施し刃部を形成している。809は肉厚な剥片を素材にし、交互剥離状に剥片剥離を行なっている石核である。また、残核の形状は尖頭状を呈している。出土遺物よりSD315は、弥生時代終末期に埋没した溝状遺構と考えられるが、開削期については弥生時代後期前半頃の可能性がある。

SD316(第113図)

Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。この溝跡はSD315と重複し同方向へ延びている溝状遺構で、SD315に切り込まれているため、SD315の前身流路と考えられる。

検出長約13.7m、幅約0.35m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は単層である。

埋土からは弥生時代後期前半頃の土器が少量出土した。798は口径部を欠く壺の体部である。799～801は甕の資料である。口縁部は外上方に開き端部は平坦に仕上げている。802～805は鉢である。底部の形状には平底と丸底のものがある。806は高杯の杯部片である。出土遺物よりSD316は、弥生時代後期前半に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD317(第115図)

Ⅲ-4区中央の第2遺構面で検出した。SD316から西へ分岐している東西方向の小規模な溝状遺構である。

検出長約7.3m、幅0.2～0.7m、深さ0.05～0.15m、主軸方向はN81.0°Wを測る。断面は浅いU字状や凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土は褐灰色粘土と黒褐色粘土の2層に分かれる。埋土から遺物が出土していないため、詳細な時期については不明である。

SD318(第115図)

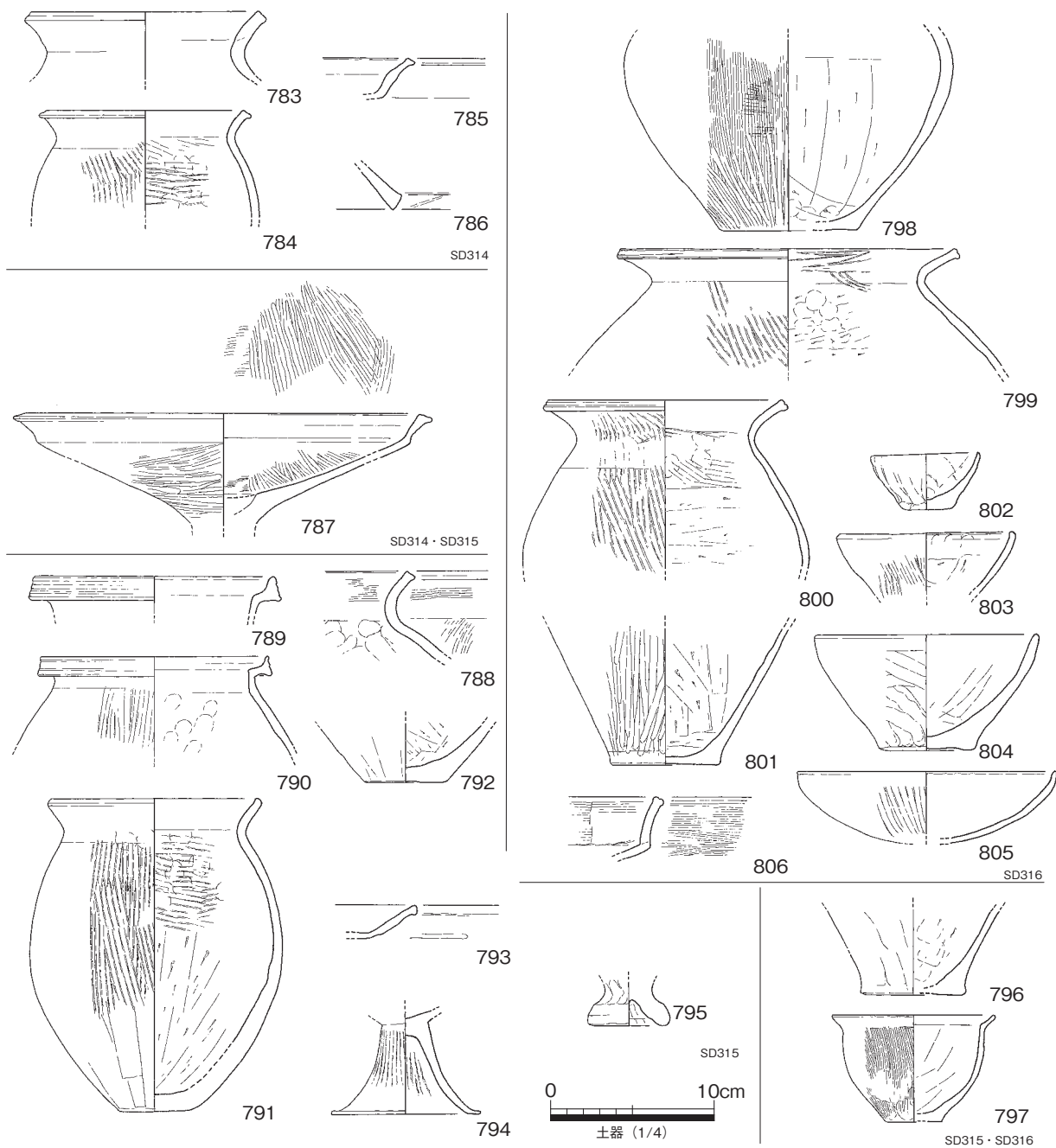
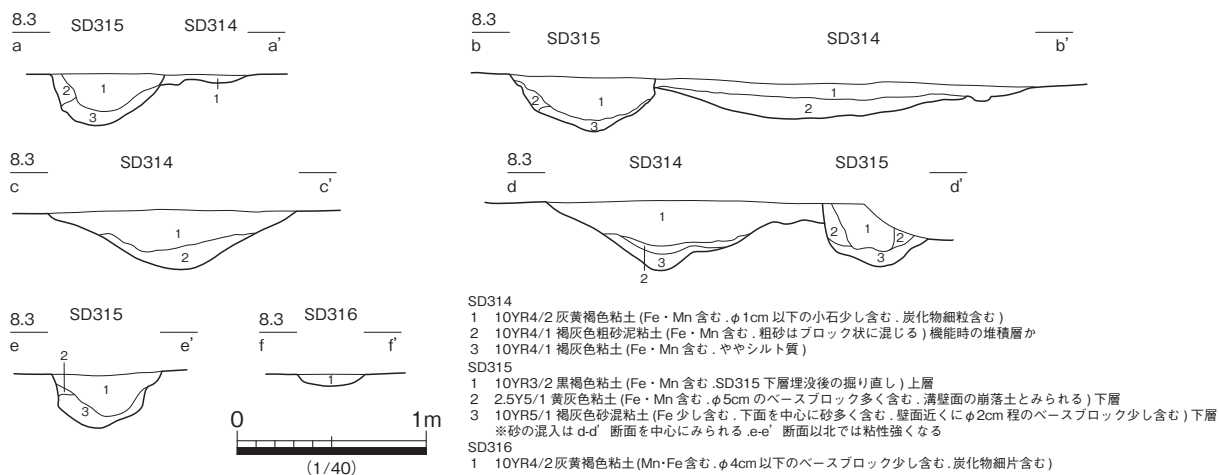
Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。SD314から北に向け東壁方向へ延びている細い溝跡である。SD314との切り合いは認められないため、SD314とSD318は一連の遺構と考えられる。

検出長約11.0m、幅約0.4m、深さ約0.1m、主軸方向はN1.0°Eを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は褐灰色粘土の単層である。埋土からは数点の弥生土器とサヌカイト製石器が出土した。

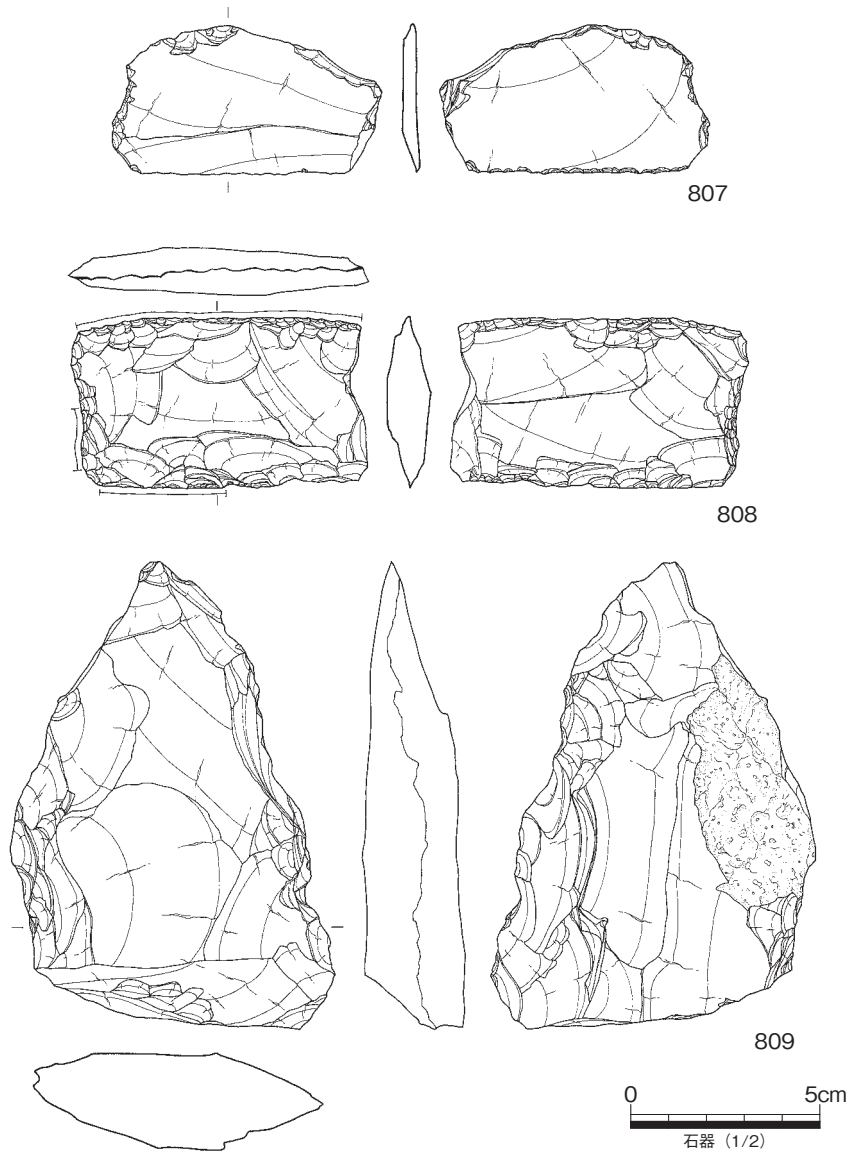
SD319(第115図)

Ⅲ-4区中央東辺の第2遺構面で検出した。調査区中央から南北方向へ延びて東壁にあたる溝状遺構である。この溝跡はSX301と重複し、SD319はSX301を切り込んでいるため、SX301より後出することが解る。

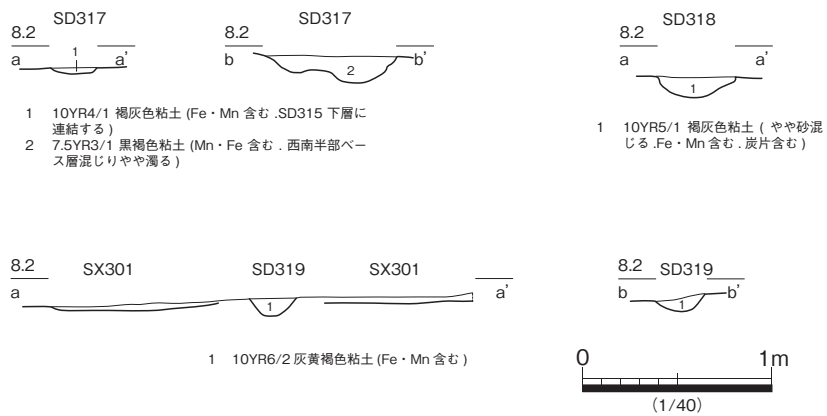
検出長約5.6m、幅約0.3m、深さ約0.05m、主軸方位はN6.6°Wを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は単層で灰黄褐色粘土を呈する。埋土からサヌカイト片1点出土したのみで、詳細な時期については不明である。



第 113 図 SD314 ~ 316 断面、出土遺物



第114図 SD315 出土遺物



- 1 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含む .SD315 下層に連結する)
2 7.5YR3/1 黒褐色粘土 (Mn・Fe 含む . 西南半部ベース層混じりやや濁る)

- 1 10YR5/1 褐灰色粘土 (やや砂混じる .Fe・Mn 含む . 炭片含む)

第115図 SD317～319・SX301 断面図

(4) 不整形遺構

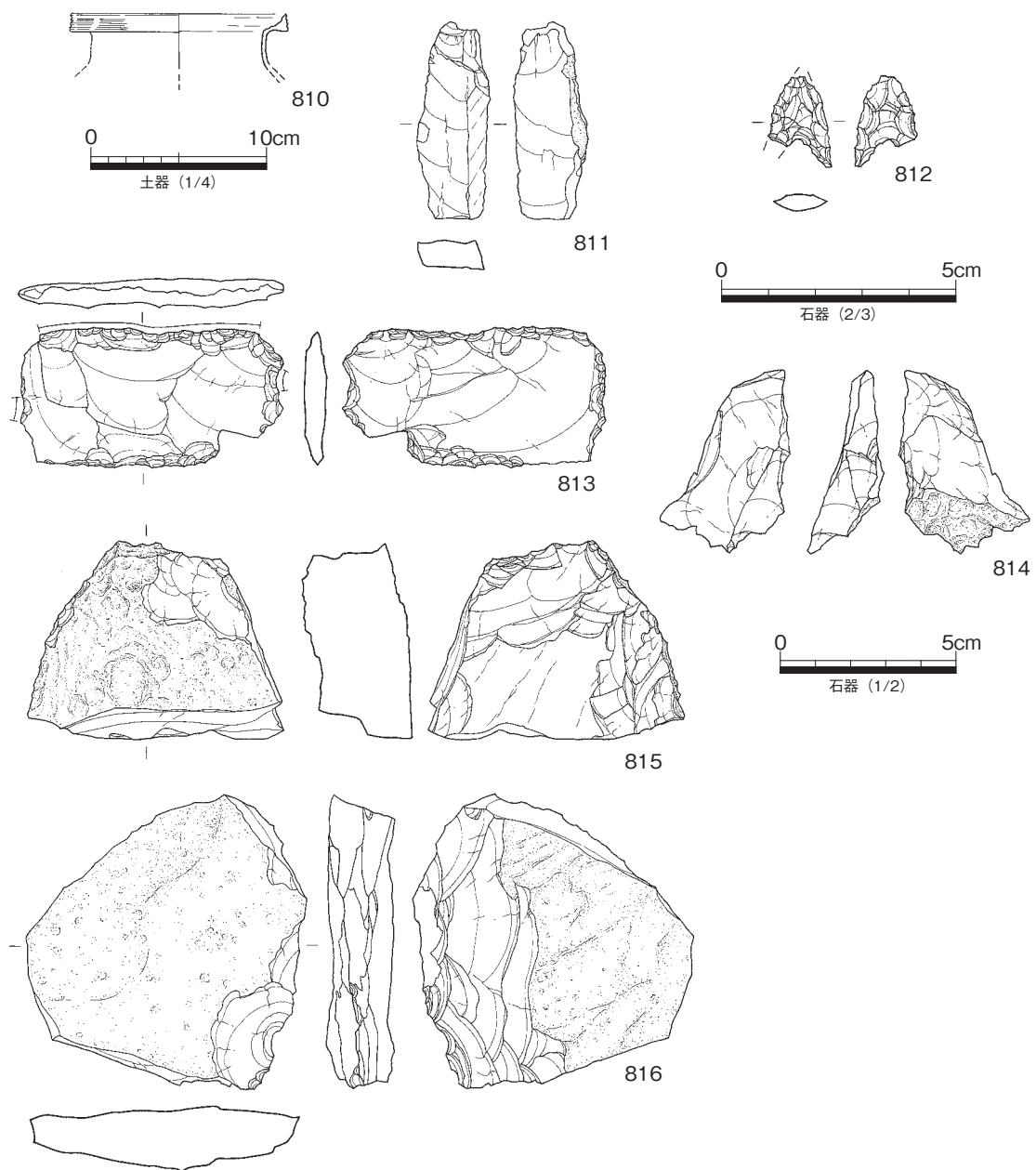
SX301(第 115 図)

Ⅲ - 4 区中央東辺の第 2 遺構面で検出した、不整形な浅い方形の遺構である。SD319 と重複し、SD319 に切り込まれているため、SD319 より先行することが分かる。

長径 3.0m 以上、短径 3.0m、深さ約 0.02m を測る。断面は浅いレンズ状を呈し、埋土は単層で灰黄褐色粘土からなる。埋土からは弥生土器と考えられる細片が出土しているが、詳細な時期については不明である。

(5) 包含層出土遺物 (第 116 図)

Ⅲ 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に包含層出土遺物を報告する。なお、包含層



第 116 図 包含層出土遺物

出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

810～816は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。810は弥生時代後期初頭の複合口縁壺の口頸部である。口縁端部は上下に拡張し凹線文を施している。811～816サヌカイト製の石器類である。811は縦長剥片である。形状から推定して、板状の石核から剥出された縦長剥片と考えられる。812は凹基式の石鏃、813は石庖丁である。814は不整形な剥片である。815・816は石核である。815は肉厚な板状剥片を素材にして、外縁部から剥片剥離を施している。816は板状の礫の一辺に打面調整を施し、対面に剥片剥離を施している。

第6節 IV区の調査

1. はじめに

IV区はⅢ区の北端から北へ約25m離れた地点に位置する、南北方向の延長約70m程の調査区で、本遺跡の北端部に位置し、平成12年度調査のⅡ区にあたる調査区である。

IV区からは、弥生時代以降の遺構面下から、当初予想していなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所の石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したサヌカイト集積遺構を検出した。また、遺構面上からは、弥生時代前期のピットや中期後半の土坑や溝状遺構を少数検出した。

石器集中ブロック等からは約1,600点のサヌカイト製の石器類が出土した。主体になるのは碎片や剥片であるが、少数の石核・石鏃・削器等も含まれる。また、接合資料も数点抽出することができた。これらの石器製作跡の資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで良資料になった。

2. 基本層位(第118図)

IV区は川津六反地遺跡の北端の調査区にあたる。調査前の旧状は、農協やガソリンスタンド等の事業地であった。現地表面の標高は9.0m前後、地表下0.7～0.8mは盛土層であった。盛土層下位で、層厚0.1～0.2mの旧耕作土に至る。旧耕作土下には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば第1遺構面に至る。

第1遺構面の標高は調査区南端で8.0m前後、北端で7.8m前後を測り、緩やかに北に傾斜する。第1遺構面のベースとなる褐灰色粘土層は層厚数cmの薄い層で、調査区のほぼ全域で確認できる。同層からは、数点の遺物が出土した。同層下面が第2遺構面となる。

第2遺構面の標高は7.8m前後で緩やかに北に傾斜する。第2遺構面のベースとなる黄色系粘土の上位には、調査区南半部では4a層(明黄褐色粗砂混粘土)が堆積しており、同層から縄文時代と考えられる石器集中ブロックを検出した。黄色系粘土層の下位には、調査区の南北両端部で、砂礫層を確認したが、調査区中央では両端部より深いところで確認されることから、調査区中央は本来谷状の地形を呈していたものと考えられる。なお、先述した縄文時代の包含層は、この谷の南斜面部に堆積している包含層と考えられる。

3. 遺構・遺物

(1) 土坑

SK401(第 119 図)

Ⅳ区南端部西壁際の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は不整形なU字状を呈する。

長径約 1.3m、短径約 0.6m、深さ約 0.3m を測る。埋土は単層で、黒褐色粘土にベースの小ブロックや小礫を含む。この埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

SK402(第 119 図)

Ⅳ区北東部の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸がある不整形な逆台形状を呈する。

長径約 1.6m、短径約 0.8m、深さ約 0.5m を測る。埋土は上下2層に分かれ、サヌカイト製の剥片や石鏃が数点出土した。817は凹基式の石鏃である。

SK403(第 119 図)

Ⅳ区南半部東よりの第2遺構面で検出した土坑である。北半部はSK404と重複する。平面は長楕円形状、断面は不整形な逆台形状を呈する。

長径約 1.4m 以上、短径約 0.7m、深さ約 0.2m を測る。埋土はSK404同様の黒褐色粘土の単層で、切り合うSK404との相違は不明瞭であった。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

SK404(第 119 図)

Ⅳ区南半部東よりの第2遺構面で検出した土坑である。南半部はSK403と重複する。平面は不整形な楕円形状、断面は不整形な逆台形状を呈する。

長径約 1.1m 以上、短径約 0.5m、深さ約 0.25m を測る。埋土はSK404同様黒褐色粘土の単層で、切り合うSK404との相違は不明瞭であった。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

SK405(第 119 図)

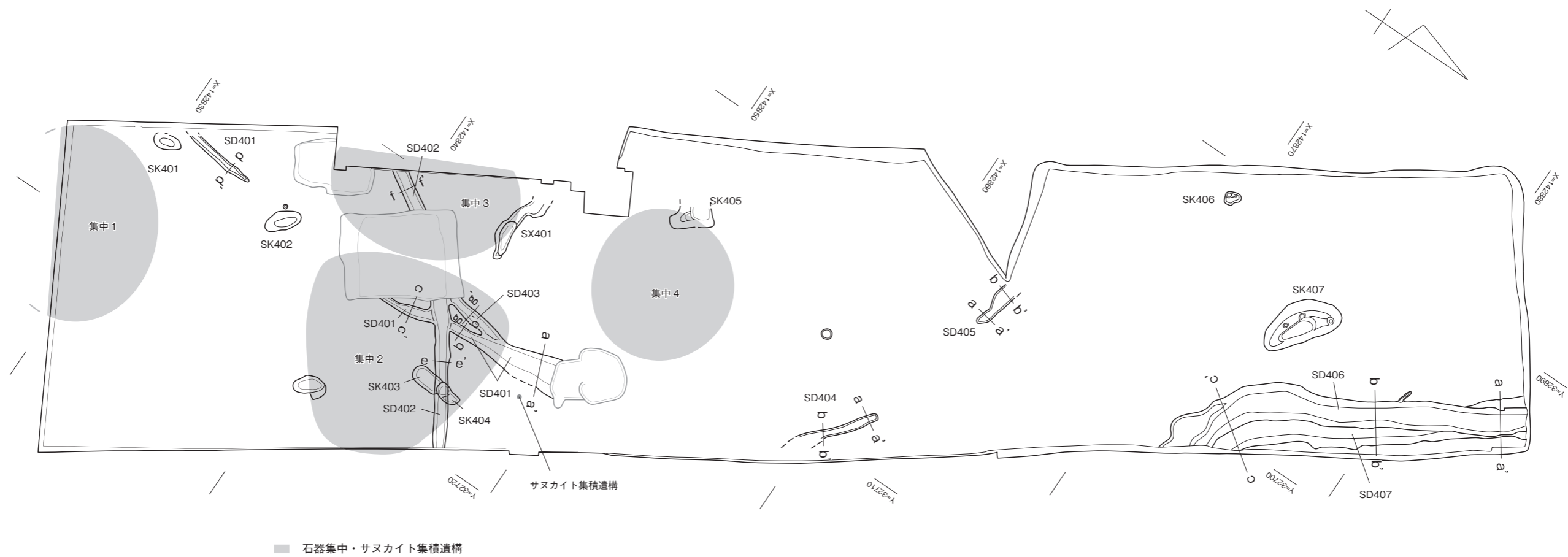
Ⅳ区中央の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈する。

長径約 1.9m、短径約 1.3m、深さ約 0.7m を測る。埋土は3層に分かれ、主体を占めるのは黒褐色粘土である。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

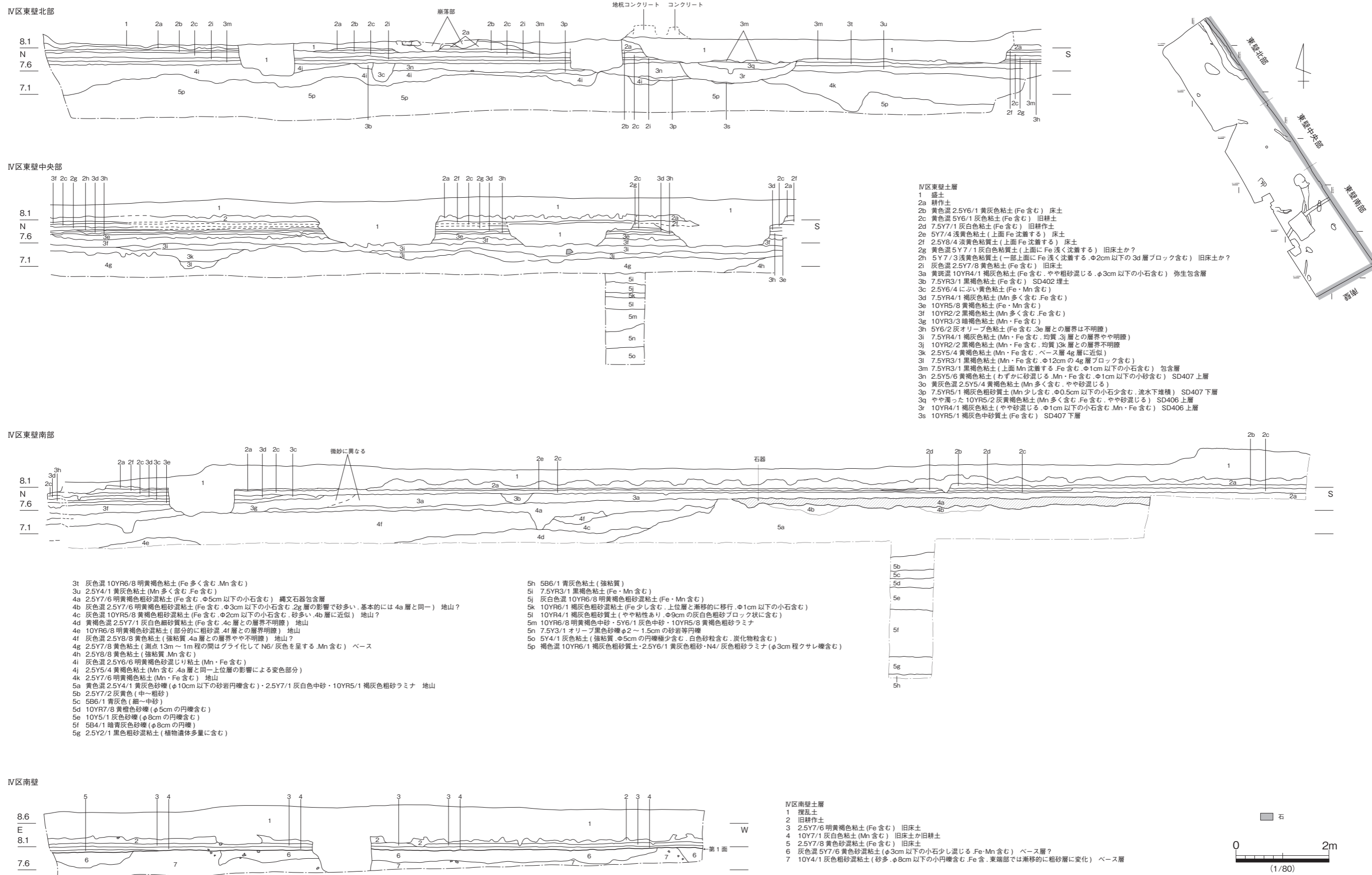
SK406(第 119 図)

Ⅳ区北半部西よりの第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は残りが悪く、凹凸が顕著な不整形な形状を呈する。

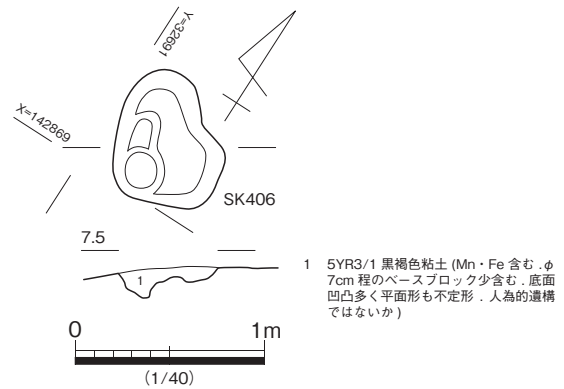
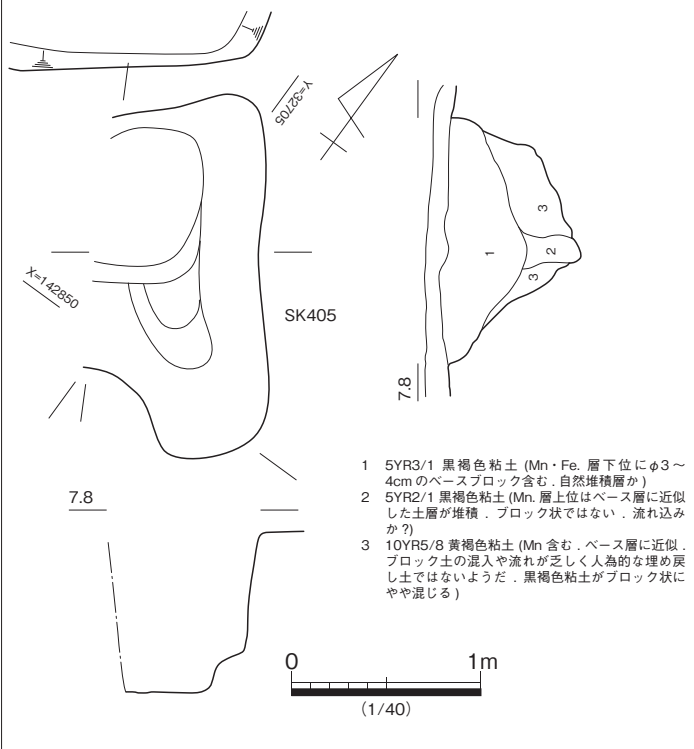
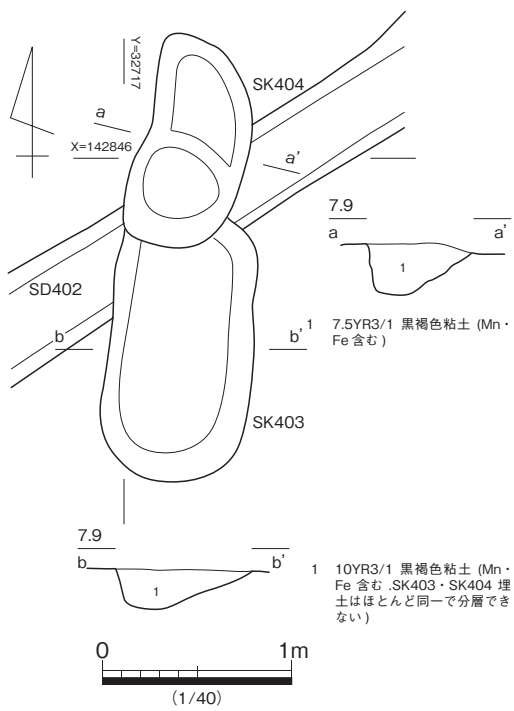
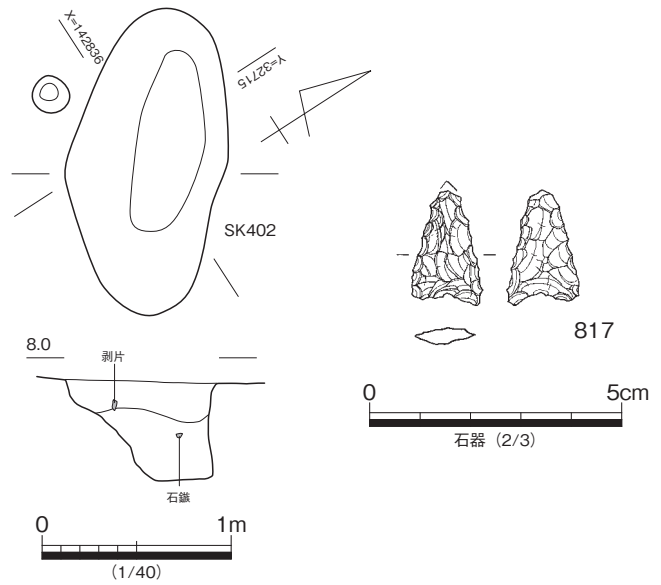
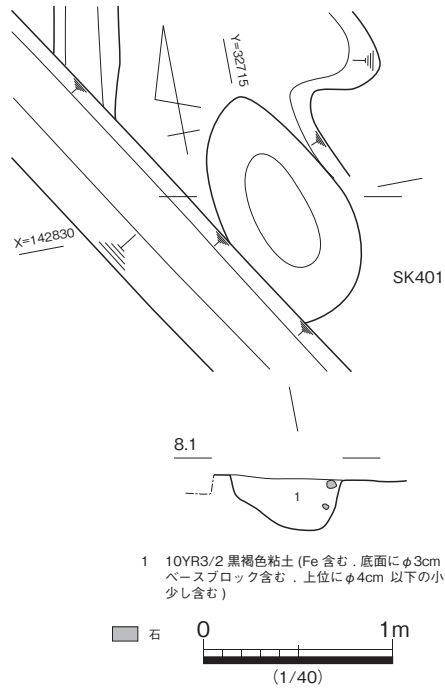
長径約 0.7m 以上、短径約 0.5m、深さ約 0.15m を測る。埋土は黒褐色粘土からなり、埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。



第117図 IV区遺構配置図



第 118 図 IV区東壁・南壁土層断面図

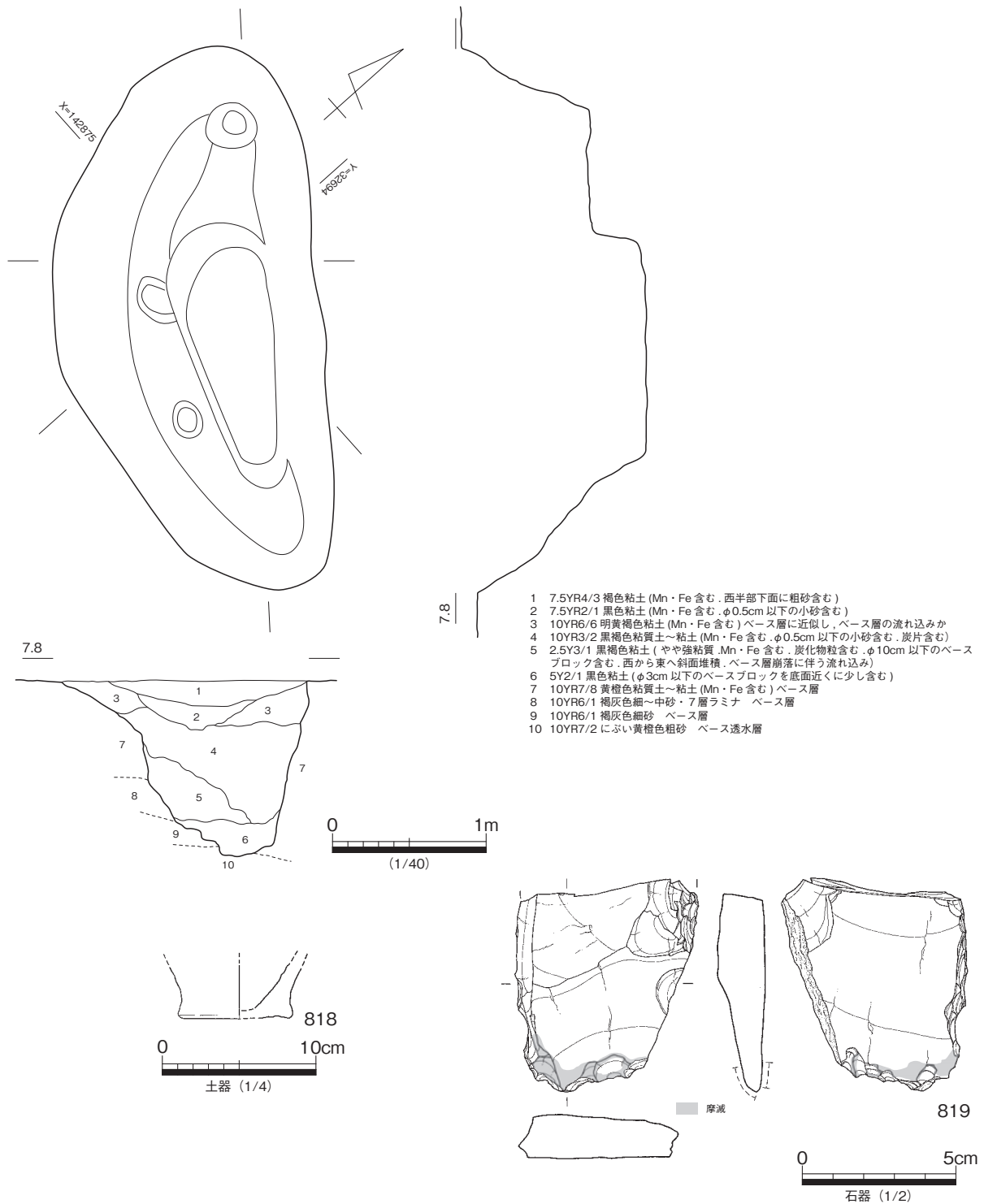


第 119 図 SK401 ~ 406 平・断面、出土遺物

SK407(第 120 図)

IV区北半部中央の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、横断面は凹凸が顕著で不整形な逆台形状を、縦断面は南半部が下がる二重掘方を呈している。なお、底面には部分的に窪みが認められる。

長径約 3.5m、短径約 1.6m、深さ約 1.1m を測る。埋土は数層に分かれ、褐色粘土や黒褐色粘土が主体を占める。



第 120 図 SK407 平・断面、出土遺物

埋土からは弥生土器、サヌカイト製の石器等が少量出土した。818は弥生時代中期前半頃の甕の底部であろう。819はサヌカイトの板状素材の小口面を打面にし、分割面を作業面とした石核である。出土遺物が少なく不明瞭な点もあるが、SK407は弥生時代中期頃の可能性がある。

(2) 溝状遺構

SD401(第121図)

IV区南半部西よりの第1遺構面で検出した。調査区南半部の西壁方面から南北方向へ延び、途中約8.0m程途絶えるが、調査区中央から新たに検出され東壁へ向けて延びる溝跡である。

溝跡の途中でSD402・403と重複するが、前後関係は不明である。

南半部は残りが悪く、検出長約18.0m、幅約0.25m、深さ0.05m、北半部は幅広い形状を呈し、幅約1.2m、深さ0.1mを測る。断面は浅い不整形な皿状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土を呈する。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

SD402(第121図)

IV区南半部の第1遺構面で検出した、東西方向へ延びる溝状遺構である。SD401やSD403と重複するが、その前後関係は不明である。検出長約12.5m、幅0.55m、深さ0.15mを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土からなる。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

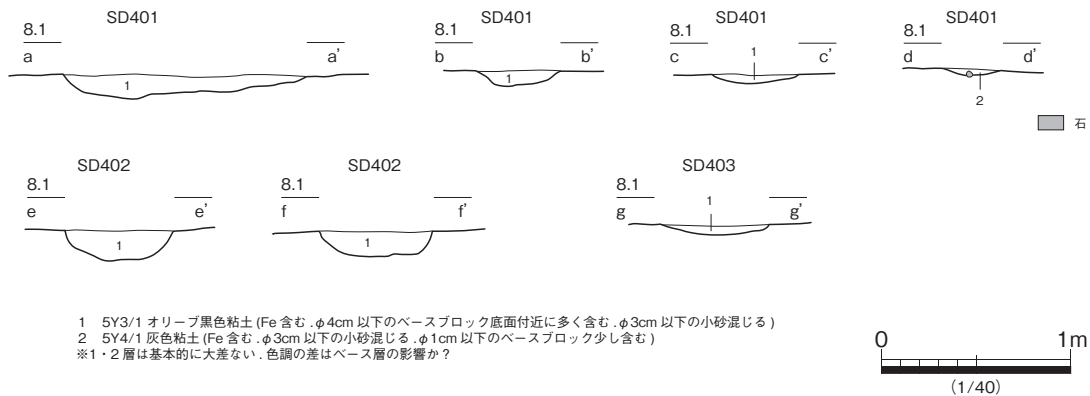
SD403(第121図)

IV区南半部の第1遺構面で検出した、SD401・SD402等と重複し南北方向へ延びる溝状遺構である。SD401やSD402と重複するが、その前後関係は不明である。

検出長約3.0m、幅約0.5m、深さ0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土からなる。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

SD404(第122図)

IV区中央の東壁際で検出した北西方向へ延びる残りの悪い溝状遺構である。検出長約4.0m、幅約0.4m、深さ0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒色粘土からなる。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。



第121図 SD401～403断面図

SD405(第 122 図)

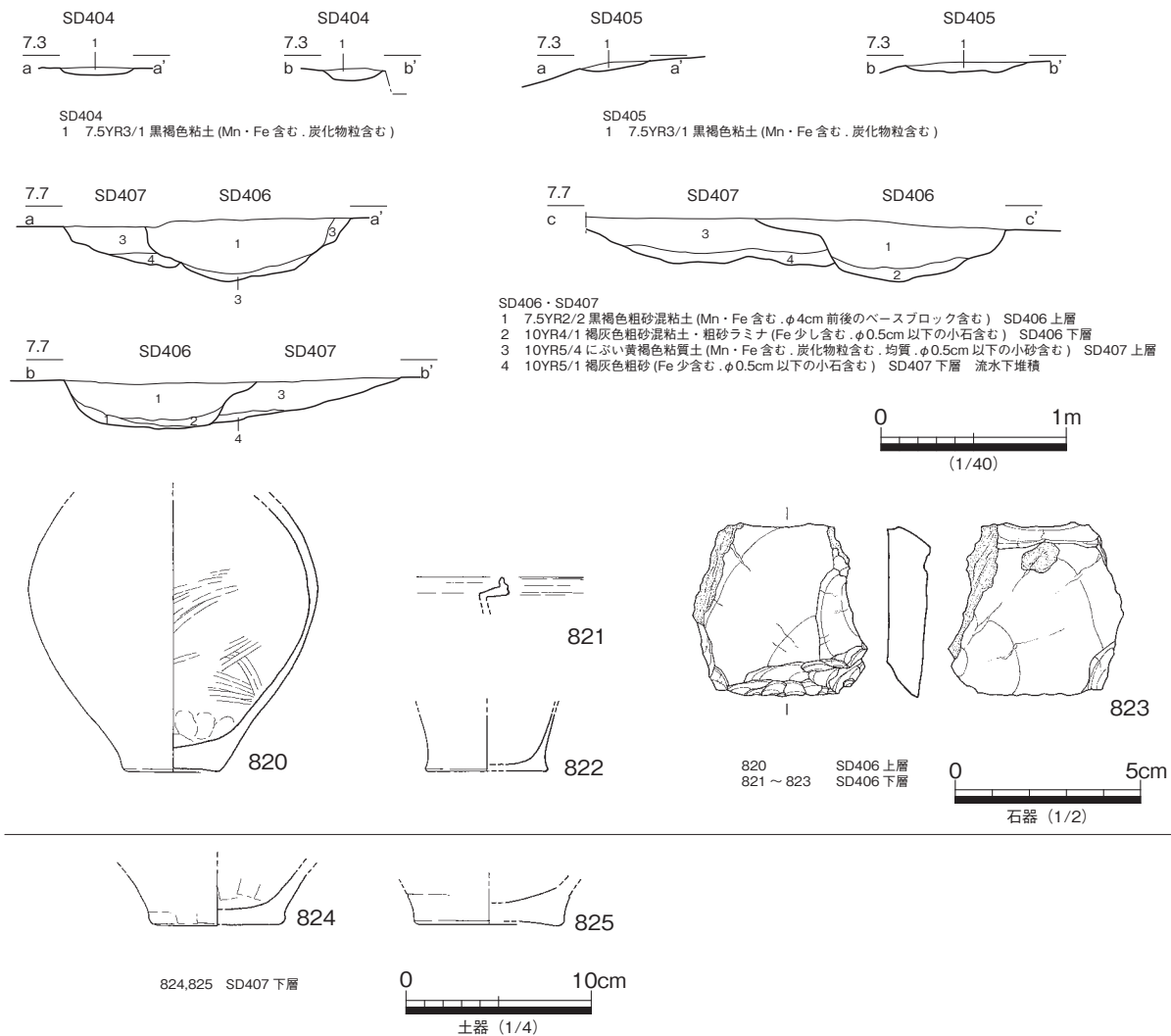
IV区中央で検出した東西方向へ延びる残りの悪い溝状遺構である。検出長約 2.0m、幅約 0.7m、深さ 0.05m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒褐色粘土を呈する。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。

SD406(第 122 図)

IV区北半部の東壁際を北西方向へ延びる溝状遺構である。SD407 と重複し、SD406 は SD407 を切り込んでいる。

検出長約 16.0m、幅 1.0 ～ 1.4m、深さ約 0.3m を測る。断面は上位が開く浅い U 字状を呈し、埋土は黒褐色粘土が主体を占める。

埋土からは弥生時代中期の土器とサヌカイト製の石器が少量出土した。820 は中期後半の口頸部を欠く壺の体部である。821 は数条の凹線文を施した甕の口縁部である。形状から弥生時代中期末頃であろう。822 は甕の底部片である。823 はサヌカイトの板状剥片を素材にした搔器である。出土遺物から SD406 は弥生時代中期に埋没した溝状遺構と考えられる。



第 122 図 SD404 ～ 407 断面、出土遺物

SD407(第 122 図)

IV区北半部の東壁際を北西方向へ延びる溝状遺構である。SD407 と重複し、SD406 はSD407 に切り込まれている。

片側辺がSD406 に掘削されているため、本来の形状は不明であるが、検出長約 16.0m、幅 1.3m 以上、深さ約 0.2m 以上を測る。

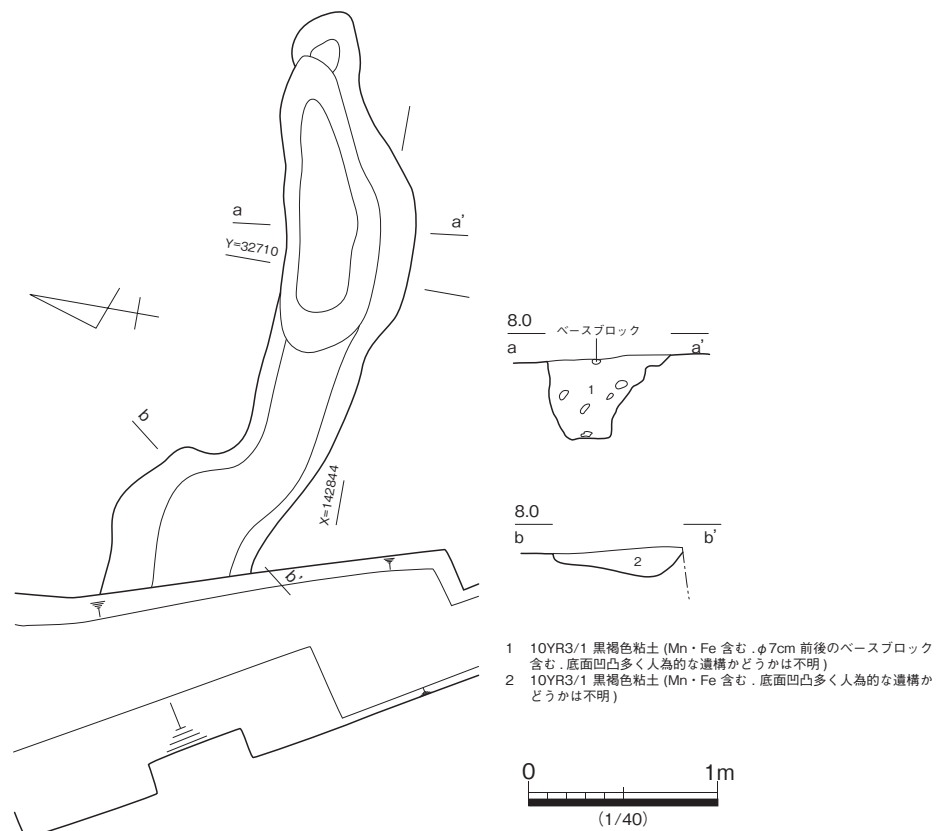
断面はおそらく浅いU字状を呈するものと考えられる。埋土は黄褐色粘質土や褐灰色粗砂が主体を占める。埋土からは弥生時代中期頃の土器片が数点出土した。824・825 は弥生中期の壺と甕の底部片である。

(3) 不整形遺構

SX401(第 123 図)

IV区中央の西壁際に位置し、南に湾曲気味に延びる不整形な遺構である。

検出長約 3.3m、幅 0.4 ~ 0.7m、深さ 0.15 ~ 0.7m を測る。東半部の断面は上位が開く逆台形状、西半部は浅い皿状を呈し、底面は凹凸が顕著である。埋土は黒褐色粘土の単層であるが、東半部には同層中にベースブロックを多量に含む。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。なお、検出状況から SX401 は人為的な遺構ではない可能性が高い。



第 123 図 SX401 平・断面図

(4) 石器製作跡

Ⅳ区南半部の弥生時代以降の遺構面のベースとなる東壁 4a 層からは、縄文時代の石器製作跡と考えられる、1,648 点の碎片・剥片・石核や石器類からなる 4 箇所の石器集中ブロックと、サヌカイトの大型剥片や石核を集積した集積遺構を検出した。使用される石材は、数点の安山岩を除けば、99%をサヌカイトが占めている。なお、包含層中には土器を含まないため、石器集中ブロック等の時期判断には問題を残している。

石器集中ブロック等を含む包含層は、Ⅲ－4 区北部を最高所とする微高地北斜面に堆積した包含層で、標高 7.5～7.9m にかけて堆積し、緩やかに北へ傾斜する。検出状況から包含層の南北の分布範囲は 50m 以内と推測できる。調査区内の同層の広がりには約 340m²を測る。包含層の下位には黄色粘土層が厚く堆積し同層中には石器類は含まれないが、両層は酷似しており、近接した時期の堆積が推定される。なお、この黄色粘土層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つである。

Ⅳ区の石器集中ブロックの現地調査では、約 1,600 点の剥片や石器類の出土地点を記録する必要があった。そのため、調査区全体に 1.0m のグリッドを設定し、そのグリッド単位で石器類を検出した後に、光波測量機を用いてその出土地点の記録を行なった。また、当時の環境や年代を測るため、花粉分析・火山灰分析・C14 分析等を視野に入れ土壌を採集し、その一部を分析委託で外注した。詳細な点は第Ⅶ章の報告を参照していただくことにして、大まかではあるがその結果を先に報告しておく。

火山灰分析では石器集中ブロックの出土層位より下位の堆積層から、少量ではあるが「始良テフラ(AT)」(約 2.6～2.9 万年前)や「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」(約 7,300 年前)を確認することができた。いずれも純粹層ではなく堆積層中にダスト状に確認できるため、二次堆積によるものと考えられる。確認した 2 種類の火山灰のうち始良テフラは時期的な点で対象から外れるが、喜界アカホヤテフラは検出した石器集中ブロックの、少なくとも上限を推定する上で貴重な資料の一つになる。なお、この石器集中ブロックの下限を推測する資料としては、調査区南端部の石器包含層の上面で検出した柱穴 SP401 出土の弥生時代前期前葉の弥生土器 941 があり、この土器が下限期を示す資料になる。

整理事業に際しては、可能な限り石器類の特徴を掴むため、石材の細分、計測値による統計処理に耐えようよう属性分析に努めた。出土したサヌカイトは肉眼でみる限り、風化等の違いにより数種類に細分できる。数種類に分けられるサヌカイトは、微妙な材質の違いや原産地の違いが現れているものと考えられる。そのため、以下の基準で分類することにした(註1)。

白 A：器表面の風化が著しく白色化しているサヌカイト

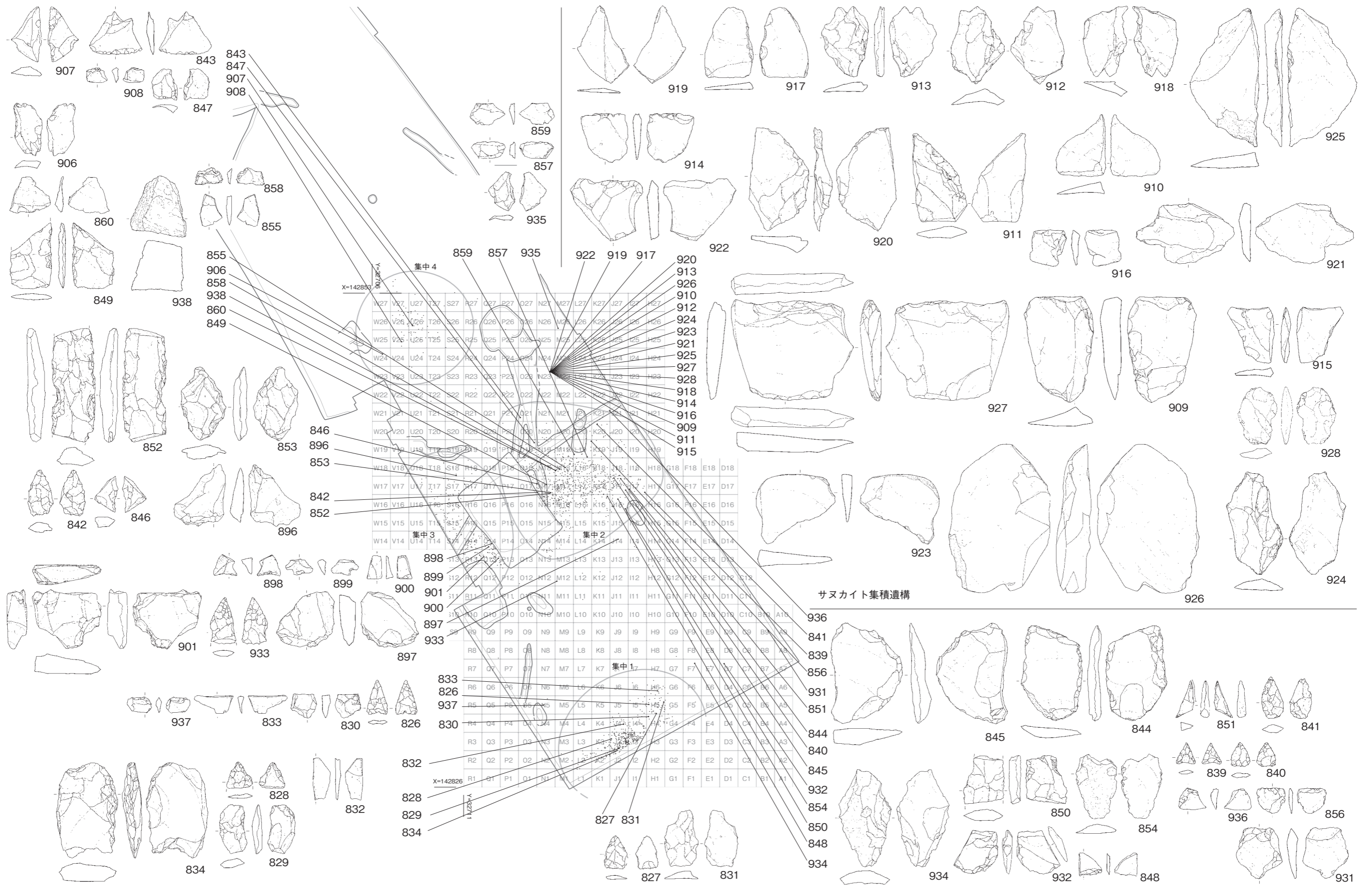
白 B：器表面の風化が著しく白色化し、器表面に小さな気泡状の凹が顕著に認められるサヌカイト

普通：一般的で通常の材質

良質：通常のサヌカイトに比べ材質が緻密で、通常よりガラス質に近いサヌカイト

サヌカイトの原産地同定については、先の分類をもとに産地同定の分析を行なった。詳細な点は第Ⅶ章第 2 節を参照して頂くことにして、大まかではあるがその結果を先に報告しておく。

分析点数が少なく客観性に欠ける点もあるが、「白 A・白 B」に分類したサヌカイトの原産地としては、金山東南・金山南等金山産の可能性が考えられる。「普通」に分類したサヌカイトは 1 点金山産のデータ



第124図 集中1～4・サヌカイト集積遺構、遺物分布図

はあるが、国分寺・連光寺産の可能性が高い。「良質」に分類したサヌカイトは、城山・金山西・金山南等の県内原産地を示すデータと、広島県の冠地域の飯山・針山地区を示すデータがある。サヌカイトの原産地が近いこの遺跡から出土したサヌカイト中に、中国山地からサヌカイトが運ばれることは考え難い点もあるが、当時のサヌカイトの交易範囲の広さを考えた場合、否定できない結果と考えられる。冠地域の搬入石材については、比較資料が少なく今後の資料増加に期待したい。

サヌカイト製の碎片・剥片の分類については、石材・長幅・重量・打面の状況等の項目で一点毎に観察を行なった。また、ブロック出土の石器類については、比較的原位置を保っている事が想定されたため、製作技術の復元を図ることを目的として接合関係の検討を行なった。その結果、集中1で2点、集中2で14点、集中3で2点の接合関係を掴むことができた。

石器の器種分類については慎重に進めたが、明瞭な器種分類が難しい石器類があり、石器の未製品や石器の調整剥片は「二次加工ある剥片」に含めていることを断っておく。なお、検出したブロック1～4の呼称については、呼称の簡略化を前提にして、本文中では集中1～集中4と呼称する。

集中1 (第124～126・132図)

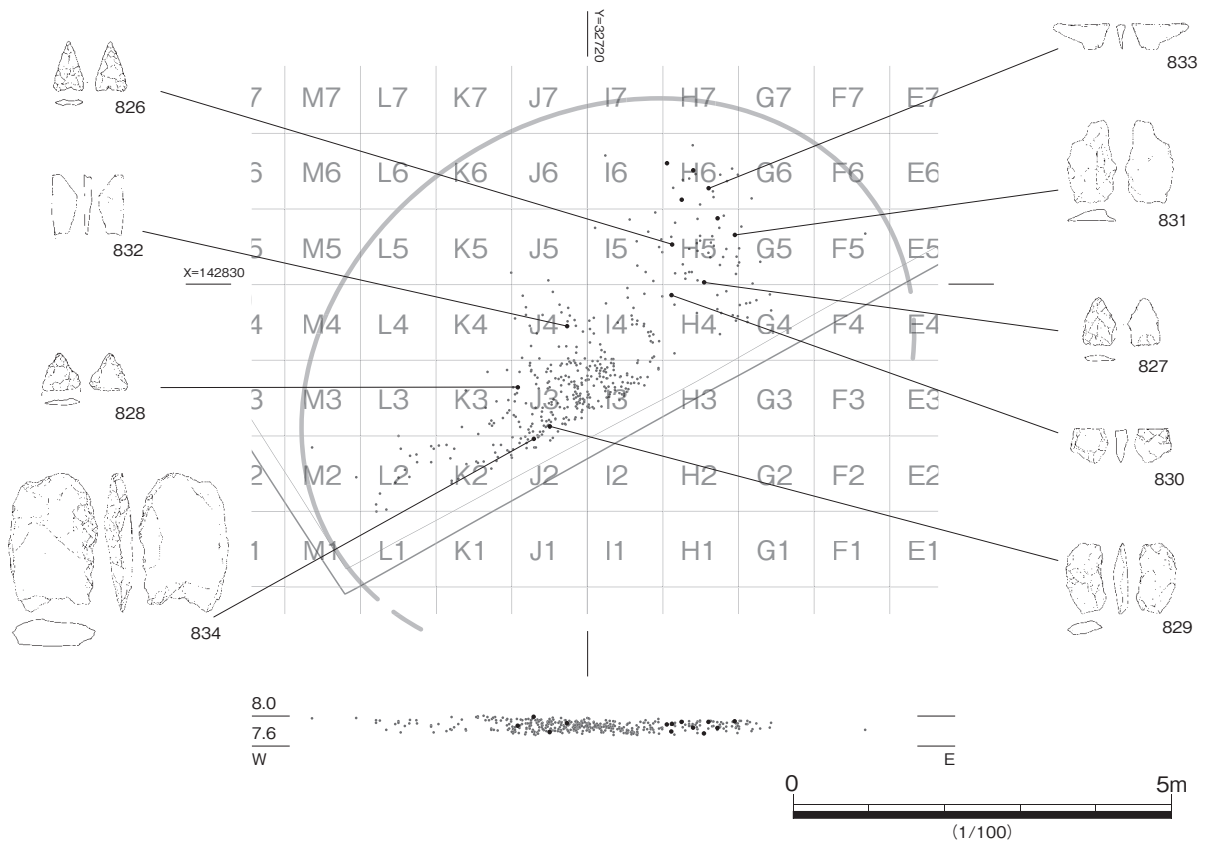
Ⅳ区南端で検出したブロックである。南壁際で検出したため南半部は調査区から外れ、北半部を検出した。出土状況としては半径4.0～6.0mの範囲で北に向かって半円状を呈する。遺物集中の密度としては、概ねJ3・I3辺りの集中と、H5辺りの集中とに分かれるが、特にJ3・I3辺りの密度は高い。集中1からはサヌカイト431点、安山岩8点の石器類を検出した。

石器類の組成としては第6表に記載した様に、石鏃3・二次加工ある剥片11・石核1・原石素材1・剥片285・碎片138等の遺物があげられる。また、2点の接合資料を確認した。集中1から出土した石器類の材質については白A・Bが20%、普通が74%、良質が5%を占める。集中1の特徴としては普通の比率が高い点があげられる。

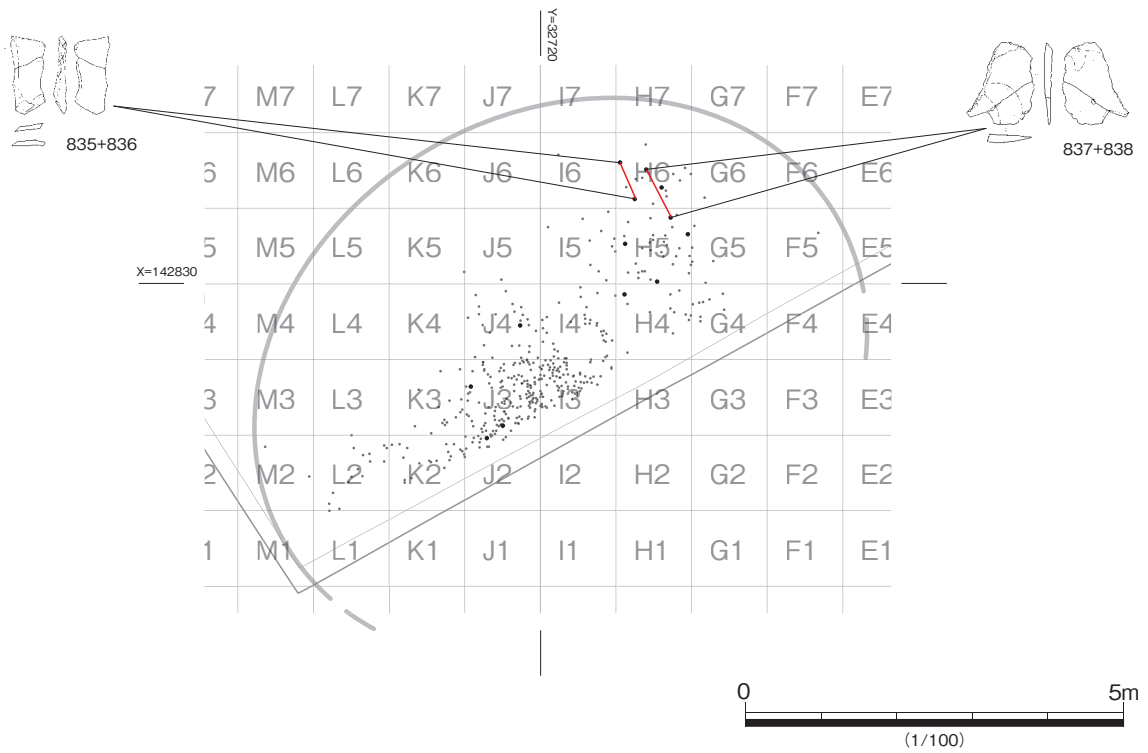
826～838は集中1から出土した石器・剥片類である。826～828は石鏃である。いずれも小型の石鏃で、長さ2.2～2.8cmを測る。827・828は素材面にあたる、ポジティブな剥離面を大きく残している。829・830は二次加工ある剥片である。いずれも端部を欠いており、石器製作時の欠損品と考えられる。831～833は不整形な横長状の剥片である。831は背面に多方向からの剥離痕が顕著に認められ、腹面は1面の剥離面からなり、打面は点状打面である。834は石核に分類した。肉厚な厚さ1.8cm程の比較的大型の横長剥片を素材に用い、側縁部からラフな交互剥離を行なっている。

835～838は接合資料である。いずれも、近位置から出土している。835+836は小さな横長剥片の打点辺りで折れたものが接合した資料である。背面にはネガティブな剥離痕を残し、腹面はポジティブな剥離面、打面は調整打面を呈している。形状から推定して剥離のミスにより折れた資料と考えられる。837+838は不整形な縦長状の剥片の、打点辺りの上半部と先端部が接合した資料である。背面はネガティブな剥離痕、腹面はポジティブな剥離面、打点辺りには明瞭なバルバスカーが認められ、側縁には僅かに礫面を残している。

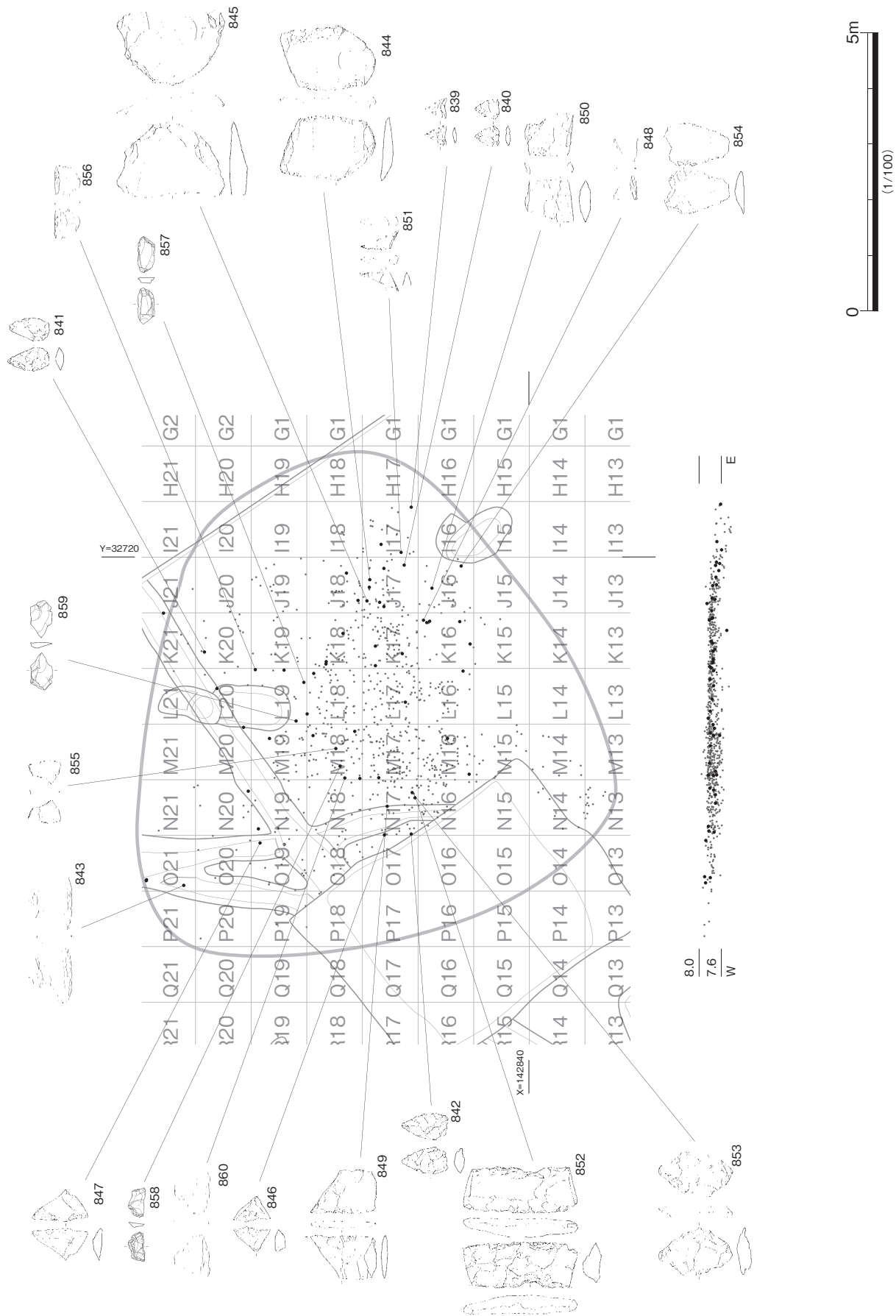
2点の接合資料はいずれも近位置から出土していることから、このブロックの一括性を証明する資料ともいえる。



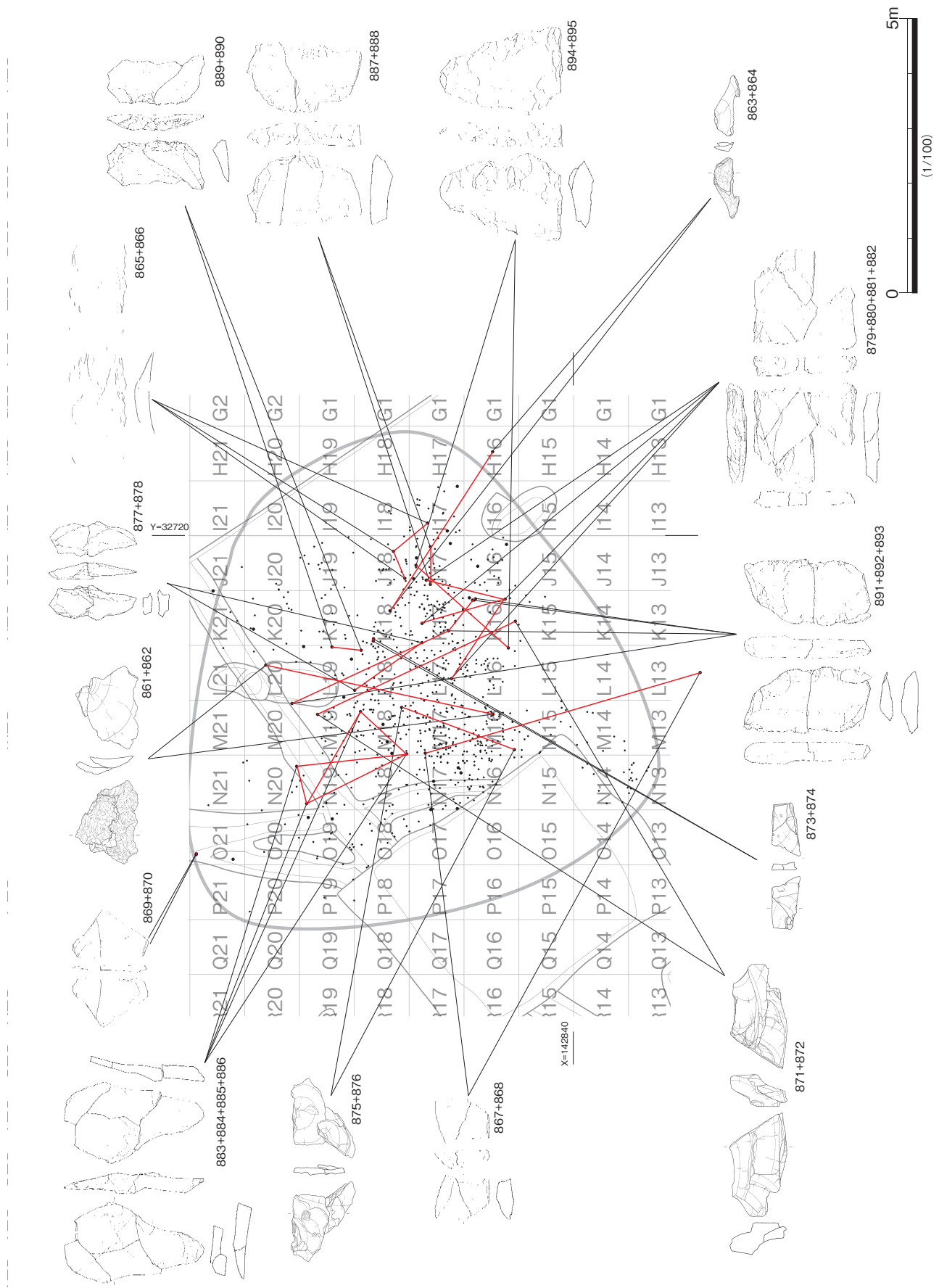
第 125 図 集中 1 出土遺物分布図



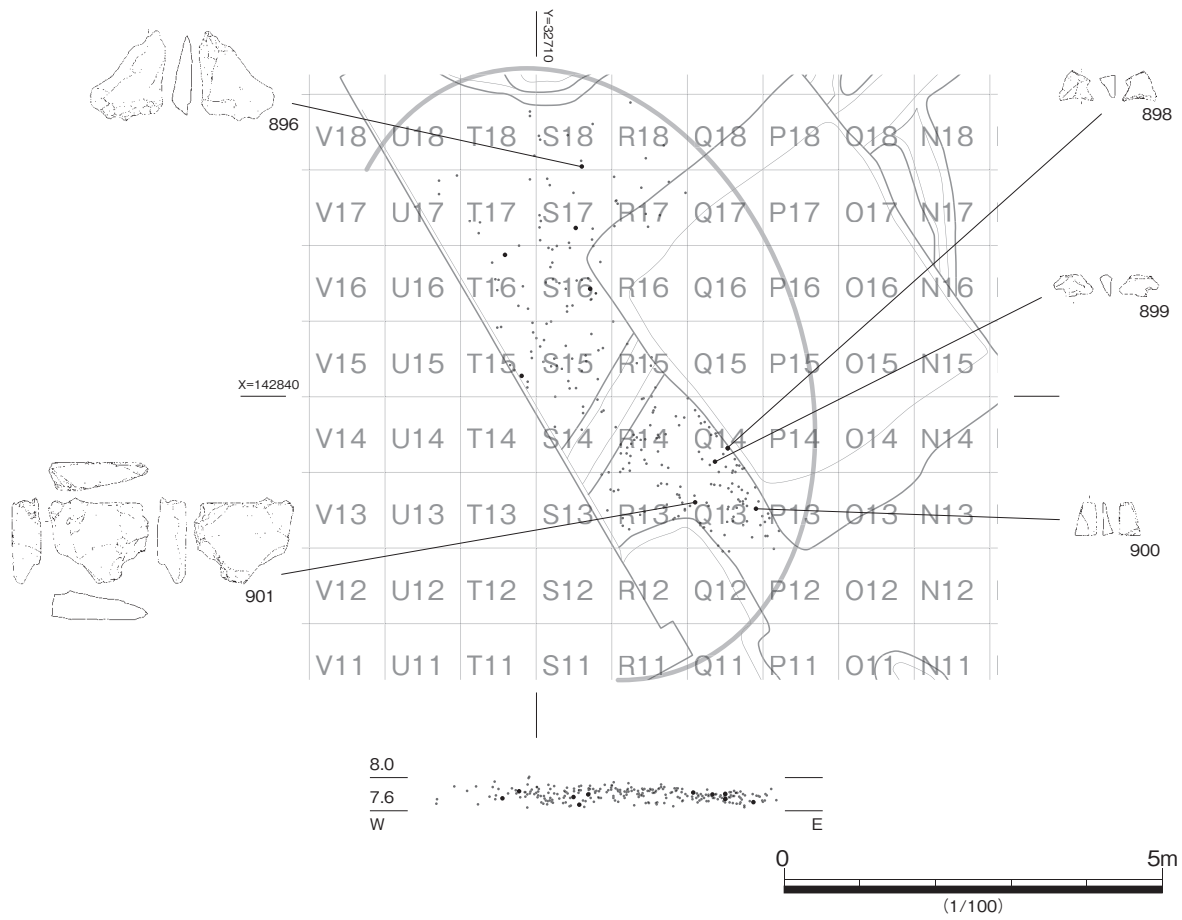
第 126 図 集中 1 接合関係分布図



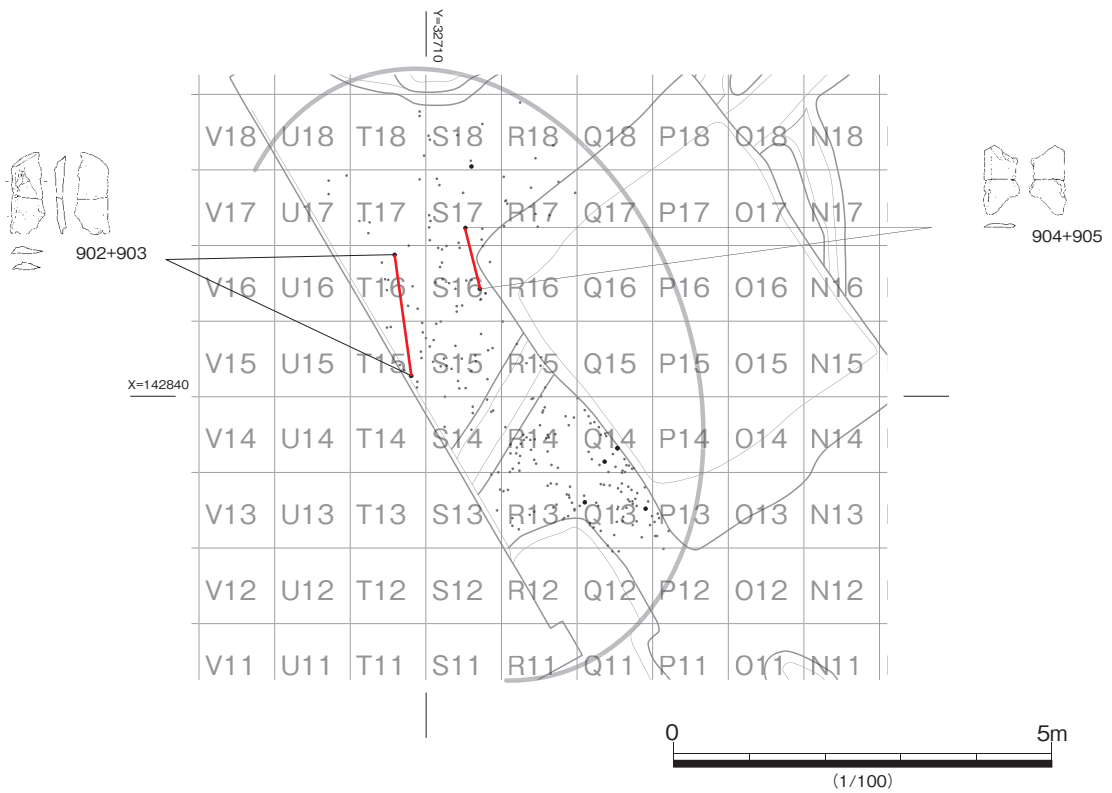
第 127 図 集中 2 出土遺物分布図



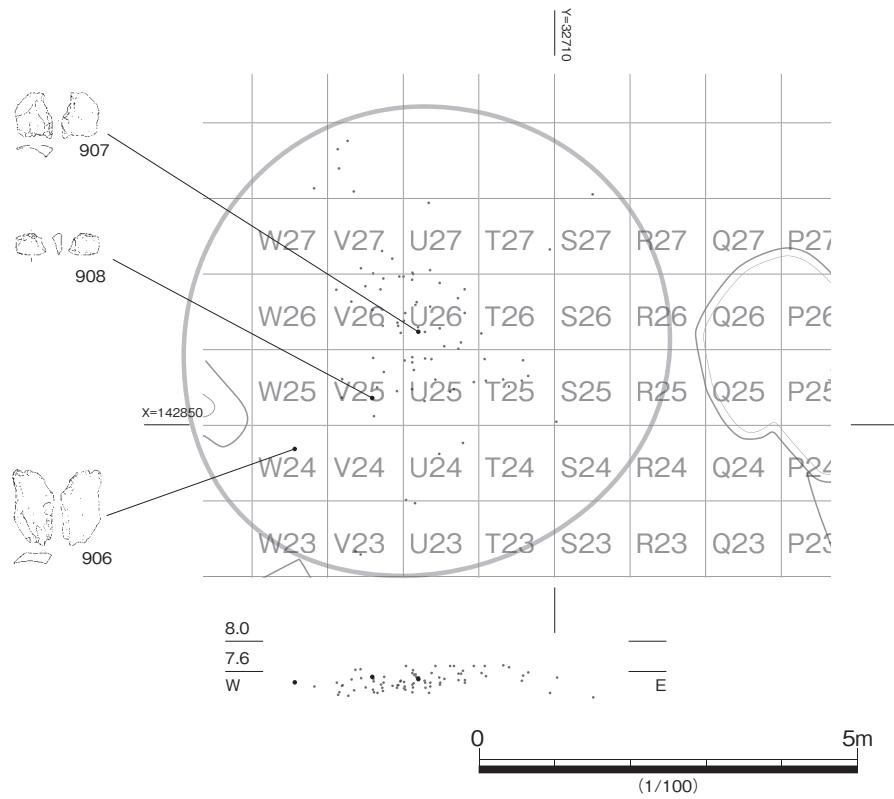
第128図 集中2接合関係分布図



第 129 図 集中 3 出土遺物分布図



第 130 図 集中 3 接合関係分布図



第131図 集中4出土遺物分布図

分析 番号	報告 番号	石器 番号	調査区	報告遺 構名	グリ ット	標高	器種	サヌカイト材質				打面				法量				残存率			産地	備考	
								白A	白B	普	良	平坦	調整	点	礫	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	完存	一部 欠	半存			
1	937	S203	IV区	集中地区 周辺	N5	7.917	剥片			1		1					17.00	26.00	6.00	2.65		1		金山東南	縞状の石 理が明瞭
2	833	S236	IV区	集中1	H6	7.926	剥片	1									42.00	19.00	6.00	3.63			1	金山1.2地点	打面欠
3	832	S321	IV区	集中1	J4	7.904	剥片				1						44.00	18.00	5.00	4.78			1	城山、金山西、 金山南露頭	打面欠
4	898	S700	IV区	集中3	Q14	7.761	二次 加工 ある 剥片				1						23.00	26.00	10.00	4.26			1	飯山	打面欠
5	899	S707	IV区	集中3	Q14	7.819	剥片	1				1					17.00	29.00	8.00	2.31	1			金山東南	
6	900	S753	IV区	集中3	Q13	7.714	剥片				1						25.00	16.00	7.00	2.76			1	城山	打面欠
7	856	S806	IV区	集中2	L19	7.821	剥片		1			1					27.00	31.00	6.00	4.51	1			金山東南、 金山南	表面の気 泡上の 穴明瞭
8	857	S809	IV区	集中2	L19	7.816	剥片	1									18.00	37.00	6.00	5.27			1	城山、金山西、 金山南露頭	打面欠
9	859	S810	IV区	集中2	L19	7.849	剥片			1			1				23.00	38.00	6.00	4.15	1			国分寺・蓮光寺	
10	858	S838	IV区	集中2	M18	7.824	剥片				1			1			18.00	30.00	7.00	2.74			1	飯山	
11	855	S1102	IV区	集中2	M18	7.814	剥片		1								35.00	24.00	6.00	4.53			1	金山系?	打面欠
12	908	S1215	IV区	集中4	V25	7.533	剥片			1		1					16.00	23.00	6.00	1.67	1			城山	
13	936	S1340	IV区	集中地区 周辺	K21	7.788	剥片						1				24.00	29.00	16.00	3.58			1	国分寺・蓮光寺	
								3	2	4	4	3	2	2					4	1	8				

白A : 風化が著しく白色化
 白B : 風化が著しく白色化、表面に小さな気泡状の凹が顕著に認められる
 普 : 一般的で通常の材質
 良 : 緻密で、普よりガラス質に近い

第5表 サヌカイト産地同定分析結果一覧

集中 1

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	1	0	0	3	1	0	44	0	49
白 B	0	0	0	1	0	0	10	0	11
普通	2	0	0	4	0	0	211	0	217
良	0	0	0	3	0	0	13	0	16
細分不可	0	0	0	0	0	0	0	138	138
安山岩	0	0	0	0	0	1	7	0	8
合計	3	0	0	11	1	1	285	138	439

集中 2

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	3	1	1	8	1	0	156	4	174
白 B	0	0	0	0	1	0	39	0	40
普通	0	0	0	8	0	0	263	5	276
良	1	2	0	5	2	0	105	2	117
細分不可	0	0	0	0	0	0	1	176	177
安山岩	0	0	0	0	0	0	4	0	4
合計	4	3	1	21	4	0	568	187	788

集中 3

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	0	0	0	1	0	0	57	0	58
白 B	0	0	0	0	0	0	11	0	11
普通	0	0	0	0	0	0	36	0	36
良	0	0	0	2	1	0	81	0	84
細分不可	0	0	0	0	0	0	0	66	66
安山岩	0	0	0	0	0	0	2	0	2
合計	0	0	0	3	1	0	187	66	257

集中 4

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	0	0	0	0	0	0	3	0	3
白 B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
普通	0	0	0	0	0	0	36	0	36
良	0	0	0	0	0	0	10	0	10
細分不可	0	0	0	0	0	0	0	28	28
安山岩	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	0	0	0	0	0	0	50	28	78

サヌカイト集積遺構

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	0	0	0	1	0	0	6	0	7
白 B	0	0	0	0	1	0	0	0	1
普通	0	0	0	0	1	0	13	0	14
良	0	0	0	0	0	0	1	0	1
細分不可	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	2	0	20	0	23

集中地区周辺

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
白 A	0	0	0	0	0	1	9	0	10
白 B	0	0	0	1	0	0	1	0	2
普通	0	0	0	2	0	1	13	1	17
良	0	0	0	2	0	0	6	0	8
細分不可	0	0	0	0	0	0	0	22	22
安山岩	0	0	0	0	0	1	3	0	4
合計	0	0	0	5	0	3	32	23	63

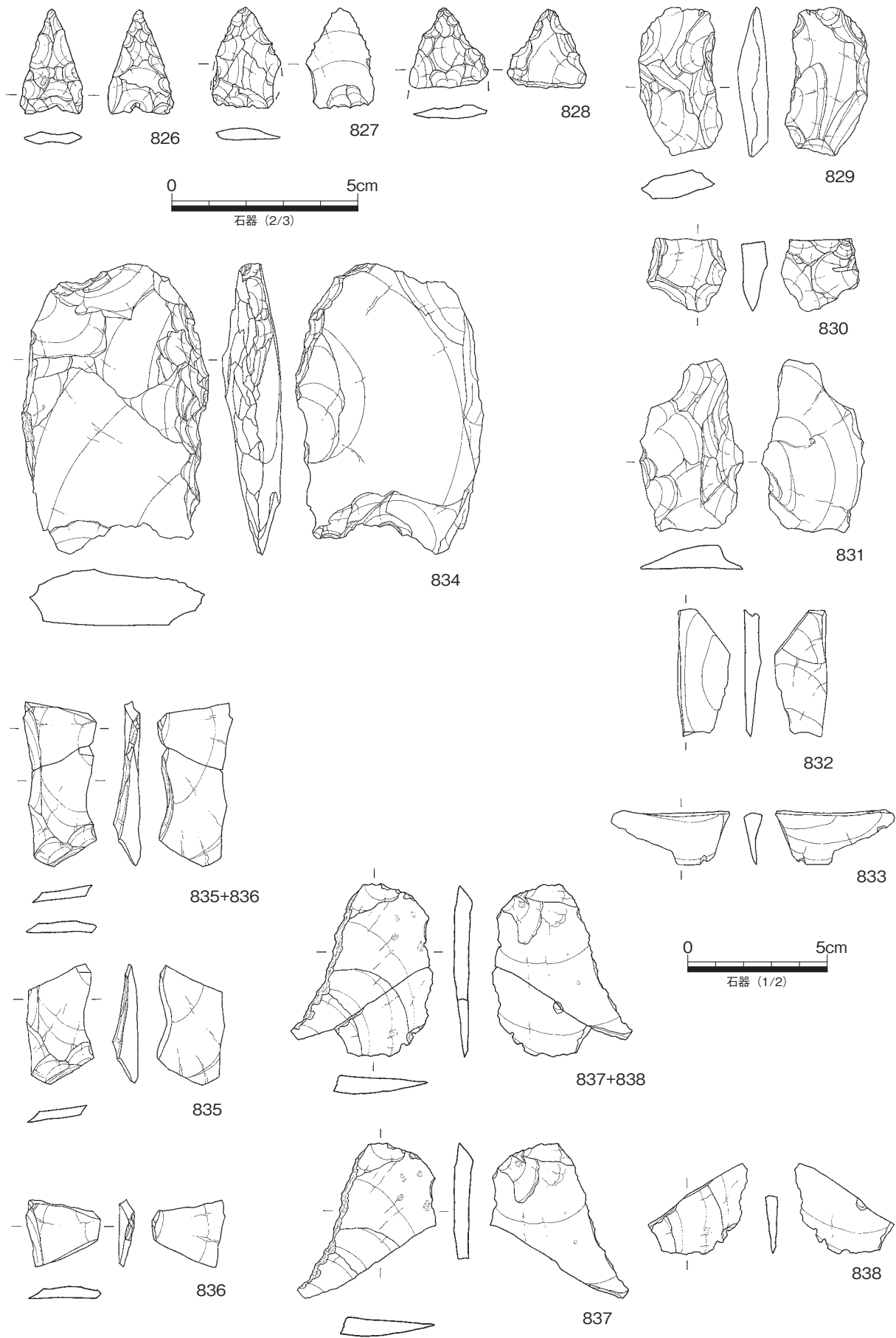
遺構別石器集計

	石鏃	削器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	原石素材	剥片	碎片	合計
集中 1	3	0	0	11	1	1	285	138	439
集中 2	4	3	1	21	4	0	568	187	788
集中 3	0	0	0	3	1	0	187	66	257
集中 4	0	0	0	0	0	0	50	28	78
サヌカイト集積遺構	0	0	0	1	2	0	20	0	23
集中地区周辺	0	0	0	5	0	3	32	23	63
合計	7	3	1	40	8	4	1142	442	1648

遺構別・石材別重量集計 (g)

	白 A	白 B	普通	良	安山岩他	細分不可	合計
集中 1	319.75	27.08	300.43	93.92	146.37	28.85	916.40
集中 2	991.15	254.32	952.40	680.13	5.15	86.99	2970.14
集中 3	176.65	61.20	49.19	246.00	116.65	21.58	671.27
集中 4	1.75	0.00	35.48	20.52	0.57	4.88	63.20
サヌカイト集積遺構	1083.14	378.34	767.14	63.08	0.00	0.00	2291.70
集中地区周辺	80.54	12.96	430.29	100.28	158.76	11.59	794.42
合計	2652.98	733.90	2534.93	1203.93	427.50	153.89	7707.13

第 6 表 遺構・器種・石材別一覧



第 132 図 集中 1 出土遺物

集中2(第124・127・128・133～142図)

IV区南半部の集中1から北へ約10m離れた地点で検出したブロックである。分布範囲としては1辺9.0～10.0m程の隅丸三角形を呈する。集中の密度としては、中心部分のM16・17・18、L17・18、K17辺りが高い。なお、集中2は、4ブロック中最も範囲及び遺物密度も高いブロックで、サヌカイト784点、安山岩4点の石器類を検出した。

石器類の組成としては第6表に記載した様に、石鏃4・削器3・楔形石器の削片1・二次加工ある剥片21・石核4・剥片568・碎片187等の遺物があげられる。また、14点の接合資料を確認した。集中2の出土した石器類の材質については白A・Bが35%、普通が45%、良質が20%を占める。

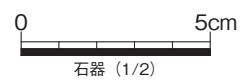
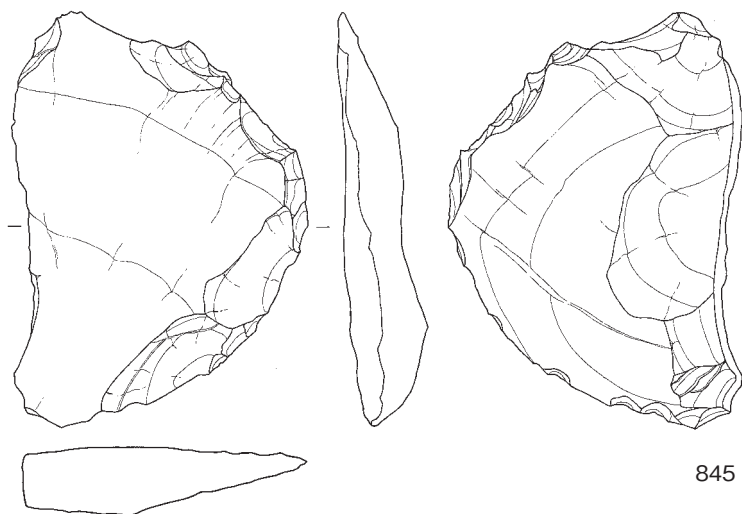
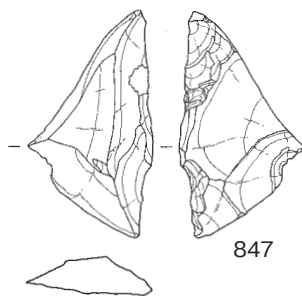
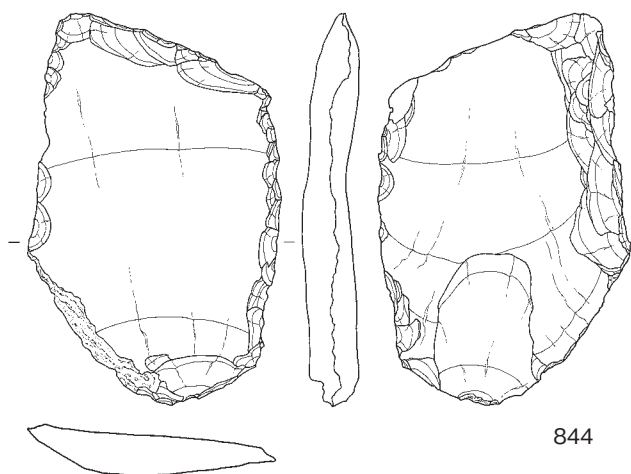
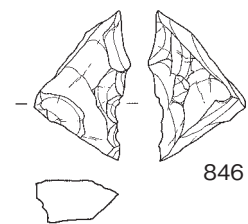
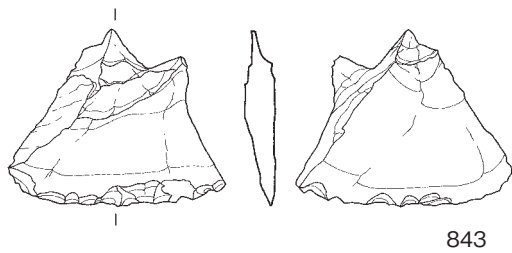
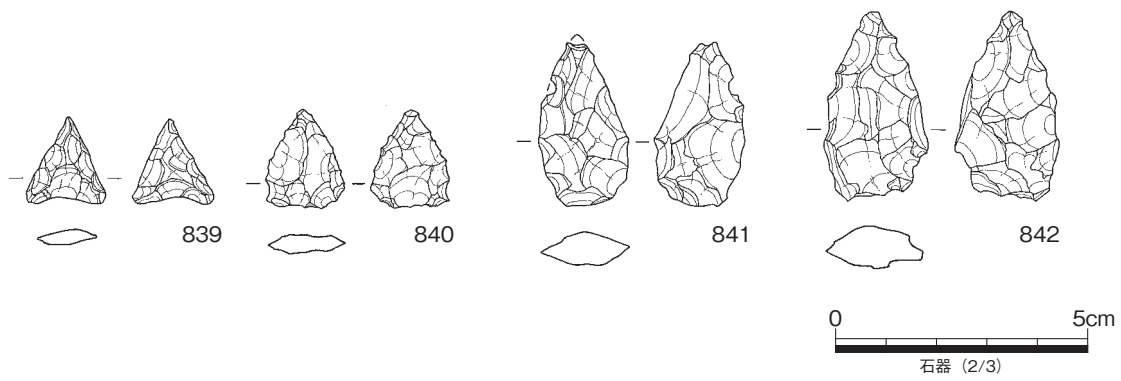
839～842は石鏃で、大きさに大小二つに分れる。839・840の石鏃は、長さ1.7～2.0cmを測り、841・842の石鏃は、長さ3.3～3.7cmを測る。843・844は小型の削器である。844は幅広な大型の剥片を素材にして、両側縁と先端部の3辺に刃部を設けている。843は剥片のエッジに刃部を設けている。845～851は二次加工ある剥片である。845は大型の剥片を素材としている。側縁は外湾状に僅かに突出し、その側縁に調整を加えている剥片で、何らかの未製品ないし石核であろう。846・847の端部は折面からなり、背面・腹面伴に器面調整が及んでおり側縁にエッジが認められる。両面加工状の石器を製作する途上で発生した剥片であろう。849・850は先端や基部を欠く資料で不明瞭な点があるため、二次加工ある剥片に分類したが、器面の調整痕や全体の形状から両面加工を施した石器の未製品の可能性が高い。849は断面レンズ状を呈し、器面には押圧剥離痕が認められる。851は裁断面が認められるため楔形石器の削片に分類したが、846・847同様に両面加工の石器を製作する途上で発生した剥片の可能性が高い。なお、楔形石器の資料は851の1点だけである。

854～860は剥片である。出土した剥片には、端部に折面を残す資料が多数ある。また、打面を残す剥片も高比率で認められる。854・860は背面に礫面を大きく残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが分かる。また、856には調整打面を明瞭に残している。

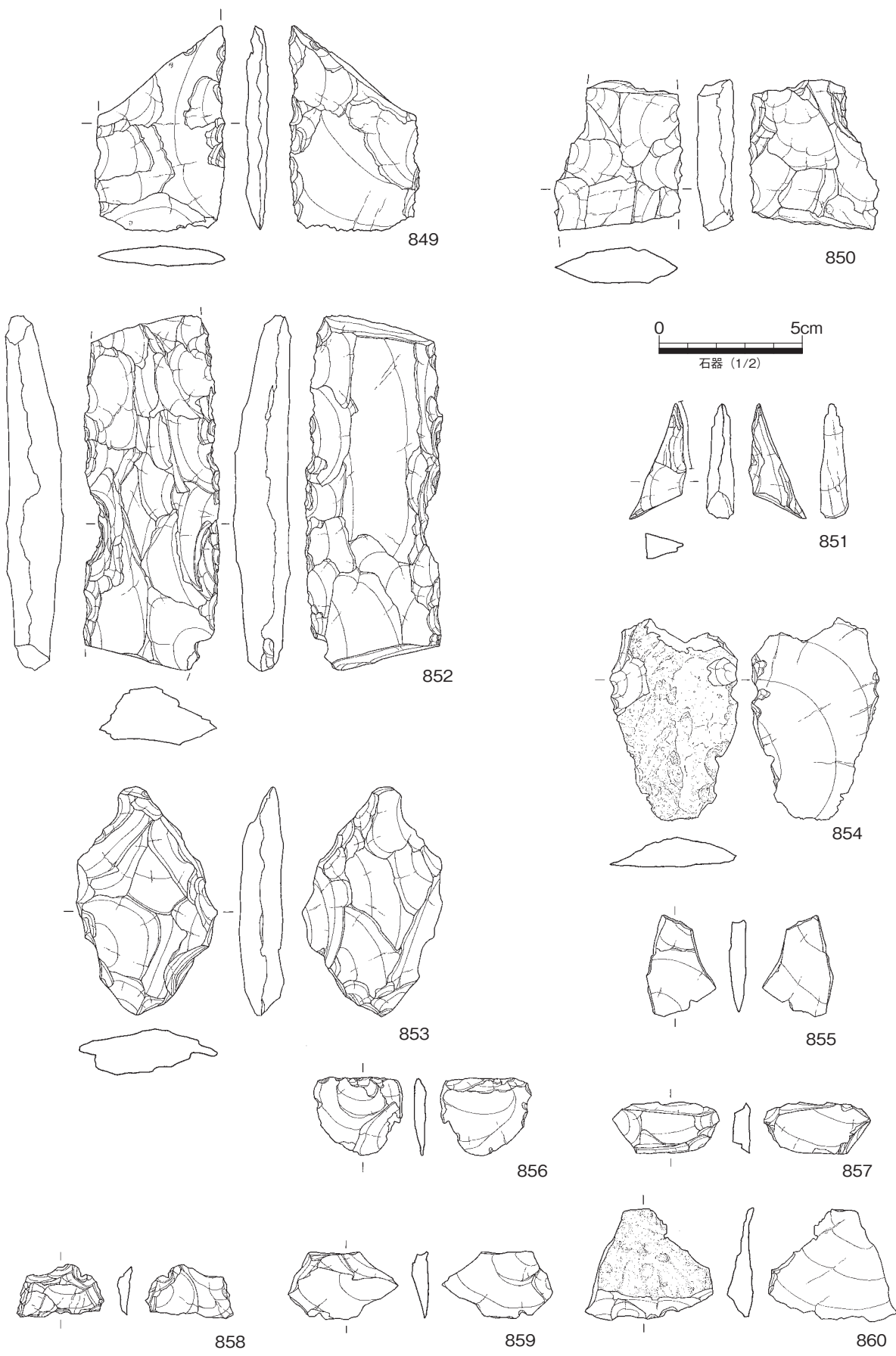
852・853は石核に分類した。852は先端部と基部を欠く槍先状の石器の未製品の可能性も考えたが、石核に分類した。852は大型の横長状の剥片を素材に用い、その長軸に平行して両側縁から交互剥離を加えている。腹面には長軸に直交する方向に、素材のポジティブな主要剥離面を残していることから、素材が大型の横長状の剥片であることが推定できる。853は小型の尖頭器状の石核で剥離痕が全面に及び、形状から残核の最終形態を示しているものと考えられる。

861～895は14点の接合資料である。861～886は剥片同士の接合資料で、861+862・863+864・865+866は2点の剥片の接合資料である。接合した剥片は、同一打面から連続して剥取っている2点の剥片で、横長状を呈し背面に礫面を残し、腹面はポジティブな剥離面である。形状から原石の表皮部分を剥取った剥片であることが推定される。867+868は小原石を分割した接合資料で、接合面は横折の分割面を呈している。869+870・871+872・873+874は板状の剥片を分割した接合資料で、接合面は横折の分割面を呈している。875+876・877+878・889+890は横長状の小剥片の接合資料である。875+876の打面は位置的にかなりズレがあり、875が剥取られた後に打面調整を更に進め、その後に876を剥取ったことが解る資料である。877+878はもとの剥片の打点近くで折れていることから、剥離のミスにより分割された可能性が高い。

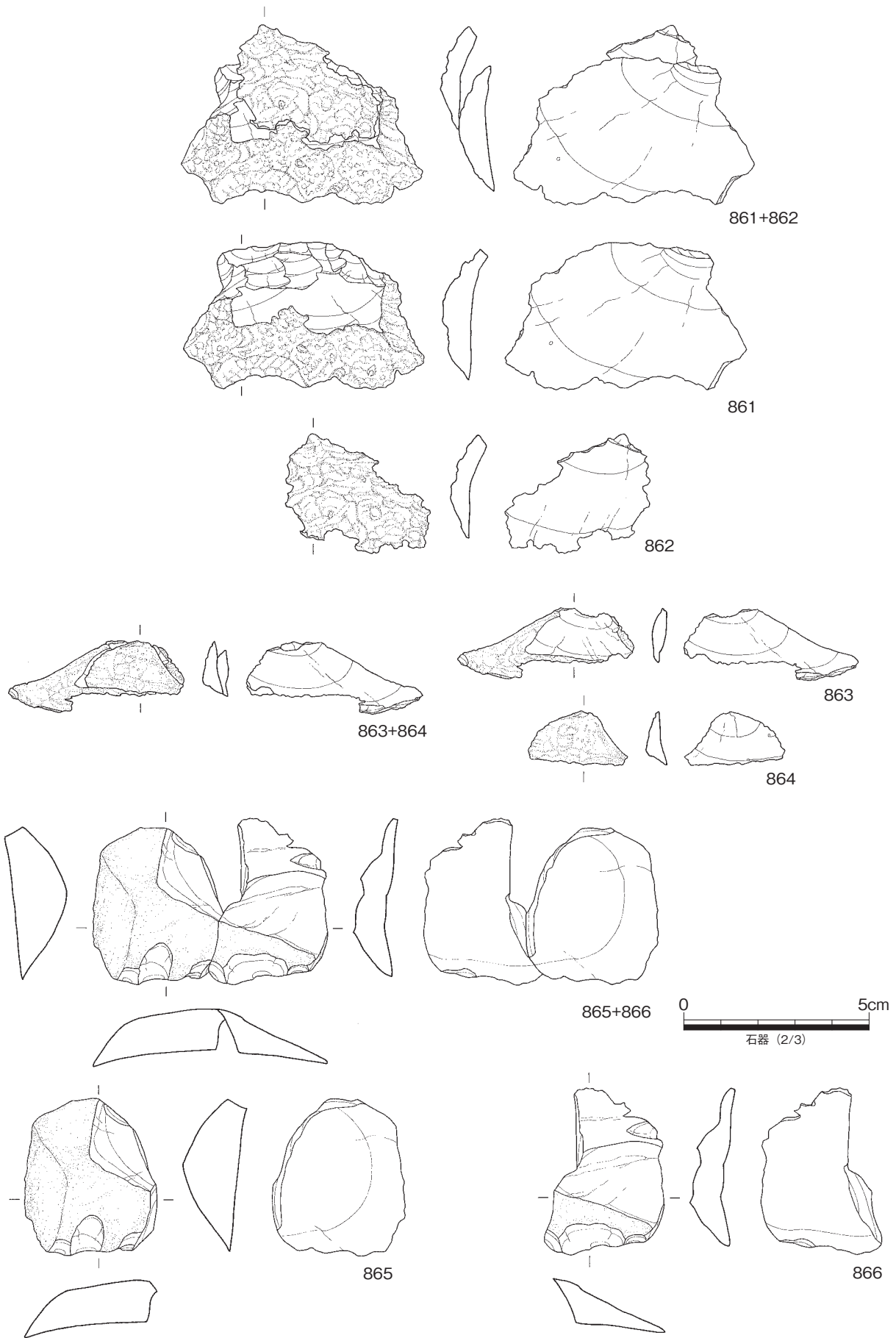
879+880+881+882は板状の剥片が4分割している接合資料である。素材剥片の側縁部には主要剥離面側からの調整により形状を整え、その素材剥片の分割面上を加撃することで4点の剥片に分割してい



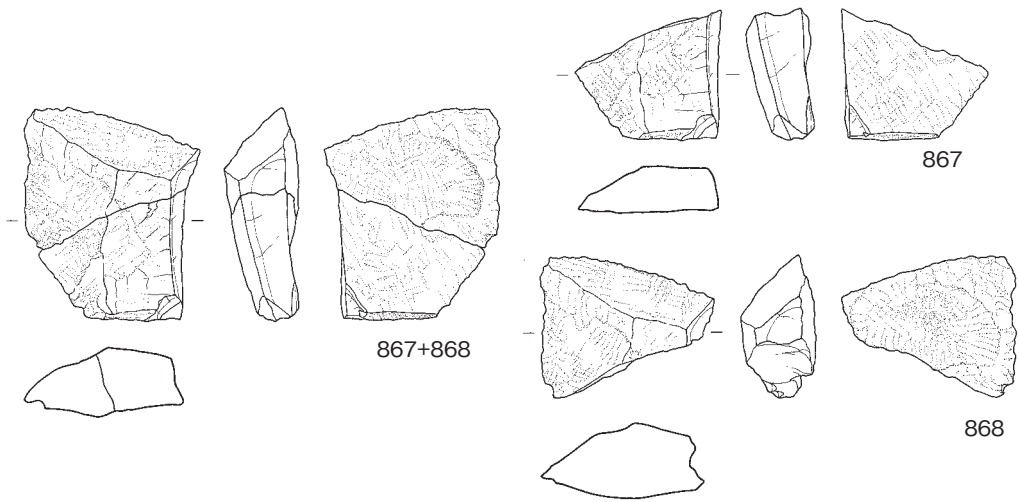
第 133 図 集中 2 出土遺物 (1)



第 134 図 集中 2 出土遺物 (2)



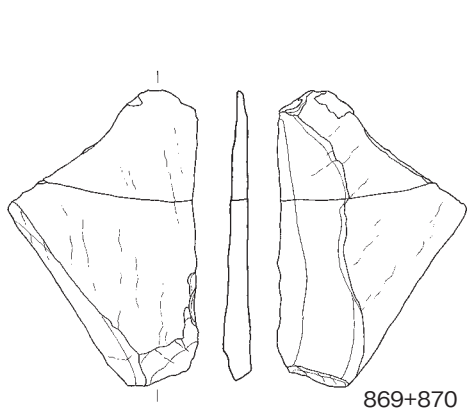
第 135 図 集中 2 出土遺物 (3)



867+868

867

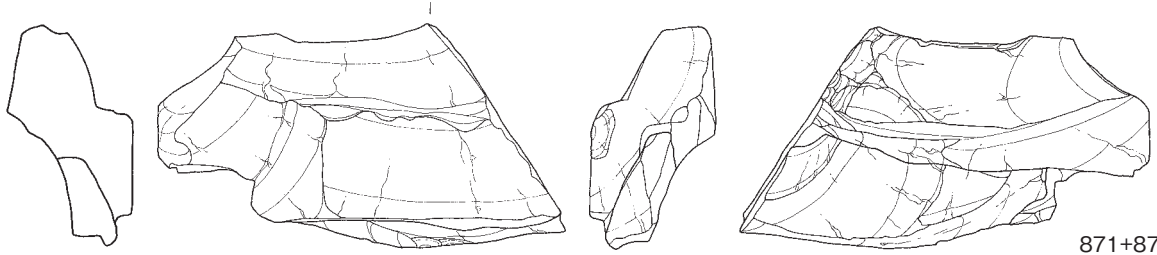
868



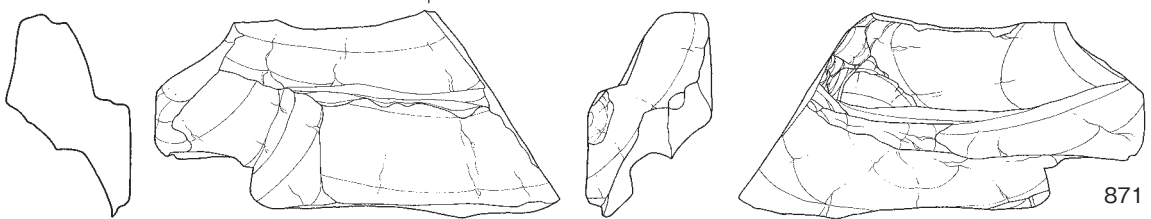
869+870

869

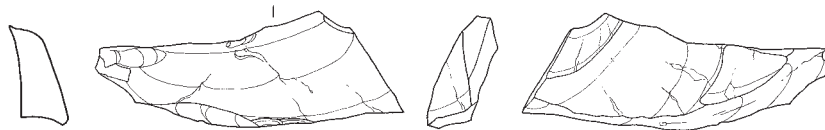
870



871+872

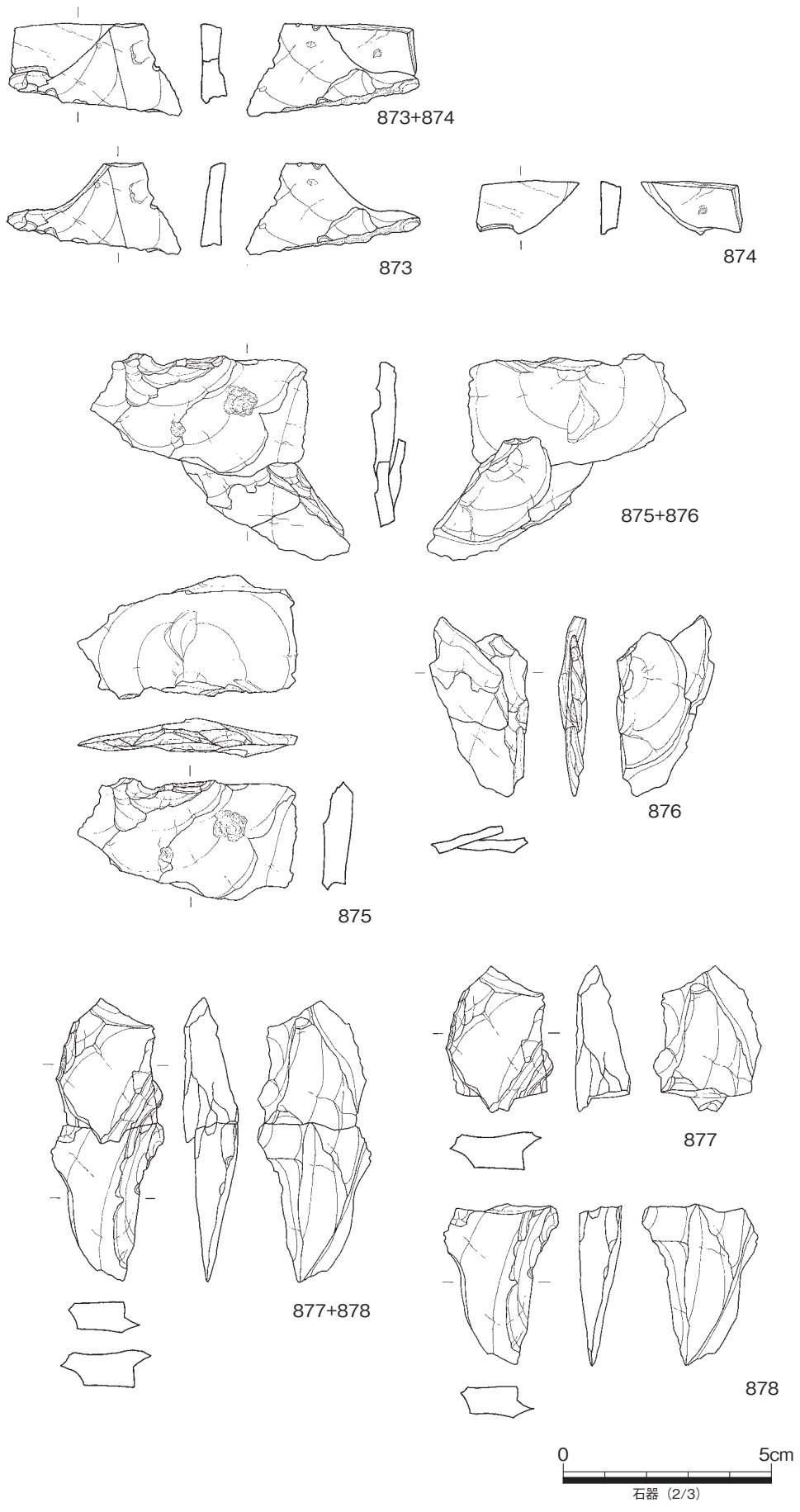


871

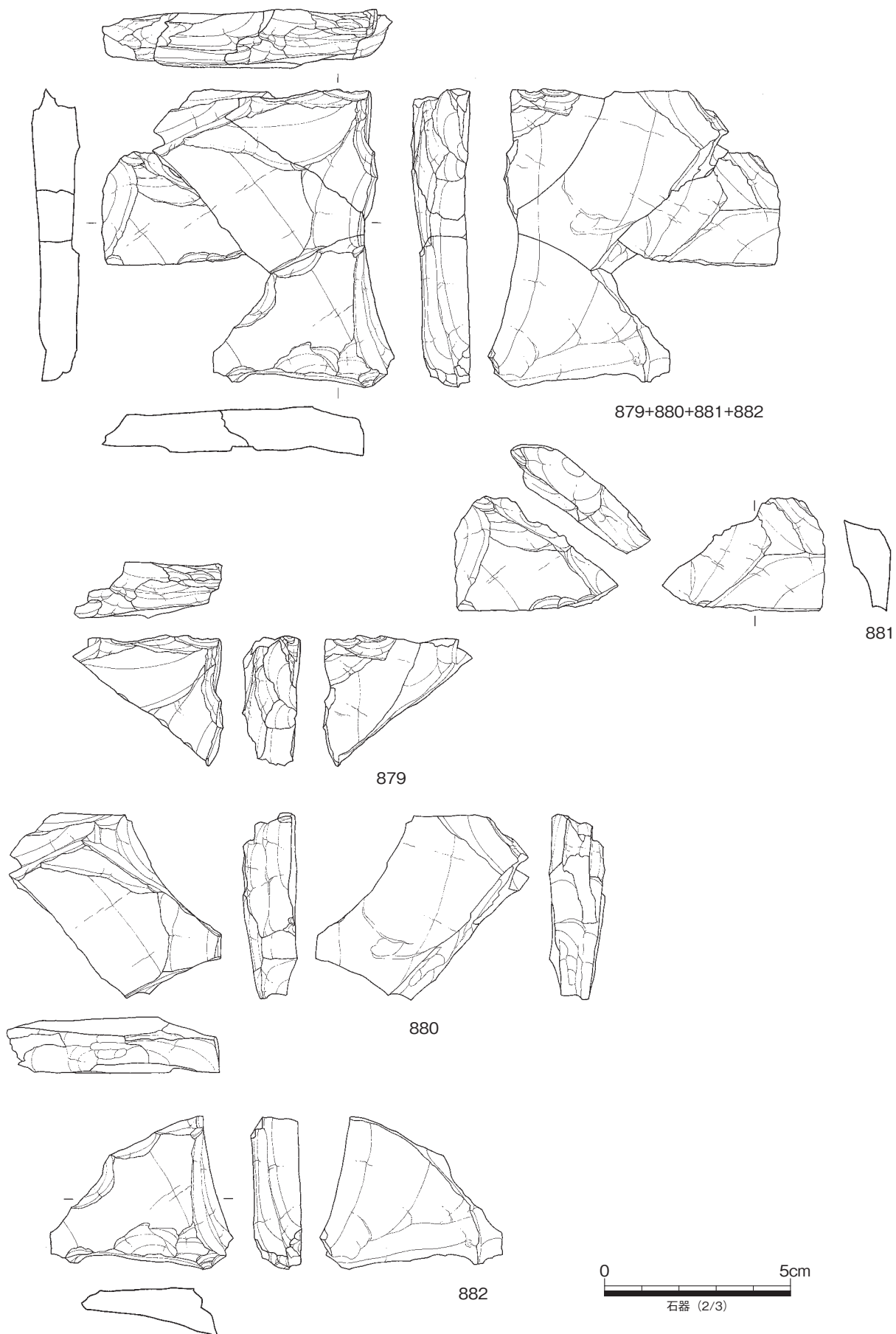


872

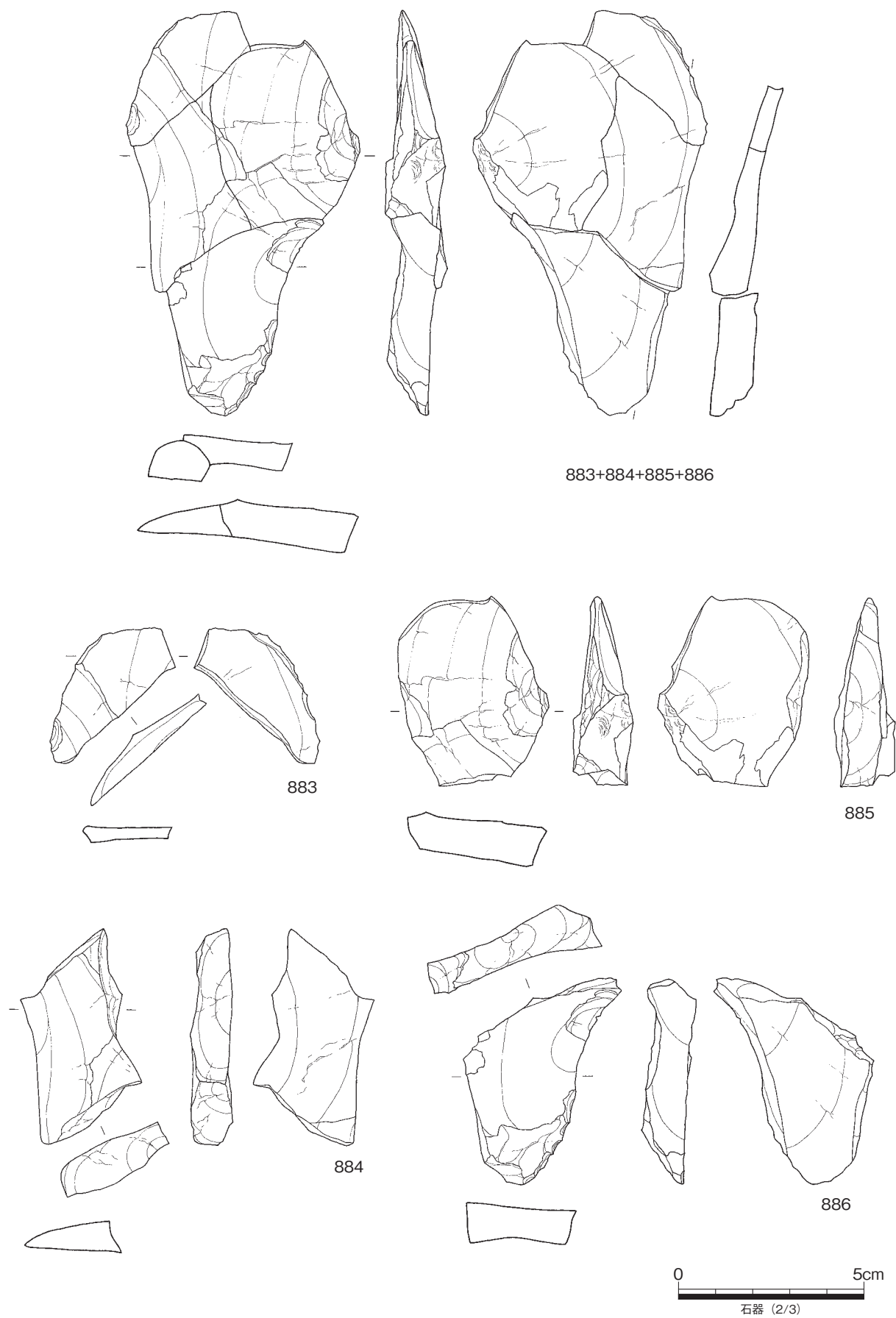
第 136 図 集中 2 出土遺物 (4)



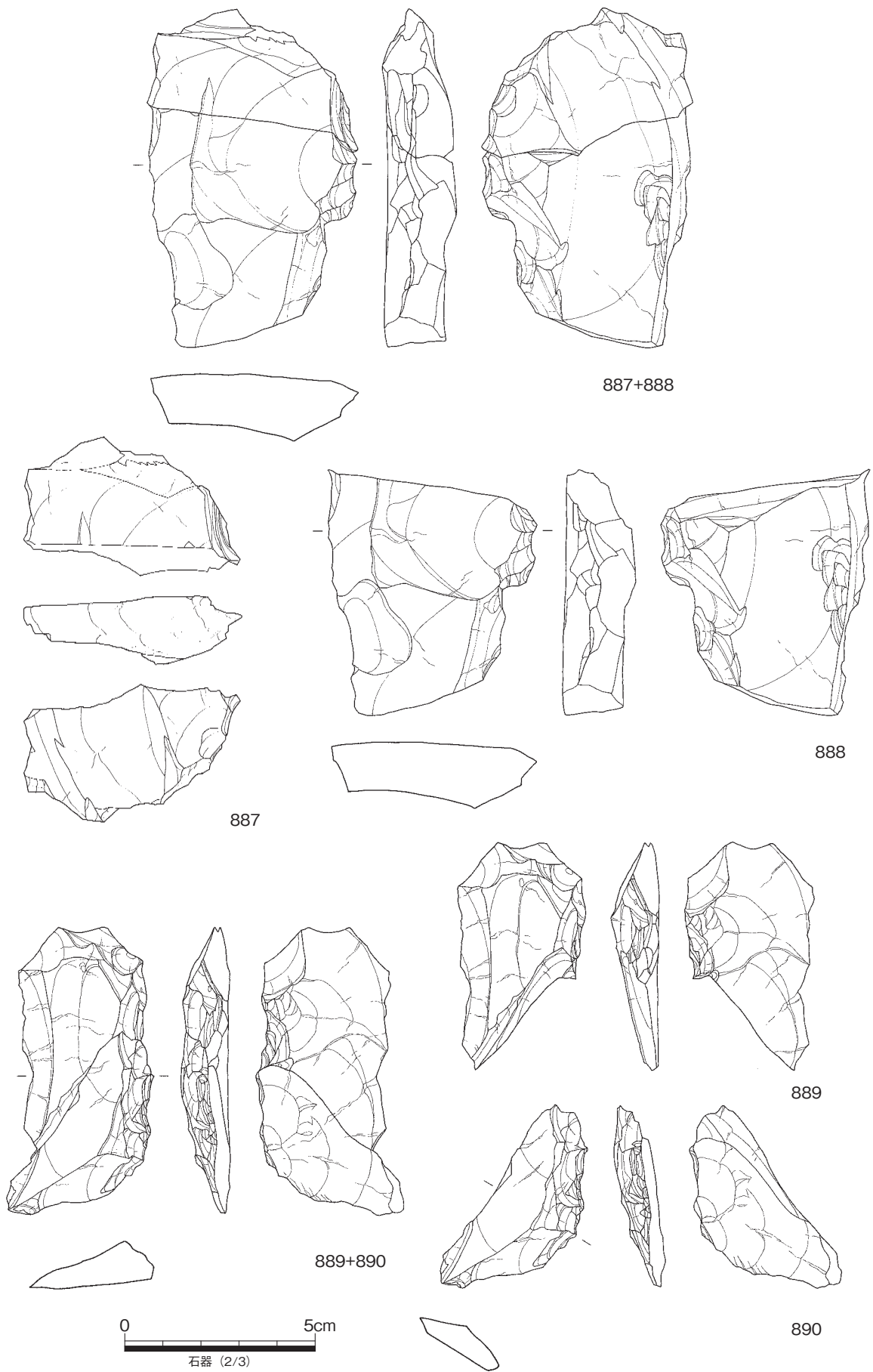
第 137 图 集中 2 出土遺物 (5)



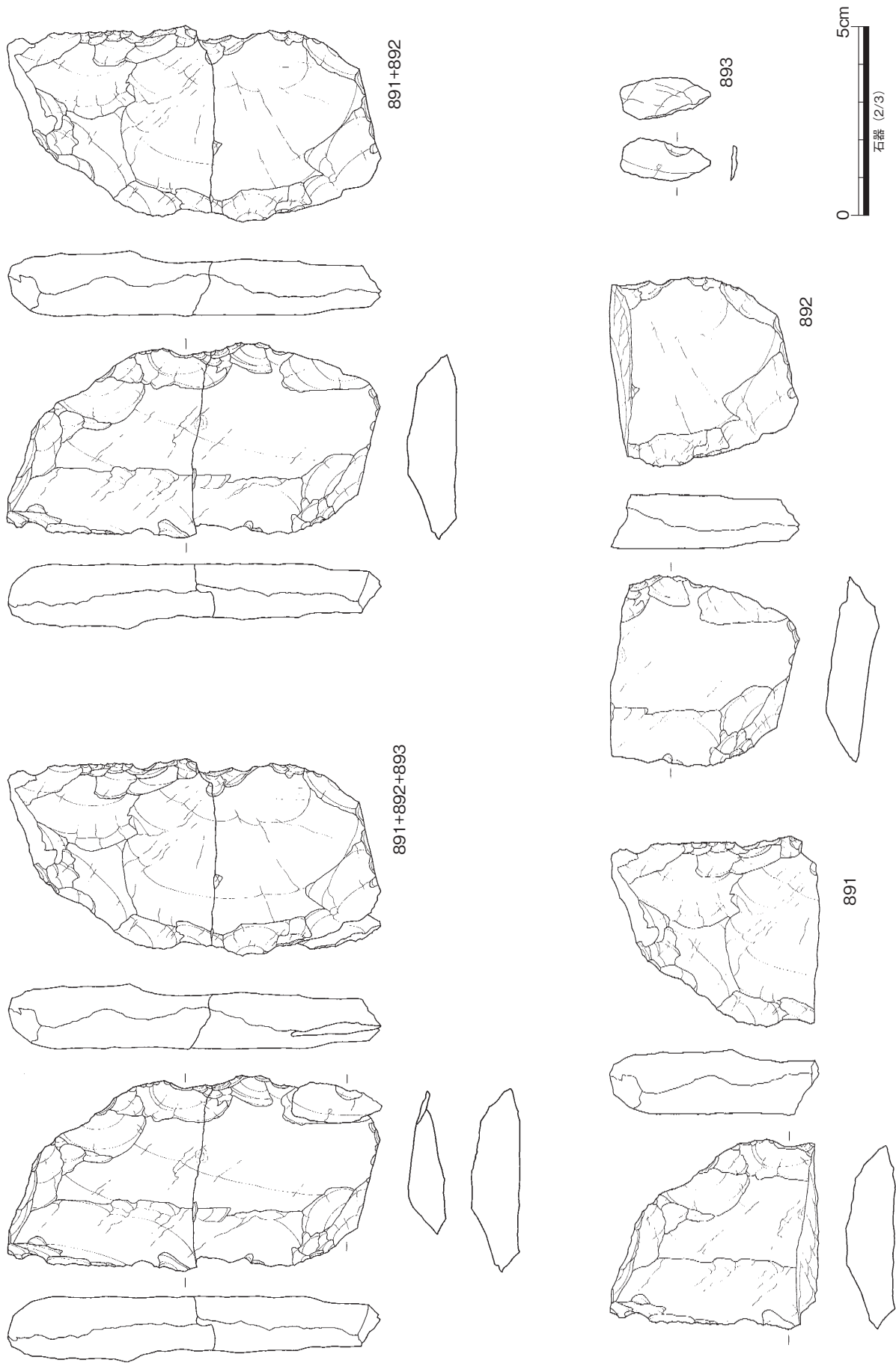
第 138 図 集中 2 出土遺物 (6)



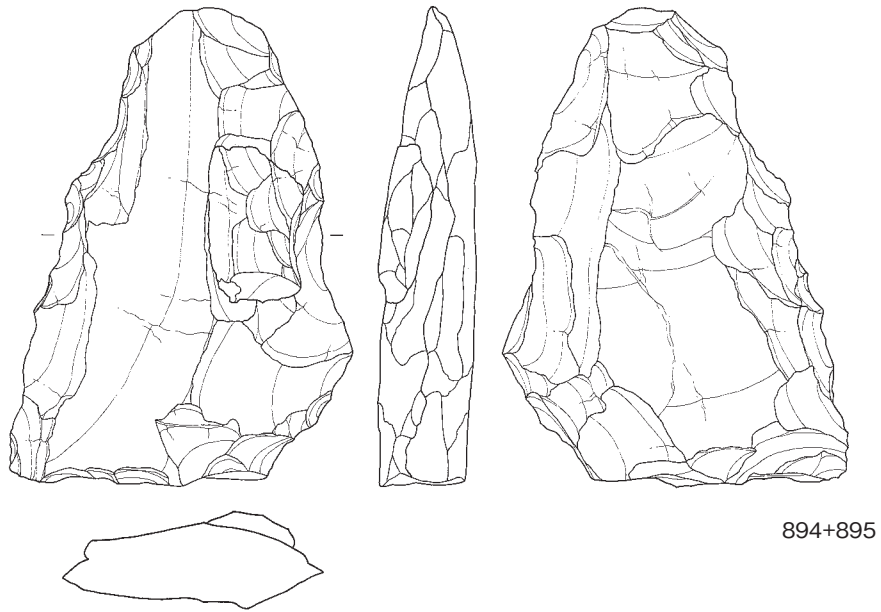
第 139 図 集中 2 出土遺物 (7)



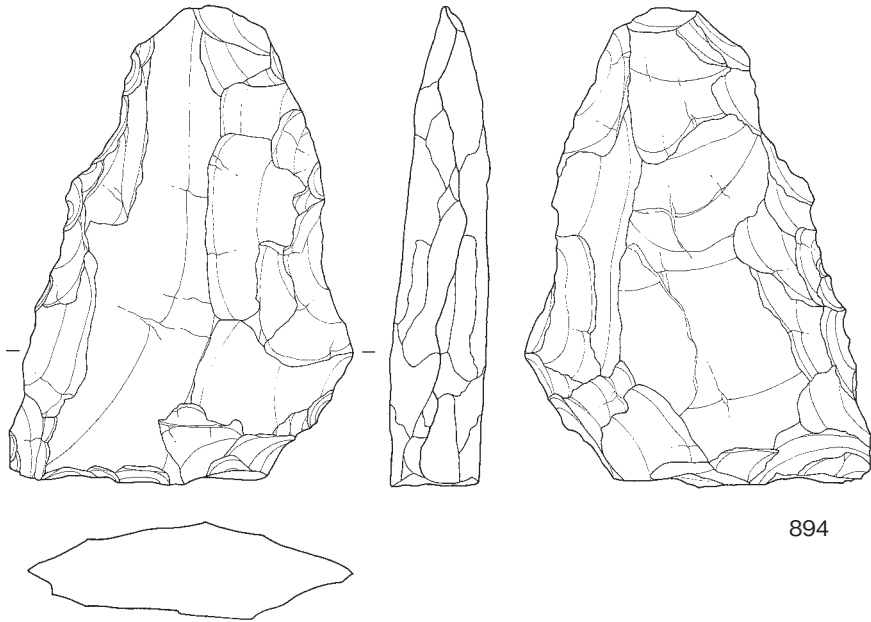
第 140 図 集中 2 出土遺物 (8)



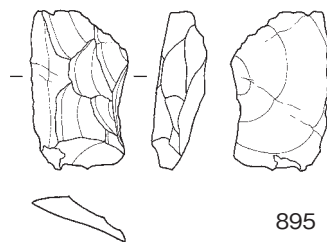
第 141 図 集中 2 出土遺物 (9)



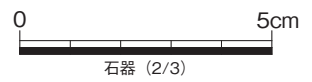
894+895



894



895



第 142 図 集中 2 出土遺物 (10)

る。なお、接合する剥片 881 には、分割後に施された調整剥離痕が認められることから、この剥片は小型石器の製作途上の剥片と考えられる。883+884+885+886 は横長剥片を 4 点の剥片に分割した接合資料である。背面は上・下 2 方向からの打撃による複数のネガティブな剥離痕、腹面は 1 面のポジティブな剥離面、打面は調整打面を呈し、打点部付近を山稜状に形成している。

887+888 は二次加工ある剥片で、打点辺りから左右 2 分割している接合資料である。接合した二次加工ある剥片は大型の横長剥片を素材にして、打面周辺に調整を施してエッジを形成し、そのエッジの上面に打撃を加え、素材剥片を 2 分割している。そのため、分割面は裁断面状の折面を呈している。891+892+893 は 3 点の接合資料で、接合後の形状から二次加工ある剥片に分類したが、未製品の可能性も考えられる。肉厚な剥片を素材とし、周囲の側縁部から剥片剥離を施している。接合関係としてはほぼ中央部で 891・892 が接合した。接合面は横折の分割面である。また、側縁部で小さな剥片 893 が接合した。

894 + 895 は石核と剥片の接合資料である。894 は不整形な尖頭器状の形状を呈する石核である。厚さ 2.0cm を測る肉厚な横長状の剥片を素材にして、側縁部から交互剥離を施している。接合する 895 は、側縁部から施す一連の剥片剥離作業で生じた小剥片である。

集中 3 (第 124・129・130・143 図)

IV 区南半部の集中 2 の西側で確認したブロックである。西壁際で検出したため、西半部は調査区から外れ、ブロックの東半部を検出した。分布範囲としては 1 辺 8.0m の半円状を呈する範囲内から 255 点のサヌカイト、2 点の安山岩製の石器類を検出した。

石器類の組成としては第 6 表に記載した様に、二次加工ある剥片 3・石核 1・剥片 187・碎片 66 等の遺物が挙げられる。また、2 点の接合資料を確認した。集中 3 の出土した石器類の材質については白 A・B が 37%、普通が 19%、良質が 44% を占める。集中 3 の特徴としては、他のブロックに比べ良質の比率が比較的高い点があげられる。

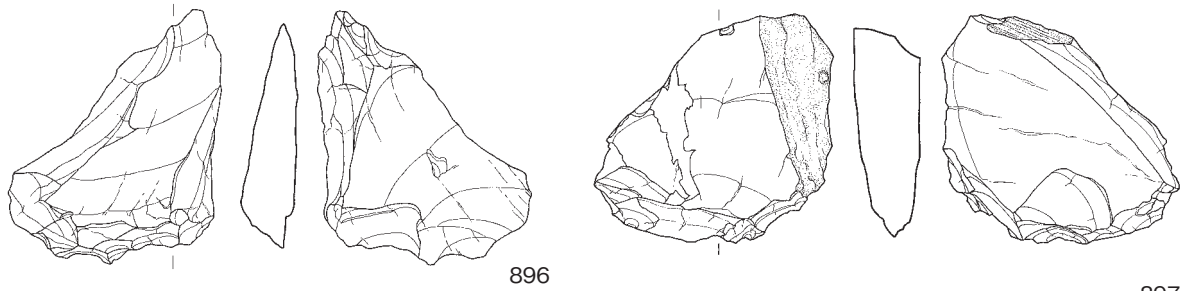
896・897・898 は二次加工ある剥片である。肉厚で不整形な剥片のエッジ部分に調整を加えている。899・900 は小型の剥片である。901 は厚さ 2.2cm を測る比較的大型の剥片を素材に用いた石核で、2 辺の側縁部には交互剥離により剥片剥離を行っており、他の 2 辺は切断面が認められる。902 + 903 は小剥片の接合資料である。横長状の剥片で、中央部ないし打点部付近から割れているところから、剥片剥離の際のミスによるものであろう。

集中 4 (第 124・131・143 図)

IV 区南半部の集中 3 から北へ約 5.0m 離れた地点で検出したブロックである。分布範囲としては径 7.0m の楕円形状を呈する範囲内からサヌカイト 77 点、安山岩 1 点の石器類を検出した。

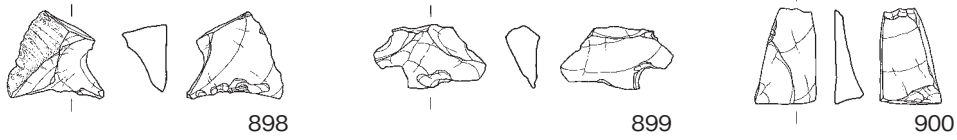
他の集中ブロックに比べ遺物が少なく、比較的短期間で形成された集中ブロックと考えられる。石器類の組成としては第 6 表に記載した様に、石器は確認できず、剥片 50・碎片 28 等を確認した。また、接合資料は確認することはできなかった。集中 4 の出土した石器類の材質については白 A・B が 6%、普通が 73%、良質が 20% を占める。集中 4 の特徴としては、集中 1 同様に普通の比率が比較的高い点があげられる。

906・907・908 は剥片である。906 は横長状の剥片である。背面にはネガティブな剥離痕と底面状の



896

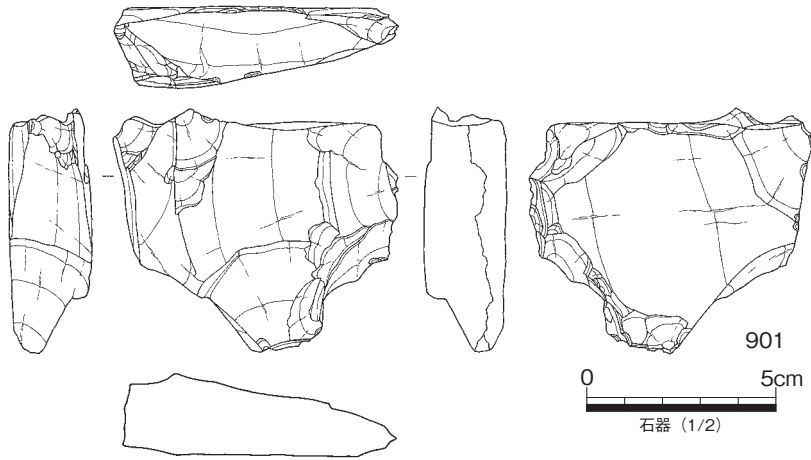
897



898

899

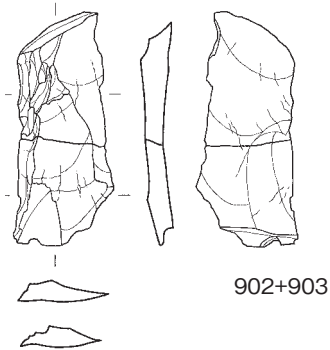
900



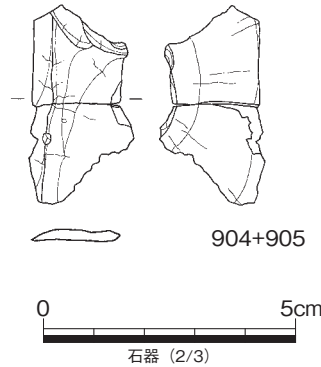
901

0 5cm

石器 (1/2)



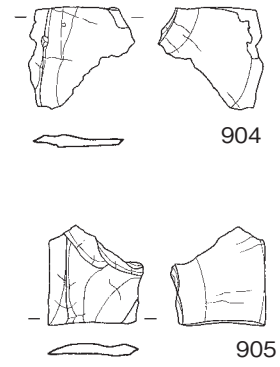
902+903



904+905

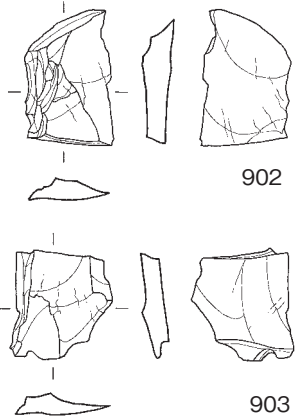
0 5cm

石器 (2/3)



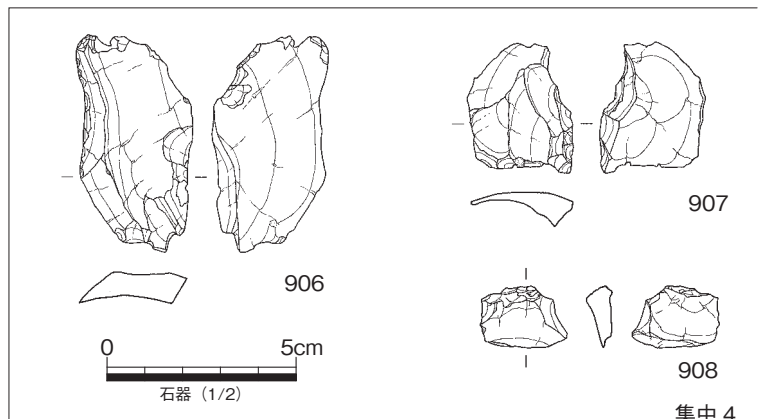
904

905



902

903



906

0 5cm

石器 (1/2)

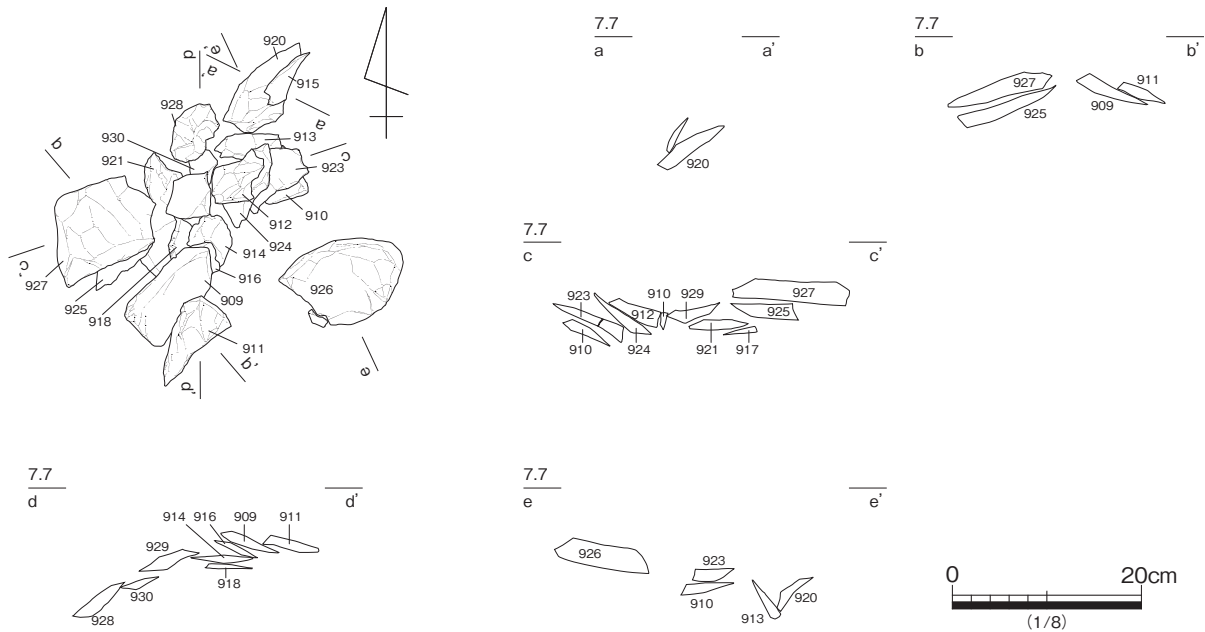
907

908

集中 3

集中 4

第 143 図 集中 3・4 出土遺物



第 144 図 サヌカイト集積遺構平・断面図

剥離面からなり、腹面はポジティブな剥離面からなる。打面は平坦打面である。907・908 は小型の小剥片で、打面は調整打面を呈する。

サヌカイト集積遺構 (第 124・144～148 図)

IV区中央の西壁際で検出した。サヌカイト剥片・石核等を集積した遺構で、長径約 0.4m、短径約 0.3m、深さ約 0.1m の範囲以内に、23 点の剥片・石核等が折り重なるように出土した。掘方等のプランは確認できなかったが、本来は落込み状の遺構であろう。

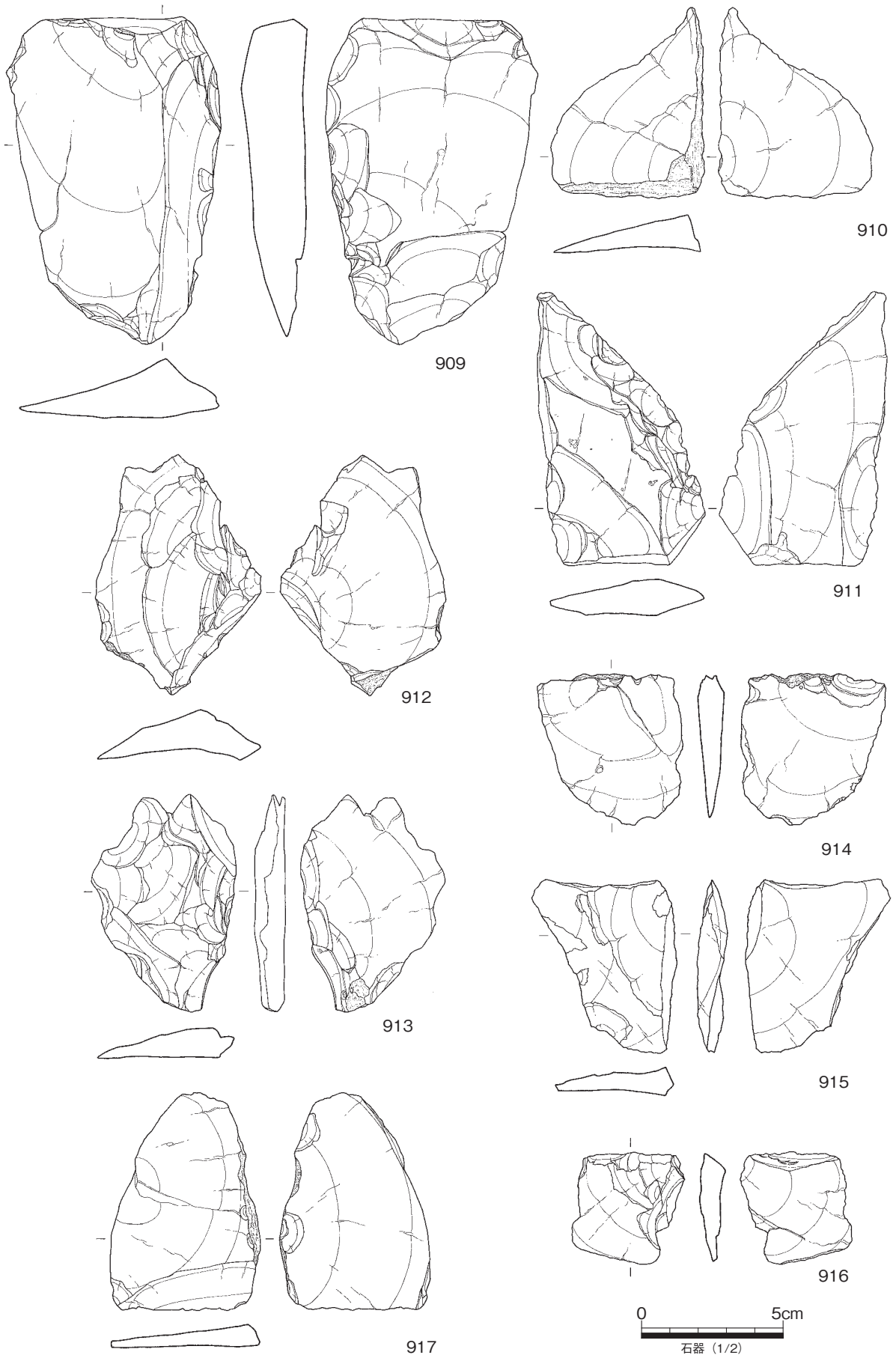
出土した剥片類の組成としては、二次加工ある剥片 1・剥片 20・石核 2 等を確認した。接合資料は剥片中に 1 点確認した。剥片中には石核の素材として用いれる様な、比較的大型の剥片が数点含まれる。サヌカイト集積遺構から出土した石器類の材質については白 A・B が 38%、普通が 58%、良質が 4% を占め、特徴としては普通の比率が比較的高い点があげられる。

909 は肉厚で不整形な縦長状の剥片を素材にし、その側縁部分に調整を加えている。形状から削器とも考えたが、エッジに鋭さに乏しく、二次加工ある剥片に分類した。おそらく、何かの未製品であろう。

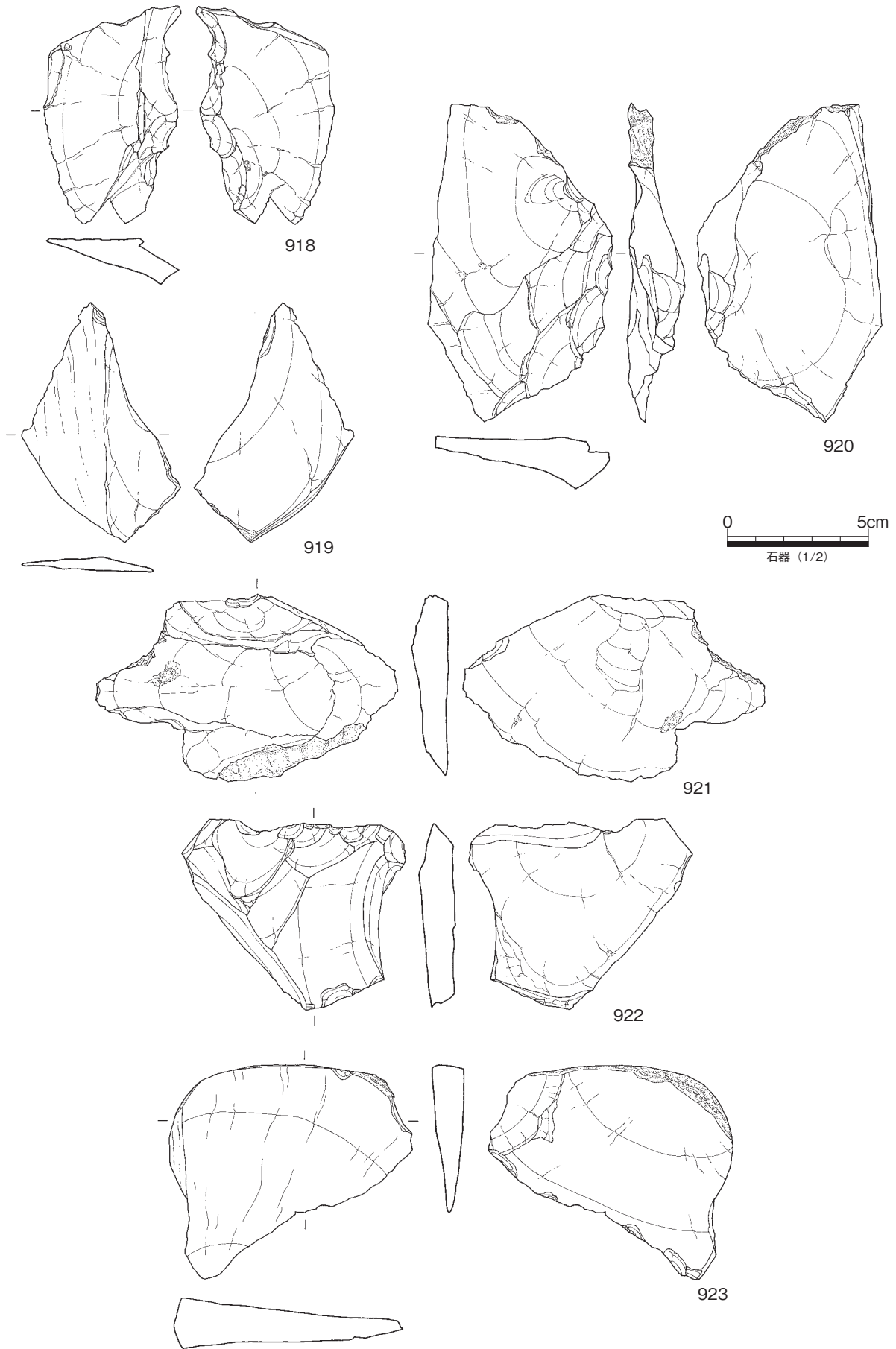
910～926 は剥片である。形状は不整形であるが、概ね横長状を呈するものが主体を占める。打面は調整・平坦・点状等に分かれ、明瞭な打面を形成しているものが多い。925・926 は石核素材と考えられる横長状の大型剥片である。

927・928 は石核に分類した。927 は厚さ 2.3cm を測る肉厚な大型剥片を素材にして、平面形状は方形を呈する。上・下側縁部には交互剥離の剥片剥離痕、短辺には長さ 4cm、幅 8cm 程の横長状剥片を剥取った剥離痕と、折面からなる。928 は小型で不整形な尖頭器状の石核で、剥片剥離痕が全面に及んでいる。形状から残核の最終形態を示しているものと考えられる。

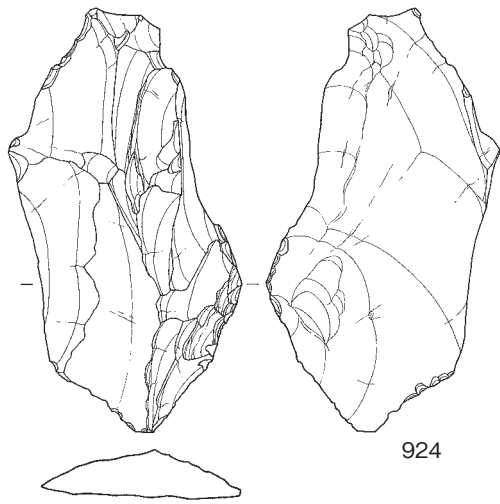
929 + 930 は剥片 2 点の接合資料である。不整形な形状をしており、同一打面から連続して剥取った一連の剥片同士の接合資料である。



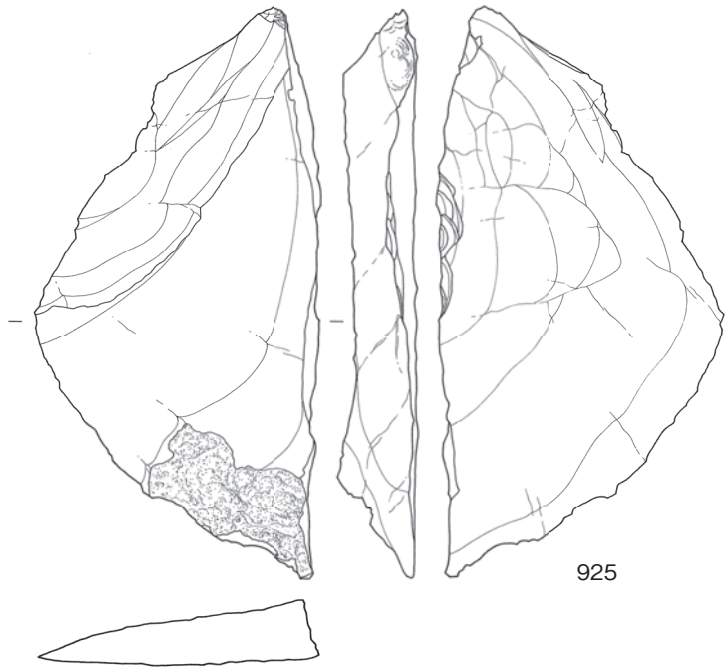
第 145 図 サヌカイト集積遺構出土遺物 (1)



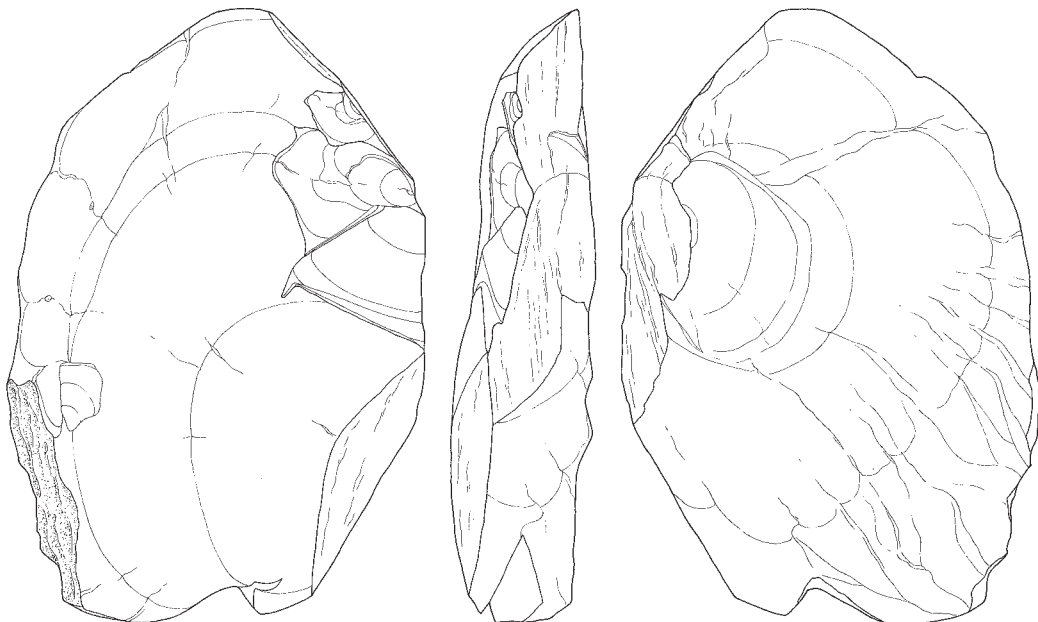
第 146 図 サヌカイト集積遺構出土遺物 (2)



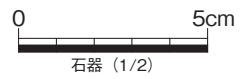
924



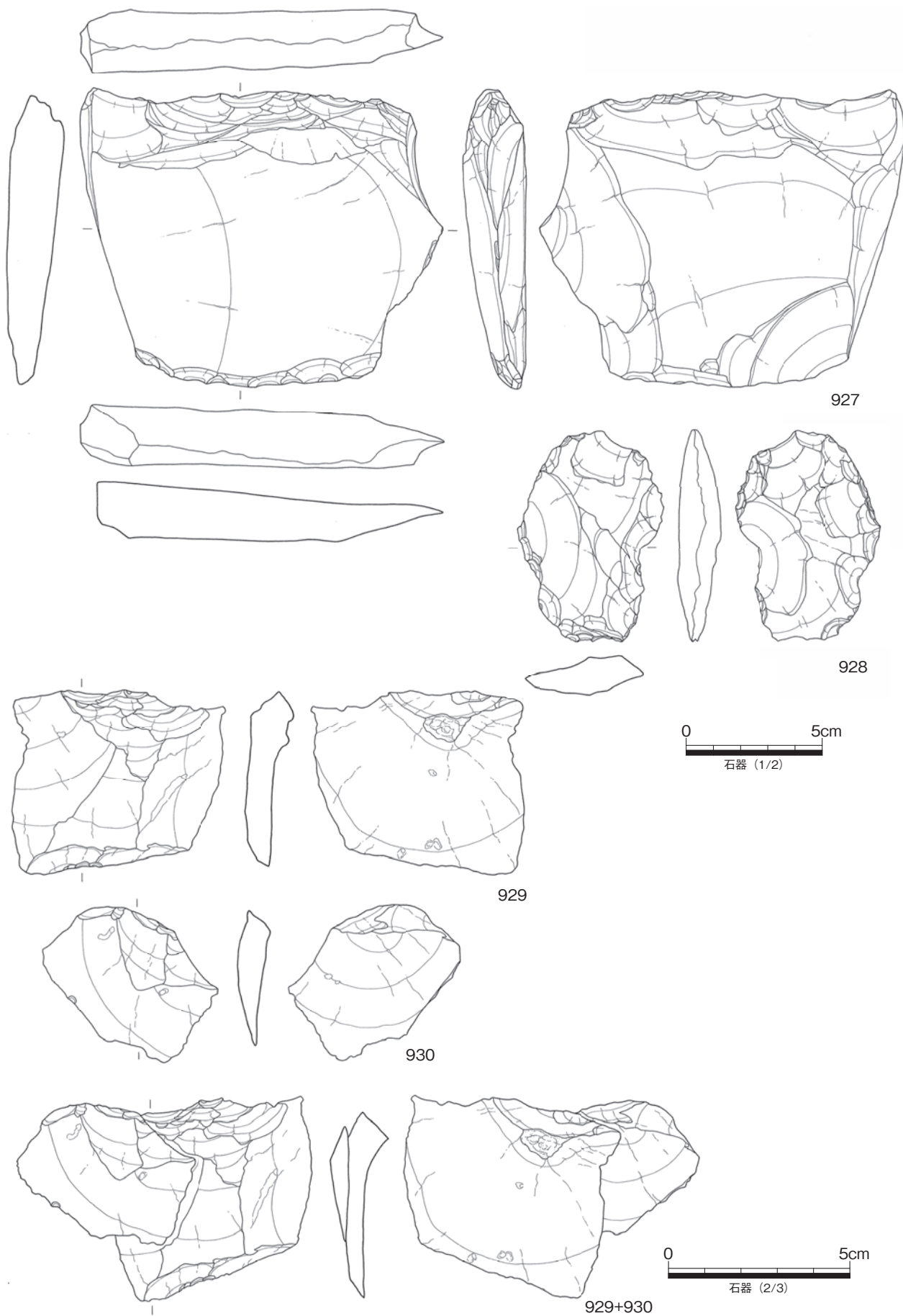
925



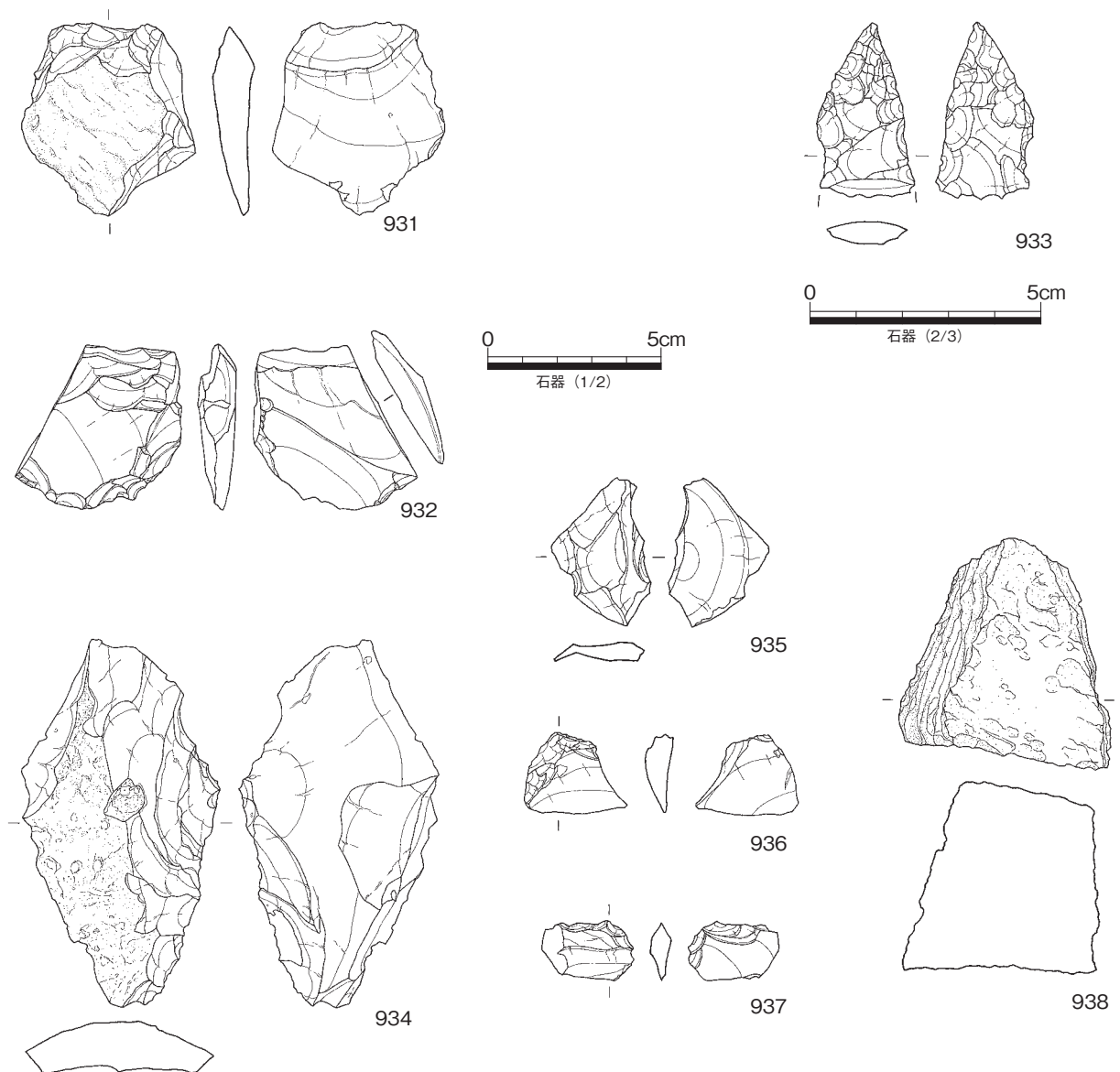
926



第 147 図 サヌカイト集積遺構出土遺物 (3)



第 148 図 サヌカイト集積遺構出土遺物 (4)



第 149 図 集中地区周辺出土遺物

石器集中ブロック周辺の石器類 (第 124・149 図)

次に石器集中ブロック周辺から出土した石器類のうち代表的な遺物を報告する。931～933 は二次加工ある剥片である。933 は器面全面に調整が及び先端を尖らせている。形状から大型石鏃ないしポイント・フレイクの可能性がある。934～937 は剥片である。934 は背面に礫面を大きく残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが分かる。938 は小型の原石素材である。直方体状の形状を呈し、朽木状の礫面を残す。

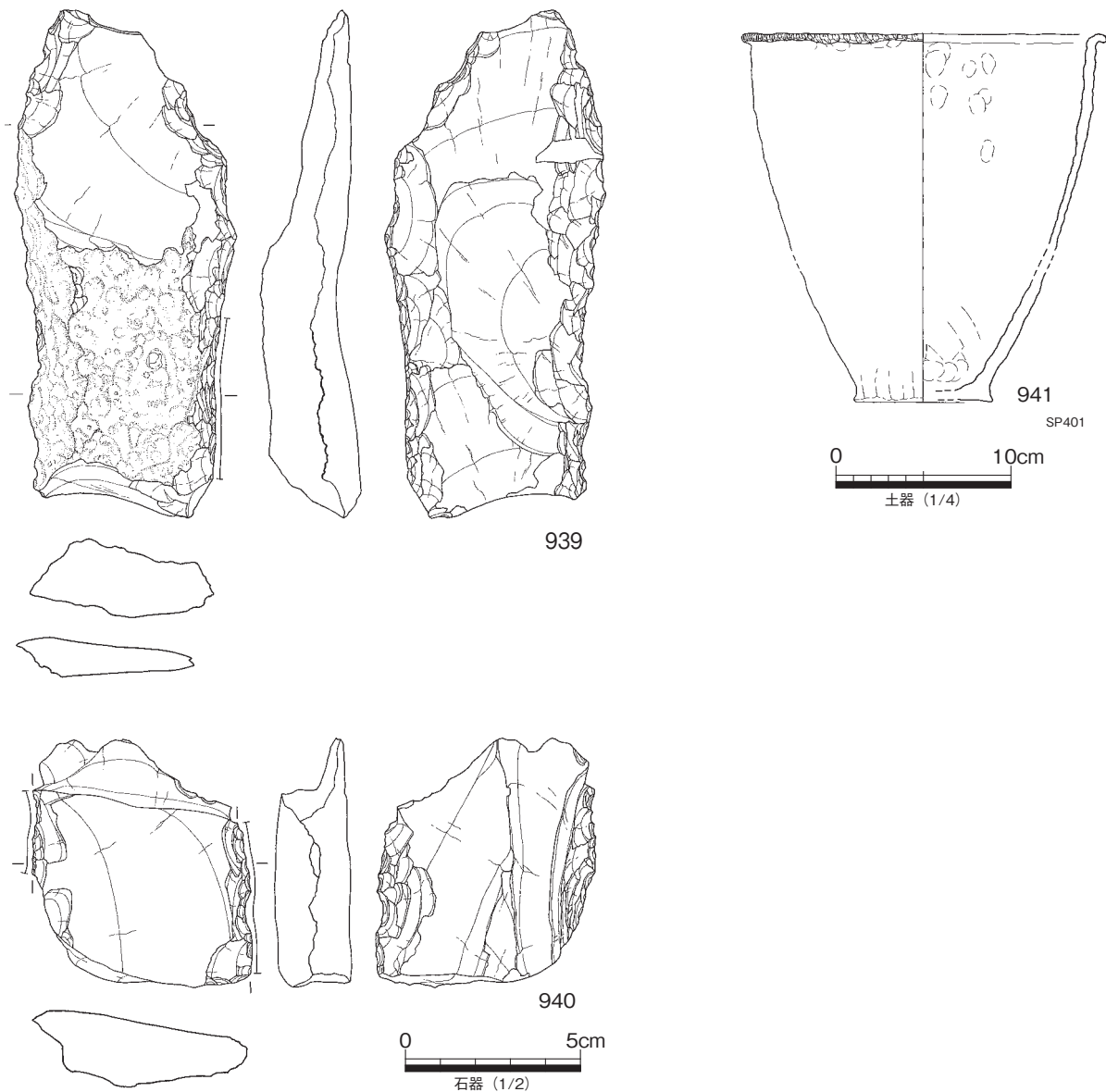
(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第 150 図)

Ⅳ区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分で

きない遺物までを含めている。

939・940は石核に分類したが、形状から槍先形石器の未製品の可能性も考えられる。939は背面には礫面を顕著に残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが解る。腹面には素材となる大型剥片の分割面を上半部に残し、下半部は側縁部からの剥片剥離や調整剥離が加えることにより、全体の形状を縦長状に形成している。

941はSP401から出土した弥生前期前葉の甕である。SP401は先述したように調査区南端部の石器包含層の上面で検出した遺構で、この土器が石器集中ブロックの下限期を示す唯一の資料であるが、石器集中ブロックの検出の途上で確認したため、残念ながら図面等の記録がなされていない。調査概報によればSP401は、平面略円形で径約0.2m、深さ約0.25mを測り、埋土は黒褐色粘土を呈する。埋土から土器片約30点が折り重なるように出土したようである(註2)。941は如意状口縁を有する甕で、折り返した後に口縁端部に刻み目を施す。体部は直線気味に底部へ続き底部はしっかりした平底を呈する。類似資料としては下川津遺跡SH01中に同様の土器を見出せる(註3)。



第150図 柱穴・包含層出土遺物

(補註)

(1) 石材の分類については、「西方遺跡」の分類を参考にした。

香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団 1985 「西方遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅳ』

(2) 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(3) 森下英治・信里芳紀 1998 「讃岐地方における弥生土器の基準資料Ⅰ—下川津遺跡出土前期弥生土器を中心に—」『財団法人香川県埋蔵文化財センター 研究紀要Ⅳ』

(参考文献)

本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会 1985 「西方遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅳ』

本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会 1990 「下川津遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅶ』

中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香芝市二上山博物館 2011 『平成23年度特別展 サヌカイト—原始の鉄—』

香川県教育委員会 2012 「西末則遺跡Ⅲ」『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊』

第V章 川津昭和遺跡の調査

第1節 川津昭和遺跡の概要

川津昭和遺跡は、川津六反地遺跡Ⅳ区の北端から北約40mに位置する、弥生時代中期～後期・中世～近世以降の遺跡である。この遺跡の調査は国道438号の拡幅に伴う発掘調査で、平成12年度に川津六反地遺跡と共に実施した。

川津昭和遺跡の調査では、弥生時代後期の灌漑水路と考えられる溝状遺構や、古代末～中世の条里地割方向の溝状遺構、近世以降の井戸・土坑等を検出した。これらの遺構の中で弥生時代の灌漑水路は、この地域の土地開発初期の状況を示しており良資料になる。

なお、遺跡の内容や地理的要因を考慮して、川津六反地遺跡と川津昭和遺跡を比べた場合、川津昭和遺跡で検出した諸遺構は、川津六反地遺跡との係わりで評価すべき点が多く、両遺跡を比較した検討は、今後も必要とされる。

第2節 基本層位

川津昭和遺跡の旧状は、宅地及び駐車場等であった。現地表面の標高は8.5m前後、地表下0.6～1.0mは盛土層であった。盛土層下位で、層厚0.1～0.3mの旧耕作土に至る。旧耕作土下位には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば遺構面に至る。

遺構面の標高は調査区南端で7.5m前後、北端で7.3m前後を測り、緩やかに北に傾斜する。遺構面は黒褐色粘土層(東壁11層)の上面及び下面に広がるが、南端部では同層が削平され下位の黄色系粘土が露出する。黄褐色系粘土は川津六反地遺跡から続く、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つで、調査区周辺では層厚0.7m前後堆積している。黄色系粘土の下位には、灰色～褐色系の粘土・シルト層からなる数層を挟み砂礫層に至る。この砂礫層は調査区南端部では標高6.5m前後で確認できるが、北半部では標高5.1m前後を測り、北に向けて傾斜していることが解る。なお、黄色系粘土と砂礫層間の灰色～褐色系の粘土・シルト等の堆積層中には縄文時代の遺構・遺物が検出できる可能性もあったが、確認できなかった。

第3節 遺構・遺物

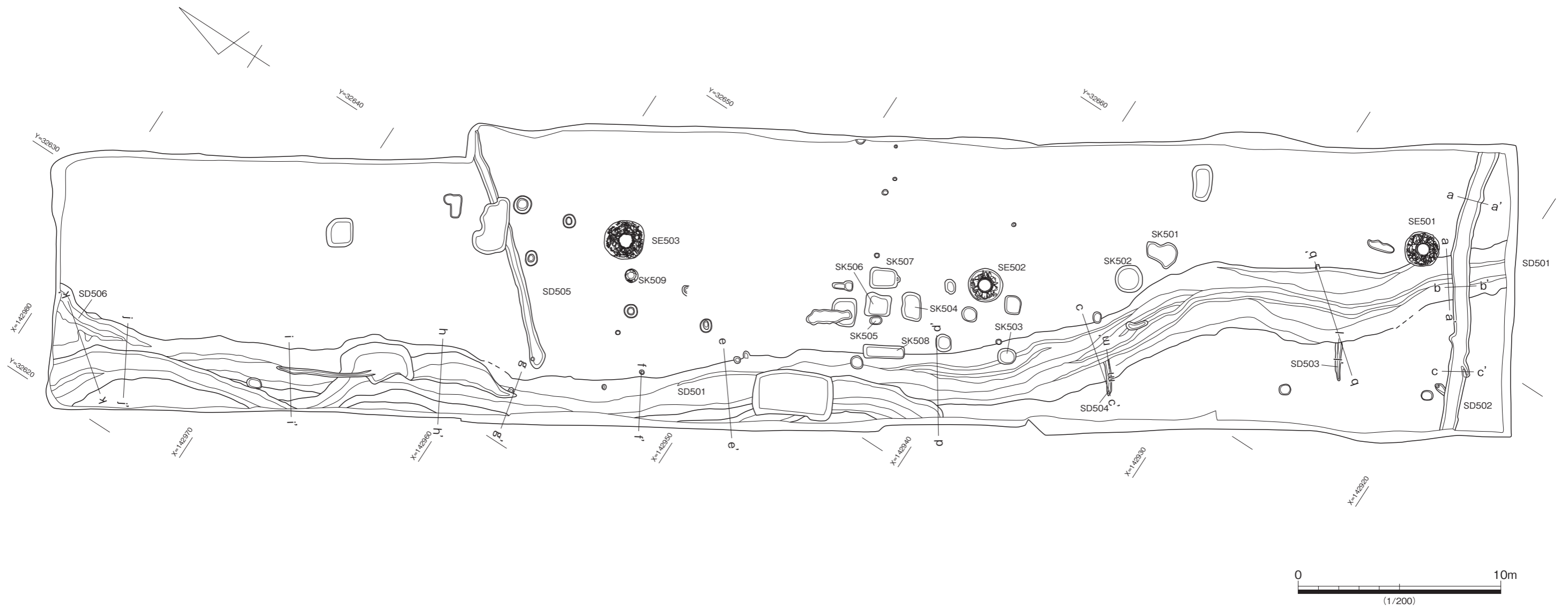
(1) 井戸跡

SE501・502・503(第153・154図)

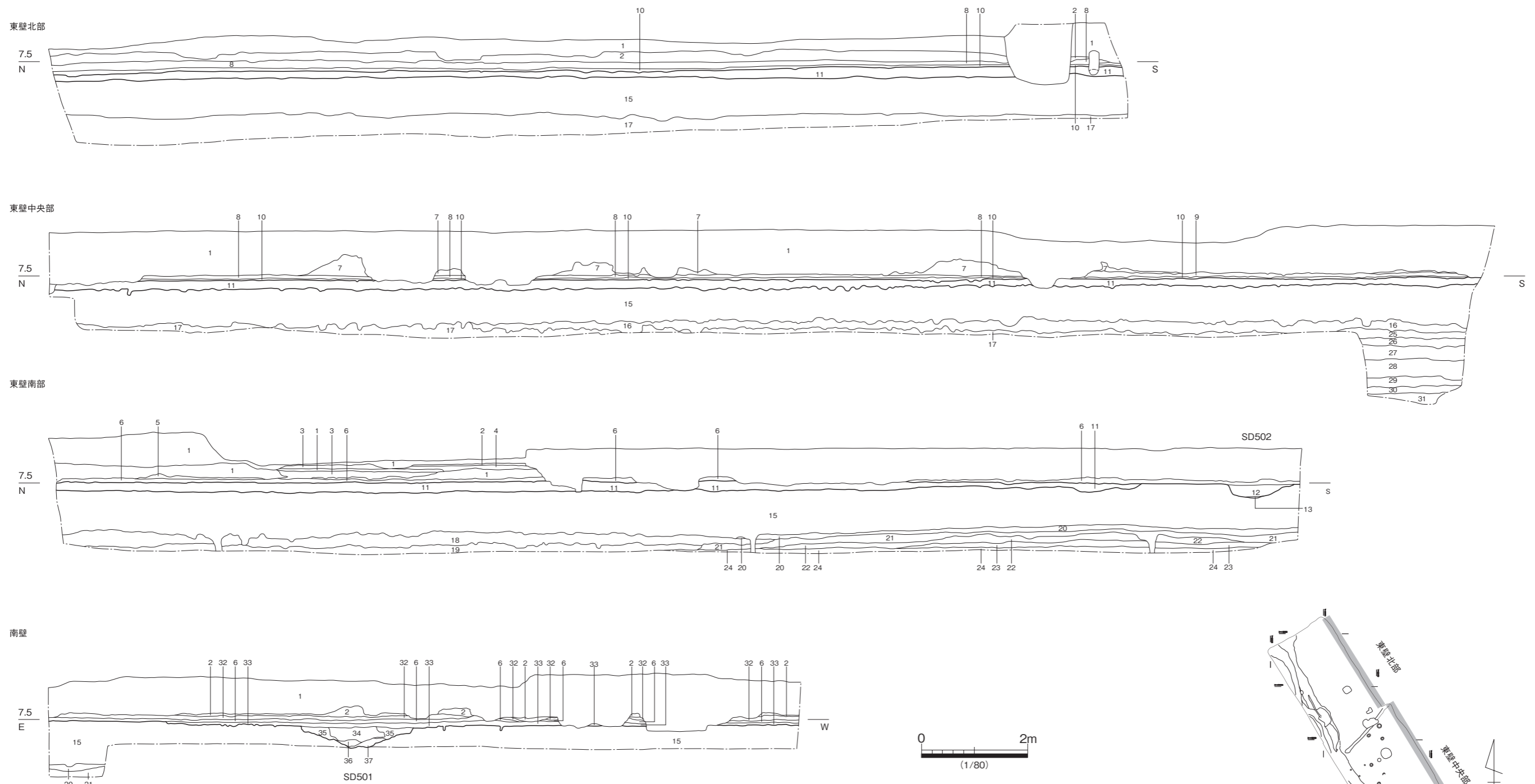
調査区の中軸線上に約18～20m間隔で3基の井戸を確認した。いずれも、平面は円形、断面は円筒状を呈する。掘方の径1.7～2.0m、深さ2.3～2.8mを測る。井筒部の径約0.7mを測る。

3基とも構造は類似しており、下半部は石組みで上半部は土師質の井筒を2～3段積み上げている状態で検出した。

埋土からは、近世以降の瓦や陶器、磁器と共に、多量の土師質の井筒片が出土した。出土遺物からこれらの井戸は近世末以降に構築されたと考えられる。

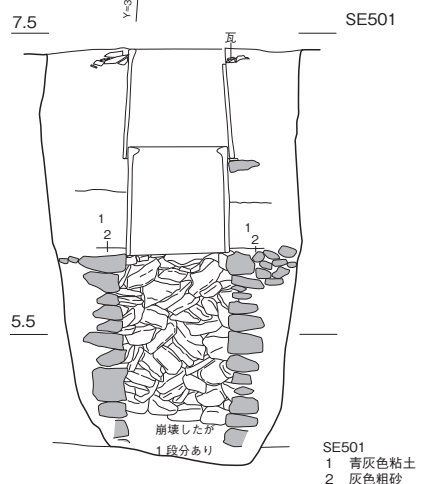
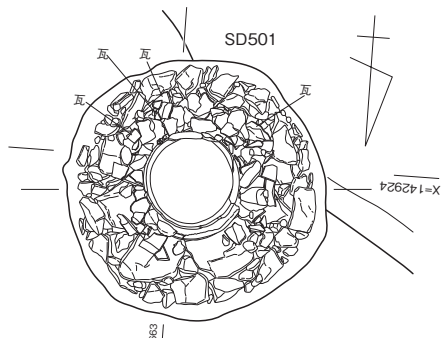


第 151 図 川津昭和遺跡遺構配置図

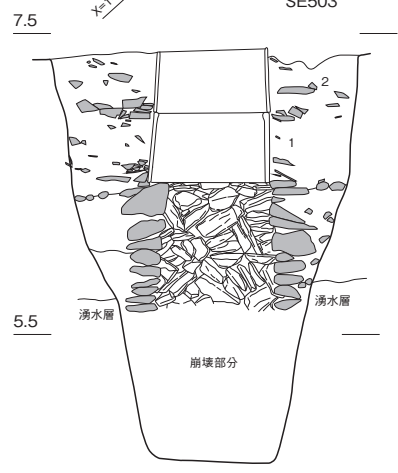
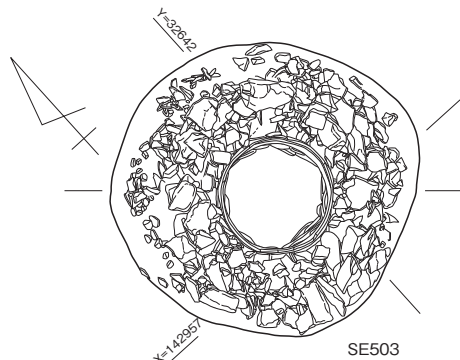


- 1 盛土・攪乱土
- 2 旧耕土
- 3 5Y8/6 黄色粘質土 (Mn・Fe 含む) = 床土層
- 4 5Y5/2 灰オリーブ色シルト質粘土 (Fe 含む) = 旧耕土層
- 5 10Y5/1 灰色粘土 (Fe 含む) = 旧耕土層
- 6 黄色混 5Y7/1 灰白粘土 (Mn・Fe 含む、φ1cm 以下の小石少し含む) = 旧耕土
- 7 7.5Y6/1 灰色粘質土 (Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石含む、炭片含む、φ4cm 小石まれに含む) = 旧耕土
- 8 5Y7/1 灰白色粘質土 (上面に Fe 沈着する、φ0.5cm 以下の小石含む、まれに Mn 含む) = 旧床土
- 9 5Y7/1 灰白色粗砂混シルト (上面に Fe 沈着する、Mn 少し含む、φ3cm 以下の小石少し含む、.8 層とほぼ同じだがやや灰味を帯びる) = 旧床土層
- 10 7.5Y7/1 灰白色粘質土 (Fe 含む) = 旧床土
- 11 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (Fe・Mn 含む、上面が1面遺構面、下面が2面遺構面、遺物がみられず包含層とするにはやや難がある) = 第2面包含層
- 12 2.5Y7/1 灰白色粘土 (Mn・Fe 少し含む、灰白色細砂ブロック状に含む) = SD502 埋土
- 13 2.5Y7/1 灰白色粗砂混粘土 (Fe 含む) = SD502 埋土
- 14 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (Fe・Mn 含む、.11 層と大差ないが僅かに黒味が強い) = 遺構埋土?
- 15 2.5Y8/8 黄色粘土 (Fe・Mn 含む、強粘質、層上半に Fe・Mn 多い、層上端は 14 層の影響でやや濁る、乾痕あり、石粒をほぼ含まない) = ベース層
- 16 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 (Mn・Fe 含む、乾痕あり、.15・17 層との層界不明瞭) = ベース層
- 17 7.5YR4/3 褐色砂混粘土 (Mn 含む、白色砂粒含む、乾痕あり) = ベース層
- 18 7.5YR5/1 褐色細砂質シルト (部分的に Mn の沈着により褐色を呈する)
- 19 褐色混 10Y7/1 灰白色シルト質粘土 (Mn・Fe 含む)
- 20 10YR6/8 明黄褐色粘土 (Mn 含む、強粘質、.15 層との層界不明瞭)
- 21 2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルト質粘土 (Mn・Fe 少し含む)
- 22 5YR6/1 褐色混 5YR5/6 明赤褐色細中砂・10Y7/1 灰白色シルト質粘土ラミナ (Mn 含む)
- 23 7.5YR5/1 褐色混 7.5YR5/6 明褐色中粗砂・7.5YR5/8 明褐色細砂ラミナ (Mn 含む、Fe 沈着する、2m 以北では細砂多い)
- 24 10Y6/1 灰色粘土 (Mn 含む)
- 25 灰色混 10YR7/8 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含む、乾痕あり、.16 層との層界不明瞭) = ベース層
- 26 7.5YR4/1 褐色粘土 (Mn・Fe 含む、よくしまる乾痕あり、key 層) = ベース層
- 27 黄色混 10YR7/1 灰白色粘土 (Fe・Mn 多含む、乾痕あり) = ベース層
- 28 10YR7/6 明黄褐色粘土 (層上半に Mn 含む、乾痕あり、.27 層との層界不明瞭) = ベース層
- 29 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト質粘土 (Mn 含む、乾痕あり) = ベース層
- 30 2.5Y5/1 黄褐色シルト (わずかに Mn 含む、乾痕あり) = ベース層
- 31 7.5Y8/1 明緑灰色 (Mn 含む、.30 層よりよくしまる) = ベース層
- 32 2.5Y6/4 にぶい黄色粗砂混粘土 (Fe 含む) = 旧床土
- 33 黄褐色混 N7/ 灰白色粘質土 (Mn・Fe 含む、φ2cm 前後の 15 層ブロック少し含む) = 旧耕土?
- 34 10YR7/6 明黄褐色混 2.5Y6/1 黄灰色中粗砂ラミナ (流水下堆積、Mn・Fe 含む、φ1cm 以下の小石含む) = SD501 中層
- 35 10YR5/1 褐色粘土 (Mn 含む、下面に粗砂薄く混じる、φ3cm 前後の 15 層ブロック含む) = SD501 中層
- 36 5B4/1 暗青灰色細粗砂ラミナ (流水下堆積、2 次的にグライ化か?) = SD501 下層
- 37 2.5Y5/1 黄灰色中粗砂・2.5Y8/1 灰白色細砂ラミナ (流水下堆積、φ1cm 前後の 15 層ブロック含む、Mn 含む) = SD501 下層

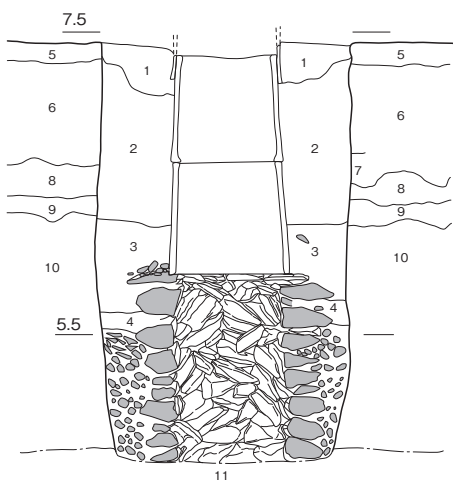
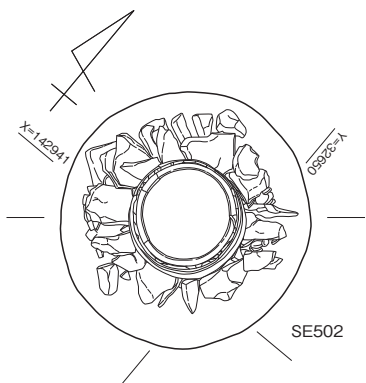
第 152 図 東壁・南壁土層断面図



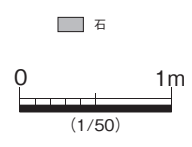
SE501
1 青灰色粘土
2 灰色粗砂



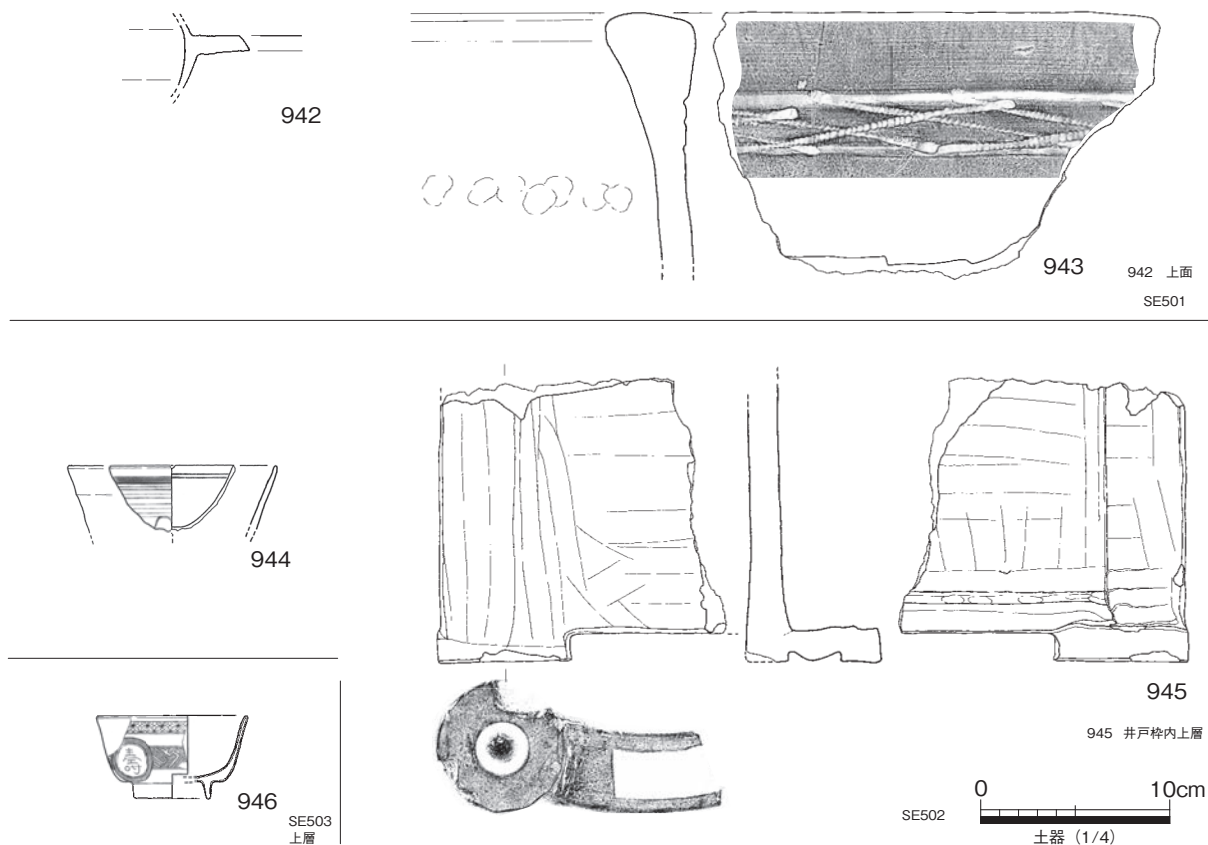
SE503
1 花崗土 (φ5cm以下の小石含む、人為的埋戻し土)
2 10YR6/3にぶい黄橙色粘土 (Fe含む、φ10cm以下のベースブロック多い、人為的埋戻し土)



SE502
1 2.5Y8/8 黄色粘土 (Fe・Mn含む、φ8cm以下の5~8層ブロック土混土層、人為的埋戻し土、6層の割合が最も多い)
2 2.5Y8/4 淡黄色粘土 (Fe・Mn含む、φ10cm以下の5~9層ブロック土混土層、人為的埋戻し土、1層と大差なし、6・7層の割合が最も多い)
3 2.5Y7/1 灰白色シルト (Fe含む、φ5cm程の7~9層ブロック含む、ブロック土の混じりはそれほど多くはない、人為的埋戻し土)
4 灰黄色粗砂
5 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn・Fe含む、Mn斑大きい、第2面包含層、ベース層)
6 2.5Y8/8 黄色粘土 (層上半部にFe・Mn含む、第2面ベース層)
7 10YR5/3にぶい黄褐色シルト (ベース)
8 灰白色混 10YR6/6 明黄褐色粘土 (Fe少含む、ややシルト質、ベース)
9 灰白色混 10YR5/2 灰黄褐色粘土 (Mn含む、強粘質、ベース)
10 灰白色混 10YR8/8 黄橙色粘土 (Mn含む、硬く良くしまる、ベース)
11 淡黄白~青灰色粗砂層
7~10層の変化は漸移的



第 153 図 SE501 ~ 503 平・断面図



第 154 図 SE501 ～ 503 出土遺物

942 ～ 946 は井戸から出土した遺物である。内訳としては、942・943 は SE501、944・945 は SE502、946 は SE503 から出土した遺物である。944 は SE502 の掘方 2 層から出土した染付碗の上半部で、この遺物が SE502 の掘削時期を示唆する遺物になる。945 は井筒内から出土した軒平瓦片である。942 は SE501 の掘方から出土した瓦質の羽釜片である。943 は SE501 の井戸枠に使用された井筒片である。946 は SE503 の掘方上層から出土した染付碗である。

(2) 土坑跡

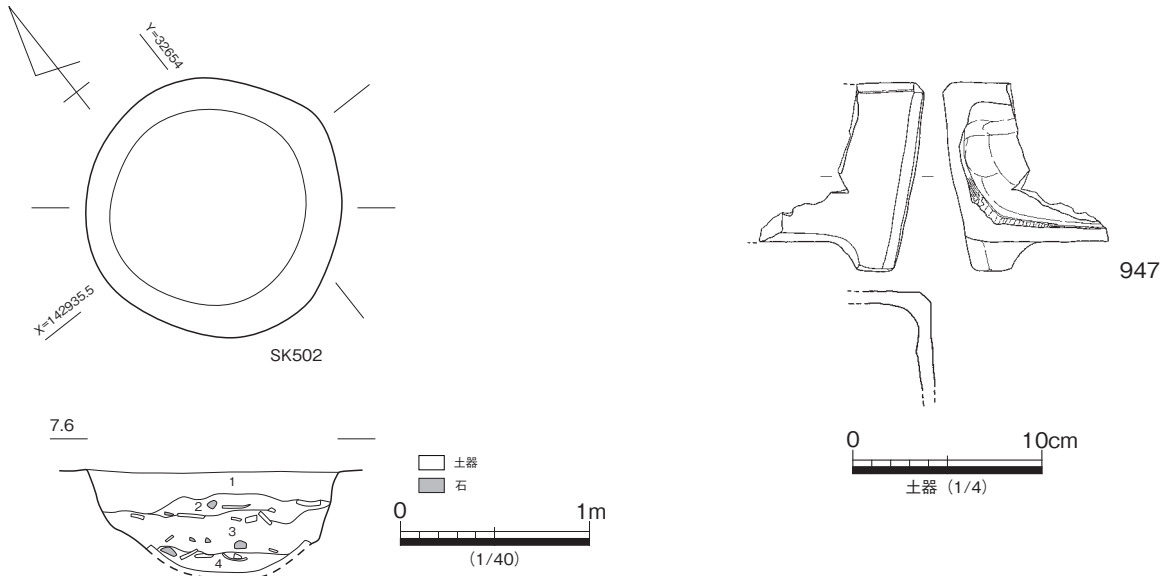
SK502(第 155 図)

調査区中央南よりの SK501 や SD501 に隣接する土坑である。平面は円形状、断面は半円状を呈する。径約 1.4m、深さ約 0.6m を測る。埋土の上層は灰色系粘土で下層は黒色系の砂質土である。埋土からは近世以降の廃棄物が出土した。947 は埋土から出土した陶器の火鉢片である。

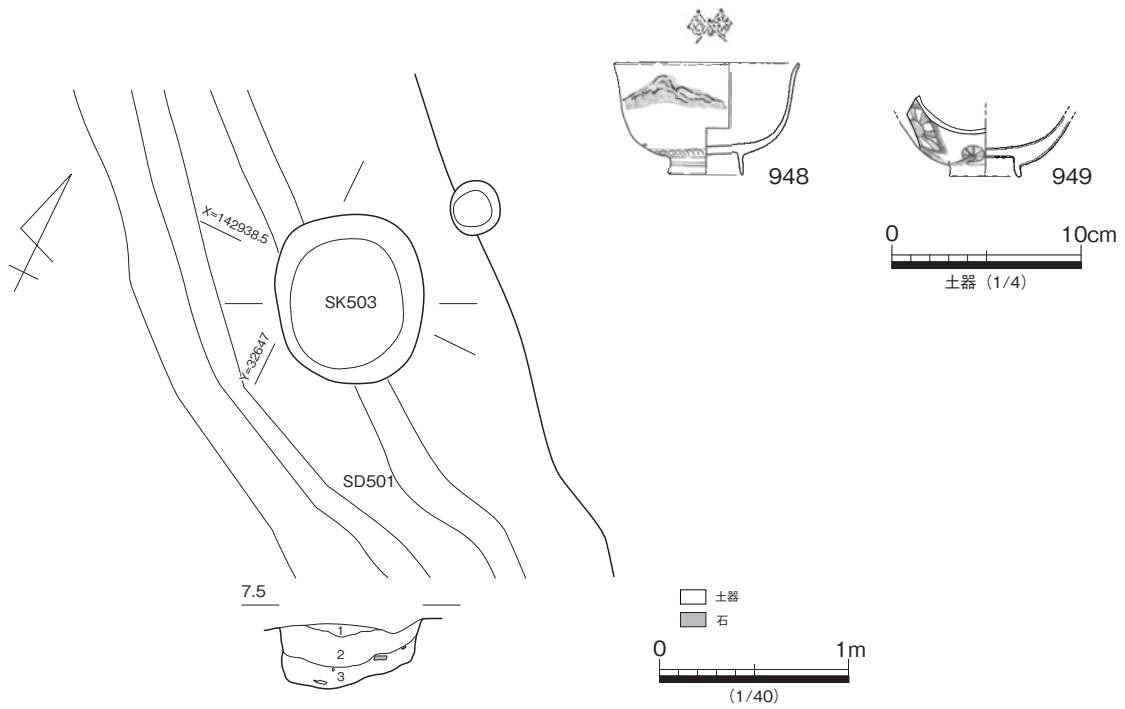
SK503(第 155 図)

調査区中央から南西に位置し、SD501 の上面で検出した土坑である。平面は楕円形状、断面は不整形な U 字状を呈する。

長径約 0.9m、短径約 0.8m、深さ約 0.35m を測る。埋土は灰色系の粘土ないしシルトからなる。埋土からは近世以降の土師器、陶器と、近代以降の廃棄物が出土した。出土遺物中には海軍旗を描いた染付



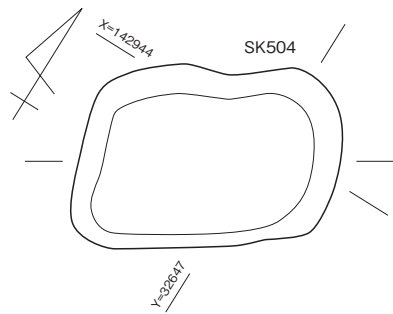
- 1 N7/ 灰白色粘土 (やや粗砂混じる. φ6cm 以下のベースブロック含む. 炭片含む. 人為的埋戻し土)
- 2 5Y4/1 灰色粗砂混粘土 (φ4cm 程度のベースブロック含む. 多量の遺物含む. 土坑廃棄後の滞水下自然堆積層か? 炭化材含む)
- 3 5G4/1 暗緑灰色シルト質粘土 (Fe 含む. グライ化. 土坑廃棄後の自然堆積層)
- 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗砂質土 (土坑機能時埋土)



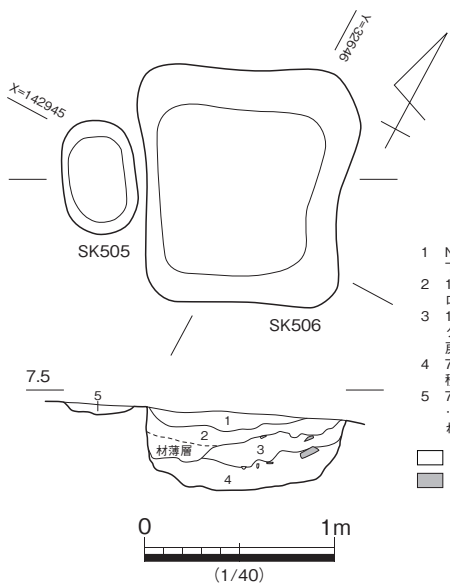
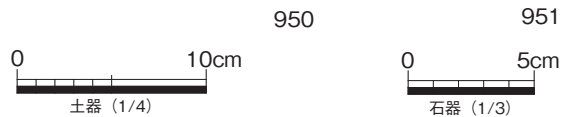
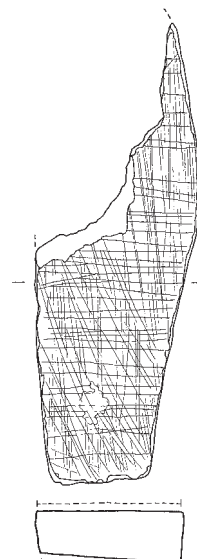
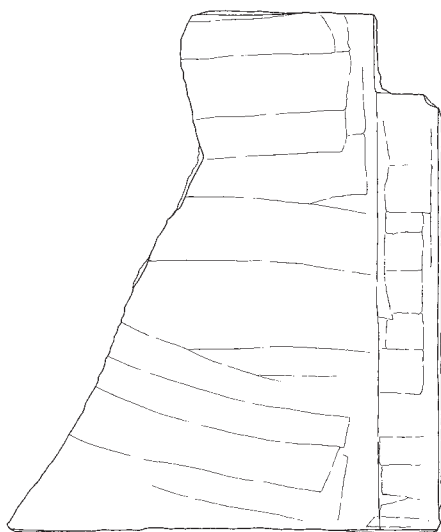
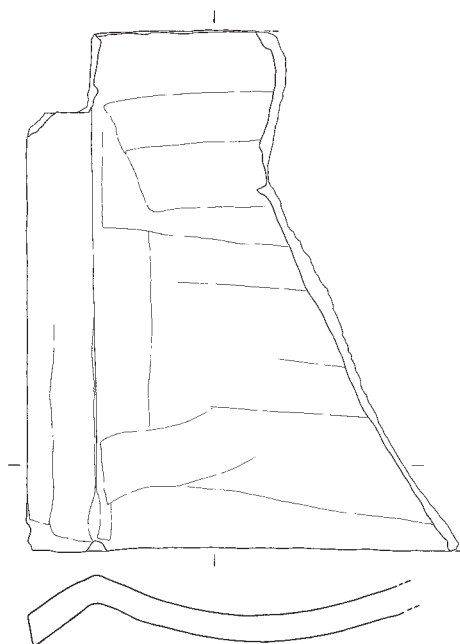
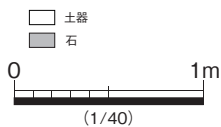
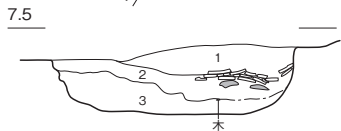
- 1 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe 含む. φ6cm 以下のベースブロック多く含む. 全体がベース層のブロック土. 人為的埋戻し土)
- 2 N6/ 灰色シルト質粘土 (Fe 含む. 炭片含む. 5Y8/2 灰白色細砂ラミナ状混じる. 遺物少量含む. ほぼ均質. 滞水下の自然堆積層とみられる)
- 3 5Y5/1 灰色砂混粘土 (やや強粘質. Fe 含む. 炭片含む. 遺物含む. 2層に近似するがやや色調暗く砂の混入多い. 滞水下の自然堆積層)

2・3層は土坑掘削後一定期間オープンであったとみられる

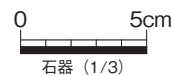
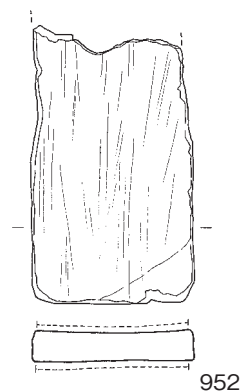
第 155 図 SK502・503 平・断面、出土遺物



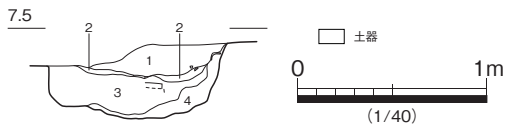
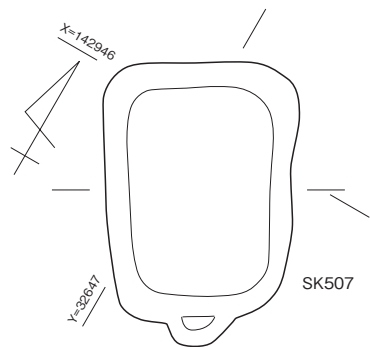
- 1 2.5Y6/6 明黄褐色粘土 (Fe 含む、炭片含む、φ15cm 以下のベースブロック多量含む、基本的にベース層のブロック土、人為的埋戻し土)
- 2 10Y5/1 灰色粗砂 (φ10cm 以下のベースブロック含む、φ5cm 以下の小石含む、木材片含む、下面に Fe 沈着する、自然堆積層と人為的埋戻し土の近層か、遺物は本層中より出土)
- 3 5G2/1 緑黒色粗砂混粘土 (φ5cm 以下のベースブロック少量含む、炭片・木材片多量含む、Fe 含む、自然堆積層、グライ化、滞水下の堆積、掘削後一定期間オープン)



- 1 N6/ 灰色粘土・2.5Y8/4 淡黄色細砂ラミナ (Fe・炭片含む、下面に Fe 沈着する、滞水下の堆積)
- 2 10BG5/1 青灰色粘土 (強粘質、φ15cm 以下のベースブロック含む、Fe 含む)
- 3 10BG5/1 青灰色粗砂混粘土 (φ8cm 以下のベースブロック含む、Fe 含む、ベースブロックを顕著に含み人為的埋戻し土とみられる)
- 4 7.5Y2/1 黒色粗砂混植物遺存体層 (木削・木片が多量に堆積、人為的埋戻し土)
- 5 7.5Y5/1 灰色粘質土 (φ5cm 以下のベースブロック・炭片・Fe 含む、ブロック土の混入から人為的埋戻し土とみられる)



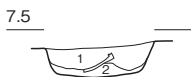
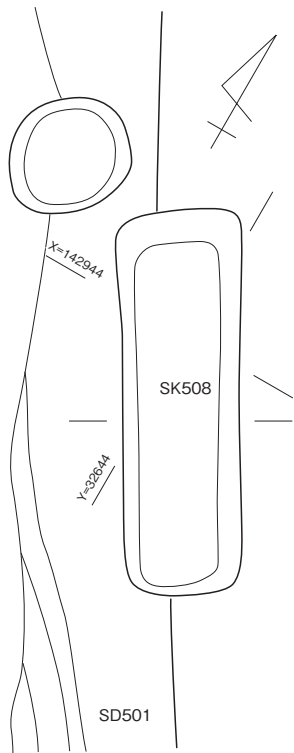
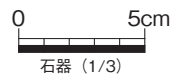
第 156 図 SK504 ~ 506 平・断面、出土遺物



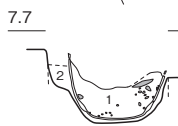
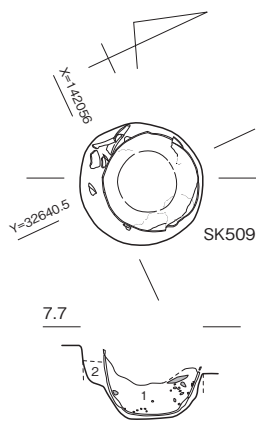
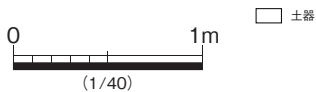
- 1 2.5Y8/8 黄色粘土 (Fe 含む . ベース層の人為的埋戻し土)
- 2 炭層 (やや中央部が凹んで土坑全体にみられる)
- 3 5Y3/2 オリーブ黒色腐食土層 (炭片・植物遺存体集積 . ϕ 5cm 以下の 4 層ブロック)
- 4 5Y6/1 灰色粘土
(炭片・植物遺存体含む . ややシルト質 . 3 層ときっちり分かれずラミナ状を呈する . 滞水下の堆積か . 掘削後一定期間オープンであった可能性高い)



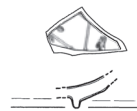
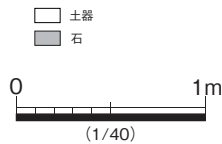
953



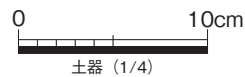
- 1 7.5Y7/1 灰白色砂質土
(Fe 多く含む . ϕ 5cm 以下のベースブロック含む . 旧耕土層に近似 . 遺物を含む . 2 層には遺物なし . 人為的埋戻し土)
- 2 5Y4/1 灰色砂混粘土
(細砂わずかに混じる . 炭片含む . Fe 含む . ϕ 1cm の小石少し含む . 自然堆積層か . グライ化している . 滞水下の堆積が考えられる)



- 1 7.5Y5/2 灰オリーブ色 (Fe 含む . ϕ 10cm 以下の小石多含む . 炭片含む . 人為的な埋戻し土か . しまりない)
- 2 10Y5/1 灰色砂混粘土 (Fe 含む . ϕ 3cm 以下のベースブロック含む . 炭片含む)



954



第 157 図 SK507 ~ 509 平・断面、出土遺物

椀などが見られることから、戦中以降に掘削された廃棄土坑と考えられる。948・949は埋土から出土した染付椀である。

SK504(第 156 図)

調査区中央のSK506・507の南に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.4m、短径約0.9m、深さ約0.4mを測る。埋土は明黄褐色粘土・灰色粗砂・緑黒色系の粘土ないし砂質土からなり、中間層から近世以降の多量の瓦や土師器、砥石等が出土した。検出状況からこの土坑は瓦の廃棄土坑と考えられる。950は埋土から出土した平瓦片、951は砥石片である。

SK506(第 156 図)

調査区中央のSK504・505・507に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.25m、短径約1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は4層に分かれ、灰色系の粘土が主体を占める。埋土からの出土遺物は近世以降の土師器・陶器、砥石及び昭和以降の廃棄物を含む。952は埋土から出土した板状の砥石である。

SK507(第 157 図)

調査区中央のSK504・506に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸長形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.5m、短径約1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は上層が黄色系粘土、下層は黒色系腐食土である。埋土からは近世以降の土師器大甕、瓦、砥石などが出土した。953は埋土から出土した角柱状の砥石である。

SK508(第 157 図)

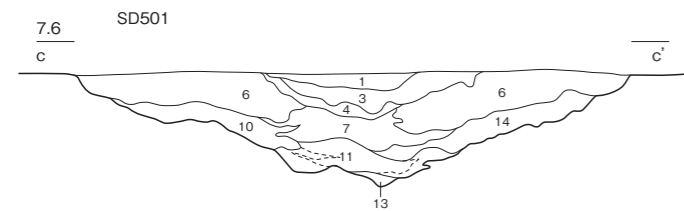
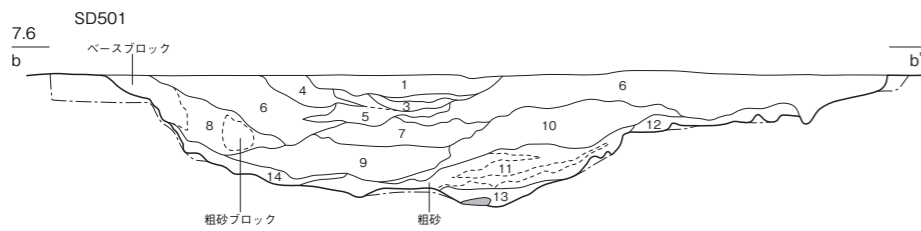
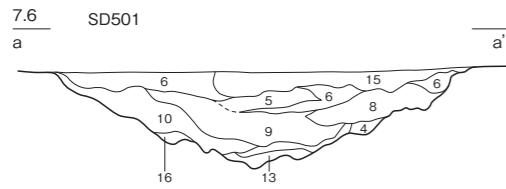
調査区中央のSK504・506の西隣に位置し、SD501を切り込んでいる土坑である。平面は不整形な長形状、断面は浅い逆台形状を呈する。

長径約2.0m、短径約0.6m、深さ約0.17mを測る。埋土は上下2層に分かれ上層は灰色砂質土、下層は灰色系粘土からなる。埋土からは近世以降の土師器・陶器・磁器などの日常雑器が出土した。

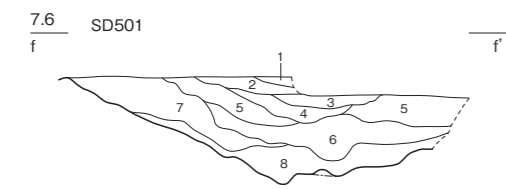
SK509(第 157 図)

調査区中央のSE503の西に隣接する土坑である。平面は円形、断面は二段掘方の隅丸逆台形状を呈する。

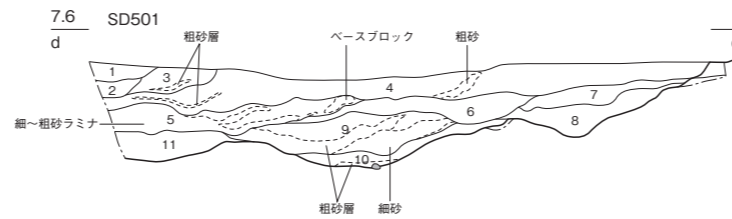
径約0.65m、深さ約0.35mを測る。掘方に土師器大型甕を検出しており、検出状況から近世以降の埋甕と考えられる。SK509からは、土師器大型甕と染付椀が出土した。954は甕内の埋土から出土した染付椀である。



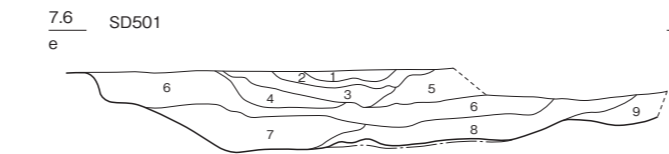
- a-a' ~ c-c' 断面
- 10YR3/1 黒褐色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石含む) = 上層
 - 5Y6/1 灰色粗砂質土 (φ0.5cm 以下の小石含む、流水下堆積) = 上層
 - 10YR2/1 黒色粗砂混粘土 (Mn 含む、φ0.5cm 以下の小石含む) = 上層
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混粘土 (Mn 含む、粗砂は僅かに含む程度、炭粒含む) = 上層
 - 2.5Y6/1 黄灰色粗砂 (φ2cm 以下の小石含む、流水下堆積) = 上層?
 - 黄色混 7.5YR4/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含む、Mn 層上位に多い、わずかに粗砂混じる) = 中層
 - 10YR6/2 灰黄褐色粗砂質土 (Fe 含む、層西半部は粗砂層となる、流水下堆積) = 中層
 - 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、粗砂ブロック状に含む、肩部はベース層ブロック状に混じる) = 中層
 - 2.5Y6/2 灰黄色粗砂・2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Mn・Fe 含む) ラミナ (φ1cm 以下の小石含む) = 中層 (一部下層として遺物取り上げ)
 - 2.5Y4/1 黄灰色シルト質粘土 (Fe 含む、6 層と近似するがややシルト味が強い、φ0.5cm 以下の小石少量含む、炭化物含む) = 中層
 - 2.5Y6/1 黄灰色粗砂・10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe 含む)・2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト・ラミナ (流水下堆積、φ0.5cm 以下の小石少し含む) = 下層
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (Fe 含む、粗砂多含む、φ0.5cm 以下の小石少し含む) = 下層
 - 10YR5/1 褐灰色粘土・2.5Y5/1 黄灰色粗砂ラミナ (層西半部 Fe 沈着する、Mn 含む、φ2cm 以下のベースブロック含む) = 下層
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (Fe・Mn 少し含む、細～中砂混じる) = 下層?
 - 10YR6/1 褐灰色粗砂混粘土 (Fe 含む、粗砂層下半に多混じる、φ26cm の 1 層ブロック含む、基本的に SD501 埋土ではなく SD502 の影響がみられる) = SD502 上層
 - 10YR5/1 褐灰色粗砂混粘土 (φ0.5cm の小石多く含む) = 下層?



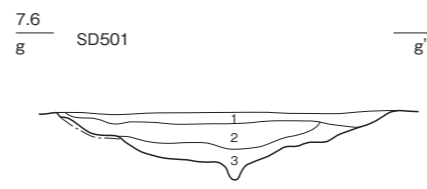
- f-f' 断面
- 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (粗砂中央部に多い、Mn・Fe 含む) = 上層
 - 10YR3/2 黒褐色粗砂混粘土 (粗砂均等に混じる、Mn・Fe 含む) = 上層
 - 10YR3/1 黒褐色粗砂混粘土 (粗砂均等に混じる、Mn 含む) = 上層
 - 10YR5/1 褐灰色粗砂質土 (Fe 含む、φ1cm 以下の小石含む) = 流水層上層
 - 2.5Y4/1 黄灰色中砂混粘土 (Fe・Mn 含む、炭片含む、粗砂～中砂わずかに含む) = 中層
 - 2.5Y7/1 灰白色中砂～2.5Y5/1 黄灰色シルト質粘土ラミナ (中砂中央部に分布、Fe・Mn 含む、φ1cm 以下の小石含む) = 中砂
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘土 (わずかに粗砂混じる、Fe・Mn 含む) = 中層
 - 2.5Y8/2 灰白色中～粗砂～2.5Y4/1 黄灰色粘土ラミナ (砂中央部にたまる、粘土左右に堆積、Mn 含む、炭片含む)



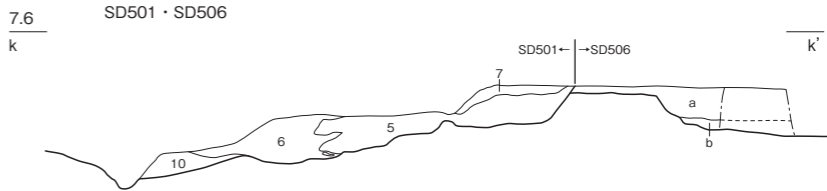
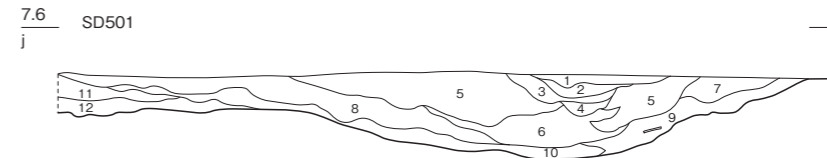
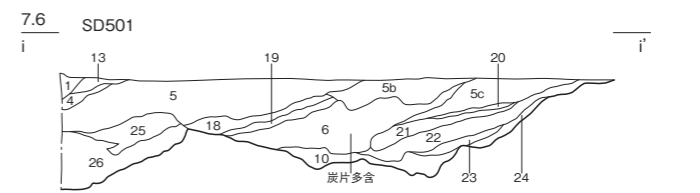
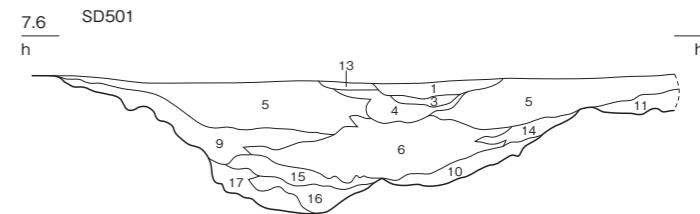
- d-d' 断面
- 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混粘土 (Mn 含む、φ1cm 以下の小石多く混じる) = 上層、e-e' 断面 1 層に相当
 - 10YR2/2 黒褐色粗砂混粘土 (Mn 含む、φ0.5cm 以下の小石多く含む) = 上層、e-e' 断面 3 層に相当、流水下堆積か
 - 黄褐色混 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn 含む、層底部を中心に粗砂混じる) = 中層、e-e' 断面 5 層に相当するか?
 - 明黄褐色混 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Mn・Fe 含む、層中部分的に粗砂混じる) = 中層、e-e' 断面 6 層に相当
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘土～2.5Y6/1 黄灰色細～粗砂ラミナ (Mn・Fe 含む、粘土層中にφ9cm のベースブロック含む) = 中層、e-e' 断面に該当層なし、流水下堆積か
 - 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (Mn・Fe 含む、炭化物粒含む、わずかに中砂混じる) = 中層、e-e' 断面に該当層なし
 - 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混粘土 (Fe 含む、φ1cm 以下の小石少し含む) = 中層、4 層と近似、4 層より砂多混じる、e-e' 断面に該当層なし
 - 10YR4/1 褐灰色砂混粘土 (Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石少し含む) = 中層、e-e' 断面 7 層の粘土層に近似
 - 10YR5/1 褐灰色シルト～10YR5/1 褐灰色粗砂～10YR8/2 灰白色～中砂ラミナ (底面にわずかに Fe 沈着する、φ2cm 以下の小石少し含む) = 下層、e-e' 断面 7 層に相当、流水下堆積
 - 2.5Y5/1 黄灰色細砂混粘土 (Fe 含む、底面に粗砂層たまる、炭片含む、φ2cm のベース小ブロック含む、e-e' 断面ベース層のまき込み) = 下層、e-e' 断面 8 層に相当か? 一部流水下堆積
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘土～2.5Y6/1 黄灰色粗砂～2.5Y7/2 灰黄色中～粗砂ラミナ (Mn 含む、粘土はブロック状に混じる、炭化物粒含む) = 下層、e-e' 断面 7 層の分流か、流水下堆積、正確には e-e' 断面に該当層なし



- e-e' 断面
- 10YR3/2 黒褐色粗砂混粘土 (粗砂均等に混じる、Mn 含む、φ1cm 以下の小石含む) = 上層
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (粗砂わずかに含む、Mn 含む) = 上層
 - 2.5Y3/2 黒褐色粘土～2.5Y5/1 黄灰色粗砂質土ラミナ (粗砂中央部に堆積、Mn・Fe 含む) = 上層
 - 2.5Y7/2 灰黄色中～粗砂質土 (Fe 含む、5 層 φ4cm 大ブロック含む、流水下堆積) = 上層
 - 2.5Y5/1 黄灰色粗砂混粘土 (粗砂は層中央部にブロック状に分布、Mn・Fe 含む) = 中層、6 層に近似
 - 5Y5/1 灰色中砂混粘土 (ブロック状に粗砂混じる、Fe・Mn 含む) = 中層
 - 2.5Y7/1 灰白色中～粗砂～2.5Y5/1 黄灰色細砂混粘土ラミナ (砂は中央部に堆積、φ1cm 以下の小石含む、Fe 含む) = 下層
 - 2.5Y4/1 黄灰色中～粗砂混粘土 (砂は均等に分布、Mn 含む、φ3cm 以下のベースブロック含む、φ1cm 以下の小石含む、炭片含む) = 下層
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘土 (中砂わずかに混じる、φ1cm 以下の小石含む、Fe・Mn 含む) = 下層

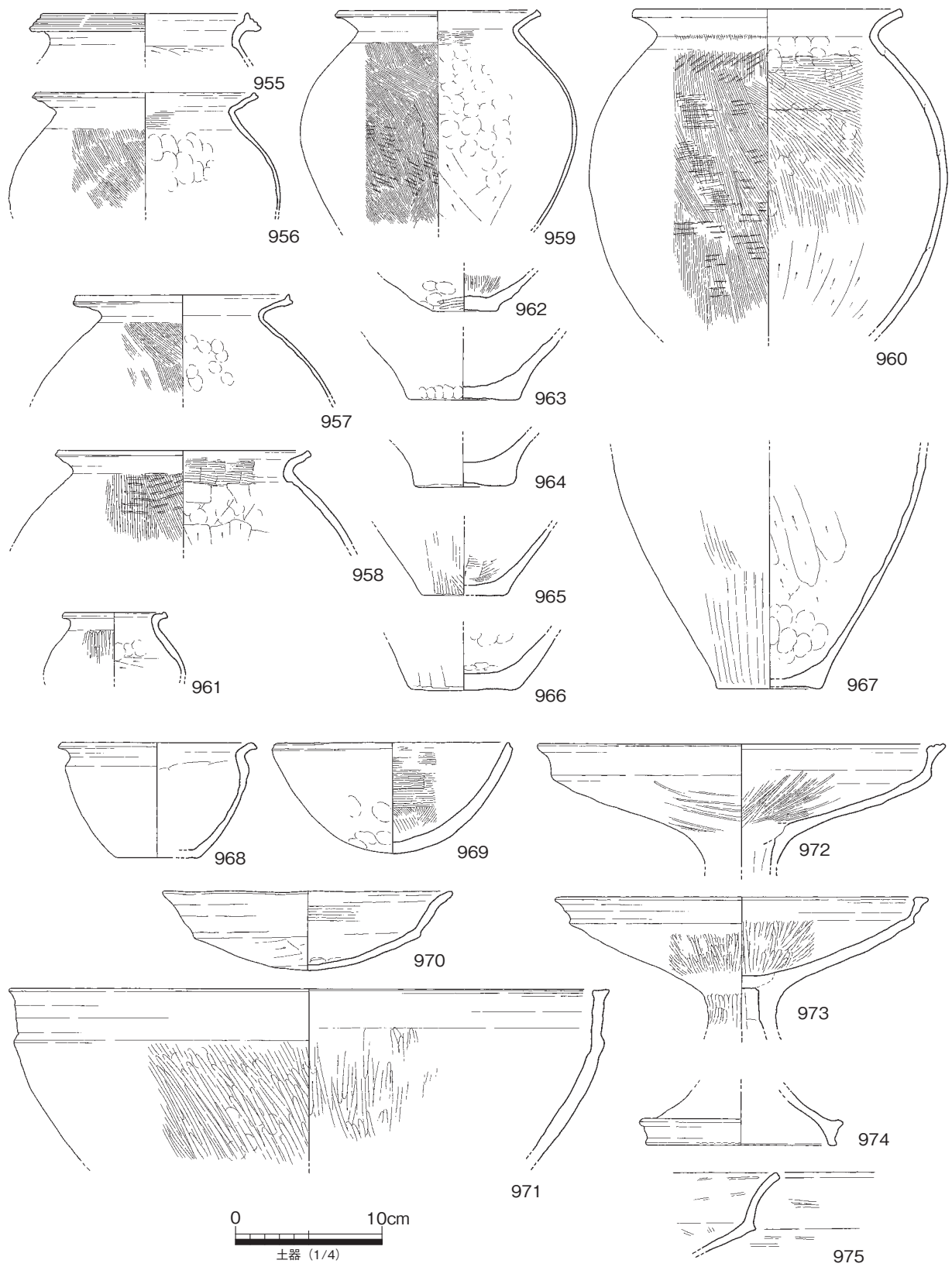


- g-g' 断面
- 10YR4/1 褐灰色粗砂質土～粘土ラミナ (粗砂は溝中央部に多い、Fe・Mn 含む、φ1cm の小石含む) = 上層
 - 2.5Y6/2 灰黄色粗砂質土～10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土ラミナ (粗砂は溝全体に分布、Fe・Mn 含む、φ1cm の小石含む) = 中層
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土～2.5Y6/2 灰黄色中～粗砂ラミナ (粗砂は溝中央部に多い、Fe・Mn 含む、φ1cm の小石含む、炭片含む) = 下層

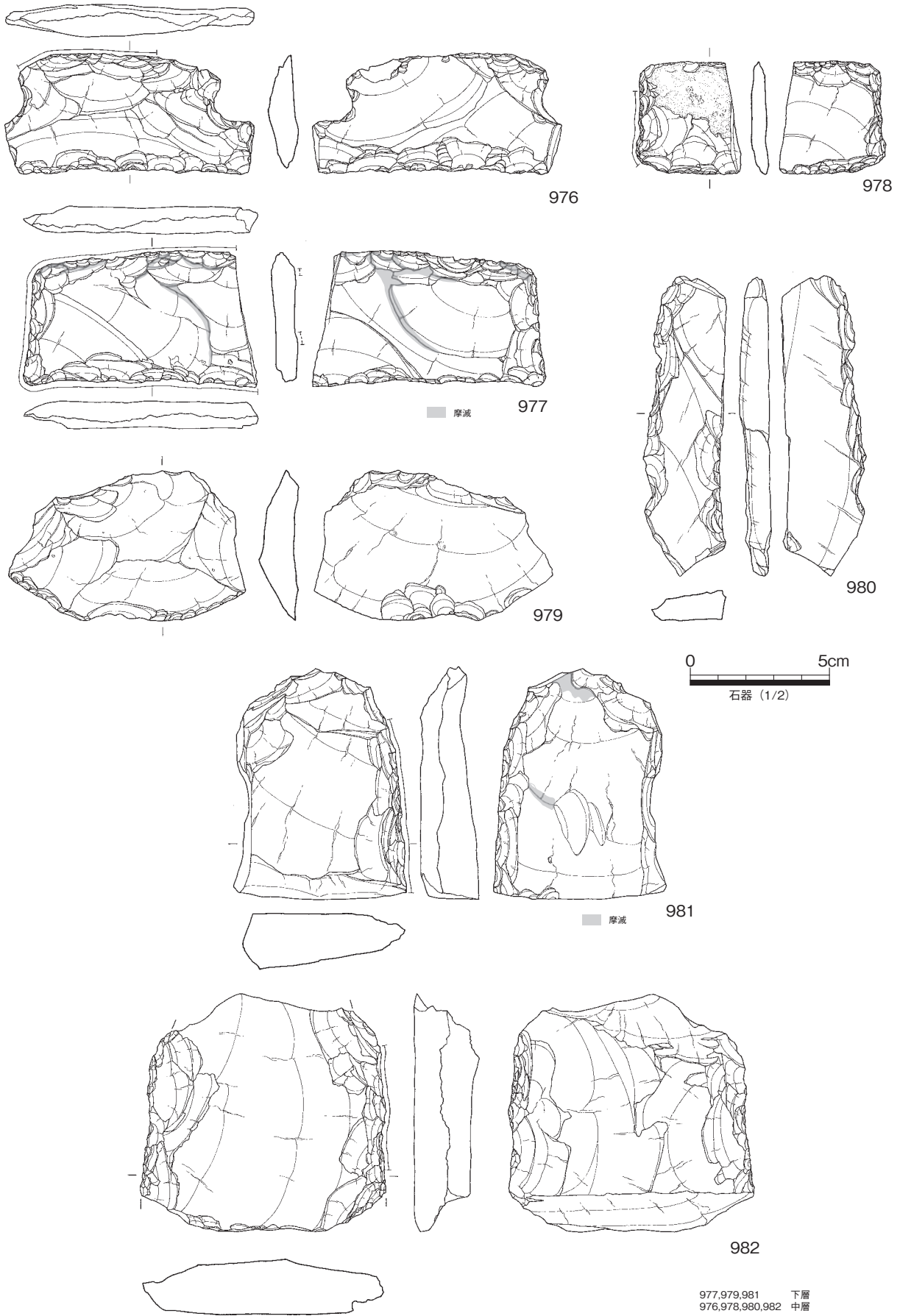


- h-h' ~ k-k' 断面
- 7.5YR3/1 黒褐色粘土 (Mn・Fe 含む、わずかに粗砂混じる) = 上層
 - 10YR4/2 灰黄褐色粗砂質土 (Fe 含む、φ1cm の小石含む、流水下堆積) = 上層
 - 10YR2/1 黒色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石含む) = 上層
 - 2.5Y5/1 黄灰色粗砂 (Mn 含む、φ0.5cm 以下の小石含む、5 層の φ4cm 程のブロック少量含む、流水下堆積 6 層との層界不明瞭) = 上層
 - 黄色混 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Mn・Fe 含む、やや粗砂混じる) = 中層上位
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (Mn 含む、φ0.5cm 以下の小石含む、5 層と近似するが下層の影響からか粗砂多含む) = 中層上位
 - 黄色混 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn・Fe 含む、白色粒含む、5 層に近似) = 中層上位
 - 10YR5/1 褐灰色粗砂・10YR5/1 褐灰色粘土ラミナ (Mn 含む、φ0.5cm 以下の小石含む、流水下堆積) = 中層下・下位
 - 7.5YR3/2 黒褐色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、粗砂多含む、φ0.5cm 以下の小石含む) = 中層上位
 - 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn 含む、粘性強い、ブロック状に粗砂含む) = 中層下位
 - 7.5YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、底面近くに粗砂ラミナ状に混じる) = 中層下位、SD506 埋土に延長
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂 (底面に Mn 沈着する、φ3cm 以下小石含む、流水下堆積) = 下層
 - 黄色混 2.5Y5/1 黄灰色粗砂混シルト (Mn 含む) = 下層
 - 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (Mn 含む) = 下層
 - 10YR5/1 褐灰色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む)
 - 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn 少し含む、底面にわずかに粗砂混じる) = 中層下位
 - 10YR5/1 褐灰色粘土 (わずかに Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石少し含む、やや強粘質) = 下層、9 層に類似
 - 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混粘土 (Fe 少量含む、粗砂多量に含む、φ1cm 以下のベースブロック含む、流水下堆積) = 下層
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Fe 少し含む、やや砂混じる、φ1cm 以下のベースブロック含む) = 下層
 - 10YR4/1 褐灰色粗砂混粘土 (Mn・Fe 含む、φ0.5cm 以下の小石含む、粗砂多、流水下堆積か) = 中層上位
 - 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn・Fe 含む、やや砂混じる、基本的に 5 層に近似) = 中層上位
 - 2.5Y4/1 黄灰色粗砂質土 (φ1cm 前後のベースブロック含む、φ0.5cm 以下の小石含む、流水下堆積) = 中層上位
 - 2.5Y4/1 黄灰色砂混粘土 (Mn・Fe 含む、やや細～中砂混じる) = 中層下位?
 - 2.5Y5/1 ~ 2.5Y6/1 黄灰色細～粗砂ラミナ (掘り肩部でやや粘土質混じる、流水下堆積) = 中層下位
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色中砂混シルト (Mn・Fe 含む) = 中層下位
 - 2.5Y5/1 黄灰色粗砂混粘土 (Mn 含む、粗砂多く混じる、流水下堆積か?) = 中層下位
 - 黄色混 10YR4/1 褐灰色粘土 (Mn・Fe 含む、φ4cm 前後のベースブロック少し含む、層上部に細砂ラミナ状に含む) = 中層上位、5 層に近似
 - 5Y4/1 灰色粗砂質土 (Mn 含む、φ2cm 以下の小石含む、流水下堆積) = 中層上位
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (Mn・Fe 含む、上面粗砂混じる)
 - 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混粘土 (Mn 含む、粗砂 φ15cm ブロック状に含む、下面に粗砂薄層あり)

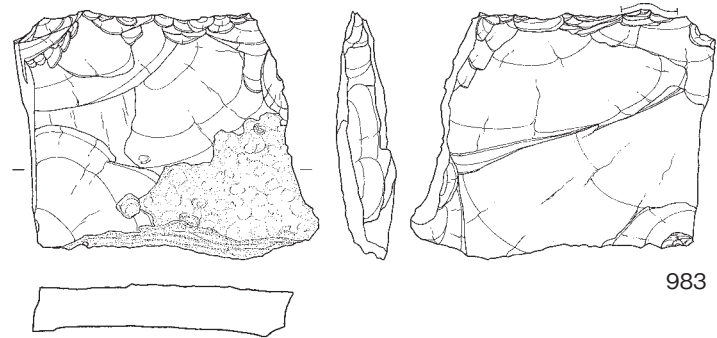
第 158 図 SD501 断面図



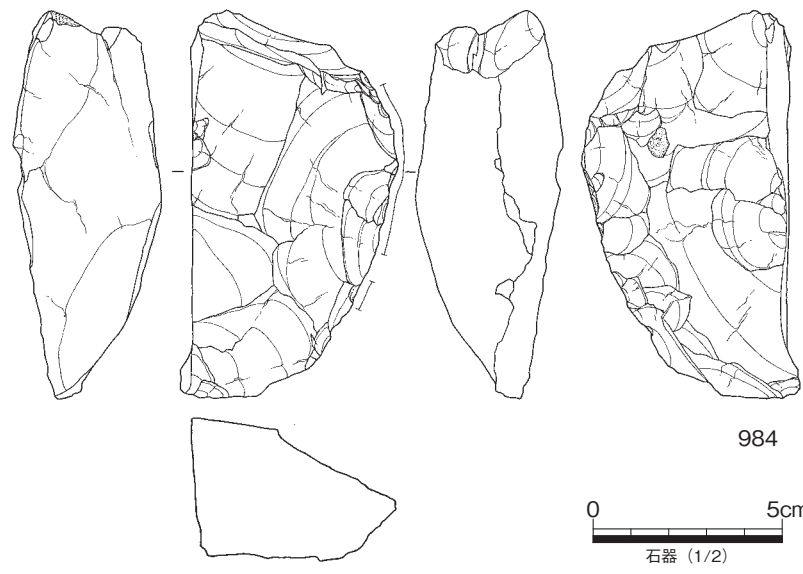
第 159 図 SD501 出土遺物 (1)



第 160 図 SD501 出土遺物 (2)

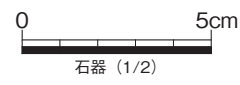


983



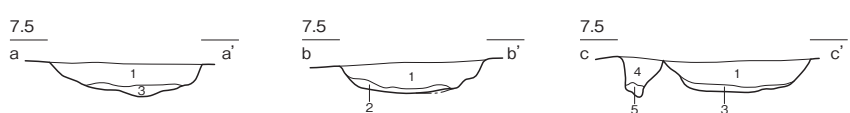
984

983,984 下層

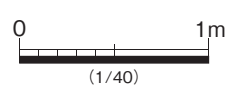


石器 (1/2)

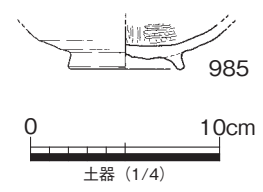
第 161 図 SD501 出土遺物 (3)



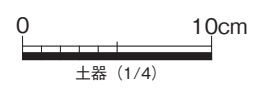
- 1 10YR6/1 褐灰色粘土 (Mn・Fe 含む、ややシルト質)
- 2 10YR6/1 褐灰色粗砂混粘土 (φ0.5cm 以下の小石少量含む、Fe 含む、1 層に近似するか、粗砂を多く含むことで分層、流水下堆積)
- 3 10YR6/1 褐灰色砂混粘土 (Fe・Mn 含む、φ3cm 以下のベースブロック含む、2 層と異なり粗砂の混入乏しい)
- 4 10YR6/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含む、1 層と基本的には同一だが Fe・Mn が多いので分層)
- 5 2.5Y5/1 黄灰色粘土 (Mn 含む、強粘質)



(1/40)



985



土器 (1/4)

第 162 図 SD502 断面、出土遺物

(3) 溝状遺構

SD501(第 158 ~ 161 図)

調査区西辺を北西方向から南東方向に縦断する幹線水路である。北半部は直線気味ではあるが、南半部は僅かに蛇行する。また、SD503・504・505・506 がそれぞれ東西に分岐する。

検出長約 72.0m、幅 2.0 ~ 3.5m、深さ約 0.4 ~ 0.7m、主軸は N 31° W を向く。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色系の粘土と黄灰色系粗砂がラミナ状に堆積する。底面のレベル差を比較して、南から北へ流下しているものと考えられる。

埋土からは弥生時代中期中頃、中期後半、後期前半～後半、終末期頃までの比較的時期幅をもつ土器と石器類が多数出土した。

955～967は甕である。955・963・964・966・967は弥生時代中期に属する土器である。955は中期後半末頃の甕口縁部である。口縁端部は上下に肥厚し、外面には凹線文が顕著に認められる。965・967は甕の下半部で、おそらく、後期初頭頃の甕であろう。956～960は弥生時代後期後半～終末期の甕上半部である。958・960等は体部が球体化しており終末期の様相を示している。968～971は弥生時代後期後半の鉢の資料である。971は大型鉢の上半部で、形状から後期前半ないしは後期中頃の鉢であろう。この土器は雲母を多量に含み、所謂下川津B類に類似する土器である。969・970は後期後半頃に属する鉢であろう。972～975は高杯である。972・973は弥生時代後期初頭頃の高杯の杯部である。口縁端部は左右に肥厚させ、端部外面には退化した凹線文を施している。974は後期初頭頃の高杯脚部片である。975は後期中頃の高杯杯部片である。

976～984はSD501から出土したサヌカイト製の石器類である。976～978は打製石庖丁である。977の表・裏面には仕様痕が確認できる。979・980は横長剥片のエッジに刃部を形成している削器である。981・982は先端部や基部を欠く打製石斧片である。肉厚で大型の横長状の剥片を素材とし、側縁部から調整剥離を加えている。981の基部には仕様痕を確認できる。983は楔形石器に分類した。明瞭な裁断面が確認できないため、楔形石器の素材と考えられる。984は船底状の形状した石核である。両面加工石器を分割したような形状を呈することから、何らかの未製品の可能性もある。

SD501は出土遺物に比較的時期幅があることから、掘削期・改修期・埋没時期等の時期差が表れているものと考えられる。おそらく、弥生時代中期中頃～中期後半頃掘削され、その後数度改修した後、最終的には弥生時代終末期頃に埋没したのと考えられる。

SD502(第162図)

調査区南端部で検出した、条里地割にほぼ合致し、北東方向から南西方向に延びる溝状遺構である。中央部で南北に延びるSD501を切り込んでいる。

検出長約15.0m、幅約0.8～1.2m、深さ約0.2m、主軸はN66°Eを向く。断面は皿状で、埋土は褐灰色粘土を呈し、溝底部には粗砂の混入が若干認められる。

埋土からは土師器、黒色土器が少量出土した。985は11世紀後半の黒色土器の底部であり、この溝跡の埋没時期を示す遺物の可能性が高い。

(参考文献)

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第Ⅵ章 自然化学分析

第1節 平成12年度自然科学分析

1. 香川県、川津六反地遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

四国地方に分布する第四系には、九州地方や中国地方さらには中部地方の火山などに由来するテフラ(tephra, 火山碎屑物, いわゆる火山灰)が認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代、地形や土壤の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。

そこで、年代の不明な土層が認められた川津六反地遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ分析を行い、示標テフラとの層位関係の把握により土層の年代に関する資料を収集することを試みた。調査の対象となった地点は、Ⅳ区南部16m地点とⅣ区南部25m地点の2地点である。

2. 土層層序

(1) Ⅳ区南部16m地点

Ⅳ区南部16m地点では、下位より灰色シルト質砂層(層厚22cm, 7層)、灰色砂層(層厚18cm, 6層)、砂混じり黄色粘質土(層厚45cm, 5層)、砂混じりで鉄分を比較的多く含む灰色土(層厚20cm, 4層)、砂混じりでわずかに灰色がかった白色土(層厚7cm, 3層)、砂混じりで若干白色がかった灰色土(層厚3cm, 2層)、砂混じり灰色土(層厚16cm, 1層)、盛土(層厚23cm)が認められる(図1)。発掘調査では、これらのうち5層から縄文時代後・晩期の遺物が検出されている。

(2) Ⅳ区南部25m地点

埋没谷部に位置するⅣ区南部25m地点では、下位より灰色砂層(層厚10cm以上, 6層)、砂混じり黄色粘質土(層厚42cm, 5層)、砂混じり灰色土(層厚26cm, 4-5層)、マンガンを比較的多く含む砂混じり暗灰色土(層厚17cm, 4-4層)、若干色調が暗い砂混じり灰色土(層厚7cm, 4-3層)、砂混じり灰色土(層厚6cm, 4-2層)、砂混じり暗灰色土(層厚6cm, 4-1層)、わずかに灰色がかった砂混じり白色土(層厚7cm, 3層)、砂混じり灰白色土(層厚8cm, 2層)、砂混じり灰色土(層厚6cm, 1層)が認められる(図2)。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析方法

Ⅳ区南部16m地点とⅣ区南部25m地点の2地点において、基本的に厚さ5cmごとに採取された試料のうち、19点を対象に火山ガラス比分析を行うことにした。分析処理の手順は次の通りである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により 80 ° C で乾燥。
- 4) 分析篩により 1/4-1/8mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で 250 粒子を検鏡し、火山ガラスの色調・形態別組成を求める。

(2) 分析結果

IV 区南部 16m 地点と IV 区南部 25m 地点における火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして図 3 と図 4 に、その内訳を表 1 に示す。IV 区南部 16m 地点では、試料 8 と試料 2 をのぞくいずれの試料からも火山ガラスをわずかずつ検出することができた。しかしながら、その降灰層準を示すような顕著な濃集層準は認められなかった。含まれる火山ガラスの多くは、平板状のいわゆるバブル型である。多くのバブル型ガラスの色調は、無色透明であるが、試料によっては淡褐色や褐色のガラスも認められる。試料 14 には、ほかに分厚い中間型ガラス (無色透明) もごく少量含まれている。

IV 区南部 25m 地点についても同様に、顕著な火山ガラスの濃集層準は認められない。検出されたバブル型ガラスの多くの色調は無色透明で、わずかに褐色のガラスも認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

遺物包含層に層位があり、わずかながら中間型ガラスが認められた IV 区南部 16m 地点の試料 14 に含まれるテフラ粒子について、示標テフラとの同定を行うために、温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) により屈折率を測定した。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表 2 に示す。試料 14 に含まれるバブル型の火山ガラス (最大径 0.6mm) の屈折率 (n) は、1.509-1.512 である。なお屈折率測定の際には、中間型ガラスは量が非常に少ないために検出されなかった。また重鉍物も認められなかった。

5. 考察

IV 区 16m 地点の試料 14 に含まれる火山ガラスは、形態や色調さらに屈折率などから、約 6,300 年前^{*1} に南九州地方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1978) に由来すると考えられる。この試料に含まれる火山ガラスの量が少ないこと、また下位の試料にも同様の火山ガラスが含まれていることなどから、5 層に含まれる火山ガラスは二次的に混入しているものと思われる。

なお、ほかの試料に含まれる無色透明のバブル型ガラスの一部については、ごくわずかながら約 2.4 ~ 2.5 万年^{*1} に始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995) に由来するものも存在するかも知れない。

中間型ガラスについては、量が非常に少ないために詳細に検討することができなかったが、火山ガラスの形態や同じ土層中に含まれる遺物の考古学的な推定年代を考慮すると、約 2,800 ~ 2,900 年前^{*1} に伊豆半島天城火山から噴出し、西方にも広く降灰した天城カワゴ平テフラ (Kg, 葉室, 1978, 町田ほか,

1984) や、約 3,600 年前^{*1} に三瓶火山から噴出した三瓶大平山テフラ (SOh, 松井・井上, 1971, 町田・新井, 1992) に由来している可能性も考えられる。従来、四国地方の縄文時代の示標テフラ層としては、K-Ah がよく知られているが、ほかにこれらのテフラや、さらに約 9,300 年前^{*1} に鬱陵火山から噴出した鬱陵隠岐テフラ (U-OkI, 町田ほか, 1981) も時空指標として有効なのかも知れない。

発掘調査などにおいて、テフラの保存状態の良い細粒の水成堆積物や泥炭層などが検出された際には、これらのテフラが挟在したり、含まれている可能性についても留意されておかれると良い。

6. まとめ

川津六反地遺跡において、火山ガラス比分析と屈折率測定を行った。その結果、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約 6,300 年前^{*1}) に由来する火山ガラスが検出された。その産出状況から、川津六反地遺跡の縄文時代の遺物包含層は K-Ah より上位にあると考えられる。

なお、香川県の後期更新世以降地層からは、ほかにも約 9～9.5 万年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界とずらはら葛原火山灰 (K-Tz, Nagaoka, 1988, 町田ほか, 1983, Machida, 1999)、約 8.4～8.9 万年前に中九州地方の阿蘇火山から噴出した阿蘇 4 火山灰 (Aso-4, 町田ほか, 1985, Machida, 1999)、約 1.6 万年頃に三瓶火山から噴出した三瓶浮布テフラ (SUP, 林・三浦, 1987, 三浦・林, 1991, 町田・新井, 1992) など多くのテフラが検出される可能性があり、産出状況によっては火山灰編年学による考古遺物などの詳細な編年研究が可能となっている。

* 1 放射線炭素 (¹⁴C) 年代。

(文献)

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2—研究対象別分析法」, p.138-149.
- 葉室和親 (1978) 大室山火山群の地質。地質雑, 84, p.433-444.
- 林 正久・三浦 清 (1987) 三瓶火山のテフラ層序とその分布。島根大山陰地域研究 (自然環境), 3, p.43-66.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器 ¹⁴C 年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- Machida, H. (1999) Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan: recent progress. Quat.Res., 38, p.194-201.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- Machida, M. and Arai, F. (1983) Extensive ash falls in and around the Sea of Japan from late Quaternary eruptions. Jour. Volcanol.Geotherm.Res., 18, p.151-164.
- 町田 洋・新井房夫・長岡信治 (1983) 広域テフラによる南関東と南九州の後期更新世海成段丘の対比。日本第四紀学会講演要旨集, no.13, p.45-46.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢 (1985) 阿蘇 4 火山灰—分布の広域性と後期更新世示標層としての意義—。火山, 第 2 集, 30, p.49-70.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 松井整司・井上多津男 (1971) 三瓶火山の噴出物と層序。地球科学, 25, p.147-163.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良 Tn 火山灰 (AT) の ¹⁴C 年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 三浦 清・林 正久 (1991) 中国・四国地方の第四紀テフラ—広域テフラを中心として。第四紀研究, 30, p.339-351.
- Nagaoka, S. (1988) The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geog. Rept., Tokyo Metropol. Univ., 23, p.49-122.

表1 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
IV区 16m	2	0	0	0	0	0	0	250	250
	4	1	0	0	0	0	0	249	250
	5	2	1	0	0	0	0	247	250
	6	1	0	0	0	0	0	249	250
	8	0	0	0	0	0	0	250	250
	10	2	0	1	0	0	0	247	250
	12	1	0	0	0	0	0	249	250
	14	1	1	0	0	1	0	247	250
	16	1	0	0	0	0	0	249	250
	18	1	0	0	0	0	0	249	250
	20	1	0	0	0	0	0	249	250
	22	1	0	0	0	0	0	249	250
	24	1	0	0	0	0	0	249	250
	26	2	0	0	0	0	0	248	250
IV区 25m	1	1	0	0	0	0	0	249	250
	2	2	0	1	0	0	0	247	250
	3	1	0	0	0	0	0	249	250
	5	1	0	0	0	0	0	249	250
	9	0	0	0	0	0	0	250	250

数字は粒子数. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス		重鉱物		
		最大径	屈折率 (n)	組成	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n2)
IV区 16m	22	0.6mm	1.509-1.512	-	-	-

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井, 1972, 1993）による。

図1 IV区南部16m地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

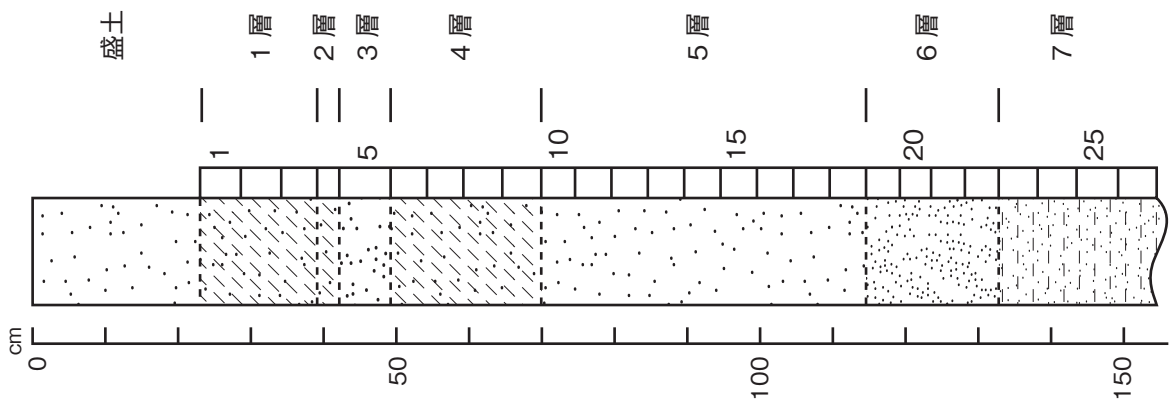


図2 IV区南部25m地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

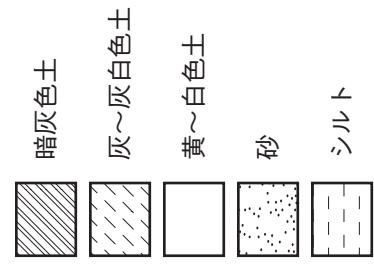
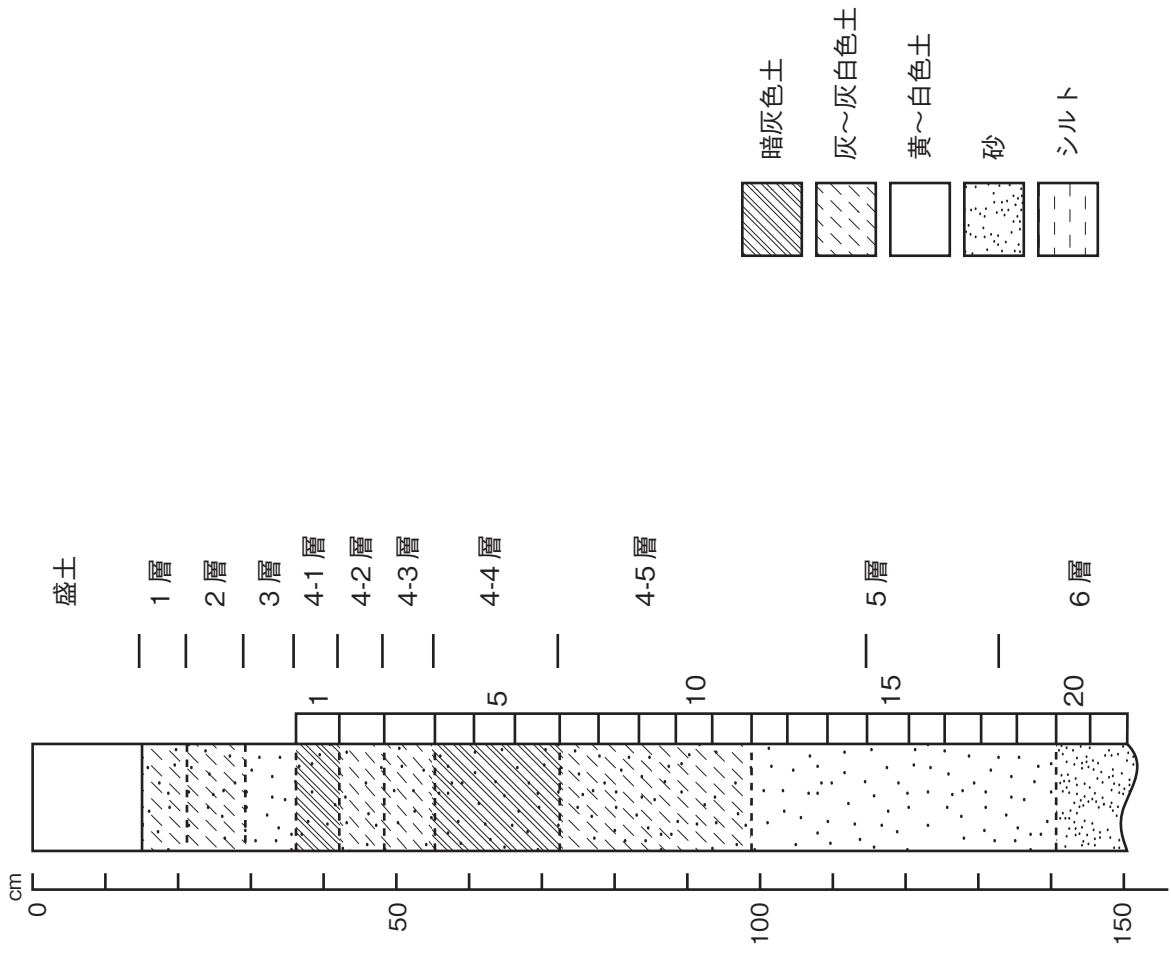


図3 IV区南部16m地点の
火山ガラス比ダイヤグラム

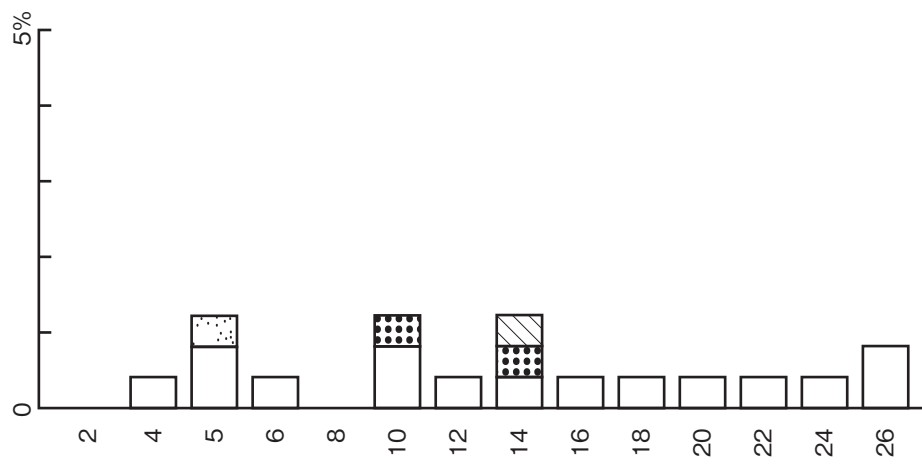
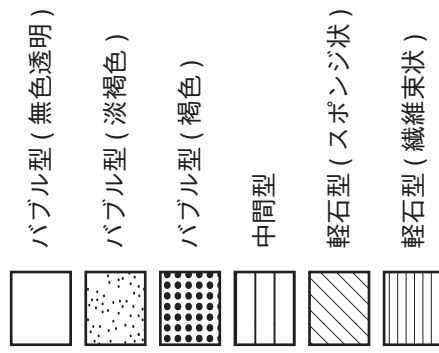
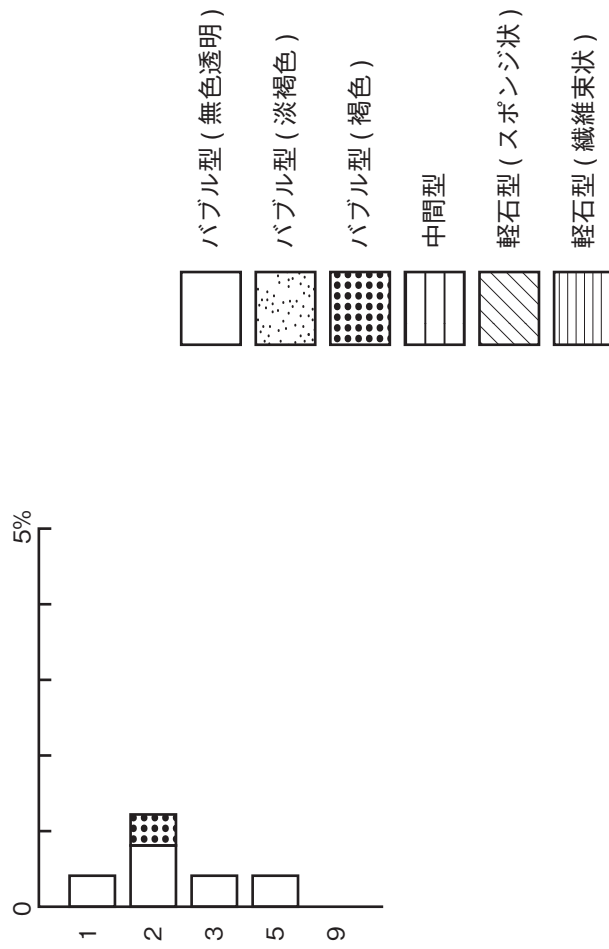


図4 IV区南部25m地点の
火山ガラス比ダイヤグラム



2. 川津六反地遺跡出土試料の放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β 線計数法
No.2	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成 測定時間延長	β 線計数法
No.3	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成 測定時間延長	β 線計数法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)	測定No. (Beta-)
No.1	10390 ± 70	-30.8	10300 ± 70	交点 : Cal BC 10320, : Cal BC 10300, : Cal BC 10160 1 σ : Cal BC 10410 ~ 9950 2 σ : Cal BC 10820 ~ 10800, : Cal BC 10700 ~ 10510, : Cal BC 10450 ~ 9900	153955
No.2	10840 ± 70	-28.2	10790 ± 70	交点 : Cal BC 10940 1 σ : Cal BC 11030 ~ 10850, : Cal BC 10790 ~ 10700 2 σ : Cal BC 11060 ~ 10840, : Cal BC 10800 ~ 10680	153956
No.3	10660 ± 60	-29.7	10580 ± 60	交点 : Cal BC 10840, : Cal BC 10790, : Cal BC 10700 1 σ : Cal BC 10940 ~ 10660, : Cal BC 10540 ~ 10400 2 σ : Cal BC 10960 ~ 10640, : Cal BC 10570 ~ 10380, : Cal BC 10260 ~ 10240	153957

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年 AD）から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際慣例に従って5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース（"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)）により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、較正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ （68%確率）・ 2σ （95%確率）は、較正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

3. 香川県、川津六反地遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

2. 試料

試料は、地表下 4.5 m に堆積する泥炭であり、遺跡の調査担当者により採取されたものである。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1 g に直径約 $40 \mu\text{m}$ のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C ・ 6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W ・ 42KHz ・ 10 分間) による分散
- 5) 沈底法による $20 \mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料 1 g 中のプラント・オパール個数 (試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重, 単位: 10^{-5}g) を乗じて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。換算係数はヨシ属 (ヨシ) は 6.31、ススキ属 (ススキ) は 1.24、ネザサ節は 0.48、クマザサ属 (チシマザサ節・チマキザサ節) は 0.75 である。

4. 所見

検出されたプラント・オパールは、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、シバ属、タケ亜科 (ネザサ節型、クマザサ属型、その他) および未分類等である (表 1)。これらの中では、ヨシ属が比較的高い密度 ($2,200$ 個/g) であり卓越する。このことから、当該層の堆積時は調査地近辺は湿地的環境であり、そこにヨシが生育していたと考えられる。その他のススキ属型、シバ属、ネザサ節型、クマザサ

属型については、極めて低い検出密度であることから、調査地に生育していたのではなく、他所から混入したものと思われる。

文献

杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第 31 号, p.70-83.
 杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -. 考古学
 と自然科学, 17, p.73-85.

表 1 香川県、川津六反地遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個 / g)

分類群 (和名・学名) \ 採取箇所	地表下 4.5 m	
イネ科	Gramineae (Grasses)	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	22
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	4
シバ属	<i>Soysia</i>	4
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type	7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	4
その他	Others	7
未分類等	Unknown	219
プラント・オパール総数		267

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m² · cm)

ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.41
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.05
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type	0.04
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	0.03

4. 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の花粉分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、大東川と城山川によって開析された段丘上に立地する、隣接した遺跡である。川津六反地遺跡からは弥生時代の溝や、縄文時代後期と思われる包含層などが検出されている。川津昭和遺跡からは弥生時代から古墳時代の溝や、平安時代後半の溝などが報告されている。また、本遺跡周辺には旧石器時代から中世にかけての遺跡が点在し、大東川流域に多くの集落が営まれていたことが確認されている。

今回は縄文時代・弥生時代における遺跡周辺の古植生復元、および栽培植物の特定を目的として花粉分析・イネ属同定を実施する。

1. 試料

分析に用いた試料の詳細を表1に示す。川津六反地遺跡の試料は縄文時代から弥生時代後期の層準から採取されており、川津昭和遺跡の試料は弥生時代後半・古墳時代前半から平安時代後半にかけての層準から採取されている。分析点数は2遺跡合わせて7点である。

表1 分析試料一覧

遺跡名	試料番号	調査区名	採取層位	土質	推定年代
川津六反地遺跡	1	Ⅲ-4区	第2面 SD314 下層	黄褐色混褐灰色粗砂混粘土	弥生時代後期
	2	Ⅲ-4区	第2面 SD315 下層	黄灰色粘土	弥生時代後期
	3	Ⅳ区	第3面包含層	灰色混黄色砂混粘土	縄文時代後期?
	4	Ⅳ区	ベース泥炭層	黒色粗砂混粘土	縄文時代
川津昭和遺跡	5		第1面 SD501 上層	黄灰色粘土	弥生時代後期から古墳時代前期
	6		第1面 SD501 中層	黄灰色粘土	弥生時代後期から古墳時代前期
	7		第1面 SD502	褐灰色粘土	平安時代後半

2. 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理の順に物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。なお、総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

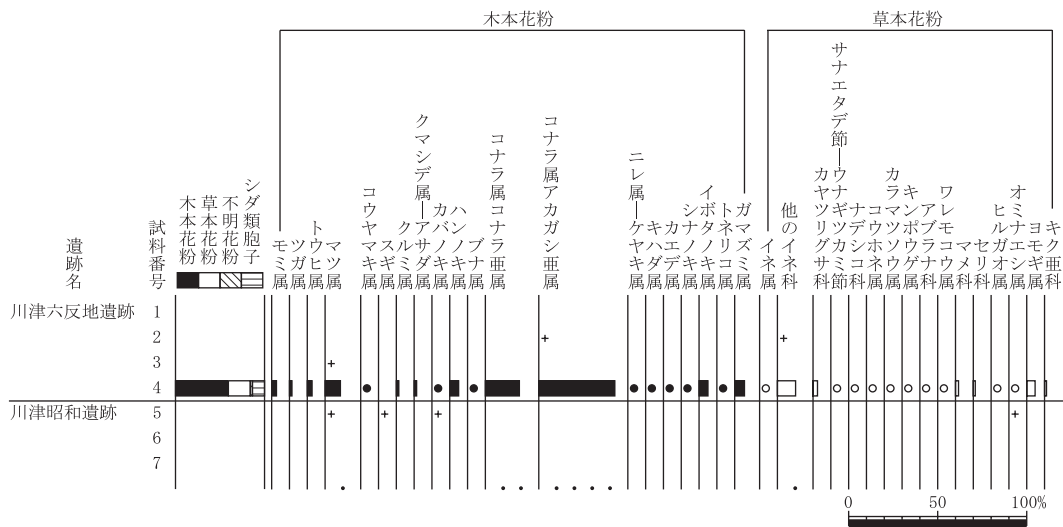
イネ属同定はノマルスキー微分干渉装置を用い、検出されるイネ科花粉の表面微細構造・発芽孔の肥厚の状況・粒径などを考慮して、中村（1974）を参考にしてイネ属と他のイネ科に分類した。結果は花粉分析と合わせて図表に示す。

3. 結果

結果を表2・図1に示す。花粉・胞子の保存状態は極めて悪く、定量解析を行うことができた試料は、

表2 花粉分析結果

種類	上段：遺跡名 下段：試料番号						
	川津六反地遺跡				川津昭和遺跡		
	1	2	3	4	5	6	7
木本花粉							
モミ属	-	-	-	6	-	-	-
ツガ属	-	-	-	3	-	-	-
トウヒ属	-	-	-	6	-	-	-
マツ属複雑管束亜属	-	-	1	5	1	-	-
マツ属(不明)	-	-	1	14	-	-	-
コウヤマキ属	-	-	-	1	-	-	-
スギ属	-	-	-	-	1	-	-
クルミ属	-	-	-	3	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	-	-	-	3	-	-	-
カバノキ属	-	-	-	1	1	-	-
ハンノキ属	-	-	-	11	-	-	-
ブナ属	-	-	-	2	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	42	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属	-	1	-	94	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	2	-	-	-
キハダ属	-	-	-	1	-	-	-
カエデ属	-	-	-	1	-	-	-
シナノキ属	-	-	-	1	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	11	-	-	-
トネリコ属	-	-	-	1	-	-	-
ガズミ属	-	-	-	12	-	-	-
草本花粉							
イネ属	-	-	-	1	-	-	-
他のイネ科	-	1	-	37	-	-	-
カヤツリグサ科	-	-	-	9	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	-	1	-	-	-
ナデシコ科	-	-	-	1	-	-	-
コウホネ属	-	-	-	3	-	-	-
カラマツソウ属	-	-	-	1	-	-	-
キンボウゲ属	-	-	-	1	-	-	-
アブラナ科	-	-	-	3	-	-	-
ワレモコウ属	-	-	-	1	-	-	-
マメ科	-	-	-	6	-	-	-
セリ科	-	-	-	4	-	-	-
ヒルガオ属	-	-	-	1	-	-	-
オミナエシ属	-	-	-	1	1	-	-
ヨモギ属	-	-	-	17	-	-	-
キク亜科	-	-	-	4	-	-	-
不明花粉	-	-	-	9	-	-	-
シダ類胞子							
シダ類胞子	5	11	3	50	7	11	1
合計							
木本花粉	0	1	2	220	3	0	0
草本花粉	0	1	0	91	1	0	0
不明花粉	0	0	0	9	0	0	0
シダ類胞子	5	11	3	50	7	11	1
総計(不明を除く)	5	13	5	361	11	11	1



出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料から産出した種類を示す。

図1 花粉化石群集の層位分布

川津六反地遺跡の試料番号4のみであった。花粉の産出状況は木本花粉の割合が高く、主にコナラ属アカガシ亜属を中心として、コナラ亜属・マツ属・ハンノキ属・イボタノキ属・ガマズミ属などが認められている。草本類ではイネ科を中心に、ヨモギ属などが検出された。また、1個体だけではあるがイネ属も同定された。そのほかの試料からは、花粉・シダ類孢子化石ともほとんど検出されなかった。

4. 考察

川津六反地遺跡では、縄文時代と推定されるIV区ベース泥炭層から花粉化石が多産した。その群集組成は木本類の割合が高く、アカガシ亜属が多産し、コナラ亜属・イボタノキ属・ガマズミ属などを伴っている。多産するアカガシ亜属は暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の主要構成要素である。また、イボタノキ属・ガマズミ属などは、林縁部に多く見られる種類を含む分類群であり、クルミ属・ハンノキ属・ニレ属－ケヤキ属などは、湿地林や河畔林を形成する種類を含む分類群である。これらのことから当時の遺跡周辺には、アカガシ亜属を中心とした、種類構成の豊富な暖温帯林が成立していたと考えられる。同様の結果は、丸亀平野の下川津遺跡や高松平野の林・坊城遺跡などでも報告されている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1990,1993）。また、丸亀平野の西部に位置する善通寺市の永井遺跡でも、縄文時代の層準から出土した種実遺体同定と木材の樹種同定結果から、アカガシ亜属の多産とともに、暖温帯の二次林性落葉広葉樹が多産することが報告されている（古市, 1990；能代・鈴木, 1990）。一方、産出した草本類では、イネ科が多産するとともにヨモギ属などを伴っている。また、栽培植物の特定を目的としてイネ属同定を行ったが、花粉全体の保存状態が悪く、イネ科花粉の外膜が分解を受けているものが多く認められた。イネ属同定は花粉外膜の表面構造が重要な根拠の1つとなっていることから、今回の試料については統計的な評価ができなかった。ただし、保存状態の良いイネ科には栽培種のイネ属が僅かであるが認められた。この結果から稲作が行われていた可能性を指摘することはできないが、このイネ属が本層堆積時に取り込まれたものだとすれば、縄文時代晩期には既にイネが存在したことになる。この点については、生物攪乱等による上位層準からの落ち込みなど、堆積状況を含めて再評価する必要がある。

縄文時代晩期のイネに由来する化石の検出報告は、高松平野に位置する林・坊城遺跡の調査報告があるが、水田遺構など耕作を決定づける遺構は確認されておらず、堆積物の年代観も含め慎重な検討が必要であるとされている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993）。縄文時代における稲作の検証については、考古学的にも課題が多く、本遺跡のイネ属についても植物珪酸体分析や種実同定など他の分析も併用し、発掘調査成果との総合的な解析・検討を行っていくことが必要と考える。また、本層準以外の試料からは花粉化石がほとんど検出されなかったが、これは後述するように堆積時・後の風化作用による分解・消失に起因する可能性が強く、風化に対する抵抗性の強い植物珪酸体による検証が必要である。

川津昭和遺跡においては、花粉化石・シダ類孢子化石がほとんど産出しなかった。弥生時代後期から古墳時代前期と考えられている第1面 SD501 上層より、マツ属・スギ属・カバノキ属が認められただけであった。一般的に花粉・シダ類孢子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも、針葉樹に由来する花粉やシダ類孢子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村, 1967；徳永・山内, 1971）。花粉が常に酸化状態に置かれている場所では、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている。今回、花粉化石がほとんど産出しなかったのは、各土層堆積時に取り込まれた花粉が、その後の経年変化により分解・消失したことに起因していると思

われる。

(引用文献)

古市光信(1990)善通寺市永井遺跡(縄文時代)産出の植物遺体(種子)について. 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊「永井遺跡(附編・観察表・写真図版編)」, p.814-818., (財)香川県埋蔵文化財調査センター.

中村純(1967)「花粉分析」, 232p., 古今書院.

中村純(1974)イネ科花粉について, とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

能代修一・鈴木三男(1990)善通寺市永井遺跡の木材化石群集. 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊「永井遺跡(附編・観察表・写真図版編)」, p.823-864., (財)香川県埋蔵文化財調査センター.

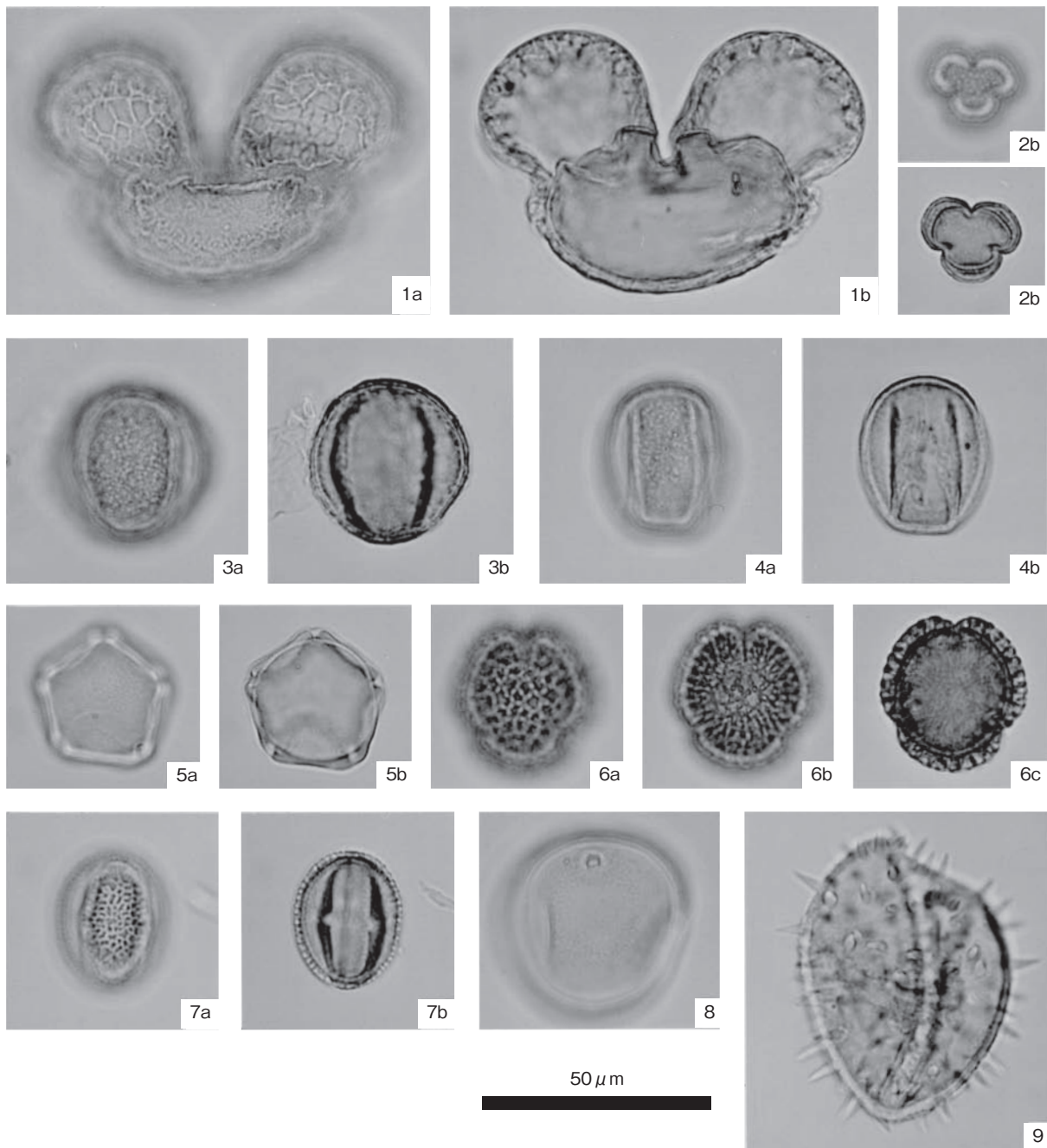
パリノ・サーヴェイ株式会社(1990)下川津遺跡における花粉・珪藻分析委託報告. 瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ「下川津遺跡-第2分冊-」, p.479-518., 香川県境界委員会・財団法人香川県埋蔵文化財センター・本州四国連絡橋公団.

パリノ・サーヴェイ株式会社(1993)花粉分析とプラント・オパール分析. 高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊「林・坊城遺跡」, p.239-263., 香川県埋蔵文化財研究会.

徳永重元・山内輝子(1971)花粉・孢子. 「化石の研究法」, p.50-73., 共立出版株式会社.

外山秀一(1996)日本列島の稲作の始まり. 「季刊考古学」, 56, p. 39-43., 雄山閣出版.

図版 花粉化石



- 1 マツ属 (試料番号 4)
- 2 ヨモギ属 (試料番号 4)
- 3 コナラ属コナラ亜属 (試料番号 4)
- 4 コナラ属アカガシ亜属 (試料番号 4)
- 5 ハンノキ属 (試料番号 4)

- 6 イボタノキ属 (試料番号 4)
- 7 ガマズミ属 (試料番号 4)
- 8 イネ科 (試料番号 4)
- 9 コウホネ属 (試料番号 4)

第2節 平成24年度自然科学分析

1. 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡のテフラ分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

川津昭和遺跡・川津六反地遺跡は、香川県坂出市川津町、丸亀平野北東隅の南北3km、東西1.5kmほどの楔状を呈する平野部のほぼ中央部に位置する遺跡である。ここでは、川津昭和遺跡・川津六反地遺跡の発掘調査で検出されたガラス質テフラについて、火山ガラスの形態分類と屈折率測定を行い、テフラを同定した。

2. 試料と方法

分析試料は、川津昭和遺跡東壁から採取された2試料、川津六反地遺跡IV区南壁とS3群S17下層から採取された2試料の合計4点である(表1)。

表1 テフラ試料とその特徴

分析No.	遺跡	調査区	位置	層位	色調
1	川津昭和		東壁深堀	14層	黄灰色(2.5Y6/1)砂質粘土
2			東壁深堀	15層	灰黄色(2.5Y7/2)砂質粘土
3	川津六反地	IV区	南壁	6層	浅黄色(2.5Y8/3)～白灰色(2.5Y7/1)砂質粘土
4			S3群S17	下位層	浅黄色(2.5Y8/6)～黄灰色(2.5Y6/1)砂質粘土

各テフラ試料は、以下の方法で処理した。試料は、自然含水状態で13～20g程度を秤量し、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)の4枚の篩を重ね、湿式篩分けを行った。各試料の4φ篩残渣について、各篩残渣を乾燥して秤量した後、4φ篩残渣の一部について重液(テトラブロモエタン、比重2.96)を用いて重鉍物と軽鉍物に分離した。

重液分離した軽鉍物は、簡易プレパラートを作製し、石英や長石のほか、町田・新井(2003)の分類基準に従って火山ガラスの形態分類を行い同定・計数した。また、重鉍物は、封入剤カナダバルサムを用いてプレパラートを作製し、単斜輝石(Cpx)、斜方輝石(Opx)、角閃石(Ho)、磁鉄鉍(Mag)を同定・計数した。

さらに、各4φ篩残渣中の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従って温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率を測定した。

3. 結果と考察

以下に、各遺跡試料について、湿式篩分け結果、軽鉍物および重鉍物組成の特徴、火山ガラスの屈折率について述べる。

表2 テフラ試料の湿式篩分け結果

分析No.	遺跡	試料 No.	湿潤重量 (g)	砂粒分の粒度組成 (重量 g)				含砂率 (%)	砂粒分の粒度組成 (4φ以上に対する重量 %)			
				1φ	2φ	3φ	4φ		1φ	2φ	3φ	4φ
1	川津昭和	東壁深堀 14層	19.87	0.0458	1.6819	7.8758	3.5291	66.09	0.35	12.81	59.97	26.87
2		東壁深堀 15層	13.56	0.0017	0.0763	3.1692	3.2951	48.25	0.03	1.17	48.44	50.37
3	川津六反地	IV区南壁 6層	15.39	1.6675	1.1290	0.6469	0.4422	25.25	42.91	29.06	16.65	11.38
4		IV区 S3 群 S17 下層	19.85	0.0695	0.3038	0.8119	1.2437	12.24	2.86	12.51	33.43	51.20

表3 各試料の軽鉱物と鉱物組成

分類群 試料No.	遺跡	試料 No.	軽鉱物 (粒数)										重鉱物 (粒数)							
			石英 (Qu)	長石 (Pl)	黒雲母 (Bi)	不明 (Opq)	火山ガラス					合計	単斜輝石 (Cpx)	斜方輝石 (Opx)	ジルコン (Zr)	普通角閃石 (Ho)	磁鉄鉱 (Mag)	不明 (Opq)	合計	
							平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	破砕型 (c0)									
1	川津昭和	東壁深堀 14層	66	78	7	45		4				4	200	4	8	3	151	22	12	200
2		東壁深堀 15層	79	86	1	32			1	1		2	200	13	4	1	142	31	9	200
3	川津六反地	IV区南壁 6層	74	92	1	31		1		1		2	200	20	15	4	91	51	19	200
4		IV区 S3 群 S17 下層	81	71		47				1		1	200	19	11	12	83	53	22	200

図1 火山ガラスの屈折率測定結果

[川津昭和遺跡 (分析 No.1, No.2)]

湿式篩分けを行った結果、分析 No.1 では 4φ 以上の含砂率 (%) が 66.09% と高く、3φ 残渣の占める割合が高い。一方、分析 No.2 では含砂率 (%) が 13.56% と低く、3~4φ の占める割合が高い (表2)。

軽鉱物では、分析 No.1 は、石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、バブル型 Y 字状

ガラス (b2) が計数された。また、分析 No.2 では、同様に石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、軽石型繊維状ガラス (p1) やスポンジ状ガラス (p2) が計数された (表3)。

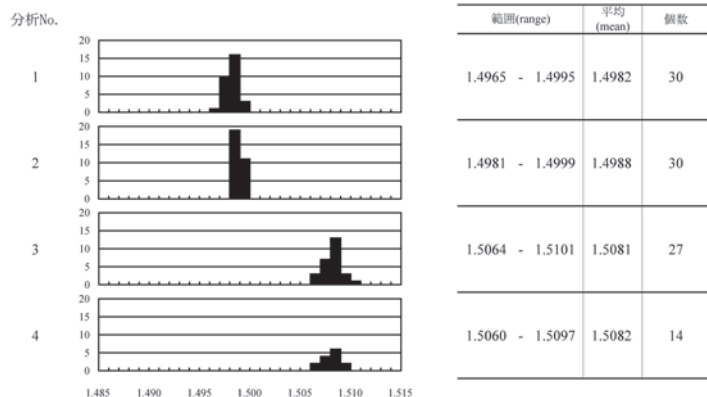
火山ガラスの屈折率測定では、分析 No.1 は、範囲 (range) が 1.4965-1.4995 の狭い範囲に集中し、平均値が 1.4982 であった。また、分析 No.2 は、範囲 (range) が 1.4981-1.4999 の狭い範囲に集中し、平均値が 1.4988 であった (図1)。

これらの火山ガラスは、火山ガラスの屈折率から、いずれも始良 Tn テフラ (AT) と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく、単純に降灰層準を指標するとは限らない。

[川津六反地遺跡 (分析 No.3, No.4)]

湿式篩分けを行った結果、分析 No.3 では 4φ 以上の含砂率 (%) が 25.25% と低く、1~2φ 残渣の占める割合が高い。一方、分析 No.4 では含砂率 (%) が 12.24% とさらに低く、3~4φ の占める割合が高い (表2)。

軽鉱物では、分析 No.3 は、石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、バブル型



No.1: 川津昭和遺跡 No.2: 川津昭和遺跡 No.3 川津六反地遺跡 No.4 川津六反地遺跡

Y字状ガラス (b2) と軽石型スポンジ状ガラス (p2) が計数された。また、分析 No.4 は、同様に石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス (p2) が計数された (表 3)。

火山ガラスの屈折率測定では、分析 No.3 は、範囲 (range) が 1.5064-1.5101 の範囲に集中し、平均値が 1.5081 であった。また、分析 No.4 は、範囲 (range) が 1.5060-1.5097 の範囲に集中し、平均値が 1.5082 であった (図 1)。

これらの火山ガラスは、火山ガラスの屈折率から、いずれも喜界アカホヤテフラ (K-Ah) と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく、単純に降灰層準を指標するとは限らない。

以下に、町田・新井 (2003) にまとめられている始良 Tn テフラ (AT) の特徴について記述する。

【始良 Tn テフラ (AT)】

始良 Tn テフラ (AT) は、南九州始良カルデラを噴出源とし、約 2.6 ～ 2.9 万年前に噴出した降下軽石、巨大火砕流堆積物とその降下火山灰をさす。一連の噴火は、まず大規模なプリニアン噴火にはじまり、多量の大隅降下軽石をもたらした。つづいて水蒸気マグマ噴火による火砕流、妻屋火砕流堆積物が噴出し、わずかな時間間隙をおいて破局的噴火により入戸火砕流堆積物と呼ばれる膨大なテフラが噴出した。始良 Tn 火山灰は、主にこの火砕流の上部を占めていた多量の火山灰が風に送られて広大な範囲に降下堆積したものである。

このテフラは、日本列島をすっぽりおおい、日本海全域、朝鮮半島、東シナ海、太平洋四国海盆を広くおおっている。分布面積は $4 \times 10^6 \text{km}^2$ 以上で、1,400km の遠方でも認められる。

また、このテフラは、輝石流紋岩質の火山ガラスに富むテフラで、部層にかかわりなくきわめて均質である。火山ガラスは A-Os (大隅降下軽石) の場合、ほとんど軽石型であるが、他の部層はいずれも透明なバブル型が主体をなす。火山ガラスの屈折率は $n=1.498-1.501$ (最頻値 1.499-1.500) で、きわめて狭い範囲を占め、均質な巨大マグマが一気に噴出したことを暗示する。

このテフラの噴出年代は、2.6 ～ 2.9 万年前とされている。

【喜界アカホヤテフラ (K-Ah)】

喜界アカホヤテフラは、南九州喜界カルデラから約 7,300 年前に噴出した降下軽石、火砕流堆積物とその降下火山灰をさす。このテフラは、輝石デイサイト質のガラス質テフラで、部層により大差なくほぼ均質である。バブル型の多い火山ガラスは、始良 Tn テフラ (AT) のそれに比べると、薄手で淡褐色を帯びるものがあり、屈折率もかなり高く、広いレンジをもつ ($n=1.508-1.516$)。もっとも、完全に水和していないガラスの継目などガラスの厚い部分の屈折率は低く、1,500 前後のまでもある。南九州では多数の遺跡で K-Ah の上下から縄文土器が発見され (新東, 1978)、また中九州の熊本県や大分県でも文化層との関係が観察されつつある。それによると、K-Ah の上位と下位の火山灰土から出土する土器は、型式を異にするようである。下位から出土する土器は塞の神、吉田、前平、石坂などの諸型式の土器で、上位から出土するもののうち、最も古い土器は轟式および曾畑式である。新東 (1978) は前者の土器群は縄文早期に入るもので、後者のそれは縄文前期に入るものとし、K-Ah を両期の境界にあると考えた。

4. おわりに

テフラ分析を行った結果、川津昭和遺跡の試料（分析 No.1, No.2）は、いずれも始良 Tn テフラ（AT）と同定された。また、川津六反地遺跡の試料（分析 No.3, No.4）は、いずれも喜界アカホヤテフラ（K-Ah）と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく降灰層準を指標するとは限らないと考えられる。

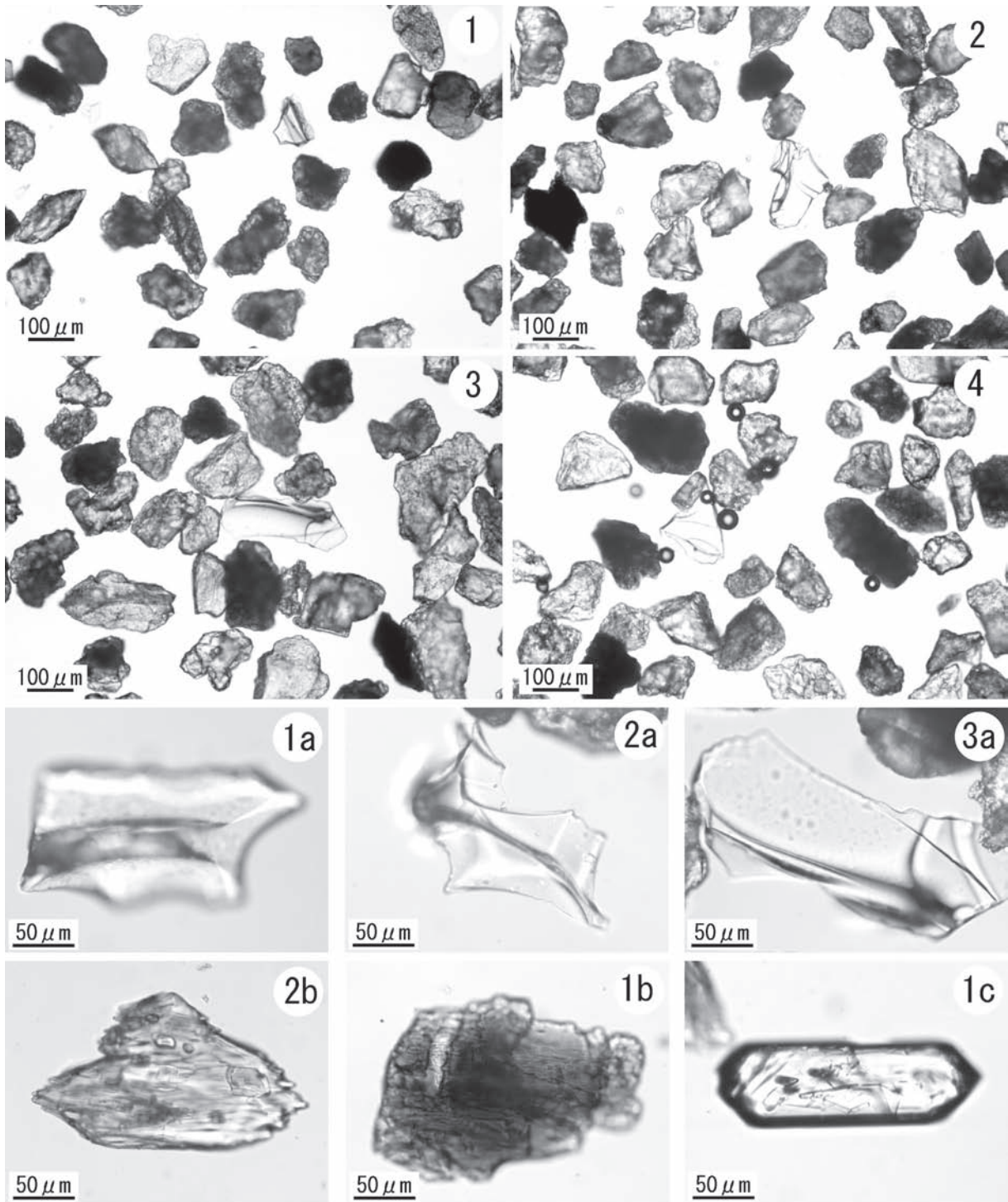
（引用文献）

町田 洋・新井房夫（2003）新編 火山灰アトラス . 336p, 東京大学出版会 .

新東晃一（1978）南九州の火山灰と土器形式. どんめん, 19, 40-54.

横山卓雄・檀原 徹・山下 透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定. 第四紀研究, 25, 21-30.

図版 1 テフラ分析を行った試料中の粒子顕微鏡写真



1. 分析 No.1(川津昭和遺跡)の軽鋳物 2. 分析 No.2(川津昭和遺跡)の軽鋳物
 3. 分析 No.3(川津六反地遺跡)の軽鋳物 4. 分析 No.4(川津六反地遺跡)の軽鋳物
 1a. バブル型 Y 字状ガラス (No.1) 2a. バブル型 Y 字状ガラス (No.2)
 3a. バブル型 Y 字状ガラス (No.3) 2b. 単斜輝石 (No.2) 1b. 角閃石 (No.1) 1c. ジルコン (No.1)

2. 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林絃一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

川津六反地遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。

試料は、IV 区東壁深堀トレンチの 5g 層から採取された生の木材 3 点である（PLD-22663 ~ 22665）。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-22663	調査区: IV 区 位置: 東壁深堀トレンチ 層位: 5g 層	種類: 生材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)
PLD-22664	調査区: IV 区 位置: 東壁深堀トレンチ 層位: 5g 層	種類: 生材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)
PLD-22665	調査区: IV 区 位置: 東壁深堀トレンチ 層位: 5g 層	種類: 生材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)

3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲

は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。

表 2 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年代較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-22663	-27.73 \pm 0.13	10320 \pm 32	10320 \pm 30	10422BC(3.8%)10408BC 10354BC(0.9%)10350BC 10265BC(7.4%)10240BC 10204BC(56.1%)10091BC	10431BC(7.8%)10386BC 10378BC(10.2%)10312BC 10275BC(77.4%)10044BC
PLD-22664	-27.61 \pm 0.13	10747 \pm 34	10745 \pm 35	10729BC(68.2%)10644BC	10792BC(95.4%)10617BC
PLD-22665	-29.39 \pm 0.17	11349 \pm 35	11350 \pm 35	11333BC(68.2%)11226BC	11375BC(95.4%)11176BC

4. 考察

以下、小林 (2008)、小林編 (2008)、工藤 (2012) などを参照し、年代測定結果と縄文土器編年との対応関係を整理する。

PLD-22663 の材は、 ^{14}C 年代が 10320 \pm 30 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) が 10431 ~ 10044 cal BC (12380 ~ 11993 cal BP) で、おおむね縄文時代草創期の多縄文系土器群の時期に相当する。

PLD-22664 の材は、 ^{14}C 年代が 10745 \pm 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 10792 ~ 10617 cal BC (12741 ~ 12566 cal BP) で、おおむね縄文時代草創期の爪形文系土器群から多縄文系土器群の時期に相当する。

PLD-22665 の材は、 ^{14}C 年代が 11350 \pm 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 11375 ~ 11176 cal BC (13324 ~ 13125 cal BP) で、おおむね縄文時代草創期の爪形文系土器群から多縄文系土器群の時期に相当する。

(参考文献)

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.
 小林達雄編 (2008) 総覧縄文土器. 1322p, アム・プロモーション.
 工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—. 373p, 神泉社.
 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
 Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

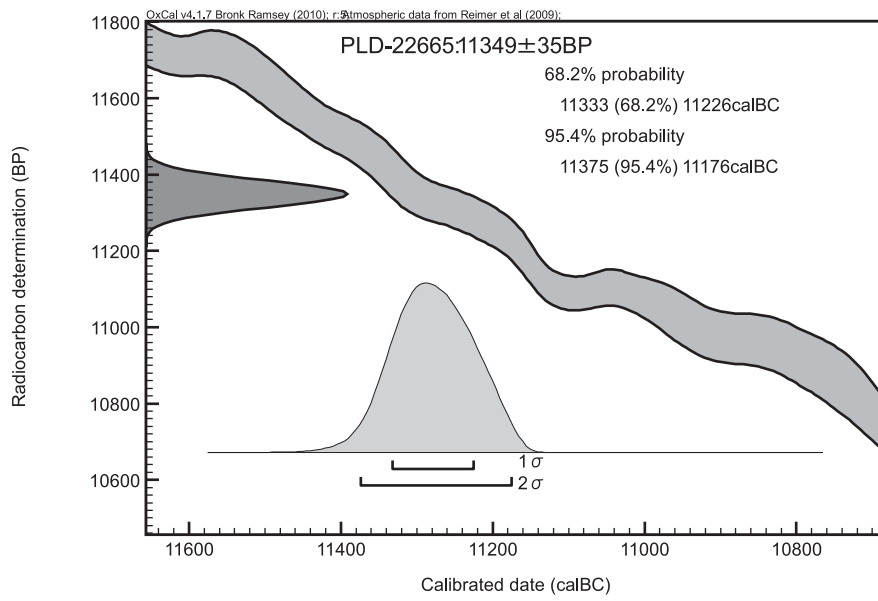
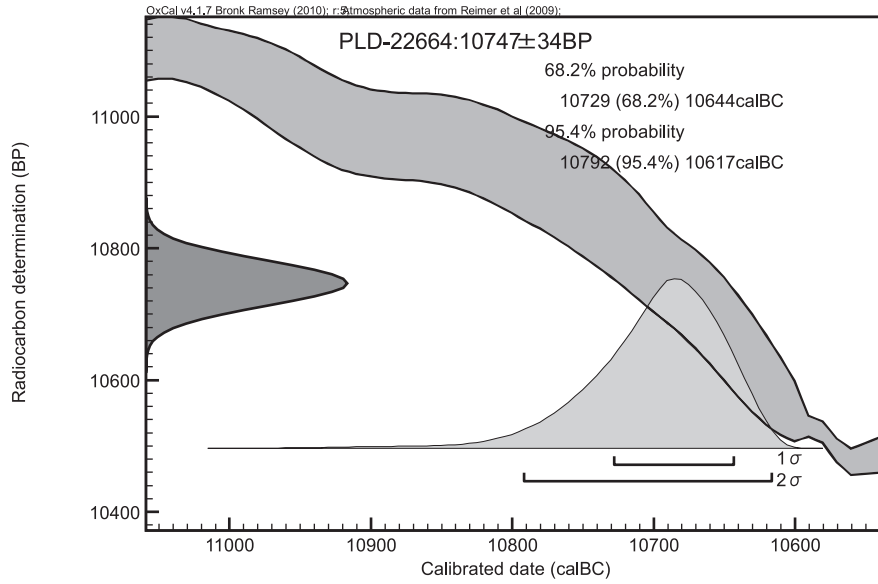
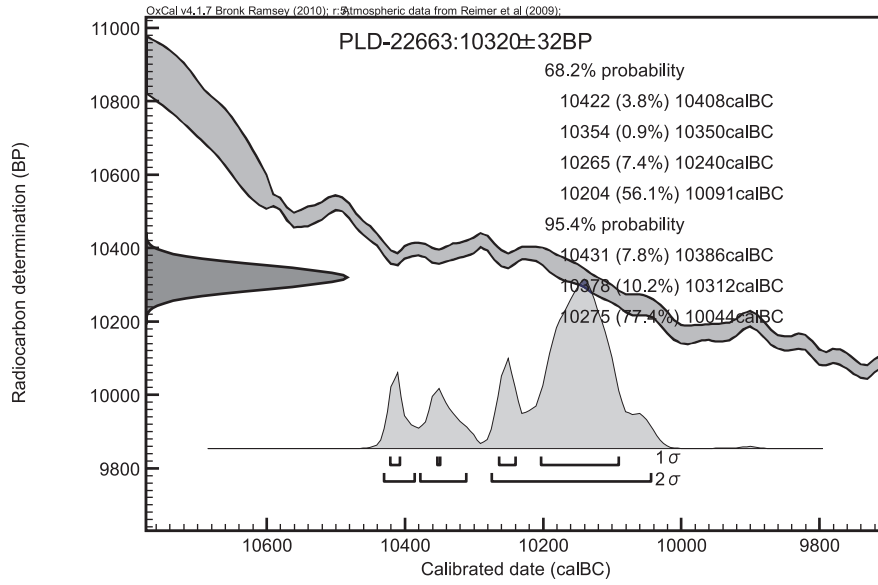


図 1 曆年較正結果

3. 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

香川県丸亀平野北東隅、大東川下流右岸部では、川津昭和遺跡と川津六反地遺跡が隣接している。両遺跡では、平成 12 年度に花粉分析や放射性炭素年代測定等が行われており、縄文時代晩期にイネ属が産出するという結果や、堆積物の一部が縄文時代草創期の年代を示すという結果が得られている。今回は、平成 12 年度に行われた分析の結果を補強する目的で、新たに花粉分析とプラント・オパール分析を行った。以下では、花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、試料の堆積時期や遺跡周辺の古環境、イネについての検討を行った。

2. 試料と方法

分析試料は、川津昭和遺跡 から採取された 2 点と、川津六反地遺跡から採取された 9 点の、計 11 試料である。分析試料一覧を表 1 に示す。なお、川津六反地遺跡のⅣ区東壁の堆積時期については、放射性炭素年代測定の結果や、後述する花粉分析の結果から、縄文時代早期より前とした。

表 1 分析試料一覧表

遺跡名	調査区	遺構	層位	時期	土質	花粉分析	プラント・オパール分析	
川津昭和遺跡		SD501		弥生時代中期後葉	灰黄褐色粗砂質土	○	○	
		SD502	12 層	11 世紀後半	褐灰色粘土	○	○	
川津六反地遺跡	Ⅳ区	東壁	SK407	6 層	弥生時代中期後半?	黒色粘土	○	
			5g 層	縄文時代早期より前	黄色混灰白色粘質土	○	○	
	3d 層	褐灰色粘土	○		○			
	3h 層	灰オリーブ色粘土	○		○			
	3e 層	明黄褐色粘土	○		○			
	3f 層	黒褐色粘土	○		○			
	3i 層	褐灰色粘土	○		○			
	3j 層	黒褐色粘土	○		○			
5o 層	灰色粘土	○						

2-1. 花粉分析

花粉分析に用いた試料は、11 点である (表 1)。これらの試料を用い、以下の手順にしたがって花粉分析を行った。

試料 (湿重量約 3 ~ 4g) を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え 10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え 1 時間放置する。水洗後、比重分離 (比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離) を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎) を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が 200 を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。プレパラート数枚を検鏡しても樹木花粉が 200 に満たなかった試料については、プレパラート 1 枚の全面を検鏡するにとどめた。また、保存状態の良い花粉化石を選んで単体標本 (PLC.804 ~ 811) を作製し、写真を図版 1 に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

プラント・オパール分析に用いた試料は、9点である（表1）。これらの試料を用い、以下の手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで、写真を図版2に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

検鏡した結果、11試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉28、草本花粉16、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計47である。これらの花粉・胞子の一覧表を表2に、分布図を図1に示した。図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。なお、川津六反地遺跡の東壁3d層と3h層については、数枚のプレパラートを検鏡しても、樹木花粉が200個に届かなかったものの、参考データとして、図には示した。さらに、川津昭和遺跡のSD501とSD502、川津六反地遺跡の東壁3e、3f、3i、3j、5o層については、試料に含まれる花粉量が非常に少ないため、図では産出した分類群を*で表示するにとどめた。

十分な量の花粉化石が産出した試料は、川津六反地遺跡のSK407と東壁5g層で、川津昭和遺跡からは花粉化石がほとんど産出しなかった。川津六反地遺跡のSK407と東壁5g層では、ともにコナラ属コナラ亜属の産出が最も多く、SK407では51%、東壁5g層では68%の産出率を示す。その他では、ツガ属やマツ属複維管束亜属、コナラ属アカガシ亜属などが両試料から各数%の割合で産出している。SK407では草本花粉の産出が少ない。東壁5g層ではヨモギ属が29%の産出率を示す。その他では、水生植物のコウホネ属（東壁5g層）やミズワラビ属（東壁3d、3h、3e層）のわずかな産出が見られる。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表3）、それらの分布を図2に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、シバ属、キビ族、ウシクサ族の8種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、900～19,000個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体は、川津六反地遺跡の東壁5g層以外の全ての試料から産出しており、65,600～315,200個である。ササ属型機動細胞珪酸体は、川津昭和遺跡のSD501以外の全ての試料から産出しており、3,000～10,400個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体は、川津六反地遺跡の東壁5g層と3d層、3e層以外の試料から産出しており、900～2,000個である。ヨシ属機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、900～21,700個である。シバ属機動細胞珪酸体は川津六反地遺跡の東壁5g層のみで産出が見られ、900個である。キビ族機動細胞珪酸体とウシクサ族機動細胞珪酸体

はすべての試料から産出しており、それぞれ 31,200 ~ 106,100 個、8,500 ~ 130,300 個である。

表2 産出花粉一覧

学名	和名	川津昭和			川津六反地							
		SD501	SD502	IV区 SK407	IV区東壁							
					5g層	3d層	3h層	3e層	3f層	3i層	3j層	5o層
樹木												
<i>Abies</i>	モミ属	-	-	1	2	2	1	-	-	1	-	-
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	-	14	6	62	55	-	-	4	2	-
<i>Picea</i>	トウヒ属	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	-	-	12	5	9	11	-	-	-	-	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	-	10	2	38	13	-	-	4	7	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	-	9	1	1	1	-	-	-	-	-
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	-	2	4	1	-	-	-	-	-	-
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	1	-	105	136	24	14	-	-	2	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	-	-	12	9	3	5	-	-	-	-	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-
<i>Castanopsis-Pasania</i>	シイノキ属-マテバシイ属	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	-	-	5	3	1	-	-	-	-	-	-
<i>Euonymus</i>	ニシキギ属	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Vitis</i>	ブドウ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Parthenocissus</i>	ツタ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Araliaceae	ウコギ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
草本												
Gramineae	イネ科	-	1	6	13	8	6	-	-	-	-	-
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nuphar</i>	コウホネ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-
Ranunculaceae	キンポウゲ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Geranium</i>	フウロソウ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Labiatae	シソ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Patrinia</i>	オミナエシ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	10	98	-	-	-	-	-	-	1
Tubuliflorae	キク亜科	-	-	-	6	2	1	-	-	-	-	-
Liguliflorae	タンポポ亜科	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
シダ植物												
<i>Ceratopteris</i>	ミズワラビ属	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-
monolate type spore	単条溝孢子	-	-	4	5	7	12	5	1	3	3	11
trilate type spore	三条溝孢子	-	-	11	1	12	13	-	-	9	6	-
Arboreal pollen	樹木花粉	1	-	207	200	143	102	-	-	11	9	-
Nonarboreal pollen	草本花粉	-	1	17	137	17	8	-	-	-	-	1
Spores	シダ植物孢子	-	-	15	6	20	26	6	1	12	9	11
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	-	1	239	343	180	136	6	1	23	18	12
Unknown pollen	不明花粉	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-

表3 試料 1g 当りのプラント・オパール個数

		イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
川津昭和遺跡	SD501	3,800	66,200	0	1,900	1,900	0	31,200	43,500
	SD502	19,000	169,700	5,000	1,000	3,000	0	96,800	114,800
川津六反地遺跡	5g層	900	0	10,400	0	21,700	900	40,600	8,500
	3d層	8,900	65,600	8,000	0	2,000	0	62,600	75,500
	3h層	1,900	89,600	3,700	900	900	0	43,800	47,600
	3e層	6,600	137,100	4,700	0	5,700	0	80,300	87,000
	3f層	10,100	315,200	3,000	2,000	7,100	0	106,100	130,300
	3i層	6,100	184,300	4,100	1,000	3,000	0	57,700	122,500
	3j層	11,900	298,700	6,000	2,000	1,000	0	78,700	109,500

4. 試料の堆積時期について

川津六反地遺跡のIV区東壁 5g層の花粉分析結果では、コナラ属コナラ亜属が優占する花粉組成であった(図1)。一方、川津六反地遺跡における平成12年度実施の花粉分析では、縄文時代と考えられているIV区ベース泥炭層でコナラ属アカガシ亜属が優占する結果が得られている。また、高松市の居石遺跡においても、縄文時代晩期～古墳時代前期と考えられる堆積物の下部にコナラ属コナラ亜属が優占する層準がわずかに見られるものの、縄文時代晩期～古代ではコナラ属アカガシ亜属が優占する時期が続いている(鈴木, 1995)。コナラ属アカガシ亜属が優占し始める時期は、香川県綾歌郡綾川町で採取されたボーリングコア(松居ほか, 2012)の分析結果によれば、10740-11180 cal BPの直前からであり、瀬戸内地域の頭島で採取されたボーリングコア(Fujiki et al., 1998)ではアカホヤ火山灰降下あたりで、いずれも縄文時代早期である。また、両コアともコナラ属アカガシ亜属が優占する以前は、コナラ属コナラ亜属が優占している。これらの花粉分析結果に照らし合せると、今回の川津六反地遺跡のIV区東壁 5g層の花粉組成は、コナラ属コナラ亜属が優占し、コナラ属アカガシ亜属の産出が少ないという点で、縄文時代早期よりも前の時期の植生を反映している可能性が考えられる。IV区東壁 5g層で採取された自然木3点の放射性炭素年代測定の結果は、いずれも縄文時代草創期の時期を示しており(放射性炭素年代測定の項参照)、花粉分析結果と整合的である。

弥生時代中期後半?とされている川津六反地遺跡のIV区SK407の花粉組成も、IV区東壁 5g層と同じくコナラ属コナラ亜属を主体としており(図1)、この試料についても、縄文時代早期より前の堆積物である可能性を考慮する必要があると思われる。

5. 遺跡周辺の古環境について

川津六反地遺跡では、プラント・オパール分析の結果を見ると、IV区東壁の下位層でネザサ節型機動細胞珪酸体の産出が目立っている(図2)。よって、縄文時代早期より前の一時期には、ネザサ節型のササ類が遺跡周辺に分布を広げていたと思われる。ネザサ節型のササ類は日の当たる明るい場所に生育するため、この時期には遺跡周辺に明るい場所が多かったと思われる。ネザサ節型機動細胞珪酸体は上位層に向かって減少傾向にあり、時期を経るに従って明るい開けた場所が減少し、遺跡周辺のネザサ節型のササ類は分布を狭めていったと考えられる。

ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出傾向とやや同調している分類群に、ウシクサ族がある。ウシクサ族にはススキやチガヤなど乾燥的環境に生育する種と、オギなど湿地的環境に生育する種が含まれるが、明るい開けた場所に生育するネザサ節型機動細胞珪酸体と同じく上位層に向かって減少している点を考

慮すると、ススキやチガヤなどの乾燥的環境に生育する種が存在していた可能性がある。

また、川津六反地遺跡のⅣ区東壁では、キビ族機動細胞珪酸体の産出も多い。キビ族には栽培種と野生種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態で両者を区別するのは難しい。キビ族機動細胞珪酸体は今回分析した試料の全てから産出しているため、栽培種か野生種かは不明であるものの、縄文時代早期より前には、遺跡周辺にキビ族が生育していたと思われる。

さらに、Ⅳ区東壁では湿地的環境に生育するヨシ属の継続した産出が見られるため、遺跡周辺に湿地的環境が継続して存在していたと考えられる。花粉分析においても水生植物のコウホネ属（川津六反地遺跡Ⅳ区東壁 5g 層）やミズワラビ属（川津六反地遺跡Ⅳ区東壁 3d、3h、3e 層）が産出しており（図 1）、遺跡周辺における湿地的環境の存在を示唆している。特に、Ⅳ区東壁 5g 層ではヨシ属の産出が多くなるので、Ⅳ区東壁 5g 層の時期には、ネザサ節型のササ類が生育できるような明るい場所にかわって、湿地的環境の場所が遺跡周辺に分布を拡大していた可能性がある。

ここで、花粉化石の保存状態について検討してみたい。花粉は一般的に乾燥に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会が多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。前述したように、川津六反地遺跡では、ネザサ節型のササ類が生育できるような明るい場所が優勢な時期があったと考えられるため、試料中の花粉化石の保存状態が悪い原因としては、遺跡周辺が乾燥的環境であったために花粉化石が分解、消失してしまった可能性が考えられる。現に、花粉分析とプラント・オパール分析の産出傾向を見ると、ネザサ節型機動細胞珪酸体が減少するにつれて、花粉化石が産出するようになっており、ネザサ節型機動細胞珪酸体がほとんど産出しないⅣ区東壁 5g 層においては、十分な量の花粉化石が産出している。このように、花粉化石の保存状態には堆積当時の環境が影響していると考えられる。

川津昭和遺跡では、プラント・オパール分析の結果、SD501 と SD502 の両方において、川津六反地遺跡とほぼ同様な結果を示している（図 2）。すなわち、ネザサ節型とキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体の産出が目立つため、溝周辺にはこれらの分類群が分布を広げていたと思われる。また、ヨシ属の産出も見られ、溝周辺の一部には湿地的環境も存在していたであろう。しかしながら、ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出が多く、遺跡周辺では乾燥的環境が優勢であったと推測され、花粉化石はほとんど産出していない。

6. イネについて

平成 12 年度に行われた川津六反地遺跡の花粉分析では、縄文時代晩期からイネ属花粉が検出されており、縄文時代における稲作の検証については各種分析も併用し、発掘調査成果との総合的な解析・検討が必要と述べられている。今回はイネをより詳細に区別できるプラント・オパール分析を行い、全ての試料からイネ機動細胞珪酸体を検出できた。ここで注目すべきは川津六反地遺跡のⅣ区東壁から産出したイネ機動細胞珪酸体である。前述のように、川津六反地遺跡のⅣ区東壁の堆積物は縄文時代早期より前に堆積した可能性があるため、イネ機動細胞珪酸体がⅣ区東壁堆積時に取り込まれたとすれば、縄文時代早期より前にイネが存在していたことになる。しかしながら、縄文時代におけるイネ機動細胞珪酸体の従来の産出例と比べ、時期的にも非常にかけ離れているので、今回のイネ機動細胞珪酸体の産出については、攪乱や上層からの落ち込みなど、堆積状況の慎重な検討が必要であろう。

(引用文献)

Fujiki, T., Morita, Y. and Miyoshi, N. (1998) Vegetational history of the area around Kashira Island in the Inland Sea, Okayama Prefecture, western Japan. *Quarterly Journal of Geography*, 50, 189-200.

松居俊典・石塚正秀・此松昌彦 (2012) 香川県綾川町ボーリングの花粉分析による最終氷期以降の古植生. *第四紀研究*, 51, p35-43.

鈴木 茂 (1995) 居石遺跡の花粉化石. 高松市教育委員会編「居石遺跡」: 173-191, 高松市教育委員会・建設省四国地方建設局.

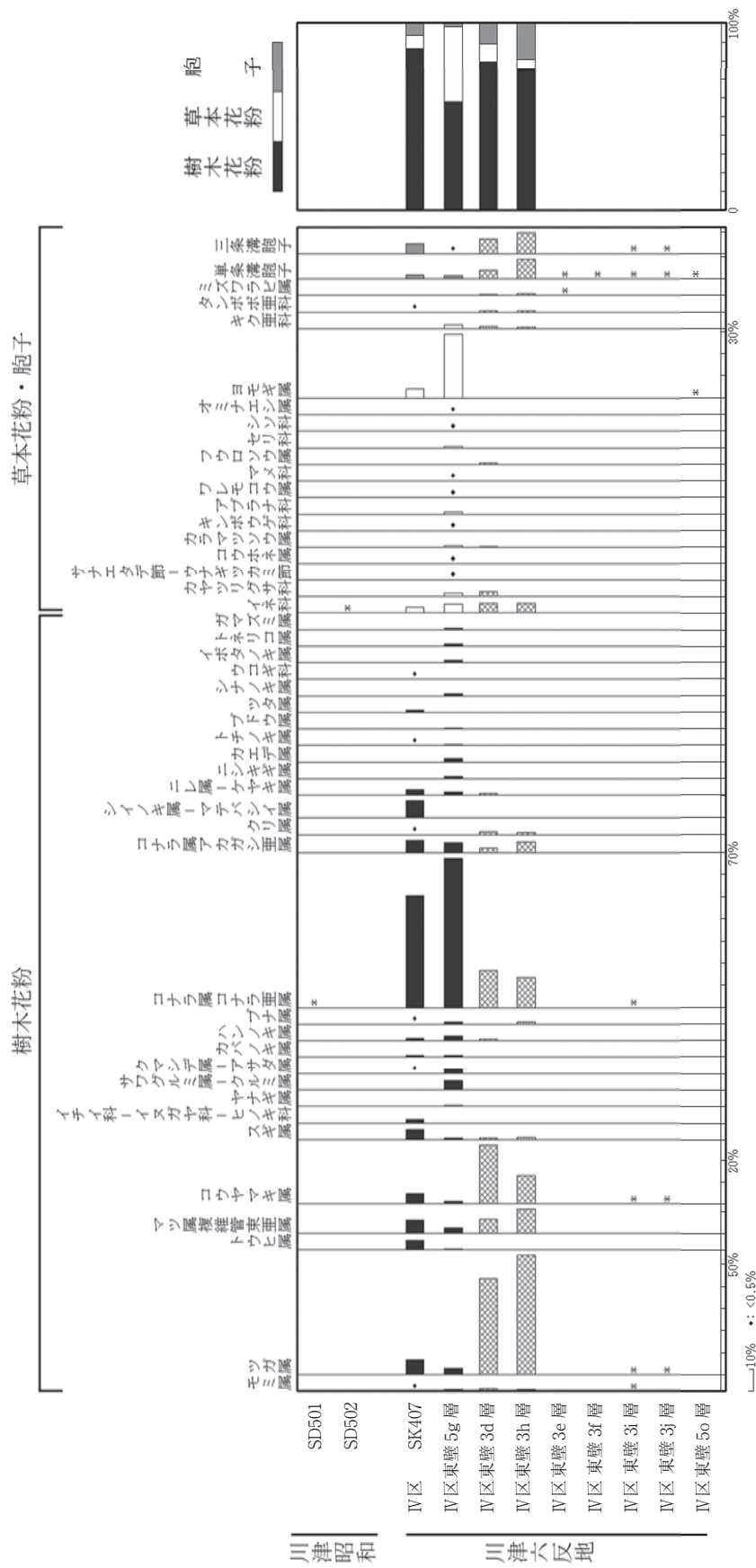


図1 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・孢子は産出花粉孢子総数を基数として百分率で算出した。
 *は樹木花粉 100 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

☒ は樹木花粉 100 個以上、200 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

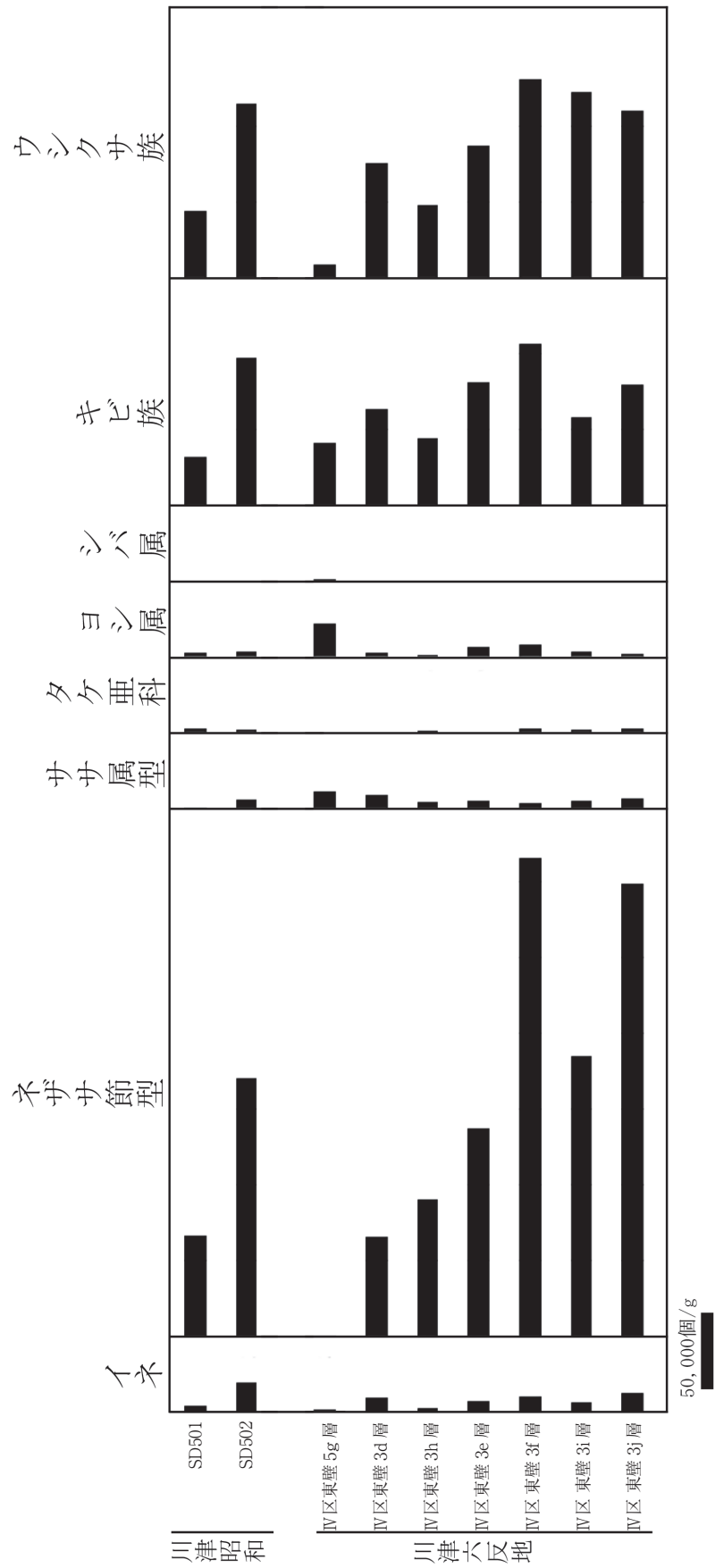
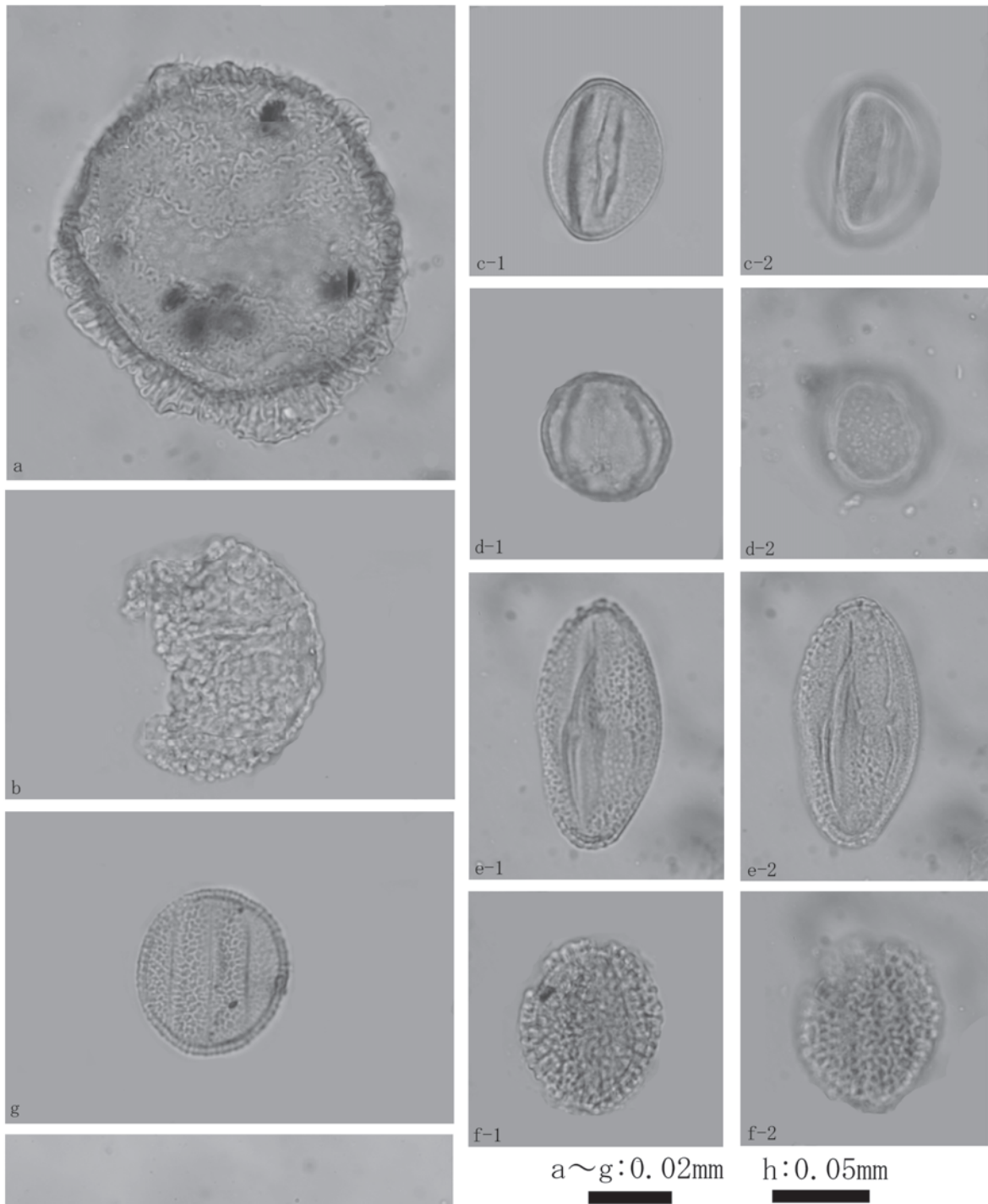


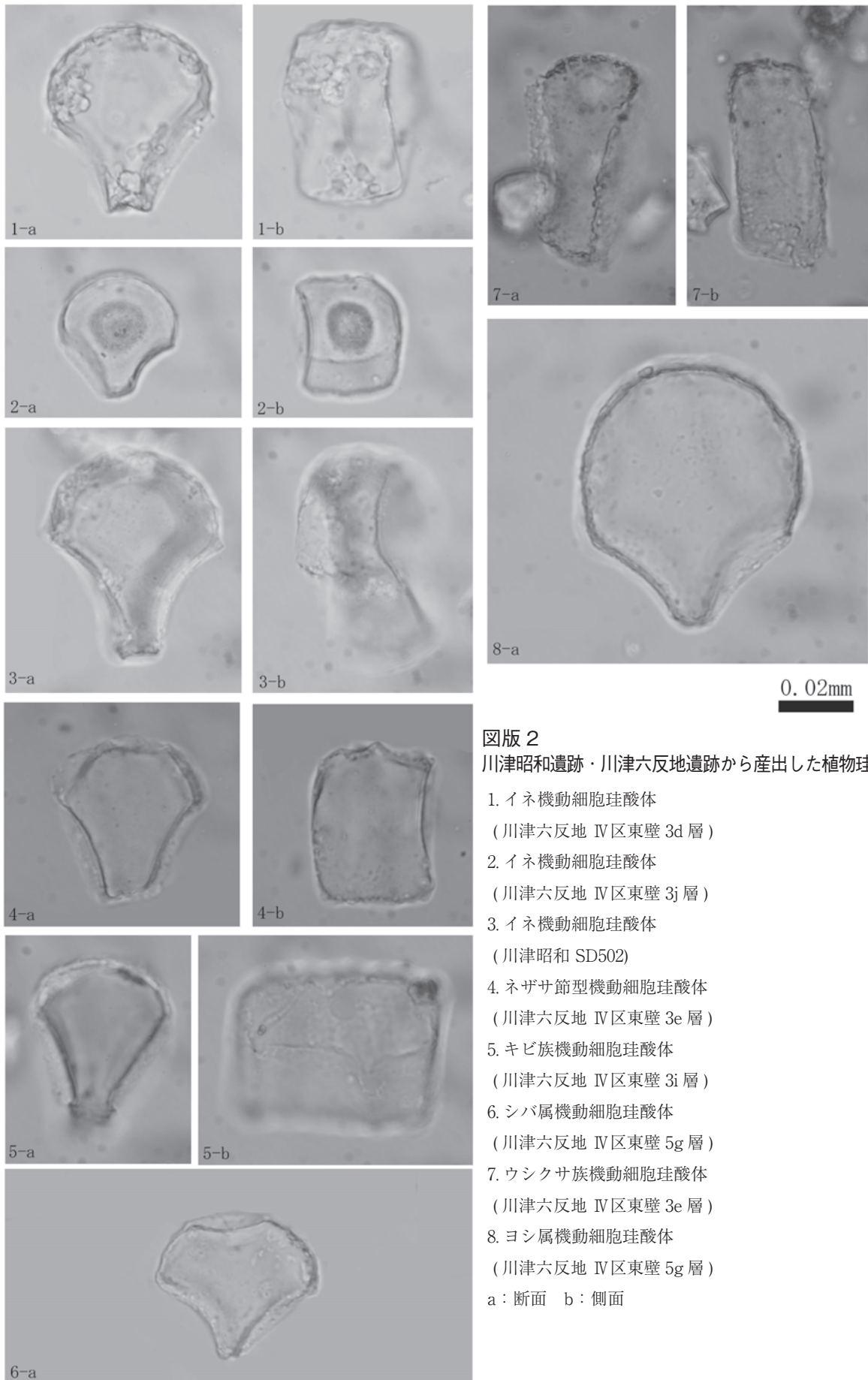
図2 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡における植物珪酸体分布図



図版 1

川津昭和遺跡・川津六反地遺跡から産出した花粉・孢子

- a. ツガ属 (川津六反地 IV区 SK407 PCL.804)
- b. コウヤマキ属 (川津六反地 IV区東壁 3d層 PCL.805)
- c. コナラ属アカガシ亜属 (川津六反地 IV区 SK407 PCL.806)
- d. コナラ属コナラ亜属 (川津六反地 IV区東壁 5g層 PCL.807)
- e. ツタ属 (川津六反地 IV区 SK407 PCL.808)
- f. アブラナ科 (川津六反地 IV区東壁 5g層 PCL.809)
- g. シソ科 (川津六反地 IV区東壁 5g層 PCL.810)
- h. ミズワラビ属 (川津六反地 IV区東壁 3e層 PCL.811)



0.02mm

図版 2
川津昭和遺跡・川津六反地遺跡から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 3d 層)
2. イネ機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 3j 層)
3. イネ機動細胞珪酸体
(川津昭和 SD502)
4. ネザサ節型機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 3e 層)
5. キビ族機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 3i 層)
6. シバ属機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 5g 層)
7. ウシクサ族機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 3e 層)
8. ヨシ属機動細胞珪酸体
(川津六反地 IV区東壁 5g 層)

a: 断面 b: 側面

4. 川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の産地分析

有限会社 遺物材料研究所

1. はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成のサヌカイト・黒曜石など石器原材が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられる。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』金山の金山東地区産サヌカイト石材の伝播は旧石器時代～弥生時代で、時代により異なるが、中・四国地方を中心に近畿、東海、北陸、九州地方に伝搬している。金山は全山サヌカイトで埋め尽くされていると言っても過言ではなく。金山にはゴローと呼ばれる風化したサヌカイト割れ片の密集地区が見られ、崖錐堆積地区とか先史人の原石採取一次加工址など推測されてきた。現在までに金山東地点採取の原石で金山東群が、また金山西地点採取の原石で金山西群に成分組成によって分類できることを証明してきた。

研究目的は、金山の何処の地点のサヌカイトが西日本各地に伝搬したのかを明らかにすることにある。金山の原石採取地点の各原石の元素組成の特徴を反映させる方法とし、一つの遺物を分析したとき、同時に何個の何処の原石・遺物群に同定されるか産地組み合わせを系統的に求めて、遺物と同じ組成の原石であれば、同じ組み合わせ結果を示す。この原石の産出地点が遺物の原石産地と判定する。この組み合わせによる遺物伝播発源地判定法は全く新しい考え方による方法である。

2. 産地分析の方法

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなど主観的要素が入った事象を十分条件の代用にすると産地分析は中途半端なものとなり、結果とし

て遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きくB、C、D・・・の産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。そこで、考えられるのは、可能なかぎり地球上の全ての原産地（A、B、C、D・・・）の原石群と遺物を比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを証明すればそれが十分条件となり、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは各々の観察者で分類基準が異なるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかに左右され、比較した産地が少なれば信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分の元素組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分の元素組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT²乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ元素組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は香川県坂出市川津町六反地に位置する川津六反地遺跡出土のサヌカイト製遺物で産地分析の結果が得られたので報告する。

3. サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

日本各地の調査した安山岩（サヌカイト、サヌキトイド）の産地同定を求める指標として、従来か使用しているK/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの値を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、主に西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題にのぼる産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図1にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質な原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると246個の原石群に分類でき、その結果を表1に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出市、高松市に位置する金山・五色台地域では、多数の地点から良質なサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる（図2）。丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材であり善通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地である金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、金山東南群、金山南群、金山南露頭群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の10個の群に分かれ、これらの地域外の産地では城山群および双子山群に分かれた。これら金山・

五色台地区の原石群は相互に似たものが多く、これらを明確に区別するために、新たに、新元素比のCa/Si、Ca/K、Ti/K、Rb/Fe、Fe/Zr、Sr/Zr、Sr/Zr、Si/Feから区別しようとする原石群同士が最も明確に区別できる組み合わせを選んでホテリングのT 2乗検定により弁別した。また、ガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、さらに大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なることを明らかにした。また、金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される(表2)。さらに大阪府和泉・岸和田産地の礫層(表3)にも見られる。また和歌山県梅原産地礫層(表4)からもサヌカイト円礫が採取される。長い年月の間にこれらが金山・五色台地域から流れ着いたのではないと思われる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。一遺跡10個以上の遺物を分析し、表3のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、岩屋産地、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

4. 結果と考察

遺跡から出土したサヌカイト製石器、石片は、風化のため表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製遺物は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析において水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、実際には影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

分析した遺物の分析結果を表5に示した。遺物の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためK/Caの一変量だけを考えると、分析番号119735番の遺物はTi/Caの値が0.228で、金山東群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.227 ± 0.006 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から0.16 σ 離れている。ところで金山東群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.16 σ のずれより大きいものが87ヶある。すなわち、この遺物が、金山群の原石から作られていたと仮定しても、0.16 σ 以上離れる確率は87%であると言える。だから、金山東群の平均値から0.16 σ しか離れていないときには、この遺物が金山東群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を白峰群に比較すると、白峰群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.262 ± 0.005 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から7 σ 離れている。これを確率の言葉で表現すると、白峰群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から7 σ 以上離れている確率は、約一千万分の一であると言える。このように、一千万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、白峰群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は金山東群に87%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから金山東産地の原石が使用されていると同定され、さらに白峰群に対しては0.00008%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから白峰産原石

でないと同定される」。遺物が金山東群と一致したからと言っても、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（金山東群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の246個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて金山東産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群では、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、仮にA群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少ずつれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する(4、5)。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サヌカイト製のものは246個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省略しているだけであり、実際には246個の群全てについて計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、金山東産原石と判定された遺物について、白峰産原石とか佐賀県多久産、香川县城山、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表6に記入した。原石群を作った原石試料は直径2cm以上で精度良く分析される。遺物は、大きさ、形がさまざままで、これらの影響により分析値が少しは変化していることを推測し、判定の信頼限界を0.1%に設定した。ここで大切なことは、遺物材料研究所で行った結果で、金山東群と判定された遺物を使って、先史時代の交流を遺物石材から考察するときには、表1に記入した246個の中の金山諸群以外の原石産地および金山東産原石を使用していない遺跡と交流がなかったと言うことを証明している点である。金山産地から近い位置の遺跡では先史人は金山産地に近い範囲のみでしか交流がなかったと仮定して、遺物と比較する産地を金山・五色台など主な産地だけで十分であると考え、遺物の原材産地を求め、金山産原石が使用されているとの結果は、先史時代の交易を一部の範囲に限定することである（広い地域の範囲の安山岩と比較していないから、広い範囲との交流は言えない、即ち日本の限定的地域にのみ有効で、石器の様式が共通する広い地域では通用しない結果である）。考古学者の主観的な石器の様式分類が狭い範囲に限定されていたとしても、分析された石器がもつ自然科学的結果が何処までの範囲に通用するかが、考古学の交易を考える上に非常に重要で、自分の主観的考察が満足されれば良いとの狭い了見では真の考古学的研究とは言えない。他の広い交易範囲を考えている考古学者にも通用する産地分析結果が必要である。論外は、一致法と称して、金山産原石と遺物石材の組成が一致すれば他の産地の石材と一致しないと考えることで、一致しないと評価するには実際に比較し確認するしかない。比較して確認した判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

本研究で調査した金山の遺物散布地点より採取した原石の元素組成の特徴を反映させる方法として一つの遺物を分析したとき、同時に何箇所かの原石・遺物群に同定されるか産地組み合わせ系統的に求めて

遺物の特徴とし、各原石産出地点の中で、遺物と同じ組み合わせの結果を示す地点の原石が使用されていると判定する。組み合わせ産地として。以下に組み合わせに用いる原石群を示す。

- 1：金山東群は東麓の東1地点の転礫でつくる。東2地点の転礫と同じ組成で、金山東南群と共に同定されることが多い。
- 2：金山西群は西麓の転礫でつくる。
- 3：金山東南群は、金山南地区を代表する原石群として本研究で作った群で金山東、金山西群に低い確率で同定された原石で作る。従って同時に、金山東、金山西群などと同定される。
- 4：金山南群は金山南1地点の7層（基盤層）の非加工原石の中の金山露頭群群・西群に低い確率で同定される原石で作る。同時に金山西群と同定される場合が多い。
- 5：金山南露頭（3図5）より採取した原石で金山露頭群を作った。金山西群と高確率で一致する原石が多い。
- 6：金山北群は金山北1地点2層の非加工原石の中で金山東、金山東南群に低い確率で同定される原石で作ったため、同時に金山東、金山東南群と同時に同定される場合が多い。
- 6：城山群は城山産原石から作った原石群で、金山西と酷似した組成を示す。
- 7：松ノ木遺物群は高知県・松ノ木遺跡で使用されているサヌカイトで、同じ組成のサヌカイトは鳥根県の遺跡で確認されている。

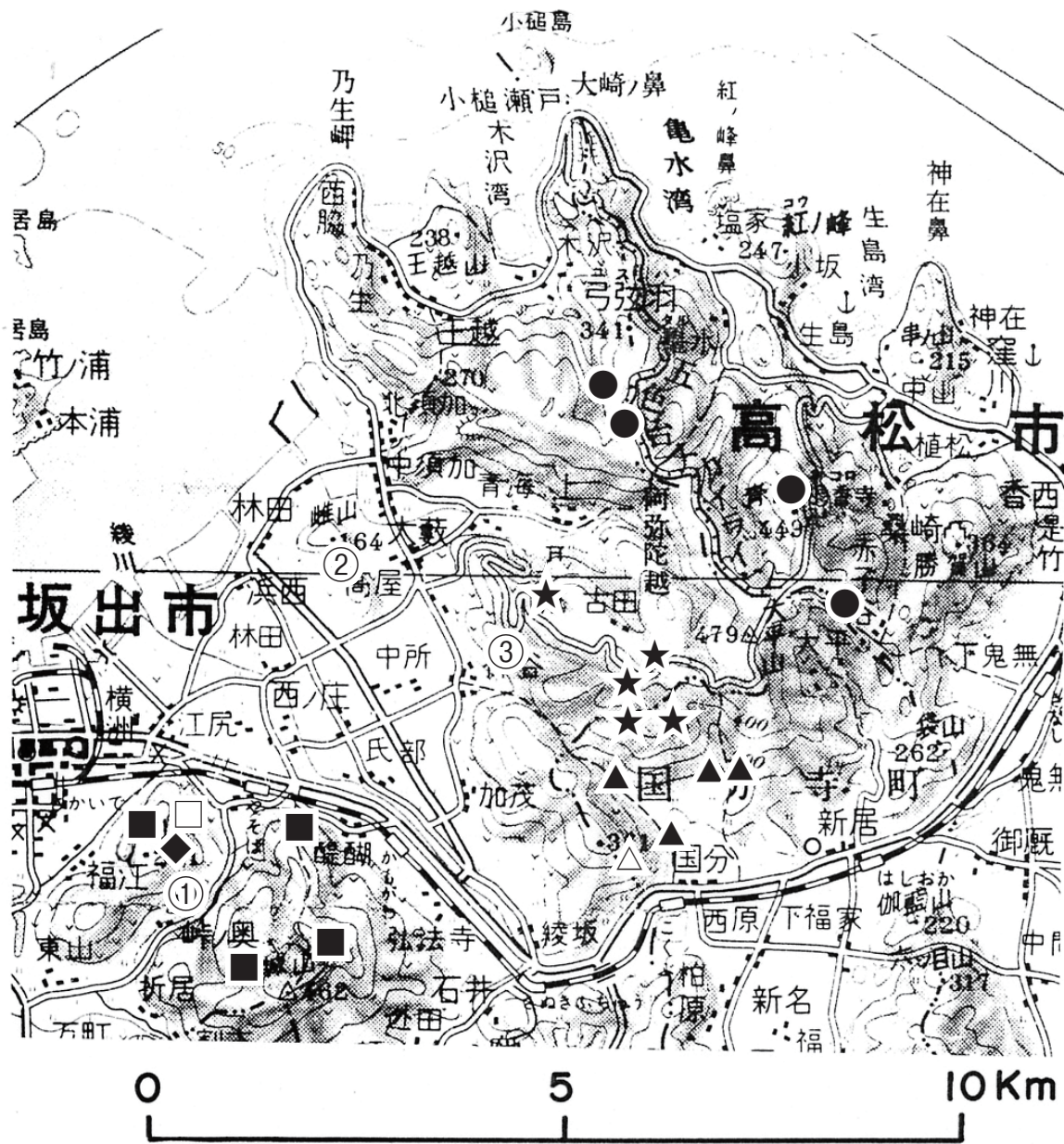
以上各地点を代表する原石群を作り、これら原石群が伝播した遺跡でどの様な組み合わせで同定されるかを定量的にホテリングのT2乗検定を行いその結果から、金山サヌカイト産地の調査した何処の地点から採取した原石が分析した遺跡に伝播しているか推測し表6に示した。産地同定の結果、金山東1地点（3図東1）、金山東2地点（3図東2）金山東南地点（3図◎）、金山南1地点（3図南1）、金山西（3図■）で採取された原石が表6に示す川津六反地遺跡に伝播していたことが推測された。また、城山、国分寺、蓮光寺地域のサヌカイトの使用も確認されている。分析番号119735番の遺物は風化が激しく、エアブラシで風化面が完全に除去されなかった可能性があり、一部の元素比値は、金山東に高確率で一致するが、相関を考慮した8元素比での同定では原石産地地点は特定できなかった。分析番号119728、119734番の遺物は中国山地の冠山地の飯山・針山地区産原石が使用されている。香川県の遺跡で飯山産原石使用ナイフ型石器が櫃石島遺跡から出土している。今回の分析結果から、川津六反地遺跡が中国山地の生活情報を入手し、また川津六反地遺跡の生活情報が中国山地、飯山産地地域に伝搬した可能性を推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

（参考文献）

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1980), 考古学と物理化学。学生社

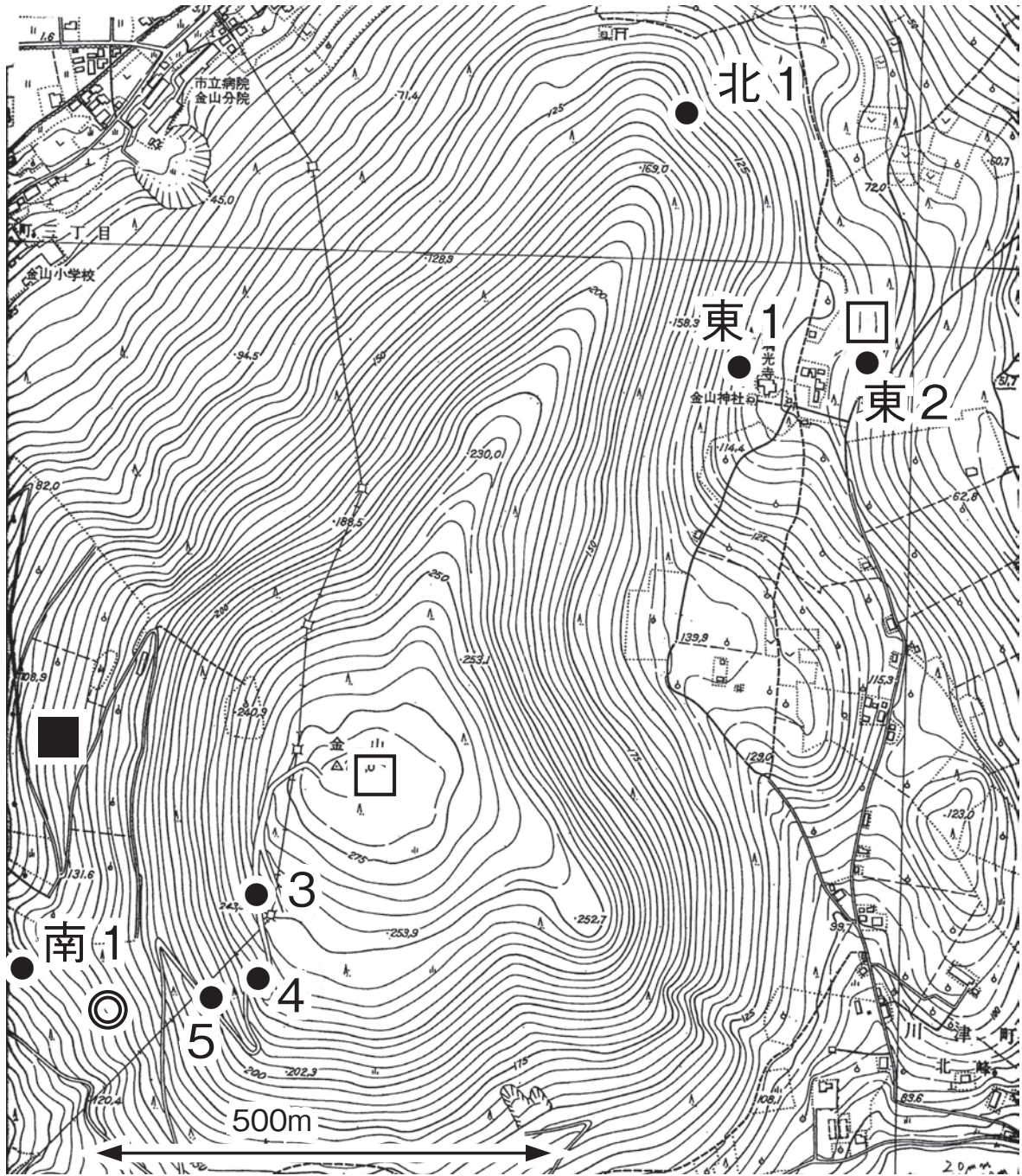
図1 サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地





- : 法印谷群 ★ : 白峰群 ▲ : 国分寺群 ◆ : 金山東南群 黒曜石様ガラス質安山岩 (①②③)
- △ : 蓮光寺群 ■ : 城山、金山西群 □ : 金山東群 ① : 奥池群 ② : 雄山 ③ : 南山群

図2 金山・五色台地域サヌカイト、黒曜石様ガラス質安山岩の原産地



□ : 金山東群 ■ : 金山西群 ◎ : 金山東南群

図3 金山産地

表 1-1 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名原石群名		元素比												
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca			
北海道	無加林道露頭	43	0.343 ± 0.012	0.435 ± 0.010	0.082 ± 0.002	5.012 ± 0.099	0.165 ± 0.011	0.115 ± 0.006	0.898 ± 0.018	0.022 ± 0.009	0.021 ± 0.001	0.177 ± 0.005		
	旭山動物園	80	0.351 ± 0.011	0.288 ± 0.010	0.089 ± 0.005	5.064 ± 0.140	0.174 ± 0.011	0.096 ± 0.009	0.903 ± 0.029	0.015 ± 0.012	0.015 ± 0.001	0.141 ± 0.005		
	台場A	48	0.278 ± 0.010	0.323 ± 0.009	0.086 ± 0.009	4.941 ± 0.223	0.143 ± 0.008	0.095 ± 0.010	0.768 ± 0.032	0.012 ± 0.006	0.018 ± 0.002	0.149 ± 0.005		
	台場B	82	0.341 ± 0.014	0.295 ± 0.017	0.085 ± 0.011	4.787 ± 0.310	0.177 ± 0.014	0.102 ± 0.015	0.929 ± 0.041	0.021 ± 0.010	0.021 ± 0.002	0.169 ± 0.008		
	台場C	50	0.238 ± 0.016	0.303 ± 0.008	0.116 ± 0.012	7.800 ± 0.313	0.160 ± 0.016	0.135 ± 0.015	0.856 ± 0.056	0.018 ± 0.012	0.018 ± 0.002	0.150 ± 0.009		
	台場D	49	0.319 ± 0.008	0.466 ± 0.011	0.119 ± 0.012	6.686 ± 0.217	0.131 ± 0.012	0.140 ± 0.012	0.894 ± 0.042	0.012 ± 0.007	0.019 ± 0.002	0.160 ± 0.007		
	置戸・オンネアンジ	43	0.240 ± 0.008	0.424 ± 0.007	0.103 ± 0.003	6.687 ± 0.254	0.137 ± 0.010	0.102 ± 0.007	0.726 ± 0.017	0.019 ± 0.010	0.017 ± 0.001	0.140 ± 0.005		
	群馬県	荒船山	43	0.194 ± 0.070	0.360 ± 0.028	0.129 ± 0.014	9.205 ± 1.153	0.080 ± 0.034	0.085 ± 0.014	0.458 ± 0.082	0.009 ± 0.010	0.013 ± 0.021	0.123 ± 0.032	
神奈川県	火打沢	40	0.092 ± 0.005	0.285 ± 0.009	0.166 ± 0.009	12.406 ± 0.332	0.023 ± 0.006	0.111 ± 0.008	0.483 ± 0.023	0.005 ± 0.007	0.012 ± 0.001	0.012 ± 0.001		
新潟県	東嶺八川	42	0.139 ± 0.003	0.424 ± 0.005	0.065 ± 0.002	5.040 ± 0.127	0.091 ± 0.004	0.044 ± 0.003	0.575 ± 0.008	0.015 ± 0.006	0.016 ± 0.000	0.110 ± 0.001		
	権野	48	0.231 ± 0.008	0.349 ± 0.028	0.141 ± 0.015	10.218 ± 0.328	0.141 ± 0.012	0.159 ± 0.011	0.819 ± 0.042	0.019 ± 0.012	0.012 ± 0.001	0.124 ± 0.005		
福井県	滝波川	52	0.327 ± 0.010	0.333 ± 0.008	0.056 ± 0.005	3.145 ± 0.088	0.084 ± 0.005	0.510 ± 0.006	0.606 ± 0.027	0.015 ± 0.006	0.020 ± 0.002	0.150 ± 0.005		
	法恩寺山	38	0.478 ± 0.029	0.349 ± 0.020	0.033 ± 0.003	2.137 ± 0.099	0.148 ± 0.007	0.038 ± 0.008	0.667 ± 0.028	0.022 ± 0.006	0.024 ± 0.002	0.192 ± 0.012		
長野県	横川	70	0.183 ± 0.007	0.340 ± 0.017	0.153 ± 0.017	11.018 ± 0.398	0.118 ± 0.011	0.157 ± 0.013	0.721 ± 0.030	0.019 ± 0.009	0.012 ± 0.001	0.113 ± 0.005		
	八風山	46	0.274 ± 0.028	0.324 ± 0.010	0.090 ± 0.008	4.905 ± 0.505	0.104 ± 0.009	0.100 ± 0.009	0.581 ± 0.033	0.012 ± 0.009	0.018 ± 0.002	0.168 ± 0.014		
岐阜県	下呂	93	1.576 ± 0.055	0.227 ± 0.011	0.038 ± 0.004	0.766 ± 0.025	0.277 ± 0.020	0.031 ± 0.013	0.504 ± 0.024	0.035 ± 0.009	0.052 ± 0.003	0.660 ± 0.025		
	豊川	51	0.299 ± 0.007	0.568 ± 0.020	0.052 ± 0.009	4.672 ± 0.338	0.115 ± 0.008	0.083 ± 0.019	0.848 ± 0.028	0.031 ± 0.009	0.020 ± 0.002	0.151 ± 0.005		
愛知県	茶臼山	24	0.288 ± 0.010	0.324 ± 0.020	0.071 ± 0.006	4.629 ± 0.270	0.202 ± 0.012	0.066 ± 0.009	0.620 ± 0.022	0.024 ± 0.010	0.019 ± 0.001	0.144 ± 0.005		
	二上山	51	0.288 ± 0.010	0.215 ± 0.006	0.071 ± 0.006	4.629 ± 0.270	0.202 ± 0.012	0.066 ± 0.009	0.620 ± 0.022	0.024 ± 0.010	0.019 ± 0.001	0.144 ± 0.005		
奈良県	穴虫No.94	46	0.260 ± 0.010	0.207 ± 0.005	0.069 ± 0.002	4.544 ± 0.116	0.197 ± 0.009	0.064 ± 0.005	0.592 ± 0.021	0.012 ± 0.009	0.015 ± 0.001	0.121 ± 0.003		
	穴虫・田尻	44	0.248 ± 0.009	0.196 ± 0.006	0.072 ± 0.002	4.884 ± 0.107	0.205 ± 0.008	0.061 ± 0.007	0.588 ± 0.016	0.009 ± 0.007	0.016 ± 0.001	0.135 ± 0.005		
大阪府	和泉	26	0.494 ± 0.023	0.325 ± 0.025	0.056 ± 0.004	4.060 ± 0.148	0.296 ± 0.021	0.065 ± 0.010	0.706 ± 0.025	0.038 ± 0.010	0.023 ± 0.001	0.194 ± 0.009		
	相原・奥山礫層 2	48	0.295 ± 0.003	0.230 ± 0.004	0.045 ± 0.002	4.036 ± 0.084	0.202 ± 0.008	0.078 ± 0.006	0.623 ± 0.009	0.016 ± 0.001	0.016 ± 0.001	0.128 ± 0.002		
	岩屋第1群	28	0.616 ± 0.021	0.254 ± 0.012	0.057 ± 0.012	3.610 ± 0.189	0.365 ± 0.019	0.056 ± 0.012	0.846 ± 0.026	0.027 ± 0.017	0.018 ± 0.001	0.186 ± 0.007		
	岩屋第2群	24	0.535 ± 0.020	0.263 ± 0.005	0.053 ± 0.005	3.438 ± 0.103	0.340 ± 0.015	0.042 ± 0.012	1.069 ± 0.030	0.026 ± 0.014	0.017 ± 0.001	0.173 ± 0.008		
	淡路第3群	48	0.732 ± 0.032	0.257 ± 0.011	0.065 ± 0.003	4.086 ± 0.103	0.396 ± 0.015	0.088 ± 0.017	1.175 ± 0.055	0.030 ± 0.018	0.039 ± 0.001	0.284 ± 0.011		
	甲山	22	0.300 ± 0.017	0.154 ± 0.005	0.056 ± 0.007	3.350 ± 0.261	0.130 ± 0.012	0.061 ± 0.033	0.574 ± 0.021	0.012 ± 0.007	0.018 ± 0.001	0.159 ± 0.008		
	国分寺	28	0.457 ± 0.011	0.251 ± 0.007	0.053 ± 0.005	3.574 ± 0.122	0.311 ± 0.019	0.043 ± 0.016	0.970 ± 0.033	0.038 ± 0.015	0.015 ± 0.001	0.149 ± 0.005		
	五色台	18	0.459 ± 0.012	0.249 ± 0.008	0.053 ± 0.005	3.518 ± 0.129	0.308 ± 0.019	0.043 ± 0.015	0.972 ± 0.037	0.034 ± 0.009	0.016 ± 0.001	0.150 ± 0.004		
香川県	白峰	51	0.534 ± 0.015	0.262 ± 0.005	0.053 ± 0.005	3.376 ± 0.108	0.340 ± 0.014	0.040 ± 0.016	1.071 ± 0.051	0.032 ± 0.011	0.017 ± 0.001	0.173 ± 0.007		
	采峰第1群	52	0.392 ± 0.011	0.243 ± 0.006	0.071 ± 0.002	4.554 ± 0.086	0.286 ± 0.009	0.069 ± 0.005	1.211 ± 0.021	0.035 ± 0.016	0.017 ± 0.001	0.158 ± 0.003		
	采峰第2群	51	0.310 ± 0.008	0.251 ± 0.004	0.069 ± 0.003	4.827 ± 0.099	0.245 ± 0.008	0.061 ± 0.005	0.916 ± 0.019	0.036 ± 0.013	0.016 ± 0.001	0.129 ± 0.003		
	法印台	25	0.397 ± 0.009	0.239 ± 0.004	0.069 ± 0.005	4.619 ± 0.127	0.277 ± 0.012	0.059 ± 0.011	1.145 ± 0.029	0.031 ± 0.013	0.015 ± 0.001	0.130 ± 0.004		
	金山東	48	0.478 ± 0.014	0.227 ± 0.006	0.076 ± 0.006	4.511 ± 0.119	0.293 ± 0.022	0.083 ± 0.014	1.183 ± 0.046	0.020 ± 0.010	0.025 ± 0.003	0.188 ± 0.005		
	金山西	43	0.414 ± 0.011	0.217 ± 0.006	0.078 ± 0.007	4.574 ± 0.132	0.283 ± 0.014	0.073 ± 0.015	1.100 ± 0.040	0.032 ± 0.013	0.023 ± 0.001	0.168 ± 0.006		
	金山南露頭	42	0.406 ± 0.011	0.218 ± 0.005	0.078 ± 0.006	4.616 ± 0.081	0.283 ± 0.014	0.072 ± 0.004	1.102 ± 0.015	0.040 ± 0.013	0.023 ± 0.001	0.171 ± 0.005		
	金山南	50	0.435 ± 0.008	0.217 ± 0.005	0.075 ± 0.002	4.576 ± 0.072	0.288 ± 0.011	0.079 ± 0.007	1.124 ± 0.023	0.023 ± 0.010	0.022 ± 0.004	0.165 ± 0.021		
	金山北	44	0.492 ± 0.013	0.225 ± 0.006	0.076 ± 0.002	4.326 ± 0.077	0.296 ± 0.008	0.08 3 ± 0.007	1.191 ± 0.021	0.024 ± 0.010	0.026 ± 0.001	0.195 ± 0.005		
	金山東南	48	0.453 ± 0.014	0.219 ± 0.007	0.076 ± 0.003	4.492 ± 0.088	0.299 ± 0.010	0.076 ± 0.010	1.133 ± 0.034	0.026 ± 0.009	0.019 ± 0.005	0.151 ± 0.028		
和歌山県	城山	63	0.402 ± 0.011	0.216 ± 0.006	0.079 ± 0.006	4.741 ± 0.138	0.289 ± 0.014	0.068 ± 0.016	1.065 ± 0.026	0.021 ± 0.014	0.013 ± 0.001	0.116 ± 0.003		
	双子山	54	0.350 ± 0.007	0.233 ± 0.005	0.074 ± 0.006	4.898 ± 0.169	0.261 ± 0.012	0.061 ± 0.014	1.083 ± 0.035	0.023 ± 0.016	0.011 ± 0.002	0.105 ± 0.004		
	*奥池第1群	51	0.842 ± 0.046	0.127 ± 0.006	0.024 ± 0.006	2.087 ± 0.088	0.492 ± 0.030	0.018 ± 0.018	0.722 ± 0.047	0.045 ± 0.013	0.035 ± 0.003	0.434 ± 0.024		
徳島県	*奥池第2群	50	0.641 ± 0.052	0.133 ± 0.007	0.033 ± 0.007	2.471 ± 0.135	0.391 ± 0.028	0.021 ± 0.017	0.934 ± 0.067	0.038 ± 0.011	0.029 ± 0.003	0.331 ± 0.027		

表1-2 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名原石群名		元素比										
分析 個数		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
愛媛県	*雄山	50	0.827 ± 0.052	0.128 ± 0.006	0.026 ± 0.008	2.119 ± 0.091	0.485 ± 0.032	0.016 ± 0.018	0.731 ± 0.050	0.043 ± 0.014	0.035 ± 0.003	0.421 ± 0.027
	*神谷・南山	51	0.852 ± 0.040	0.131 ± 0.007	0.027 ± 0.008	2.083 ± 0.088	0.495 ± 0.026	0.020 ± 0.016	0.703 ± 0.045	0.050 ± 0.014	0.035 ± 0.004	0.433 ± 0.023
	*大麻山南第1群	39	0.693 ± 0.072	0.149 ± 0.007	0.041 ± 0.010	2.792 ± 0.180	0.473 ± 0.043	0.034 ± 0.021	0.965 ± 0.061	0.044 ± 0.012	0.029 ± 0.003	0.344 ± 0.038
	*大麻山南第2群	34	0.992 ± 0.041	0.124 ± 0.009	0.034 ± 0.011	2.370 ± 0.157	0.691 ± 0.024	0.021 ± 0.022	0.774 ± 0.032	0.054 ± 0.015	0.039 ± 0.004	0.480 ± 0.018
鳥取県	中井谷	40	0.458 ± 0.041	0.374 ± 0.007	0.073 ± 0.009	5.160 ± 0.138	0.393 ± 0.022	0.108 ± 0.017	1.473 ± 0.051	0.037 ± 0.021	0.020 ± 0.008	0.219 ± 0.009
	馬ノ山	41	0.188 ± 0.007	0.178 ± 0.006	0.011 ± 0.001	0.916 ± 0.033	0.032 ± 0.002	0.001 ± 0.002	0.177 ± 0.009	0.004 ± 0.002	0.015 ± 0.001	0.111 ± 0.005
	下砂見	46	0.168 ± 0.003	0.162 ± 0.004	0.021 ± 0.003	1.447 ± 0.038	0.028 ± 0.004	0.011 ± 0.003	0.262 ± 0.026	0.007 ± 0.003	0.016 ± 0.001	0.119 ± 0.005
	麻畑	50	0.432 ± 0.011	0.446 ± 0.013	0.060 ± 0.002	3.613 ± 0.064	0.112 ± 0.006	0.079 ± 0.005	0.980 ± 0.018	0.077 ± 0.007	0.025 ± 0.001	0.201 ± 0.004
広島県	向山	46	0.204 ± 0.011	0.183 ± 0.006	0.001 ± 0.001	0.904 ± 0.017	0.017 ± 0.002	0.007 ± 0.001	0.221 ± 0.004	0.007 ± 0.004	0.014 ± 0.001	0.107 ± 0.004
	麻畑-3	48	0.400 ± 0.015	0.457 ± 0.016	0.066 ± 0.004	3.596 ± 0.198	0.104 ± 0.005	0.075 ± 0.006	0.924 ± 0.020	0.076 ± 0.007	0.024 ± 0.001	0.186 ± 0.006
	麻畑-4	48	0.208 ± 0.023	0.379 ± 0.021	0.040 ± 0.014	2.754 ± 0.300	0.071 ± 0.009	0.035 ± 0.004	0.430 ± 0.018	0.034 ± 0.008	0.014 ± 0.001	0.102 ± 0.008
	麻畑-5A	50	3.365 ± 0.180	1.513 ± 0.126	0.146 ± 0.036	9.850 ± 2.591	1.510 ± 0.166	0.613 ± 0.085	3.277 ± 0.461	0.185 ± 0.067	0.138 ± 0.008	1.519 ± 0.214
山口県	麻畑-5B	47	3.424 ± 0.116	1.614 ± 0.112	0.199 ± 0.087	13.566 ± 5.855	1.628 ± 0.269	0.670 ± 0.124	3.736 ± 0.751	0.220 ± 0.078	0.139 ± 0.008	1.474 ± 0.203
	麻畑-7	48	0.170 ± 0.013	0.259 ± 0.008	0.015 ± 0.002	1.257 ± 0.085	0.018 ± 0.002	0.013 ± 0.002	0.307 ± 0.005	0.013 ± 0.003	0.013 ± 0.001	0.075 ± 0.003
	澄水	48	0.319 ± 0.011	0.482 ± 0.009	0.061 ± 0.003	3.672 ± 0.139	0.095 ± 0.007	0.067 ± 0.006	0.787 ± 0.015	0.060 ± 0.007	0.020 ± 0.001	0.153 ± 0.003
	冠高原	60	0.651 ± 0.021	0.485 ± 0.014	0.046 ± 0.004	3.322 ± 0.104	0.174 ± 0.009	0.029 ± 0.009	0.462 ± 0.017	0.185 ± 0.010	0.025 ± 0.002	0.241 ± 0.008
広島県	冠伴蔵C	45	0.277 ± 0.010	0.345 ± 0.008	0.019 ± 0.002	1.604 ± 0.057	0.039 ± 0.015	0.008 ± 0.006	0.368 ± 0.012	0.026 ± 0.006	0.019 ± 0.001	0.171 ± 0.006
	冠伴蔵A	51	0.340 ± 0.008	0.319 ± 0.008	0.020 ± 0.003	1.347 ± 0.025	0.047 ± 0.011	0.011 ± 0.005	0.381 ± 0.021	0.044 ± 0.056	0.019 ± 0.002	0.190 ± 0.009
	冠山東	29	0.323 ± 0.019	0.363 ± 0.031	0.019 ± 0.001	1.607 ± 0.060	0.059 ± 0.009	0.003 ± 0.005	0.399 ± 0.043	0.025 ± 0.009	0.021 ± 0.001	0.171 ± 0.006
	飯山	25	1.116 ± 0.061	0.472 ± 0.022	0.037 ± 0.005	2.228 ± 0.080	0.245 ± 0.011	0.023 ± 0.009	0.524 ± 0.014	0.246 ± 0.013	0.038 ± 0.003	0.391 ± 0.021
福岡県	平生	45	0.184 ± 0.009	0.190 ± 0.006	0.112 ± 0.031	7.290 ± 0.346	0.170 ± 0.015	0.077 ± 0.011	0.691 ± 0.040	0.026 ± 0.010	0.011 ± 0.001	0.087 ± 0.004
	長島・蒲井	48	0.136 ± 0.023	0.198 ± 0.014	0.122 ± 0.008	9.329 ± 0.502	0.146 ± 0.020	0.108 ± 0.011	0.642 ± 0.019	0.023 ± 0.015	0.010 ± 0.001	0.079 ± 0.006
	八島	45	0.234 ± 0.010	0.227 ± 0.004	0.078 ± 0.004	6.121 ± 0.201	0.198 ± 0.008	0.043 ± 0.004	0.784 ± 0.014	0.017 ± 0.007	0.024 ± 0.001	0.129 ± 0.003
	昭和池第1群	50	1.825 ± 0.041	0.644 ± 0.024	0.053 ± 0.007	2.125 ± 0.063	0.453 ± 0.019	0.107 ± 0.017	1.477 ± 0.049	0.044 ± 0.022	0.050 ± 0.003	0.500 ± 0.012
佐賀県	昭和池第2群	50	1.592 ± 0.066	0.609 ± 0.020	0.061 ± 0.005	3.075 ± 0.123	0.534 ± 0.039	0.111 ± 0.020	1.671 ± 0.134	0.049 ± 0.012	0.042 ± 0.003	0.419 ± 0.014
	昭和池第3群	50	3.144 ± 0.069	0.724 ± 0.036	0.073 ± 0.009	2.919 ± 0.099	0.925 ± 0.048	0.181 ± 0.026	2.820 ± 0.114	0.072 ± 0.020	0.074 ± 0.026	0.817 ± 0.040
	昭和池第4群	50	1.922 ± 0.108	0.681 ± 0.050	0.064 ± 0.005	3.023 ± 0.103	0.607 ± 0.033	0.122 ± 0.017	1.887 ± 0.098	0.050 ± 0.015	0.050 ± 0.004	0.499 ± 0.018
	多々第1群	40	0.820 ± 0.053	0.405 ± 0.013	0.056 ± 0.009	4.680 ± 0.233	0.494 ± 0.033	0.049 ± 0.029	0.912 ± 0.045	0.199 ± 0.030	0.031 ± 0.003	0.284 ± 0.017
佐賀県	多々第2群	42	0.844 ± 0.061	0.395 ± 0.019	0.061 ± 0.010	5.106 ± 0.397	0.539 ± 0.053	0.069 ± 0.030	0.911 ± 0.050	0.197 ± 0.028	0.032 ± 0.004	0.293 ± 0.026
	梅野(多々第3群)	42	1.287 ± 0.051	0.340 ± 0.013	0.058 ± 0.010	3.643 ± 0.225	0.784 ± 0.030	0.081 ± 0.022	0.824 ± 0.033	0.265 ± 0.032	0.038 ± 0.009	0.458 ± 0.050
	老松山	62	0.704 ± 0.029	0.314 ± 0.009	0.073 ± 0.015	5.266 ± 0.176	0.533 ± 0.035	0.077 ± 0.027	0.720 ± 0.053	0.191 ± 0.035	0.026 ± 0.028	0.249 ± 0.010
	寺山・岡本	50	0.629 ± 0.043	0.310 ± 0.088	0.070 ± 0.012	5.553 ± 0.236	0.492 ± 0.034	0.083 ± 0.021	0.700 ± 0.032	0.180 ± 0.027	0.024 ± 0.002	0.227 ± 0.014
佐賀県	西有田	42	0.461 ± 0.023	0.332 ± 0.008	0.098 ± 0.003	7.468 ± 0.217	0.309 ± 0.013	0.081 ± 0.005	0.569 ± 0.011	0.109 ± 0.010	0.019 ± 0.001	0.174 ± 0.006
	松尾転礫	47	0.717 ± 0.036	0.410 ± 0.012	0.081 ± 0.006	5.312 ± 0.241	0.383 ± 0.024	0.094 ± 0.013	0.810 ± 0.039	0.095 ± 0.023	0.028 ± 0.027	0.291 ± 0.014
	松尾第2群	40	0.970 ± 0.032	0.330 ± 0.009	0.066 ± 0.007	3.683 ± 0.122	0.431 ± 0.021	0.077 ± 0.016	0.554 ± 0.023	0.110 ± 0.021	0.034 ± 0.003	0.377 ± 0.012
	椎葉嶺第1群	42	0.822 ± 0.027	0.369 ± 0.010	0.065 ± 0.007	3.888 ± 0.236	0.392 ± 0.021	0.076 ± 0.018	0.540 ± 0.049	0.089 ± 0.020	0.027 ± 0.009	0.330 ± 0.013
長崎県	椎葉嶺第2群	41	0.675 ± 0.016	0.390 ± 0.010	0.073 ± 0.007	4.666 ± 0.218	0.346 ± 0.021	0.078 ± 0.012	0.582 ± 0.065	0.087 ± 0.013	0.024 ± 0.007	0.280 ± 0.011
	椎葉嶺第3群	12	0.538 ± 0.011	0.401 ± 0.007	0.076 ± 0.010	5.271 ± 0.189	0.296 ± 0.019	0.075 ± 0.015	0.587 ± 0.024	0.075 ± 0.009	0.022 ± 0.002	0.227 ± 0.009
	椎葉嶺第4群	37	0.744 ± 0.014	0.409 ± 0.010	0.080 ± 0.010	5.176 ± 0.202	0.399 ± 0.020	0.092 ± 0.015	0.807 ± 0.027	0.096 ± 0.023	0.029 ± 0.003	0.302 ± 0.010
	大串	28	1.111 ± 0.118	0.140 ± 0.009	0.055 ± 0.020	1.650 ± 0.236	0.236 ± 0.043	0.041 ± 0.027	0.486 ± 0.038	0.082 ± 0.022	0.050 ± 0.006	0.607 ± 0.059
長崎県	龜岳	19	1.072 ± 0.042	0.144 ± 0.008	0.041 ± 0.006	1.776 ± 0.152	0.233 ± 0.014	0.015 ± 0.013	0.497 ± 0.018	0.065 ± 0.015	0.049 ± 0.003	0.587 ± 0.018
	牟田第1群	51	0.788 ± 0.084	0.341 ± 0.023	0.067 ± 0.009	4.581 ± 0.198	0.884 ± 0.119	0.224 ± 0.055	0.753 ± 0.082	0.259 ± 0.053	0.029 ± 0.004	0.273 ± 0.028
	牟田第2群	40	0.588 ± 0.042	0.330 ± 0.018	0.088 ± 0.014	7.611 ± 0.599	1.058 ± 0.119	0.348 ± 0.069	1.033 ± 0.102	0.402 ± 0.064	0.023 ± 0.003	0.203 ± 0.014

表 1-3 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名原石群名	分析 個数	元 素 比										
		K/C a	Ti/C a	Mn/S r	Fe/S r	Rb/S r	Y/S r	Zr/S r	Nb/S r	Al/C a	Si/C a	
川棚第1群	59	0.498 ± 0.030	0.302 ± 0.011	0.067 ± 0.005	4.225 ± 0.181	0.220 ± 0.018	0.076 ± 0.010	0.814 ± 0.048	0.035 ± 0.012	0.012 ± 0.002	0.133 ± 0.008	
川棚第2群	42	0.357 ± 0.031	0.238 ± 0.008	0.073 ± 0.002	5.078 ± 0.182	0.198 ± 0.025	0.043 ± 0.005	0.751 ± 0.059	0.018 ± 0.013	0.023 ± 0.001	0.153 ± 0.011	
福井第1群	46	0.634 ± 0.019	0.330 ± 0.007	0.087 ± 0.016	7.527 ± 0.226	1.174 ± 0.030	0.381 ± 0.042	1.096 ± 0.047	0.480 ± 0.070	0.023 ± 0.002	0.217 ± 0.007	
福井第2群	47	0.509 ± 0.016	0.315 ± 0.007	0.078 ± 0.010	7.118 ± 0.234	0.909 ± 0.042	0.299 ± 0.046	0.947 ± 0.054	0.361 ± 0.055	0.020 ± 0.002	0.177 ± 0.007	
崎針尾第1群	67	0.382 ± 0.026	0.252 ± 0.023	0.052 ± 0.006	4.106 ± 0.227	0.160 ± 0.018	0.057 ± 0.009	0.434 ± 0.039	0.056 ± 0.011	0.010 ± 0.001	0.107 ± 0.007	
崎針尾第2群	56	0.590 ± 0.072	0.393 ± 0.020	0.077 ± 0.009	5.396 ± 0.448	0.330 ± 0.028	0.078 ± 0.015	0.675 ± 0.059	0.096 ± 0.017	0.024 ± 0.006	0.219 ± 0.041	
駒崎鼻	42	0.635 ± 0.072	0.309 ± 0.009	0.071 ± 0.012	5.519 ± 0.425	0.500 ± 0.050	0.076 ± 0.025	0.690 ± 0.055	0.183 ± 0.030	0.025 ± 0.003	0.231 ± 0.025	
阿蘇第1群	39	1.999 ± 0.212	0.664 ± 0.061	0.067 ± 0.011	1.862 ± 0.368	0.476 ± 0.060	0.126 ± 0.023	1.647 ± 0.181	0.067 ± 0.014	0.067 ± 0.010	0.602 ± 0.086	
阿蘇第2群	44	1.045 ± 0.171	0.547 ± 0.064	0.056 ± 0.008	2.822 ± 0.410	0.312 ± 0.048	0.088 ± 0.015	1.108 ± 0.160	0.046 ± 0.013	0.036 ± 0.006	0.302 ± 0.038	
菊池	42	0.678 ± 0.057	0.458 ± 0.020	0.062 ± 0.005	3.457 ± 0.206	0.194 ± 0.018	0.072 ± 0.009	0.728 ± 0.054	0.025 ± 0.010	0.019 ± 0.002	0.185 ± 0.015	
上牛鼻	50	0.612 ± 0.015	0.496 ± 0.009	0.042 ± 0.005	2.625 ± 0.103	0.164 ± 0.007	0.073 ± 0.013	0.977 ± 0.021	0.018 ± 0.008	0.029 ± 0.003	0.271 ± 0.007	
標準試料 J G - 1 a)	56	1.327 ± 0.021	0.266 ± 0.006	0.058 ± 0.006	2.817 ± 0.074	0.756 ± 0.015	0.183 ± 0.024	0.762 ± 0.033	0.078 ± 0.014	0.036 ± 0.003	0.448 ± 0.011	

麻畑原石産地は岡山理科大学白石純氏発見の原産地

平均値 ± 標準偏差値、* : 黒曜石様ガラス質安山岩 a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974), 1974 compilation of data on the GSJ
JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.
geochemical reference samples

表 1-4 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

	遺跡名遺物群名	元素比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
北海道	頭無川遺物群	35	0.352 ± 0.029	0.291 ± 0.021	0.094 ± 0.012	5.376 ± 0.721	0.170 ± 0.015	0.103 ± 0.016	0.874 ± 0.101	0.018 ± 0.011	0.017 ± 0.021	0.156 ± 0.090
	納内 No.17 遺物群	48	0.284 ± 0.006	0.316 ± 0.008	0.113 ± 0.016	9.214 ± 0.461	0.158 ± 0.013	0.160 ± 0.013	1.067 ± 0.046	0.022 ± 0.012	0.020 ± 0.002	0.164 ± 0.004
	北上 2-AA 遺物群	44	0.417 ± 0.011	0.217 ± 0.009	0.094 ± 0.010	6.376 ± 0.488	0.313 ± 0.018	0.084 ± 0.007	1.098 ± 0.255	0.017 ± 0.009	0.030 ± 0.001	0.234 ± 0.006
	北上 2-268 遺物群	44	0.466 ± 0.020	0.496 ± 0.015	0.077 ± 0.003	4.181 ± 0.087	0.198 ± 0.010	0.048 ± 0.003	0.930 ± 0.025	0.037 ± 0.012	0.020 ± 0.001	0.221 ± 0.009
	北上 2-270 遺物群	45	0.245 ± 0.005	0.472 ± 0.004	0.094 ± 0.002	8.171 ± 0.079	0.143 ± 0.008	0.092 ± 0.008	0.770 ± 0.012	0.015 ± 0.010	0.016 ± 0.001	0.126 ± 0.001
	北上 2-277 遺物群	44	0.303 ± 0.009	0.448 ± 0.010	0.083 ± 0.002	5.422 ± 0.093	0.154 ± 0.007	0.110 ± 0.006	0.878 ± 0.013	0.022 ± 0.009	0.018 ± 0.001	0.149 ± 0.005
	北上 2-279 遺物群	44	0.238 ± 0.009	0.307 ± 0.006	0.093 ± 0.002	6.133 ± 0.078	0.135 ± 0.006	0.094 ± 0.007	0.777 ± 0.012	0.013 ± 0.008	0.017 ± 0.001	0.135 ± 0.003
	吹上 1 遺物群	48	0.268 ± 0.014	0.288 ± 0.005	0.135 ± 0.003	8.756 ± 0.209	0.126 ± 0.007	0.117 ± 0.011	0.515 ± 0.014	0.012 ± 0.009	0.014 ± 0.001	0.116 ± 0.002
	吹上 2 遺物群	50	0.427 ± 0.021	0.338 ± 0.009	0.126 ± 0.003	6.023 ± 0.150	0.237 ± 0.012	0.140 ± 0.013	1.098 ± 0.036	0.051 ± 0.021	0.029 ± 0.001	0.378 ± 0.022
	吹上 3 遺物群	45	0.454 ± 0.012	0.438 ± 0.006	0.141 ± 0.006	9.807 ± 0.329	0.500 ± 0.027	0.089 ± 0.007	1.470 ± 0.049	0.118 ± 0.040	0.023 ± 0.001	0.359 ± 0.006
	吹上 4 遺物群	45	0.152 ± 0.006	0.241 ± 0.012	0.153 ± 0.002	9.752 ± 0.143	0.103 ± 0.008	0.147 ± 0.012	0.748 ± 0.020	0.021 ± 0.013	0.011 ± 0.001	0.101 ± 0.001
新潟県	吹上 5 遺物群	48	0.710 ± 0.005	0.577 ± 0.005	0.100 ± 0.002	5.327 ± 0.060	0.122 ± 0.005	0.142 ± 0.008	1.100 ± 0.015	0.040 ± 0.015	0.024 ± 0.001	0.223 ± 0.004
	吹上 6 遺物群	45	1.617 ± 0.050	2.629 ± 0.072	0.061 ± 0.006	14.039 ± 0.664	0.403 ± 0.026	0.096 ± 0.013	1.202 ± 0.050	0.087 ± 0.045	0.124 ± 0.001	2.923 ± 0.102
	吹上 7 遺物群	45	1.886 ± 0.025	1.121 ± 0.032	0.046 ± 0.002	4.911 ± 0.100	0.496 ± 0.012	0.061 ± 0.005	1.170 ± 0.022	0.065 ± 0.021	0.064 ± 0.002	0.794 ± 0.022
	千葉 1 群	32	0.089 ± 0.002	0.307 ± 0.005	0.177 ± 0.013	13.143 ± 0.459	0.066 ± 0.006	0.116 ± 0.012	0.557 ± 0.030	0.016 ± 0.008	0.012 ± 0.002	0.102 ± 0.004
	千葉 2 群	36	0.292 ± 0.012	0.352 ± 0.007	0.109 ± 0.010	7.204 ± 0.254	0.184 ± 0.011	0.135 ± 0.013	0.906 ± 0.035	0.024 ± 0.013	0.019 ± 0.002	0.161 ± 0.008
	千葉 3 群	48	0.098 ± 0.002	0.306 ± 0.004	0.141 ± 0.012	8.952 ± 0.285	0.032 ± 0.008	0.096 ± 0.008	0.419 ± 0.019	0.011 ± 0.006	0.014 ± 0.001	0.120 ± 0.003
	千葉 4 群	48	0.134 ± 0.002	0.259 ± 0.004	0.128 ± 0.012	9.617 ± 0.196	0.092 ± 0.009	0.098 ± 0.009	0.612 ± 0.023	0.017 ± 0.009	0.012 ± 0.001	0.093 ± 0.002
	有吉 No.13 群	48	0.143 ± 0.002	0.243 ± 0.004	0.114 ± 0.010	7.889 ± 0.163	0.091 ± 0.009	0.097 ± 0.009	0.566 ± 0.029	0.016 ± 0.009	0.015 ± 0.002	0.117 ± 0.003
	有吉 No.14 群	48	0.204 ± 0.002	0.310 ± 0.004	0.116 ± 0.009	8.780 ± 0.158	0.146 ± 0.009	0.106 ± 0.010	0.654 ± 0.026	0.015 ± 0.002	0.015 ± 0.002	0.130 ± 0.003
	酒見遺物群	42	0.447 ± 0.064	0.608 ± 0.017	0.089 ± 0.012	5.098 ± 0.781	0.153 ± 0.019	0.116 ± 0.014	1.258 ± 0.118	0.016 ± 0.012	0.024 ± 0.004	0.208 ± 0.027
	地方 15865 群	48	0.366 ± 0.011	0.341 ± 0.013	0.077 ± 0.008	4.116 ± 0.119	0.115 ± 0.012	0.087 ± 0.010	0.586 ± 0.059	0.012 ± 0.008	0.022 ± 0.002	0.204 ± 0.007
岐阜県	野笹 No.261 他群	56	0.632 ± 0.032	0.393 ± 0.013	0.045 ± 0.005	2.234 ± 0.070	0.170 ± 0.009	0.046 ± 0.012	1.030 ± 0.041	0.029 ± 0.006	0.022 ± 0.002	0.213 ± 0.010
	野笹 No.271 他群	35	0.407 ± 0.010	0.304 ± 0.005	0.040 ± 0.005	1.882 ± 0.041	0.089 ± 0.005	0.033 ± 0.005	0.671 ± 0.030	0.023 ± 0.005	0.018 ± 0.002	0.177 ± 0.006
	野笹 No.282 他群	33	0.799 ± 0.009	0.512 ± 0.010	0.050 ± 0.005	2.540 ± 0.096	0.221 ± 0.014	0.077 ± 0.011	1.213 ± 0.039	0.034 ± 0.007	0.026 ± 0.002	0.240 ± 0.009
	野笹 No.289 他群	32	3.515 ± 0.134	1.068 ± 0.047	0.149 ± 0.023	6.620 ± 0.453	0.617 ± 0.041	0.210 ± 0.032	1.330 ± 0.067	0.158 ± 0.027	0.167 ± 0.015	2.525 ± 0.081
	野笹 No.262 群	40	0.384 ± 0.004	0.318 ± 0.006	0.057 ± 0.005	2.356 ± 0.068	0.102 ± 0.007	0.051 ± 0.007	0.651 ± 0.022	0.022 ± 0.005	0.017 ± 0.002	0.161 ± 0.004
	野笹 No.295 群	32	3.584 ± 0.178	1.077 ± 0.058	0.075 ± 0.016	3.775 ± 0.153	0.441 ± 0.024	0.197 ± 0.019	1.118 ± 0.053	0.150 ± 0.028	0.183 ± 0.019	2.989 ± 0.159
	岡田西河内群	44	0.095 ± 0.007	0.320 ± 0.006	0.144 ± 0.004	8.775 ± 0.616	0.041 ± 0.009	0.084 ± 0.008	0.433 ± 0.012	0.010 ± 0.007	0.013 ± 0.001	0.123 ± 0.004
	岡田西河内風化群	45	0.072 ± 0.009	0.247 ± 0.004	0.128 ± 0.003	8.515 ± 0.129	0.039 ± 0.005	0.082 ± 0.009	0.424 ± 0.009	0.010 ± 0.008	0.012 ± 0.001	0.081 ± 0.002
	川津 No.1 群	48	0.101 ± 0.002	0.297 ± 0.003	0.145 ± 0.012	13.011 ± 0.347	0.056 ± 0.009	0.112 ± 0.009	0.589 ± 0.028	0.011 ± 0.009	0.011 ± 0.001	0.088 ± 0.002
	朝日 No.7 群	35	0.334 ± 0.004	0.362 ± 0.005	0.067 ± 0.009	3.895 ± 0.150	0.082 ± 0.005	0.044 ± 0.007	0.758 ± 0.044	0.027 ± 0.009	0.017 ± 0.002	0.147 ± 0.010
	朝日 No.15 群	35	1.016 ± 0.022	0.582 ± 0.012	0.043 ± 0.005	4.187 ± 0.141	0.477 ± 0.019	0.089 ± 0.020	1.722 ± 0.058	0.058 ± 0.026	0.032 ± 0.009	0.557 ± 0.021
京都府	赤ヶ平 No.13 群	48	0.458 ± 0.012	0.199 ± 0.003	0.053 ± 0.007	3.752 ± 0.073	0.217 ± 0.017	0.060 ± 0.011	0.635 ± 0.047	0.013 ± 0.006	0.019 ± 0.002	0.145 ± 0.004
	向出 No.6 群	48	0.236 ± 0.003	0.189 ± 0.003	0.075 ± 0.005	4.966 ± 0.089	0.194 ± 0.010	0.063 ± 0.011	0.588 ± 0.019	0.010 ± 0.011	0.015 ± 0.001	0.127 ± 0.002
	向出 No.49 群	48	0.310 ± 0.003	0.203 ± 0.003	0.052 ± 0.004	3.734 ± 0.074	0.228 ± 0.016	0.059 ± 0.010	0.610 ± 0.021	0.011 ± 0.012	0.017 ± 0.001	0.147 ± 0.002
	中社 No.82 群	48	0.340 ± 0.003	0.226 ± 0.003	0.065 ± 0.005	4.305 ± 0.085	0.208 ± 0.010	0.069 ± 0.009	0.628 ± 0.015	0.010 ± 0.010	0.016 ± 0.001	0.136 ± 0.002
	中社 No.86 群	48	2.638 ± 0.057	0.949 ± 0.026	0.025 ± 0.008	4.536 ± 0.105	0.624 ± 0.019	0.139 ± 0.027	1.425 ± 0.050	0.059 ± 0.019	0.097 ± 0.033	1.903 ± 0.055
	中社 No.89 群	48	0.600 ± 0.005	0.287 ± 0.004	0.046 ± 0.004	3.077 ± 0.060	0.363 ± 0.014	0.048 ± 0.012	1.088 ± 0.022	0.022 ± 0.016	0.028 ± 0.002	0.256 ± 0.004
	中社 No.104 群	48	1.133 ± 0.002	0.117 ± 0.002	0.095 ± 0.006	6.365 ± 0.098	0.112 ± 0.007	0.044 ± 0.010	0.328 ± 0.020	0.009 ± 0.009	0.011 ± 0.001	0.102 ± 0.002
	鬼虎 No.16 群	33	0.361 ± 0.004	0.253 ± 0.004	0.053 ± 0.007	3.105 ± 0.070	0.238 ± 0.106	0.063 ± 0.014	0.684 ± 0.025	0.027 ± 0.008	0.018 ± 0.001	0.170 ± 0.004
	鬼虎 No.17 群	33	0.372 ± 0.004	0.250 ± 0.004	0.049 ± 0.007	2.987 ± 0.060	0.241 ± 0.010	0.056 ± 0.009	0.675 ± 0.024	0.023 ± 0.008	0.018 ± 0.001	0.176 ± 0.005
	粟生間谷 No.98 群	48	0.421 ± 0.009	0.227 ± 0.005	0.066 ± 0.009	4.359 ± 0.132	0.217 ± 0.015	0.067 ± 0.009	0.651 ± 0.025	0.026 ± 0.009	0.015 ± 0.002	0.129 ± 0.006

表 1-5 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名遺物群名	分析 個数	元素比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
兵庫県		48	0.240 ± 0.002	0.268 ± 0.005	0.058 ± 0.007	4.106 ± 0.087	0.160 ± 0.010	0.059 ± 0.009	0.582 ± 0.027	0.022 ± 0.008	0.018 ± 0.002	0.123 ± 0.004
	粟生間谷No.15群	48	0.240 ± 0.002	0.268 ± 0.005	0.058 ± 0.007	4.106 ± 0.087	0.160 ± 0.010	0.059 ± 0.009	0.582 ± 0.027	0.022 ± 0.008	0.018 ± 0.002	0.123 ± 0.004
	山賀No.138群	45	0.297 ± 0.002	0.229 ± 0.002	0.046 ± 0.003	4.115 ± 0.127	0.213 ± 0.006	0.081 ± 0.008	0.609 ± 0.011	0.018 ± 0.010	0.015 ± 0.001	0.123 ± 0.002
	講良部条里遺物群	46	0.469 ± 0.023	0.190 ± 0.003	0.052 ± 0.002	4.046 ± 0.044	0.209 ± 0.007	0.065 ± 0.006	0.551 ± 0.008	0.013 ± 0.010	0.013 ± 0.001	0.112 ± 0.002
	寺田No.117群	48	0.378 ± 0.005	0.226 ± 0.004	0.071 ± 0.007	4.592 ± 0.093	0.216 ± 0.009	0.063 ± 0.009	0.611 ± 0.024	0.022 ± 0.008	0.019 ± 0.002	0.134 ± 0.004
	熊内No.7群	55	0.290 ± 0.004	0.180 ± 0.003	0.078 ± 0.007	4.603 ± 0.180	0.243 ± 0.015	0.055 ± 0.012	0.351 ± 0.057	0.015 ± 0.007	0.017 ± 0.002	0.141 ± 0.004
	熊内No.13群	55	0.307 ± 0.003	0.185 ± 0.002	0.081 ± 0.009	4.895 ± 0.103	0.323 ± 0.016	0.055 ± 0.012	0.417 ± 0.059	0.016 ± 0.007	0.016 ± 0.001	0.127 ± 0.003
	熊内No.17群	48	0.271 ± 0.013	0.196 ± 0.003	0.074 ± 0.009	4.661 ± 0.148	0.183 ± 0.008	0.056 ± 0.013	0.808 ± 0.027	0.017 ± 0.007	0.019 ± 0.002	0.145 ± 0.005
	熊内No.33群	48	0.699 ± 0.008	0.150 ± 0.004	0.080 ± 0.008	2.790 ± 0.054	0.564 ± 0.018	0.045 ± 0.030	0.417 ± 0.050	0.022 ± 0.010	0.029 ± 0.003	0.283 ± 0.007
	西飯降7106遺物群	44	0.869 ± 0.043	1.133 ± 0.068	0.020 ± 0.001	1.466 ± 0.115	0.086 ± 0.009	0.051 ± 0.005	1.242 ± 0.091	0.104 ± 0.018	0.161 ± 0.012	2.109 ± 0.257
和歌山県		48	11.976 ± 0.595	1.248 ± 0.069	0.035 ± 0.011	3.745 ± 0.214	1.647 ± 0.054	0.215 ± 0.053	1.272 ± 0.054	0.120 ± 0.023	0.276 ± 0.032	4.203 ± 0.241
	堅田No.8遺物群	48	11.976 ± 0.595	1.248 ± 0.069	0.035 ± 0.011	3.745 ± 0.214	1.647 ± 0.054	0.215 ± 0.053	1.272 ± 0.054	0.120 ± 0.023	0.276 ± 0.032	4.203 ± 0.241
	堅田No.24遺物群	48	23.782 ± 1.975	3.082 ± 0.279	0.045 ± 0.014	6.290 ± 0.406	2.437 ± 0.192	0.444 ± 0.070	2.258 ± 0.134	0.178 ± 0.026	0.500 ± 0.086	5.731 ± 0.519
	堅田No.28遺物群	48	1.934 ± 0.083	1.349 ± 0.064	0.026 ± 0.010	8.161 ± 0.354	0.625 ± 0.025	0.128 ± 0.027	1.414 ± 0.061	0.072 ± 0.027	0.092 ± 0.010	1.051 ± 0.059
	森添-26遺物群	45	3.494 ± 0.210	1.474 ± 0.079	0.074 ± 0.008	9.180 ± 0.230	1.556 ± 0.042	0.170 ± 0.008	1.406 ± 0.042	0.161 ± 0.034	0.090 ± 0.006	1.179 ± 0.073
三重県		48	0.491 ± 0.008	0.524 ± 0.009	0.040 ± 0.005	2.278 ± 0.047	0.098 ± 0.006	0.045 ± 0.007	0.629 ± 0.017	0.066 ± 0.006	0.028 ± 0.002	0.222 ± 0.006
	笹敷2No.2群	48	0.491 ± 0.008	0.524 ± 0.009	0.040 ± 0.005	2.278 ± 0.047	0.098 ± 0.006	0.045 ± 0.007	0.629 ± 0.017	0.066 ± 0.006	0.028 ± 0.002	0.222 ± 0.006
	笹敷2No.3群	48	0.324 ± 0.007	0.508 ± 0.007	0.048 ± 0.005	2.859 ± 0.079	0.068 ± 0.056	0.051 ± 0.006	0.622 ± 0.025	0.048 ± 0.008	0.021 ± 0.002	0.152 ± 0.006
	文珠嶺I No.335	44	4.166 ± 0.209	4.141 ± 0.168	0.089 ± 0.009	10.053 ± 0.912	0.660 ± 0.051	0.077 ± 0.008	1.019 ± 0.069	0.073 ± 0.031	0.215 ± 0.012	3.364 ± 0.135
	茶畑山道S-97	44	2.381 ± 0.043	2.309 ± 0.040	0.088 ± 0.005	13.605 ± 0.956	0.814 ± 0.047	0.101 ± 0.010	1.341 ± 0.081	0.089 ± 0.042	0.116 ± 0.003	1.690 ± 0.042
	高尾原A遺物群	46	6.118 ± 0.148	6.404 ± 0.175	0.192 ± 0.023	35.435 ± 2.912	1.952 ± 0.074	0.202 ± 0.014	2.691 ± 0.121	0.284 ± 0.072	0.222 ± 0.072	2.237 ± 0.420
	高尾原383遺物群	45	0.131 ± 0.007	0.198 ± 0.004	0.020 ± 0.001	1.494 ± 0.009	0.027 ± 0.003	0.004 ± 0.001	0.308 ± 0.003	0.004 ± 0.001	0.013 ± 0.001	0.105 ± 0.001
	高尾原459遺物群	45	4.020 ± 0.614	3.362 ± 0.126	0.093 ± 0.008	13.788 ± 0.314	0.672 ± 0.092	0.078 ± 0.011	1.224 ± 0.148	0.090 ± 0.038	0.177 ± 0.025	2.490 ± 0.186
	金井台峰A遺物群	46	0.161 ± 0.017	0.380 ± 0.018	0.019 ± 0.001	1.672 ± 0.026	0.030 ± 0.004	0.010 ± 0.004	0.344 ± 0.007	0.019 ± 0.006	0.014 ± 0.001	0.116 ± 0.003
	金井台峰9遺物群	45	2.134 ± 0.059	1.841 ± 0.040	0.149 ± 0.008	24.690 ± 1.104	1.275 ± 0.052	0.151 ± 0.009	1.710 ± 0.066	0.170 ± 0.062	0.070 ± 0.001	0.710 ± 0.011
	東前3581遺物群	45	3.547 ± 0.113	0.456 ± 0.019	0.074 ± 0.002	1.93 ± 0.044	0.854 ± 0.037	0.092 ± 0.005	0.934 ± 0.031	0.069 ± 0.017	0.082 ± 0.001	1.103 ± 0.052
	東前風化金山遺物群	45	0.468 ± 0.020	0.207 ± 0.006	0.074 ± 0.002	4.202 ± 0.141	0.298 ± 0.010	0.083 ± 0.005	1.172 ± 0.018	0.031 ± 0.009	0.023 ± 0.001	0.175 ± 0.005
	馬ノ山風化遺物群	45	0.201 ± 0.009	0.232 ± 0.007	0.012 ± 0.001	0.930 ± 0.036	0.034 ± 0.004	0.001 ± 0.001	0.177 ± 0.003	0.005 ± 0.003	0.017 ± 0.001	0.113 ± 0.002
	東前96-97遺物群	45	0.179 ± 0.008	0.173 ± 0.002	0.013 ± 0.001	0.985 ± 0.007	0.035 ± 0.004	0.001 ± 0.001	0.178 ± 0.002	0.006 ± 0.003	0.015 ± 0.001	0.106 ± 0.002
	下市築地ノ峯A遺物群	48	0.308 ± 0.011	0.510 ± 0.006	0.047 ± 0.001	2.919 ± 0.041	0.074 ± 0.005	0.049 ± 0.003	0.663 ± 0.007	0.041 ± 0.005	0.020 ± 0.001	0.150 ± 0.002
	下市築地ノ峯14遺物群	45	0.182 ± 0.008	0.211 ± 0.003	0.026 ± 0.001	1.843 ± 0.013	0.027 ± 0.003	0.015 ± 0.003	0.407 ± 0.007	0.006 ± 0.001	0.016 ± 0.001	0.121 ± 0.002
	松原田中石針遺物群	44	0.471 ± 0.013	0.197 ± 0.054	0.052 ± 0.004	3.123 ± 0.221	0.302 ± 0.012	0.102 ± 0.010	1.148 ± 0.030	0.023 ± 0.013	0.024 ± 0.002	0.171 ± 0.006
	平田12遺物群	46	0.209 ± 0.008	0.290 ± 0.003	0.100 ± 0.002	7.464 ± 0.108	0.076 ± 0.005	0.070 ± 0.007	0.522 ± 0.009	0.011 ± 0.008	0.013 ± 0.001	0.110 ± 0.001
	平田13遺物群	46	0.219 ± 0.008	0.301 ± 0.003	0.085 ± 0.002	7.646 ± 0.100	0.077 ± 0.005	0.067 ± 0.006	0.512 ± 0.008	0.008 ± 0.005	0.013 ± 0.001	0.112 ± 0.001
	喜時雨遺物群	44	3.461 ± 0.177	2.341 ± 0.134	0.158 ± 0.041	17.661 ± 1.079	1.099 ± 0.048	0.268 ± 0.036	2.124 ± 0.106	0.157 ± 0.035	0.116 ± 0.012	1.201 ± 0.085
	下山遺物群	60	0.190 ± 0.003	0.286 ± 0.005	0.090 ± 0.010	6.872 ± 0.311	0.088 ± 0.008	0.064 ± 0.008	0.528 ± 0.021	0.017 ± 0.008	0.014 ± 0.001	0.102 ± 0.005
	下山No.5遺物群	48	0.178 ± 0.002	0.284 ± 0.003	0.086 ± 0.007	7.148 ± 0.141	0.082 ± 0.007	0.060 ± 0.009	0.501 ± 0.023	0.013 ± 0.005	0.012 ± 0.001	0.092 ± 0.003
	下山No.11遺物群	48	0.161 ± 0.004	0.272 ± 0.004	0.090 ± 0.008	7.586 ± 0.287	0.076 ± 0.009	0.060 ± 0.008	0.468 ± 0.019	0.014 ± 0.006	0.012 ± 0.001	0.087 ± 0.003
	東船1遺物群	48	4.547 ± 0.269	0.836 ± 0.030	0.168 ± 0.048	10.523 ± 1.762	2.447 ± 0.594	0.375 ± 0.120	14.278 ± 3.081	1.094 ± 0.249	0.114 ± 0.008	1.029 ± 0.047
	川平No.2遺物群	48	0.745 ± 0.012	0.216 ± 0.006	0.017 ± 0.002	0.685 ± 0.015	0.104 ± 0.005	0.005 ± 0.005	0.276 ± 0.025	0.019 ± 0.004	0.032 ± 0.004	0.311 ± 0.011
	榎ヶ崎石斧群	48	8.728 ± 1.974	2.927 ± 0.557	0.242 ± 0.037	25.324 ± 3.676	2.332 ± 0.005	0.115 ± 0.045	1.833 ± 0.105	0.040 ± 0.012	0.142 ± 0.030	0.952 ± 0.188
	榎ヶ崎石棒群	48	0.020 ± 0.003	0.170 ± 0.011	0.319 ± 0.027	33.311 ± 1.670	0.053 ± 0.016	0.151 ± 0.017	0.517 ± 0.051	0.022 ± 0.012	0.007 ± 0.001	0.051 ± 0.002
	家の後No.14群	48	1.518 ± 0.195	0.929 ± 0.084	0.108 ± 0.014	7.721 ± 0.024	0.462 ± 0.036	0.101 ± 0.022	1.134 ± 0.046	0.026 ± 0.011	0.049 ± 0.007	0.384 ± 0.041
	平田磨製石斧群	48	0.365 ± 0.025	0.281 ± 0.018	0.252 ± 0.010	3.352 ± 0.083	0.241 ± 0.013	0.016 ± 0.008	1.89 ± 0.024	0.005 ± 0.002	0.023 ± 0.003	0.165 ± 0.006
	金クソ谷3遺物群	45	3.474 ± 0.162	3.909 ± 0.510	0.137 ± 0.010	21.097 ± 1.158	0.644 ± 0.050	0.109 ± 0.015	1.380 ± 0.090	0.092 ± 0.059	0.218 ± 0.028	5.114 ± 0.651
	原田1遺物群	52	0.204 ± 0.014	0.311 ± 0.045	0.108 ± 0.011	7.515 ± 0.310	0.082 ± 0.006	0.078 ± 0.016	0.530 ± 0.029	0.015 ± 0.001	0.013 ± 0.001	0.117 ± 0.016

表 1-6 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差

遺物名・遺物群名		元素比										
分析個数		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
山口県	原田 2 遺物群	48	1.557 ± 0.080	0.432 ± 0.009	0.034 ± 0.002	1.999 ± 0.055	0.266 ± 0.010	0.030 ± 0.002	0.524 ± 0.008	0.248 ± 0.010	0.034 ± 0.001	0.357 ± 0.009
	原田 3 遺物群	46	0.253 ± 0.004	0.402 ± 0.005	0.031 ± 0.002	2.784 ± 0.032	0.065 ± 0.003	0.021 ± 0.002	0.492 ± 0.007	0.014 ± 0.003	0.008 ± 0.001	0.061 ± 0.001
	原田 No.39 遺物群	47	7.210 ± 0.164	0.443 ± 0.024	0.077 ± 0.003	3.472 ± 0.096	1.812 ± 0.042	0.207 ± 0.009	1.835 ± 0.053	0.148 ± 0.027	0.130 ± 0.003	2.009 ± 0.072
	原田 No.67 遺物群	47	0.313 ± 0.003	0.393 ± 0.005	0.031 ± 0.001	2.784 ± 0.031	0.093 ± 0.004	0.029 ± 0.003	0.618 ± 0.008	0.036 ± 0.004	0.009 ± 0.001	0.067 ± 0.002
	原田 No.93 遺物群	47	0.214 ± 0.021	0.193 ± 0.005	0.055 ± 0.002	2.942 ± 0.074	0.200 ± 0.009	0.112 ± 0.007	1.043 ± 0.039	0.037 ± 0.010	0.016 ± 0.001	0.153 ± 0.002
	原田 No.107 遺物群	47	1.388 ± 0.037	0.373 ± 0.011	0.073 ± 0.008	2.262 ± 0.145	0.328 ± 0.016	0.093 ± 0.006	1.961 ± 0.041	0.117 ± 0.020	0.056 ± 0.002	0.645 ± 0.023
	五明田 No.44-1 遺物群	44	3.344 ± 0.145	0.958 ± 0.036	0.142 ± 0.006	4.329 ± 0.281	0.712 ± 0.022	0.140 ± 0.009	3.350 ± 0.156	0.212 ± 0.042	0.122 ± 0.005	1.564 ± 0.071
	矢野 No. 3 遺物群	43	0.200 ± 0.008	0.296 ± 0.006	0.037 ± 0.001	3.448 ± 0.065	0.074 ± 0.005	0.060 ± 0.006	0.519 ± 0.009	0.009 ± 0.007	0.012 ± 0.001	0.131 ± 0.001
	矢野 No. 9 遺物群	43	0.210 ± 0.007	0.299 ± 0.006	0.049 ± 0.001	2.759 ± 0.022	0.064 ± 0.003	0.072 ± 0.007	0.557 ± 0.009	0.011 ± 0.007	0.018 ± 0.001	0.185 ± 0.001
	矢野 186-2 遺物群	44	0.156 ± 0.005	0.267 ± 0.003	0.103 ± 0.001	8.576 ± 0.092	0.066 ± 0.006	0.059 ± 0.007	0.466 ± 0.007	0.006 ± 0.006	0.012 ± 0.001	0.099 ± 0.001
	大蔭 B 遺物群	44	0.847 ± 0.051	0.150 ± 0.009	0.095 ± 0.003	3.075 ± 0.065	0.118 ± 0.003	0.033 ± 0.003	0.388 ± 0.006	0.011 ± 0.003	1.068 ± 0.029	7.574 ± 0.299
	大蔭 C 遺物群	44	0.998 ± 0.014	0.131 ± 0.003	0.104 ± 0.004	2.890 ± 0.051	0.164 ± 0.003	0.043 ± 0.004	0.372 ± 0.008	0.015 ± 0.004	1.172 ± 0.046	8.557 ± 0.373
	大蔭 A31 遺物群	44	0.432 ± 0.012	0.136 ± 0.003	0.126 ± 0.004	5.373 ± 0.053	0.086 ± 0.002	0.028 ± 0.003	0.364 ± 0.005	0.007 ± 0.003	0.664 ± 0.008	4.098 ± 0.056
	大蔭 A27 遺物群	44	1.019 ± 0.030	0.340 ± 0.005	0.261 ± 0.011	14.550 ± 0.497	0.236 ± 0.008	0.078 ± 0.009	0.578 ± 0.008	0.153 ± 0.007	0.763 ± 0.009	5.167 ± 0.039
大蔭 A18 遺物群	44	0.384 ± 0.012	0.142 ± 0.002	0.061 ± 0.002	2.248 ± 0.023	0.030 ± 0.002	0.014 ± 0.002	0.319 ± 0.003	0.002 ± 0.002	0.829 ± 0.017	5.031 ± 0.091	
大蔭 A1a 遺物群	44	2.360 ± 0.051	2.166 ± 0.050	0.081 ± 0.006	11.253 ± 0.399	0.832 ± 0.033	0.105 ± 0.007	1.427 ± 0.046	0.152 ± 0.048	0.076 ± 0.001	0.847 ± 0.013	
志谷 III-20 遺物群	44	2.725 ± 0.036	2.491 ± 0.033	0.093 ± 0.006	11.021 ± 0.357	0.840 ± 0.027	0.102 ± 0.006	1.528 ± 0.051	0.148 ± 0.02	0.101 ± 0.002	1.095 ± 0.029	
上太田 6 遺物群	45	0.261 ± 0.005	0.202 ± 0.004	0.077 ± 0.002	5.481 ± 0.073	0.276 ± 0.011	0.076 ± 0.013	0.861 ± 0.020	0.016 ± 0.013	0.020 ± 0.001	0.127 ± 0.001	
長谷 77 遺物群	45	0.768 ± 0.013	0.252 ± 0.006	0.014 ± 0.001	0.611 ± 0.003	0.106 ± 0.003	0.009 ± 0.001	0.350 ± 0.003	0.016 ± 0.004	0.026 ± 0.001	0.307 ± 0.002	
長谷 78 遺物群	45	7.210 ± 0.118	0.620 ± 0.024	0.044 ± 0.006	7.952 ± 0.937	3.615 ± 0.155	0.348 ± 0.019	1.979 ± 0.126	0.194 ± 0.061	0.103 ± 0.002	1.846 ± 0.052	
長谷 95 遺物群	45	6.390 ± 0.362	1.830 ± 0.195	0.110 ± 0.006	9.834 ± 0.379	1.350 ± 0.060	0.197 ± 0.014	1.819 ± 0.089	0.118 ± 0.058	0.333 ± 0.036	11.411 ± 1.609	
城ノ内遺物群	50	3.129 ± 0.089	1.851 ± 0.049	0.185 ± 0.028	17.480 ± 0.603	1.168 ± 0.046	0.235 ± 0.052	2.177 ± 0.082	0.115 ± 0.038	0.144 ± 0.012	1.445 ± 0.053	
六ツ目遺物群	30	0.307 ± 0.004	0.258 ± 0.005	0.067 ± 0.005	4.736 ± 0.096	0.235 ± 0.010	0.058 ± 0.014	0.840 ± 0.023	0.030 ± 0.013	0.016 ± 0.005	0.133 ± 0.004	
庵の谷遺物群	60	0.684 ± 0.012	0.248 ± 0.006	0.066 ± 0.012	4.139 ± 0.128	0.429 ± 0.019	0.077 ± 0.022	1.178 ± 0.040	0.058 ± 0.013	0.025 ± 0.002	0.262 ± 0.007	
松ノ木遺物群	40	0.588 ± 0.046	0.225 ± 0.004	0.080 ± 0.004	4.582 ± 0.088	0.326 ± 0.012	0.064 ± 0.005	1.139 ± 0.024	0.026 ± 0.008	0.025 ± 0.001	0.197 ± 0.004	
上ノ村遺物群	44	0.816 ± 0.013	0.454 ± 0.008	0.031 ± 0.002	4.481 ± 0.069	0.385 ± 0.010	0.055 ± 0.004	0.975 ± 0.021	0.035 ± 0.012	0.038 ± 0.001	0.374 ± 0.010	
大宮-1 遺物群	45	0.727 ± 0.030	0.430 ± 0.016	0.034 ± 0.002	5.000 ± 0.121	0.458 ± 0.012	0.069 ± 0.004	0.909 ± 0.027	0.048 ± 0.012	0.034 ± 0.001	0.351 ± 0.012	
大宮 2-3 遺物群	48	1.934 ± 0.035	1.351 ± 0.136	0.103 ± 0.004	9.722 ± 0.491	0.676 ± 0.025	0.108 ± 0.009	1.263 ± 0.094	0.077 ± 0.022	0.086 ± 0.007	0.704 ± 0.037	
大宮 4-5 遺物群	48	2.665 ± 0.425	1.949 ± 0.045	0.119 ± 0.024	14.530 ± 2.365	0.867 ± 0.048	0.128 ± 0.010	1.539 ± 0.282	0.092 ± 0.025	0.117 ± 0.006	0.890 ± 0.068	
永迫 No.18 遺物群	48	0.293 ± 0.007	0.237 ± 0.003	0.050 ± 0.006	3.976 ± 0.127	0.164 ± 0.010	0.061 ± 0.010	0.658 ± 0.026	0.024 ± 0.008	0.017 ± 0.002	0.127 ± 0.007	
永迫 No.19 遺物群	48	0.440 ± 0.085	2.190 ± 0.242	0.026 ± 0.005	0.671 ± 0.068	0.012 ± 0.002	0.057 ± 0.005	0.913 ± 0.047	0.050 ± 0.008	0.339 ± 0.037	4.867 ± 0.543	
永迫 No.328 遺物群	45	0.239 ± 0.006	0.195 ± 0.003	0.065 ± 0.002	5.106 ± 0.092	0.174 ± 0.010	0.063 ± 0.007	0.628 ± 0.014	0.013 ± 0.010	0.010 ± 0.001	0.087 ± 0.001	
永迫 329-316 遺物群	50	1.017 ± 0.015	0.270 ± 0.006	0.057 ± 0.002	3.168 ± 0.082	0.538 ± 0.016	0.114 ± 0.007	1.194 ± 0.030	0.021 ± 0.013	0.037 ± 0.001	0.386 ± 0.015	
久木野 10 遺物群	34	0.397 ± 0.006	0.297 ± 0.007	0.071 ± 0.009	3.723 ± 0.129	0.181 ± 0.011	0.048 ± 0.012	0.397 ± 0.029	0.071 ± 0.010	0.021 ± 0.002	0.189 ± 0.012	
久木野 12 遺物群	48	0.687 ± 0.010	0.369 ± 0.008	0.046 ± 0.005	2.596 ± 0.074	0.132 ± 0.008	0.033 ± 0.010	0.995 ± 0.027	0.066 ± 0.011	0.033 ± 0.003	0.284 ± 0.014	
久木野 17 遺物群	45	37.546 ± 7.947	6.872 ± 1.512	0.055 ± 0.024	12.163 ± 1.242	1.718 ± 0.118	0.319 ± 0.060	1.898 ± 0.167	0.211 ± 0.052	1.490 ± 0.316	16.795 ± 3.403	
久木野 26 遺物群	48	20.336 ± 1.582	7.598 ± 0.614	0.046 ± 0.015	7.914 ± 0.477	1.359 ± 0.073	0.396 ± 0.064	3.562 ± 0.227	0.050 ± 0.029	0.803 ± 0.098	8.469 ± 0.649	
久木野 44 遺物群	45	0.766 ± 0.067	0.513 ± 0.029	0.049 ± 0.019	2.430 ± 0.163	0.334 ± 0.034	0.418 ± 0.052	0.739 ± 0.083	0.069 ± 0.036	0.080 ± 0.016	4.625 ± 0.293	
久木野 45 遺物群	48	1.207 ± 0.070	1.243 ± 0.056	0.022 ± 0.009	1.545 ± 0.063	0.152 ± 0.015	0.080 ± 0.015	0.493 ± 0.039	0.030 ± 0.012	0.160 ± 0.020	7.566 ± 0.327	
小田元 1 遺物群	48	3.016 ± 0.070	0.776 ± 0.023	0.072 ± 0.015	5.825 ± 0.210	1.422 ± 0.045	0.327 ± 0.070	2.927 ± 0.123	0.128 ± 0.032	0.095 ± 0.010	1.075 ± 0.035	
小田元 2 遺物群	48	6.803 ± 0.509	6.350 ± 0.483	0.053 ± 0.019	28.371 ± 1.498	0.952 ± 0.046	0.273 ± 0.046	2.286 ± 0.179	0.114 ± 0.041	0.505 ± 0.068	10.179 ± 0.870	
小田元 16 遺物群	48	10.792 ± 0.566	6.922 ± 0.400	0.039 ± 0.011	7.900 ± 0.181	0.941 ± 0.035	0.152 ± 0.048	2.189 ± 0.088	0.103 ± 0.027	0.449 ± 0.040	3.550 ± 0.188	
小田元 17 遺物群	48	7.394 ± 0.483	5.276 ± 0.388	0.087 ± 0.020	16.004 ± 0.737	1.026 ± 0.046	0.209 ± 0.053	1.914 ± 0.088	0.094 ± 0.042	0.359 ± 0.039	3.562 ± 0.299	

表 1-7 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名遺物群名	分析 個数	元素比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
小田元 18 遺物群	48	1.235 ± 0.051	1.195 ± 0.063	0.066 ± 0.029	1.396 ± 0.168	0.779 ± 0.069	0.908 ± 0.074	2.009 ± 0.190	0.139 ± 0.063	0.100 ± 0.013	5.405 ± 0.216	
小田元 20 遺物群	48	4.151 ± 0.104	0.877 ± 0.032	0.069 ± 0.018	5.517 ± 0.182	1.853 ± 0.058	0.515 ± 0.061	3.206 ± 0.112	0.197 ± 0.011	0.129 ± 0.011	1.394 ± 0.045	
小田元 21 遺物群	48	0.152 ± 0.015	0.188 ± 0.022	0.023 ± 0.010	2.606 ± 0.215	0.123 ± 0.023	0.227 ± 0.026	0.621 ± 0.086	0.033 ± 0.019	0.026 ± 0.005	1.251 ± 0.131	
小田元 22 遺物群	48	2.988 ± 0.185	1.712 ± 0.113	0.083 ± 0.018	12.064 ± 0.318	0.995 ± 0.031	0.214 ± 0.069	2.217 ± 0.088	0.114 ± 0.033	0.099 ± 0.009	0.901 ± 0.048	
小田元 23 遺物群	48	1.071 ± 0.027	0.751 ± 0.028	0.075 ± 0.012	10.726 ± 0.392	0.708 ± 0.030	0.147 ± 0.040	1.690 ± 0.066	0.093 ± 0.025	0.043 ± 0.004	0.377 ± 0.010	
大原野 24 遺物群	48	0.783 ± 0.013	0.525 ± 0.008	0.041 ± 0.006	2.415 ± 0.071	0.202 ± 0.010	0.091 ± 0.016	1.131 ± 0.034	0.025 ± 0.011	0.033 ± 0.003	0.324 ± 0.006	
大原野 27 遺物群	48	7.505 ± 0.286	3.161 ± 0.125	0.065 ± 0.019	16.100 ± 1.244	1.072 ± 0.042	0.154 ± 0.049	1.722 ± 0.067	0.102 ± 0.032	0.190 ± 0.021	1.418 ± 0.080	
大原野 28 遺物群	48	7.403 ± 0.961	2.017 ± 0.279	0.096 ± 0.039	6.621 ± 0.075	1.250 ± 0.098	0.800 ± 0.091	1.995 ± 0.192	0.118 ± 0.062	0.326 ± 0.065	16.352 ± 2.120	
大原野 34 遺物群	48	0.694 ± 0.010	0.337 ± 0.005	0.079 ± 0.011	6.278 ± 0.206	0.592 ± 0.023	0.081 ± 0.031	0.872 ± 0.034	0.190 ± 0.002	0.043 ± 0.004	0.258 ± 0.008	
道下段 76 遺物群	50	0.354 ± 0.006	0.302 ± 0.004	0.072 ± 0.001	4.520 ± 0.051	0.174 ± 0.009	0.073 ± 0.011	0.677 ± 0.019	0.020 ± 0.013	0.023 ± 0.001	0.155 ± 0.001	
芝原風化 20 遺物群	44	0.632 ± 0.019	0.297 ± 0.004	0.065 ± 0.002	4.864 ± 0.117	0.501 ± 0.012	0.075 ± 0.005	0.718 ± 0.017	0.194 ± 0.017	0.025 ± 0.001	0.210 ± 0.007	
芝原風化 21 遺物群	44	0.746 ± 0.013	0.361 ± 0.007	0.050 ± 0.003	4.521 ± 0.161	0.481 ± 0.012	0.062 ± 0.004	0.924 ± 0.022	0.187 ± 0.013	0.030 ± 0.001	0.254 ± 0.005	
芝原風化 22 遺物群	44	0.629 ± 0.008	0.323 ± 0.006	0.072 ± 0.004	5.564 ± 0.158	0.558 ± 0.018	0.086 ± 0.006	0.828 ± 0.025	0.200 ± 0.015	0.027 ± 0.001	0.230 ± 0.003	
芝原風化 23 遺物群	44	0.705 ± 0.007	0.320 ± 0.005	0.068 ± 0.002	5.226 ± 0.117	0.581 ± 0.017	0.088 ± 0.007	0.822 ± 0.025	0.200 ± 0.016	0.029 ± 0.001	0.246 ± 0.003	
芝原風化 24 遺物群	44	0.648 ± 0.014	0.325 ± 0.009	0.064 ± 0.002	5.527 ± 0.167	0.558 ± 0.015	0.076 ± 0.006	0.873 ± 0.020	0.183 ± 0.013	0.028 ± 0.001	0.227 ± 0.007	
芝原風化 25 遺物群	44	3.376 ± 0.082	2.410 ± 0.039	0.175 ± 0.008	13.240 ± 0.411	1.220 ± 0.056	0.128 ± 0.006	1.353 ± 0.037	0.153 ± 0.031	0.102 ± 0.002	1.106 ± 0.015	
芝原風化 26 遺物群	44	0.708 ± 0.021	0.339 ± 0.010	0.072 ± 0.003	5.933 ± 0.138	0.578 ± 0.016	0.078 ± 0.005	0.891 ± 0.022	0.182 ± 0.015	0.030 ± 0.001	0.254 ± 0.005	
芝原風化 27 遺物群	44	0.717 ± 0.043	0.338 ± 0.011	0.069 ± 0.004	5.612 ± 0.231	0.575 ± 0.012	0.075 ± 0.006	0.883 ± 0.027	0.183 ± 0.014	0.030 ± 0.001	0.249 ± 0.013	
芝原風化 28 遺物群	44	0.719 ± 0.048	0.336 ± 0.012	0.068 ± 0.003	5.559 ± 0.238	0.571 ± 0.014	0.074 ± 0.006	0.885 ± 0.020	0.188 ± 0.017	0.030 ± 0.001	0.252 ± 0.013	
芝原風化 A 遺物群	48	0.692 ± 0.045	0.331 ± 0.012	0.066 ± 0.005	5.633 ± 0.266	0.569 ± 0.022	0.076 ± 0.006	0.880 ± 0.027	0.182 ± 0.017	0.029 ± 0.001	0.244 ± 0.014	

注: 向出遺跡、下山 No.5, No.11 群、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹 No.262, 295 群、栗生間谷遺跡、永迫 2 遺跡、笹敷 2 遺跡、川平 I 遺跡、家の後遺跡、横ヶ峠遺跡、川津町、有吉遺跡、堅田遺跡 No.8, 24, 28 遺物群、地方遺跡、小田元第 2 遺跡、大原野遺跡、道下段遺跡、山賀遺跡、讀良郡桑里遺跡、原田遺跡 (No.39, No.67, No.93, No.107)、文珠館遺跡 I、茶畑山遺跡、五明田遺跡、長谷遺跡 (77, 78, 95)、矢野遺跡 (3, 9, 186-2)、西飯降 II 遺跡、志谷 III 遺跡の高尾原 338, 459 遺物群 (西坪上高尾原遺跡)、金井谷峰 9 遺物群 (豊成上金井谷峰遺跡)、大藤 (A1a, A18, A27, A31) 遺物群 (大藤遺跡)、芝原風化 (20 ~ 28) 遺物群、上ノ村遺物群 (上ノ村遺跡)、岡田西河内風化群 (岡田西河内遺跡)、北上 2, 268, 270, 277, 279 の各遺物群 (北上 2 遺跡)、大宮-1 遺物群 (大宮・宮崎遺跡) の分析個数は 1 個の遺物の分析場所を変えて分析した回数数をあらわす。下山遺跡 (No.4, No.14, No.15)、平田遺跡 (No.12, No.13)、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡、東船遺跡、千葉 2, 3, 4 遺物群、城ノ内遺物群 (No.13, No.22)、原田遺跡 (1, 2, 3)、高尾原 A 遺物群 (西坪上高尾原遺跡)、金井谷峰 A 遺物群 (豊成上金井谷峰遺跡)、大藤 (B, C) 遺物群、芝原風化 A 遺物群、岡田西河内群、北上 2-A A 遺物群 (北上 2 遺跡)、大宮 2-3, 4-5 遺物群 (大宮・宮崎遺跡) の分析個数はそれぞれ 2 個以上の遺物の分析場所を変えて分析した回数数をあらわす。

表2 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第1群	20	30	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第2群	22	22	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明 (どこの原石群にも属さない)

表3 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第1群	12	17	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	13	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第2群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明 (どこの原石群にも属さない)

表4 和歌山氏梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10	48	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第1群	1	5	淡路島、岸和田、和歌山に出現
	10	48	不明 (どこの原石群にも属さない)

表5 川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の元素比結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
119725	0.443	0.211	0.073	4.338	0.300	0.069	1.124	0.018	0.013	0.121
119726	0.447	0.217	0.082	4.502	0.292	0.079	1.183	0.015	0.023	0.177
119727	0.412	0.219	0.076	4.673	0.293	0.062	1.062	0.013	0.012	0.113
119728	1.042	0.478	0.034	1.984	0.264	0.027	0.516	0.238	0.034	0.364
119729	0.432	0.216	0.076	4.256	0.295	0.092	1.161	0.034	0.022	0.164
119730	0.407	0.218	0.077	4.811	0.285	0.069	1.077	0.024	0.012	0.109
119731	0.426	0.224	0.070	4.418	0.282	0.084	1.127	0.030	0.022	0.164
119732	0.413	0.223	0.077	4.782	0.303	0.071	1.107	0.032	0.013	0.116
119733	0.429	0.260	0.060	3.663	0.300	0.052	1.020	0.051	0.019	0.170
119734	1.109	0.501	0.032	1.905	0.259	0.027	0.502	0.228	0.035	0.381
119735	0.440	0.228	0.069	3.981	0.291	0.069	1.176	0.033	0.022	0.160
119736	0.401	0.223	0.081	4.848	0.314	0.065	1.065	0.014	0.012	0.113
119737	0.416	0.251	0.056	3.540	0.298	0.051	1.010	0.052	0.019	0.164
JG-1	1.265	0.284	0.052	2.736	0.737	0.171	0.854	0.045	0.036	0.410

JG-1: 標準試料 -Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表6 川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の産地分析結果

番号	石器番号	調査区	グリット	器種	分析番号	ホテリングのT ² 乗検定(確率)	新元素比によるホテリングのT ² 乗検定(確率)	組み合わせ判定結果
1	S203	IV区 第3面	N5	剥片	119725	城山(35%), 金山東南(29%), 金山南(3%), 金山東(2%), 金山南露頭(0.1%), 金山北(0.1%)	金山東南(70%), 金山南(23%)	金山東南
2	S236	IV区 第3面	H6	剥片	119726	金山東(79%), 金山東南(36%), 金山南(3%), 城山(2%), 金山北(1%)	金山東(86%), 金山東南(33%)	金山東1, 2地点採取
3	S321	IV区 第3面	J4	剥片	119727	城山(93%), 金山南露頭(44%), 金山西(35%), 金山東南(11%), 金山南(0.4%)	城山(96%), 金山西(73%), 金山南露頭(6%)	城山・金山西・金山南露頭
4	S700	IV区 第3面	Q14	調整ある剥片	119728	飯山(22%)		飯山
5	S707	IV区 第3面	Q14	剥片	119729	金山東南(7%), 城山(3%), 金山南(0.2%), 金山東(0.2%)	金山東南(42%), 金山南(3%), 金山西(0.2%)	金山東南
6	S753	IV区 第3面	Q13	剥片	119730	城山(96%), 金山南露頭(46%), 金山西(8%), 金山東南(1%)	城山(64%), 金山西(3%)	城山
7	S806	IV区 第3面	L19	剥片	119731	金山東南(31%), 城山(25%), 金山南(24%), 金山南露頭(4%), 金山西(0.9%), 金山東(0.1%)	金山東南(43%), 金山南(5%), 金山西(0.8%), 金山南露頭(0.3%)	金山東南・金山南
8	S809	IV区 第3面	L19	剥片	119732	城山(57%), 金山南露頭(21%), 金山西(9%), 金山東南(8%), 金山南(0.1%)	城山(83%), 金山西(37%), 金山南露頭(5%)	城山・金山西・金山南露頭
9	S810	IV区 第3面	L19	剥片	119733	国分寺(79%), 蓮光寺(72%), 岩屋第2群(0.1%)	国分寺(40%), 蓮光寺(27%)	国分寺・蓮光寺
10	S838	IV区 第3面	M18	剥片	119734	飯山(25%)		飯山
11	S1102	IV区 第3面	M18	剥片	119735		金山東南(0.2%)	金山系?
12	S1215	IV区 第3面	V25	剥片	119736	城山(77%), 金山西(0.8%), 金山南露頭(0.8%), 金山東南(0.3%)	城山(47%), 金山西(1%), 金山南露頭(0.1%)	城山
13	S1340	IV区 第3面	K21	剥片	119737	蓮光寺(85%), 国分寺(25%)	蓮光寺(36%), 国分寺(33%)	国分寺・蓮光寺

第Ⅶ章 まとめ

第1節 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史の変遷

1. はじめに

前章までに川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の遺構・遺物の報告をしたが、記述した諸遺構の事実関係を整理し、遺跡の概要を時代順に簡単にまとめたい。報告した遺構・遺物を時代順で分ければ、①旧石器時代、②縄文時代 ③弥生時代 ④古代 ⑤中世 ⑥近世以降の6区分に分けられる。次に川津六反地遺跡から時代順にまとめる。

2. 川津六反地遺跡の変遷(第163・164図)

(1) 旧石器時代

旧石器と考えられる石器類は比較的多数出土している。確認した石器類は、主にⅠ・Ⅱ区の自然河川、中近世の遺構や包含層から出土した遊離遺物である。主な遺物としては、ナイフ形石器(65・66・67)・翼状剥片石核(653)・横長剥片石核(257・331)・縦長剥片(72～74・76・428・430・608・660・811)・縦長剥片石核調整剥片(75・77・78・169・431・608・659・660)等の資料があげられる。他にも横長剥片・横長剥片石核等が出土しているが、これらの石器類については、縄文時代以降にも類似する石器があるため、明瞭に分けきれない点を断っておく。

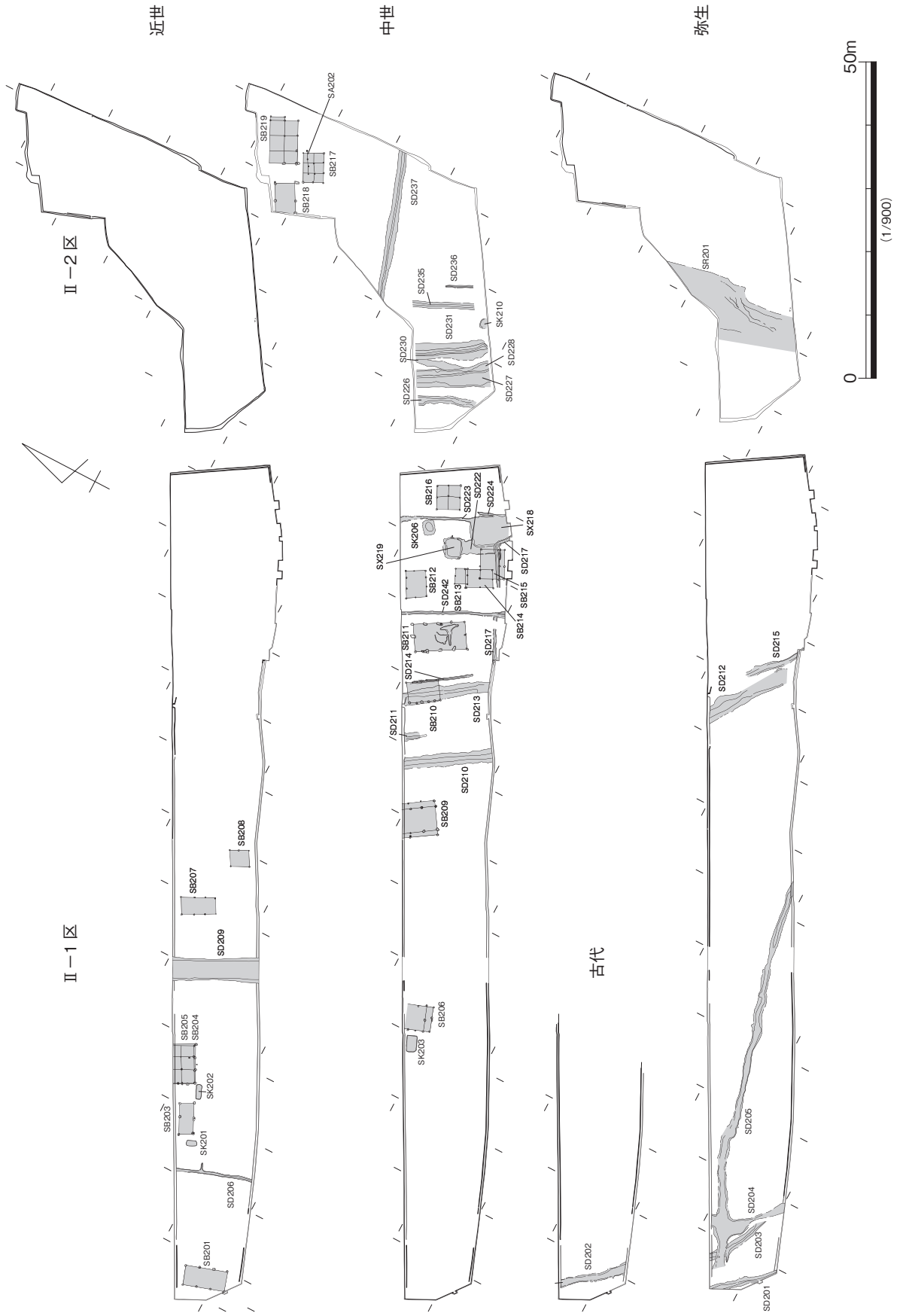
旧石器に限らないが、本遺跡出土の石器類は弥生時代以降の自然河川・中世遺構・包含層等に遊離遺物として含まれる遺物が多い。これらの石器類の出土量は他の一般集落に比べてかなり多く、本遺跡の特徴と言える。ただ、遺構に伴わない石器類を時代で区分するのは困難である。そのため、これらの石器類は間接資料としてしか使えないのが現状である。

川津六反地遺跡の東方にはサヌカイト原産地にあたる国分台・金山・城山等が位置し、サヌカイトを採集し石器生産を行なう適地といえる。特に、この遺跡から出土したサヌカイト石器類には、大型の石核・剥片などの石器生産の初期に発生する資料が多い。そのため、調査地周辺にサヌカイト原産地から採集した原素材をもとに、石器生産を営む集落が存在する可能性が高い。なお、後述する縄文時代ではⅣ区で石器製作跡を確認している。これらのことから、推定される集落の中心地が、隣接地に所在することは間違いなからう。

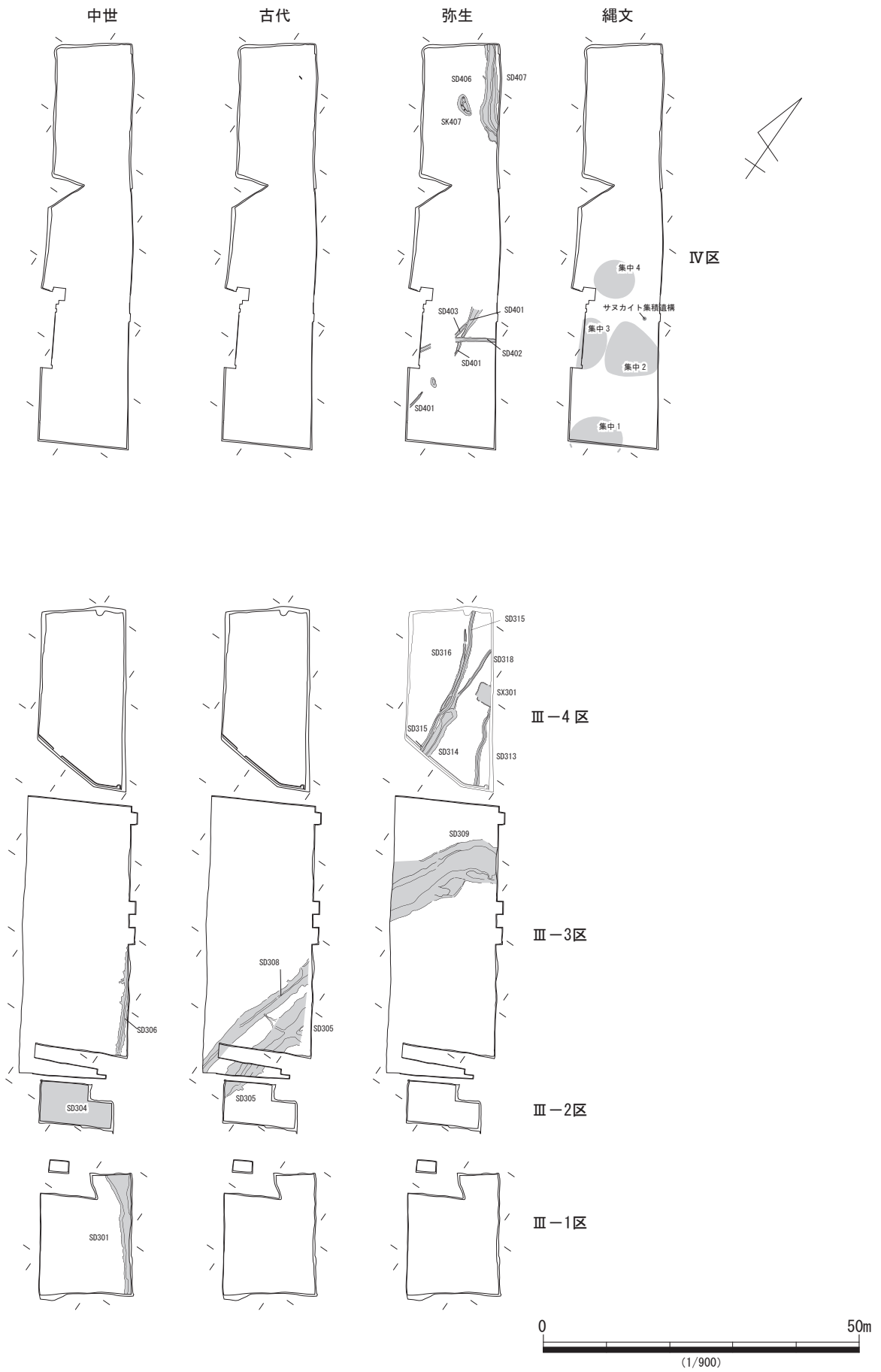
(2) 縄文時代

縄文時代の遺構・遺物については、Ⅱ-1区の有舌尖頭器(429)、Ⅱ-2区SR202出土の浅鉢(656)、Ⅳ区の石器集中ブロック及びサヌカイト集積遺構等の遺構・遺物があげられる。

Ⅳ区の石器集中ブロック及びサヌカイト集積遺構は、弥生時代以降の遺構面下から検出した。石器集中ブロック等からは約1,600点のサヌカイトと安山岩の石器・剥片類が出土した。主体となるのはサヌカイト製の碎片・剥片であるが、少数の石鏃・削器・石核等も含まれる。また、接合資料も18点抽出することができた。これらの資料は県下では限られており、従来不明瞭であった県下の縄文時代の石器製作技術を復元するうえで良資料になる。ただ、出土した包含層中から土器が出土していないため、詳細な時期決定に問題を残している。



第 163 図 川津六反地遺跡遺構変遷図 II 区



第 164 図 川津六反地遺跡遺構変遷図Ⅲ・Ⅳ区

時期を検討する資料として、石器集中ブロックの上面で検出したSP401がある。この遺構からは弥生時代前期前葉の甕(941)が出土しており、この土器が下限期を示している。また、上限期については、火山灰分析により、石器集中ブロックの包含層より下位の堆積層中から少量ではあるが「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」(約7,300年前)を抽出することができた。そのため、この火山灰は石器集中ブロックの上限期を推定する一資料となる。

また、地理学的な研究においては、瀬戸内海沿岸の平野部の扇状地や三角州では、縄文後期から晩期にかけて黄色系シルトや砂の堆積が想定されている。石器集中ブロックの包含層やその下位で確認した黄褐色粘土層が、先の所見の堆積層に対応するものと考えれば、石器集中ブロック等は、縄文時代後期以降に形成された可能性も指摘できる。

(3) 弥生時代

弥生時代の遺構はⅡ・Ⅲ・Ⅳ区までの範囲内で溝状遺構等の遺構を検出した。確認した遺構は弥生時代前期から終末期までの時期幅がある。前期～中期の遺構は遺構・遺物伴に少ないが、後期の段階になると遺構・遺物伴に増加する。検出した遺構に住居等が確認できないため、弥生時代の調査地周辺は、主に集落の生産域として土地活用がなされていたものと考えられる。

弥生時代前期～中期の遺構は、Ⅳ区のSP401、SD406・407、SK407等があげられ、川津六反地遺跡の北辺に数遺構が希薄に分布する傾向が窺える。SP401は先述したように、Ⅳ区南端部の石器集中ブロックの上面で検出した遺構で、前期前葉の甕(941)が出土しており、Ⅳ区周辺に同時期の集落が所在している可能性がある。なお、Ⅱ区のSD203からは弥生時代中期初頭頃の遺物が数点出土しているが、この時期に含まれるかどうかは問題を残す。

弥生時代後期の遺構はⅡ・Ⅲ区で確認した。Ⅱ-1区ではSD204・205・212・215等が、Ⅲ区ではSD309・313・314・315・316等の溝状遺構があげられる。また、Ⅱ-2区では後期後半のSR201を検出した。これらの溝跡のうちⅢ区のSD309は比較的大型の灌漑水路と考えられ、弥生時代後期前半～終末期頃の土器を比較的多量に出土しており、同時期の集落の中心がⅢ区周辺に所在することは確実であろう。

なお、Ⅳ区のSK402・408、SD401・402・403からは弥生土器の小片が少数出土しており、これらの遺構も弥生時代に含まれる可能性がある。

(4) 古代

古代の遺構はⅡ・Ⅲ区で3条の溝跡を確認した。Ⅱ区の溝跡は西端に位置する7世紀前半のSD202である。Ⅲ区の溝跡は7世紀前半と後半の時期が考えられるSD305・308である。この2条の溝跡は真北に近い方向を向くのが特徴である。SD305は比較的大型の幹線水路で、この地域の新たな新田開発を意図した大型水路と考えられる。丸亀平野では7世紀末以降に条里地割の施行が開始される。この地割は真北から約30°西に向く方位を基準にしているが、川津六反地遺跡では7世紀代の類似資料は見当たらない。そのため、当地周辺では8世紀以降の施行を想定すべきであろう。

なお、Ⅱ・Ⅲ区からは古代の瓦と考えられる資料が多数出土した。そのため、周辺に瓦葺きの建物が所在していた可能性があるが、当時の瓦葺き建物は官衙ないし寺院等の極限られた施設で使用しているため、そのような公的施設がⅡ・Ⅲ区周辺に存在する可能性が高く、周辺部の今後の調査では注意を要する。

(5) 中世

川津六反地遺跡で集落の居住域が確認できるのは中世以降である。Ⅱ・Ⅲ区からは掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構等を多数確認した。中世に属する建物跡はⅡ区で合計12棟を確認した。分布の傾向として、Ⅱ-1区西半部にSB206・209等の廂付建物が単体で分布する他は、Ⅱ-1区の東半部とⅡ-2区北半部に集中する傾向がある。

Ⅱ-1区東半部ではSB206・209・210・211・212・213・214・215等の建物があげられる。時期的には12世紀後半～13世紀末までの時期幅があり、概ね中世前半の建物群であろう。建物主軸は北から22～34°西に振る角度までの幅はあるが、概ね条里地割の方向を意識して揃えている。これらの建物中で同一グループとして捉えられるのは、桁行を揃えたSB211・212・214のグループである。なお、時期が不明瞭なSB212・213・214・216等も、規模やは主軸方位などから中世の建物と考えられる。

Ⅱ-2区北半部では、SB218・219・217等の建物があげられ、時期的には13世紀後半頃が考えられる。建物主軸は北から27～30°西に振り、条里地割の方位に揃えていることが解る。3棟の建物の中でSB218・219は桁行を揃えており、同一グループの建物であろう。なお、SB217はSB218・219と近接しており、時期差が考えられる。Ⅱ区の中世建物群の分布状況を概観すれば、2～3棟の建物が一群をなし、Ⅱ-1区からⅡ-2区の中で変遷していることが推測される。

中世の溝状遺構はⅡ・Ⅲ区で確認している。Ⅱ区からは多数の中世の溝跡を確認した。主なものでは、SD210・213・217・222・223・242・227・228・231・235・237等の溝跡があげられる。時期的には12世紀後半～13世紀後半までの時期幅があり、溝状遺構を時期で分ければ、12～13世紀頃の中世前半の溝跡は、SD210・213・227・228・231・235・237等があたり、14世紀以降の中世後半の溝跡はSD217・222・223・242等の溝跡に分けられる。主軸方位は条里地割の方位に揃えており、同方位に影響を受けている。なお、SD210・213周辺は条里地割の南北方向の坪堺線近くに位置しており、坪堺溝の可能性もある。

Ⅱ区の溝状遺構では居住域を画した区画溝と考えられる溝跡が数条確認できる。Ⅱ-1区のSD210・213とⅡ-2区のSD227・228・231からは居住域から廃棄された多量の土器類が出土している。特にSD227・228からは、小皿・杯・椀の食器類が多量に出土しており注目される。西のSD210・213と東のSD227・231の、東西50～60mの区間内には、SB211・212・214等の建物群が分布することから、これらの溝跡はⅡ-1区東半部の建物群から構成される居住域の、西辺と東辺を画する溝跡の可能性が高い。また、Ⅱ区の中世後半期の溝状遺構、SD222・223・242等の直線溝も区画溝の可能性もある。SD222・223には水溜状の遺構と考えられるSX218・219等の大型で方形状の落ち込みが付設されている。このような溝状遺構は県下の中世後半の集落では、屋敷地の外郭溝などで数例みられることから、SD222・223等は中世後半の区画溝と考えられる。

Ⅲ区ではSD301・302・304・306等が中世の溝跡にあたる。これらの溝跡は条里地割の坪堺線に合致している。Ⅲ区の東辺は条里地割の南北の坪堺線が隣接しており、同方向に概ね合致するのがSD301・302・306等の南北溝である。また、東西方向の坪堺線に合致するのがSD304である。

Ⅱ・Ⅲ区の条里地割に係わる溝跡は12世紀～13世紀頃に埋没した溝跡が主で、川津六反地遺跡周辺の条里地割の上限期を指す一資料ではあるが、条里地割の施行が古代まで遡る可能性が高いため、周辺地域の今後の資料増加に期待したい。

I区 naturally 河川 SR101 は城山川の埋没河川であるが、中世から埋没を開始し、ある程度埋没した段

階の中世後半に多量の土器を廃棄している。特に足釜の個体数が多く、良資料になった。また、時期的に不明瞭な点もあるが、Ⅱ区からは鍛冶炉の炉壁や羽口等の資料が出土しており、集落内で野鍛冶が行われていた可能性が高い。

(6) 近世

近世の遺構は、Ⅱ区から比較的多数確認した。主要なものでは、SB201・203・204・205・207・208、SK201・202、SD209等の諸遺構が考えられ、概ねⅡ区西半部に集中する傾向が窺える。中世の住居等の中心はⅡ区東半部に集中することに対し、近世段階では大東川により近い西半部に集落域が移動したものと考えられる。西端部のⅠ区SR101の状況を見る限り、その背景には、大東川や城山川の氾濫源が安定し、農地開発が河川の隣接地にまで及んだことが考えられる。

3. 川津昭和遺跡の変遷

(1) 弥生時代

弥生時代の遺構としては、北西方向の直線溝SD501があげられる。この溝跡は調査区西際を南北に縦断する幹線水路である。時期的には弥生時代中期後半前後に掘削され、数度の改修を経過した後、最終的には終末期頃に埋没した溝状遺構である。

(2) 古代末～中世

古代末～中世の遺構として11世紀後半のSD502があげられる。この溝跡は周辺地域の条里型地割の坪堺線に隣接し、方位も概ね合致することから、川津昭和遺跡周辺の条里地割の施行時期の上限を指す溝跡ではあるが、狭い範囲の調査であるため、周辺地域の資料増加に期待するところが多い。

(3) 近世以降

川津昭和遺跡からは、近世以降の遺構が多く、SE501・502・503、SK502・503・504・505・506・507・508・509等の遺構が確認できる。検出した土坑の多くは、廃棄物と考えられる遺物を多量に出土する事例が多く、宅地の建て替えに伴う廃棄土坑と考えられる。近世以降比較的長期にわたり宅地化していたものが、数度の建て替え等により形成されものがこれらの遺構であろう。

4. おわりに

川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史の変遷について簡単にまとめてみた。書き漏らした点は多々あるが、それらの諸問題については今後の課題としたい。

(参考文献)

- 広瀬 和雄 1986「中世の胎動」『岩波講座日本考古学 6—変化と画期—』岩波書店
大久保 徹也 1990「下川津遺跡といわゆる条里地割について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ—下川津遺跡—』
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
高橋 学 1995「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院
高橋 学 1995「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第7集』
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第2節 川津六反地遺跡の剥片生産技術

1. はじめに

川津六反地遺跡のⅣ区で確認した、縄文時代の石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構の整理作業に際しては、当時の石器生産技術の復元を目的にして整理作業を行なった。まず、石器類の特徴を掴むため属性分析に努めた。具体的には①石材の肉眼による材質分類 ②サヌカイトの産地同定 ③剥片類の計測値等の統計処理 ④接合関係の検討等である。それらの分析・資料操作結果をふまえ、石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構から出土した石器類のうち、剥片・石核・接合資料等に検討を加えることにより、川津六反地遺跡の石器生産技術の特徴を抽出したい。

2. サヌカイトの分類と産地同定

(1) サヌカイトの分類

出土したサヌカイトの肉眼観察では、風化等の違いにより数種類に細分できる。数種類のサヌカイトの微妙な違いは、原産地の相違が表れているものと推定される。その違いを探ることを目的として、サヌカイトを「白A・白B・普通・良質」の4種類に細分して検討することにした。

各遺構出土の石器類における石材別の内訳は第6表にまとめた。遺構別の傾向としては、集中1・4では普通が70%以上、集中3では良質が40%以上、集中2とサヌカイト集積遺構では白ABと普通を合わせた数値が80%以上を占めている。

(2) サヌカイトの産地同定

サヌカイトの原産地同定については、前章第2節で報告したように産地同定の分析を行なった。詳細な点は前章の分析結果を参照して頂くことにして、大まかな結果としては、「白A・白B」に分類したサヌカイトの原産地は、金山東南・金山南等金山産の可能性が考えられる。「普通」としたサヌカイトは1点金山産のデータはあるが、国分寺・連光寺産の可能性が高い。「良質」としたサヌカイトは、城山・金山西・金山南等の県内原産地を示すデータと、広島県の冠地域の飯山・針山地区を示すデータがある。サヌカイトの原産地が近いこの遺跡に、中国山地からサヌカイトが運ばれることは考え難いが、当時のサヌカイトの交易範囲の広さを考えた場合、否定できない結果である。つまり、一部を除き出土したサヌカイトの大多数は、川津六反地遺跡の東方に位置する、金山、国分寺・連光寺、城山等の近隣から採集されたものと考えられる。

第7表 遺構別 剥片の石材・打面等一覧

遺構別	サヌカイト材質 (%)			打面 (%)			
	白A B	普通	良質	平坦	調整	点	礫
集中1	20	74	5	39	16	43	2
集中2	35	45	20	42	19	36	3
集中3	37	19	44	39	24	34	3
集中4	6	73	20	31	31	33	5
サヌカイト 集積遺構	38	58	4	56	25	6	13

3. 剥片の属性

(1) 長・幅値の比較

剥片の計測値のうち長・幅について、集中ブロック別にグラフ化した。その結果、集中1・2・4は、長/1.0～1.4cm、幅/1.5～1.9cmにピークがあり、横長状を呈する剥片が主体を占める傾向が読みとれる。集中3は長/1.5～1.9cm、幅/1.5～1.9cmにピークがあり、長・幅値が同寸法の剥片が多いことが解る。次に長・幅値と点数の関係では、集中1・2・4は長/2.5cm、幅/3.0～3.5cmを超えると点数が極端に減少し、5.0cmを超える剥片は数点しかない。また、集中3は長/2.5cm、幅/3.5cmを超えると点数が極端に減少し、集中1・2・4同様に5.0cmを超える剥片は数点である。つまり、全体的な傾向としては長・幅3.0～5.0cm以上の剥片は極端に少ないことが指摘できる。

石器集中ブロックから出土している石器類には10cmを超える遺物もあることから、出土した剥片類は石器製作に伴う調整過程で発生した剥片が主体を占めるものと考えられ、長・幅3.0～5.0cm以上の大多数の剥片は、目的剥片あるいは石器として集中ブロック外に持ち出されたものと考えられる。また、小剥片が主体を占めるのは、一つには剥片の残存状況がある。出土した剥片には何れかの箇所が折れにより欠損している剥片が多く、完形の剥片は極端に少ない。全体の計測値を押し下げている要因の一つにあげられる。おそらく、剥離作業の過程で発生する偶発的な剥離ミスによるものが数多く含まれていると考えられる。

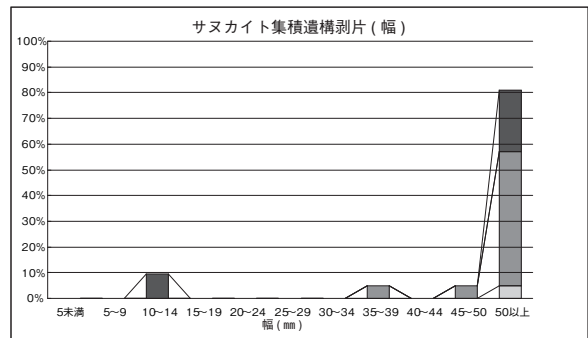
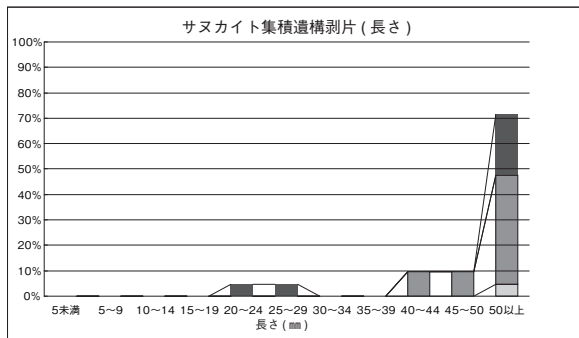
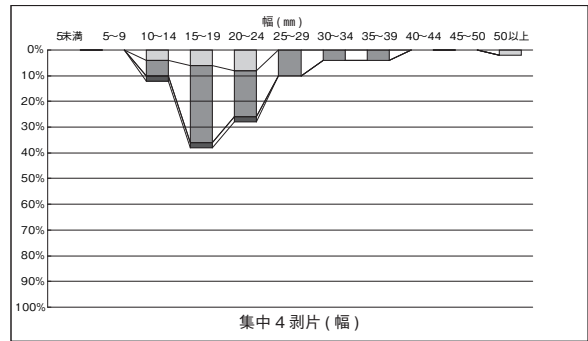
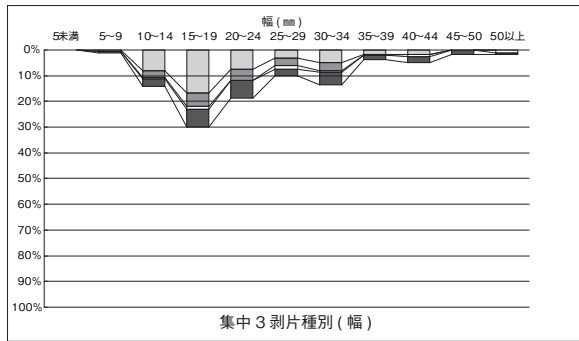
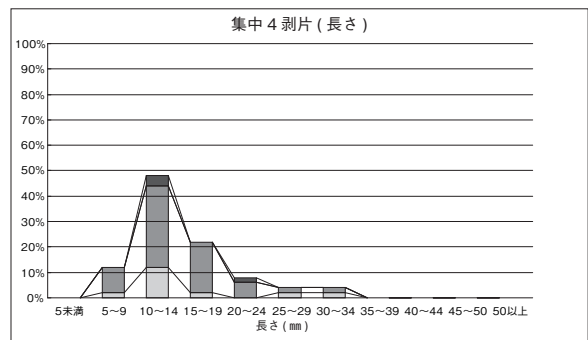
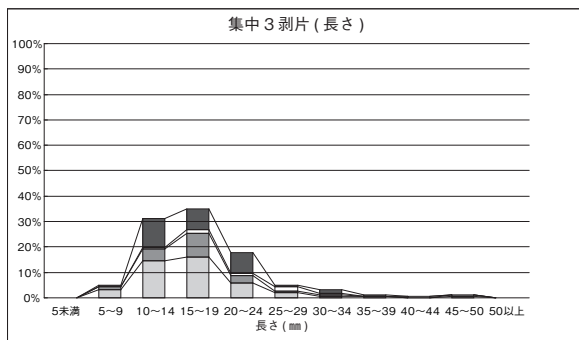
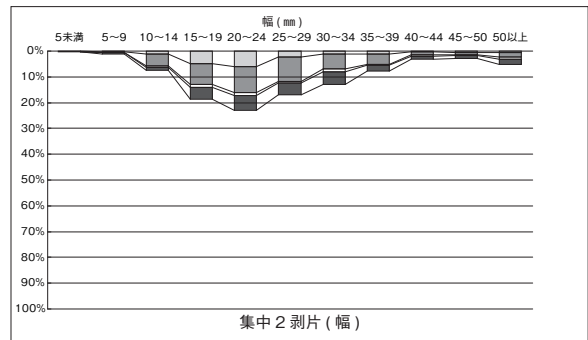
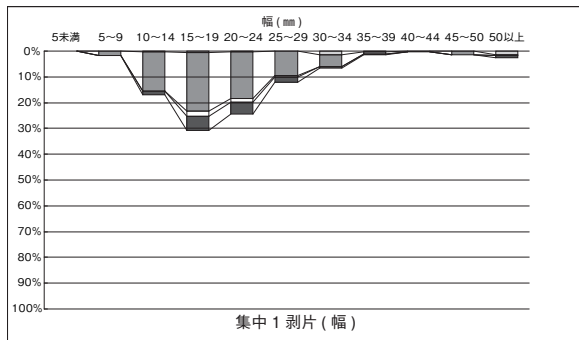
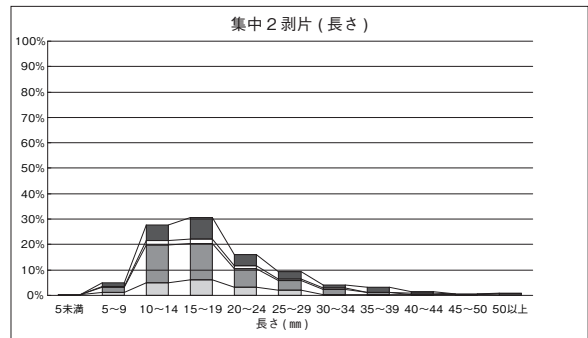
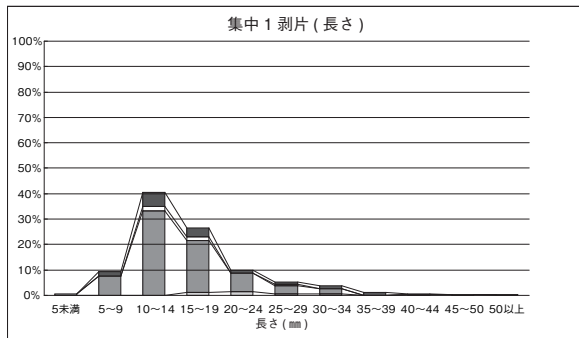
サヌカイト集積遺構から出土している石器類は、小型のものが20%、残りの80%は長・幅5.0cm以上の数値を示し、長/11.0cm、幅/16.0cmを測る大型の剥片もある。サヌカイト集積遺構は石器集中ブロックとは対照的で、多数の剥片が目的剥片ないし石核素材の条件を満たしており、石器生産を開始する前の、素材を集積している遺構であることが容易に推測される。ただ、出土した石器類については、当地で作製したものか、他地点で作製しこの場所に集積したのか、作製地点の問題がある。

(2) 打面の形状

出土した剥片の打面の状況では、平坦打面と調整打面を合わせた数値が半数近い比率を示しており、ある程度打面を準備したうえで作業を行なっていることが解る。また、礫打面は極端に少なく、現地での作業が分割礫や大型の剥片素材の状態から開始されている傾向が窺える。

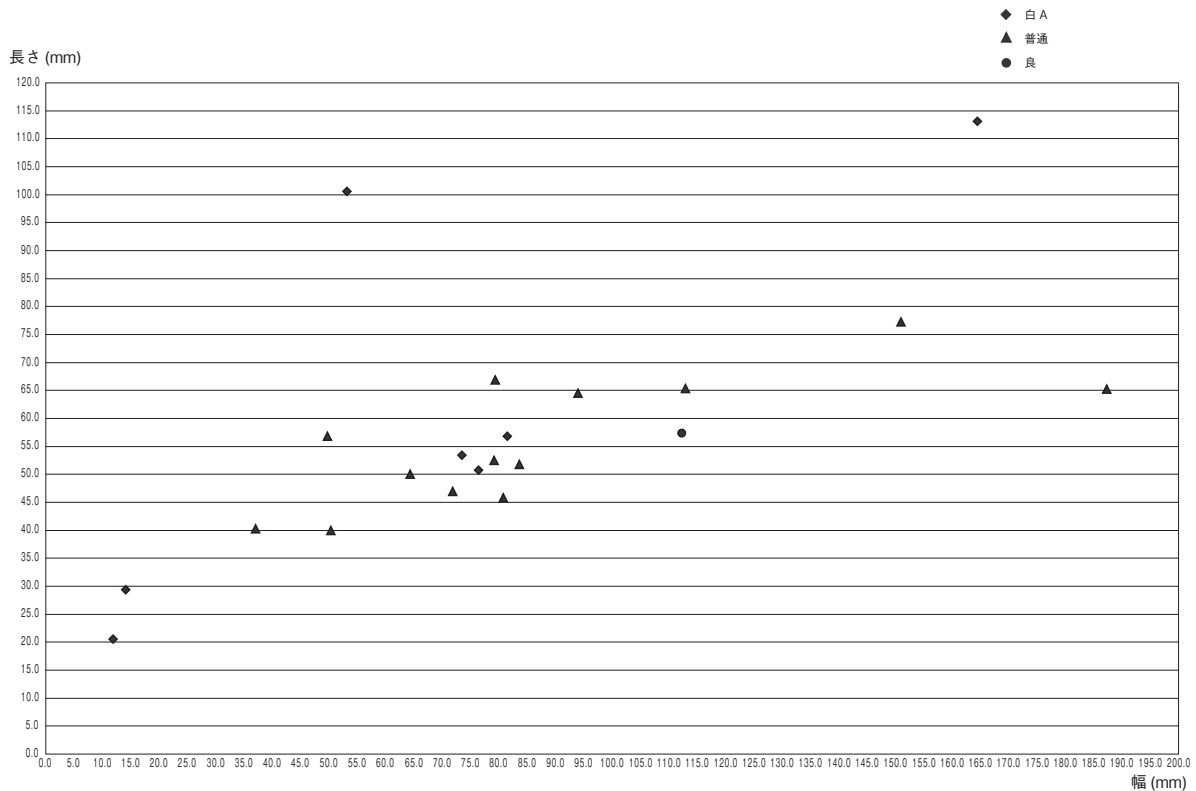
4. 接合資料について

集中1で2点、集中2で14点、集中3で2点の接合関係を掴むことができた。接合関係を整理すれば、剥片同士で接合する事例が16例、石核と剥片の接合例が2例を数える。剥片同士の接合例では折面同士が接合するパターンが多く、連続する剥片剥離による剥片同士が接合する事例は少ない。接合のパターンを細分すれば、以下の①～⑥のパターンに分けられる。



■ 白A ■ 普通
 □ 白B □ 良

第 165 図 遺構別 出土剥片の長・幅値比較



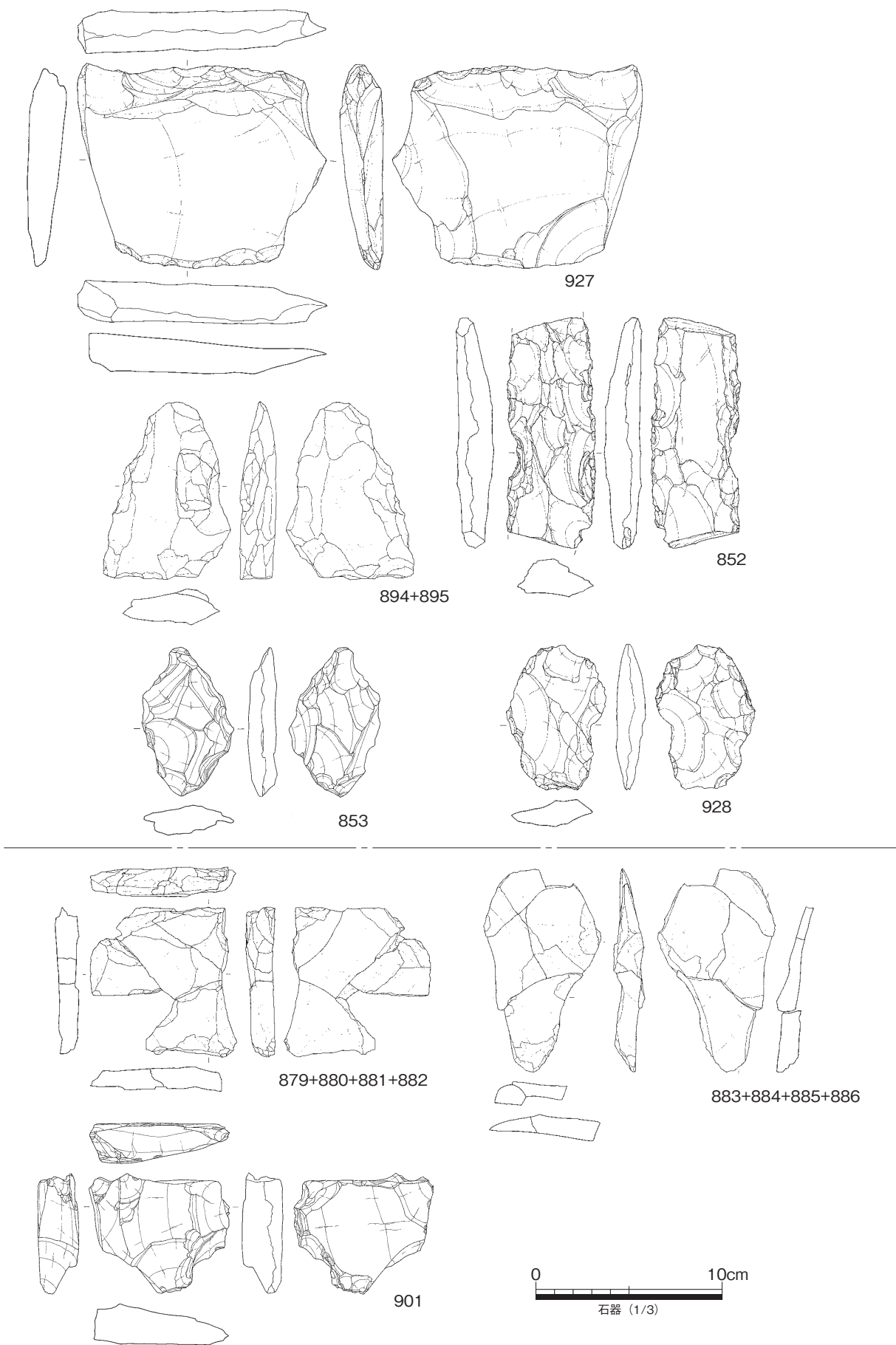
第 166 図 サヌカイト集積遺構出土剥片の長・幅値

- ①折面同士が接合する小剥片の接合資料 /835+836・837+838・865+866・869+870・871+872・873+874・877+878・902+903・904+905
- ②大型剥片の分割面上を加撃し、複数の剥片に分割している接合資料 /884+884+885+886・879+880+881+882
- ③平坦打面から連続して剥片剥離を行なっている剥片同士の接合資料 /861+862・863+864
- ④調整打面から連続して剥片剥離を行なっている剥片同士の接合資料 /875+876・889+890
- ⑤石核と剥片の接合資料 /891+892+893・894+895

以上の接合関係を総合すれば、①は小剥片が主で、先述した剥片の特徴と同様、剥離のミスによるものが主であろう。②の接合後の形状は、比較的大型の剥片である。前章でも触れたが、剥片の中には分割後に調整剥離施している 881 等の接合資料もあることから、これらの接合資料は意図的な切断によるものと考えられる。③④は点数が少ないが、石器集中ブロック中で、打面を形成した後に連続する剥片剥離作業を行なっている確実な実例として重要な資料である。

5. 石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構相互の関係

集中 1～4 については、石器組成及び出土した剥片類の状況等大きな相違はみられない。そのため、大きな時期差はないものと考えられる。ただ、集中 3 は出土した石材のうち良質が 4 割を占めている点と、剥片の長・幅値が他の集中ブロックの数値と僅かな相違を見出せる。数値の違いは使用する石材の差によるものと考えられるが、これらの違いが時期的な違いか、技術的な違いが表れているのか判断は難しい。



第 167 図 石器集中ブロック・サヌカイト集積出土石核

サヌカイト集積遺構は先述したように、約8割の遺物が目的剥片ないし石核素材の条件を満たしており、石器生産を開始する前の素材を集積している遺構であることは間違いなからう。また、検出状況から、石器集中ブロックとの明瞭な時期差は示す根拠は見出されない。先述したように、サヌカイト集積遺構の石器類については当地で作製したのか、他地点から当地に集積したのか、作製地点の問題を残しているが、石器集中ブロックとの接合関係が認められないため、他地点から当地に集積された可能性が高い。なお、遊離遺物のため問題があるが、Ⅱ・Ⅲ区等では石核素材を剥出できる82・147・613・626等の大型石核が数点出土している。これらの状況を考慮すれば、他地点で行なわれたとしても、隣接地の可能性が高い。

6. 石核、接合資料の検討

石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構が同時期のもと仮定して、出土した資料に検討を加え、川津六反地遺跡の石器生産技術の特徴を抽出したい。出土した石器類の中で、石器生産技術の特徴を明瞭に残しているのは、石核、接合資料等の資料である。

出土した石核は集中1～集中3で6点、サヌカイト集積遺構で2点と数は少ない。これらの石核の素材は、厚さ2.0cm程度の厚みのある大型の剥片を素材としている点で共通する。石核を大別すると2種類に、細分すれば4種類に分類することができる。次に石核の分類について触れるが、括弧内の記載は出土した遺構名を記入していることを断っておく。

石核Ⅰa類：厚さ2.0cm前後の大型剥片を素材とし、素材の側縁部を作業面にあて、交互剥離の手法により剥片剥離を行なう。形状は不整形な板状を呈する。

834(集中1)・927(集積遺構)等があげられる。927は初期段階の石核と考えられ、大型の剥片を素材に用いていることが良く解る資料である。上下両側縁の2辺と、1短辺の3辺から剥片剥離を行ない、両側縁部では交互剥離の手法で剥片剥離を行なっている。

石核Ⅰb類：厚さ2.0cm前後の剥片を素材とし、主に左右両側縁部を作業面にあて、交互剥離の手法により剥片剥離を行なっている。器面は剥片剥離作業により両面加工状を呈し、形状は扁平で不整形な楕円形～尖頭器状の形態を呈する。

852(集中2)・894(集中2)等があげられる。894は剥片との接合資料で、側縁部の作業面上で横長状の小剥片895が接合する。

石核Ⅰc類：厚さ1.5～2.0cm前後の剥片を素材とし、器面は剥片剥離作業により両面加工状を呈する小型の石核である。主に側縁部から交互剥離の手法より剥片剥離を行なっている。形状は扁平で不整形な楕円形状を呈する。

853(集中2)・928(集積遺構)等があげられる。両者とも小型の石核であるが、厚さ1.5cm前後を測ることから、厚みのある大型剥片を素材としていることが解る。

石核Ⅱ類：厚さ2.0cm弱の大型剥片を素材とし、平坦な表裏面上からの加撃による切断手法により、複数の素材剥片を作製する。形状は平坦な板状を呈する。

接合資料 879+880+881+882(集中2)・883+884+885+886(集中2)・901(集中3)等があげられる。接合資料 879+880+881+882 では、作業面調整ないしは打面調整と考えられる、石核調整痕を側縁部に施している。

7. 剥片生産技術の検討

(1) 石核Ⅰ a～c類

石核Ⅰ a～c類は、各々形状は大きく異なるが、素材に厚さ 2.0cm前後の大型の剥片を用いることや、主には側縁部を作業面にあて、剥片剥離の際には交互剥離の手法を多用する共通点があり、剥片剥離作業の進捗状況の差が、石核Ⅰ a～c類の残核形態の相違として表れている可能性が高い。

具体的には石核Ⅰ a類が初期段階の石核と考えられ、この段階では素材面を大きく残している。次に、石核側縁部からの剥片剥離を順次進めれば、石核の幅は狭まり、形状は不整形な楕円形～尖頭器状の石核Ⅰ b類の形状になる。また、石核Ⅰ b類の剥片剥離作業を更に進めれば、小型で不整形な尖頭器状を呈する石核Ⅰ c類に至り、この形状が最終の残核形態を表しているものと考えられる。

石核Ⅰ a～c類から発生する目的剥片を、作業面に残る剥離痕から推定する。剥離の初期段階にあたる石核Ⅰ a類では約 5.0～8.0cm程度の剥片が主で、剥離作業が進行した石核Ⅰ c類の段階では、3.0～5.0cm程度の小型の剥片が推定される。つまり、石核Ⅰ a～c類から剥離される剥片は 3.0～8.0cmまでの剥片が推定される訳である。比較例として、石器集中ブロックから出土している石鏃は、長さ 1.7～3.5cm×幅 1.6～2.1cmまでの数値を示し、石核Ⅰ a～c類から発生する剥片の計測値の範囲内に納まり、同石核から剥離した剥片は、石鏃を作製する条件を備えた剥片の可能性が高いことになる。

計測値の比較から推定して、石核Ⅰ a～c類の剥片生産の主目的は、石鏃等の小型石器の素材を得ることを目的としたものと考えられる。石核Ⅰ a類～石核Ⅰ c類に至る一連の手法と作業工程が、川津六反地遺跡の石器生産の主体となる技法の一つと考えられ、この剥片生産技術を仮に「川津六反地技法Ⅰ」と呼ぶことにする。

(2) 石核Ⅱ類

石核Ⅱ類は、接合資料を基に復元した石核形態である。石核の中には、作業面調整ないしは打面調整と考えられる石核調整を側縁部に施している事例もあり、石核調整で形状を整えた後に剥片を取得する場合もある。得られた剥片は 3.5～5.5cmの小型のものが多く、先述した技法Ⅰ同様、石鏃等の小型石器の素材として用いられた剥片であろう。なお、石核Ⅱ類中に含まれる接合資料の剥片 881 には、分割後の側縁部に調整剥離痕が認められ、881 は小型石器の製作途上の剥片と考えられる。これらの事例からも、石核Ⅱ類が小型石器の製作を主目的とした石核であることは間違いなからう。

石核Ⅱ類の切断手法は他の石核と異なり、石核Ⅱ類の一般的な手法とは考えられるが、出土した剥片・石核類には折面を残す資料が多く、意図的な切断によるものと、剥離ミスによるものを区別するのは困難である。そのため、この手法がどの程度多用されたかは更に検討する必要がある。なお、この剥片生産技術を仮に「川津六反地技法Ⅱ」と呼ぶ。

(3) 二つの技法の比較

川津六反地技法Ⅰ・Ⅱを比較した場合、技法Ⅰの石核内に技法Ⅱの特徴である、切断手法による切断

面の可能性がある折面が認められる石核が数例ある。例えば、石核Ⅰa類の927は3辺の側縁部を作業面にしているが、残り1辺には折面が認められる。石核Ⅱ類の901は、2辺の切断面と1辺の交互剥離痕とが混在している。また、他の石核にも切断面の可能性がある折面が確認できる。全ての折面が意図的なものか判断があるが、二つの技法の係わりを示す可能性は高い。これらの事例から川津六反地遺跡の剥片生産技術は、二つの技法を包括した一連の石器生産システムが推定されるのであるが、具体案は今後の課題にしたい。

川津六反地遺跡の剥片生産技術と、他地域の技術との比較も今後の課題だが、一視点として中四国の縄文時代後期以降の遺跡で確認されている「洗谷型剥片剥離技術」(註1)との比較が有効であろう。洗谷型剥片剥離技術は板状石材を素材とし、石核素材を取得した後に幾つかの技法に分かれて石器生産を行なう技法で、素材の分割方法・交互剥離手法など、川津六反地遺跡の技法と幾つかの共通点が指摘できる。

8. おわりに

以上、簡単であるが、川津六反地遺跡の石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構から出土した縄文時代の石器生産について想いつくままに触れてみたが、出土した石核資料が少なく根拠の乏しい点は否めない。また、川津六反地技法Ⅰ・Ⅱの剥片生産工程内での具体的な係わりや、他地域の剥片剥離技術との比較については、別の機会に触れることにする。

最後に、整理作業の際には石器の分類方法や、接合資料の資料操作等で、森下英治・多田 仁・小野秀幸らの適切で有益な教示を受けた。記して感謝したい。

(補註)

(1) 竹広文明 1988「中国地方縄文時代の剥片石器—その組成・剥片剥離技術—」『考古学研究』第35巻第1号

(参考文献)

竹広文明 2011「香川産サヌカイトの流通と石器製作—旧石器・縄文時代—」『平成23年度特別展 サヌカイト—元始の鉄—』香芝市二上山博物館

山下平重 1999「第5章まとめ 第2節サヌカイト集積遺構出土剥片について」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第34冊 国分寺六ツ目遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

中四国縄文研究会 2009『中四国縄文研究会20周年記念大会 第2回西日本縄文文化研究会合同大会—環瀬戸内地域の打製石器石材利用—』

香芝市二上山博物館 2011『平成23年度特別展 サヌカイト—元始の鉄—』

觀察表

第8表 川津六反地遺跡出土土器観察表(2)

編年 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	外面	内面	調整	色調	内面	外面	胎土	法量	残存率	備考			
56	I区	SR101	第2トレンチ	須臾器	須臾	回転子	回転子、板子	回転子	NS/灰	NS/灰	NI/灰	-	-	-	-			
57	I区	SR101	第2トレンチ	須臾器	須臾	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	-	-	-	-			
58	I区	SR101	第2トレンチ	須臾器	須臾	板子、板子、板子	板子	板子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	中・少	-	2/8	-			
60	I区	SR101	第3トレンチ	磁器	瓶	施軸、削り出し高台	施軸	施軸	7.5GY8/1明褐色	7.5GY8/1明褐色	NS/灰	緻密	-	5/4	8/8			
61	I区	SR101	第3トレンチ	磁器	瓶	施軸、削り出し高台	施軸	施軸	2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	NS/灰	緻密	-	5.0	8/8			
62	I区	SR101	第3トレンチ	土師器	足釜	回転子、板子、指柄	回転子、指柄	回転子	10YR7/2に多い黄橙	10YR7/2に多い黄橙	10YR8/4淡黄橙	-	21.7	-	3/8	-		
63	I区	SR101	第4トレンチ	磁器	瓶	回転子、後施軸	回転子、後施軸	回転子	10YR7/1灰白	10YR7/1灰白	NS/灰	緻密	-	10.0	2/8	-		
64	I区	SR101	第4トレンチ	陶器	瓶	施軸	施軸	施軸	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	5Y5/1灰	-	10.8	-	1/8	-		
83	II-1区	SB201		陶器	皿	施軸	施軸	施軸	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	5Y5/2灰白	-	-	-	破片	-		
84	II-1区	SB201		陶器	鉢	回転子、指柄、板子	回転子、板子	回転子	10YR88/3淡黄橙	10YR88/3淡黄橙	10YR88/3淡黄橙	-	-	-	破片	-		
85	II-1区	SB203		陶器	鉢	施軸、削り出し高台(オカスリ)	施軸	施軸	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	2.5Y6/2灰黄	-	3.8	8/8	-	-		
86	II-1区	SB203		土師器	鉢	回転子、板子	回転子、板子	回転子	7.5YR7/4に多い黄橙	7.5YR7/4に多い黄橙	10YR7/4に多い黄橙	細・並	-	-	破片	-		
87	II-1区	SB203		土師器	円盤状土製品	板子	板子	板子	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	10YR5/1褐色	-	幅49	厚さ0.9	8/8	-		
88	II-1区	SB203		陶器	陶器	板子	板子	板子	5YR4/4に多い赤褐色	5YR5/1褐色	5YR5/1褐色	-	幅3.8	厚さ1.4	8/8	-		
89	II-1区	SB205		白磁	瓶	施軸	施軸	施軸	NS/灰	NS/灰	2.5Y8/1灰白	-	-	-	破片	-		
90	II-1区	SB205		土師器	鉢	回転子、板子	回転子、板子	回転子	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	-	-	-	破片	-		
92	II-1区	SB206		土師器	指鉢	回転子、板子、板子	回転子、板子	回転子	7.5YR8/4淡黄橙	7.5YR8/4淡黄橙	7.5YR8/4淡黄橙	細・少	-	-	破片	-		
93	II-1区	SB207		陶器	皿	施軸、削り出し高台	施軸	施軸	5Y7/3黄	5Y7/3黄	2.5Y8/1灰白	-	10.2	3.5	5.4	4/8		
94	II-1区	SB207		土師器	足釜	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	-	-	破片	-		
95	II-1区	SB209		土師器	小皿	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	細・並	-	9.8	1.1	5	1/8	
96	II-1区	SB209		土師器	小皿	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	7.5YR8/3淡黄橙	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	-	8.8	1.4	6	2/8	
97	II-1区	SB209		黒色土器	瓶	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	NS/暗灰	-	14.6	-	-	3/8		
98	II-1区	SB209		黒色土器	瓶	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	NS/暗灰	-	6	1/8	-	破片		
99	II-1区	SB209		土師器	須臾	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	10YR5/2灰黄橙	10YR4/2灰黄橙	10YR4/2灰黄橙	中・多	-	-	-	破片		
100	II-1区	SB209		土師器	須臾	回転子、板子、指柄	回転子、板子	回転子	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	中・少	-	-	-	破片		
102	II-1区	SB211		土師器	杯	回転子	回転子	回転子	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	10YR8/3淡黄橙	中・並	-	13.8	-	1/8	-	
103	II-1区	SB211		土師器	鉢	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR5/2灰黄橙	10YR6/3に多い黄橙	10YR6/3に多い黄橙	中・並	-	-	-	破片		
104	II-1区	SD219		土師器	足釜	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	中・並	-	-	-	破片		
105	II-1区	SX214 、SX215		土師器	火鉢	板子	板子	板子	7.5YR8/6淡黄橙	5YR7/6橙	5YR7/6橙	中・多	-	28.9	1/8	1/8	芝罘3ヶ所、内面に炭・灰等の付着物	
107	II-1区	SB213		土師器	足釜	板子	板子	板子	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	細・多	-	-	-	破片		
108	II-1区	SB214		須臾器	甕	須臾	須臾	須臾	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	粗・少	-	21	1/8	-		
109	II-1区	SB215		土師器	杯	回転子、板子、板子	回転子、板子	回転子	10YR8/3淡黄橙	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・並	-	11.6	2.9	4	3/8	
110	II-1区	SB216		土師器	杯	回転子	回転子	回転子	10YR8/4淡黄橙	10YR8/4淡黄橙	10YR8/4淡黄橙	中・並	-	-	-	破片		
111	II-1区	SB216		土師器	足釜	回転子	回転子	回転子	10YR5/2灰黄橙	10YR5/2灰黄橙	10YR5/2灰黄橙	中・並	-	-	-	破片		
112	II-1区	SA201		土師器	杯	回転子	回転子	回転子	10YR8/3淡黄橙	5YR8/4淡黄	5YR8/4淡黄	細・並	-	-	-	破片		
113	II-1区	SK201		土師器	小皿	回転子、板子	回転子、板子	回転子	7.5YR7/3に多い黄橙	7.5YR7/3に多い黄橙	7.5YR7/3に多い黄橙	中・多	-	7.6	1.4	4.2	1/8	内面にスス付着
114	II-1区	SK201		白器	瓶	施軸	施軸	施軸	2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	-	-	5.2	1/8	-	-	
115	II-1区	SK201		陶器	鉢	回転子、板子	回転子、板子	回転子	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	2.5YR5/8明赤褐色	緻密	11	3.2	6	2/8	-	
118	II-1区	SK202		土師器	小皿	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR88/2灰白	10YR88/2灰白	10YR88/2灰白	中・並	-	7.8	1.8	5.4	1/8	内・外面スス付着
119	II-1区	SK202		瓦質土器	鉢	回転子	回転子	回転子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	中・少	-	-	-	破片		
120	II-1区	SK202		陶器	指鉢	回転子	回転子	回転子	10Y5/3赤褐色	10Y5/3赤褐色	10Y5/3赤褐色	中・少	-	-	-	破片		
121	II-1区	SK203		土師器	足釜	回転子、板子	回転子、板子	回転子	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4に多い黄橙	細・並	-	-	-	破片		
122	II-1区	SK204		土師器	火鉢	指柄、板子	指柄、板子	指柄	7.5YR8/3淡黄橙	7.5YR8/3淡黄橙	7.5YR8/3淡黄橙	中・多	-	24.2	8/8	-	-	
123	II-1区	SK206		土師器	小皿	回転子、板子	回転子、板子	回転子	5YR7/6橙	5YR7/6橙	10YR8/3淡黄橙	細・少	-	8.4	1.4	5.6	2/8	-
124	II-1区	SK206		土師器	指鉢	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR8/4淡黄橙	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	-	27.2	-	2/8	-	
125	II-1区	SK206		土師器	指鉢	指柄、板子、板子	指柄、板子	指柄	7.5YR8/2灰白	7.5YR8/3淡黄橙	7.5YR8/3淡黄橙	中・多	-	10	2/8	-	-	
126	II-1区	SK207		白磁	瓶	施軸	施軸	施軸	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	7.5YR7/1明褐色	緻密	-	-	-	破片	-	
127	II-1区	SK207		備前	甕	板子、板子	板子、板子	板子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	中・少	-	22.8	1/8	1/8	-	
128	II-1区	SD201	下層	須臾土器	高杯	板子、板子	板子、板子	板子	7.5YR5/4に多い黄橙	10YR6/3に多い黄橙	10YR6/3に多い黄橙	中・多	-	9	4/8	4/8	-	
129	II-1区	SD202		須臾器	高杯	回転子	回転子	回転子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	-	-	6.1	5.9	4/8	-	
132	II-1区	SD203		須臾器	杯	回転子	回転子	回転子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	-	-	-	-	破片	-	
133	II-1区	SD203	下層	須臾土器	甕	回転子、板子	回転子、板子	回転子	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	10YR7/3に多い黄橙	中・並	-	30.4	-	1/8	-	

第8表 川津六反地遺跡出土土器観察表(3)

報文 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土			法量		残存率	備考	
						外面	内面	外面	内面	石・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒			口径(cm)
135	II-1区	SD204	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	ナツ、ナツ、指材後2ツキ、ナツ	10YR7/3に多い黄褐色	10YR7/3に多い黄褐色	中・並	中・少	-	3	-	8/8	焼成破裂	
136	II-1区	SD204	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	指材、指材後2ツキ、ナツ	10YR7/4に多い黄褐色	10YR7/4に多い黄褐色	中・並	中・少	-	-	-	8/8	焼成破裂	
137	II-1区	SD204	下層	弥生土器	甕	ナツ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	ナツ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	10YR6/8	5YR6/4に多い黄褐色	粗・多	細・並	-	14	-	3/8	下川津B類に類似	
138	II-1区	SD204	下層	弥生土器	甕	ナツ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	ナツ、ナツ後3ツキ、ミヤキ、ナツ	10YR4/2底黄褐色	10YR4/2底黄褐色	粗・多	細・並	-	-	-	2/8		
139	II-1区	SD204	上層	弥生土器	甕	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR5/4に多い黄褐色	10YR6/2底黄褐色	中・多	中・少	-	5.6	-	2/8		
140	II-1区	SD204	下層	弥生土器	鉢	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/4に多い黄褐色	5YR6/4に多い黄褐色	中・多	中・少	-	8.8	-	1/8		
141	II-1区	SD204	下層	弥生土器	鉢	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR6/4に多い黄褐色	10YR7/4に多い黄褐色	中・多	中・少	-	-	-	1/8		
142	II-1区	SD204	上層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR6/3に多い黄褐色	10YR6/3に多い黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	破片		
143	II-1区	SD204	上層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR5/2底黄褐色	10YR6/2底黄褐色	中・並	中・少	-	7.6	5.5	2.3	4/8	
144	II-1区	SD204	上層	須恵器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5Y7/4底白	N7/底白	粗・多	中・少	-	10.8	4.3	-	1/8	
148	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	2.5YR8/2底白	2.5YR8/2底白	粗・多	中・少	-	-	-	1/8		
149	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR6/1底黄褐色	7.5YR6/1底黄褐色	中・並	中・少	-	-	-	1/8		
150	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR7/4に多い黄褐色	5YR7/4に多い黄褐色	中・多	中・少	-	17.2	-	1/8		
151	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/2に多い黄褐色	10YR7/2に多い黄褐色	中・並	中・少	-	14.2	-	1/8		
152	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/8底黄褐色	10YR7/8底黄褐色	中・並	細・少	-	10	-	2/8		
153	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR6/6底黄褐色	10YR4/1底黄褐色	粗・多	粗・多	-	-	7	7/8		
154	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR5/4に多い黄褐色	5YR5/4に多い黄褐色	中・多	中・多	-	-	8	4/8		
155	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/4に多い黄褐色	5YR6/4に多い黄褐色	中・多	中・並	-	-	10	5/8		
156	II-1区	SD205	上層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR6/4に多い黄褐色	7.5YR6/6底黄褐色	中・多	中・並	-	-	11.4	3/8		
157	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	2.5Y7/4底黄褐色	2.5Y7/4底黄褐色	中・多	中・並	-	-	-	破片		
158	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	2.5Y8/2底白	2.5Y8/2底白	中・並	中・並	-	12.6	-	2/8		
159	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/4に多い黄褐色	5YR6/4に多い黄褐色	中・並	中・並	-	14	-	4/8		
160	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/3に多い黄褐色	10YR7/3に多い黄褐色	中・多	中・少	-	16.1	20.4	4.7	1/8	
161	II-1区	SD205	下層	弥生土器	蓋	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	2.5Y6/3に多い黄褐色	2.5Y6/3に多い黄褐色	粗・多	粗・多	-	-	4.2	4/8		
162	II-1区	SD205	上層	弥生土器	甕	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5Y6/1底黄褐色	5Y6/1底黄褐色	粗・多	細・少	-	-	4.2	8/8		
163	II-1区	SD205	上層	弥生土器	甕	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR6/4に多い黄褐色	7.5YR6/4に多い黄褐色	中・並	中・少	-	-	5.5	6/8		
164	II-1区	SD205	上層	弥生土器	甕	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/6底黄褐色	10YR6/1底黄褐色	粗・多	中・少	-	24	-	9	3/8	
165	II-1区	SD205	下層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	中・並	細・少	-	-	-	2/8		
166	II-1区	SD205	上層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/6底黄褐色	5YR6/6底黄褐色	中・多	中・少	-	15.8	-	2/8		
167	II-1区	SD205	上層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR6/6底黄褐色	5YR6/6底黄褐色	中・多	中・少	-	28.6	-	破片		
168	II-1区	SD205	下層	弥生土器	高杯	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	5YR7/6底黄褐色	5YR7/6底黄褐色	粗・並	粗・並	-	26.8	17.5	14.4	8/8	
180	II-1区	SD206	下層	陶器	皿	施軸	施軸	7.5Y7/1底白	5YR6/4に多い黄褐色	-	-	-	-	-	破片	唐津焼	
181	II-1区	SD209	下層	土師器	杯	回転ナハ	回転ナハ、回転ナハ後ナハ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	中・多	-	-	14.8	3.5	8.2	1/8	
182	II-1区	SD209	下層	陶器	碗	施軸	施軸	2.5Y8/3底黄褐色	2.5Y8/3底黄褐色	-	-	-	12	4.3	3.8	1/8	底黄系
184	II-1区	SD209	上層	陶器	皿	施軸	施軸、削り出し高台	10YR7/4に多い黄褐色	10YR6/3に多い黄褐色	-	-	-	-	-	7	1/8	
185	II-1区	SD209	下層	磁器	磁器	施軸	施軸	N8/底白	N8/底白	-	-	-	-	-	12	2/8	
186	II-1区	SD209	下層	磁器	磁器	施軸	施軸	2.5Y7/1明ナハ	2.5Y8/2底白	-	-	-	-	-	13.8	1/8	
187	II-1区	SD209	下層	磁器	碗	施軸	施軸	N8/底黄	N8/底黄	-	-	-	13.9	-	-	破片	
188	II-1区	SD209	下層	陶器	碗	施軸	施軸	7.5Y7/1底白	7.5Y7/1底白	-	-	-	-	-	5	1/8	
189	II-1区	SD209	下層	土師器	指輪	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	7.5YR8/4底黄褐色	7.5YR8/4底黄褐色	中・少	-	-	15	9.6	8.9	3/8	
190	II-1区	SD209	下層	陶器	指輪	回転ナハ	回転ナハ	10YR5/3に多い黄褐色	10YR5/3に多い黄褐色	-	-	-	29.6	-	-	1/8	
191	II-1区	SD209	下層	陶器	指輪	回転ナハ	回転ナハ	10YR5/6赤	10YR5/6赤	-	-	-	27.4	-	-	1/8	
192	II-1区	SD209	上層	陶器	指輪	回転ナハ	回転ナハ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	-	-	-	28.8	13.5	9	3/8	
193	II-1区	SD209	上層	土師器	銅	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR6/2底黄褐色	10YR6/2底黄褐色	中・並	細・少	-	-	-	破片		
194	II-1区	SD209	下層	土師器	銅	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR6/2底黄褐色	10YR6/2底黄褐色	中・並	中・多	-	-	-	破片		
195	II-1区	SD209	下層	土師器	銅	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/4に多い黄褐色	2.5Y8/2底白	中・並	中・多	-	45.3	-	3/8		
196	II-1区	SD209	下層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	粗・多	細・並	-	-	-	破片		
197	II-1区	SD209	下層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	中・並	-	-	28.6	-	4/8		
198	II-1区	SD209	上層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR8/3底黄褐色	10YR8/3底黄褐色	中・並	-	-	21.8	-	2/8		
199	II-1区	SD209	下層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/1底白	10YR7/1底白	粗・多	細・多	-	18.6	-	2/8	焼成破裂有り	
200	II-1区	SD209	下層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR8/2底白	10YR8/2底白	中・多	-	-	-	-	2/8	焼成破裂有り	
201	II-1区	SD209	下層	土師器	足釜	ナハ、ナツ	ナハ、ナツ	10YR7/2に多い黄褐色	10YR7/2に多い黄褐色	粗・多	中・少	-	-	-	1/8		

第 8 表 川津六反地遺跡出土土器観察表 (5)

編年 番号	副塚区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土			法量	残存率	備考			
						外面	内面	外面	内面	赤色粒	角閃石	雲母				砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)
278	II-1区	SD213	最下層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	75YR8/2 灰白	75YR8/2 灰白	細・多	-	-	7.2	1.6	4.2	2/8		
279	II-1区	SD213	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	細・少	-	-	7.8	1.2	6.1	8/8		
280	II-1区	SD213	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	-	-	8.6	1.2	5.6	8/8		
281	II-1区	SD213	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	粗・並	-	-	9	1.4	7.4	8/8		
282	II-1区	SD213	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・並	-	-	8.6	3.3	7.1	4/8		
283	II-1区	SD213	下層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	細・少	-	-	7.8	1.4	6.3	8/8		
284	II-1区	SD213	下層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	細・少	-	-	8	1.3	5.5	8/8		
285	II-1区	SD213	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	中・並	-	-	14.4	3.4	9.4	8/8		
286	II-1区	SD213	上層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	細・少	-	-	15.2	3.4	9.8	2/8		
287	II-1区	SD213	上層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5Y8/1 灰白	10YR8/3 黄緑	中・少	-	-	14	3.4	6	4/8		
288	II-1区	SD213	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・並	-	-	14.6	3.5	7.8	1/8		
289	II-1区	SD213	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・少	-	-	13.6	3.5	7.2	2/8		
290	II-1区	SD213	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・少	-	-	14	3.5	7.1	5/8		
291	II-1区	SD213	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・少	-	-	14.3	3.4	8.8	2/8		
292	II-1区	SD213	下層	須臾器	碗	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	N7Y 灰白	N7Y 灰白	-	-	-	16.4	5.4	7.8	2/8		
293	II-1区	SD213	下層	瓦器	瓦	指柱	回廊 ² 、回廊 ³	N5Y 暗灰	N5Y 暗灰	-	-	-	15	5	4.2	6/8		
294	II-1区	SD213	下層	瓦器	瓦	指柱	回廊 ² 、回廊 ³	N5Y 暗灰	N5Y 暗灰	-	-	-	15.5	4.5	4.8	8/8		
295	II-1区	SD213	下層	瓦器	瓦	指柱	回廊 ² 、回廊 ³	N5Y 暗灰	N5Y 暗灰	-	-	-	14.3	4.4	5	8/8		
296	II-1区	SD213	下層	瓦器	瓦	指柱	回廊 ² 、回廊 ³	N5Y 暗灰	N5Y 暗灰	-	-	-	14.8	4.7	4.2	7/8		
297	II-1区	SD213	下層	白磁	碗	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	細・並	-	-	-	-	6	1/8		
298	II-1区	SD213	下層	須臾器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	-	-	-	-	-	-	破片		
299	II-1区	SD213	下層	土製品	壺	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	-	-	13.6	3.2	9.4	2/8		
300	II-1区	SD213	中層	須臾器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	N6Y 灰	N6Y 灰	中・少	-	-	-	-	-	破片		
301	II-1区	SD214	中層	須臾器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5YR8/4 黄緑	7.5YR8/4 黄緑	中・並	-	-	14.2	-	-	1/8		
302	II-1区	SD215	上層	弥生土器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5YR6/3 に近い黄	7.5YR6/3 に近い黄	中・並	-	-	13.4	-	-	6.6	2/8	
303	II-1区	SD215	上層	弥生土器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5YR5/4 に近い赤褐	5YR5/4 に近い赤褐	粗・並	-	-	-	-	-	4.5	2/8	
304	II-1区	SD215	中層	弥生土器	鉢	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5YR6/6 黄	5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	7	2/8		
305	II-1区	SD217	中層	土師器	足盆	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	中・並	-	-	-	-	-	破片		
306	II-1区	SD217	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・多	-	-	-	-	-	1/8		
307	II-1区	SD218	中層	土師器	高杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5YR6/6 黄	5YR6/6 黄	中・多	-	-	-	-	-	破片	凹線2条	
308	II-1区	SD221	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5YR7/3 に近い黄	5YR7/3 に近い黄	粗・並	-	-	2.6	-	-	1/8		
309	II-1区	SD223	中層	土師器	銅	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR7/2 黄	10YR7/2 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	外面スス付着	
310	II-1区	SD223	中層	土師器	銅	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/4 黄緑	10YR8/4 黄緑	中・少	-	-	-	-	-	破片		
311	II-1区	SD223	中層	土師器	銅	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	中・並	-	-	-	-	-	破片		
312	II-1区	SD223	中層	土師器	銅	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	中・並	-	-	-	-	-	破片		
313	II-1区	SD223	中層	土師器	銅	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	中・並	-	-	-	-	-	破片		
314	II-1区	SD224	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5Y2/T 黒	5Y2/T 黒	粗・多	-	-	-	-	9	8/8		
315	II-1区	SD218	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5YR7/4 に近い黄	7.5YR7/4 に近い黄	細・少	-	-	7.3	1.3	5.1	2/8		
316	II-1区	SD218	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少	-	-	-	-	3.6	1/8		
317	II-1区	SD218	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並	-	-	4.23	-	-	破片		
318	II-1区	SD218	中層	土師器	足盆	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	粗・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
319	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	2.6	-	-	1/8		
320	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
321	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
322	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
323	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
324	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
325	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
326	II-1区	SD218	中層	土師器	甕	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	2.5YR6/6 黄	2.5YR6/6 黄	中・並	-	-	-	-	-	破片	備前焼?	
327	II-1区	SD219	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5YR8/3 黄緑	7.5YR8/3 黄緑	粗・多	-	-	7.9	1.3	5.1	6/8		
328	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	中・少	-	-	-	-	4.6	6/8		
329	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR7/3 に近い黄	10YR7/3 に近い黄	中・少	-	-	10.2	13.1	8	3/8		
330	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR7/4 に近い黄	10YR7/4 に近い黄	中・並	-	-	-	-	-	破片		
331	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・少	-	-	-	-	5.8	1/8		
332	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	粗・多	-	-	-	-	-	破片		
333	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	細・少	-	-	15.2	-	-	破片		
334	II-1区	SD219	中層	土師器	杯	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	5YR7/4 に近い黄	5YR7/4 に近い黄	細・並	-	-	4.3	0.9	3	1/8		
335	II-1区	SD204	中層	土師器	小皿	回廊 ² 、回廊 ³	回廊 ²	7.5YR8/4 黄緑	7.5YR8/4 黄緑	細・少	-	-	6.4	1.3	4.8	4/8		

第8表 川津六反地遺跡出土土器觀察表 (6)

観文 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整	色調	胎土	残存率	備考				
		外面	内面	外面	内面	外面	内面	石炭長石 赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
337	II-1区	SP206		土師器	杯	回転子	10YR7/2に赤い黄橙	中・少	-	-	-	12	-	-
338	II-1区	SP207		土師器	杯	回転子、 回転子、仕上子	10YR7/4に赤い黄橙	中・少	-	-	-	10.9	2	7.3
339	II-1区	SP208		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	細・少	-	-	-	9.8	-	-
340	II-1区	SP208		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	75YR8/4淺黄橙	中・少	-	-	-	10.5	2.5	5.6
341	II-1区	SP209		土師器	足釜	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	中・並	-	-	-	-	-	-
342	II-1区	SP211		土師器	鍋	回転子、 回転子、仕上子	75YR7/2明褐灰	中・少	-	-	-	-	-	-
343	II-1区	SP212		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	中・少	-	-	-	-	-	-
344	II-1区	SP213		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	75YR7/4に赤い黄橙	中・並	-	-	-	8.8	1.9	3.7
345	II-1区	SP214		白磁	皿	施釉	10YR8/1灰白	-	-	-	-	6.6	3.3	6
346	II-1区	SP215		陶器	甕	板子	N/灰	-	-	-	-	-	-	-
347	II-1区	SP215		弥生土器	甕	回転子、 回転子、仕上子	5YR5/6明赤褐	中・並	-	-	-	15.8	-	-
348	II-1区	SP217		土師器	杯	回転子	10YR7/1灰白	細・少	-	-	-	-	-	-
349	II-1区	SP218		陶器	円筒状 土製品	板子	5YR5/1黄灰	-	-	-	-	高さ3.3	幅3	厚さ1.1
350	II-1区	SP218		陶器	円筒状 土製品	板子	25YR4/1赤灰	-	-	-	-	高さ4.1	幅4.2	厚さ1.2
351	II-1区	SP219		土師器	円筒状 土製品	板子	25YR4/1黄灰	細・並	-	-	-	高さ5.1	幅5	厚さ0.8
352	II-1区	SP221		陶器	碗	施釉、 施釉、削り出し高台	5YR8/1灰白	-	-	-	-	-	-	-
353	II-1区	SP222		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	細・少	-	-	-	7.4	1.4	5.6
354	II-1区	SP224		陶器	皿	施釉	5Y6/2灰オリーブ	-	-	-	-	12	-	-
355	II-1区	SP225		土師器	杯	回転子	75YR8/3淺黄橙	細・少	-	-	-	13	-	-
356	II-1区	SP225		須臾器	摺鉢	回転子、 回転子、仕上子	25Y4/1黄灰	中・少	-	-	-	-	-	-
357	II-1区	SP226		土師器	円筒状 土製品	板子	5YR5/3に赤い赤褐	-	-	-	-	高さ4.2	幅4	厚さ0.9
358	II-1区	SP227		土師器	摺鉢	回転子、 回転子、仕上子	75YR7/4に赤い黄橙	中・並	-	-	-	-	-	-
359	II-1区	SP228		土師器	杯	回転子	10YR8/2灰白	中・少	-	-	-	10	1.9	6
360	II-1区	SP229		弥生土器	壺	板子、 板子、 板子、 板子、 板子、 板子	75YR7/6橙	中・並	-	-	-	-	-	-
361	II-1区	SP230		陶器	陶器	板子	75YR5/2灰褐	中・多	-	-	-	高さ3.8	幅3.1	厚さ1.2
362	II-1区	SP231		土師器	足釜	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	中・少	-	-	-	-	-	-
363	II-1区	SP232		土師器	足釜	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/2灰白	細・並	-	-	-	21.4	-	-
364	II-1区	SP233		土師器	杯	回転子	10YR7/2に赤い黄橙	細・少	-	-	-	19.8	-	-
365	II-1区	SP234		土師器	杯	回転子、 回転子、仕上子	10YR7/2に赤い黄橙	細・多	-	-	-	9.2	-	-
366	II-1区	SP235		土師器	摺鉢	回転子、 回転子、仕上子	10YR4/1褐灰	中・少	-	-	-	9.8	2	7
367	II-1区	SP236		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	75YR7/4に赤い黄橙	-	-	-	-	-	-	-
368	II-1区	SP236		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	25YR8/2灰白	中・多	-	-	-	7.6	1.4	5.3
369	II-1区	SP236		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	75YR8/4淺黄橙	細・多	-	-	-	8.6	1.2	6
370	II-1区	SP236		土師器	杯	回転子	75YR7/3に赤い黄橙	細・並	-	-	-	8.8	1.3	6.8
371	II-1区	SP237		土師器	杯	回転子	10YR8/2灰白	細・並	-	-	-	13.2	-	-
372	II-1区	SP238		土師器	小皿	回転子	10YR8/2灰白	細・多	-	-	-	12.8	3.2	6.8
373	II-1区	SP239		土師器	杯	回転子	10YR7/3に赤い黄橙	中・少	-	-	-	8.4	1.5	5
374	II-1区	SP240		土師器	杯	回転子	10YR8/1灰白	細・並	-	-	-	15	-	-
375	II-1区	SP240		土師器	杯	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/1灰白	中・並	-	-	-	13.8	3.8	8.2
376	II-1区	SP241		土師器	銅	板子、 板子、 板子、 板子	25YR3/3淡黄	中・並	-	-	-	13.7	3.6	7
377	II-1区	SP242		土製品	陶材	板子	10YR8/3淺黄橙	中・並	-	-	-	-	-	-
379	II-1区	SP243		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	細・並	-	-	-	8	1.3	5
380	II-1区	SP243		土師器	杯	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/3淺黄橙	細・少	-	-	-	14.2	3.6	6.2
381	II-1区	SP244		土製品	瓶口	板子	25Y3/2黒褐	中・並	-	-	-	-	-	-
382	II-1区	SP245		土師器	足釜	回転子、 回転子、仕上子	25Y5/1黄灰	中・並	-	-	-	-	-	-
383	II-1区	SP246		土師器	杯	回転子	75YR8/4淺黄橙	中・並	-	-	-	13.3	3.4	7.3
384	II-1区	SP247		土師器	杯	回転子、 回転子、仕上子	10YR8/2灰白	中・多	-	-	-	11.5	3.1	7.8
385	II-1区	SP248		土師器	小皿	回転子	5YR2/6橙	中・少	-	-	-	7.6	1.2	6
386	II-1区	SP249		瓦器	瓦器	回転子	N/灰	-	-	-	-	16	-	-
387	II-1区	SP250		土師器	小皿	回転子、 回転子、仕上子	25Y7/3淺黄	中・並	-	-	-	8.4	1.4	6

第8表 川津六反地遺跡出土土器観察表 (7)

館文 番号	副区名	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土			法量		備考			
						外面	内面	外面	内面	石灰-長石	赤色粒	角四石	雲母	砂粒		口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)
388	II-1区	SP251		土師器	杯	回転子、回転子後片	内面	外面	内面	石灰-長石	赤色粒	角四石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率
389	II-1区	SP252		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/2 灰白	10YR88/2 灰白	中・並	-	-	-	-	138	37	7.6	1/8
390	II-1区	SP253		土師器	小皿	回転子、回転子後片		75YR88/4 浅黄緑	75YR88/3 浅黄緑	細・多	-	-	-	-	76	13	5.6	1/8
391	II-1区	SP254		土師器	碗	施軸		5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白	細・多	-	-	-	-	15.8	-	-	2/8
392	II-1区	SP255		土師器	杯	回転子、回転子後片		75YR66/4 におい濁	75YR53/3 におい濁	細・少	細・少	-	-	-	14	-	-	1/8
393	II-1区	SP256		土師器	小皿	回転子、回転子後片		75YR88/4 浅黄緑	75YR88/4 浅黄緑	中・少	中・並	-	-	-	9	12	6	3/8
394	II-1区	SP257		土師器	杯	回転子、回転子後片		10YR88/3 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	細・少	細・並	-	-	-	138	25	6.8	1/8
395	II-1区	SP258		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/4 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	細・少	細・並	-	-	-	7.8	16	6.1	1/8
396	II-1区	SP259		青磁	小皿	回転子、回転子後片		75Y6/2 灰オリーブ	75Y6/2 灰オリーブ	中・多	中・多	-	-	-	8.2	1.2	5.2	4/8
397	II-1区	SP260		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/3 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	細・少	細・少	-	-	-	14.6	2.4	8.6	1/8
398	II-1区	SP261		土師器	杯	回転子		75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	細・少	細・少	-	-	-	13.8	4.1	9.4	2/8
399	II-1区	SP262		土師器	杯	回転子、回転子後片		75YR7/6 橙	10YR77/4 におい黄緑	中・少	中・並	-	-	-	13.8	4.1	9.4	2/8
400	II-1区	SP263		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/3 浅黄緑	10YR88/3 浅黄緑	細・少	細・少	-	-	-	8	1.2	3.3	2/8
405	II-1区	包含層		弥生土器	甕	ツツ、ツツ後片		75YR7/4 におい濁	10YR66/2 灰黄褐	粗・多	粗・少	-	-	-	-	-	-	破片
406	II-1区	包含層		土師器	小皿	回転子、糸切		75YR88/2 灰白	75YR88/2 灰白	中・少	細・少	-	-	-	7	1.3	4.6	7/8
407	II-1区	包含層		土師器	小皿	回転子、糸切		10YR88/4 浅黄緑	25Y8/3 淡黄	細・少	細・少	-	-	-	8	1.6	5	3/8
408	II-1区	包含層		土師器	小皿	ツツ、糸切		75YR7/6 橙	25Y7/3 浅黄	中・並	-	-	-	-	9.8	1.2	8.0	2/8
409	II-1区	包含層		土師器	土師器	回転子、回転子後片		75YR88/4 浅黄緑	75YR88/4 浅黄緑	中・少	中・少	-	-	-	8.4	3.1	3.8	4/8
410	II-1区	包含層		陶器	皿	施軸、削り出し高台(オウズリ)		75Y7/1 灰白	N8/ 灰白	中・並	中・少	-	-	-	2.6	3.6	6.6	3/8
411	II-1区	包含層		灰付	皿	施軸、乾の目軸剥ぎ		10YR88/1 灰白	N8/ 灰白	-	-	-	-	-	2.6	3.6	6.6	3/8
412	II-1区	包含層		灰付	碗	施軸		75Y7/1 灰白	75Y7/1 灰白	-	-	-	-	-	4.2	-	-	8/8
413	II-1区	包含層		灰付	碗	施軸		N8/ 灰白	N8/ 灰白	-	-	-	-	-	1.1	-	-	1/8
414	II-1区	包含層		灰付	碗	施軸		10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	-	-	-	-	-	9.8	5.5	4	4/8
415	II-1区	包含層		瓦質土器	足釜	回転子、板子		N5/ 灰	N5/ 灰	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
416	II-1区	包含層		土師器	足釜	ツツ、細雅		10YR7/3 におい黄緑	10YR7/3 におい黄緑	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	破片
417	II-1区	包含層		土師器	足釜	板子		75YR6/3 におい濁	75YR6/3 におい濁	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
418	II-1区	包含層		須臾器	須臾器	ツツ		25Y6/1 黄灰	25Y7/1 灰白	-	-	-	-	-	高さ3.8	幅3.9	厚さ1.2	破片
419	II-1区	包含層		土師器	土師器	ツツ		75YR8/2 灰白	25Y8/1 灰白	中・少	-	-	-	-	高さ4.1	幅4.3	厚さ0.8	破片
420	II-1区	包含層		須臾器	須臾器	ツツ		25YR6/1 赤灰	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	高さ4.4	幅4.6	厚さ1.5	8/8
426	II-1区	包含層		土製品	土製品	ツツ		75YR7/4 におい濁	75YR7/4 におい濁	粗・少	中・並	-	-	-	-	-	-	破片
427	II-1区	包含層		土製品	土製品	ツツ		25Y8/2 灰白	10YR88/2 灰白	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	破片
440	II-2区	SB218		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/1 灰白	25Y8/2 灰白	細・少	中・少	-	-	-	7.2	1.0	5.0	3/8
441	II-2区	SB218		土師器	杯	回転子、回転子後片		10YR88/1 灰白	10YR88/1 灰白	細・少	中・少	-	-	-	11.4	2.9	7.7	3/8
442	II-2区	SB219		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/4 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	中・並	中・少	-	-	-	6.6	1.0	5.3	6/8
443	II-2区	SB219		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/2 灰白	10YR88/2 灰白	細・少	細・少	-	-	-	6.5	0.8	5.5	1/8
444	II-2区	SB219		土師器	小皿	回転子、回転子後片		75YR88/4 浅黄緑	75YR88/4 浅黄緑	細・少	細・少	-	-	-	7.0	1.1	5.0	8/8
445	II-2区	SB219		土師器	小皿	回転子、回転子後片		25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	細・並	細・少	-	-	-	7.1	1.0	6.1	1/8
446	II-2区	SB219		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR88/3 浅黄緑	10YR88/3 浅黄緑	細・並	細・少	-	-	-	7.9	1.3	6.6	3/8
447	II-2区	SB219		土師器	杯	回転子、回転子後片		25Y8/1 灰白	25Y8/1 灰白	粗・多	細・少	-	-	-	10.8	2.7	6.4	4/8
448	II-2区	SB219		青磁	碗	回転子後施軸		25G7/1 明オリーブ灰	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
449	II-2区	SK209		土師器	小皿	回転子、回転子後片		10YR7/3 におい黄緑	75YR88/4 浅黄緑	細・並	細・多	-	-	-	8.1	1.3	5.1	4/8
450	II-2区	SK209		土師器	杯	回転子、回転子後片		25Y8/1 灰白	10YR88/1 灰白	中・多	中・並	-	-	-	13.7	3.3	8.3	3/8
451	II-2区	SK209		土師器	杯	回転子、回転子後片		10YR88/3 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	中・多	中・並	-	-	-	14.3	3.6	9.3	4/8
452	II-2区	SK209		土師器	杯	回転子、回転子後片		10YR88/2 灰白	10YR88/2 灰白	細・多	細・多	-	-	-	14.4	3.6	8.0	3/8
453	II-2区	SK210		土師器	杯	回転子、回転子後片		10YR88/4 浅黄緑	10YR88/1 灰白	細・並	細・並	-	-	-	13.5	3.7	8.0	8/8
454	II-2区	SK210		土師器	杯	回転子、回転子後片		75YR88/3 浅黄緑	75YR88/3 浅黄緑	中・少	中・多	-	-	-	13.8	4.0	7.0	8/8
455	II-2区	SK221		土師器	杯	回転子、回転子後片		75YR88/3 浅黄緑	75YR7/6 橙	粗・多	粗・多	-	-	-	13.9	3.6	8.5	7/8
456	II-2区	SK210		土師器	杯	回転子、回転子後片		5YR6/6 橙	75YR88/6 浅黄緑	中・並	中・並	-	-	-	15.4	3.6	8.3	7/8
457	II-2区	SK210		土師器	杯	回転子、回転子後片		75YR88/4 浅黄緑	10YR88/4 浅黄緑	中・並	中・並	-	-	-	14.7	3.8	6.8	8/8
458	II-2区	SX221		灰付	碗	回転子後施軸		N8/ 灰白	N8/ 灰白	-	中・多	-	-	-	8.8	4.3	3.5	3/8
459	II-2区	SX221		土師器	土師器	ツツ、指竹後片		25Y3/1 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	中・少	中・少	-	-	-	32.2	-	-	1/8

第8表 川津六反地遺跡出土土器觀察表(8)

編年 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 口径(cm) 器高(cm) 底径(cm)	残存率	備考
						外面	内面	外面	内面	石灰長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒			
460	II-2区	SX221		土師器	珎釜	30子、指子、轆子、轆子後付	30子、指子後付、轆子	25Y5/1黄灰	10YR5/2灰黄褐	中・少	中・少	-	-	13.4	-	3/8	
461	II-2区	SD25		土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・少	細・少	-	-	13.1	-	1/8	
462	II-2区	SD27	(C)最下層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	75YR8/4浅黄褐	75YR8/4浅黄褐	細・少	粗・少	-	-	8.0	1.3	5.1	7/8
463	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	10YR8/3浅黄褐	10YR8/3浅黄褐	細・少	粗・少	-	-	7.9	1.1	5.4	6/8
464	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	75YR8/3浅黄褐 25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	-	-	-	-	8.2	1.3	5.4	4/8
465	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	75YR7/4に赤い粒	75YR7/4に赤い粒	細・並	細・少	-	-	8.2	1.6	5.6	7/8
466	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	10YR7/3に赤い黄褐	10YR7/3に赤い黄褐	細・少	細・少	-	-	7.8	1.3	5.4	3/8
467	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	5YR5/4に赤い赤褐	5YR5/4に赤い赤褐	中・並	中・並	-	-	8.6	1.1	6.2	8/8
468	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/4浅黄褐	10YR8/4浅黄褐	細・少	細・少	-	-	8.8	1.4	5.0	4/8
469	II-2区	SD27	下層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	10YR8/3浅黄褐	25Y8/2灰白	中・少	細・少	-	-	8.1	1.3	6.1	2/8
470	II-2区	SD27	中層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	75YR8/3浅黄褐	75YR8/3浅黄褐	中・並	細・並	-	-	7.5	1.3	5.9	4/8
471	II-2区	SD27	(B)	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	細・少	-	-	7.5	1.3	5.2	8/8
472	II-2区	SD27	(A)	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子	5YR7/6黄	5YR7/4に赤い粒	中・少	細・多	-	-	7.8	1.3	5.7	7/8
473	II-2区	SD27	(D)	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	5YR8/4黄褐	5YR8/4黄褐	細・多	細・並	-	-	8.0	1.3	5.6	7/8
474	II-2区	SD27	最下層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	細・少	細・少	-	-	8.0	1.3	5.8	3/8
475	II-2区	SD27	中層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	細・少	-	-	-	8.4	1.3	7.2	2/8
476	II-2区	SD27	中層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	-	-	-	8.3	1.6	5.9	4/8
477	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	75YR8/3浅黄褐	10YR8/2灰白	細・少	-	-	-	8.2	1.5	6.0	4/8
478	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	10YR8/2灰白	75YR8/2灰白	細・少	細・少	-	-	8.5	1.4	6.4	8/8
479	II-2区	SD27	中層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	5Y8/1灰白	細・並	細・多	-	-	8.0	1.5	5.6	7/8
480	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	25Y8/3淡黄	25Y8/3淡黄	中・並	中・並	-	-	7.5	2.0	5.4	8/8
481	II-2区	SD27	下層	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子後付仕上付	5YR7/4に赤い粒	5YR8/3淡黄	細・多	細・少	-	-	8.4	1.3	4.2	2/8
482	II-2区	SD27	(A)	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	75YR8/4浅黄褐	75YR8/4浅黄褐	中・少	-	-	-	7.8	1.3	4.7	8/8
483	II-2区	SD27	(G)	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・並	細・並	-	-	8.6	1.4	5.6	8/8
484	II-2区	SD27	(B)	土師器	小皿	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	75YR8/4浅黄褐	75YR8/2灰白	細・多	細・多	-	-	8.2	1.3	5.6	8/8
485	II-2区	SD27	土層	土師器	小皿	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	細・少	-	-	-	8.2	1.3	5.2	2/8
486	II-2区	SD27	土層	瓦器	杯	回転子、指子後付	回転子後付	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	-	8.7	1.7	7.0	7/8
487	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	細・少	-	-	8.8	1.6	6.2	2/8
488	II-2区	SD27	中層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	中・並	細・少	-	-	13.8	3.5	8.4	3/8
489	II-2区	SD27	(B)	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/3浅黄褐	10YR8/1灰白	細・少	細・並	-	-	13.9	3.5	8.5	5/8
490	II-2区	SD27	下層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	細・少	-	-	13.8	2.9	7.8	2/8
491	II-2区	SD27	(D)中層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	粗・少	-	-	-	14.2	3.5	7.4	3/8
492	II-2区	SD27	(A)	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、回転子後付仕上付	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	細・少	-	-	14.3	4.0	7.5	5/8
493	II-2区	SD27	(B)	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	細・少	-	-	13.4	3.5	7.1	3/8
494	II-2区	SD27	(C)下層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	75YR8/3浅黄褐	75YR8/3浅黄褐	粗・少	-	-	-	14.6	3.1	8.0	5/8
495	II-2区	SD27	(A)(B)	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	-	-	-	14.6	3.8	7.3	5/8
496	II-2区	SD27	(D)	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	中・並	-	-	14.8	3.8	8.0	3/8
497	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子、仕上付	75YR8/4浅黄褐	75YR8/4浅黄褐	細・少	細・少	-	-	14.3	3.4	7.6	4/8
498	II-2区	SD27	中層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	75YR8/4浅黄褐	75YR8/4浅黄褐	-	細・少	-	-	13.4	3.7	7.9	4/8
499	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・多	-	-	-	15.0	3.4	8.8	4/8
500	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	中・並	-	-	14.2	3.5	7.0	1/8
501	II-2区	SD27	中層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	中・並	-	-	-	13.8	3.3	5.8	1/8
502	II-2区	SD27	(E)	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	細・多	細・少	-	-	13.6	3.3	8.3	6/8
503	II-2区	SD27	(A)中層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	75YR7/4に赤い粒	10YR8/3浅黄褐	中・並	中・少	-	-	13.8	3.3	8.2	8/8
504	II-2区	SD27	中層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	細・少	-	-	-	14.6	3.3	8.8	3/8
505	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子	回転子	75YR8/4浅黄褐	25Y8/2灰白	細・並	細・少	-	-	13.0	-	-	3/8
506	II-2区	SD27	(E)	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	10YR8/3浅黄褐	10YR8/3浅黄褐	中・少	細・多	-	-	12.9	3.6	7.0	6/8
507	II-2区	SD27	土層	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子	75YR8/4浅黄褐	75YR8/3浅黄褐	細・少	細・多	-	-	13.3	4.0	8.0	6/8
508	II-2区	SD27	下層	土師器	杯	回転子	回転子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・少	-	-	-	12.8	-	-	2/8
509	II-2区	SD27	下層	土師器	杯	回転子、回転子後付	回転子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	細・少	-	-	13.2	3.8	5.6	2/8
510	II-2区	SD27	(G)	土師器	杯	回転子、回転子後付後板状瓦	回転子、仕上付	75YR8/2灰白	75YR8/3浅黄褐	中・少	細・少	-	-	13.6	3.9	8.0	6/8

第8表 川津六反地遺跡出土土器観察表 (9)

編年 番号	副坑区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土		法量		残存率	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母		
511	II-2区	SD227	(A)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	中・並	中・少	12.8	3.3	7.1	4/8
512	II-2区	SD227	(D)最下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・少	-	13.2	3.1	6.2	1/8
513	II-2区	SD227	(G)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	-	13.1	3.4	7.5	3/8
514	II-2区	SD227	(A)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR7/4灰白	10YR7/4灰白	中・少	-	13.2	3.6	6.7	3/8
515	II-2区	SD227	(G)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	中・少	-	13.2	3.5	7.3	2/8
516	II-2区	SD227	(D)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・少	-	13.8	3.1	8.4	7/8
517	II-2区	SD227	最下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	-	13.9	3.3	7.7	1/8
518	II-2区	SD227	下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	5YR7/6橙	5YR7/6橙	中・並	-	13.7	3.6	8.2	8/8
519	II-2区	SD227	(D)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/4黄褐色	10YR8/4黄褐色	細・並	-	14.8	3.2	8.0	4/8
520	II-2区	SD227	中層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・並	-	14.1	3.6	8.0	4/8
521	II-2区	SD227	(D)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	-	14.2	3.8	8.1	6/8
522	II-2区	SD227	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	回転子、住上子	25YR8/2灰白	25YR8/2灰白	細・並	-	14.4	3.5	7.7	2/8
523	II-2区	SD227	最下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・並	-	14.8	3.5	7.8	2/8
524	II-2区	SD227	(A)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・並	-	14.8	3.4	7.6	4/8
525	II-2区	SD227	上層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	-	14.6	1.5	6.4	2/8
526	II-2区	SD227	(E)	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・多	-	14.7	3.2	7.9	5/8
527	II-2区	SD227	(B)中層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	7.5YR8/4黄褐色	7.5YR8/4黄褐色	細・並	-	14.4	4.3	8.0	8/8
528	II-2区	SD227	下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・多	-	13.8	3.7	6.8	8/8
529	II-2区	SD227	下層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	中・少	-	14.0	3.7	5.4	1/8
530	II-2区	SD227	中層	土師器	杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	中・並	-	14.6	-	-	1/8
531	II-2区	SD227	(A)	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	粗・並	中・少	15.6	5.4	4.7	6/8
532	II-2区	SD227	(F)	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	中・並	-	14.6	5.1	5.8	5/8
533	II-2区	SD227	(F)	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	粗・並	中・並	14.4	4.5	7.0	4/8
534	II-2区	SD227	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	中・並	中・少	13.8	4.9	6.0	4/8
535	II-2区	SD227	下層	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	中・並	-	-	-	5.8	8/8
536	II-2区	SD227	上層	土師器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・並	-	-	-	5.8	8/8
537	II-2区	SD227	上層	土師器	台付碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	細・少	-	-	-	6.6	8/8
538	II-2区	SD227	(C)	土師器	高台付杯	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	細・少	-	-	-	7.6	1/8
539	II-2区	SD227	(B)C最下層	須恵器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y7/1黄灰	25Y7/1黄灰	中・多	-	14.6	5.7	6.0	5/8
540	II-2区	SD227	(E)	須恵器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N7/灰白	N7/灰白	粗・少	-	14.2	4.0	5.0	7/8
541	II-2区	SD227	上層	須恵器	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	15.0	4.6	5.6	2/8
542	II-2区	SD227	(B)中層	瓦器	瓦器	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N5/灰	N7/灰白	中・少	-	15.0	4.3	2.5	4/8
543	II-2区	SD227	中層	瓦器	瓦器	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y7/1灰白	N7/灰白	中・少	-	14.7	4.3	5.0	3/8
544	II-2区	SD227	(B)最下層	瓦器	瓦器	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N7/灰白	N7/灰白	中・少	-	14.2	4.4	4.2	4/8
545	II-2区	SD227	下層	瓦器	瓦器	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N3/暗灰	N3/暗灰	細・少	-	15.4	4.6	4.2	3/8
546	II-2区	SD227	上層	青磁	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N7/灰白	N7/灰白	微密	-	-	-	-	破片
547	II-2区	SD227	(C)最下層	青磁	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	5Y6/2灰オリーブ	5Y7/3灰オリーブ	微密	-	-	-	5.0	4/8
548	II-2区	SD227	(F)	白磁	碗	回転子、回転子後子	回転子、住上子	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	16.0	-	-	1/8
549	II-2区	SD227	下層	土師器	托	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	細・並	-	-	-	4.6	2/8
550	II-2区	SD227	(D)	土師器	托	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/4黄褐色	10YR8/4黄褐色	中・少	-	-	-	4.2	6/8
551	II-2区	SD227	(B)	土師器	鉢	回転子、回転子後子	回転子、住上子	7.5YR5/1褐灰	25Y8/1灰白	細・並	-	25.6	-	-	2/8
552	II-2区	SD227	(F)	須恵器	鉢	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N8/灰白	N6/灰	-	-	33.6	-	-	破片
553	II-2区	SD227	上層	瓦質	鉢	回転子、回転子後子	回転子、住上子	N9/暗灰	N9/暗灰	-	-	-	-	11.0	4/8
554	II-2区	SD227	(A)	土師器	銅	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR7/2におい黄褐色	10YR8/1灰白	細・並	-	-	-	-	破片
555	II-2区	SD227	上層	土師器	銅	回転子、回転子後子	回転子、住上子	7.5YR7/4におい黄褐色	7.5YR7/4におい黄褐色	中・並	-	-	-	-	破片
556	II-2区	SD227	上層	土師器	珉釜	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR7/3におい黄褐色	10YR7/3におい黄褐色	中・並	-	-	-	-	破片
557	II-2区	SD227	上層	土師器	足盆	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y7/2灰黄	25Y7/2灰黄	細・並	-	-	-	-	破片
558	II-2区	SD227	中層	土師器	甑	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	細・並	-	5.2	-	-	1/8
559	II-2区	SD227	(F)	土師器	伊磨材	回転子、回転子後子	回転子、住上子	10YR6/4におい黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	中・並	中・少	-	-	-	破片
565	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y8/3淡黄	25Y8/3淡黄	中・少	-	7.9	1.4	5.1	8/8
566	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後子	回転子、住上子	7.5YR8/4黄褐色	10YR8/3黄褐色	中・少	-	7.7	1.4	5.2	8/8
567	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後子	回転子、住上子	25Y7/2灰黄	25Y7/3黄褐色	-	-	7.7	1.2	5.4	8/8

第8表 川津六反地遺跡出土土器觀察表 (10)

編年番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調			胎土				法量	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率	備考
						外面	内面	外面	内面	石炭灰白	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒						
568	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	中・少	-	-	-	7.7	1.2	5.3	6/8		
569	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	中・並	中・少	-	-	-	7.9	1.0	6.2	7/8		
570	II-2区	SD228	(C)	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	細・少	中・少	-	-	-	8.0	1.3	5.5	5/8		
571	II-2区	SD228	(H)	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	細・並	細・多	-	-	-	8.0	1.5	6.1	7/8		
572	II-2区	SD228	(H)	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	細・並	細・多	-	-	-	8.2	1.5	6.3	7/8		
573	II-2区	SD228	上層	土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	2.5YR8/3 淡黄	10YR8/3 淡黄	中・少	中・少	-	-	-	8.3	1.6	6.2	7/8		
574	II-2区	SD228	(C)	土師器	杯	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	7.5YR8/4 浅黄	7.5YR8/4 浅黄	細・並	細・少	-	-	-	14.0	3.7	7.4	6/8		
575	II-2区	SD228	(H)	土師器	杯	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	7.5YR8/4 浅黄	7.5YR8/4 浅黄	中・並	中・少	-	-	-	14.2	3.9	6.9	6/8		
576	II-2区	SD228		青磁	碗	回転子後部柱	回転子後部柱	5Y7/4 灰白	5Y7/4 灰白	中・多	中・多	-	-	-	-	-	-	破片		
577	II-2区	SD228		土師器	銅	指柱、板子	指柱、板子	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	破片		
578	II-2区	SD228		土師器	足釜	指柱、板子	指柱、板子	10YR8/3 浅黄	10YR8/3 浅黄	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	破片		
579	II-2区	SD228	(H)	須臾器	甕	〆	〆	N7/灰白	N7/灰白	中・並	-	-	-	-	-	-	-	破片		
581	II-2区	SD228	(H)	土製品	環口	〆	〆	7.5YR7/3 に近い黄	7.5YR7/3 に近い黄	中・並	-	-	-	-	-	-	-	破片		
582	II-2区	SD230		土師器	瓦器	回転子	回転子	2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	細・並	細・並	-	-	-	-	-	-	破片		
583	II-2区	SD230		瓦器	碗	回転子、指柱後部	回転子	N4/灰	N4/灰	-	細・少	-	-	-	-	-	-	破片		
587	II-2区	SD231		土師器	小皿	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子	10YR6/2 灰黄	7.5YR6/4 に近い黄	-	中・並	-	-	-	8.6	1.2	7.0	4/8		
588	II-2区	SD231		土師器	杯	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子	10YR8/3 浅黄	10YR8/3 浅黄	中・多	中・少	-	-	-	13.4	3.3	6.6	1/8		
589	II-2区	SD231	下層	土師器	杯	回転子、回転子後部柱状瓦	回転子、柱上竹子	2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	細・少	細・少	-	-	-	10.0	2.3	6.4	6/8		
590	II-2区	SD231	最下層	土師器	杯	回転子、〆後部	回転子	2.5YR8/3 淡黄	10YR8/4 浅黄	粗・多	粗・多	-	-	-	10.8	2.7	6.4	3/8		
591	II-2区	SD231		土師器	杯	回転子、回転子後部柱	回転子	2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/1 灰白	中・並	細・多	-	-	-	-	-	-	9.5	1/8	
592	II-2区	SD231	最下層	磁器	碗	回転子後部柱	回転子後部柱	7.5Y7/1 灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	破片		
593	II-2区	SD231		青磁	碗	回転子後部柱	回転子後部柱	2.5Y7/6.1 オリーブ灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	破片		
594	II-2区	SD231		青磁	碗	回転子後部柱	回転子後部柱	2.5Y7/6.1 オリーブ灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	破片		
595	II-2区	SD231		土師器	摺鉢	回転子、回転子後部柱	〆、〆	5YR7/4 に近い黄	7.5YR5/1 黄	細・少	細・並	-	-	-	4.2	-	-	7/8		
596	II-2区	SD231		土師器	摺鉢	回転子、指柱後部	〆、〆	7.5YR7/4 に近い黄	7.5YR7/4 に近い黄	細・少	細・並	-	-	-	-	-	-	破片		
597	II-2区	SD231		土師器	摺鉢	回転子、指柱後部	〆、〆	10YR8/3 浅黄	10YR8/3 浅黄	中・多	中・少	-	-	-	-	-	-	破片		
598	II-2区	SD231		陶器	甕	回転子	回転子、〆	5YR8/2 灰黄	5YR6/2 灰黄	細・並	細・並	-	-	-	-	-	-	破片		
599	II-2区	SD231		土師器	足釜	〆後部	回転子	7.5YR7/3 に近い黄	7.5YR8/4 浅黄	粗・並	細・並	-	-	-	16.2	-	-	1/8		
600	II-2区	SD231		土師器	足釜	〆後部	〆	7.5YR5/4 に近い黄	7.5YR5/4 に近い黄	中・少	中・少	-	-	-	21.4	-	-	1/8		
601	II-2区	SD231		土師器	足釜	回転子、〆、板子後部	〆、〆	10YR7/3 に近い黄	5YR5/4 に近い赤褐	中・並	中・少	-	-	-	20.6	-	-	2/8		
602	II-2区	SD231	最下層	土師器	足釜	〆、〆、指柱、板子	〆	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR8/6 浅黄	細・少	中・並	-	-	-	-	-	-	1/8		
603	II-2区	SD231	最下層	土師器	足釜	〆、〆、指柱、板子後部	〆	10YR7/3 に近い黄	5YR8/4 浅黄	細・少	中・少	-	-	-	-	-	-	破片		
604	II-2区	SD231		土師器	足釜	指柱後部	〆	10YR7/3 に近い黄	10YR7/3 に近い黄	中・並	細・少	-	-	-	-	-	-	破片		
614	II-2区	SD233		弥生土器	甕	〆、〆	〆	10YR5/2 灰黄	10YR7/3 に近い黄	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	-	6.8	1/8	
616	II-2区	SD235		土師器	小皿	回転子、回転子後部	回転子、柱上竹子	10YR7/3 に近い黄	10YR8/3 浅黄	中・並	中・並	-	-	-	7.7	1.4	5.2	5/8		
617	II-2区	SD235		土師器	杯	回転子、回転子後部	回転子	10YR6/4 に近い黄	2.5Y7/3 浅黄	粗・多	細・並	-	-	-	14.0	3.6	6.8	1/8		
618	II-2区	SD235		須臾器	碗	回転子後部	回転子	N7/灰白	N7/灰白	細・少	細・並	-	-	-	5.8	4.8	-	4/8		
619	II-2区	SD235		瓦器	碗	回転子	〆	2.5Y7/1 黄	2.5Y7/3 浅黄	細・少	細・少	-	-	-	-	-	-	3.8	3/8	
620	II-2区	SD234		弥生土器	甕	〆	〆	2.5YR8/2 灰白	10YR5/4 に近い黄褐	粗・多	粗・多	-	-	-	-	-	-	5.8	5/8	
621	II-2区	SD234		弥生土器	碗	指柱後部	回転子後部	7.5YR6/4 に近い黄	7.5YR6/4 に近い黄	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	-	破片		
622	II-2区	SD234		瓦器	碗	〆	〆	N5/灰	N8/灰白	細・少	細・少	-	-	-	-	-	-	破片		
623	II-2区	SD234		瓦器	碗	〆	〆	N5/灰	N5/灰	-	細・少	-	-	-	-	-	-	4.6	1/8	
624	II-2区	SD234		須臾器	甕	回転子、回転子後部	回転子	5Y4/1 灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	9.0	5/8	
625	II-2区	SD234		土師器	甕	指柱	〆	5YR7/6 橙	5YR7/4 に近い黄	細・並	細・並	-	-	-	-	-	-	破片		
627	II-2区	SD236		土師器	杯	回転子、〆後部	回転子	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	細・並	細・並	-	-	-	-	-	-	破片		
628	II-2区	SD237	下層	土師器	杯	回転子、〆、回転子後部	回転子、〆	2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	細・並	細・並	-	-	-	13.1	3.6	7.4	1/8		
629	II-2区	SD237		土師器	杯	回転子、回転子後部	回転子	7.5YR7/4 に近い黄	10YR7/3 に近い黄	粗・多	中・多	-	-	-	11.6	3.3	8.4	3/8		
630	II-2区	SD237		土師器	杯	回転子、回転子後部	回転子、柱上竹子	10YR8/2 灰白	7.5YR8/4 浅黄	中・並	細・少	-	-	-	11.2	3.1	6.5	1/8		
631	II-2区	SD237		土師器	杯	回転子、〆後部柱状瓦	回転子	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/4 浅黄	粗・多	粗・多	-	-	-	11.4	3.1	6.6	4/8		
632	II-2区	SD237	下層	須臾器	碗	回転子	〆	N8/灰白	N8/灰白	-	粗・少	-	-	-	15.8	4.3	6.8	2/8		
633	II-2区	SD237		青磁	碗	回転子後部柱	回転子後部柱	5Y7/2 灰白	5Y8/4 灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	破片		
634	II-2区	SD237		土師器	銅	回転子、指柱後部	〆	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・多	中・少	-	-	-	-	-	-	破片		
635	II-2区	SD237		土師器	足釜	回転子、指柱後部	〆	10YR7/3 に近い黄	10YR8/2 灰白	中・多	中・並	-	-	-	22.4	-	-	1/8		

第8表 川津六反地遺跡出土土器觀察表 (12)

編年番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整	色調			胎土			法量	残存率	備考				
		外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	石灰長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)		
713	III-3区	SD308		須臾器	凹形片、凹形スズリ後片	凹形片	NS/灰	NS/灰	NS/灰	中・多	中・少	-	-	-	11.8	-	-	1/8	
716	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・少	-	-	-	19.8	27	2.3	7/8	焼底破裂
717	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR7/3 に近い橙	5YR7/3 に近い橙	5YR7/3 に近い橙	粗・多	粗・多	-	-	-	166	25.2	-	4/8	焼底破裂
718	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4 浅黄橙	粗・多	粗・多	-	-	-	26.2	-	-	6/8	
719	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR6/4 に近い橙	5YR6/4 に近い橙	5YR6/4 に近い橙	粗・並	粗・多	-	-	-	16.8	-	-	8/8	
720	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	細・並	中・少	細・並	細・少	-	1.8	-	-	4/8	
721	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並	中・少	-	-	-	17.5	-	-	6/8	
722	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	中・多	中・少	-	-	-	16.9	-	-	4/8	
723	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR5/4 に近い赤褐	5YR5/4 に近い赤褐	5YR5/4 に近い赤褐	粗・多	細・多	-	-	-	16	-	-	3/8	
724	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR6/4 に近い橙	5YR6/4 に近い橙	5YR6/4 に近い橙	中・多	中・少	-	-	-	4.4	-	-	6/8	
725	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	粗・多	粗・多	-	-	-	5.4	8/8	-	8/8	焼底破裂
726	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・多	-	-	-	6.6	-	-	7/8	
727	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	中・並	中・少	-	-	-	-	-	-	8/8	焼底破裂
728	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/3 に近い黄橙	10YR7/3 に近い黄橙	10YR7/3 に近い黄橙	中・多	中・多	-	-	-	-	-	-	7	8/8
729	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・多	中・多	-	-	-	-	-	-	3.2	3/8
730	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・並	中・少	-	-	-	-	-	-	6.4	3/8
731	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR6/6 赤褐	5YR6/6 赤褐	5YR6/6 赤褐	粗・多	細・少	-	-	-	-	-	-	7.2	3/8
732	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	粗・多	中・少	-	-	-	-	-	-	7.1	1/8
733	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	粗・多	粗・多	-	-	-	-	-	-	5.3	5/8
734	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	粗・並	中・多	-	-	-	-	-	-	10.8	4/6
735	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	中・並	中・多	-	-	-	-	-	-	16	21.9
736	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	粗・多	-	-	-	-	15.4	-	-	6/8	
737	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	-	-	-	-	16.8	-	-	2/8	
738	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR5/3 に近い橙	7.5YR5/3 に近い橙	7.5YR5/3 に近い橙	細・多	細・少	-	-	-	17	-	-	5/8	
739	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・多	-	-	-	14.6	-	-	5/8	焼底破裂
740	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR8/4 淡黄	5YR8/4 淡黄	5YR8/4 淡黄	粗・少	中・多	-	-	-	14.2	-	-	5/8	
741	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	粗・多	中・多	-	-	-	124	21.2	3.6	4/8	
742	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR7/4 に近い橙	5YR7/4 に近い橙	5YR7/4 に近い橙	粗・多	中・少	-	-	-	13.8	-	-	3/8	
743	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	粗・多	中・少	-	-	-	18	-	-	2/8	
744	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・少	-	-	-	15.8	-	-	2/8	
745	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・少	-	-	-	11.6	13.7	3.3	6/8	
746	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	-	-	-	-	11.6	-	-	1/8	
747	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・多	中・多	-	-	-	10.1	5.5	3.8	3/8	
748	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR5/4 に近い橙	7.5YR5/4 に近い橙	7.5YR5/4 に近い橙	中・多	中・少	-	-	-	8.6	3.5	2.3	7/8	
749	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR7/4 に近い橙	5YR7/4 に近い橙	5YR7/4 に近い橙	細・多	細・多	-	-	-	13.5	7.2	2.8	8/8	
750	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	粗・多	細・少	-	-	-	16.6	6.7	4.1	8/8	焼底破裂
751	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	粗・並	中・並	-	-	-	15.6	7.7	3.1	7/8	
752	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	中・多	中・多	-	-	-	11.2	7.4	-	4/8	
753	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	粗・並	粗・並	-	-	-	15.2	7.7	-	6/8	
754	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・多	中・並	-	-	-	15.6	9.6	7.6	6/8	
755	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	中・多	中・並	-	-	-	16.5	7.9	4.4	5/8	
756	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/3 に近い黄橙	7.5YR7/3 に近い黄橙	7.5YR7/3 に近い黄橙	粗・多	細・並	-	-	-	19.6	-	-	3/8	
757	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR7/3 に近い黄橙	7.5YR7/3 に近い黄橙	7.5YR7/3 に近い黄橙	中・多	中・並	-	-	-	19	8	5	3/8	
758	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・多	中・少	-	-	-	19	8.3	4.5	7/8	
759	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	粗・多	粗・多	-	-	-	18.8	9.3	1.5	4/8	
760	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR6/3 に近い黄橙	10YR6/3 に近い黄橙	10YR6/3 に近い黄橙	粗・多	粗・多	-	-	-	21.2	8.4	6.8	1/8	
762	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	細・多	細・並	-	-	-	3.2	-	-	1/8	
763	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	中・並	中・多	-	-	-	3.1	-	-	1/8	
764	III-3区	SD309	下層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・多	中・多	-	-	-	22.1	-	-	5/8	
765	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	粗・多	中・少	細・少	細・少	-	-	-	12.8	1/8	下川津B類
766	III-3区	SD309	中層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	粗・多	中・少	-	-	-	-	-	5.2	7/8	
767	III-3区	SD309	上層	弥生土器	凹形片、凹形スズリ	凹形片、凹形スズリ	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	10YR7/2 に近い黄橙	粗・多	細・並	-	-	-	-	-	4.8	3/8	

第8表 川津六反地遺跡出土土器観察表 (13)

編年番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土			法量		備考	
						外面	内面	外面	内面	石灰・灰石	赤色粒	角四石	雲母	砂粒		口径 (cm)
768	Ⅲ-3区	SD309	上層	弥生土器	製塩土器	柄杓、柄杓		5YR8/3 淡橙	5YR6/2 灰褐	中・多	-	-	-	5	2/8	
769	Ⅲ-3区	SD309	上層	弥生土器	柄杓後板子	柄杓後板子		10YR7/3 赤い黄橙	10YR7/3 赤い黄橙	粗・少	-	-	9	4.3	6/8	
770	Ⅲ-3区	SD309	上層	弥生土器	ミナリ鉢	ミナリ鉢		10YR7/3 赤い黄橙	10YR7/4 赤い黄橙	粗・少	-	-	7.7	4.8	2.3	
772	Ⅲ-4区	SD313	上層	弥生土器	甕	柄杓		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	粗・少	-	-	-	-	-	破片
783	Ⅲ-4区	SD314		弥生土器	甕	柄杓		2.5YR5/8 明赤褐	2.5YR5/8 明赤褐	粗・多	-	-	14.0	4.1	1/8	
784	Ⅲ-4区	SD314		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		5YR6/6 橙	10YR7/2 赤い黄橙	中・並	-	-	12.0	-	1/8	
785	Ⅲ-4区	SD314		弥生土器	高杯	柄杓		5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	中・並	-	-	18.6	-	1/8	
786	Ⅲ-4区	SD314		弥生土器	高杯	柄杓		10YR5/4 赤い黄橙	10YR6/4 赤い黄橙	細・少	-	-	-	-	-	破片
787	Ⅲ-4区	SD314・SD315		弥生土器	高杯	柄杓、柄杓		7.5YR6/4 赤い黄橙	7.5YR6/4 赤い黄橙	中・並	-	-	24.2	-	-	破片
788	Ⅲ-4区	SD315		弥生土器	甕	柄杓後板子		7.5YR6/4 赤い黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・多	-	-	14.6	-	-	破片
789	Ⅲ-4区	SD315		弥生土器	甕	柄杓		2.5Y8/3 淡黄	10YR8/4 浅黄橙	中・多	-	-	14.0	-	1/8	
791	Ⅲ-4区	SD315		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/2 灰黄	細・並	-	-	-	-	6/8	
792	Ⅲ-4区	SD315		弥生土器	甕	柄杓後板子、柄杓		5YR6/4 赤い黄橙	7.5YR7/4 赤い黄橙	中・多	-	-	-	-	3/8	
793	Ⅲ-4区	SD315		弥生土器	高杯	柄杓		10YR4/7 褐灰	7.5YR6/6 橙	中・並	-	-	-	-	-	破片
794	Ⅲ-4区	SD315	下層	弥生土器	高杯	柄杓、柄杓		7.5YR5/4 赤い黄橙	7.5YR5/4 赤い黄橙	粗・多	-	-	-	9.0	6/8	
795	Ⅲ-4区	SD315	上層	製塩土器	柄杓、柄杓	柄杓、柄杓		5YR6/8 橙	5YR5/6 明赤褐	中・並	-	-	-	4.0	6/8	
796	Ⅲ-4区	SD315・SD316		弥生土器	甕	柄杓後板子		2.5YR6/8 橙	10YR4/2 灰黄褐	細・並	-	-	-	-	2/8	
797	Ⅲ-4区	SD315・SD316	下層	弥生土器	鉢	柄杓、柄杓		10YR7/3 赤い黄橙	10YR7/3 赤い黄橙	中・少	-	-	9.8	6.5	3.4	4/8
798	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	甕	柄杓後板子		5YR6/6 橙	7.5YR6/4 赤い黄橙	中・並	-	-	-	-	8.4	2/8
799	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4 赤い黄橙	中・並	-	-	20.2	-	2/8	
800	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		5YR5/4 赤い黄橙	10YR7/3 赤い黄橙	中・並	-	-	14.4	-	1/8	
801	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		5YR6/4 赤い黄橙	7.5YR6/4 赤い黄橙	粗・少	-	-	-	-	6.6	8/8
802	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	ミナリ鉢	柄杓後板子		2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	細・多	-	-	6.4	3.4	2.4	6/8
803	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	鉢	柄杓、柄杓		7.5YR6/4 赤い黄橙	7.5YR6/4 赤い黄橙	中・並	-	-	10.4	-	3/8	
804	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	鉢	柄杓、柄杓		N1.5/黒	N2/黒	粗・多	-	-	13.4	7.0	5.8	3/8
805	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	鉢	柄杓後板子		7.5YR6/4 赤い黄橙	5YR4/6 赤褐	粗・多	-	-	15.8	-	1/8	
806	Ⅲ-4区	SD316		弥生土器	高杯	柄杓後板子		5YR5/4 赤い黄橙	5YR5/4 赤い黄橙	中・少	-	-	-	-	1/8	
810	Ⅲ-4区	包含層		弥生土器	甕	柄杓		10YR6/6 明黄褐	7.5YR6/4 赤い黄橙	中・並	-	-	12.2	-	1/8	
818	Ⅲ区	SK007		弥生土器	甕	柄杓		2.5Y7/2 灰黄	5YR1 灰白	中・多	-	-	-	-	6.8	1/8
820	Ⅲ区	SD006		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 赤い黄橙	中・多	-	-	-	-	8/8	
821	Ⅲ区	SD006		弥生土器	甕	柄杓		7.5YR6/3 赤い黄橙	7.5YR6/3 赤い黄橙	細・並	-	-	-	-	-	破片
822	Ⅲ区	SD006		弥生土器	甕	柄杓		5Y6/1 灰	2.5Y3/2 黒褐	細・多	-	-	-	-	6.4	4/8
824	Ⅲ区	SD007		弥生土器	甕	柄杓後板子		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	粗・多	-	-	-	-	7.0	2/8
825	Ⅲ区	SD007		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		10YR8/3 浅黄橙	N3/暗灰	粗・多	-	-	7.8	-	4/8	
941	Ⅲ区	SP001		弥生土器	甕	柄杓、柄杓		2.5YR6/2 灰赤	10YR8/1 灰白	粗・多	-	-	20.0	21.0	7.8	5/8

第9表 川津六反地遺跡出土石器観察表 (1)

観文番号	調査区	遺構名	層位等	種類・器種	法量			材質	備考	
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
65	I区	SR101	第1トナ	ナイフ形石器	28	22	0.9	398	サスカイト	
66	I区	SR101	第1トナ	ナイフ形石器	36	20	0.9	581	サスカイト(良質)	
67	I区	SR101	第2トナ	ナイフ形石器	50	30	0.7	829	サスカイト	
68	I区	SR101	第2トナ	石鏝	15	11	0.2	025	サスカイト	
69	I区	SR101	第1トナ	石鏝	25	17	0.5	090	サスカイト	
70	I区	SR101	第1トナ	石鏝	29	19	0.4	154	サスカイト	
71	I区	SR101	第1トナ	石鏝	30	18	0.2	164	サスカイト	
72	I区	SR101	第1トナ	縦長削片	26	05	0.5	084	サスカイト	旧石器
73	I区	SR101	第2トナ	縦長削片	35	11	6.0	216	サスカイト(良質)	
74	I区	SR101	第1トナ	縦長削片	32	19	1.1	705	サスカイト(良質)	
75	I区	SR101	第1トナ	縦長削片石核調整削片	65	13	1.3	1147	サスカイト	
76	I区	SR101	第1トナ	縦長削片	43	16	1.5	368	サスカイト	
77	I区	SR101	第1トナ	縦長削片石核調整削片	38	12	1.7	768	サスカイト	
78	I区	SR101	第1トナ	縦長削片石核調整削片	78	27	1.6	3839	サスカイト	
79	I区	SR101	第1トナ	縦長削片石核調整削片	54	30	1.0	904	サスカイト	
80	I区	SR101	第1トナ	二次加工ある削片	52	42	1.1	1363	サスカイト	
81	I区	SR101	第1トナ	横長削片	48	87	1.8	5358	サスカイト	
82	I区	SR101	第1トナ	横長削片石核	120	131	4.4	51380	サスカイト	
91	II-1区	SB205		石鏝	20	17	0.3	064	サスカイト	
101	II-1区	SB209		根石	214	166	121	391000	?	
116	II-1区	SK201		石皿	200	131	60	251269	砂岩	
117	II-1区	SK201		磨石	170	157	80	315000	?	
130	II-1区	SD202		石造丁	70	50	0.8	3549	サスカイト	
131	II-1区	SD202	下層	削器	56	90	1.4	6661	サスカイト	
134	II-1区	SD203		石鏝	23	19	0.4	115	サスカイト	
146	II-1区	SD204	下層	楔形石器	75	31	1.3	3893	サスカイト	
147	II-1区	SD204	下層	石核	167	180	5.6	173239	サスカイト	
169	II-1区	SD205	上層	縦長削片石核調整削片	91	47	1.7	6029	サスカイト	
170	II-1区	SD205		石鏝	22	16	0.3	065	サスカイト	
171	II-1区	SD205		石鏝	19	18	0.4	102	サスカイト	
172	II-1区	SD205	上層	石鏝	27	27	0.5	251	サスカイト	
173	II-1区	SD205	上層	石鏝	30	14	0.3	112	サスカイト	
174	II-1区	SD205	下層	削器	66	61	1.2	5146	サスカイト	
175	II-1区	SD205	下層	石造丁	65	39	1.1	3752	サスカイト	
176	II-1区	SD205	上層	石造丁	83	42	1.3	4976	サスカイト	
177	II-1区	SD205		石造丁	82	43	0.9	3489	サスカイト	
178	II-1区	SD205	上層	石核	108	91	2.7	27755	サスカイト	
179	II-1区	SD205	下層	石核	81	86	4.4	39744	サスカイト	
229	II-1区	SD209	下層	石造丁	44	41	1.5	2940	サスカイト(良質)	
230	II-1区	SD209	下層	石核	70	80	2.9	15383	サスカイト	
231	II-1区	SD209	上層	石核	90	72	2.3	21839	サスカイト	
254	II-1区	SD210		削片	48	37	2.7	2625	サスカイト	
255	II-1区	SD210	第1層	縦長削片	41	75	1.6	3792	サスカイト	旧石器か？
256	II-1区	SD210		楔形石器の削片	66	16	1.1	1207	サスカイト	
257	II-1区	SD210	下層	横長削片石核	57	60	2.2	7041	サスカイト	旧石器？
261	II-1区	SD211		石造丁	83	50	1.6	5033	サスカイト	
274	II-1区	SD212	中層	石鏝	28	21	0.3	182	サスカイト	
275	II-1区	SD212	下層	削器	97	59	1.8	8576	サスカイト	
301	II-1区	SD213	下層	石鏝	20	15	0.3	059	サスカイト	
302	II-1区	SD213	上層	石鏝	19	13	0.3	075	サスカイト	
303	II-1区	SD213	中層	削器	65	71	2.4	12810	サスカイト	
311	II-1区	SD215	下層	削器	117	44	1.3	5939	サスカイト	
381	II-1区	SB218		横長削片石核	95	130	3.1	42967	サスカイト	風化が著しい
401	II-1区	SB216		石鏝	23	20	0.5	226	サスカイト	
402	II-1区	SB210		石鏝	26	22	0.5	193	サスカイト	

第9表 川津六反地遺跡出土石器観察表 (2)

観文番号	調査区	遺構名	層位等	種類・器種	法量			材質	備考	
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
403	II-1区	SP220		楕円形石器未製品	83	70	20	12868	サスカイト	
404	II-1区	SP223		楕円形石器	232	76	6.5	175941	安山岩	
428	II-1区	包含層		縦長削片	46	10	0.8	307	サスカイト(良質)	
429	II-1区	包含層		有舌尖頭器	44	22	0.7	726	サスカイト(良質)	ローリング
430	II-1区	包含層		縦長削片	67	18	1.0	1176	サスカイト	
431	II-1区	包含層		縦長削片石核調整削片	67	17	0.9	1963	サスカイト	
432	II-1区	包含層		石鏝	27	19	0.6	270	サスカイト	
433	II-1区	包含層		石鏝	23	10	0.3	067	サスカイト	
434	II-1区	包含層		石核調整削片	35	38	0.8	1629	サスカイト	
435	II-1区	包含層		削器	79	49	1.3	4946	サスカイト	
436	II-1区	包含層		削器	85	77	1.2	7880	サスカイト	
437	II-1区	包含層		楔形石器	45	47	1.4	3561	サスカイト	ローリング
438	II-1区	包含層		石鏝	94	81	3.9	34825	サスカイト	石核転用敲石
439	II-1区	包含層		横長削片石核	89	139	3.7	40011	サスカイト	ローリング
562	II-2区	SD227	上層	楔形石器の削片	62	23	1.4	1900	サスカイト	
563	II-2区	SD227	中層	石鏝	94	41	3.7	23681	砂石	敲打痕が顕著
564	II-2区	SD227	下層	削器	92	35	1.4	5416	サスカイト	
584	II-2区	SD230		楕円形石器未製品	58	131	0.8	6177	サスカイト	
585	II-2区	SD230		削器	86	62	1.4	7585	サスカイト	
586	II-2区	SD230		石鏝	80	32	4.1	18214	安山岩	
608	II-2区	SD231		縦長削片石核調整削片	59	15	1.5	1202	サスカイト	
609	II-2区	SD231		横長削片	35	60	1.2	1800	サスカイト	
610	II-2区	SD231		横長削片	40	68	1.6	3518	サスカイト	
611	II-2区	SD231	最下層	石核	96	67	3.1	26275	サスカイト	
612	II-2区	SD231	最下層	石核	115	93	4.8	40097	サスカイト	
613	II-2区	SD231	最下層	横長削片石核	111	146	2.5	47363	サスカイト	
615	II-2区	SD233		二次加工ある削片	127	57	1.7	12666	サスカイト	
626	II-2区	SD234		石鏝	163	191	4.5	121706	サスカイト	
651	II-2区	SR201	砂質土	石鏝	2	15	0.3	049	サスカイト	
652	II-2区	SR201	砂質土	調整ある削片	40	42	1.5	2079	サスカイト(良質)	
653	II-2区	SR201	砂質土	翼状削片石核	58	44	21	4220	サスカイト	メッツが著しい
654	II-2区	SR201	砂質土	石核	135	125	3.8	73000	サスカイト	
655	II-2区	SR201		石鏝	121	30	2.7	14379	砂岩	
659	II-2区	SR202		縦長削片石核調整削片	58	16	1.7	912	サスカイト	
660	II-2区	SR202		縦長削片石核調整削片	57	17	1.3	716	サスカイト	
662	II-2区	SR202		石鏝	24	13	0.2	060	サスカイト	
663	II-2区	SR202		石鏝	23	19	0.3	072	サスカイト	
664	II-2区	SR202		石鏝	30	18	0.3	156	サスカイト	
664	II-2区	SR202		楕円形石器	55	20	0.6	494	サスカイト	
691	II-2区	包含層		楔形石器	54	89	1.2	5480	サスカイト	削器転用楔形石器
692	II-2区	包含層		削片	137	50	2.6	9094	サスカイト	
704	III-3区	SD305	下層	楕円形石器未製品	46	70	1.4	5573	サスカイト	
706	III-3区	SD305	下層	石造丁未製品	53	60	1.3	5127	サスカイト	
707	III-3区	SD305	中層	打撃石造丁	113	65	1.7	13926	サスカイト	
707	III-3区	SD305	中層	打撃石造丁	110	77	1.1	13729	サスカイト	
711	III-3区	SD305	中層	石核	115	98	2.0	33537	サスカイト	
714	III-3区	SD307		石鏝	22	15	4.0	155	サスカイト	
714	III-3区	SD308		石鏝	18	13	0.4	044	サスカイト	
715	III-3区	SD308		楔形石器	75	49	11.0	4679	サスカイト	
771	III-3区	SD309	中層	縦長削片	39	91	1.1	4185	サスカイト	
772	III-3区	SD309	下層	石鏝	18	12	0.3	048	サスカイト	
773	III-3区	SD309	中層	石鏝	25	16	0.3	091	サスカイト	
774	III-3区	SD309	下層	石鏝	33	19	0.4	182	サスカイト	
775	III-3区	SD309	上層	石鏝	24	14	0.4	080	サスカイト	
776	III-3区	SD309		削器	44	91	1.3	6591	サスカイト	
777	III-3区	SD309		石匙	66	40	0.5	1386	サスカイト	

第10表 川津六反地遺跡集中1～4等出土石器観察表(2)

報告番号	石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サスカイト材質		安山岩		打面		法量(mm, g)			残存率		備考	
							白A	白B	普	良	平規	調整	点	磯	長さ	幅	厚さ		重さ
854	S792	IV区	集中2	J16	7638	剥片	1						7000	45.00	10.00	32.03	1		
855	S1102	IV区	集中2	M18	7814	剥片	1						35.00	24.00	6.00	4.53		1	打面欠、分析資料番号11
856	S806	IV区	集中2	L19	7821	剥片	1				1		27.00	31.00	6.00	4.51		1	分析資料番号7
857	S809	IV区	集中2	L19	7816	剥片							18.00	37.00	6.00	5.27		1	打面欠、分析資料番号8
858	S838	IV区	集中2	M18	7824	剥片					1		18.00	30.00	7.00	2.74		1	分析資料番号10
859	S810	IV区	集中2	L19	7849	剥片	1						23.00	38.00	6.00	4.15		1	分析資料番号9
860	S1063	IV区	集中2	M18	7697	剥片	1				1		39.00	45.00	9.00	11.66		1	
862	S438	IV区	集中2	M16	7755	剥片	1				1		32.00	39.00	10.00	5.97		1	接合資料、862と接合
863	S790	IV区	集中2	H16	7611	剥片	1						19.00	48.00	4.00	2.87		1	接合資料、861と接合
864	S986	IV区	集中2	L20	7751	剥片	1				1		39.00	66.00	12.00	21.15		1	接合資料、861と接合
865	S478	IV区	集中2	K18	7513	剥片	1						42.00	36.00	17.00	24.43		1	背面礫面、接合資料、863と接合
866	S971	IV区	集中2	J18	7777	剥片	1						45.00	33.00	14.00	13.25		1	打面欠、接合資料、865と接合
868	S1069	IV区	集中2	M17	7844	剥片	1						26.00	29.00	14.00	9.44		1	打面欠、接合資料、865と接合
869	S1403	IV区	集中2	O21	7810	剥片	1						28.00	31.00	4.00	3.38		1	打面欠、接合資料、870と接合
870	S1266	IV区	集中2	O21	7914	剥片	1						40.00	38.00	6.00	11.46		1	打面欠、接合資料、867と接合
871	S903	IV区	集中2	M19	7642	剥片	1				1		44.00	82.00	25.00	14.03		1	打面欠、接合資料、872と接合
872	S524	IV区	集中2	K16	7797	剥片	1						23.00	61.00	14.00	62.22		1	打面欠、接合資料、871と接合
873	S588	IV区	集中2	K18	7762	剥片	1						22.00	42.00	6.00	3.87		1	接合資料、874と接合
874	S589	IV区	集中2	K18	7780	剥片	1						13.00	24.00	5.00	1.91		1	接合資料、873と接合
875	S1423	IV区	集中2	M18	7735	剥片	1				1		53.00	30.00	10.00	10.37		1	接合資料、876と接合
876	S407	IV区	集中2	M16	7721	剥片	1				1		43.00	24.00	7.00	0.21		1	接合資料、875と接合
877	S580	IV区	集中2	L18	7810	剥片	1						35.00	26.00	13.00	9.87		1	打面欠、接合資料、878と接合
878	S1027	IV区	集中2	K17	7769	剥片	1				1		38.00	28.00	10.00	6.76		1	接合資料、877と接合
879	S980	IV区	集中2	J17	7730	剥片	1						35.00	40.00	15.00	15.61		1	打面欠、接合資料、880と接合
880	S523	IV区	集中2	K16	7785	剥片							50.00	58.00	15.00	39.09		1	打面欠、接合資料、879
881	S623	IV区	集中2	L17	7775	剥片	1						30.00	44.00	13.00	14.79		1	打面欠、接合資料、880と接合
882	S555	IV区	集中2	K17	7785	剥片	1						41.00	49.00	14.00	22.09		1	打面欠、接合資料、880と接合
883	S882	IV区	集中2	N20	7821	剥片							37.00	34.00	7.00	5.66		1	打面欠、接合資料、884
884	S1206	IV区	集中2	M18	7756	剥片	1						58.00	33.00	12.00	17.88		1	接合資料、883と885と886と接合
885	S902	IV区	集中2	N19	7841	剥片							51.00	41.00	16.00	31.08		1	打面欠、接合資料、883
886	S852	IV区	集中2	M18	7808	剥片	1				1		55.00	43.00	15.00	24.03		1	接合資料、882と884と885と接合
887	S458	IV区	集中2	J17	7868	剥片	1						57.00	37.00	19.00	31.15		1	接合資料、888と接合
888	S463	IV区	集中2	J17	7721	二次加工ある剥片	1						64.00	55.00	19.00	75.68		1	接合資料、887と接合
889	S586	IV区	集中2	L18	7748	剥片					1		60.00	34.00	13.00	15.43		1	接合資料、890と接合
890	S954	IV区	集中2	L19	7798	剥片	1						48.00	39.00	13.00	10.51		1	接合資料、889と接合
891	S1417	IV区	集中2	M20	7758	石核							54.00	51.00	17.00	50.02		1	打面欠、接合資料、892と接合
892	B-5	IV区	集中2	K16	7830	二次加工ある剥片	1						50.00	51.00	14.00	40.11		1	打面欠、接合資料、891と接合
893	S1428	IV区	集中2	K17	7737	剥片	1				1		24.00	11.00	1.00	0.47		1	接合資料、892と接合
894	S452	IV区	集中2	J17	7700	石核							95.00	69.00	20.00	117.38		1	打面欠、接合資料、895と接合
895	S501	IV区	集中2	L16	7793	剥片	1				1		32.00	19.00	11.00	2.80		1	接合資料、894と接合
896	S1393	IV区	集中3	S18	7679	二次加工ある剥片	1						67.00	56.00	15.00	40.49		1	打面欠、削器?
897	B-2	IV区	集中3	J14	7828	二次加工ある剥片	1						63.00	61.00	17.00	76.24		1	打面欠、削器?
898	S700	IV区	集中3	Q14	7761	二次加工ある剥片	1						23.00	26.00	10.00	4.26		1	打面欠、分析資料番号4
899	S707	IV区	集中3	Q14	7819	剥片	1				1		17.00	29.00	8.00	2.31		1	分析資料番号5
900	S753	IV区	集中3	Q13	7714	剥片							25.00	16.00	7.00	2.76		1	打面欠、分析資料番号6
901	S730	IV区	集中3	Q13	7842	石核							65.00	75.00	22.00	118.30		1	打面欠
902	S1346	IV区	集中3	T16	7765	剥片	1						31.00	18.00	6.00	2.40		1	打面欠、接合資料、903と接合
903	S1363	IV区	集中3	T15	7861	剥片	1						22.00	21.00	5.00	1.96		1	打面欠、接合資料、902と接合
904	S1579	IV区	集中3	S16	7816	剥片	1						20.00	21.00	2.00	1.02		1	打面欠、接合資料、905と接合
905	S1594	IV区	集中3	S17	7785	剥片	1				1		18.00	19.00	2.00	1.21		1	接合資料、904と接合

第10表 川津六反地遺跡集中1～4等出土石器観察表(3)

報告 番号	石器番号	調査区	報告遺跡名	フリット	標高	器種	サスカイト材質		安山 岩	打面		法量(mm, g)			残存率		備考											
							白A	白B		善	良	平組	調整	点	線	長さ		幅	厚さ	重さ	完存	一部欠	半存					
906	SI230	IV区	集中4	W24	7459	剥片			1	1		57.00	31.00	8.00	13.67	1												
907	SI250	IV区	集中4	U26	7501	剥片				1		34.50	28.00	9.00	5.32	1												
908	SI215	IV区	集中4	V25	7533	剥片				1		16.00	23.00	6.00	1.67	1		分析資料番号12										
909	S3群 S3	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	二次加工ある剥片	1			1		76.00	115.00	23.00	168.67	1												
910	S3群 S16	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		67.00	54.00	9.00	29.89	1		石核?打面欠										
911	S3群 S2	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		96.00	59.00	13.00	67.44	1												
912	S3群 S15	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		85.00	58.00	18.00	55.39	1												
913	S3群 S18	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		77.00	51.00	11.00	37.66	1		打面欠										
914	S3群 S5	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		53.30	51.30	10.00	26.22	1												
915	S3群 S1	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		61.00	51.00	11.00	25.69	1												
916	S3群 S4	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		39.00	40.00	10.00	12.48	1												
917	S3群 S22	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		77.00	53.00	8.00	30.24	1												
918	S3群 S6	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		77.00	48.00	16.00	40.21	1												
919	S3群 S23	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		85.00	56.00	5.00	18.54	1		打面欠										
920	S3群 S19	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		113.00	66.00	20.00	93.85	1												
921	S3群 S12	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		107.00	66.00	13.00	81.39	1												
922	S3群 S24	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		67.00	79.00	12.00	67.67	1												
923	S3群 S13	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		76.00	86.00	11.00	84.15	1												
924	S3群 S14	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		112.00	61.00	12.00	63.08	1												
925	S3群 S11	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		151.00	76.00	21.00	182.25	1		打面欠										
926	S3群 S17	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		162.00	111.00	38.00	723.62	1												
927	S3群 S10	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	石核	1			1		110.00	134.00	23.00	378.34	1		打面欠										
928	S3群 S9	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	石核	1			1		78.00	53.00	16.00	52.51	1		打面欠										
929	S3群 S7	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		51.00	59.00	12.00	38.92	1		接合資料、930と接合										
930	S3群 S8	IV区	サスカイト集積遺構	N23	7599	剥片	1			1		43.00	48.00	8.00	13.02	1		接合資料、929と接合										
931	S267	IV区	集中地区周辺	B9	7776	二次加工ある剥片	1			1		55.00	50.50	14.00	30.15	1		石核か?										
932	S266	IV区	集中地区周辺	D7	7852	二次加工ある剥片	1			1		48.00	47.00	11.00	27.05	1		打面欠										
933	S210	IV区	集中地区周辺	M12	7687	二次加工ある剥片	1			1		38.00	21.00	5.00	4.13	1		打面欠										
934	S264	IV区	集中地区周辺	F7	7840	剥片	1			1		106.00	58.00	16.00	85.52	1												
935	B-8	IV区	集中地区周辺	M26	7539	剥片	1			1		43.00	29.00	5.00	5.27	1												
936	SI240	IV区	集中地区周辺	K21	7788	剥片	1			1		24.00	29.00	16.00	3.58	1		分析資料番号13										
937	S203	IV区	集中地区周辺	N5	7917	剥片	1			1		17.00	26.00	6.00	2.65	1		分析資料番号1										
938	SI311	IV区	集中地区周辺	R20	7930	原石素材	1			1		67.00	61.00	56.00	258.40	1		板状の素材原石										
合計														36	6	48	23	0	22	14	11	4		4586.62	45	7	54	

第11表 川津六反地遺跡集中1剥片・碎片等石器観察表(1)

石器番号	調査区	報告遺跡名	フリット	標高	器種	サスカイト材質		安山 岩	打面		法量(mm, g)			残存率		備考		
						白A	白B		善	良	平組	調整	点	線	長さ		幅	厚さ
S1	IV区	集中1	J4	7976	二次加工ある剥片			1		1		26.00	33.00	8.80	7.33			打面欠
S7	IV区	集中1	G5	7485	剥片					1		23.20	37.40	7.30	5.27	1		
S08	IV区	集中1	K3	7946	碎片													
S09	IV区	集中1	K3	7818	剥片			1				17.00	15.70	3.40	0.69	1		
S010	IV区	集中1	K3	7983	剥片			1				16.30	9.80	2.40	0.43	1		
S011	IV区	集中1	K3	7823	剥片			1				13.20	23.30	1.70	0.62	1		打面欠
S012	IV区	集中1	K3	7815	剥片			1				49.60	20.40	9.10	7.16	1		
S013	IV区	集中1	K3	7944	剥片			1				33.70	20.70	2.80	1.73	1		
S014	IV区	集中1	K3	7945	剥片			1				8.50	11.80	3.00	0.48	1		打面欠
S015	IV区	集中1	K3	7956	碎片													
S016	IV区	集中1	K3	7978	剥片													
S017	IV区	集中1	K3	7943	剥片			1				23.60	46.40	6.80	5.52	1		
S018	IV区	集中1	K3	7959	剥片			1				11.70	20.50	2.00	0.49	1		
S019	IV区	集中1	K3	7947	剥片			1				14.30	10.60	1.70	0.24	1		

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・碎片等石器観察表 (3)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山岩	打面		長さ	幅	法量(mm, 約)		重さ	完存	残存率		備考	
						白A	白B		善	良			平坦	調整			点	線		厚さ
S075	IV区	集中1	J3	7873	剥片						14.30	19.70	3.10	0.63				1	打面欠	
S076	IV区	集中1	J3	7866	剥片		1													
S077	IV区	集中1	J3	7881	剥片		1		1		12.70	31.40	5.30	1.31	1					
S078	IV区	集中1	J3	7915	剥片															
S079	IV区	集中1	J3	7870	剥片															
S080	IV区	集中1	J3	7851	剥片		1			1	30.60	56.90	8.50	13.17	1					
S081	IV区	集中1	J3	7896	剥片				1		11.20	18.80	2.00	0.33			1			
S082	IV区	集中1	J3	7901	剥片				1		10.50	22.00	2.50	0.47	1					
S083	IV区	集中1	J3	7852	剥片				1		12.50	23.20	2.60	0.59	1					
S084	IV区	集中1	J3	7841	剥片				1		10.20	17.00	4.10	0.51	1					
S085	IV区	集中1	J3	7839	剥片									0.11						
S086	IV区	集中1	J3	7868	剥片		1		1		13.00	35.00	2.60	0.66	1					
S087	IV区	集中1	J3	7852	剥片		1		1		12.60	23.70	1.70	0.54	1					
S088	IV区	集中1	J3	7949	剥片				1		15.60	17.00	2.00	0.40	1					
S089	IV区	集中1	J3	7971	剥片						19.30	20.20	3.40	1.15				1	打面欠	
S090	IV区	集中1	J3	7898	剥片									0.18						
S091	IV区	集中1	J3	7815	剥片		1		1		11.20	23.30	3.40	0.67	1					
S092	IV区	集中1	J3	7859	剥片									0.28						
S093	IV区	集中1	J3	7848	剥片				1		11.20	12.10	1.30	0.15	1					
S094	IV区	集中1	J3	7952	剥片									0.11						
S095	IV区	集中1	J3	7928	剥片				1		18.60	26.10	4.50	1.99				1		
S096	IV区	集中1	J3	7830	剥片									0.13						
S097	IV区	集中1	J2	7826	剥片		1		1		7.20	18.70	4.20	0.59	1					
S098	IV区	集中1	J2	7894	剥片				1		21.00	29.90	5.40	3.35			1			
S099	IV区	集中1	J3	7794	剥片		1		1		8.00	14.40	2.30	0.30	1					
S100	IV区	集中1	J3	7905	剥片				1		8.20	19.20	4.20	0.59				1		
S101	IV区	集中1	J3	7876	剥片									0.10						
S103	IV区	集中1	J3	7927	剥片									0.14						
S104	IV区	集中1	J3	7934	剥片		1				21.00	18.80	7.50	1.73				1	打面欠	
S105	IV区	集中1	J3	7872	剥片		1		1		18.90	23.50	4.40	1.22				1		
S106	IV区	集中1	J3	7894	剥片						10.00	16.10	2.80	0.44				1	打面欠	
S107	IV区	集中1	J3	7885	剥片		1		1		31.50	65.50	9.00	12.28	1					
S108	IV区	集中1	J3	7878	剥片									0.21						
S109	IV区	集中1	J3	7855	剥片		1				14.80	8.70	1.70	0.16				1	打面欠	
S110	IV区	集中1	J3	7782	剥片		1		1		16.30	25.60	3.20	0.58	1					
S111	IV区	集中1	J3	7940	剥片									0.13						
S112	IV区	集中1	J3	7846	剥片		1		1		8.20	13.80	1.80	0.17	1					
S113	IV区	集中1	J3	7917	剥片		1		1		8.30	14.60	2.00	0.24				1		
S114	IV区	集中1	J3	7835	剥片		1		1		16.30	31.60	6.50	1.72	1					
S115	IV区	集中1	J3	7881	剥片									0.27						
S116	IV区	集中1	J3	7877	剥片		1		1		14.70	30.00	4.00	1.40				1		
S117	IV区	集中1	J3	7942	剥片									0.37						
S118	IV区	集中1	J3	7852	剥片									0.07						
S119	IV区	集中1	J3	7896	剥片									0.12						
S120	IV区	集中1	J3	7890	剥片		1		1		13.30	28.70	2.90	0.84	1					
S121	IV区	集中1	J3	7909	剥片									0.34						
S122	IV区	集中1	J3	7944	剥片		1		1		10.70	19.30	3.40	0.56	1					
S123	IV区	集中1	J3	7810	剥片									0.13						
S124	IV区	集中1	J3	7843	剥片		1		1		16.60	26.50	3.00	1.30	1					
S125	IV区	集中1	J3	7825	剥片		1		1		14.90	29.00	4.70	1.27	1					
S126	IV区	集中1	J3	7850	剥片		1		1		12.00	19.60	2.60	0.42	1					
S127	IV区	集中1	J3	7942	剥片		1		1		15.00	14.70	2.70	0.70				1	打面欠	
S128	IV区	集中1	J2	7853	剥片		1		1		36.20	24.30	7.20	3.16				1		
S129	IV区	集中1	J3	7786	剥片		1		1		14.70	19.00	3.10	0.70	1					

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・碎片等石器観察表 (4)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	幅	厚さ	重量(mm, g)	重さ	残存率		備考
						白A	白B		善	良						平坦	調整	
S130	Ⅳ区	集中1	J3	7.856	剥片		1			1	17.20	14.10	3.40	0.59	1			
S131	Ⅳ区	集中1	J3	7.855	碎片									0.17				
S132	Ⅳ区	集中1	J3	7.857	剥片									0.30				
S133	Ⅳ区	集中1	J3	7.949	剥片				1		33.70	17.20	7.00	3.25			1	
S134	Ⅳ区	集中1	J2	7.898	剥片				1		8.00	18.20	2.00	0.30	1			
S136	Ⅳ区	集中1	J2	7.827	剥片									0.27				
S137	Ⅳ区	集中1	J2	7.752	剥片				1		9.30	20.00	3.20	0.46	1			
S138	Ⅳ区	集中1	J2	7.838	剥片				1		10.60	28.20	3.00	0.85	1			
S140	Ⅳ区	集中1	J2	7.840	剥片									0.38				
S141	Ⅳ区	集中1	J2	7.855	剥片									0.34				
S142	Ⅳ区	集中1	H4	7.892	剥片				1		13.00	27.60	4.20	1.77	1			打面欠
S143	Ⅳ区	集中1	H4	7.835	剥片				1		19.00	20.00	2.90	1.62				
S144	Ⅳ区	集中1	H4	7.895	剥片						15.70	23.50	3.80	1.30				打面欠
S145	Ⅳ区	集中1	H4	7.885	剥片									0.48				
S146	Ⅳ区	集中1	H4	7.867	剥片									0.61				
S147	Ⅳ区	集中1	H4	7.892	剥片													
S148	Ⅳ区	集中1	H4	7.820	剥片				1		11.20	18.90	3.10	0.50	1			
S149	Ⅳ区	集中1	H4	7.899	剥片				1		11.90	22.70	2.20	0.60				打面欠
S150	Ⅳ区	集中1	H4	7.811	二次加工ある剥片			1			21.00	45.50	11.70	7.18				打面欠
S151	Ⅳ区	集中1	H4	7.943	剥片				1		9.80	14.60	2.90	0.45				打面欠
S152	Ⅳ区	集中1	H4	7.823	剥片				1		21.50	29.30	3.50	1.94	1			
S153	Ⅳ区	集中1	H4	7.885	剥片				1		10.00	15.60	2.90	0.41	1			
S154	Ⅳ区	集中1	H4	7.909	剥片				1		26.00	17.10	2.20	1.06				
S155	Ⅳ区	集中1	H4	7.821	剥片				1		10.70	14.30	1.50	0.18	1			
S156	Ⅳ区	集中1	H4	7.836	剥片				1		11.00	13.10	5.00	0.42				打面欠
S157	Ⅳ区	集中1	H4	7.785	剥片				1		14.10	24.10	2.20	0.81				
S158	Ⅳ区	集中1	H4	7.907	剥片				1		11.70	26.10	5.20	1.17	1			
S159	Ⅳ区	集中1	H4	7.774	剥片				1		17.20	23.50	2.90	1.12	1			
S160	Ⅳ区	集中1	H4	7.758	剥片									0.17				
S161	Ⅳ区	集中1	H4	7.816	剥片				1		21.10	28.90	4.60	1.84	1			
S162	Ⅳ区	集中1	H4	7.906	剥片				1		11.80	10.60	1.80	0.26	1			
S163	Ⅳ区	集中1	H4	7.896	剥片				1		16.70	20.10	2.40	0.97				打面欠
S164	Ⅳ区	集中1	H4	7.821	剥片				1		11.60	16.40	2.20	0.33	1			
S165	Ⅳ区	集中1	H4	7.826	剥片									0.31				
S166	Ⅳ区	集中1	H4	7.831	剥片				1		11.00	17.20	2.30	0.39				1
S167	Ⅳ区	集中1	H4	7.838	剥片									0.27				
S168	Ⅳ区	集中1	H5	7.868	剥片				1		26.20	36.40	6.50	5.78	1			
S169	Ⅳ区	集中1	H5	7.885	剥片				1		9.60	20.30	3.00	0.56				1
S170	Ⅳ区	集中1	H5	7.888	剥片				1		25.20	15.70	2.30	0.79	1			打面欠
S171	Ⅳ区	集中1	H5	7.862	剥片				1		24.80	57.20	7.30	10.48	1			
S172	Ⅳ区	集中1	H5	7.825	剥片				1		12.50	17.70	2.10	0.34	1			
S174	Ⅳ区	集中1	H5	7.846	剥片				1		21.70	14.70	2.40	0.58	1			
S175	Ⅳ区	集中1	H5	7.885	剥片									0.12				
S176	Ⅳ区	集中1	H5	7.931	剥片				1		17.50	23.60	2.80	1.46	1			
S177	Ⅳ区	集中1	H5	7.923	剥片				1		23.90	56.10	6.90	6.92	1			
S178	Ⅳ区	集中1	H5	7.929	二次加工ある剥片				1		19.40	28.50	4.00	2.09				打面欠
S179	Ⅳ区	集中1	H5	7.924	剥片				1		18.70	30.40	3.90	2.27				1
S180	Ⅳ区	集中1	H5	7.890	剥片									0.16				
S181	Ⅳ区	集中1	H5	7.798	剥片				1		19.40	23.10	5.20	3.01				1
S182	Ⅳ区	集中1	H5	7.895	剥片				1		12.40	24.70	3.50	0.99				1
S183	Ⅳ区	集中1	H5	7.838	剥片						14.70	17.10	2.30	0.46				打面欠
S184	Ⅳ区	集中1	H5	7.869	剥片				1		26.20	22.30	3.00	1.39	1			
S185	Ⅳ区	集中1	H5	7.860	剥片						10.90	13.40	2.60	0.35				1
S186	Ⅳ区	集中1	G5	7.856	剥片									0.35				

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・破片等石器観察表 (5)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山 岩	打面		法量(mm, g)			残存率		備考		
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ		幅	厚さ
S187	Ⅳ区	集中1	H5	7831	剥片	1				1		3160	1210	470	126		1	
S189	Ⅳ区	集中1	H5	7859	剥片		1			1		2320	2210	510	182	1		
S190	Ⅳ区	集中1	H5	7861	剥片		1			1		1570	2570	390	166		1	
S191	Ⅳ区	集中1	H5	7875	剥片		1			1		890	1880	310	043	1		
S192	Ⅳ区	集中1	H5	7771	剥片		1			1		1780	3310	540	207	1		
S193	Ⅳ区	集中1	H5	7911	破片										027			
S194	Ⅳ区	集中1	H5	7880	剥片		1					1230	1350	460	057		1	打面欠
S196	Ⅳ区	集中1	H5	7881	剥片		1			1		1630	2390	350	113	1		
S197	Ⅳ区	集中1	H5	7907	剥片						1	1440	2280	340	100	1		
S198	Ⅳ区	集中1	H5	7909	破片		1								014			
S199	Ⅳ区	集中1	H5	7872	破片										015			
S200	Ⅳ区	集中1	H5	7941	剥片		1			1		1650	2380	260	099	1		
S201	Ⅳ区	集中1	H5	7926	剥片		1			1		2330	2850	340	246	1		
S228	Ⅳ区	集中1	H6	7884	破片										002			
S229	Ⅳ区	集中1	H6	7928	破片										028			
S230	Ⅳ区	集中1	H6	7865	剥片		1			1		2170	2840	550	293	1		
S231	Ⅳ区	集中1	H6	7884	剥片		1			1		2180	2400	350	205	1		
S233	Ⅳ区	集中1	H6	7894	破片										010			
S234	Ⅳ区	集中1	H6	7837	剥片						1	2010	1580	260	045		1	打面欠
S235	Ⅳ区	集中1	H6	7892	剥片		1			1		2950	2970	660	440	1		
S237	Ⅳ区	集中1	H6	7928	剥片		1			1		1790	2190	300	104	1		
S238	Ⅳ区	集中1	H6	7925	破片										001			
S239	Ⅳ区	集中1	H6	7859	剥片		1					1520	1700	420	096		1	打面欠
S240	Ⅳ区	集中1	H6	7910	剥片		1					1600	2040	280	084		1	打面欠
S241	Ⅳ区	集中1	H6	7898	破片										016			
S242	Ⅳ区	集中1	G6	7795	剥片			1				3810	5360	3430	8234			
S243	Ⅳ区	集中1	H4	7878	剥片		1			1		1500	1170	140	019	1		
S244	Ⅳ区	集中1	H4	7751	剥片			1		1		4120	1390	710	238	1		
S246	Ⅳ区	集中1	H4	7909	剥片		1			1		1900	3890	490	353	1		
S247	Ⅳ区	集中1	H4	7846	剥片		1					260	1400	250	040		1	打面欠
S248	Ⅳ区	集中1	H4	7915	破片										020			
S249	Ⅳ区	集中1	H4	7918	剥片		1					960	1910	270	052		1	打面欠
S250	Ⅳ区	集中1	H4	7816	二次加工ある剥片		1					2040	2820	600	313		1	打面欠
S251	Ⅳ区	集中1	H4	7854	破片										056			
S252	Ⅳ区	集中1	H4	7920	破片										019			
S253	Ⅳ区	集中1	H4	7901	剥片		1			1		1910	1740	160	077		1	
S254	Ⅳ区	集中1	G4	7892	剥片		1			1		1240	1560	230	043	1		
S255	Ⅳ区	集中1	G4	7888	剥片		1			1		2300	2800	440	207		1	
S256	Ⅳ区	集中1	G4	7935	剥片		1			1		1820	2800	330	151	1		
S257	Ⅳ区	集中1	G4	7918	剥片		1					1420	2210	290	097		1	打面欠
S258	Ⅳ区	集中1	G4	7901	二次加工ある剥片		1			1		3280	3380	480	578	1		
S259	Ⅳ区	集中1	G4	7911	剥片		1					1130	1530	160	031		1	打面欠
S260	Ⅳ区	集中1	G4	7844	破片										021			
S261	Ⅳ区	集中1	G5	7824	二次加工ある剥片			1		1		4130	1880	430	276		1	
S262	Ⅳ区	集中1	G5	7833	剥片		1					3390	2750	1030	1063		1	打面欠
S263	Ⅳ区	集中1	F5	7817	剥片			1		1		2510	3380	870	565	1		
S268	Ⅳ区	集中1	K5	7926	剥片		1					1150	1550	160	027		1	打面欠
S269	Ⅳ区	集中1	J5	7908	剥片		1			1		1340	2470	470	175		1	
S273	Ⅳ区	集中1	L1	7911	剥片		1					1040	1940	350	066		1	打面欠
S274	Ⅳ区	集中1	L2	7940	二次加工ある剥片		1					5960	4630	1260	3212		1	打面欠
S275	Ⅳ区	集中1	L2	7837	破片										011			
S276	Ⅳ区	集中1	L2	7894	破片										013			
S277	Ⅳ区	集中1	L2	7929	剥片		1			1		1270	2480	390	112		1	打面欠
S278	Ⅳ区	集中1	L2	7899	剥片		1			1		1170	1620	200	043		1	打面欠

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・碎片等石器観察表 (6)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	法重 (mm, g)			残存率		備考
						白A	白B		善	良		平坦	調整	点	痕	幅	
S279	IV区	集中1	L2	7865	剥片		1				38.30	45.10	4.50	2.65		1	打面欠
S280	IV区	集中1	L2	7899	剥片		1		1		16.00	23.50	3.00	1.11	1		
S281	IV区	集中1	L2	7946	剥片		1		1		11.80	12.70	1.70	0.27	1		
S282	IV区	集中1	L2	7941	剥片		1							0.05			
S283	IV区	集中1	L2	7911	剥片		1		1		17.90	21.40	2.20	0.88	1		
S284	IV区	集中1	L2	7876	剥片		1				8.30	17.20	2.00	0.33		1	打面欠
S285	IV区	集中1	L2	7860	剥片		1		1		7.10	15.00	2.00	0.29		1	打面欠
S286	IV区	集中1	L2	7781	剥片		1		1		8.70	14.20	2.00	0.29		1	
S287	IV区	集中1	M2	7971	剥片		1		1		15.40	26.90	3.50	1.42		1	
S288	IV区	集中1	M2	7970	原石素材			1			32.00	62.00	9.90	23.79			
S289	IV区	集中1	L2	7815	剥片		1		1		24.40	20.40	3.50	1.89		1	打面欠
S290	IV区	集中1	J2	7754	剥片		1			1	10.90	15.00	2.60	0.29		1	打面欠
S291	IV区	集中1	J3	7776	剥片		1				11.40	15.40	3.40	0.38		1	打面欠
S292	IV区	集中1	J3	7786	剥片									0.11			
S293	IV区	集中1	J3	7785	剥片		1		1		26.30	31.60	5.90	3.69	1		
S294	IV区	集中1	J3	7810	剥片		1				22.20	19.00	3.30	1.40		1	打面欠
S295	IV区	集中1	J3	7781	剥片		1		1		14.80	21.90	2.80	1.06	1		
S296	IV区	集中1	J2	7745	剥片									0.19			
S297	IV区	集中1	J3	7805	剥片									0.09			
S298	IV区	集中1	J3	7817	剥片									0.09			
S299	IV区	集中1	J3	7793	剥片		1		1		23.70	12.90	2.40	0.86	1		
S300	IV区	集中1	J3	7796	剥片									0.25			
S301	IV区	集中1	J3	7810	剥片		1			1	53.00	52.80	9.50	20.80		1	
S302	IV区	集中1	J3	7790	剥片									0.05			
S303	IV区	集中1	J3	7781	剥片		1				10.60	19.80	3.40	0.63		1	打面欠
S304	IV区	集中1	J3	7778	剥片									0.13			
S305	IV区	集中1	J3	7843	剥片		1		1		15.30	14.50	2.60	0.50	1		
S306	IV区	集中1	J3	7905	剥片		1		1		16.60	22.00	2.00	0.81	1		
S307	IV区	集中1	J3	7961	剥片		1		1		12.80	13.30	4.10	0.94		1	
S308	IV区	集中1	J4	7845	剥片		1				17.00	8.30	3.20	0.48		1	打面欠
S309	IV区	集中1	J4	7870	剥片									0.32			
S310	IV区	集中1	J3	7770	剥片									0.08			
S311	IV区	集中1	J4	7918	剥片									0.06			
S312	IV区	集中1	J4	7904	剥片									0.32			
S313	IV区	集中1	J4	7835	剥片									0.16			
S314	IV区	集中1	J4	7817	剥片		1				17.30	14.90	2.40	0.72		1	打面欠
S315	IV区	集中1	J4	7854	剥片		1		1		14.40	19.60	3.00	0.79	1		
S316	IV区	集中1	J4	7902	剥片									0.13			
S317	IV区	集中1	J4	7942	剥片		1				10.90	14.30	3.00	0.52		1	打面欠
S318	IV区	集中1	J4	7904	剥片		1				14.80	17.00	2.00	0.53		1	打面欠
S319	IV区	集中1	J4	7823	剥片		1		1		6.90	15.00	3.50	0.29		1	
S320	IV区	集中1	J4	7917	剥片		1		1		22.80	31.40	7.80	3.46	1		
S322	IV区	集中1	J4	7890	剥片		1				15.00	22.20	3.70	0.81		1	打面欠
S323	IV区	集中1	J4	7904	剥片		1				12.30	23.50	3.50	1.46		1	打面欠
S324	IV区	集中1	J4	7924	剥片									0.37			
S325	IV区	集中1	J4	7916	剥片		1		1		10.50	18.00	2.20	0.39		1	
S326	IV区	集中1	J4	7930	剥片						16.30	19.30	2.00	0.45		1	打面欠
S327	IV区	集中1	J4	7924	剥片		1							0.06			
S328	IV区	集中1	J4	7857	剥片									0.06			
S329	IV区	集中1	J4	7832	剥片		1		1		15.20	10.20	2.00	0.32		1	
S330	IV区	集中1	I5	7817	剥片		1		1		16.40	10.50	1.60	0.24	1		
S331	IV区	集中1	I5	7821	剥片									0.09			
S332	IV区	集中1	I5	7844	剥片		1		1		14.30	15.80	2.50	0.29	1		
S333	IV区	集中1	I5	7764	剥片			1			6.80	25.70	7.90	1.08			

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・碎片等石器観察表 (7)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		法量(mm, g)				残存率		備考	
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ	幅		厚さ
S334	IV区	集中1	I5	7838	剥片	1					1	27.00	21.10	3.30	1.87	1		
S346	IV区	集中1	H6	7861	剥片		1		1			12.70	15.10	4.90	0.70	1		
S347	IV区	集中1	I4	7815	剥片			1				47.60	61.20	15.00	27.80			
S349	IV区	集中1	I3	7855	剥片	1						32.60	20.80	7.10	3.44			打面欠
S350	IV区	集中1	I3	7875	剥片		1		1			14.60	10.80	2.90	0.39			1
S351	IV区	集中1	I3	7776	剥片		1		1			11.60	20.40	2.20	0.46	1		
S352	IV区	集中1	I3	7848	剥片		1		1			29.70	49.80	8.70	8.57	1		
S353	IV区	集中1	I3	7821	碎片							11.70	17.40	1.90	0.44			1
S354	IV区	集中1	I3	7850	剥片	1						7.40	17.90	3.50	0.46			打面欠
S355	IV区	集中1	I3	7774	剥片		1					13.30	17.90	3.30	0.90			1
S356	IV区	集中1	I3	7820	剥片	1			1									
S357	IV区	集中1	I3	7784	剥片													0.10
S358	IV区	集中1	I3	7805	碎片													0.11
S358	IV区	集中1	I3	7805	碎片													0.05
S360	IV区	集中1	I3	7901	剥片													
S361	IV区	集中1	I3	7810	剥片		1		1			17.70	33.00	5.40	3.06	1		
S362	IV区	集中1	I3	7837	剥片		1		1			12.90	23.10	6.20	1.15	1		
S364	IV区	集中1	I3	7809	剥片	1			1			19.40	33.50	3.30	2.56			1
S365	IV区	集中1	I3	7879	剥片		1		1			14.50	25.10	3.40	1.15	1		
S366	IV区	集中1	I3	7846	剥片		1		1			6.80	21.70	2.90	0.31	1		
S367	IV区	集中1	I3	7833	剥片		1		1			13.00	12.20	2.80	0.42			1
S368	IV区	集中1	I3	7847	碎片													0.08
S369	IV区	集中1	I3	7833	剥片		1		1			26.70	28.50	3.10	1.95			1
S370	IV区	集中1	I3	7862	剥片		1		1			11.20	27.80	2.70	0.66	1		
S371	IV区	集中1	I3	7868	剥片	1			1			10.40	24.40	4.60	0.90			1
S372	IV区	集中1	I3	7822	剥片		1		1			18.80	28.40	5.60	1.07	1		
S373	IV区	集中1	I3	7934	剥片		1		1			12.00	15.90	2.30	0.45	1		
S374	IV区	集中1	I3	7882	剥片		1		1			12.20	12.10	1.50	0.17			1
S375	IV区	集中1	I3	7794	剥片													0.12
S376	IV区	集中1	I3	7781	剥片													0.16
S377	IV区	集中1	I3	7848	剥片													0.25
S378	IV区	集中1	I3	7859	剥片													0.13
S379	IV区	集中1	I3	7910	剥片		1		1			12.80	26.50	7.00	2.07			1
S380	IV区	集中1	I3	7843	剥片		1		1			14.40	28.50	2.20	0.73	1		
S381	IV区	集中1	I3	7746	剥片													0.18
S382	IV区	集中1	I3	7785	剥片													0.18
S383	IV区	集中1	I3	7881	剥片													0.22
S384	IV区	集中1	I4	7929	剥片													0.09
S385	IV区	集中1	I3	7845	剥片		1					16.90	14.50	2.80	0.53			
S386	IV区	集中1	I3	7855	剥片													0.43
S387	IV区	集中1	I3	7885	剥片		1		1			18.80	17.00	4.60	1.01	1		打面欠
S388	IV区	集中1	I3	7859	剥片		1		1			19.80	15.20	2.40	0.57	1		
S389	IV区	集中1	I3	7845	剥片													0.05
S390	IV区	集中1	I3	7840	剥片		1		1			11.00	14.20	2.50	0.42	1		
S391	IV区	集中1	I3	7845	剥片		1		1			14.70	16.90	3.00	0.96			1
S392	IV区	集中1	I3	7837	剥片		1		1			10.20	13.60	2.50	0.31	1		打面欠
S393	IV区	集中1	I3	7831	剥片		1		1			16.10	15.20	2.70	0.63			1
S394	IV区	集中1	I3	7866	剥片													0.43
S395	IV区	集中1	I3	7881	剥片		1		1			7.90	15.30	1.40	0.17	1		
S396	IV区	集中1	I3	7889	剥片													0.06
S397	IV区	集中1	I3	7888	剥片		1					3.00	21.80	1.40	0.29			1
S398	IV区	集中1	I3	7888	剥片		1					19.90	19.40	2.90	1.11			1
S399	IV区	集中1	I3	7910	剥片		1		1			12.90	15.00	2.00	0.40	1		打面欠
S400	IV区	集中1	I3	7908	剥片		1		1			12.50	13.70	2.00	0.30	1		
S401	IV区	集中1	I3	7971	剥片		1		1			17.40	20.10	4.80	1.44	1		

第 11 表 川津六反地遺跡集中 1 剥片・碎片等石器観察表 (8)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	幅	法重(mm, g)		残存率		備考		
						白A	白B		普	良			平坦	調整	点	痕		重さ	厚さ
S402	Ⅳ区	集中1	B3	7807	剥片									0.12					
S404	Ⅳ区	集中1	B3	7872	剥片						31.90	50.10	6.60	8.07	1				
S405	Ⅳ区	集中1	B3	7808	剥片						9.30	21.90	5.40	0.66			1	打面欠	
S406	Ⅳ区	集中1	B3	7819	剥片									0.35					
S793	Ⅳ区	集中1	B3	7941	剥片						10.20	19.80	1.90	0.34			1	打面欠	
S794	Ⅳ区	集中1	B3	7882	剥片								0.24						
S795	Ⅳ区	集中1	B3	7967	剥片									0.93					
S1486	Ⅳ区	集中1	B3	7831	剥片						11.70	21.80	3.30	0.35			1		
S1487	Ⅳ区	集中1	B3	7864	剥片						14.30	18.90	3.40	1.04	1				
S1488	Ⅳ区	集中1	B3	7768	剥片						10.40	18.10	3.30	0.35	1				
S1489	Ⅳ区	集中1	B3	7815	剥片						21.30	24.50	3.80	1.66			1		
S1490	Ⅳ区	集中1	B3	7834	剥片						13.80	25.50	3.30	0.81	1				
S1491	Ⅳ区	集中1	B3	7811	剥片						11.40	18.70	2.70	0.27	1			1	打面欠
S1492	Ⅳ区	集中1	B3	7874	剥片						23.60	6.40	2.10	0.22			1		打面欠
S1493	Ⅳ区	集中1	B3	7945	剥片						11.90	12.10	1.40	0.20			1		
S1494	Ⅳ区	集中1	B3	7818	剥片						12.00	15.00	1.70	0.28	1				
S1495	Ⅳ区	集中1	B3	7885	剥片									0.03					
S1496	Ⅳ区	集中1	B3	7799	剥片						10.90	12.30	2.20	0.23	1				
S1498	Ⅳ区	集中1	B3	7841	剥片						13.40	14.30	4.10	0.60			1		打面欠
S1499	Ⅳ区	集中1	B3	7809	剥片								0.04						
S1500	Ⅳ区	集中1	B3	7800	剥片						9.70	16.30	2.10	0.30	1				
S1501	Ⅳ区	集中1	B3	7814	剥片								0.14						
S1502	Ⅳ区	集中1	B3	7783	剥片						27.10	20.30	4.30	1.84	1				
S1503	Ⅳ区	集中1	B3	7886	剥片								0.23						
S1504	Ⅳ区	集中1	B3	7859	剥片						6.50	15.70	4.10	0.34			1		打面欠
S1505	Ⅳ区	集中1	B3	7857	剥片						10.90	17.20	3.00	0.65			1		打面欠
S1506	Ⅳ区	集中1	B3	7803	剥片									0.04					
S1507	Ⅳ区	集中1	B3	7882	剥片									0.06					
S1508	Ⅳ区	集中1	B3	7811	剥片									0.09					
S1509	Ⅳ区	集中1	B3	7806	剥片						12.90	23.50	2.00	0.57			1		打面欠
S1510	Ⅳ区	集中1	B3	7879	剥片								0.16						
S1511	Ⅳ区	集中1	B3	7844	剥片						11.80	15.80	2.20	0.35	1				
S1512	Ⅳ区	集中1	B3	7884	剥片						14.60	12.00	2.00	0.22			1		打面欠
S1513	Ⅳ区	集中1	B3	7857	剥片						12.90	18.80	3.30	0.69			1		
S1514	Ⅳ区	集中1	B3	7882	剥片									0.23					
S1515	Ⅳ区	集中1	B3	7765	剥片								0.05						
S1516	Ⅳ区	集中1	B3	7840	剥片						20.70	27.00	5.10	2.28	1				
S1517	Ⅳ区	集中1	B3	7842	剥片						18.80	24.00	3.50	1.36	1				
S1518	Ⅳ区	集中1	B3	7863	剥片						13.90	30.70	3.50	1.62			1		
S1519	Ⅳ区	集中1	B3	7891	剥片									0.71			1		
S1520	Ⅳ区	集中1	B3	7864	剥片						19.40	18.30	4.00	1.02	1				
S1521	Ⅳ区	集中1	B3	7867	剥片						12.30	14.50	1.10	0.19	1				
S1522	Ⅳ区	集中1	B3	7869	剥片								0.21						
S1523	Ⅳ区	集中1	B3	7769	剥片						27.40	29.90	2.80	2.36	1				
S1524	Ⅳ区	集中1	B3	7771	剥片									0.90					
S1525	Ⅳ区	集中1	B3	7778	剥片								0.27						
S1526	Ⅳ区	集中1	B3	7745	剥片						12.90	22.90	2.90	0.70	1				
S1527	Ⅳ区	集中1	B3	7799	剥片						11.10	18.50	3.00	0.46	1				
S1528	Ⅳ区	集中1	B3	7768	剥片								0.26						
S1529	Ⅳ区	集中1	B3	7855	剥片						29.30	13.80	3.40	2.73	1				3点有り
S1530	Ⅳ区	集中1	B3	7849	剥片								0.30						
S1531	Ⅳ区	集中1	B3	7858	剥片								0.11						
S1532	Ⅳ区	集中1	B3	7862	剥片						19.70	29.70	4.90	2.30	1				
S1533	Ⅳ区	集中1	B3	7881	剥片								0.10						

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(3)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山 岩	打面		法量(mm, g)			残存率		備考
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ	
S467	IV区	集中2	J17	7.654	剥片									0.07		
S468	IV区	集中2	J17	7.654	剥片									0.34		
S469	IV区	集中2	J17	7.688	剥片		1		1		12.00	19.50	2.20	0.32	1	
S470	IV区	集中2	J17	7.696	剥片									0.04		
S471	IV区	集中2	J17	7.695	剥片		1		1		13.60	26.10	2.20	0.68	1	
S472	IV区	集中2	J17	7.780	剥片		1		1		13.40	25.30	3.20	0.83		1
S473	IV区	集中2	J17	7.776	剥片		1		1		27.00	31.50	5.70	3.54		
S474	IV区	集中2	J17	7.655	剥片						16.30	25.10	2.80	1.17	1	
S475	IV区	集中2	J17	7.689	剥片				1		17.00	40.50	8.70	3.20	1	
S476	IV区	集中2	J17	7.682	剥片	1			1		18.50	35.90	7.00	4.43	1	
S477	IV区	集中2	J17	7.721	剥片	1			1		15.20	23.00	5.30	2.28		1
S479	IV区	集中2	J17	7.700	剥片											
S480	IV区	集中2	J17	7.693	剥片											
S481	IV区	集中2	J18	7.465	剥片		1		1		21.10	40.80	10.60	6.65	1	背面線面
S482	IV区	集中2	J18	7.442	剥片		1		1		14.00	29.60	7.40	1.97	1	
S483	IV区	集中2	J16	7.696	剥片									0.27		
S484	IV区	集中2	J16	7.780	剥片									0.04		
S486	IV区	集中2	J16	7.788	剥片		1		1		13.20	17.00	3.30	0.63	1	
S487	IV区	集中2	J16	7.815	剥片		1				12.90	36.00	3.70	1.25		1 打面欠
S488	IV区	集中2	J16	7.794	剥片		1				14.10	21.10	6.10	1.82		1 打面欠
S489	IV区	集中2	J16	7.734	剥片									0.13		
S490	IV区	集中2	J16	7.776	剥片		1		1		13.80	25.60	3.70	1.37	1	
S491	IV区	集中2	J16	7.772	剥片									0.18		
S492	IV区	集中2	J16	7.801	剥片									0.10		
S493	IV区	集中2	J16	7.731	剥片									0.45		
S494	IV区	集中2	J16	7.734	剥片									0.23		
S495	IV区	集中2	J16	7.778	剥片									0.43		
S496	IV区	集中2	J16	7.779	剥片		1		1		14.00	32.00	5.50	2.67		1
S497	IV区	集中2	J16	7.793	剥片		1		1		15.50	31.80	5.50	2.51		1
S498	IV区	集中2	J16	7.735	剥片									0.08		
S499	IV区	集中2	J16	7.765	剥片									0.09		
S500	IV区	集中2	J17	7.713	剥片	1					11.80	14.90	2.70	0.47		1 打面欠
S502	IV区	集中2	L16	7.820	剥片									0.37		
S503	IV区	集中2	L16	7.808	剥片	1					17.80	16.90	5.80	1.10		1 打面欠
S504	IV区	集中2	L16	7.829	剥片		1		1		24.50	25.70	3.10	1.78		1
S505	IV区	集中2	L16	7.798	剥片		1		1		11.90	25.50	3.60	0.87		1
S506	IV区	集中2	L16	7.824	剥片									0.28		
S507	IV区	集中2	L16	7.822	剥片		1		1		13.60	23.30	2.80	0.78		1
S508	IV区	集中2	L16	7.790	剥片									0.47		
S509	IV区	集中2	L16	7.835	剥片									0.30		
S510	IV区	集中2	L16	7.827	剥片		1		1		13.20	14.60	2.40	0.40		1
S511	IV区	集中2	L16	7.811	剥片		1				9.40	22.10	1.60	0.26		1 打面欠
S512	IV区	集中2	L16	7.815	剥片									0.03		
S513	IV区	集中2	L16	7.795	剥片		1		1		9.70	24.10	5.60	1.39		1
S514	IV区	集中2	L16	7.813	剥片									0.05		
S515	IV区	集中2	L16	7.799	二次加工ある剥片	1			1		22.30	27.20	6.60	4.51		1 2点有り
S516	IV区	集中2	L16	7.823	剥片		1		1		11.50	18.70	3.30	0.63		1
S517	IV区	集中2	L16	7.816	剥片		1		1		18.40	28.30	6.90	3.23		1
S518	IV区	集中2	L16	7.784	剥片									0.24		
S519	IV区	集中2	L16	7.814	剥片									0.26		
S520	IV区	集中2	L16	7.779	剥片	1			1		14.10	35.10	7.00	2.62	1	
S521	IV区	集中2	L17	7.811	剥片		1		1		21.30	23.90	5.10	2.89		1
S522	IV区	集中2	K16	7.775	剥片		1				17.00	28.40	4.10	1.58		1 打面欠
S525	IV区	集中2	K16	7.676	剥片		1				17.20	26.30	4.00	1.72		1 打面欠

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(4)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	法重(mm, g)			残存率		備考	
						白A	白B		善	良		平坦	調整	点	痕	幅		厚さ
S526	IV区	集中2	K16	7828	剥片		1					1970	2850	190	1.30		1	打面欠、2点有り
S528	IV区	集中2	K16	7619	剥片		1					1280	1920	240	0.66		1	
S529	IV区	集中2	K17	7770	剥片					1		1300	1810	450	0.79		1	打面欠
S530	IV区	集中2	K16	7743	剥片							2600	4440	530	5.46		1	打面欠
S531	IV区	集中2	K16	7758	剥片					1		1720	3100	550	2.35		1	
S532	IV区	集中2	K17	7787	剥片							1400	2300	520	1.61		1	打面欠
S533	IV区	集中2	K17	7797	剥片							1270	2250	360	0.60		1	打面欠
S534	IV区	集中2	K17	7783	剥片										0.42			
S535	IV区	集中2	K17	7764	剥片					1		1520	1300	460	0.68		1	
S536	IV区	集中2	K17	7806	剥片										0.09			
S537	IV区	集中2	K17	7808	剥片							750	1910	270	0.48		1	打面欠
S538	IV区	集中2	K17	7809	剥片										1.36			
S539	IV区	集中2	K17	7797	剥片							1500	1630	360	0.79		1	打面欠
S540	IV区	集中2	K17	7768	剥片					1		1420	2350	340	1.08		1	
S541	IV区	集中2	K17	7800	剥片										0.21			
S542	IV区	集中2	K17	7805	剥片					1		1390	2180	660	1.92		1	
S543	IV区	集中2	K18	7808	剥片							1070	1690	360	0.46		1	打面欠
S544	IV区	集中2	K17	7795	剥片					1		1220	2730	420	1.24		1	
S545	IV区	集中2	K17	7801	剥片							1290	1310	330	0.47		1	打面欠
S546	IV区	集中2	K17	7805	剥片					1		1810	2410	610	2.09		1	
S547	IV区	集中2	K17	7800	剥片										0.18			
S548	IV区	集中2	K17	7783	剥片					1		2250	2830	580	2.48		1	
S549	IV区	集中2	K17	7808	剥片					1		1040	1890	260	0.58		1	
S550	IV区	集中2	K17	7778	剥片							1810	2370	320	1.65		1	打面欠
S551	IV区	集中2	K17	7792	剥片					1		1700	3250	610	3.32		1	
S552	IV区	集中2	K17	7811	剥片										0.31			
S553	IV区	集中2	K17	7807	剥片										0.26			
S554	IV区	集中2	K17	7826	剥片							1300	1590	170	0.34		1	打面欠
S556	IV区	集中2	K17	7806	剥片										0.50			
S557	IV区	集中2	K17	7805	剥片							2010	2740	300	1.66		1	打面欠
S558	IV区	集中2	K17	7807	剥片							970	1870	220	0.44		1	打面欠
S559	IV区	集中2	K17	7723	剥片					1		1640	2470	310	1.54		1	
S560	IV区	集中2	K17	7785	剥片										0.21			
S561	IV区	集中2	K18	7805	剥片										0.37			
S562	IV区	集中2	L18	7806	剥片							1140	3620	370	1.26		1	打面欠
S563	IV区	集中2	L18	7783	剥片					1		3950	3020	660	4.10		1	
S564	IV区	集中2	L18	7758	剥片					1		1270	1690	330	0.61		1	
S565	IV区	集中2	L18	7819	剥片							1050	2300	420	0.69		1	打面欠
S566	IV区	集中2	L18	7805	剥片							4090	2880	510	14.20		1	打面欠
S567	IV区	集中2	L18	7800	剥片					1		1690	1660	310	1.08		1	
S568	IV区	集中2	L18	7810	剥片							1490	2440	330	1.07		1	打面欠
S569	IV区	集中2	L18	7795	剥片					1		1870	2890	450	1.79		1	
S570	IV区	集中2	L18	7690	剥片					1		3290	1520	620	2.41		1	
S571	IV区	集中2	L18	7715	剥片							1790	3000	450	2.96		1	
S572	IV区	集中2	L18	7834	剥片										0.30			
S573	IV区	集中2	L18	7835	剥片					1		1610	2640	370	1.65		1	
S574	IV区	集中2	K18	7780	剥片					1		1750	1350	420	0.77		1	
S575	IV区	集中2	L18	7839	剥片					1		2380	3250	690	4.50		1	
S576	IV区	集中2	L18	7818	剥片							1880	1910	900	2.79		1	打面欠
S577	IV区	集中2	L18	7845	剥片					1		1430	2270	300	0.92		1	
S578	IV区	集中2	L18	7834	剥片							1630	1970	550	2.70		1	打面欠
S579	IV区	集中2	L18	7867	剥片							1260	2100	530	1.13		1	打面欠
S581	IV区	集中2	L18	7788	剥片										0.15			
S582	IV区	集中2	L18	7758	剥片					1		980	1690	400	0.62		1	

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(5)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山 岩	打面		法量(mm, g)			残存率		備考	
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ		幅
S583	IV区	集中2	L18	7292	剥片		1			1		1730	2340	2.50	104		
S584	IV区	集中2	L18	7288	剥片	1				1		1550	1920	5.30	250	1	
S585	IV区	集中2	L18	7681	剥片	1						2200	900	3.80	077		打面欠
S587	IV区	集中2	K18	7658	剥片	1				1		2230	2620	10.00	406		1
S590	IV区	集中2	K18	7775	剥片		1					1840	27100	4.40	191	1	
S591	IV区	集中2	K18	7794	碎片										0.35		
S592	IV区	集中2	K18	7794	碎片										1.78		
S593	IV区	集中2	K18	7805	剥片		1					1770	2500	5.30	223		1 打面欠
S594	IV区	集中2	K18	7613	剥片		1			1		2490	3790	6.00	410		1
S595	IV区	集中2	K18	7790	剥片	1						2480	2600	5.50	277		1 打面欠
S596	IV区	集中2	K18	7813	碎片							900	1690	1.90	019		1 打面欠
S597	IV区	集中2	K18	7808	碎片		1					1040	2670	4.30	095		1 打面欠
S598	IV区	集中2	K18	7733	剥片	1									0.30		
S599	IV区	集中2	K18	7723	碎片										0.13		
S600	IV区	集中2	K18	7801	剥片										0.13		
S601	IV区	集中2	K18	7751	剥片	1				1		2260	5000	8.20	811	1	
S602	IV区	集中2	K18	7814	剥片					1		2200	4190	5.60	359	1	
S603	IV区	集中2	K18	7814	剥片		1			1		1260	2050	4.40	106		1
S604	IV区	集中2	K18	7818	剥片	1						1020	1880	1.90	050		1 打面欠
S605	IV区	集中2	K18	7646	碎片										0.05		
S606	IV区	集中2	K18	7725	剥片		1			1		1550	2390	3.30	116	1	
S607	IV区	集中2	K18	7778	剥片		1			1		2910	3120	6.60	646	1	
S608	IV区	集中2	K18	7708	剥片		1			1		2070	2390	6.80	248		1
S609	IV区	集中2	L17	7800	碎片										0.09		
S610	IV区	集中2	L17	7761	剥片		1			1		1330	2640	4.60	123	1	
S611	IV区	集中2	L17	7800	剥片		1			1		2360	1950	6.30	254	1	
S612	IV区	集中2	L17	7845	剥片		1			1		1390	1940	3.50	084	1	
S613	IV区	集中2	L17	7795	剥片		1			1		1190	2070	4.50	082	1	
S614	IV区	集中2	L17	7690	剥片		1			1		1740	2530	6.60	192	1	
S615	IV区	集中2	L17	7826	剥片		1			1		2810	1270	3.80	088		1
S616	IV区	集中2	L17	7784	剥片		1			1		2060	4630	6.80	461	1	
S617	IV区	集中2	L17	7827	碎片										0.33		
S618	IV区	集中2	L17	7807	剥片		1			1		820	1940	3.30	061		1
S619	IV区	集中2	L17	7740	碎片										0.55		
S620	IV区	集中2	L17	7761	碎片										0.42		
S621	IV区	集中2	L17	7762	碎片										0.34		
S622	IV区	集中2	L17	7794	剥片		1			1		1900	2790	4.70	138		1
S624	IV区	集中2	L17	7760	剥片	1				1		2790	2910	11.00	495		1
S625	IV区	集中2	L17	7738	剥片	1				1		2330	3380	3.90	324		1 打面欠
S626	IV区	集中2	L17	7840	剥片		1			1		2640	3430	7.20	337	1	
S628	IV区	集中2	L17	7811	碎片										0.16		
S629	IV区	集中2	L17	7848	剥片	1						1120	2050	3.20	054		1 打面欠
S630	IV区	集中2	L17	7805	碎片										0.27		
S631	IV区	集中2	L17	7801	剥片										0.06		
S632	IV区	集中2	L17	7735	碎片										0.43		
S633	IV区	集中2	L17	7825	剥片	1				1		1430	2110	5.30	158	1	
S634	IV区	集中2	L17	7846	剥片		1					1500	1890	3.50	103		1 打面欠
S635	IV区	集中2	L17	7819	剥片	1				1		1230	2000	2.60	054	1	
S636	IV区	集中2	L17	7836	剥片		1			1		1980	1600	10.00	139		1
S637	IV区	集中2	L17	7780	剥片		1			1		1440	1670	1.60	040		1 打面欠
S638	IV区	集中2	L17	7742	二次加工ある剥片	1						2820	2670	6.90	487	1	1 打面欠
S639	IV区	集中2	L17	7745	剥片										0.20		
S640	IV区	集中2	L17	7830	剥片		1			1		1070	2040	3.40	063	1	
S641	IV区	集中2	L17	7755	剥片		1			1		1870	3020	8.30	294	1	

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(6)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	幅	厚さ	重さ	残存率		備考
						白A	白B		善	良					平坦	調整	
S642	IV区	集中2	L17	7.723	剥片		1		1		29.60	14.90	10.20	2.95		1	
S643	IV区	集中2	L17	7.765	剥片		1		1		18.70	25.20	3.60	2.00	1		
S644	IV区	集中2	L17	7.743	碎片								0.60				
S645	IV区	集中2	L17	7.805	剥片		1		1		15.90	2.70	4.80	0.53		1	
S646	IV区	集中2	L17	7.769	剥片		1		1		17.60	22.50	3.80	1.15	1		
S647	IV区	集中2	L17	7.771	剥片		1		1		15.60	21.10	2.90	1.01		1	
S648	IV区	集中2	L17	7.822	碎片									0.25			
S649	IV区	集中2	L17	7.740	剥片								21.00				
S650	IV区	集中2	L17	7.806	剥片		1		1		8.40	17.00	3.80	0.63		1	
S651	IV区	集中2	L17	7.781	剥片		1		1		16.50	16.10	3.20	0.66	1		
S652	IV区	集中2	L17	7.708	剥片		1		1		29.10	28.60	5.70	3.69	1		
S766	IV区	集中2	N14	7.760	剥片		1		1		25.40	42.10	6.80	7.74		1	2点有り
S767	IV区	集中2	N14	7.671	剥片		1		1		24.30	17.20	2.50	1.02		1	
S768	IV区	集中2	N14	7.700	剥片		1		1		16.40	22.60	2.80	0.70	1		
S769	IV区	集中2	N14	7.787	剥片		1		1		10.50	18.30	2.70	0.62		1	打面欠
S770	IV区	集中2	N14	7.791	剥片		1		1		13.80	13.20	3.70	0.66	1		
S771	IV区	集中2	N13	7.662	剥片		1		1		14.40	29.10	3.40	1.21	1		
S772	IV区	集中2	M14	7.691	剥片		1		1		19.80	19.00	4.90	2.32		1	
S773	IV区	集中2	N14	7.739	剥片		1		1		29.30	21.60	2.20	1.44	1		
S774	IV区	集中2	M14	7.766	剥片		1		1		19.50	18.40	3.10	1.20		1	打面欠
S775	IV区	集中2	M14	7.699	剥片		1		1		16.20	21.00	3.50	1.15		1	打面欠
S776	IV区	集中2	M14	7.694	剥片		1		1		19.70	22.30	4.00	3.87	1		2点有り
S777	IV区	集中2	M15	7.782	剥片		1		1		32.90	24.00	6.00	3.71	1		
S778	IV区	集中2	M15	7.828	剥片		1		1		7.60	16.70	3.40	0.45		1	打面欠
S779	IV区	集中2	M15	7.829	碎片								0.41				
S780	IV区	集中2	M15	7.857	剥片		1		1		15.70	27.30	6.30	2.11		1	打面欠
S781	IV区	集中2	M15	7.781	剥片								0.13				
S782	IV区	集中2	M15	7.774	剥片		1		1		21.70	29.20	3.00	1.64		1	
S783	IV区	集中2	M15	7.629	碎片								0.11				
S784	IV区	集中2	M15	7.772	剥片		1		1		17.20	33.40	10.30	4.65		1	
S785	IV区	集中2	K15	7.778	剥片		1		1		10.40	15.20	2.90	0.68		1	打面欠、被蝕痕あり
S786	IV区	集中2	K15	7.769	剥片		1		1		18.10	21.80	3.90	1.58		1	打面欠
S787	IV区	集中2	K16	7.737	剥片		1		1		17.00	24.40	2.50	1.21		1	
S788	IV区	集中2	K17	7.746	剥片								0.04				
S789	IV区	集中2	J16	7.619	剥片								0.06				
S796	IV区	集中2	J20	7.832	剥片		1		1		16.40	27.50	4.70	1.79		1	打面欠
S797	IV区	集中2	K20	7.844	剥片		1		1		17.80	22.30	3.00	1.32		1	
S798	IV区	集中2	J20	7.816	剥片		1		1		23.60	27.70	5.50	2.73		1	打面欠
S799	IV区	集中2	J20	7.815	剥片		1		1		21.10	23.40	8.30	2.57		1	
S800	IV区	集中2	K20	7.830	剥片		1		1		20.30	31.30	9.60	3.25		1	
S801	IV区	集中2	K20	7.820	剥片		1		1		18.60	31.30	4.50	2.70		1	
S802	IV区	集中2	J19	7.784	剥片			1			37.40	19.00	7.40	1.37		1	打面欠、S946S948と統合
S803	IV区	集中2	K20	7.823	剥片		1		1		41.80	32.20	6.10	12.15		1	
S804	IV区	集中2	K20	7.846	剥片		1		1		17.70	16.60	3.80	0.88	1		
S805	IV区	集中2	K19	7.790	剥片		1		1		14.90	33.40	3.60	1.93		1	打面欠
S807	IV区	集中2	K20	7.844	剥片								0.37				
S808	IV区	集中2	L20	7.814	剥片		1		1		26.90	14.40	16.20	2.38		1	打面欠
S811	IV区	集中2	N19	7.851	剥片		1		1		10.50	20.00	2.80	0.46	1		
S812	IV区	集中2	N18	7.832	剥片		1		1		17.70	22.90	4.50	1.70		1	
S813	IV区	集中2	N18	7.856	剥片		1		1		16.60	18.40	3.80	1.20		1	
S814	IV区	集中2	N17	7.828	剥片		1		1		31.50	45.00	12.00	19.11		1	打面欠、2点あり
S815	IV区	集中2	M19	7.783	剥片		1		1		16.70	25.50	5.70	1.59	1		
S816	IV区	集中2	M18	7.864	剥片								0.16				
S817	IV区	集中2	M18	7.855	剥片		1		1		14.20	19.90	4.10	1.13		1	

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・破片等石器観察表(7)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山岩	打面		法量(mm, g)				残存率		備考	
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ	幅		厚さ
S818	IV区	集中2	M17	7888	剥片							1620	1770	310	088		1	打面欠
S819	IV区	集中2	M19	7792	剥片							1910	2640	300	132	1		
S820	IV区	集中2	N18	7850	剥片							1080	2620	330	101		1	
S821	IV区	集中2	N17	7830	破片										062			
S822	IV区	集中2	M19	7802	剥片							1730	2640	360	121	1		
S823	IV区	集中2	M19	7844	剥片							1420	2240	450	094		1	
S824	IV区	集中2	N18	7866	剥片							1200	1420	240	052	1		打面欠
S825	IV区	集中2	M19	7795	破片										020			
S826	IV区	集中2	M18	7724	剥片							1120	1310	420	036	1		
S827	IV区	集中2	N18	7745	剥片							3390	7300	850	1689		1	
S828	IV区	集中2	N18	7782	剥片							910	1350	270	034	1		
S829	IV区	集中2	M18	7851	剥片							1880	4290	730	401		1	
S830	IV区	集中2	N18	7830	剥片							1490	2430	330	038		1	打面欠
S831	IV区	集中2	N17	7811	剥片							1990	5430	540	517	1		
S832	IV区	集中2	N17	7752	破片							1450	1010	300	045		1	打面欠
S833	IV区	集中2	N17	7786	剥片							1010	2330	290	060	1		
S834	IV区	集中2	N17	7741	剥片							1800	2610	410	165	1		
S835	IV区	集中2	M17	7776	剥片							2820	3820	450	475	1		
S836	IV区	集中2	M18	7780	剥片							1370	2230	340	073	1		
S837	IV区	集中2	M18	7843	剥片							2800	3750	800	771		1	
S839	IV区	集中2	M18	7876	剥片							4610	5510	1320	2238		1	
S840	IV区	集中2	M18	7910	剥片							1630	1900	360	111	1		
S841	IV区	集中2	M18	7906	剥片							1520	3520	600	313	1		
S842	IV区	集中2	M18	7811	破片										054			
S844	IV区	集中2	M18	7815	剥片							2890	4900	770	1178	1		
S845	IV区	集中2	L18	7812	剥片							2110	2250	520	219	1		
S846	IV区	集中2	L18	7795	剥片							1110	1830	450	087		1	打面欠
S847	IV区	集中2	L18	7831	剥片							1250	2330	160	053		1	打面欠
S848	IV区	集中2	L18	7844	剥片							2580	2620	480	323		1	
S849	IV区	集中2	L18	7817	剥片							2720	2450	470	200		1	
S850	IV区	集中2	M18	7801	剥片							1070	1810	400	267	1		
S851	IV区	集中2	M18	7819	剥片							1950	3000	420	200	1		
S853	IV区	集中2	M18	7786	破片										025			
S854	IV区	集中2	M19	7815	剥片							1750	1730	540	085		1	
S855	IV区	集中2	M19	7776	剥片							2180	1700	340	126		1	打面欠
S856	IV区	集中2	M19	7843	剥片							1380	2410	300	112		1	
S857	IV区	集中2	M19	7834	剥片							1890	3490	670	589		1	打面欠
S858	IV区	集中2	M19	7840	剥片							3830	3680	480	297		1	
S859	IV区	集中2	M19	7808	剥片							2820	3500	500	447		1	
S860	IV区	集中2	M19	7826	剥片							2190	3380	500	332	1		
S861	IV区	集中2	M19	7769	剥片							2020	5290	410	486	1		
S862	IV区	集中2	M19	7811	剥片							2430	4480	590	538		1	
S863	IV区	集中2	M18	7897	剥片							1460	3890	840	405		1	
S864	IV区	集中2	M18	7333	破片										005			
S865	IV区	集中2	M19	7845	剥片							1510	2350	330	134		1	
S866	IV区	集中2	M18	7844	剥片							1520	2510	450	149	1		
S867	IV区	集中2	M19	7820	剥片							1110	880	460	079		1	打面欠
S868	IV区	集中2	N18	7819	剥片							2970	3230	850	651	1		
S869	IV区	集中2	M18	7798	剥片							1500	3070	630	230		1	打面欠
S871	IV区	集中2	M18	7849	剥片							1560	2750	530	211		1	
S872	IV区	集中2	O20	7781	剥片							1670	2950	570	333		1	打面欠
S873	IV区	集中2	O20	7767	剥片							1770	2090	400	122		1	打面欠(新しい湖丸)
S874	IV区	集中2	N20	7712	剥片							1120	1270	180	027	1		
S875	IV区	集中2	N21	7665	剥片										018			

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(8)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		法重(mm, g)			残存率		備考	
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	痕	長さ		幅
S876	IV区	集中2	N20	7715	剥片								0.08				
S877	IV区	集中2	O20	7761	剥片	1	1		1		16.30	29.20	3.90	1.87		1	
S879	IV区	集中2	O20	7745	剥片	1					16.10	33.90	4.10	2.32		1	打面欠
S880	IV区	集中2	N20	7857	剥片	1					24.20	14.80	5.00	1.28		1	
S881	IV区	集中2	N20	7855	剥片	1			1		10.10	15.20	1.90	0.36	1		打面欠
S883	IV区	集中2	N20	7703	剥片	1					16.00	34.20	4.00	1.34		1	
S884	IV区	集中2	N19	7791	剥片	1					18.50	30.50	7.50	2.60	1		
S885	IV区	集中2	N19	7828	剥片	1			1		31.60	24.10	4.80	3.05		1	
S886	IV区	集中2	N19	7747	剥片	1					27.90	28.70	4.10	2.22	1		
S887	IV区	集中2	N19	7779	剥片	1			1		15.90	17.10	4.20	0.87	1		
S888	IV区	集中2	N19	7744	剥片	1			1		15.50	16.60	3.80	0.84	1		
S889	IV区	集中2	N19	7792	剥片									0.54			
S890	IV区	集中2	N19	7775	剥片									0.43			
S891	IV区	集中2	N19	7777	剥片	1					14.00	14.10	3.30	0.54		1	打面欠
S892	IV区	集中2	O19	7856	剥片	1			1		37.30	47.50	9.30	13.28	1		
S893	IV区	集中2	O19	7787	剥片	1					24.00	48.40	5.50	7.99		1	打面欠
S894	IV区	集中2	O19	7815	剥片	1			1		25.30	25.60	6.10	3.08	1		
S895	IV区	集中2	O19	7856	剥片	1			1		13.20	21.80	1.70	0.68		1	打面欠
S896	IV区	集中2	O19	7767	剥片	1			1		13.30	36.60	3.40	1.69		1	
S897	IV区	集中2	O19	7767	剥片	1			1		14.00	34.20	4.20	1.52	1		
S898	IV区	集中2	O18	7753	剥片									0.18			
S899	IV区	集中2	O19	7751	剥片									0.06			
S900	IV区	集中2	O19	7757	剥片	1					11.30	23.90	9.00	1.09	1		
S901	IV区	集中2	O19	7725	剥片	1					11.40	24.10	5.20	1.46		1	打面欠
S904	IV区	集中2	O19	7685	剥片	1			1		20.10	34.50	5.10	3.46		1	2点あり
S905	IV区	集中2	N19	7739	剥片	1			1		21.00	24.30	2.90	1.63		1	
S906	IV区	集中2	P19	7839	剥片	1					10.80	24.30	5.80	2.14		1	打面欠
S907	IV区	集中2	P18	7788	剥片									0.72			
S908	IV区	集中2	P18	7786	剥片				1		36.10	50.40	7.40	9.04		1	
S909	IV区	集中2	O18	7739	剥片									0.39			
S910	IV区	集中2	O18	7790	剥片	1					18.00	31.40	5.00	2.95		1	打面欠
S911	IV区	集中2	O18	7796	剥片	1			1		14.20	38.60	5.20	2.51	1		
S912	IV区	集中2	O18	7776	剥片	1			1		37.60	31.10	9.60	6.67	1		
S913	IV区	集中2	O18	7748	剥片									0.42			
S914	IV区	集中2	O18	7723	剥片									0.18			
S915	IV区	集中2	O17	7735	剥片	1			1		17.80	38.50	4.00	2.51	1		
S916	IV区	集中2	O18	7848	剥片									0.14			
S917	IV区	集中2	O18	7801	剥片	1			1		18.50	23.10	5.20	2.07		1	
S918	IV区	集中2	N18	7782	剥片	1			1		20.70	37.30	5.20	3.28		1	
S919	IV区	集中2	O18	7834	剥片	1								0.19			
S920	IV区	集中2	N18	7753	剥片	1			1		26.40	25.30	3.40	1.90		1	
S921	IV区	集中2	O18	7889	剥片									0.29			
S922	IV区	集中2	O18	7868	剥片				1		20.90	18.60	3.00	1.41		1	
S923	IV区	集中2	N18	7722	剥片									0.43			
S924	IV区	集中2	N18	7801	剥片						14.20	13.50	3.10	0.69		1	打面欠
S925	IV区	集中2	L20	7691	剥片	1					17.40	18.90	1.70	0.75		1	打面欠
S926	IV区	集中2	K21	7823	剥片	1			1		30.80	36.10	13.90	4.09		1	
S927	IV区	集中2	K20	7733	剥片	1					34.00	50.60	7.60	11.81		1	打面欠
S928	IV区	集中2	K20	7719	剥片	1			1		17.40	23.80	2.80	1.16		1	
S930	IV区	集中2	K20	7836	剥片									0.31			
S931	IV区	集中2	K21	7700	剥片	1					17.60	25.50	3.80	1.80		1	打面欠
S932	IV区	集中2	L19	7794	剥片	1					10.90	15.70	3.10	0.47		1	打面欠
S933	IV区	集中2	K19	7785	剥片	1			1		20.00	45.00	4.30	3.38	1		
S934	IV区	集中2	K19	7813	剥片	1					26.70	16.30	8.10	2.89		1	打面欠

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(9)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面			法量(mm, g)					残存率		備考				
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ	幅	厚さ	重量		完存	一部欠	半存	
S835	Ⅳ区	集中2	K19	7771	剥片						1			31.00	23.20	7.60	4.86			1			
S836	Ⅳ区	集中2	K19	7833	碎片		1																
S837	Ⅳ区	集中2	K19	7790	剥片		1							31.00	22.90	3.60	2.62						
S838	Ⅳ区	集中2	K19	7815	二次加工ある剥片	1					1			36.20	40.50	8.80	13.95						1
S839	Ⅳ区	集中2	K19	7801	剥片	1								20.10	30.90	3.20	2.00						1
S940	Ⅳ区	集中2	J19	7825	剥片	1								13.40	23.30	5.50	0.73						1
S941	Ⅳ区	集中2	J19	7735	剥片	1								12.40	20.00	2.20	0.42						1
S942	Ⅳ区	集中2	J19	7800	剥片	1								14.80	20.00	3.60	1.41						1
S943	Ⅳ区	集中2	K19	7736	碎片											0.34							
S944	Ⅳ区	集中2	L19	7783	碎片											0.22							
S945	Ⅳ区	集中2	L18	7724	碎片												0.40						
S947	Ⅳ区	集中2	J19	7740	剥片			1						15.00	22.90	9.10	2.69						1
S949	Ⅳ区	集中2	J19	7699	剥片												2.15						
S950	Ⅳ区	集中2	J19	7734	剥片												0.38						
S951	Ⅳ区	集中2	J19	7663	剥片												0.90						
S952	Ⅳ区	集中2	K19	7737	剥片	1					1			19.80	33.30	4.00	2.52						1
S953	Ⅳ区	集中2	K19	7735	剥片												0.32						
S955	Ⅳ区	集中2	L18	7780	剥片												1.15						
S956	Ⅳ区	集中2	L18	7784	剥片	1					1			33.50	33.90	5.20	4.74						1
S957	Ⅳ区	集中2	M18	7779	剥片												0.17						
S958	Ⅳ区	集中2	J19	7801	剥片												0.35						
S959	Ⅳ区	集中2	J19	7754	剥片	1								19.60	37.40	6.40	3.18						1
S960	Ⅳ区	集中2	J19	7745	剥片	1								21.90	23.00	2.50	1.41						1
S961	Ⅳ区	集中2	J18	7733	剥片	1								19.60	22.00	2.70	1.39						1
S962	Ⅳ区	集中2	J18	7741	剥片	1					1			20.70	39.00	14.00	5.57						1
S963	Ⅳ区	集中2	J18	7808	剥片			1						12.40	15.60	3.20	0.84						1
S964	Ⅳ区	集中2	J18	7757	剥片		1							11.00	12.60	2.80	0.54						1
S965	Ⅳ区	集中2	J18	7755	剥片						1			11.90	25.00	4.40	1.26						1
S966	Ⅳ区	集中2	J18	7772	剥片	1								12.30	17.80	4.00	1.10						1
S967	Ⅳ区	集中2	J18	7812	剥片		1							13.00	19.00	3.50	1.01						1
S968	Ⅳ区	集中2	J18	7764	剥片		1							13.50	25.40	3.60	0.77						1
S969	Ⅳ区	集中2	J18	7691	剥片	1					1			15.40	22.00	4.80	1.54						1
S970	Ⅳ区	集中2	J18	7734	剥片	1								28.50	38.90	6.00	5.57						1
S972	Ⅳ区	集中2	J18	7679	剥片		1							11.60	25.30	3.40	1.07						1
S974	Ⅳ区	集中2	J18	7685	剥片		1				1			19.00	28.80	3.10	1.58						1
S975	Ⅳ区	集中2	J18	7624	剥片												0.43						
S976	Ⅳ区	集中2	J18	7805	剥片												0.16						
S977	Ⅳ区	集中2	J18	7698	剥片		1							25.50	55.00	9.40	9.71						1
S978	Ⅳ区	集中2	J18	7776	剥片	1					1			21.20	13.70	4.60	0.91						1
S979	Ⅳ区	集中2	J17	7702	剥片												0.10						
S981	Ⅳ区	集中2	J17	7566	剥片		1							7.60	26.50	3.60	0.66						1
S982	Ⅳ区	集中2	J17	7560	剥片		1							22.00	11.10	2.40	0.81						1
S984	Ⅳ区	集中2	J17	7625	剥片		1							23.90	10.00	3.50	0.51						1
S985	Ⅳ区	集中2	J18	7725	剥片	1					1			39.00	28.70	8.00	6.32						1
S987	Ⅳ区	集中2	J17	7614	剥片	1								15.20	16.30	2.70	0.67						1
S988	Ⅳ区	集中2	J17	7568	剥片		1							25.50	20.20	4.50	1.97						1
S989	Ⅳ区	集中2	J17	7638	剥片												0.39						
S991	Ⅳ区	集中2	J17	7645	剥片		1							22.60	21.50	17.20	1.92						1
S992	Ⅳ区	集中2	J17	7549	剥片		1							17.10	21.00	5.90	1.67						1
S993	Ⅳ区	集中2	J17	7545	剥片												0.01						
S994	Ⅳ区	集中2	J17	7435	剥片	1					1			15.70	22.40	2.90	0.79						1
S995	Ⅳ区	集中2	J17	7784	剥片	1								15.90	9.40	2.50	0.73						1
S996	Ⅳ区	集中2	K17	7743	剥片		1							10.30	17.20	2.10	0.32						1
S997	Ⅳ区	集中2	K17	7754	剥片		1				1			24.70	35.80	4.90	2.87						1

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(10)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		法重(mm, g)					残存率		備考
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	痕	長さ	幅	厚さ	
S998	Ⅳ区	集中2	K17	7772	剥片		1		1		4500	8930	410	3505	1			
S999	Ⅳ区	集中2	K17	7756	剥片		1		1		1310	2020	290	077				打面欠
S1000	Ⅳ区	集中2	K17	7721	剥片									025				
S1001	Ⅳ区	集中2	K17	7618	剥片		1				2120	2410	430	209				打面欠
S1002	Ⅳ区	集中2	K17	7740	剥片		1		1		1620	2250	290	109				
S1003	Ⅳ区	集中2	K17	7742	剥片		1		1		1950	1620	310	115	1			
S1004	Ⅳ区	集中2	K17	7759	剥片									039				
S1005	Ⅳ区	集中2	K17	7715	剥片		1		1		1640	1440	150	042	1			
S1006	Ⅳ区	集中2	K17	7731	剥片		1		1		1150	1710	410	059				
S1007	Ⅳ区	集中2	K17	7708	剥片		1		1		1600	1820	320	083				
S1008	Ⅳ区	集中2	K17	7786	剥片		1				1020	2370	480	100				打面欠
S1009	Ⅳ区	集中2	K17	7717	剥片		1				1900	1500	400	098				打面欠
S1010	Ⅳ区	集中2	K17	7783	剥片		1		1		700	1180	270	024				
S1011	Ⅳ区	集中2	K17	7763	剥片									057				
S1012	Ⅳ区	集中2	K17	7741	剥片		1		1		1390	2550	400	133				
S1013	Ⅳ区	集中2	K17	7751	剥片									053				
S1014	Ⅳ区	集中2	K17	7730	剥片									043				
S1015	Ⅳ区	集中2	K17	7704	剥片		1				3090	3290	570	480				打面欠
S1016	Ⅳ区	集中2	K17	7727	剥片									024				
S1017	Ⅳ区	集中2	K17	7695	剥片		1				780	1860	330	044				打面欠
S1018	Ⅳ区	集中2	K17	7758	剥片		1				1480	3530	350	167				打面欠
S1019	Ⅳ区	集中2	K17	7753	剥片									011				
S1020	Ⅳ区	集中2	K17	7699	剥片									002				
S1021	Ⅳ区	集中2	K17	7778	剥片		1		1		2160	2060	230	088	1			
S1022	Ⅳ区	集中2	K17	7768	剥片									024				
S1023	Ⅳ区	集中2	K17	7691	剥片		1		1		1450	1970	270	063	1			
S1024	Ⅳ区	集中2	K17	7775	剥片		1				2630	1930	610	213				打面欠
S1025	Ⅳ区	集中2	K17	7766	剥片		1				780	1820	230	040				打面欠
S1026	Ⅳ区	集中2	K17	7772	剥片		1		1		1780	2860	720	321				
S1028	Ⅳ区	集中2	K17	7676	剥片									007				
S1029	Ⅳ区	集中2	L16	7589	剥片									097				
S1030	Ⅳ区	集中2	L16	7596	剥片		1		1		1750	3370	610	297	1			
S1031	Ⅳ区	集中2	L16	7602	剥片									436				
S1032	Ⅳ区	集中2	M16	7659	剥片									027				
S1033	Ⅳ区	集中2	M16	7663	剥片		1		1		1240	1860	460	107				1
S1034	Ⅳ区	集中2	M16	7617	剥片									006				
S1035	Ⅳ区	集中2	M15	7749	剥片		1		1		1960	4980	470	453	1			
S1036	Ⅳ区	集中2	M15	7810	剥片									061				
S1037	Ⅳ区	集中2	M15	7837	剥片		1		1		1640	2370	300	126	1			
S1038	Ⅳ区	集中2	M15	7855	剥片									041				
S1039	Ⅳ区	集中2	M15	7819	剥片		1		1		1600	3190	580	293	1			
S1040	Ⅳ区	集中2	M16	7672	剥片									022				
S1041	Ⅳ区	集中2	M16	7667	剥片		1		1		1770	2140	330	115	1			
S1042	Ⅳ区	集中2	M16	7664	剥片									010				
S1043	Ⅳ区	集中2	M16	7685	剥片									011				
S1044	Ⅳ区	集中2	M16	7656	剥片									034				
S1045	Ⅳ区	集中2	N16	7704	剥片									037				
S1046	Ⅳ区	集中2	M16	7611	剥片									016				
S1047	Ⅳ区	集中2	N16	7844	剥片		1		1		2330	3350	1120	703				1
S1048	Ⅳ区	集中2	N16	7768	剥片		1		1		1720	2290	790	162				1
S1049	Ⅳ区	集中2	N16	7765	剥片		1		1		1260	1750	470	081				1
S1050	Ⅳ区	集中2	N16	7821	剥片		1		1		1800	2090	570	178				1
S1051	Ⅳ区	集中2	N16	7799	剥片									012				
S1052	Ⅳ区	集中2	K15	7797	剥片		1				880	2000	280	043				打面欠

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(11)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山岩	打面		法量(mm, g)				残存率		備考
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	線	長さ	幅	
S1053	IV区	集中2	L17	7623	剥片									0.05			
S1054	IV区	集中2	L17	7664	剥片		1		1			11.90	13.40	2.00	0.37		1
S1055	IV区	集中2	L17	7663	剥片									0.59			
S1056	IV区	集中2	L17	7663	剥片									0.01			
S1057	IV区	集中2	L17	7680	剥片									0.14			
S1058	IV区	集中2	L17	7698	剥片									0.03			
S1059	IV区	集中2	L17	7685	剥片									0.11			
S1060	IV区	集中2	M18	7812	剥片	1					20.00	21.80	4.00	1.58		1	打面欠
S1061	IV区	集中2	O18	7632	剥片		1		1		11.90	25.00	2.90	0.77		1	
S1062	IV区	集中2	N18	7813	剥片	1			1		14.00	25.70	5.60	1.33		1	
S1064	IV区	集中2	M18	7806	剥片									0.40			
S1065	IV区	集中2	M18	7819	剥片	1					19.50	39.00	6.20	4.25		1	打面欠
S1066	IV区	集中2	N17	7760	剥片			1	1		22.10	21.60	3.70	2.23		1	2点有り
S1068	IV区	集中2	N17	7739	剥片		1		1		25.30	23.30	5.20	2.22		1	
S1070	IV区	集中2	N17	7715	剥片		1		1		31.20	30.00	5.30	5.10		1	
S1071	IV区	集中2	N17	7746	剥片	1			1		12.10	24.00	3.60	0.93	1		
S1072	IV区	集中2	N17	7782	剥片		1		1		15.40	33.50	3.60	1.33	1		
S1073	IV区	集中2	N17	7730	剥片	1			1		27.30	17.20	3.60	2.71	1		2点有り
S1074	IV区	集中2	N17	7800	剥片		1		1		23.00	24.70	7.10	2.91		1	
S1075	IV区	集中2	O17	7783	剥片									0.35			
S1076	IV区	集中2	O17	7805	剥片		1				8.70	19.00	4.00	0.61		1	打面欠
S1078	IV区	集中2	N17	7722	剥片	1			1		24.90	56.20	8.10	8.93	1		
S1079	IV区	集中2	N17	7646	剥片	1			1		27.00	38.20	6.20	6.24	1		
S1080	IV区	集中2	N17	7799	剥片		1		1		15.80	25.90	6.10	2.05		1	
S1082	IV区	集中2	N17	7599	二次加工ある剥片	1					19.50	32.00	6.00	4.26		1	打面欠
S1083	IV区	集中2	N16	7768	剥片		1		1		15.50	20.50	3.10	1.28		1	
S1084	IV区	集中2	N16	7765	剥片						43.50	59.70	14.60	29.05		1	打面欠
S1085	IV区	集中2	N16	7846	剥片		1		1		14.50	31.50	3.70	2.01		1	打面欠
S1086	IV区	集中2	N16	7756	剥片			1	1		15.30	28.50	3.50	1.22	1		
S1087	IV区	集中2	N16	7834	剥片		1		1		26.00	39.70	9.20	10.52		1	打面欠
S1088	IV区	集中2	N16	7858	剥片		1		1		29.90	30.10	9.10	9.26		1	打面欠
S1089	IV区	集中2	N16	7773	剥片		1		1		18.40	34.30	5.20	3.58		1	2点有り
S1090	IV区	集中2	N16	7862	剥片	1			1		21.50	19.00	5.20	1.64	1		
S1091	IV区	集中2	N16	7673	剥片				1						0.17		
S1092	IV区	集中2	N16	7669	剥片		1		1		22.50	36.10	7.20	3.65		1	
S1094	IV区	集中2	N16	7846	剥片									0.20			
S1095	IV区	集中2	N16	7799	剥片		1		1		21.00	23.50	5.30	2.67		1	
S1096	IV区	集中2	N16	7787	剥片		1		1		13.30	20.10	3.40	0.68		1	
S1097	IV区	集中2	N16	7829	剥片		1		1		20.10	38.80	4.10	3.24		1	
S1098	IV区	集中2	N16	7722	剥片									0.13			
S1099	IV区	集中2	N17	7693	剥片		1		1		25.10	33.00	8.30	6.60		1	
S1101	IV区	集中2	O20	7628	剥片									0.62			
S1103	IV区	集中2	M18	7834	剥片	1			1		27.20	28.50	7.00	4.68		1	
S1104	IV区	集中2	M18	7814	剥片									0.33			
S1105	IV区	集中2	M18	7875	剥片		1		1		2.00	15.20	2.90	0.39	1		
S1106	IV区	集中2	M18	7777	剥片	1			1		11.00	19.90	2.20	0.83		1	打面欠
S1107	IV区	集中2	M18	7824	剥片		1		1		12.80	12.00	2.00	0.34		1	打面欠
S1108	IV区	集中2	M18	7851	剥片									0.91			
S1109	IV区	集中2	M18	7855	剥片	1			1		24.50	23.00	4.40	2.01		1	打面欠
S1110	IV区	集中2	M18	7773	剥片	1			1		35.90	35.20	7.20	7.70	1		
S1111	IV区	集中2	M18	7765	剥片	1			1		14.60	25.30	4.30	1.73		1	打面欠
S1113	IV区	集中2	M18	7878	剥片		1		1		14.90	31.20	4.00	1.50	1		
S1114	IV区	集中2	M18	7778	剥片	1			1		19.80	27.90	6.20	3.12	1		

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表(12)

石器番号	調査区	報告遺構名	グロット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面			残存率	備考									
						白A	白B		善良	平坦	調整			点	残	長さ	幅	厚さ	重さ	完存	一部欠	半存
S115	IV区	集中2	M17	7773	剥片	1			1						2220	2180	410	187	1			
S116	IV区	集中2	M17	7705	剥片		1		1						1730	2630	620	253	1			
S117	IV区	集中2	M18	7822	剥片						1				1700	2070	360	122				1
S118	IV区	集中2	M18	7819	剥片	1					1				2950	2970	820	672				1
S119	IV区	集中2	M18	7799	剥片		1				1				1860	2660	550	237	1			
S120	IV区	集中2	M18	7766	剥片		1				1				1840	2640	520	271	1			
S121	IV区	集中2	M17	7831	剥片										2920	1430	530	192	1			打面欠
S122	IV区	集中2	M17	7784	剥片			1							3220	2410	430	378	1			打面欠
S123	IV区	集中2	M17	7739	砕片													016				
S124	IV区	集中2	M17	7803	剥片		1				1				2230	4840	940	843	1			
S125	IV区	集中2	M17	7796	剥片		1		1						1220	1860	360	067	1			
S126	IV区	集中2	M17	7791	剥片		1				1				980	2210	290	088	1			
S127	IV区	集中2	M17	7810	剥片		1								1120	2700	200	067	1			打面欠
S128	IV区	集中2	M17	7784	剥片		1		1						1100	2510	220	062	1			
S129	IV区	集中2	M17	7829	剥片		1		1						2190	1340	380	088	1			
S130	IV区	集中2	M17	7768	剥片		1				1				1320	3660	440	206	1			
S131	IV区	集中2	M17	7794	剥片		1		1						2370	5470	830	966	1			
S132	IV区	集中2	M17	7795	剥片		1		1						3270	2560	760	486	1			
S133	IV区	集中2	M17	7804	砕片													047				
S134	IV区	集中2	M17	7806	剥片		1				1				1910	1530	320	091	1			
S135	IV区	集中2	M17	7737	剥片		1		1						3010	3690	580	531	1			
S136	IV区	集中2	M17	7699	砕片													018				
S137	IV区	集中2	M17	7750	剥片		1		1						1270	3270	320	122	1			打面欠
S138	IV区	集中2	M17	7822	剥片		1								1680	1420	280	069				1
S139	IV区	集中2	M17	7766	剥片		1								1550	3110	570	222	1			打面欠
S140	IV区	集中2	M17	7769	砕片													034				
S141	IV区	集中2	M17	7843	剥片		1								1280	1830	220	047	1			打面欠
S142	IV区	集中2	M17	7817	剥片		1		1						1130	1650	340	068	1			
S143	IV区	集中2	M17	7818	二次加工ある剥片		1								2830	3800	540	468				1
S144	IV区	集中2	M17	7811	剥片		1				1				2420	2230	560	254	1			
S145	IV区	集中2	M17	7855	剥片		1				1				1420	2310	560	143	1			
S146	IV区	集中2	M17	7823	剥片		1								1550	3270	550	261	1			打面欠
S147	IV区	集中2	L17	7789	二次加工ある剥片										2310	1530	420	145				1
S148	IV区	集中2	M17	7865	砕片													006				
S149	IV区	集中2	M17	7865	砕片													040				
S150	IV区	集中2	M17	7839	二次加工ある剥片		1								1970	1940	420	172				1
S151	IV区	集中2	M17	7765	砕片													018				
S152	IV区	集中2	M17	7822	砕片		1											061				
S153	IV区	集中2	M17	7760	剥片		1								850	2260	370	086	1			打面欠
S154	IV区	集中2	M17	7733	砕片		1											032				
S155	IV区	集中2	M17	7806	剥片		1				1				2190	2910	300	193	1			
S156	IV区	集中2	M16	7731	剥片		1				1				2420	3430	620	361	1			
S157	IV区	集中2	M17	7735	剥片		1								1530	3210	530	193				1
S158	IV区	集中2	M17	7592	剥片		1				1				2520	5090	910	1141	1			
S159	IV区	集中2	M17	7748	砕片													014				
S160	IV区	集中2	M17	7840	剥片		1				1				2270	1710	340	104	1			
S161	IV区	集中2	M17	7734	剥片		1				1				1840	2590	460	193	1			
S162	IV区	集中2	M18	7637	砕片		1								1230	950	120	019				1
S163	IV区	集中2	L17	7331	剥片			1							1100	1570	180	025				1
S164	IV区	集中2	L17	7526	剥片		1				1				1480	2250	500	129	1			
S165	IV区	集中2	L18	7600	砕片													001				
S166	IV区	集中2	L18	7791	剥片		1				1				2090	3530	400	303	1			
S167	IV区	集中2	L18	7705	剥片		1				1				2230	4290	670	520	1			
S168	IV区	集中2	L18	7677	剥片		1				1				1750	3630	620	343				1

第 12 表 川津六反地遺跡集中 2 剥片・破片等石器観察表 (13)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山岩	打面		長さ	幅	法量(mm, g)		重さ	完存	残存率		備考		
						白A	白B		善	良			平坦	調整			点	線		一部欠	半存
S1169	IV区	集中2	L18	7.88	剥片						12.20	23.50	3.10	0.59	1						
S1170	IV区	集中2	L18	7.715	剥片						27.80	30.10	3.80	1.32	1						
S1171	IV区	集中2	N16	7.689	剥片						7.60	7.50	2.00	0.25				1	打面欠		
S1172	IV区	集中2	N17	7.707	剥片						17.80	25.70	3.20	1.30	1						
S1174	IV区	集中2	N17	7.716	剥片						1	18.60	33.20	6.70	2.16	1					
S1175	IV区	集中2	M17	7.787	剥片						1	17.30	27.50	3.50	1.27	1					
S1176	IV区	集中2	N17	7.811	剥片						1	24.30	32.50	6.10	4.18				1		
S1177	IV区	集中2	N17	7.756	破片									0.05							
S1178	IV区	集中2	N17	7.681	剥片						1	24.70	43.70	6.70	6.94	1					
S1179	IV区	集中2	N17	7.654	破片									0.18							
S1180	IV区	集中2	N17	7.839	剥片						1	10.10	14.30	2.80	0.28	1					
S1181	IV区	集中2	N17	7.818	剥片						1	14.70	21.90	5.40	1.27				1		
S1182	IV区	集中2	N17	7.731	破片									5.13							
S1183	IV区	集中2	N17	7.769	剥片						1	28.20	16.80	4.10	1.63				1		
S1184	IV区	集中2	M17	7.796	破片						1	13.50	17.00	2.80	0.46	1					
S1185	IV区	集中2	M17	7.832	剥片						1	19.30	21.50	17.20	3.24	1					
S1186	IV区	集中2	M17	7.736	剥片						1	18.00	23.90	3.40	1.35				1		
S1187	IV区	集中2	N17	7.761	剥片						1	18.60	36.70	5.70	3.13				1	打面欠	
S1188	IV区	集中2	N17	7.689	剥片							30.80	34.70	6.00	0.72				1	2点有り、打面欠	
S1189	IV区	集中2	M17	7.747	剥片						1	30.50	37.40	6.30	5.11	1					
S1190	IV区	集中2	M17	7.760	破片						1	9.00	16.20	3.40	0.49	1					
S1191	IV区	集中2	M17	7.843	破片						1	12.80	14.80	3.90	0.60	1					
S1192	IV区	集中2	M17	7.794	剥片						1	16.90	34.20	5.00	2.59	1					
S1193	IV区	集中2	M17	7.740	剥片						1	11.20	18.40	5.00	0.93	1				打面欠	
S1194	IV区	集中2	M17	7.802	剥片							8.60	18.40	1.60	0.26	1					
S1195	IV区	集中2	M17	7.794	破片						1	9.00	15.20	3.30	0.53	1					
S1196	IV区	集中2	M17	7.816	剥片						1	17.70	25.10	2.40	0.93	1					
S1197	IV区	集中2	M17	7.717	剥片						1	18.50	42.80	3.60	4.97	1					
S1198	IV区	集中2	M17	7.789	剥片						1	15.50	21.10	2.10	0.72	1					
S1199	IV区	集中2	M17	7.814	剥片						1	27.10	33.90	6.40	5.45	1					
S1200	IV区	集中2	M17	7.720	剥片						1	13.10	28.50	4.10	1.17	1					
S1201	IV区	集中2	M17	7.731	剥片							8.80	16.80	2.00	0.29	1				打面欠	
S1202	IV区	集中2	M17	7.735	破片									0.39							
S1203	IV区	集中2	M17	7.732	破片									0.14							
S1204	IV区	集中2	M17	7.633	二次加工ある剥片						1	27.40	20.10	9.60	4.47					1	
S1205	IV区	集中2	M17	7.643	剥片						1	20.50	31.00	3.90	2.00	1					
S1212	IV区	集中2	K15	7.797	破片									0.27							
S1214	IV区	集中2	L16	7.658	剥片						1	15.50	18.10	2.00	0.48	1					
S1298	IV区	集中2	P20	7.916	剥片						1	8.60	20.40	3.30	0.57	1					
S1299	IV区	集中2	P19	7.828	剥片							10.10	21.70	2.00	0.45					1	打面欠
S1300	IV区	集中2	O19	7.835	剥片						1	14.60	29.00	4.00	1.67					1	
S1302	IV区	集中2	N17	7.845	剥片						1	22.30	27.10	4.90	2.69					1	
S1303	IV区	集中2	N21	7.850	二次加工ある剥片						1	20.70	17.60	4.40	1.64					1	
S1339	IV区	集中2	P18	7.913	剥片						1	24.10	27.50	4.70	2.52					1	
S1341	IV区	集中2	J21	7.886	破片									0.19							
S1402	IV区	集中2	O19	7.814	剥片						1	19.60	19.90	3.80	1.55					1	
S1404	IV区	集中2	O19	7.797	破片									0.30							
S1405	IV区	集中2	N19	7.730	剥片						1	20.20	34.60	4.80	3.04					1	
S1406	IV区	集中2	N18	7.768	剥片						1	52.50	57.10	8.70	10.86	1					
S1407	IV区	集中2	M18	7.806	剥片						1	23.20	45.60	8.00	5.33	1					
S1408	IV区	集中2	M18	7.805	剥片						1	15.80	19.00	4.20	1.09					1	
S1409	IV区	集中2	M19	7.804	剥片						1	25.50	13.20	3.00	1.05					1	打面欠
S1410	IV区	集中2	M19	7.716	剥片						1	26.90	64.90	9.00	2.68	1					
S1411	IV区	集中2	J18	7.676	剥片						1	15.00	28.30	5.40	1.75	1					

第 12 表 川津六反地遺跡集中 2 剥片・破片等石器観察表 (14)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面			法重(mm, g)			残存率		備考	
						白A	白B		善良	平坦	調整	点	線	長さ	幅	厚さ		重さ
S1412	IV区	集中2	M17	7.451	剥片	1			1			39.50	21.20	5.10	3.67	1		
S1413	IV区	集中2	M15	7.697	破片										0.13			
S1414	IV区	集中2	K17	7.717	破片				1						0.39			
S1415	IV区	集中2	K17	7.658	剥片	1						12.20	22.40	3.30	0.86	1		
S1418	IV区	集中2	M18	7.749	剥片	1			1			33.00	31.00	7.60	4.73	1		
S1419	IV区	集中2	M18	7.781	剥片							21.00	26.60	4.30	2.23			
S1420	IV区	集中2	M18	7.703	剥片	1			1			24.30	41.00	7.00	4.43			打面欠
S1422	IV区	集中2	M18	7.743	破片										0.37			
S1424	IV区	集中2	N17	7.817	破片										0.36			
S1425	IV区	集中2	N17	7.715	剥片	1						19.80	19.50	6.20	1.98			打面欠
S1426	IV区	集中2	L20	7.749	剥片			1	1			16.40	19.00	2.60	0.51			1
S1427	IV区	集中2	L19	7.696	剥片	1			1			39.50	24.80	5.90	4.86			1
S1429	IV区	集中2	L17	7.752	破片			1							0.09			
S1430	IV区	集中2	L17	7.738	剥片	1			1			14.30	16.00	2.20	0.60	1		
S1431	IV区	集中2	L16	7.695	破片										0.51			
S1432	IV区	集中2	L21	7.589	破片										0.65			
S1433	IV区	集中2	L19	7.727	剥片			1	1			17.20	32.10	5.60	2.35	1		
S1434	IV区	集中2	K17	7.774	剥片	1			1			13.90	21.10	2.00	0.62	1		
S1435	IV区	集中2	L18	7.757	二次加工ある剥片			1	1			60.50	18.60	7.20	7.37	1		
S1436	IV区	集中2	L18	7.733	剥片				1			17.70	42.80	5.50	3.76	1		
S1437	IV区	集中2	K17	7.700	剥片			1	1			16.30	21.50	4.30	1.45			1
S1438	IV区	集中2	L16	7.805	剥片			1	1			22.30	21.10	4.60	1.88			1
S1439	IV区	集中2	L16	7.726	剥片			1	1			12.30	21.00	3.00	0.73			1
S1440	IV区	集中2	L16	7.751	剥片			1	1			13.20	34.00	5.10	1.79	1		
S1441	IV区	集中2	L16	7.777	破片										0.19			
S1442	IV区	集中2	L16	7.784	剥片			1	1			17.70	27.30	3.60	1.40			1
S1443	IV区	集中2	L17	7.766	破片										0.47			
S1444	IV区	集中2	M17	7.752	破片										0.48			
S1445	IV区	集中2	M17	7.716	剥片			1	1			23.20	34.30	5.10	3.49	1		
S1446	IV区	集中2	M17	7.686	剥片			1	1			15.80	15.70	3.50	0.14	1		
S1447	IV区	集中2	M17	7.752	剥片			1	1			16.70	25.00	3.80	1.59	1		
S1448	IV区	集中2	M17	7.788	剥片	1			1			28.80	35.60	5.60	5.29	1		
S1449	IV区	集中2	N17	7.749	二次加工ある剥片							30.90	26.80	8.70	4.13			打面欠
S1450	IV区	集中2	N17	7.725	剥片			1	1			10.30	22.40	3.00	0.88			1
S1451	IV区	集中2	N16	7.711	剥片			1	1			10.20	14.60	1.10	0.14	1		
S1452	IV区	集中2	N16	7.810	剥片	1						13.40	15.10	2.50	0.64			打面欠
S1453	IV区	集中2	M17	7.677	剥片		1					19.00	14.40	3.30	0.87			打面欠
S1454	IV区	集中2	I17	7.482	剥片			1	1			13.20	19.20	5.00	1.24	1		
S1455	IV区	集中2	L19	7.698	剥片							14.30	34.20	7.20	2.91			打面欠
S1456	IV区	集中2	M17	7.712	剥片	1			1			11.50	21.60	3.80	0.90	1		
S1457	IV区	集中2	M17	7.788	剥片			1	1			17.40	11.50	3.60	0.54	1		
S1458	IV区	集中2	L17	7.469	剥片			1	1			15.80	23.20	2.60	0.77	1		
S1459	IV区	集中2	M17	7.752	剥片			1	1			13.20	20.70	3.30	0.60			打面欠
S1460	IV区	集中2	M17	7.792	剥片	1			1			22.70	42.60	5.50	4.95	1		
S1461	IV区	集中2	M17	7.786	剥片							10.20	13.10	1.70	0.57			打面欠
S1462	IV区	集中2	M16	7.686	剥片				1			15.80	37.60	8.20	2.73	1		
S1463	IV区	集中2	M16	7.577	破片										0.21			
S1464	IV区	集中2	M16	7.625	剥片			1	1			24.00	37.90	4.00	0.52	1		
S1465	IV区	集中2	M16	7.662	剥片			1	1			15.20	16.90	2.00	0.41	1		
S1466	IV区	集中2	M16	7.694	剥片			1	1			28.60	25.10	8.60	3.41			1
S1467	IV区	集中2	M16	7.638	剥片			1	1			13.70	11.00	3.60	0.53			打面欠
S1468	IV区	集中2	M16	7.671	剥片	1			1			16.60	32.90	8.50	2.81	1		
S1469	IV区	集中2	M16	7.683	剥片							12.20	22.70	1.80	0.37	1		
S1470	IV区	集中2	M16	7.678	剥片	1			1			41.30	29.60	7.10	5.45	1		

第12表 川津六反地遺跡集中2剥片・碎片等石器観察表 (15)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質			安山岩	打面			法量(mm, g)			残存率		備考								
						白A	白B	善良		平坦	調整	点	線	長さ	幅	厚さ	重さ		完存	一部欠	半存					
S1471	IV区	集中2	M16	7.674	剥片										0.04											
S1472	IV区	集中2	M16	7.681	剥片										12.80	9.70	3.10	0.42	1	打面欠						
S1473	IV区	集中2	M16	7.688	剥片										10.10	22.80	3.60	0.76	1	打面欠						
S1474	IV区	集中2	M16	7.625	剥片										20.70	27.10	3.20	1.69	1							
S1475	IV区	集中2	N16	7.691	剥片										25.80	33.10	4.50	3.86	1							
S1476	IV区	集中2	N16	7.691	碎片												0.28									
S1477	IV区	集中2	N16	7.712	剥片										18.30	20.50	2.90	0.86	1							
S1478	IV区	集中2	M17	7.583	剥片										10.40	14.00	2.20	0.28	1							
S1479	IV区	集中2	N16	7.672	剥片										10.80	15.00	3.10	0.60	1							
S1480	IV区	集中2	N16	7.740	剥片										17.40	19.50	5.00	1.11	1	打面欠						
S1481	IV区	集中2	N16	7.793	剥片										9.20	16.20	1.40	0.23	1	打面欠						
S1482	IV区	集中2	N15	7.805	剥片										15.10	20.20	3.00	1.04	1							
S1483	IV区	集中2	N14	7.708	剥片										13.90	9.80	1.60	0.31	1	打面欠						
S1484	IV区	集中2	N13	7.585	剥片										21.40	14.50	2.50	0.75	1							
S1485	IV区	集中2	N14	7.633	剥片										9.70	13.60	1.70	0.23	1							
S1616	IV区	集中2	M16	7.575	碎片												0.06									
S1617	IV区	集中2	M16	7.645	剥片										18.70	32.00	3.70	2.06	1	打面欠						
S1	IV区	集中2	O19	7.830	剥片										15.20	20.30	3.40	40.11	1	打面欠						
合計													151	36	257	106	4	162	73	137	11	1583.5	238	67	248	

第13表 川津六反地遺跡集中3剥片・碎片等石器観察表 (1)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質			安山岩	打面			法量(mm, g)			残存率		備考			
						白A	白B	善良		平坦	調整	点	線	長さ	幅	厚さ	重さ		完存	一部欠	半存
S653	IV区	集中3	R14	7.806	剥片										9.70	21.50	2.70	0.67	1		
S654	IV区	集中3	R14	7.860	碎片													0.26			
S655	IV区	集中3	R14	7.838	剥片										14.30	22.70	2.30	0.86	1		
S656	IV区	集中3	R14	7.880	碎片												0.13				
S657	IV区	集中3	R14	7.883	碎片													0.58			
S658	IV区	集中3	R14	7.863	碎片													0.48			
S659	IV区	集中3	R14	7.834	剥片										17.20	22.30	3.50	1.45	1		
S660	IV区	集中3	R14	7.885	碎片												0.14				
S661	IV区	集中3	R14	7.864	剥片										16.00	24.40	3.00	1.11	1		
S662	IV区	集中3	R14	7.890	剥片										20.00	13.20	4.60	1.08	1	打面欠	
S663	IV区	集中3	R14	7.897	剥片										9.50	12.00	2.50	0.31	1		
S664	IV区	集中3	R14	7.886	碎片													0.03			
S665	IV区	集中3	Q14	7.735	碎片													0.06			
S666	IV区	集中3	Q13	7.787	剥片										13.20	17.20	1.50	0.34	1		
S667	IV区	集中3	Q14	7.817	剥片										15.50	18.70	2.50	0.68	1		
S668	IV区	集中3	R14	7.831	剥片										15.80	29.10	3.20	1.49	1		
S669	IV区	集中3	R14	7.857	剥片										14.90	39.70	6.00	2.17	1		
S670	IV区	集中3	R14	7.890	剥片										17.00	22.00	5.00	1.86	1	打面欠	
S671	IV区	集中3	R14	7.824	剥片										20.30	15.60	5.70	1.31	1		
S672	IV区	集中3	Q14	7.859	剥片										22.10	29.40	2.30	1.90	1		
S674	IV区	集中3	Q14	7.748	碎片												0.19				
S675	IV区	集中3	R14	7.847	剥片										16.20	16.40	1.60	0.61	1		
S676	IV区	集中3	R14	7.872	剥片										17.00	15.70	3.70	1.26	1		
S677	IV区	集中3	Q14	7.795	剥片										12.70	21.50	3.50	1.12	1	打面欠	
S678	IV区	集中3	Q14	7.789	剥片										15.50	35.30	3.60	1.78	1	打面欠	
S679	IV区	集中3	Q14	7.727	碎片												0.30				
S680	IV区	集中3	Q14	7.767	碎片												0.40				

第13表 川津六反地遺跡集中3剥片・碎片等石器観察表(2)

石器番号	調査区	報告遺構名	フリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面		長さ	幅	法重(mm, g)		残存率		備考		
						白A	白B		善	良			平坦	調整	点	線		重さ	厚さ
S681	Ⅳ区	集中3	Q14	7.767	剥片						11.20	19.40		0.13			1	打面欠	
S682	Ⅳ区	集中3	S14	7.770	剥片		1							0.46					
S683	Ⅳ区	集中3	S14	7.770	剥片								0.09						
S684	Ⅳ区	集中3	R14	7.794	剥片			1		1	13.50	15.00	2.40	0.47	1				
S685	Ⅳ区	集中3	R14	7.907	剥片			1		1	11.50	14.70	2.60	0.45	1				
S686	Ⅳ区	集中3	R14	7.853	剥片						16.50	7.60	4.00	0.51				打面欠	
S687	Ⅳ区	集中3	Q14	7.824	剥片		1				10.30	13.50	2.50	0.38				1	打面欠
S688	Ⅳ区	集中3	R13	7.780	剥片		1		1	1	21.50	35.00	3.20	2.26	1				
S689	Ⅳ区	集中3	R14	7.717	剥片		1		1	1	31.90	45.60	6.20	6.75	1				
S690	Ⅳ区	集中3	R14	7.770	剥片		1		1	1	16.90	22.90	3.40	1.07	1				
S691	Ⅳ区	集中3	R14	7.790	剥片		1		1	1	21.80	43.60	5.90	3.79	1				
S692	Ⅳ区	集中3	R14	7.883	二次加工ある剥片		1		1	1	16.90	33.50	10.80	4.63	1				
S693	Ⅳ区	集中3	R14	7.856	剥片		1		1	1	11.00	18.80	2.10	0.45				1	
S694	Ⅳ区	集中3	R14	7.811	剥片		1		1	1	19.60	15.20	1.90	0.65	1				
S695	Ⅳ区	集中3	R14	7.816	剥片		1		1	1	19.20	17.50	2.50	0.97					
S696	Ⅳ区	集中3	R14	7.871	剥片						10.00	17.60	2.70	0.46				1	
S697	Ⅳ区	集中3	R13	7.878	剥片		1		1	1	20.70	39.40	6.10	5.35					
S698	Ⅳ区	集中3	S13	7.842	剥片						10.10	13.70	1.90	0.33				1	打面欠
S699	Ⅳ区	集中3	S13	7.856	剥片		1				15.50	41.40	3.40	2.04				1	打面欠
S701	Ⅳ区	集中3	Q14	7.790	剥片						13.70	16.40	2.50	0.52				1	打面欠
S702	Ⅳ区	集中3	Q14	7.746	剥片						12.90	17.00	4.00	0.84	1				
S703	Ⅳ区	集中3	Q14	7.875	剥片		1		1	1	24.50	33.00	4.00	3.16	1				
S704	Ⅳ区	集中3	Q13	7.819	剥片		1							0.08					
S705	Ⅳ区	集中3	Q14	7.773	剥片									1.19					
S706	Ⅳ区	集中3	Q13	7.795	剥片									0.20					
S707	Ⅳ区	集中3	Q13	7.793	剥片		1		1	1	17.50	14.40	3.20	0.91				1	
S708	Ⅳ区	集中3	Q13	7.754	剥片									0.22					
S709	Ⅳ区	集中3	Q13	7.813	剥片									0.30					
S710	Ⅳ区	集中3	Q13	7.839	剥片									0.66					
S711	Ⅳ区	集中3	Q13	7.841	剥片									0.66					
S712	Ⅳ区	集中3	Q13	7.813	剥片									0.62	1				
S713	Ⅳ区	集中3	Q13	7.839	剥片									0.66					
S714	Ⅳ区	集中3	Q13	7.788	剥片		1		1	1	12.50	14.30	2.50	0.62	1				
S715	Ⅳ区	集中3	S14	7.926	剥片						1	13.90	15.90	4.10	0.83				1
S716	Ⅳ区	集中3	S13	7.872	剥片		1		1	1	12.90	25.40	3.30	1.18				1	
S717	Ⅳ区	集中3	R13	7.905	剥片						29.60	29.00	6.00	4.44				1	
S718	Ⅳ区	集中3	R13	7.894	剥片		1		1	1	40.30	60.20	9.90	19.05				1	
S719	Ⅳ区	集中3	R13	7.842	剥片						11.70	15.00	23.00	0.31				1	打面欠
S720	Ⅳ区	集中3	R13	7.884	剥片		1		1	1	13.60	18.50	1.50	0.61				1	
S721	Ⅳ区	集中3	S13	7.941	剥片		1		1	1	17.00	22.90	4.20	1.63				1	
S722	Ⅳ区	集中3	R13	7.847	剥片		1		1	1	32.90	29.50	3.70	4.05				1	
S723	Ⅳ区	集中3	R13	7.911	剥片									0.07					
S724	Ⅳ区	集中3	R13	7.889	剥片									0.15					
S725	Ⅳ区	集中3	R13	7.915	剥片									0.28					
S726	Ⅳ区	集中3	Q13	7.790	剥片									0.13					
S727	Ⅳ区	集中3	R13	7.862	剥片		1		1	1	11.20	33.50	3.00	1.26				1	打面欠
S728	Ⅳ区	集中3	R13	7.840	剥片		1		1	1	18.90	16.70	3.00	1.63				1	
S729	Ⅳ区	集中3	R13	7.837	剥片									0.25					
S730	Ⅳ区	集中3	R13	7.873	剥片		1		1	1	16.30	18.60	2.40	0.68				1	打面欠
S731	Ⅳ区	集中3	R13	7.811	剥片									0.18					
S732	Ⅳ区	集中3	R13	7.815	剥片		1		1	1	16.70	12.40	2.30	0.38				1	打面欠
S733	Ⅳ区	集中3	R13	7.844	剥片						20.70	8.40	2.40	0.54				1	打面欠
S734	Ⅳ区	集中3	R13	7.844	剥片		1		1	1				0.22					
S735	Ⅳ区	集中3	R13	7.857	剥片									0.14					
S736	Ⅳ区	集中3	R13	7.896	剥片									0.12					
S737	Ⅳ区	集中3	R13	7.894	剥片									0.12					

第13表 川津六反地遺跡集中3剥片・碎片等石器観察表(3)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		按山岩	打面		長さ	幅	法量(mm, g)		重さ	完存	残存率		備考
						白A	白B		善	良			平坦	調整			点	線	
S738	IV区	集中3	R13	7771	剥片						1080	1180	270	0.35			1	打面欠	
S739	IV区	集中3	Q13	7775	剥片		1		1		1370	1370	200	0.41	1				
S740	IV区	集中3	Q13	7800	碎片									0.57					
S741	IV区	集中3	Q13	7772	碎片									0.07					
S742	IV区	集中3	Q13	7839	剥片									0.25					
S743	IV区	集中3	Q13	7819	剥片		1		1		2230	1410	400	1.14	1				
S744	IV区	集中3	Q13	7838	剥片		1		1		1200	3560	250	1.16	1				
S745	IV区	集中3	Q13	7792	剥片									0.55					
S746	IV区	集中3	Q13	7764	剥片		1		1		1670	1170	260	0.61			1		
S747	IV区	集中3	Q13	7808	剥片		1		1		1380	1850	1290	0.56	1				
S748	IV区	集中3	Q13	7798	剥片		1		1		1820	3010	510	2.79			1		
S749	IV区	集中3	Q13	7817	剥片		1		1		1010	1990	260	0.51			1		
S750	IV区	集中3	Q13	7804	剥片		1		1		2210	2230	260	1.55	1				
S751	IV区	集中3	Q13	7842	剥片		1		1		1840	2650	300	1.75	1				
S752	IV区	集中3	Q13	7765	剥片		1		1		1290	1790	140	0.37	1				
S754	IV区	集中3	Q13	7790	剥片		1		1		1120	2130	330	0.85	1				
S755	IV区	集中3	Q13	7765	剥片									0.19					
S756	IV区	集中3	P13	7820	剥片		1		1		2970	5290	720	11.27	1				
S757	IV区	集中3	Q13	7787	剥片		1		1		920	2210	230	0.63			1		打面欠
S758	IV区	集中3	P13	7798	剥片		1		1		2220	2500	250	1.45			1		
S759	IV区	集中3	P13	7738	剥片		1		1		1310	2240	250	0.64			1		
S760	IV区	集中3	P13	7731	剥片									0.46					
S761	IV区	集中3	Q13	7726	剥片		1		1		1850	2700	540	1.66			1		
S762	IV区	集中3	P13	7735	剥片									0.26					
S764	IV区	集中3	Q12	7788	剥片		1		1		2330	4300	520	4.55	1				
S765	IV区	集中3	Q12	7747	剥片						1050	1750	300	0.55	1				
S766	IV区	集中3	Q12	7747	剥片									0.26					
S1207	IV区	集中3	T18	7948	剥片		1		1		2340	3000	400	2.20	1				
S1210	IV区	集中3	Q14	7722	剥片									0.12					
S1211	IV区	集中3	S14	7866	剥片									0.16					
S1213	IV区	集中3	U17	7917	剥片		1		1		1880	3060	290	0.55			1		打面欠
S1314	IV区	集中3	R18	7960	剥片		1		1		1440	3220	540	2.51			1		
S1315	IV区	集中3	R18	7947	剥片		1		1		2180	3880	510	3.67			1		打面欠
S1316	IV区	集中3	R18	7877	剥片		1		1		4680	4270	1270	20.68			1		
S1317	IV区	集中3	R17	7928	剥片									0.22					
S1318	IV区	集中3	R17	7975	剥片		1		1		1120	2480	300	0.57			1		打面欠
S1319	IV区	集中3	R17	7899	剥片									0.09					
S1320	IV区	集中3	T16	7914	剥片		1		1		1570	2210	330	1.08			1		
S1321	IV区	集中3	T16	7983	剥片		1		1		2000	3050	490	2.97			1		
S1322	IV区	集中3	T15	7888	剥片		1		1		1300	2080	340	1.08			1		打面欠
S1323	IV区	集中3	T15	8031	剥片		1		1		1750	1360	180	0.45	1				
S1324	IV区	集中3	T15	8046	剥片		1		1		2090	3000	360	1.97			1		
S1325	IV区	集中3	S14	7839	剥片		1		1		1920	2020	280	0.89			1		打面欠
S1326	IV区	集中3	S14	7868	剥片		1		1		2590	3180	560	3.97	1				
S1327	IV区	集中3	R14	7813	剥片									2.77					
S1328	IV区	集中3	Q14	7800	剥片		1		1		2200	2500	700	3.98			1		
S1329	IV区	集中3	Q13	7819	剥片		1		1		2620	1480	320	1.20	1				
S1330	IV区	集中3	Q13	7851	剥片		1		1		3170	3310	520	5.46			1		
S1331	IV区	集中3	Q13	7797	剥片									0.48					
S1332	IV区	集中3	Q13	7793	剥片		1		1		1780	1700	210	0.76	1				
S1333	IV区	集中3	Q13	7814	剥片									0.18					
S1334	IV区	集中3	Q13	7809	剥片		1		1		1180	1570	150	0.36			1		打面欠
S1335	IV区	集中3	Q14	7770	剥片		1		1		1970	3030	350	1.97	1				
S1336	IV区	集中3	S17	7928	剥片		1		1		1760	2330	300	1.10	1				

第 13 表 川津六反地遺跡集中 3 剥片・碎片等石器観察表 (6)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面			法量(mm, φ)			残存率		備考		
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	残	長さ	幅		厚さ	重さ
S1624	IV区	集中3	S18	7.834	剥片	1						15.40	41.30	4.70	4.95		1	打面欠	
S1627	IV区	集中3	S17	7.666	剥片	1						13.50	19.50	3.20	0.83		1	打面欠	
S1628	IV区	集中3	T18	7.814	剥片		1		1			29.30	21.40	4.10	2.25	1			
S1629	IV区	集中3	T17	7.612	剥片	1						18.50	45.90	11.00	5.77		1	打面欠	
S1630	IV区	集中3	S18	7.800	剥片	1			1			12.70	18.60	3.70	0.84	1			
合計						56	11	34	79	2	52	31	46	4		82	30	69	

第 14 表 川津六反地遺跡集中 4 剥片・碎片等石器観察表 (1)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩	打面			法量(mm, φ)			残存率		備考		
						白A	白B		善	良	平坦	調整	点	残	長さ	幅		厚さ	重さ
S1216	IV区	集中4	V25	7.415	剥片					1		18.20	28.40	2.00	1.07	1		1	打面欠
S1217	IV区	集中4	V25	7.409	剥片		1					14.20	23.80	3.00	1.17			1	打面欠
S1219	IV区	集中4	T25	7.590	碎片										0.34				
S1220	IV区	集中4	T25	7.549	碎片										0.17				
S1221	IV区	集中4	T25	7.479	碎片										0.13				
S1222	IV区	集中4	T25	7.653	剥片		1					20.40	20.00	4.70	1.64			1	打面欠
S1223	IV区	集中4	S25	7.518	剥片		1			1		14.90	14.70	1.70	0.30			1	
S1224	IV区	集中4	U24	7.609	剥片		1			1		17.00	21.00	1.60	0.76			1	
S1227	IV区	集中4	U24	7.672	剥片		1			1		11.80	24.00	4.40	1.26			1	
S1228	IV区	集中4	V23	7.631	碎片										0.41				
S1229	IV区	集中4	V23	7.623	碎片										0.50				
S1231	IV区	集中4	V25	7.324	剥片		1					22.50	17.70	2.20	0.83			1	打面欠
S1232	IV区	集中4	V25	7.317	碎片										0.18				
S1233	IV区	集中4	V25	7.387	剥片		1			1		15.50	17.20	2.60	0.59	1			
S1234	IV区	集中4	U25	7.329	剥片		1			1		15.20	35.40	2.90	1.41	1			
S1235	IV区	集中4	U25	7.481	碎片										0.12				
S1236	IV区	集中4	U25	7.553	剥片		1			1		16.60	28.30	2.20	1.60			1	
S1237	IV区	集中4	U25	7.583	剥片		1								0.12				
S1238	IV区	集中4	U25	7.617	剥片		1					6.90	19.40	2.10	0.31			1	打面欠
S1239	IV区	集中4	U25	7.405	碎片										0.23				
S1240	IV区	集中4	U25	7.385	剥片		1			1		11.80	23.90	1.40	0.56	1			
S1241	IV区	集中4	V25	7.531	剥片		1			1		7.80	15.40	4.40	0.44	1			
S1242	IV区	集中4	V25	7.502	剥片		1			1		14.10	21.90	3.50	0.88	1			
S1243	IV区	集中4	U25	7.674	剥片										0.05				
S1244	IV区	集中4	U25	7.676	剥片										0.18				
S1245	IV区	集中4	U25	7.674	剥片					1		14.50	15.30	2.20	0.72	1			
S1246	IV区	集中4	U25	7.671	剥片		1			1					0.66				
S1247	IV区	集中4	T25	7.679	剥片										0.06				
S1248	IV区	集中4	T25	7.671	剥片		1			1		20.80	13.30	3.80	0.15			1	打面欠
S1249	IV区	集中4	U26	7.456	剥片		1			1		14.70	19.90	2.70	0.56	1			
S1251	IV区	集中4	U26	7.524	剥片										0.23				
S1252	IV区	集中4	U26	7.475	剥片										0.11				
S1253	IV区	集中4	U26	7.526	剥片		1			1		10.10	15.70	2.80	0.40	1			
S1254	IV区	集中4	U26	7.521	剥片														
S1255	IV区	集中4	U26	7.430	剥片		1			1		9.10	17.10	1.70	0.22			1	
S1256	IV区	集中4	U26	7.440	剥片										0.09				
S1257	IV区	集中4	U27	7.455	剥片										0.06				
S1258	IV区	集中4	U27	7.389	剥片		1			1		12.40	10.20	1.60	0.22	1			
S1259	IV区	集中4	U26	7.458	剥片		1			1		26.50	19.60	3.00	1.20			1	
S1260	IV区	集中4	V26	7.467	剥片		1			1		11.60	13.60	2.60	0.35			1	
S1261	IV区	集中4	V27	7.473	剥片		1			1		13.50	25.50	3.00	0.91	1			

第16表 川津六反地遺跡集中地区周辺剥片・碎片等石器観察表(2)

石器番号	調査区	報告遺構名	グリット	標高	器種	サヌカイト材質		安山岩		打面		長さ	幅	法重(mm, g)		重さ	残存率		備考			
						白	白B	善	良	平坦	調整			点	痕		完存	一部欠		半存		
J-5	W区	集中地区周辺			剥片										0.66							
N-5	W区	集中地区周辺			剥片											0.50						
S102	W区	集中地区周辺			剥片											0.85						
S139	W区	集中地区周辺			剥片											0.51						
S202	W区	集中地区周辺	N5	7.951	剥片	1						12.80	18.40	3.30	0.77		1	1	打面欠			
S204	W区	集中地区周辺	N5	7.951	剥片	1				1		30.90	24.10	4.60	3.45		1	1	打面欠			
S205	W区	集中地区周辺	N5	7.717	剥片	1						39.40	49.50	15.80	27.76		1	1	打面欠			
S206	W区	集中地区周辺	K8	7.869	剥片	1				1		24.70	52.80	8.00	6.92	1						
S207	W区	集中地区周辺	Q8	7.904	剥片	1						12.00	24.90	6.10	1.45		1	1	打面欠			
S208	W区	集中地区周辺	P11	7.868	剥片							18.50	24.50	5.10	1.89							
S209	W区	集中地区周辺	O12	7.831	剥片	1				1		34.30	55.30	8.50	14.82	1						
S225	W区	集中地区周辺	L11	7.683	剥片	1				1		9.50	19.90	1.70	0.33	1						
S265	W区	集中地区周辺	G8	7.801	剥片	1						11.60	18.80	1.60	0.40	1						
S270	W区	集中地区周辺	K12	7.793	剥片	1				1		14.50	32.70	4.10	1.30	1						
S271	W区	集中地区周辺	F9	7.806	剥片	1						7.50	22.70	2.70	0.47							
S272	W区	集中地区周辺	E7	8.059	原石素材							42.20	104.50	35.60	142.61				1	打面欠		
S335	W区	集中地区周辺	H13	7.622	原石素材	1						36.30	34.50	24.70	20.45							
S336	W区	集中地区周辺	H13	7.603	剥片	1						30.10	70.30	9.70	14.49		1	1	打面欠			
S337	W区	集中地区周辺	H13	7.627	剥片	1				1		9.40	17.10	4.40	0.81		1	1	打面欠			
S338	W区	集中地区周辺	H13	7.531	剥片	1						11.00	15.20	2.50	0.33		1	1	打面欠			
S339	W区	集中地区周辺	H13	7.631	剥片										0.31							
S340	W区	集中地区周辺	H15	7.681	剥片	1						31.10	16.80	2.80	1.68				1	打面欠		
S341	W区	集中地区周辺	H15	7.703	剥片							46.80	35.10	7.70	11.48							
S342	W区	集中地区周辺	H4	7.640	剥片	1				1		22.80	27.00	7.80	6.09		1	1				
S343	W区	集中地区周辺	H4	7.741	剥片							19.80	36.50	3.40	2.78		1	1				
S344	W区	集中地区周辺	H4	7.592	剥片										0.08							
S345	W区	集中地区周辺	H4	7.773	剥片	1						22.70	18.90	3.50	1.57		1	1	打面欠			
S363	W区	集中地区周辺			剥片										0.06							
S403	W区	集中地区周辺			剥片										0.11							
S439	W区	集中地区周辺			剥片	1				1		10.80	21.20	3.00	1.05				1			
S673	W区	集中地区周辺		7.892	剥片										0.18							
S791	W区	集中地区周辺	H16	7.606	剥片	1						11.50	16.20	2.00	0.38				1	打面欠		
S1208	W区	集中地区周辺	Q19	7.866	剥片					1		19.10	25.80	2.40	1.13	1						
S1209	W区	集中地区周辺	L22	7.586	剥片										0.45							
S1218	W区	集中地区周辺	P26	7.525	剥片										0.08							
S1282	W区	集中地区周辺	R27	7.282	剥片	1				1		13.90	29.40	2.20	0.94	1						
S1294	W区	集中地区周辺	T22	7.696	剥片										0.24							
S1304	W区	集中地区周辺	O24	7.815	二次加工ある剥片	1				1		25.60	43.60	1.20	11.57	1						
S1305	W区	集中地区周辺	P22	7.796	剥片										0.08							
S1306	W区	集中地区周辺	Q22	7.911	剥片	1				1		18.90	22.20	3.60	1.39	1						
S1307	W区	集中地区周辺	P23	7.719	剥片										0.26							
S1308	W区	集中地区周辺	Q23	7.842	剥片	1				1		24.80	34.80	4.90	3.81		1	1				
S1309	W区	集中地区周辺	R22	7.704	剥片										0.42							
S1310	W区	集中地区周辺	S21	7.878	剥片	1						17.20	37.40	4.30	3.69		1	1	打面欠			
S1312	W区	集中地区周辺	S19	7.888	剥片										0.07							
S1313	W区	集中地区周辺	S19	7.978	剥片	1									0.18							
S1337	W区	集中地区周辺	Q19	7.871	剥片										0.31							
S1338	W区	集中地区周辺	Q20	7.842	剥片										0.70							
S1625	W区	集中地区周辺	G17	7.817	剥片	1				1		18.70	19.00	4.50	1.39				1			
S1626	W区	集中地区周辺	C12	8.182	剥片	1	2	10	6	4	5	2	9	0	20.00	23.00	6.00	2.66	1	4	12	
合計																			301.43	11	4	12

第 17 表 川津六反地遺跡出土瓦観察表

報告番号	調査区	遺構名	層位等	器種	調整		色調		胎土			法量 (cm)			残存率	備考
					外面	内面	凸面	凹面	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長 (残存長)	狭範囲 (残存幅)	広範囲 (残存幅)		
27	I 区	SR101	第 1 トシ	平瓦	布目	格子目砂子		10YR7/3 にぶい黄緑	10YR7/3 にぶい黄緑	-	-	-	10.5	-	-	破片
28	I 区	SR101	第 1 トシ	平瓦	襷目砂子	板子*		5YR7/6 緑	5YR7/6 緑	中・多	中・少	-	8.3	-	-	破片
29	I 区	SR101	第 1 トシ	平瓦	△砂利後子	板子*		N4/ 灰	N4/ 灰	-	-	-	11.3	-	-	破片
59	I 区	SR101	第 2 トシ 1 群	平瓦	布目	細目		10YR7/2 にぶい黄緑	10YR7/2 にぶい黄緑	粗・少	-	-	13	5.0	8.5	破片
106	II-1 区	SR214		平瓦	板子*、子*	板子*		N8/ 灰白	N8/ 灰白	中・少	-	-	7	6.8	1.6	破片
216	II-1 区	SD209	下層	軒丸瓦	△砂利、板子	△砂利後子*、布目		N5/ 灰	N4/ 灰	中・少	-	-	11.9	-	-	破片
217	II-1 区	SD209	下層	丸瓦	△砂利、板子	布目の板子		N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	7.5	-	-	破片
218	II-1 区	SD209	下層	丸瓦	△砂利、板子	△砂利、布目		N5/ 灰	N5/ 灰	-	-	-	9.9	7.4	-	破片
219	II-1 区	SD209	下層	平瓦	板子*	細目		N5/ 灰	N5/ 灰	-	-	-	11.5	4.6	8.4	破片
220	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利、子*、砂子	板子*		N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少	粗・少	-	8.1	-	-	破片
221	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利、子*	細目砂子		N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	8.7	3.6	8.9	破片
222	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利、子*	砂子		N5/ 灰	7.5Y6/1 灰	粗・多	中・少	中・少	10.0	-	1.7	破片
223	II-1 区	SD209	上層	平瓦	布目	布目?		N8/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	-	2/8
224	II-1 区	SD209	上層	平瓦	板子*	細目		N5/ 灰	N5/ 灰	粗・少	-	-	13.3	-	-	破片
225	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利、板子*	細目砂子		N7/ 灰白	N5/ 灰	-	-	-	7.0	-	-	破片
226	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利、子*、砂子	細目砂子		7.5Y6/1 灰	N6/ 灰	-	-	-	6.0	5.7	7.2	破片
227	II-1 区	SD209	上層	平瓦	△砂利後子*、板子*	板子*		N7/ 灰白	N5/ 灰	-	-	-	14.8	11.0	2.0	破片
228	II-1 区	SD209	下層	平瓦	△砂利後子*、工具痕、不明	板子*		N4/ 灰	N4/ 灰	中・少	-	-	17.8	-	-	4/8
253	II-1 区	SD210	下層	平瓦	布目	砂子		N5/ 灰	N5/ 灰	粗・並	-	-	6.2	-	-	破片
378	II-1 区	SP242		丸瓦	板子*	布目		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	中・少	-	-	17.8	15.9	-	4/8
421	II-1 区	包含層		塊瓦	板子*	板子*		N4/ 灰	N4/ 灰	-	-	-	6.7	-	-	破片
422	II-1 区	包含層		軒丸瓦	板子*	砂子*、板子*		N3/ 暗灰	N2/ 黒	-	-	-	15.8	-	-	8/8
423	II-1 区	包含層		軒平瓦	瓦頭、板子*	瓦頭、板子*		2.5Y7/2 灰黄	N5/ 灰	-	-	-	21.5	13	-	5/8
424	II-1 区	包含層		丸瓦	板子*	板子*		N4/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	24.2	15.1	1.3	破片
425	II-1 区	包含層		平瓦	子*、板子*	板子*		N4/ 灰	N5/ 灰	中・少	-	細・少	10.0	3.8	4.5	破片
561	II-2 区	SD227	(C)	平瓦	丸瓦	板子*、△砂利		N6/ 灰	N6/ 灰	粗・少	-	-	15.9	7.6	7.4	破片
580	II-2 区	SD228	(G)	平瓦	砂子、△砂利	布目		7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	中・多	-	-	8.8	6.5	2.6	破片
605	II-2 区	SD231	(H)	平瓦	格子目砂子、板子*	布目		10YR7/3 にぶい黄緑	2.5Y7/3 黄	中・多	中・少	中・少	9.3	8.5	1.9	破片
606	II-2 区	SD231		平瓦	砂子、△砂利	布目		10YR7/3 にぶい黄緑	10YR4/2 灰黄褐	中・多	中・少	細・少	9.2	6.3	2.7	破片
607	II-2 区	SD231		平瓦	砂子、△砂利	布目		10YR6/1 褐灰	N7/ 灰白	粗・少	粗・少	-	10.2	7.2	9	破片
638	II-2 区	SD237		平瓦	布目	細目、△砂利		N4/ 灰	N4/ 灰	無	無	-	5.6	3.2	4.0	破片
687	II-2 区	包含層		軒平瓦	砂子、瓦当	布目		10YR7/2 にぶい黄緑	10YR7/2 にぶい黄緑	中・少	中・多	無	7.3	7.4	5.1	破片
688	II-2 区	包含層		平瓦	細目、△砂利	布目		N4/ 灰	N4/ 灰	中・少	中・多	粗・少	5.3	4.5	5.7	破片
689	II-2 区	包含層		平瓦	格子目砂子、板子*	布目		N5/ 灰	N5/ 灰	中・少	-	-	3.3	4.5	1.8	破片
690	II-2 区	包含層		平瓦	砂子	砂子		N5/ 灰	N5/ 灰	粗・少	-	-	4.0	3.5	1.4	破片

第 18 表 川津六反地遺跡出土金属器観察表

報告番号	調査区	遺構名	層位等	種類・器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
330	II-1 区	SX219		銅先	3.6	8.2	0.2	-	鉄	

第19表 川津昭和遺跡出土土器観察表

報告番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土	砂粒	法量		備考	
					外面	内面	外面	内面			口径(cm)	器高(cm)		底径(cm)
942	SE501	上面	瓦葺土器	羽釜	板子、板子	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	1/8	
943	SE501	上面	土師器	裏	板子	75YR6/4に多い	75YR6/4に多い	-	-	-	-	-	1/8	
944	SE502	上面	土師器	裏	板子	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	10.8	-	1/8	
946	SE503	上面	土師器	裏	板子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	7.9	4.4	2/8	
947	SK502	上面	土師器	裏	板子	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	-	-	-	-	-	破片	
948	SK503	上面	土師器	裏	板子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	9.7	5.9	8/8	
949	SK503	上面	土師器	裏	板子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	3.8	3/8	
954	SK509	上面	土師器	裏	板子	-	-	-	-	-	-	-	1/8	
955	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	-	-	-	14	-	1/8	
956	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	25Y7/2灰黄	10YR8.3浅黄	-	-	-	14.8	-	1/8	
957	SD501	上層	弥生土器	裏	板子	10YR8/2灰白	25Y8.1灰白	-	-	-	14.6	-	3/8	
958	SD501	上層	弥生土器	裏	板子	10YR7/4に多い	25Y8.3黄	-	-	-	17	-	2/8	
959	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	10YR6/3に多い	10YR6/3に多い	-	-	-	13.4	-	1/8	
960	SD501	上層	弥生土器	裏	板子	10YR6/3に多い	75YR7/4に多い	-	-	-	18.1	-	4/8	
961	SD501	上層	弥生土器	裏	板子	10YR6/3に多い	10YR7/2に多い	-	-	-	6.8	-	1/8	
962	SD501	中層	弥生土器	裏	板子	75YR6/6	10YR6/6	-	-	-	-	-	4.3	8/8
963	SD501	中層	弥生土器	裏	板子	10YR7/4に多い	25Y6/1黄灰	-	-	-	-	-	7.2	4/8
964	SD501	中層	弥生土器	裏	板子	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	-	-	-	-	-	5.8	6/8
965	SD501	底面	弥生土器	裏	板子	75YR5/2灰褐	75YR6/3に多い	-	-	-	-	-	5.6	2/8
966	SD501	底面	弥生土器	裏	板子	10YR4/6	5YR5.6明赤褐	-	-	-	-	-	7.8	8/8
967	SD501	中層	弥生土器	裏	板子	10YR4/6	25Y5.2暗灰黄	-	-	-	-	-	7.3	8/8
968	SD501	中層	弥生土器	裏	板子	75YR5/6明褐	5YR5.6明赤褐	-	-	-	13	7.8	5.6	2/8
969	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	10YR5/4に多い	10YR5/4に多い	-	-	-	15.6	7.5	6.2	1/8
970	SD501	底面	弥生土器	裏	板子	10YR6/4に多い	10YR6/4に多い	-	-	-	18.8	5.4	-	6/8
971	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	10YR7/4に多い	25Y7/4浅黄	-	-	-	40.8	-	-	1/8
972	SD501	底面	弥生土器	裏	板子	10YR7/4に多い	25Y6.3に多い	-	-	-	27.8	-	-	3/8
973	SD501	底面	弥生土器	裏	板子	10YR7/4に多い	10YR7/4に多い	-	-	-	-	-	-	2/8
974	SD501	下層	弥生土器	裏	板子	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白	-	-	-	-	-	12.8	2/8
975	SD501	上層	弥生土器	裏	板子	10YR7/2に多い	10YR7/2に多い	-	-	-	-	-	-	破片
985	SD502	上層	弥生土器	裏	板子	10YR8/1灰白	10YR8/1黒褐	-	-	-	-	-	-	6/8

第20表 川津昭和遺跡出土土器観察表

報告番号	遺構名	層位等	種類・器種	法量		材質	備考		
				長さ(cm)	幅(cm)			厚さ(cm)	重量(g)
951	SK504	上面	砥石	18.1	6.4	21	297.96	安山岩	
952	SK506	上面	砥石	10.9	6.5	1.3	142.03	安山岩	
953	SK507	上面	砥石	17.0	2.7	2.7	214.69	片岩	
976	SD501	中層	石版丁	9.0	4.3	1.2	46.00	サヌカイト	
977	SD501	下層	石版丁	8.5	5.8	0.9	52.74	サヌカイト	
978	SD501	中層	石版丁	3.8	4.0	0.6	13.79	サヌカイト	
979	SD501	下層	石版丁	8.6	5.4	1.5	68.20	サヌカイト	
980	SD501	中層	削器	10.7	3.0	1.1	39.50	サヌカイト	
981	SD501	下層	打製石斧	8.3	6.3	2.1	131.34	サヌカイト	
982	SD501	中層	打製石斧	8.5	8.9	2.4	216.15	サヌカイト	
983	SD501	下層	磨製石器	6.7	8.1	1.6	99.39	サヌカイト	
984	SD501	下層	石核	10.2	5.8	3.9	226.53	サヌカイト	

第21表 川津昭和遺跡出土土器観察表

報告番号	報告遺構名	報告層位	器種	調整		色調		胎土		法量		備考		
				外面	内面	外面	内面	白色砂粒	灰色砂粒	全長(残存長)	灰濁幅(残存幅)		灰濁幅(残存幅)	灰濁幅(残存幅)
945	SE502	井戸内上層	板子	板子	板子	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	破片	
950	SK504	平瓦	板子	板子	板子	N3/暗灰	N3/暗灰	-	-	-	27.5	23	5/8	(厚み)1.5

第22表 検出時・報告時遺構名 新旧対照表

川津六反地遺跡

報告調査区名	報告遺構名	調査年度	発掘調査区名	検出遺構名
Ⅰ区	SR101	H9	Ⅰ区	SR01
Ⅱ-Ⅰ区	SB201	H9	Ⅱ区	SB01
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP01	H9	Ⅱ区	SP6
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP02	H9	Ⅱ区	SP7
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP03	H9	Ⅱ区	SP173
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP04	H9	Ⅱ区	SP175
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP05	H9	Ⅱ区	SP20
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP07	H9	Ⅱ区	SP24
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP08	H9	Ⅱ区	SP34
Ⅱ-Ⅰ区	SB201-SP09	H9	Ⅱ区	SP047
Ⅱ-Ⅰ区	SB202	H9	Ⅱ区	
Ⅱ-Ⅰ区	SB202-SP01	H9	Ⅱ区	SP75
Ⅱ-Ⅰ区	SB202-SP01	H9	Ⅱ区	SP76
Ⅱ-Ⅰ区	SB202-SP02	H9	Ⅱ区	SP83
Ⅱ-Ⅰ区	SB202-SP03	H9	Ⅱ区	SP89
Ⅱ-Ⅰ区	SB202-SP04	H9	Ⅱ区	SP97
Ⅱ-Ⅰ区	SB203	H9	Ⅱ区	SB03
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP01	H9	Ⅱ区	SP348
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP02	H9	Ⅱ区	SP366
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP03	H9	Ⅱ区	SP391
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP04	H9	Ⅱ区	SP399
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP05	H9	Ⅱ区	SP388
Ⅱ-Ⅰ区	SB203-SP06	H9	Ⅱ区	SP378
Ⅱ-Ⅰ区	SB204	H9	Ⅱ区	SB04
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP01	H9	Ⅱ区	SP0427
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP02	H9	Ⅱ区	SP0422
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP03	H9	Ⅱ区	SP0439
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP04	H9	Ⅱ区	SP0457
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP05	H9	Ⅱ区	SP0479
Ⅱ-Ⅰ区	SB204-SP07	H9	Ⅱ区	SP0497
Ⅱ-Ⅰ区	SB205	H9	Ⅱ区	
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP08	H9	Ⅱ区	SP0425
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP09	H9	Ⅱ区	SP0424
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP11	H9	Ⅱ区	SP0458
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP12	H9	Ⅱ区	SP0478
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP13	H9	Ⅱ区	SP0496
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP14	H9	Ⅱ区	SP0466
Ⅱ-Ⅰ区	SB205-SP15	H9	Ⅱ区	SP0486
Ⅱ-Ⅰ区	SB206	H9	Ⅱ区	
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP02	H9	Ⅱ区	SP696
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP03	H9	Ⅱ区	SP704
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP04	H9	Ⅱ区	SP712
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP05	H9	Ⅱ区	SP715
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP06	H9	Ⅱ区	SP717
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP07	H9	Ⅱ区	SP719
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP08	H9	Ⅱ区	SP718
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP10	H9	Ⅱ区	SP761
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP11	H9	Ⅱ区	SP747
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP12	H9	Ⅱ区	SP714
Ⅱ-Ⅰ区	SB206-SP9	H9	Ⅱ区	SP773
Ⅱ-Ⅰ区	SB207	H9	Ⅱ区	SB02
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP01	H9	Ⅱ区	SP807
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP02	H9	Ⅱ区	SP810
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP03	H9	Ⅱ区	SP812
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP04	H9	Ⅱ区	SP853
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP05	H9	Ⅱ区	SP825
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP06	H9	Ⅱ区	SP823
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP07	H9	Ⅱ区	SP820
Ⅱ-Ⅰ区	SB207-SP8	H9	Ⅱ区	SP818
Ⅱ-Ⅰ区	SB208	H9	Ⅱ区	SB05
Ⅱ-Ⅰ区	SB208-SP01	H9	Ⅱ区	SP840
Ⅱ-Ⅰ区	SB208-SP02	H9	Ⅱ区	SP842
Ⅱ-Ⅰ区	SB208-SP03	H9	Ⅱ区	SP851
Ⅱ-Ⅰ区	SB208-SP04	H9	Ⅱ区	SP850
Ⅱ-Ⅰ区	SB208-SP05	H9	Ⅱ区	SP849
Ⅱ-Ⅰ区	SB209	H9	Ⅲ区	SB08
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP01	H9	Ⅲ区	SP002
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP02	H9	Ⅲ区	SP003
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP03	H9	Ⅲ区	SP011
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP04	H9	Ⅲ区	SP012
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP05	H9	Ⅲ区	SP023
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP06	H9	Ⅲ区	SP024
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP07	H9	Ⅲ区	SP021
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP08	H9	Ⅲ区	SP018
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP09	H9	Ⅲ区	SP004
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP10	H9	Ⅲ区	SP006
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP11	H9	Ⅲ区	SP017
Ⅱ-Ⅰ区	SB209-SP12	H9	Ⅲ区	SP020
Ⅱ-Ⅰ区	SB210	H9	Ⅲ区	SB07
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP01	H9	Ⅲ区	SP680
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP02	H9	Ⅲ区	SP715
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP03	H9	Ⅲ区	SP678
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP04	H9	Ⅲ区	SP677
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP05	H9	Ⅲ区	SP675
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP06	H9	Ⅲ区	SP674
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP07	H9	Ⅲ区	SP652
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP08	H9	Ⅲ区	SP685
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP09	H9	Ⅲ区	SP669
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP10	H9	Ⅲ区	SP670
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP11	H9	Ⅲ区	SP671
Ⅱ-Ⅰ区	SB210-SP12	H9	Ⅲ区	SP686

川津昭和遺跡

報告遺構名	調査年度	発掘調査区名	検出遺構名	
SK501	H12	Ⅰa区	SK18	
SK502	H12	Ⅰa区	SK19	
SK503	H12	Ⅰa区	SK07	
SK504	H12	Ⅰa区	SK04	
SK505	H12	Ⅰa区	SK14	
SK506	H12	Ⅰa区	SK06	
SK507	H12	Ⅰa区	SK13	
SK508	H12	Ⅰa区	SX03	
SK509	H12	Ⅰa区	SK01	
SE501	H12	Ⅰa区	SE02	
SE502	H12	Ⅰa区	SE01	
SE503	H12	Ⅰa区	SK02	
SD501	H12	Ⅰa区	SD01	
SD505	H12	Ⅰa区	SD02	
SD501	H12	Ⅰa区	SD01	
SD501	H12	Ⅰa区	SD01	
SD502	H12	Ⅰa区	SD03	
SD503	H12	Ⅰa区	SD04	
SD504	H12	Ⅰa区	SD05	
SD506	H12	Ⅰa区	SD06	
Ⅱ-Ⅰ区	SP262	H9	Ⅲ区	SP595
Ⅱ-Ⅰ区	SP263	H9	Ⅲ区	SP629
Ⅱ-Ⅱ区	包含層	H9	Ⅲ区	SX05
Ⅱ-Ⅱ区	SB217	H11	Ⅱ区	SB04
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP01	H11	Ⅱ区	SP099
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP02	H11	Ⅱ区	SP055
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP03	H11	Ⅱ区	SP119
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP05	H11	Ⅱ区	SP118
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP06	H11	Ⅱ区	SP116
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP07	H11	Ⅱ区	SP080
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP08	H11	Ⅱ区	SP056
Ⅱ-Ⅱ区	SB217-SP09	H11	Ⅱ区	SP082
Ⅱ-Ⅱ区	SB218	H11	Ⅱ区	SB03
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP01	H11	Ⅱ区	SP097
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP02	H11	Ⅱ区	SP102
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP03	H11	Ⅱ区	SX07
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP04	H11	Ⅱ区	SP086
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP05	H11	Ⅱ区	SP103
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP06	H11	Ⅱ区	SP104
Ⅱ-Ⅱ区	SB218-SP07	H11	Ⅱ区	SP101
Ⅱ-Ⅱ区	SB219	H11	Ⅱ区	SB02
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP01	H11	Ⅱ区	SP114
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP01	H11	Ⅱ区	SP115
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP01	H11	Ⅱ区	SX09
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP02	H11	Ⅱ区	SP088
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP03	H11	Ⅱ区	SP089
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP04	H11	Ⅱ区	SP078
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP05	H11	Ⅱ区	SP061
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP06	H11	Ⅱ区	SP065
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP07	H11	Ⅱ区	SP064
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP08	H11	Ⅱ区	SP063
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP09	H11	Ⅱ区	SP062
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP10	H11	Ⅱ区	SP075
Ⅱ-Ⅱ区	SB219-SP11	H11	Ⅱ区	SP113
Ⅱ-Ⅱ区	SA202	H11	Ⅱ区	SA01
Ⅱ-Ⅱ区	SA202-SP10	H11	Ⅱ区	SP084
Ⅱ-Ⅱ区	SA202-SP11	H11	Ⅱ区	SP058
Ⅱ-Ⅱ区	SA202-SP12	H11	Ⅱ区	SP081
Ⅱ-Ⅱ区	SP266	H11	Ⅱ区	SP020
Ⅱ-Ⅱ区	SP267	H11	Ⅱ区	SP067
Ⅱ-Ⅱ区	SP268	H11	Ⅱ区	SP117
Ⅱ-Ⅱ区	包含層	H11	Ⅱ区	SD04
Ⅲ-Ⅰ区	SD301	H10	Ⅱ区	SD09
Ⅲ-Ⅰ区	SD302	H10	Ⅱ区	(SD09 下)
Ⅲ-Ⅰ区	SD303	H10	Ⅱ区	SD19
Ⅲ-Ⅱ区	SD305	H11	Ⅰ区	SD01
Ⅲ-Ⅱ区	SD304	H11	Ⅰ区	SD02
Ⅲ-Ⅲ区	SD305	H10	Ⅰ・b・c区	SD02
Ⅲ-Ⅲ区	SD306	H10	Ⅰ・a・b区 、Ⅱ区	SD01
Ⅲ-Ⅲ区	SD307	H10	Ⅰa区	SD15
Ⅲ-Ⅲ区	SD307	H10	Ⅰb区	SD08
Ⅲ-Ⅲ区	SD308	H10	Ⅰ・b・c区	SD05
Ⅲ-Ⅲ区	SD309	H10	Ⅰa区	SD13
Ⅲ-Ⅲ区	SD310	H10	Ⅰa区	SD17
Ⅲ-Ⅲ区	SD311	H10	Ⅰa区	SD16
Ⅲ-Ⅲ区	SD312	H10	Ⅰa区	SD18
Ⅲ-Ⅳ区	SK301	H12	Ⅰa区	SK03
Ⅲ-Ⅳ区	SD313	H12	Ⅰa区	SD07
Ⅲ-Ⅳ区	SD314	H12	Ⅰa区	SD08
Ⅲ-Ⅳ区	SD315	H12	Ⅰ・a・b区	SD09
Ⅲ-Ⅳ区	SD316	H12	Ⅰ・a・b区	SD10
Ⅲ-Ⅳ区	SD317	H12	Ⅰ・a・b区	SD11
Ⅲ-Ⅳ区	SD318	H12	Ⅰb区	SD15
Ⅲ-Ⅳ区	SD319	H12	Ⅰ・a・b区	SD12
Ⅲ-Ⅳ区	SX301	H12	Ⅰ・a・b区	SX01
Ⅳ区	SK401	H12	Ⅱa区	SK05
Ⅳ区	SK402	H12	Ⅱa区	SK01
Ⅳ区	SK403	H12	Ⅱa区	SK08
Ⅳ区	SK404	H12	Ⅱa区	SK09
Ⅳ区	SK405	H12	Ⅱa区	SK04
Ⅳ区	SK406	H12	Ⅱb区	SK11
Ⅳ区	SK407	H12	Ⅱb区	SK10
Ⅳ区	SD401	H12	Ⅱa区	SD01
Ⅳ区	SD401	H12	Ⅱa区	SD03
Ⅳ区	SD401	H12	Ⅱa区	SD06
Ⅳ区	SD402	H12	Ⅱa区	SD02
Ⅳ区	SD402	H12	Ⅱa区	SD05
Ⅳ区	SD403	H12	Ⅱa区	SD04
Ⅳ区	SD404	H12	Ⅱa区	SD13
Ⅳ区	SD405	H12	Ⅱa区	SD14
Ⅳ区	SD406	H12	Ⅱb区	SD17
Ⅳ区	SD407	H12	Ⅱb区	SD18
Ⅳ区	SX401	H12	Ⅱa区	SX02
Ⅳ区	集中1~4	H12	Ⅱa区	石葺ブ ロック
Ⅳ区	サヌカイト 集積遺構	H12	Ⅱa区	3群出 土石葺
Ⅳ区	SP401	H12	Ⅱa区	SP01
Ⅱ-Ⅰ区	SD216	H9	Ⅲ区	SD08
Ⅱ-Ⅰ区	SD217	H9	Ⅲ区	SD09
Ⅱ-Ⅰ区	SD218	H9	Ⅲ区	SD20
Ⅱ-Ⅰ区	SD219	H9	Ⅲ区	SD11
Ⅱ-Ⅰ区	SD220	H9	Ⅲ区	SD13
Ⅱ-Ⅰ区	SD221	H9	Ⅲ区	SD19
Ⅱ-Ⅰ区	SD222	H9	Ⅲ区	
Ⅱ-Ⅰ区	SD223	H9	Ⅲ区	SD12
Ⅱ-Ⅰ区	SD224	H9	Ⅲ区	SD16
Ⅱ-Ⅰ区	SX201	H9	Ⅱ区	SX09
Ⅱ-Ⅰ区	SX202	H9	Ⅱ区	SX15
Ⅱ-Ⅰ区	SX203	H9	Ⅱ区	SX10
Ⅱ-Ⅰ区	SX203	H9	Ⅱ区	SX12
Ⅱ-Ⅰ区	SX203	H9	Ⅱ区	SX13
Ⅱ-Ⅰ区	SX203	H9	Ⅱ区	SX14
Ⅱ-Ⅰ区	SX205	H9	Ⅲ区	SX17
Ⅱ-Ⅰ区	SX206	H9	Ⅲ区	SX18
Ⅱ-Ⅰ区	SX207	H9	Ⅲ区	SX19
Ⅱ-Ⅰ区	SX208	H9	Ⅲ区	SX20
Ⅱ-Ⅰ区	SX209	H9	Ⅲ区	SK21
Ⅱ-Ⅰ区	SX210	H9	Ⅲ区	SK03
Ⅱ-Ⅰ区	SX211	H9	Ⅲ区	SX22
Ⅱ-Ⅰ区	SX212	H9	Ⅲ区	SX23
Ⅱ-Ⅰ区	SX213	H9	Ⅲ区	SX14
Ⅱ-Ⅰ区	SX214	H9	Ⅲ区	SX02
Ⅱ-Ⅰ区	SX215	H9	Ⅲ区	SX03
Ⅱ-Ⅰ区	SX216	H9	Ⅲ区	SK07
Ⅱ-Ⅰ区	SX217	H9	Ⅲ区	SK09
Ⅱ-Ⅰ区	SX218	H9	Ⅲ区	SX08
Ⅱ-Ⅰ区	SX219	H9	Ⅲ区	SX08-b
Ⅱ-Ⅰ区	SX220	H9	Ⅲ区	SX11
Ⅱ-Ⅰ区	SP201	H9	Ⅱ区	SP36
Ⅱ-Ⅰ区	SP202	H9	Ⅱ区	SP14
Ⅱ-Ⅰ区	SP203	H9	Ⅱ区	SP22
Ⅱ-Ⅰ区	SP204	H9	Ⅱ区	SP19
Ⅱ-Ⅰ区	SP205	H9	Ⅱ区	SP186
Ⅱ-Ⅰ区	SP206	H9	Ⅱ区	SP72
Ⅱ-Ⅰ区	SP207	H9	Ⅱ区	SP85
Ⅱ-Ⅰ区	SP208	H9	Ⅱ区	SP90
Ⅱ-Ⅰ区	SP209	H9	Ⅱ区	SP92
Ⅱ-Ⅰ区	SP210	H9	Ⅱ区	SP118
Ⅱ-Ⅰ区	SP211	H9	Ⅱ区	SP130
Ⅱ-Ⅰ区	SP212	H9	Ⅱ区	SP149
Ⅱ-Ⅰ区	SP213	H9	Ⅱ区	SP148
Ⅱ-Ⅰ区	SP214	H9	Ⅱ区	SP233
Ⅱ-Ⅰ区	SP215	H9	Ⅱ区	SP200
Ⅱ-Ⅰ区	SP216	H9	Ⅱ区	SP317
Ⅱ-Ⅰ区	SP217	H9	Ⅱ区	SP530
Ⅱ-Ⅰ区	SP218	H9	Ⅱ区	SP377

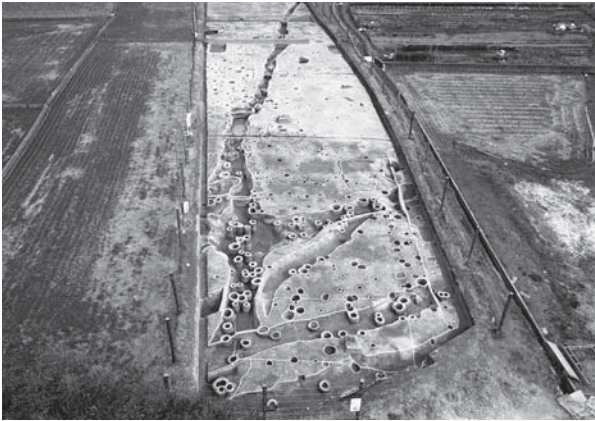
写真図版



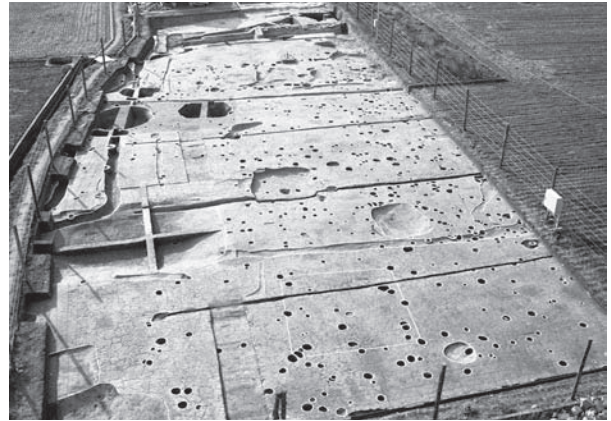
I 区 調査区全景西から



II-1 区 西端部全景西から



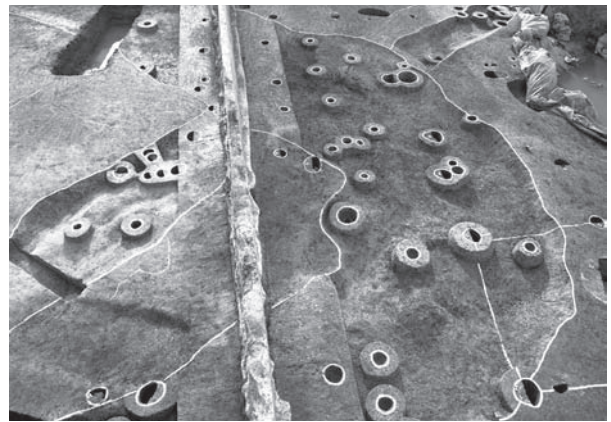
II-1 区 西半部全景西から



II-1 区 西半部全景北・東から



II-2 区 西半部全景南から



II-2 区 北端部全景東から



II-2 区 北端部全景北から



III-1 区 全景南から

図版 2 川津六反地遺跡



Ⅲ-2区 全景東から



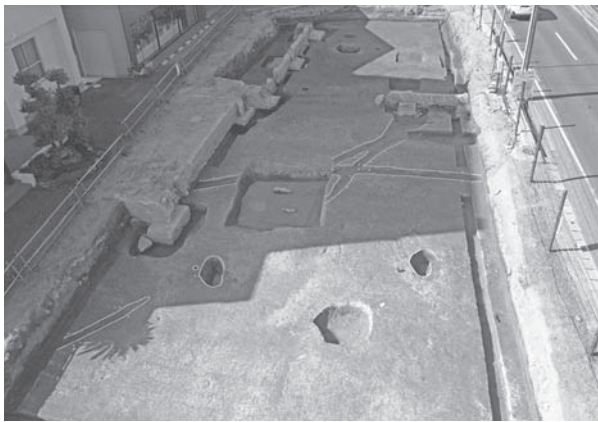
Ⅲ-3区 南半部全景北から



Ⅲ-4区 南半部全景北西から



Ⅲ-4区 北半部全景北西から



Ⅳ区 南半部全景南東から



Ⅰ区 第2 トレンチ全景東から



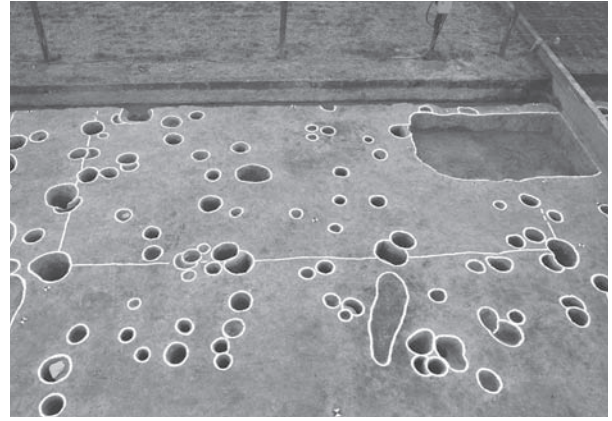
Ⅰ区 第2 トレンチ土器溜まり検出状況西から



Ⅰ区 第2 トレンチ土器溜まり検出状況東から



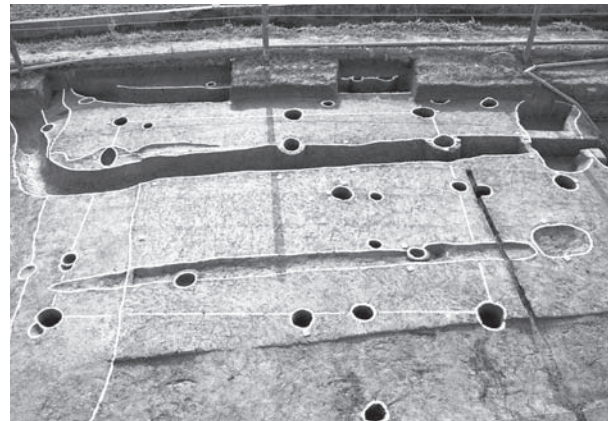
Ⅱ-1区 SB203 全景南から



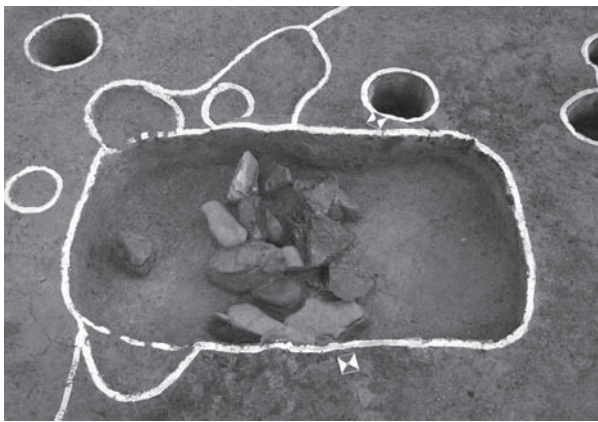
Ⅱ-1区 SB204・205 全景南から



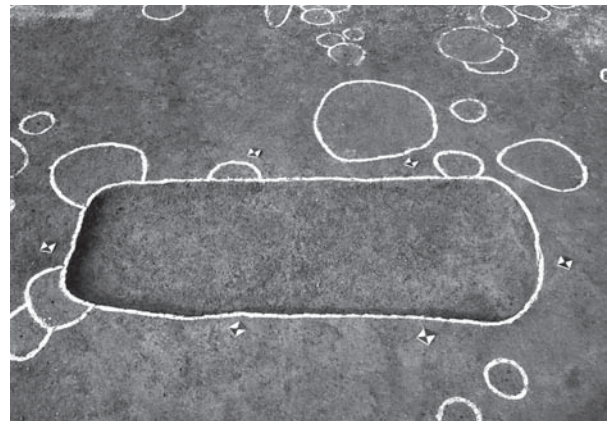
Ⅱ-1区 SB211 全景北東から



Ⅱ-1区 SB215 全景北西から



Ⅱ-1区 SK201 全景西から



Ⅱ-1区 SK202 全景南東から



Ⅱ-1区 SK206 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD201 全景南から

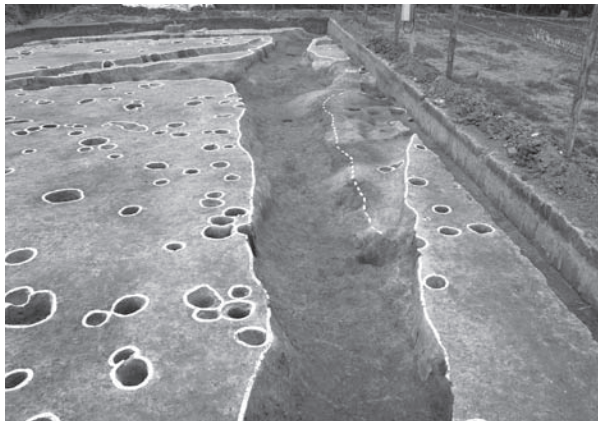
図版 4 川津六反地遺跡



Ⅱ-1区 SD202 全景南東から



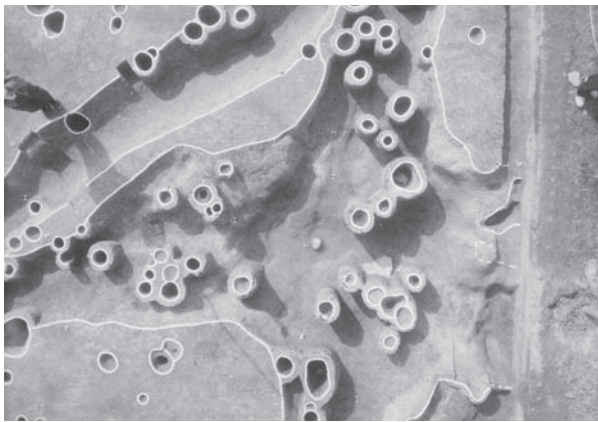
Ⅱ-1区 SD203・204 全景



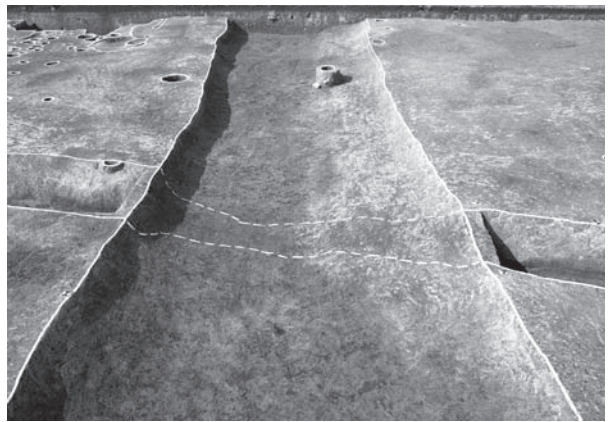
Ⅱ-1区 SD205 西半部全景東から



Ⅱ-1区 SD204・205 合流部北西から



Ⅱ-1区 SD204・SD205 合流部 東から



Ⅱ-1区 SD209 全景南東から



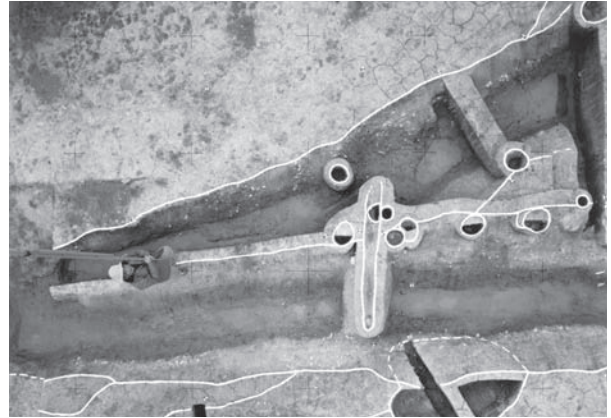
Ⅱ-1区 SD210 全景南西から



Ⅱ-1区 SD210 北半部全景南東から



Ⅱ-1区 SD210 土層断面北から



Ⅱ-1区 SD212・213 全景東から



Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景北西から



Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景南東から



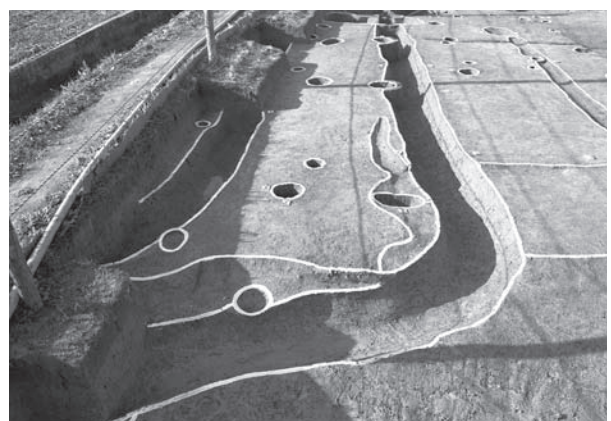
Ⅱ-1区 SD213 全景南東から



Ⅱ-1区 SD213 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD215 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD217・221 全景北東から

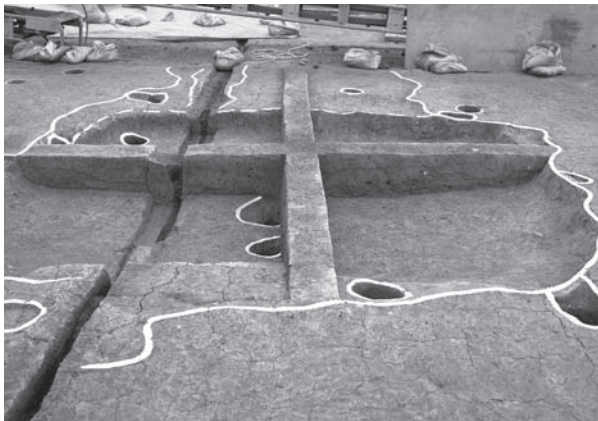
図版 6 川津六反地遺跡



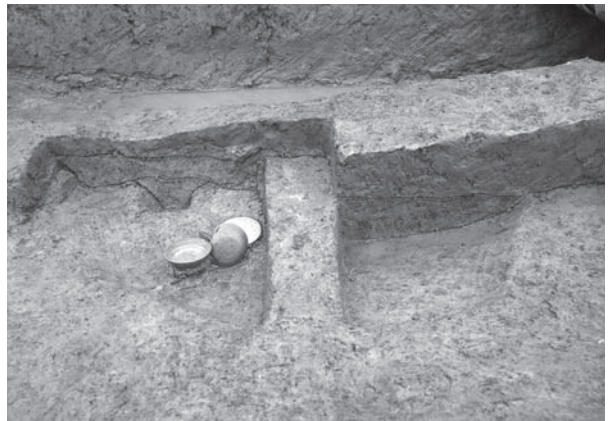
II-1区 SD223 全景南東から



II-1区 SX218 土層断面北東から



II-1区 SX219 土層断面北西から



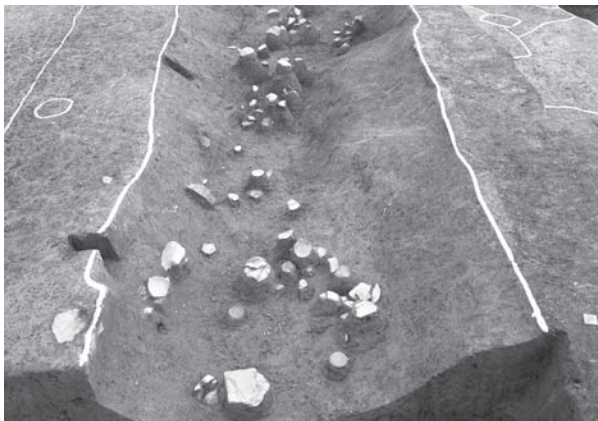
II-2区 SK210 遺物出土状況北から



II-2区 SK210 遺物出土状況アップ北東から



II-2区 SD237 全景西から



II-2区 SD227 遺物出土状況北から



II-2区 SD227 遺物出土状況南東から



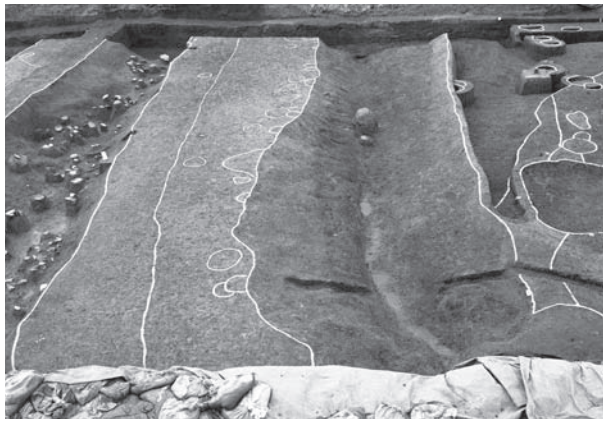
II-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から (1)



II-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から (2)



II-2区 SD230・232・234 全景北から



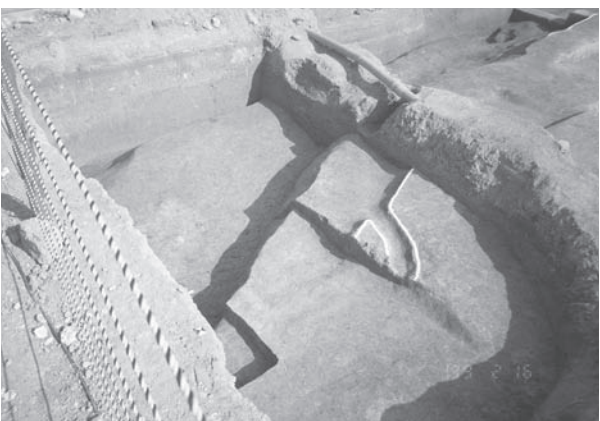
II-2区 SD231 全景南東から



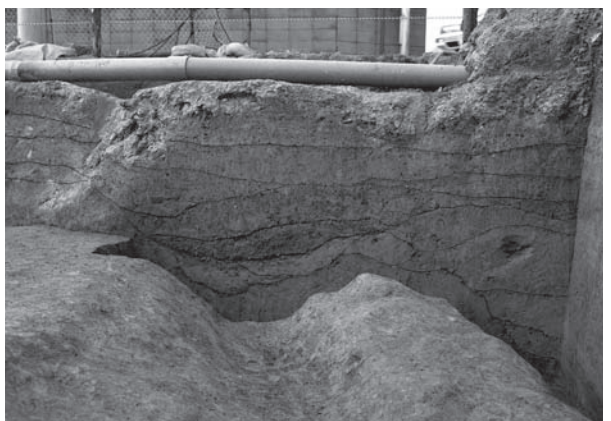
II-2区 SD233・234 全景北から



II-2区 SR202 全景南から



III-1区 SD301 全景北面から



III-1区 SD301・302 土層断面南から

図版 8 川津六反地遺跡



Ⅲ-2区 SD304 土層断面東から



Ⅲ-3区 SD305 全景北から



Ⅲ-3区 SD305 土層断面北から



Ⅲ-3区 SD306 全景南から



Ⅲ-3区 SD306 土層断面南から



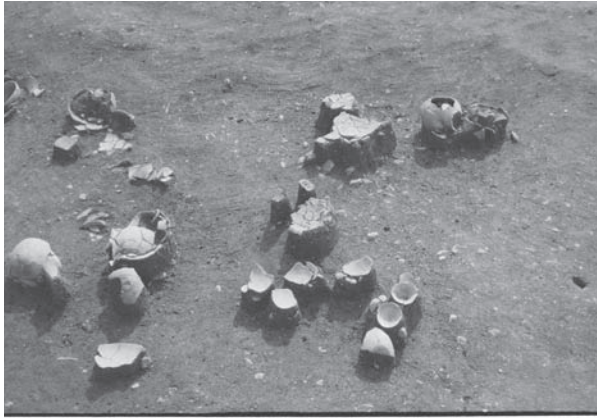
Ⅲ-3区 SD307・308 全景北から



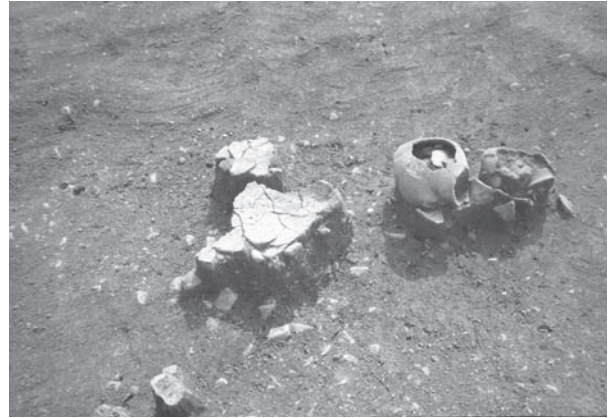
Ⅲ-3区 SD309 全景南西から



Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況北から



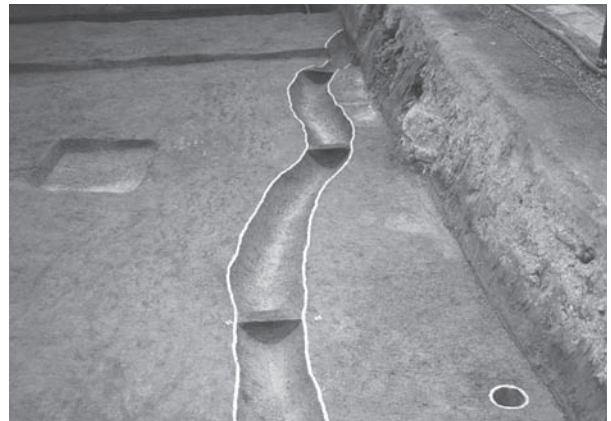
Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から (1)



Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から (2)



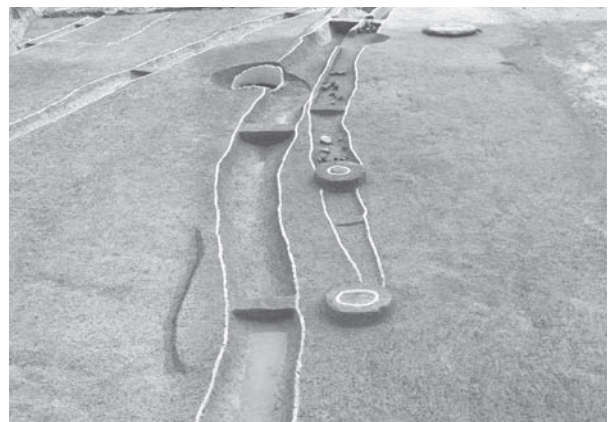
Ⅲ-4区 東壁土層断面南から



Ⅲ-4区 SD313 全景南から



Ⅲ-4区 SD314・315・318 全景北から



Ⅲ-4区 SD315・316 全景北から

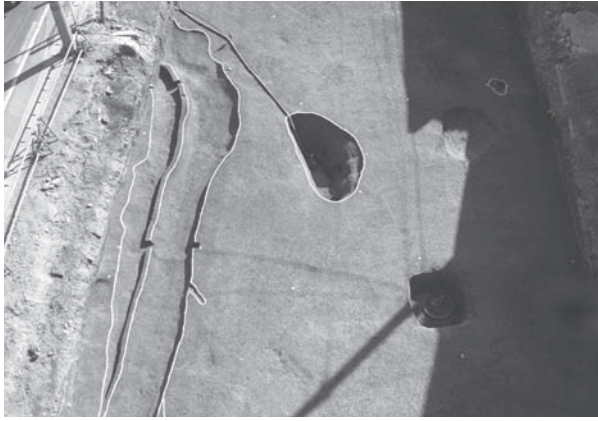


Ⅲ-4区 SD319・SX301 全景南から



Ⅳ区 SD401・403 全景北から

図版 10 川津六反地遺跡



IV区 SD406・407 全景北西から



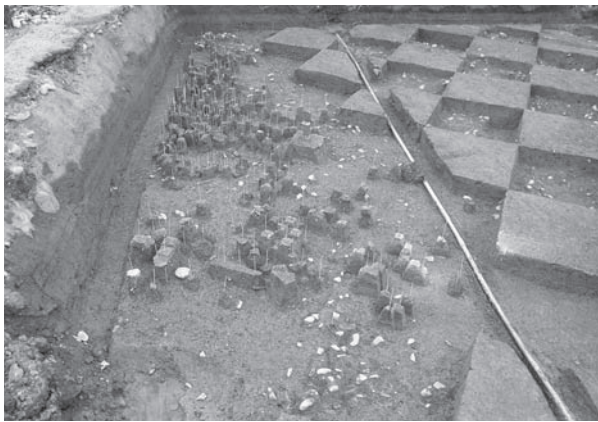
IV区 集中1～4 全景



IV区 集中1～4 全景南東から



IV区 集中1・2 全景北から



IV区 集中1 遺物出土状況北東から



IV区 集中2 遺物出土状況北西から



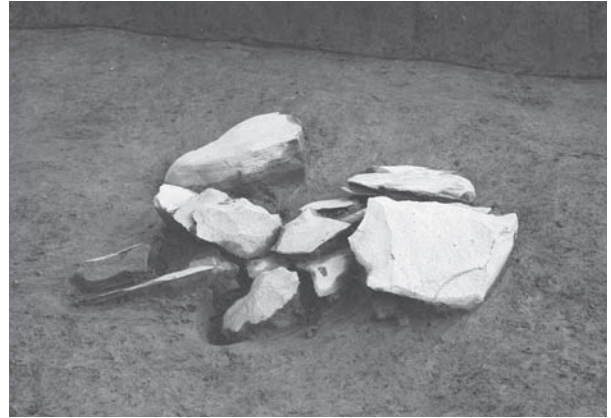
IV区 集中2 遺物出土状況



IV区 集中2 遺物出土状況



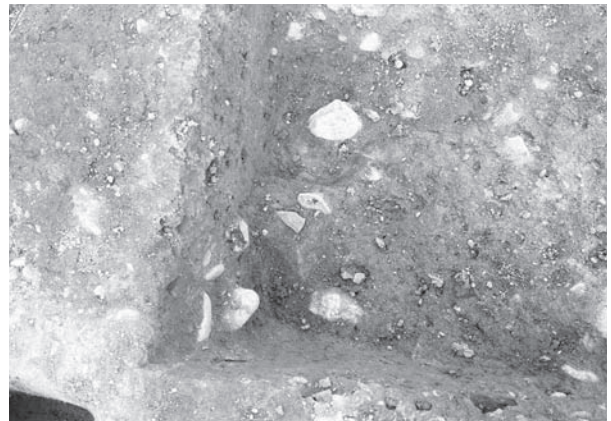
IV区 サヌカイト集積遺構東から



IV区 サヌカイト集積遺構北西から



IV区 石鏃出土状況



IV区 ポイントフレイク出土状況



川津昭和遺跡 南半部全景北西から



川津昭和遺跡 北半部全景北西から



東壁土層断面南から



東壁土層サンプル採集地点



SE501 検出状況南から



SE502 土層断面①南東から



SE502 土層断面②南東から



SK508 遺物出土状況南東から



SD505 全景北から



SD506 北端全景北から

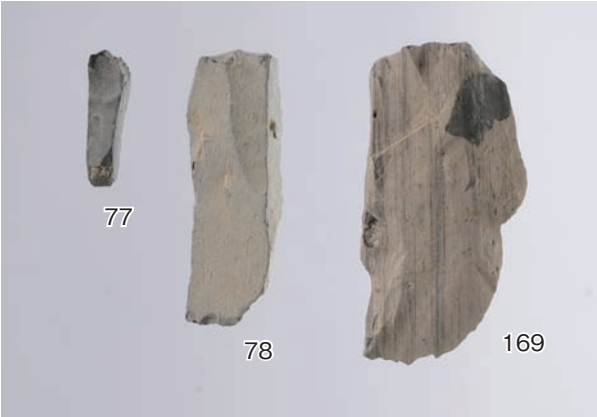


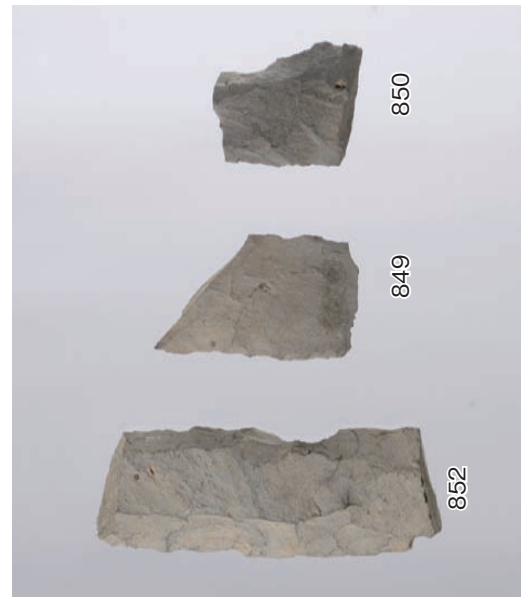
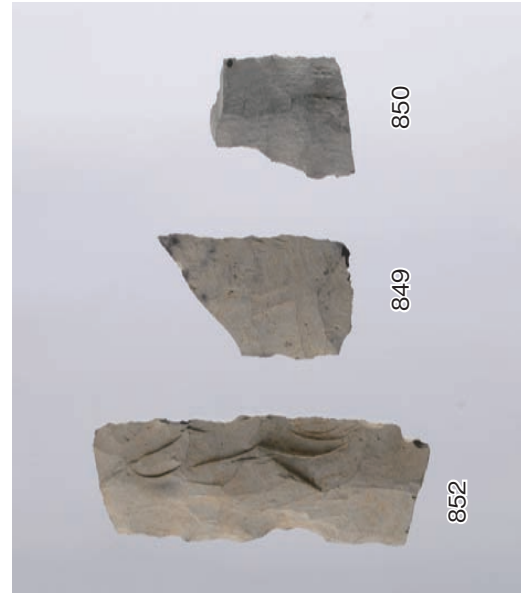
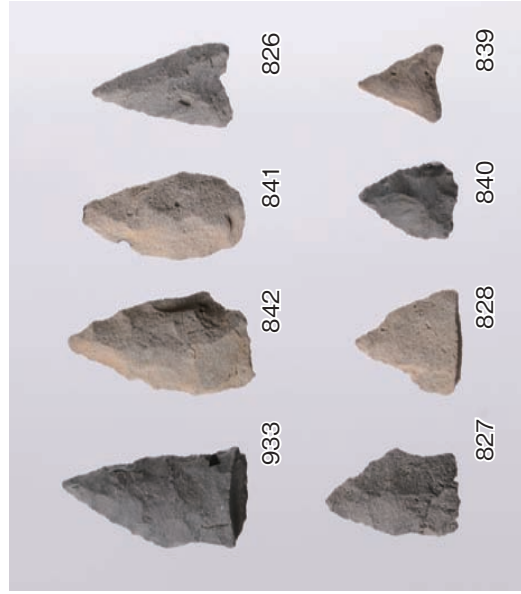
図版 14 川津六反地遺跡



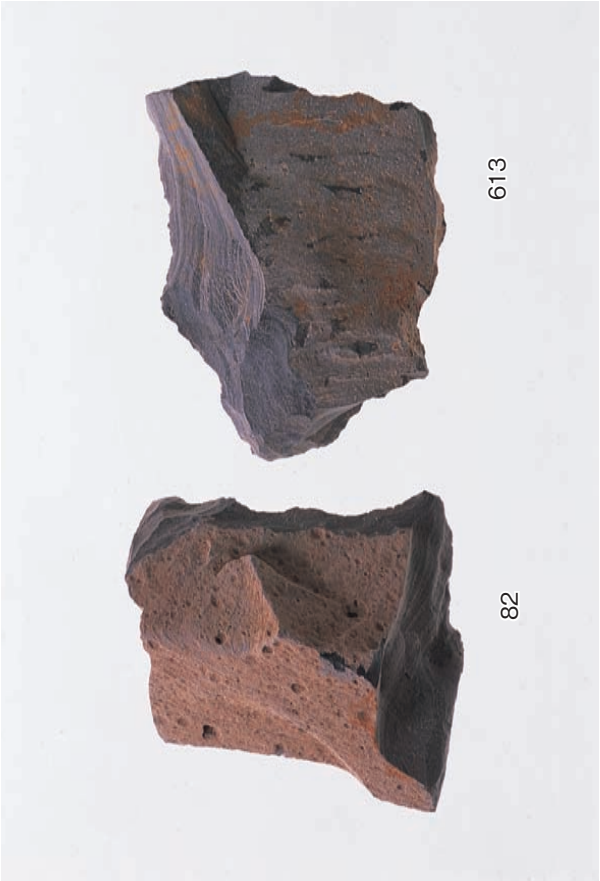


図版 16 川津六反地遺跡





図版 18 川津六反地遺跡



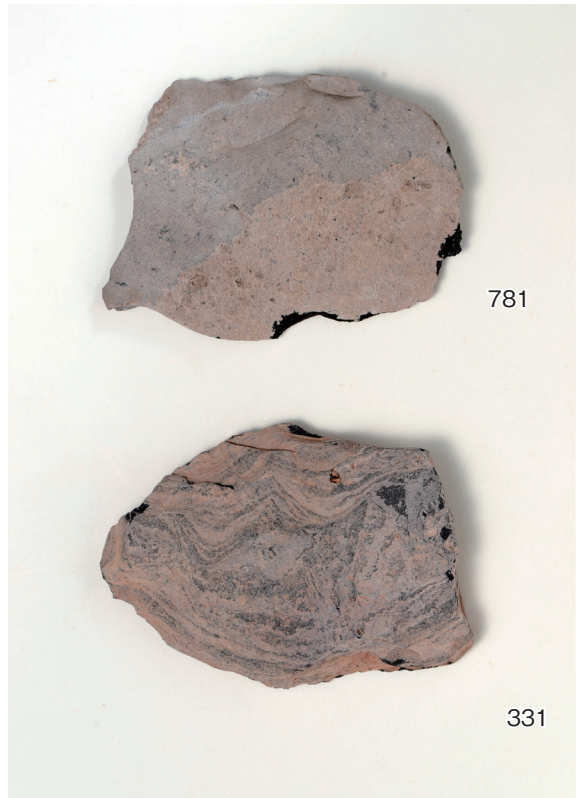


654



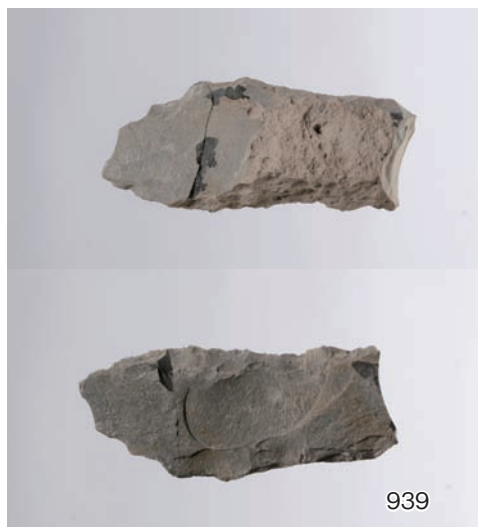
781

331



781

331

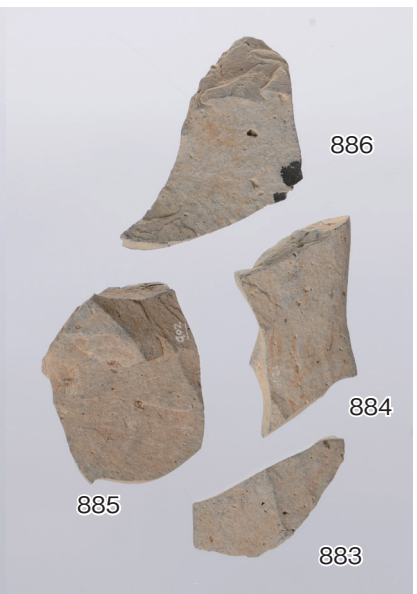
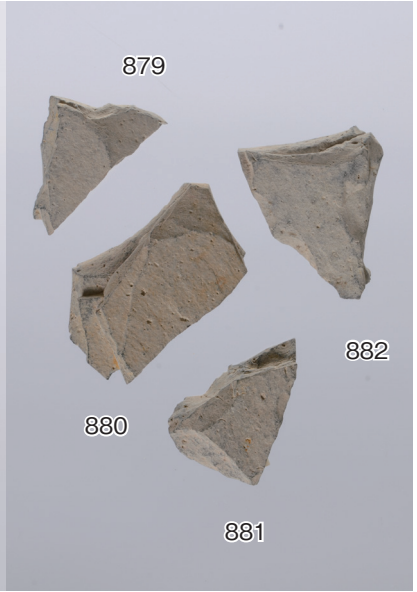


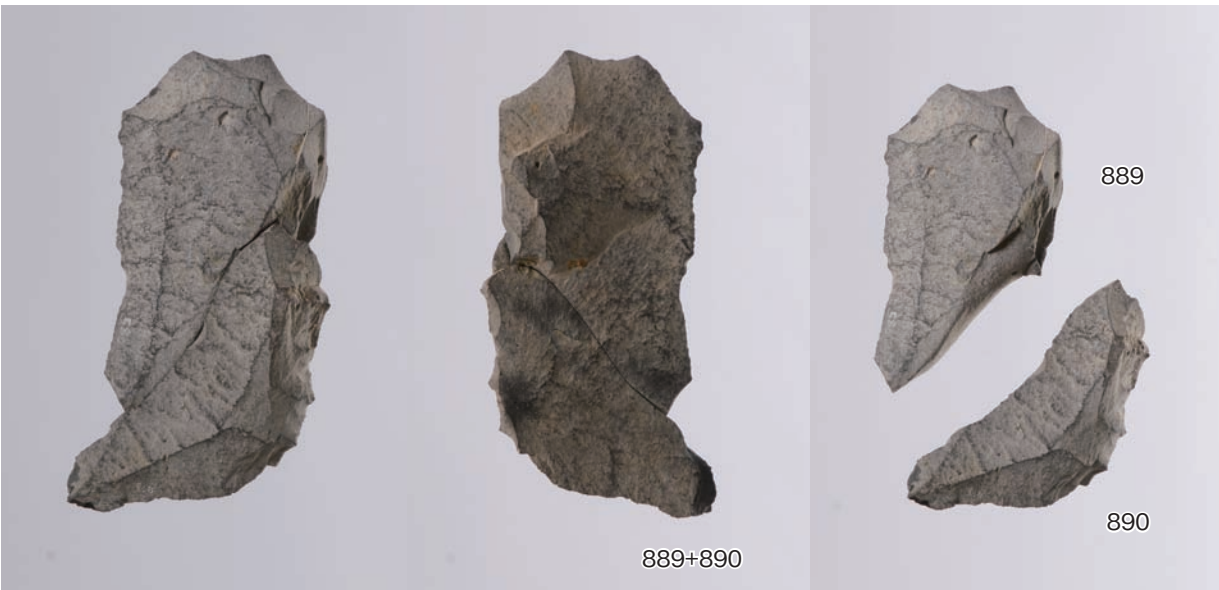
939

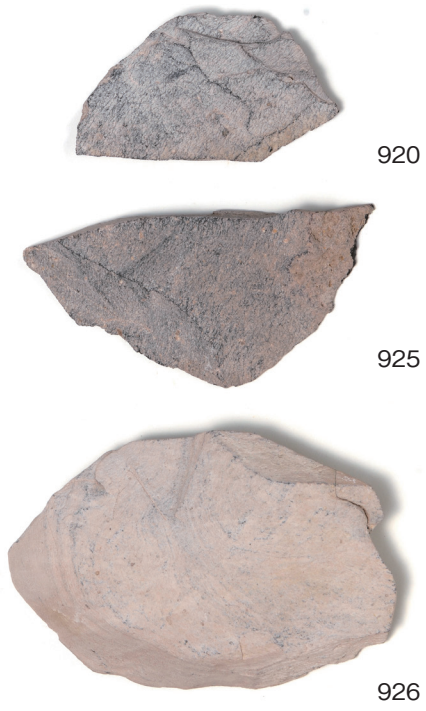
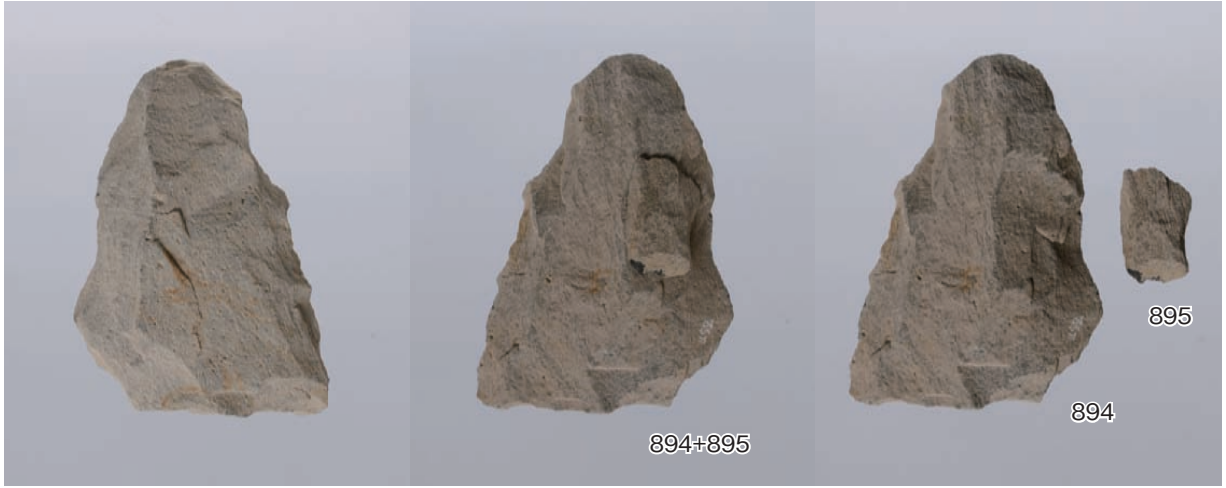
図版 20 川津六反地遺跡



404









報告書抄録

ふりがな	かわつろくたんちいせき かわつしょうわいせき						
書名	川津六反地遺跡 川津昭和遺跡						
副書名	国道438号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	西村尋文						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249						
発行機関名	香川県教育委員会						
発行年月日	西暦2014年3月19日						
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
354頁	22頁	254頁	50頁	28頁	167頁	192頁	1枚

所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町					
かわつろくたんち 川津六反地 いせき 遺跡 かわつしょうわ 川津昭和 いせき 遺跡	香川県坂出市 川津町	37203	34° 17' 20"	133° 51' 21"	1997. 10. 1 ~ 2001. 1. 31	8,375m ²	国道438号道路改良・ 県道富熊宇多津線道路改良・城山川改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かわつろくたんち 川津六反地 いせき 遺跡 かわつしょうわ 川津昭和 いせき 遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古代 中世 近世	石器製作跡・ 掘立柱建物・土坑・ 溝・自然河川	弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦器・陶磁器・石器	県下では稀な、縄文時代の石器集中ブロックとサヌカイト集積遺構を確認した。

要約
川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、大東川下流域の河岸段丘上に位置する、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺跡である。縄文時代の川津六反地遺跡では、約1,600点のサヌカイトを主石材とした石器類からなる、石器集中ブロックとサヌカイト集積遺構を検出した。接合資料も確認できることから、縄文時代の石器生産技術を復元するうえで貴重な資料となった。当地で集落が確認できるのは中世以降である。川津六反地遺跡の南半部では、条里地割に向きを揃えた掘立柱建物や溝状遺構を確認した。掘立柱建物は2～3棟単位で数グループに分かれて分布している。また、溝状遺構の中には集落内の区画溝と考えられる溝跡も数条確認できる。

国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

川津六反地遺跡

川津昭和遺跡

2014 年 3 月 19 日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 株式会社成光社

